

島名八幡前遺跡

都市計画道路島名上河原崎線道路整備
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成19年3月

茨城県土浦土木事務所
財団法人 茨城県教育財団

しまなはちまんまえ
島名八幡前遺跡

都市計画道路島名上河原崎線道路整備
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成19年3月

茨城県土浦土木事務所
財団法人 茨城県教育財団

序

茨城県は、世界的な科学研究の中心であるつくば市において、国際都市にふさわしい街づくりを推進しております。新しい街づくりの一環である「つくばエクスプレス」の新線開通は、つくば市と東京圏を直結させることによって人・物・情報の交流を盛んにし、地域活性化の大きな力になるものです。そこで、平成6年7月に茨城県、つくば市、地権者が三者協議で合意に達したのを受け、新線整備と沿線開発を一体的に行う土地区画整理事業が進められております。

その事業地内には多くの埋蔵文化財包蔵地が所在し、島名八幡前遺跡もその一つです。財団法人茨城県教育財団は茨城県から埋蔵文化財の発掘調査について委託を受け、平成13年4月から発掘調査を実施しました。その成果の一部は、既に当財団の文化財調査報告第201集として刊行しています。

本書は、平成15年度から平成18年度に調査を行った島名八幡前遺跡の調査成果を収録したもので、学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県土浦土木事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、感謝申し上げます。

平成19年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 人見 實徳

例　　言

1 本書は、茨城県土浦土木事務所の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成15年度から18年度に発掘調査を実施した、茨城県つくば市島名字中西2762番ほかに所在する島名八幡前遺跡の発掘調査報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調　　査　　平成15年10月1日～平成15年11月30日、平成16年9月1日～平成16年10月31日

　　　　　　平成16年12月1日～平成17年1月31日、平成17年9月1日～平成17年9月30日

　　　　　　平成18年6月1日～平成18年6月30日

整　　理　　平成18年4月1日～平成19年3月31日

3 発掘調査は、調査課長川井正一のもと、以下の者が担当した。

平成15年度

　　首席調査員兼班長　萩野谷　悟

　　主任調査員　　黒澤　秀雄

　　副主任調査員　松本　直人

平成16年度

　　首席調査員兼班長　吉原　作平

　　主任調査員　　皆川　修

　　主任調査員　　奥沢　哲也　平成16年9月1日～平成16年9月30日

　　主任調査員　　寺内　久永　平成16年10月1日～平成16年10月31日

　　主任調査員　　大塚　雅昭　平成16年12月1日～平成17年1月31日

平成17年度

　　首席調査員兼班長　吉原　作平

　　主任調査員　　松本　直人

　　調査員　　菊池　直哉

平成18年度

　　首席調査員兼班長　川村　満博

　　主任調査員　　飯泉　達司

　　主任調査員　　齋藤　真弥

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理第二課長大森雅之のもと、調査員菊池直哉が担当した。

凡　　例

1 地区設定は、日本平面直角座標IX系座標に準拠し、X軸 = + 6,320m, Y = + 20,240mの交点を基準点(A 1a1)とした。なお、抄録の北緯及び東経の欄には、世界測地系に基づく緯度・経度を()を付して併記した。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用いた。北から南へはA, B, C……, A以北はZ, Y, X……とし、西から東へは1, 2, 3……, 1以西は-1, -2, -3……として、「A 1区」、「Z-2区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa, b, c……j、西から東へ1, 2, 3……0とし、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1a1」、「Z-2b2」のように呼称した。

2 遺構・遺物番号は、平成13年度調査からの継続である。

3 実測図・一覧表・遺物観察表で使用した記号は、次のとおりである。

遺構 S I- 住居跡 S B- 据立柱建物跡 S K- 土坑 S D- 溝跡 S N- 粘土貼土坑

P G- ピット群 P- ピット K- 捣乱

遺物 P- 土器・陶磁器 TP- 拓本記録土器 DP- 土製品 Q- 石器・石製品 M- 金属製品 T- 瓦

N- 自然遺物

土層 K- 捣乱

4 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は300分の1、遺構は60分の1の縮尺での掲載を基本とした。

(2) 遺物は原則として3分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合があり、それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構及び遺物実測図中の表示は次のとおりである。

[] 燃土・施釉・赤彩

[] 炉・火床面

[] 窯部材・粘土・炭化材・黒色処理

[] 煤・柱あたり痕・ガラス質滓・油煙

● 土器 ○ 土製品 □ 石器・石製品 △ 金属製品 ■ 瓦 ▲ 自然遺物 ----- 硬化面

5 土層観察表と遺物における色調の判定には、新版標準土色帖(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

6 遺構一覧表・遺物観察表の記載方法は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は、法量をm, cm, 重量をgで示した。なお、現存値は()で、推定値は[]を付して示した。

(2) 備考の欄は、残存率や写真図版番号等、その他必要と思われる事項を記した。

7 「主軸」は、竪穴住居跡については炉または竈を通る軸線とし、他の遺構については長軸(径)を主軸とみなした。「主軸・長軸(径)方向」は、軸線が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で示した(例 N- 10°- E)。

抄 錄

目 次

序

例言

凡例

抄録

目次

第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	7
第1節 遺跡の概要	7
第2節 基本層序	7
第3節 遺構と遺物	9
1 縄文時代の遺構と遺物	9
陥穴	9
2 古墳時代の遺構と遺物	10
竪穴住居跡	10
奈良・平安時代の遺構と遺物	49
(1) 竪穴住居跡	49
(2) 掘立柱建物跡	142
(3) 鍛冶工房跡	160
(4) 大形竪穴状遺構	170
(5) 溝跡	174
(6) 土坑	176
4 中世・近世の遺構と遺物	180
(1) 掘立柱建物跡	180
(2) 溝跡	199
(3) 井戸跡	204
(4) 土坑	206
(5) 黏土貼土坑	207
(6) ピット群	216
5 その他の遺構と遺物	219
(1) 掘立柱建物跡	220
(2) 溝跡	221
(3) 井戸跡	222
(4) その他の土坑	224
(5) ピット群	235
(6) 遺構外出土遺物	251
第4節 まとめ	255
写真図版	

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成14年12月16日、平成15年4月14日、茨城県土浦土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して都市計画道路鳥名上河原崎線道路整備事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及び取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成15年6月16日、11月17日、平成16年7月20日に現地踏査及び試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成15年6月25日、11月26日、平成18年3月20日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県土浦土木事務所長あてに、事業地内に鳥名八幡前遺跡が所在する旨を回答した。

平成15年7月9日、茨城県土浦土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第57条の3第1項(現94条)の規定に基づき、土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘調査について通知した。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、平成15年7月11日、茨城県土浦土木事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

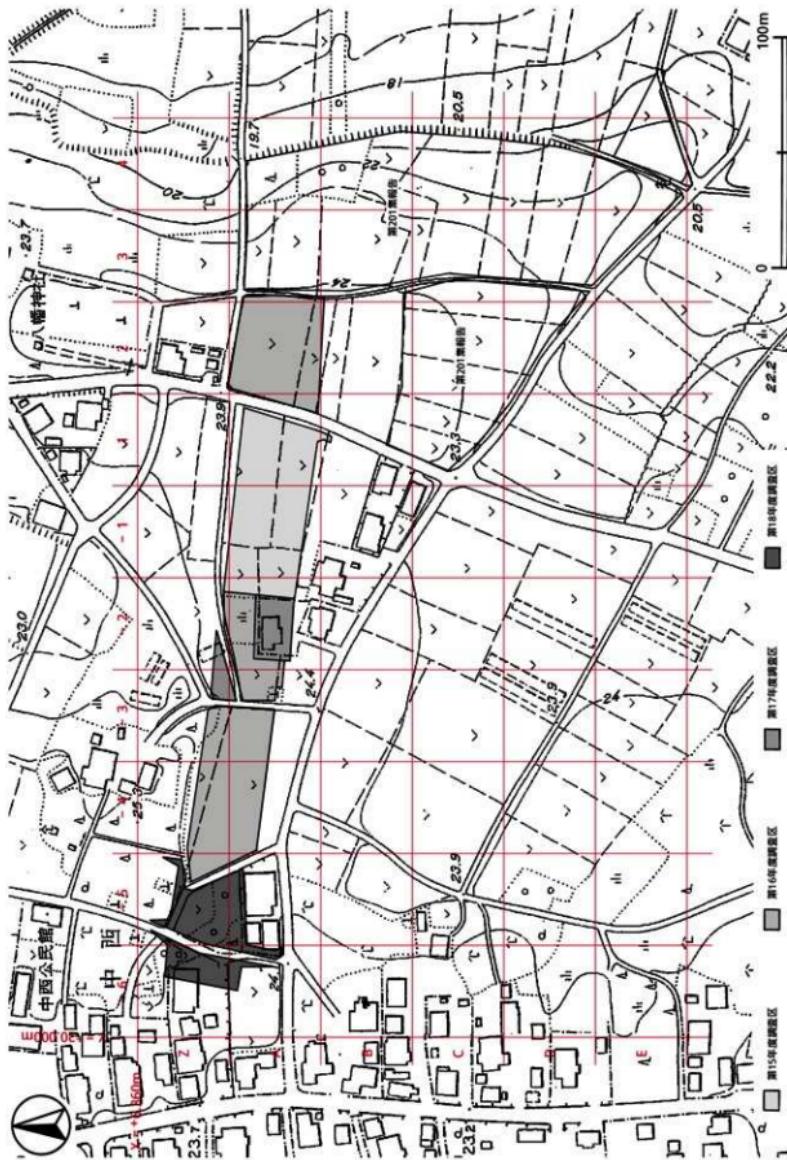
平成15年7月17日、平成16年1月4日、平成17年1月14日、平成18年4月13日、茨城県土浦土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、都市計画道路鳥名上河原崎線道路整備事業に係わる埋蔵文化財の調査について協議した。平成15年7月22日、平成16年1月23日、平成17年1月24日、平成18年4月26日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県土浦土木事務所長あてに、鳥名八幡前遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県土浦土木事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成15年10月1日から11月30日まで、平成16年9月1日から10月31日まで、平成16年12月1日から平成17年1月31日まで、平成17年9月1日から9月30日まで、平成18年6月1日から6月30日まで鳥名八幡前遺跡の発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

鳥名八幡前遺跡の調査経過については、その概要を表で記載する。

期間	平成15年		平成16年			平成17年		平成18年
	10月	11月	9月	10月	12月	1月	9月	6月
調査準備								
表土除去	■		■	■	■	■		■
遺構確認								
遺構調査	■	■	■	■	■	■	■	■
遺物洗浄								
注記作業	■	■	■	■	■	■	■	■
写真整理								
補足調査								
撤収		■		■		■	■	■



第1図 島名八幡前遺跡調査区設定図

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

島名八幡前遺跡は、茨城県つくば市島名字中西2762番地ほかに所在している。

つくば市は、筑波山を北端に、南西側に広がる標高約20~25mの平坦な台地上に位置している。この台地は筑波・稻敷台地と呼ばれ、東を露ヶ浦に流入する桜川、西を利根川に合流する小貝川の二つの河川によって区切られている。それぞれの河川によって大きく開析された流域には、標高約5mの沖積地が発達している。両河川の間には、東から花室川、蓮沼川、小野川、東谷田川、西谷田川などの中小河川がほぼ北から南に向かって流れ、台地は浅く開析され、谷津や低地が細長く入り組んでいる。

筑波・稻敷台地は、貝化石を産する海成の砂層である成田層を基盤として、その上に竜ヶ崎層と呼ばれる斜交層理の顕著な砂層・砂礫層、さらに常緑粘土層と呼ばれる泥質粘土層(0.3~5.0m)、褐色の関東ローム層(0.5~2.0m)が連続して堆積し、最上部は腐食土層になっている¹⁾。

島名地区は、つくば市南西部（旧谷田部町域）の東谷田川と西谷田川に挟まれて南北に延びる標高22~25mの台地上に立地している。当遺跡は島名地区のほぼ中央部にあたり、遺跡の周辺は、主要地方道つくば真岡線付近を最高地点として東側に東西幅約30mのほぼ平坦な台地が広がり、東端で東谷田川沿いの沖積低地へと続いている。この平坦な台地から縁辺部にかけて当遺跡は立地しており、北東部に立地する島名熊の山遺跡とは東谷田川支流の小谷津を境にして区切られている。現在、この台地上は主に畠地として、東谷田川と西谷田川に沿った沖積低地は豊かな水田地帯として利用されている。

第2節 歴史的環境

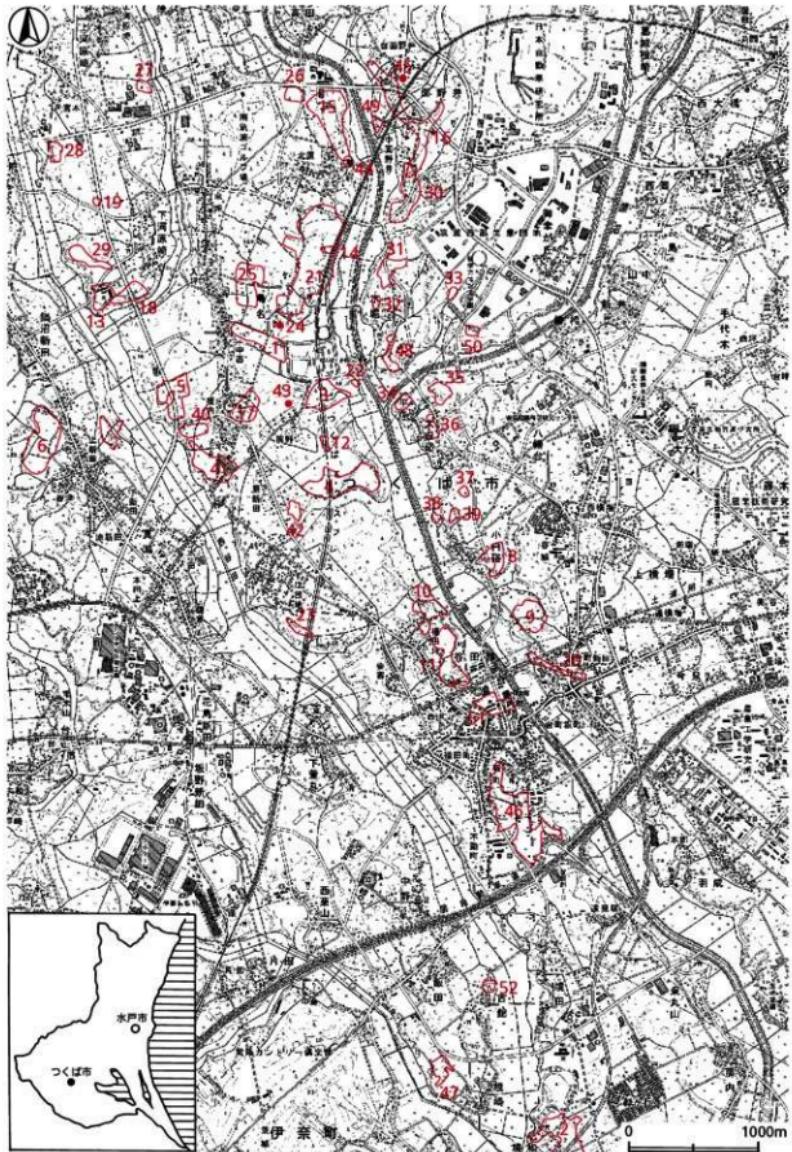
当遺跡周辺の台地上には、旧石器時代から中世にかけての遺跡が数多く存在している。ここでは、東谷田川流域に関連する遺跡を中心に分布の概要を述べる。

旧石器時代の遺構は、元宮本前山遺跡²⁾（28）で石器集中地点1か所が確認されたのみである。ほかには、島名前野東遺跡³⁾（3）、島名境松遺跡⁴⁾（4）、島名ツバタ遺跡⁵⁾（5）、島名熊の山遺跡⁶⁾（21）、などから、ナイフ形石器や尖頭器などが出土している。

縄文時代には、小貝川や東谷田川、西谷田川に面した台地の縁辺部に集落が形成されるようになる。西谷田川左岸の台地上に立地している境松貝塚⁷⁾（2）は、谷田部地区の代表的な貝塚であり、中期から後期の土器や石器が出土している。島名八幡前遺跡の周辺では、島名前野東遺跡、島名境松遺跡、島名ツバタ遺跡において中期の遺構が確認されている。

弥生時代の遺跡は少なく、谷田部地区では、境松貝塚や島名一町田遺跡⁸⁾（12）、北側に隣接する島名熊の山遺跡で後期の遺物が出土したにすぎない。島名熊の山遺跡から出土した土器片には研磨痕が認められ、稲作を考える上で興味深い。

古墳時代になると、島名地区を中心に遺跡数の増加が顕著になる。昭和34年当時の谷田部地区には、島名熊の山古墳群（14）、島名闘ノ台古墳群（15）、田野井古墳群（16）、島名櫻内古墳群（17）、下河原崎古墳群



第2図 島名八幡前遺跡周辺遺跡位置図（国土地理院25万分の1「谷田部」）

表1 島名八幡前遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代					番号	遺跡名	時代							
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	中世	近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	中世	近世	
1	島名八幡前遺跡	○		○	○	○			27	元中北東藤四郎遺跡			○			
2	境松貝塚	○	○	○			○		28	元宮本前山遺跡	○	○	○	○		
3	島名前野東遺跡	○		○		○	○		29	下河原崎谷中台遺跡	○		○	○		
4	島名境松遺跡	○		○					30	面野井南遺跡			○	○	○	○
5	島名ツバタ遺跡	○		○					31	水堀下道遺跡			○	○		
6	真瀬山田遺跡	○		○					32	水堀屋敷添遺跡	○		○			○
7	真瀬堀附南遺跡	○		○					33	水堀遺跡			○			
8	小白砦海道端遺跡	○							34	平後遺跡			○	○	○	
9	谷田部台成井遺跡	○							35	平北田遺跡			○			
10	谷田部福田遺跡	○		○					36	大白砦西ノ裏遺跡			○			
11	谷田部福田前遺跡	○		○	○				37	大白砦民部山遺跡			○			
12	島名一町田遺跡	○							38	小白砦水表遺跡			○			
13	下河原崎高山遺跡		○	○					39	小白砦民部山遺跡			○			
14	島名熊の山古墳群			○					40	島名櫻内遺跡			○			
15	島名間ノ台古墳群			○					41	島名櫻内南遺跡			○	○		
16	面野井古墳群			○					42	島名夕力ド口遺跡	○		○			
17	島名櫻内古墳群			○					43	島名前野古墳			○			
18	下河原崎高山古墳群			○					44	島名間ノ台南B遺跡			○	○		
19	下河原崎古墳群			○					45	面野井北ノ前遺跡			○	○	○	○
20	谷田部台町古墳群			○					46	谷田部櫻下遺跡			○	○	○	○
21	島名熊の山遺跡			○	○	○	○		47	根崎遺跡	○		○	○	○	
22	島名前野遺跡	○		○	○	○	○		48	水堀道後前遺跡	○		○	○		
23	谷田部漆遺跡	○		○	○				49	面野井城跡						○
24	島名薬師遺跡			○					50	大和田氏屋敷跡						○
25	島名本田遺跡			○	○	○	○		51	谷田部城跡						○
26	島名間の台遺跡			○					52	古館跡						○

(19) など古墳群11か所、古墳約300基が確認されている⁹⁾。それらのほとんどは径10mほどの小さな円墳で、地域的な群集墳のあり方を示している。

当遺跡周辺の集落跡には、当財団の調査により、古墳時代を通して生活が営まれた島名熊の山遺跡、島名前野遺跡¹⁰⁾（22）、島名前野東遺跡が確認されている。また谷田部漆遺跡¹¹⁾（23）からは中期、島名境松遺跡からは後期の集落跡が確認されている。島名八幡前遺跡も、平成13年度の調査で、後期には集落が形成されていたことが確認されている¹²⁾。遺跡の分布を見ると、年代の経過とともに集落が徐々に台地の縁辺部から内陸部へと移動していく様子がうかがえる。島名地区には、古墳時代を中心とする集落が多いのも特徴である。

奈良時代になると、島名地区は急速に集落の再編が進むことが近年の発掘調査によって明らかにされている。その背景には、律令国家の成立と地方の国都制の整備があったことがあげられ、当地区は河内郡嶋名郷に編入されることとなる。島名八幡前遺跡では、大形の竪穴住居跡と掘立柱建物跡が近接して確認されており、集落の中心として注目されている。この様相は、谷津を隔てた島名熊の山遺跡と類似しており、二つの集落の強い結びつきをうかがわせる。また、当地区でこの2遺跡以外に該期の集落が認められるのは、島名前野遺跡と島名前野東遺跡のみであり、島名熊の山遺跡とその周辺に集落が集中するという特徴が見られる。

平安時代には遺跡数がさらに減少する。集落として明確に捉えられているのは島名八幡前遺跡と島名熊の山遺跡だけである。この2遺跡は鍛冶生産や紡績などの手工業と積極的に関わっており、このことは10世紀への集落の継続性を考えたとき、極めて示唆的である。島名八幡前遺跡では10世紀代の遺構は確認されておらず、集落として終焉を迎えたと考えられる。一方で、島名熊の山遺跡はそれ以降も存続し、11世紀まで集落が営まれていた。また、島名熊の山遺跡では、墓坑や井戸から平安時代末期と考えられる和鏡や小銅仏が出土し、有力者層の存在をうかがわせる。

中世に入ると、島名八幡前遺跡の東部では13世紀末から14世紀頃の墓坑が多く確認されている。島名前野東遺跡では、ほぼ同じ時期の1町四方の堀に囲まれた方形居館が確認されており、この居館内に居住する在地の有力者が島名地区一帯を治めていたものと思われる。島名熊の山遺跡では、同じく13世紀末頃に遺跡の西側に妙徳寺が開山され、寺域周辺が墓域として利用されていった。

註

- 1) 日本地質 関東地方 編集委員会 日本地質3 関東地方 共立出版 1986年1月
- 2) 高野裕雷「元宮本前山遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2」 茨城県教育財団文化財調査報告 第265集 2006年3月
- 3) 飯泉達司「島名前野東遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書9」 茨城県教育財団文化財調査報告 第215集 2004年3月
- 4) 寺門千勝・田原康司・梅澤貴司「島名前野東遺跡 島名境松遺跡 谷田部漆遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書VII」 茨城県教育財団文化財調査報告 第191集 2002年3月
- 5) 皆川修「島名ツバタ遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1」 茨城県教育財団文化財調査報告 第203集 2003年3月
- 6) 田中幸夫・酒井雄一・田月淳一・松本直人・桑村裕「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書X II」 茨城県教育財団文化財調査報告 第264集 2005年3月
- 7) 註4) 文獻に同じ
- 8) 鹿島直樹「島名一町田遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業及び常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書」 茨城県教育財団文化財調査報告 第230集 2004年3月
- 9) 谷田部町文化財保存会「古墳鑑覧」 谷田部町文化財報告I 谷田部町教育委員会 1960年
- 10) 稲田義弘「島名前野遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書VI」 茨城県教育財団文化財調査報告 第175集 2001年3月
- 11) 註4) 文獻に同じ
- 12) 吹野富美夫・青木仁昌「島名八幡前遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書IX」 茨城県教育財団文化財調査報告 第201集 2003年3月

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

島名八幡前遺跡は、つくば市西部を南流する東谷田川右岸の標高22~24mの台地上に立地している。

今回の調査では、奈良・平安時代を中心とした、古墳時代から近世にかけての複合遺跡であることが確認できた。

平成15年度の調査では、調査区の中央部2,716m²を調査し、古墳時代の竪穴住居跡4軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡20軒、掘立柱建物跡9棟、鍛冶工房跡2基、中世・近世の掘立柱建物跡4棟などを確認した。平成16年度の調査では、調査区の西部と東部の4,632m²を調査し、古墳時代の竪穴住居跡6軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡12軒、掘立柱建物跡5棟、溝跡1条、中世・近世の掘立柱建物跡9棟、溝跡5条、井戸跡2基、土坑2基、粘土貼土坑12基などを確認した。平成17年度の調査では調査区の中央部やや南寄りの572m²を調査し、奈良・平安時代の竪穴住居跡4軒などを確認した。平成18年度の調査では、調査区の西部1,373m²を調査し、古墳時代の竪穴住居跡5軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡1軒などを確認した。

古墳時代中期の集落跡は遺跡の西部で確認されている。古墳時代後期から奈良・平安時代の集落跡は、中央部から東部にかけて竪穴住居跡と掘立柱建物跡が集中している。平成13年度の調査で確認された集落の範囲に近接しており、一連の集落であったと考えられる。近世の粘土貼土坑は西側に集中しており、大部分が墓坑であると考えられる。

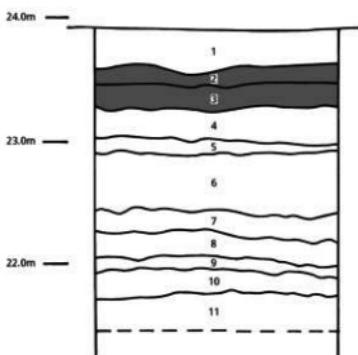
遺物は、遺物コンテナ(60×40×20cm)に35箱出土している。主な遺物は、土師器(坏・高台付坏・高坏・櫛・瓶)、須恵器(坏・高台付坏・蓋・長頸瓶・鉢・櫛・瓶)、土師質土器(小皿・鍋類)、陶器、磁器、土製品(支脚・羽口)、石製品(勾玉・砥石)、鉄製品(刀子・鎌・釘)、銅製品(鏡・煙管)、鉄滓などである。

第2節 基本層序

テストピットは調査区中央部のA-1b0区に設定した。地表面の標高は23.9mで、地表面から深さ2.4mまで鋭削した。基本土層図を第3図に示した。

土層は、色調・構成粒子・含有物・粘性などから11層に細分される。これらは、大きく表土・関東ローム層・常総粘土層に分類され、第1層が表土(耕作土)、第2~4層が立川ローム層、第5~9層が武藏野ローム層、第10・11層が常総粘土層に相当する。

第1層は、極暗褐色を呈する腐食土層で、ロームブロックを少量含んでいる。粘性・締まりは弱



第3図 基本土層図

く、層厚は30～38cmである。AT層より上部は、この第1層と考えられる。

第2層は、褐色を呈するローム層で、層厚は10～15cmである。第2黒色帯の上部に相当する。

第3層は、暗褐色を呈するローム層で、層厚は20～35cmである。第2黒色帯の下部に相当する。

第4層は、にぶい褐色を呈するローム層で、粘性・締まりが強い。層厚は23～34cmである。

第5層は、黄褐色を呈するローム層で、粘性・締まりが強い。層厚は4～12cmである。

第6層は、黄褐色を呈するローム層で、粘性・締まりが極めて強い。層厚は45～52cmである。

第7層は、明褐色を呈するローム層で、粘性・締まりが強い。層厚は15～24cmである。

第8層は、明褐色を呈するローム層で、粘性・締まりが極めて強い。層厚は15～22cmである。

第9層は、明褐色を呈するローム層から粘土層への漸移層で、粘性・締まりが極めて強い。層厚は5～12cmである。

第10層は、にぶい黄褐色を呈する粘土層で、粘性・締まりが極めて強い。層厚は12～20cmである。

第11層は、明黄褐色を呈する粘土層で、黄橙色の砂粒を微量に含んでいる。粘性・締まりが極めて強い。下層は未掘のため、本来の層厚は不明である。

遺構の多くは第4層上面で確認された。

第3節 遺構と遺物

1 織文時代の遺構と遺物

織文時代の陥し穴2基を確認した。これらの陥し穴は、離れて位置し、主軸方向にも規則性がないことから、互いの関連性は低いと考えられる。以下、遺構と遺物について記述する。

第1号陥し穴（第4図）

位置 調査区中央部のA-1g8区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

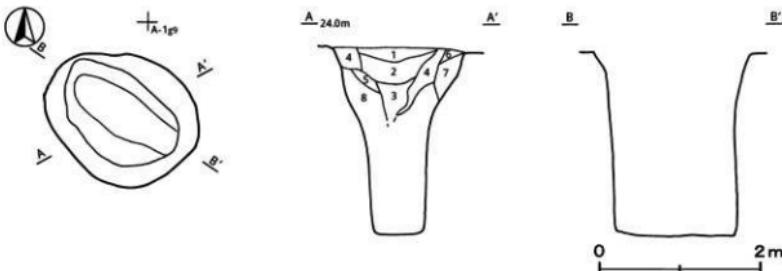
規模と形状 長径0.96m、短径0.78mの不整橢円形で、長径方向はN-57°Wである。深さは113cmで、壁は直立しており、短径方向の上部は外傾して立ち上がっている。

覆土 8層に分層される。各層にロームブロックが含まれているが、周囲から土砂の流れ込んだレンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量	5 褐 色 ロームブロック中量
2 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量	6 褐 色 ロームブロック少量
3 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量	7 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ロームブロック中量	8 褐 色 ロームブロック多量

所見 時期は、出土土器がないため不明であるが、遺構の形状から織文時代と考えられる。



第4図 第1号陥し穴実測図

第2号陥し穴（第5図）

位置 調査区中央部のA-2a9区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

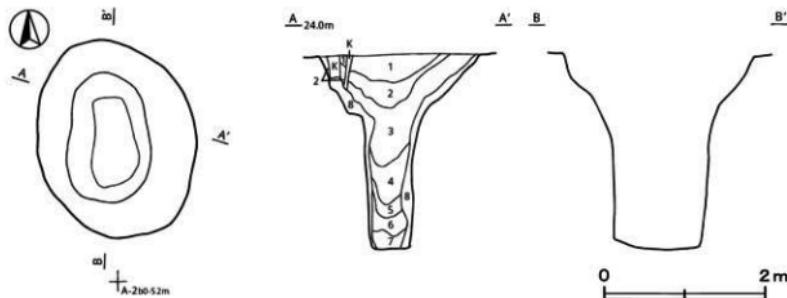
規模と形状 長径1.23m、短径0.97mの橢円形で、長径方向はN-23°Wである。深さは118cmで、壁は直立しており、上部は外傾して立ち上がっている。

覆土 8層に分層される。各層にロームブロックが含まれているが、周囲から土砂の流れ込んだレンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量	5 暗 褐 色 ロームブロック少量
2 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量	6 暗 褐 色 ロームブロック中量
3 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量	7 暗 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量	8 暗 褐 色 ロームブロック多量

所見 時期は、出土土器がないため不明であるが、遺構の形状から織文時代と考えられる。



第5図 第2号陥し穴実測図

表2 縄文時代陥し穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径(輪) × 短径(輪)(m)	深さ(cm)					
1	A-1g8	N-57°-W	不整椭円形	0.96×0.78	113	垂直	平坦	自然		縄文時代
2	A-2a9	N-23°-W	椭円形	1.23×0.97	118	外傾 垂直	平坦	自然		縄文時代

2 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の竪穴住居跡15軒を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

第107A号住居跡（第6・7図）

位置 調査区中央部のA-1g8区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第107B号住居跡を掘り込み、第32号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.55m、短軸5.28mの方形で、主軸方向はN-16°-Wである。壁高は2~10cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部付近の一部が硬化している。壁溝が全周している。

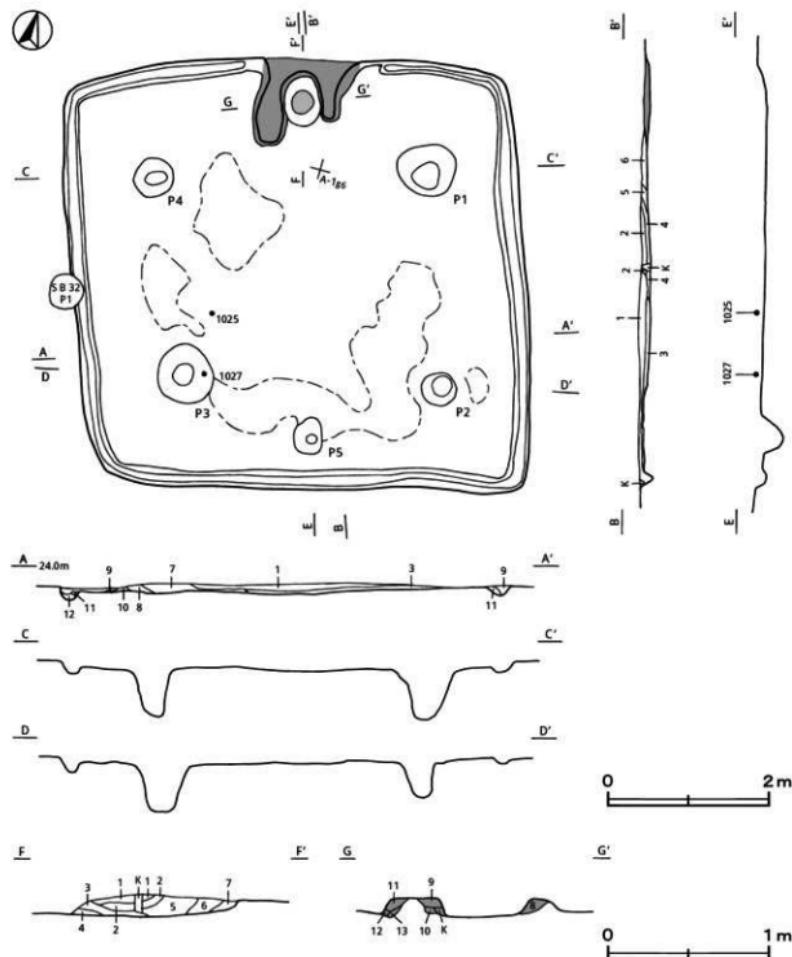
竪 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで82cm、袖部幅115cmである。袖部は、掘り残した地山を基部として、その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており、火床面は火熱により赤変化している。煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。

竪土層解説

1	褐	灰	色	砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック・炭化物少量	9	暗	赤	褐	色	砂質粘土ブロック中量、焼土粒子少量
2	暗	赤	褐	燒土ブロック・砂質粘土ブロック中量、炭化粒子少量	10	暗	赤	褐	色	燒土粒子中量、砂質粘土粒子少量
3	暗	赤	褐	砂質粘土ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量	11	灰	褐	色	砂質粘土ブロック多量、燒土粒子中量	
4	暗	赤	褐	燒土粒子多量	12	暗	赤	褐	色	燒土ブロック・ローム粒子中量、砂質粘土ブロック少量
5	暗	赤	褐	燒土ブロック多量、炭化粒子少量	13	暗	赤	褐	色	燒土ブロック中量、ロームブロック・砂質粘土ブロック少量
6	暗	赤	褐	燒土ブロック中量						
7	黑	褐	色	ローム粒子・焼土粒子少量						
8	灰	褐	色	砂質粘土ブロック多量、ローム粒子・燒土粒子少量						

ピット 5か所。P 1~P 4は深さ49~61cmで、規模と形状から主柱穴と考えられる。P 5は深さ31cmで、南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 12層に分層される。堆積状況は、層厚が薄いため不明である。



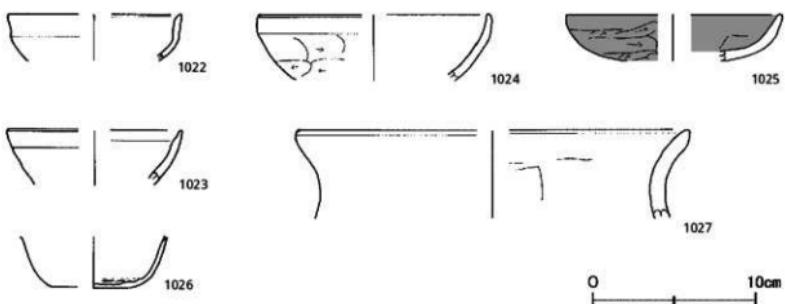
第6図 第107A号住居跡実測図

土層解説

- | | |
|--|--|
| 1 黒 棕 色 ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗 灰 色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗 棕 色 ローム粒子少量・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 | 8 暗 棕 色 ローム粒子少量・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒 棕 色 ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 9 黒 棕 色 ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黑 棕 色 炭化粒子少量・ロームブロック・砂質粘土ブロック微量 | 10 に沿1黄褐色 ローム粒子多量 |
| 5 黑 棕 色 砂質粘土粒子少量・ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 黑 棕 色 ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗 灰 色 砂質粘土粒子多量・ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 12 暗 棕 色 ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片62点(环12, 瓢50), 須恵器片7点(环4, 壺類3), 鉄滓1点が出土している。口縁部や体部等から推測される土器の個体数は土師器环6点, 瓢2点, 須恵器环1点である。細片が全域から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第7図 第107A号住居跡出土遺物実測図

第107A号住居跡出土遺物観察表(第7図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1022	土師器	环	[10.6] (2.8)	-	長石・赤色粒子	櫻	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	埴土中	5%	
1023	土師器	环	[10.8] (3.4)	-	長石・石英	にぶい櫻	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内ナデ	埴土中	5%	
1024	土師器	环	[14.2] (4.1)	-	長石・石英	櫻	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外側ヘラ削り 内側ナフ	埴土中	5%	
1025	土師器	环	[13.2] (2.8)	-	雲母・赤色粒子	赤桜	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外側ヘラ削り 内面ナフ	埴土中層	5%	
1026	須恵器	环	- (3.2)	[5.1]	長石・石英・黒色粒子	暗黄灰	普通	内部内・外面クロコナデ 烟部一方向の手持ちヘラ削り	埴土中	10%	
1027	土師器	楕	[24.0] (5.3)	-	長石・石英・赤色粒子	櫻	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外側ヘラナフ	埴土中層	5%	

第107B号住居跡(第8図)

位置 調査区中央部のA-1g5区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第107A号住居に掘り込まれている。

確認状況 第107A号住居跡の床下から確認されており, 壁溝と竈の配置から規模と形状を推定した。

規模と形状 長軸4.31m, 短軸3.87mの長方形と推測され, 主軸方向はN-17°-Wである。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁溝が北壁を除いて周回している。

竈 北壁中央部に付設されている。火床部の規模は奥行き81cm, 幅71cmで, 袖部・煙道部は残存していない。

火床部は床面を5cmほど掘り込んで使用しており, 火床面は赤変硬化している。

竈土層解説

- 1 赤 桜 色 燃土粒子多量, 砂質粘土ブロック少量
2 棕褐色 桜色 燃土粒子中量, 砂質粘土ブロック少量

- 3 暗赤 桜 色 燃土ブロック・炭化粒子少量

ピット 5か所。P1-P4は深さ28-51cmで, 規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ14cmで, 南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 2層に分層される。堆積状況は、層厚が薄いため不明である。

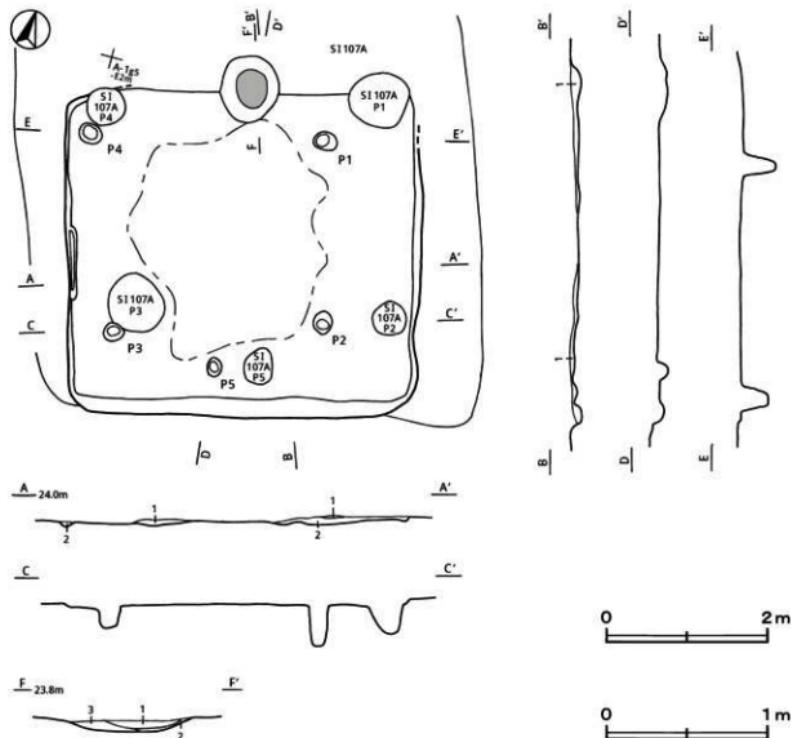
土器解説

1 種 色 ロームブロック多量

2 種 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土器器片4点(種)、須恵器片1点(环)が出土している。いずれも細片で図示できない。

所見 第117A号住居跡の床下から確認されており、主軸方向がほぼ一致することから、本住居を拡張して第117A号住居に建て替えたと考えられる。時期は、重複関係から7世紀中葉以前と考えられる。



第8図 第107B号住居跡実測図

第114A号住居跡(第9~11図)

位置 調査区中央部のA-1g9区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第114B号住居跡を掘り込み、第118号住居に掘り込まれている。

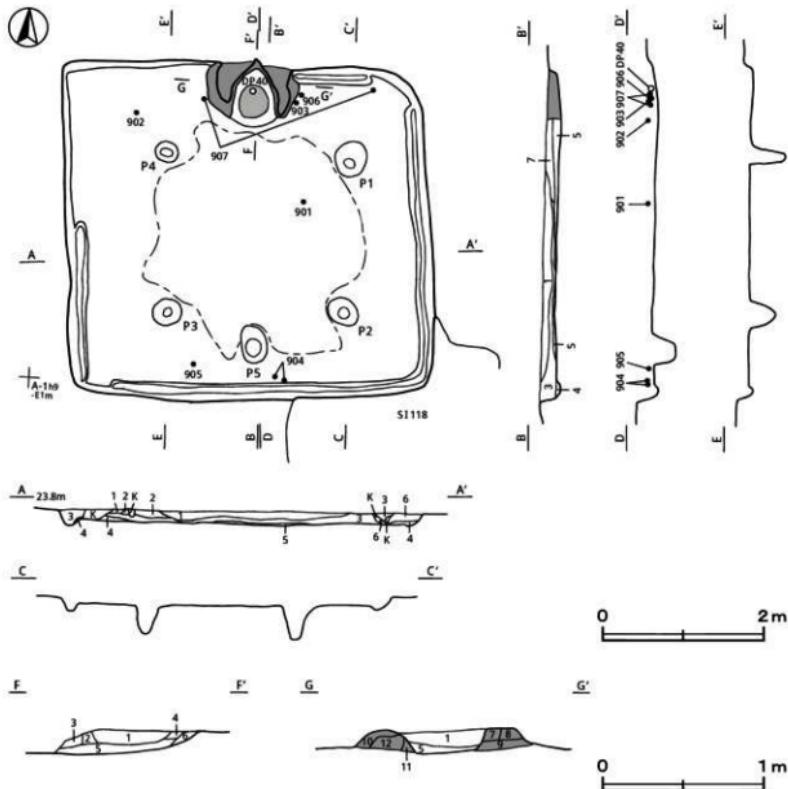
規模と形状 長軸450m、短軸410mの方形で、主軸方向はN-3°Wである。壁高は13~22cmで、直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。中央部は、第114B号住居跡の床面上にローム土を主体とする褐色土で構築した貼床である。壁溝は、北西コーナー部付近を除き、周回している。

龕 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cm、袖部幅116cmである。袖部は、床面とほぼ同じ高さの地山の上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は、床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を12cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。

電土層解説

1	暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量	8	灰褐色	炭化材・砂質粘土ブロック中量
2	褐色	焼土ブロック中量	9	褐色	砂質粘土ブロック多量
3	黒褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子少量	10	灰褐色	砂質粘土ブロック中量・焼土粒子少量
4	暗赤褐色	炭化材中量・焼土ブロック少量	11	暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量
5	黒褐色	焼土ブロック中量	12	黒褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
6	灰褐色	砂質粘土ブロック多量・焼土粒子少量			
7	暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量・ロームブロック・焼土粒子少量			



第9図 第114A号住居跡実測図

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ32～45cmで、規模や配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ28cmで、南壁際の中央に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

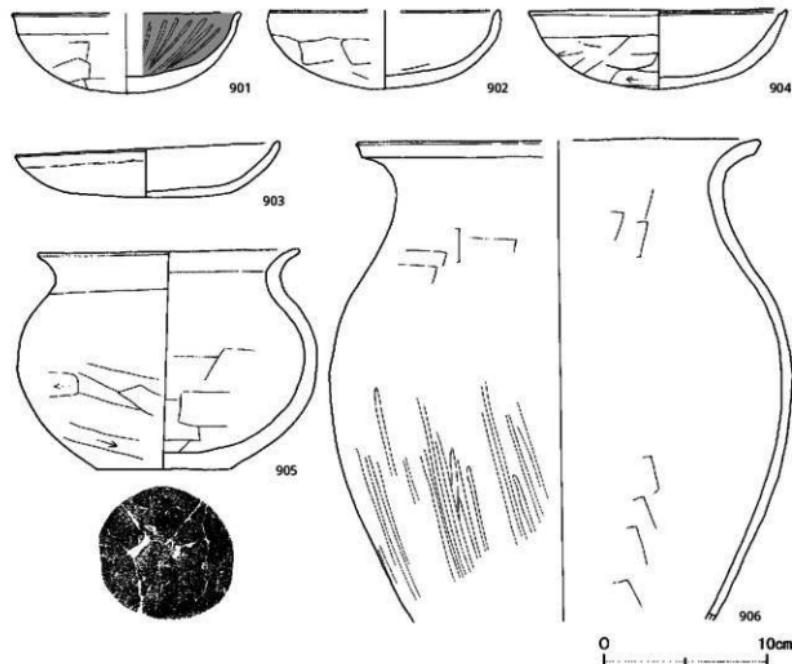
覆土 7層に分層される。周囲から土砂の流入したレンズ状の堆積状況を示しており、自然堆積と考えられる。

土器解説

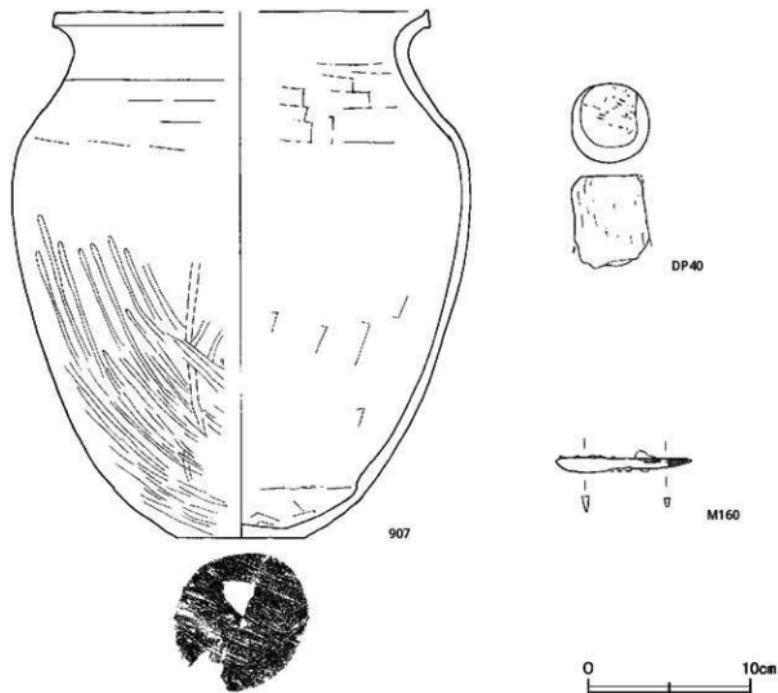
1	暗褐色	ロームブロック中量、砂質粘土ブロック・炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	6	黒褐色	ロームブロック微量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	7	暗灰黄色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
4	褐色	ロームブロック中量			

遺物出土状況 土器片220点(环41、甕179)、須恵器片1点(环)、鉄製品3点(刀子)、土製品1点(支脚)が出土している。口縁部や底部等から推測される土器の個体数は土器片環が13点、甕が5点である。床面及び覆土下層からは、完形に近い土器が多く出土している。905は南壁際の床面から一括して出土している。903・906は甕の右袖部付近の床面から出土している。907は甕の左袖部付近の床面から出土した体部から底部と覆土下層から散在して出土した口縁部が接合したものである。D P 40は火床面から出土している。これらの遺物は、住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第10図 第114A号住居跡出土遺物実測図(1)



第11図 第114A号住居跡出土遺物実測図(2)

第114A号住居跡出土遺物観察表(第10・11図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
901	土師器	壺	[14.0]	50	-	長石・石英・赤色粉子	にぶい焼	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外側ヘラ削り	覆土中層	40% PL27
902	土師器	壺	[14.0]	48	-	長石・石英・赤色粉子	にぶい焼	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外側ヘラ削り 内面ナデ	覆土中層	50% PL27
903	土師器	壺	16.0	35	-	長石・石英・赤色粉子	極	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外側ヘラ削り	床面	85% PL27
904	土師器	壺	16.0	48	-	長石・石英・骨母	にぶい焼	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外側ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	80% PL27
905	土師器	壺	15.7	13.5	8.2	長石・石英・赤色粉子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外側下半ヘラ削り	床面	90% PL29
906	土師器	壺	[24.0]	(29.6)	-	長石・石英・礫	にぶい焼	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外側ナデ 下半 ヘラ削り 内面ヘラナダ	床面	30%
907	土師器	壺	[22.8]	32.4	8.0	長石・石英・赤色粉子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外側ナデ 下半 ヘラ削り 内面ヘラナダ	覆土下層	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M160	刀子	8.3	1.0	0.3	(6g)	鉄	刃部一部欠損	覆土下層	PL48

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	材質	手法の特徴ほか	出土位置	備考
DP40	支脚	(5.7)	5.0	4.3	(947)	粘土	ナデ	床面	

第114B号住居跡（第12図）

位置 調査区中央部のA-1g9区で、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第114A・118号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.50m、短軸3.45mの方形で、主軸方向はN-2°-Wである。壁高は5-10cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

龕 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部までが96cmである。袖部は、右袖部がわずかに残存するのみである。火床部は、床面とほぼ同じ高さを使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。

地層解説

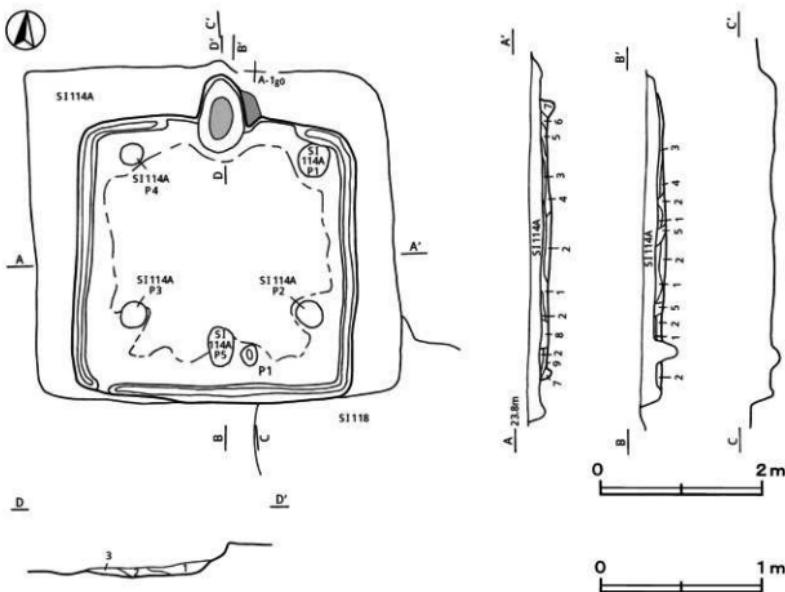
- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1 暗赤褐色 燃土ブロック少量 | 3 灰褐色 砂質粘土ブロック中量、燃土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 燃土ブロック中量、砂質粘土ブロック少量 | |

覆土 9層に分層される。不規則な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。なお、第3層は、第114号住居跡の貼床構築土である。

地層解説

- | | |
|----------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 炭化粒子中量、ロームブロック少量 | 6 黑褐色 ロームブロック中量、燃土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 黑褐色 ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量 | 7 黑褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 4 黑褐色 ロームブロック・燃土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 8 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量 |
| | 9 黑褐色 燃土粒子中量、ロームブロック少量 |

ピット 深さ10cmで、南壁際中央に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。床の硬



第12図 第114B号住居跡実測図

化面の範囲から推測される主柱穴の位置には、第114A号住居跡のP1～P4が掘り込まれており、本跡の主柱穴が同位置にあったと考えられる。

所見 本跡は、覆土の堆積状況や主柱穴の配置などから、埋土して第114A号住居に建て替えられたと考えられる。時期は、重複関係から、7世紀前葉以前と考えられる。

第123号住居跡（第13～15図）

位置 調査区西部のA-5a0区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸7.40m、短軸7.30mの方形で、主軸方向はN-42°-Eである。壁高は15～25cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が、南西の壁際を除いて周回している。間仕切り溝が、北西壁際と北東壁際に各1条、南東壁際に2条確認されている。

炉 中央部から北東寄りに位置している。長径78cm、短径52cmの楕円形で、床面を15cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。

炉土層解説

1	褐	色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量	4	褐	色	ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子少量
2	褐	色	ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子少量	5	暗	褐	色
3	褐	色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子中量	6	暗	褐	色

ピット 5か所。P1～P3は深さ25～38cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P4～P5は深さ30cm～38cmで、配置から間仕切り溝に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は北コーナー部に位置している。長径72cm、短径70cmの円形で、深さは40cmである。底面は皿状で、壁は直立している。貯蔵穴2は南コーナー部に位置している。長径88cm、短径71cmの楕円形で、深さは15cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴1土層解説

1	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量	3	暗	褐	色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
2	褐	色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	4	暗	褐	色	ローム粒子中量、炭化粒子少量

貯蔵穴2土層解説

1	灰	褐	色	ロームブロック・炭化粒子中量	2	褐	色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
---	---	---	---	----------------	---	---	---	------------------

覆土 13層に分層される。ブロック状の不規則な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。第1・6層には、多量のロームブロックとともに焼土・炭化物が中量含まれている。

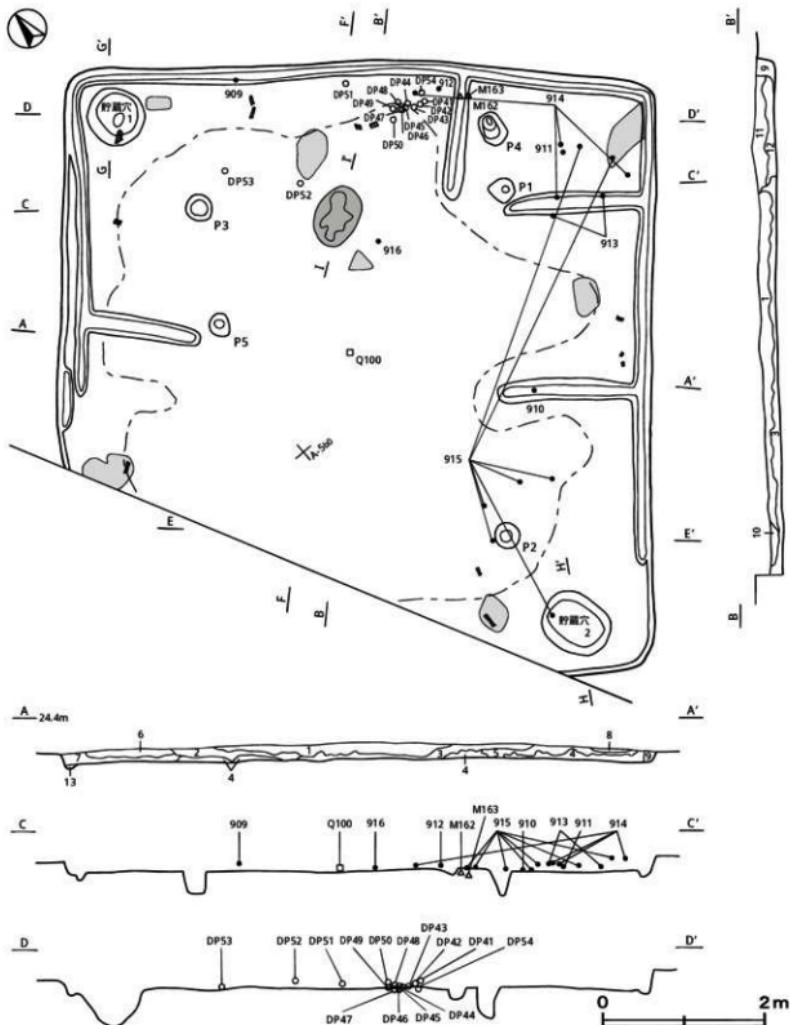
土層解説

1	黒	褐	色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子中量	8	灰	褐	色	ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子少量
2	黒	褐	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	9	褐	色	色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
3	暗	褐	色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	10	黒	褐	色	炭化物中量、ロームブロック・焼土粒子少量
4	褐	褐	色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	11	黒	褐	色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
5	黒	褐	色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	12	暗	褐	色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
6	暗	褐	色	ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化物中量	13	褐	色	色	ロームブロック中量、炭化物微量
7	灰	褐	色	焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量					

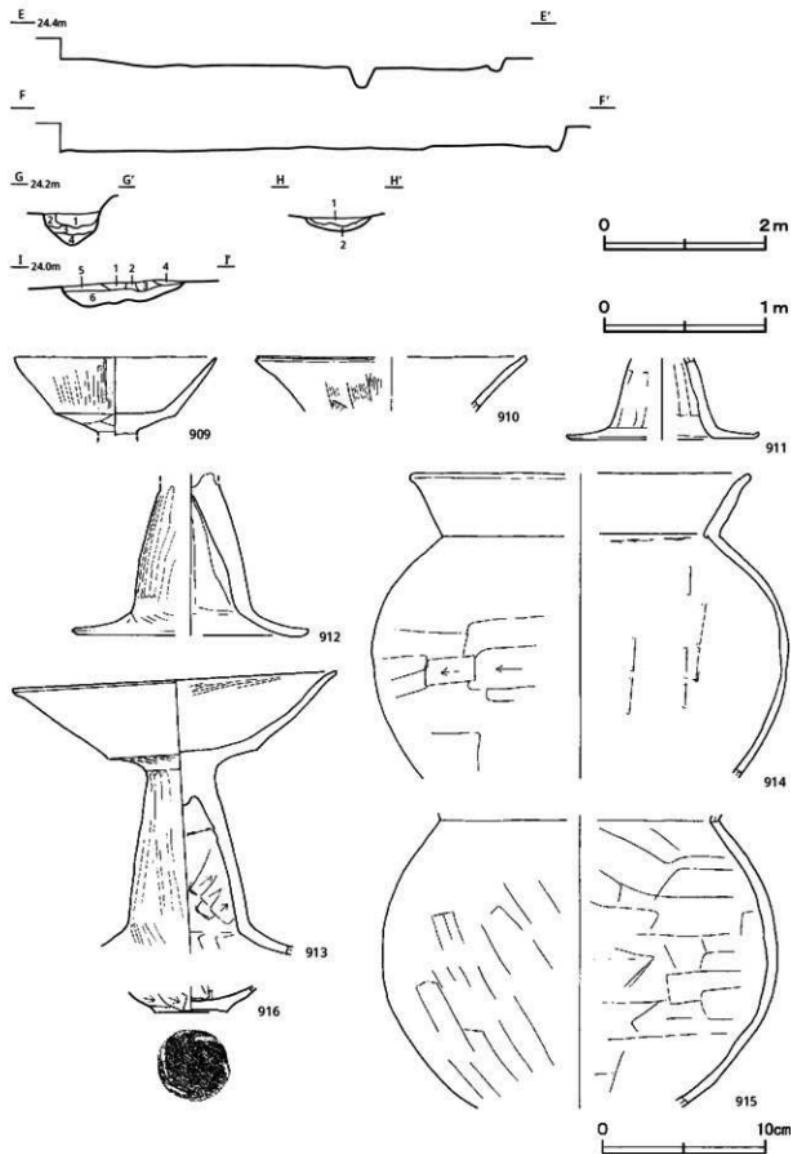
遺物出土状況 土器片263点（坏3、高坏72、罐20、甕168）、土製品14点（球状土錘）、鉄製品3点（釘カ2、刀子1）、石製品1点（管玉）のほか、混入した陶器片も出土している。口縁部・底部から推測される土器の個体数は、土器片の坏1点、高坏7点、罐1点、甕3点である。東コーナー部を中心に覆土上層から床面にかけて出土しており、東コーナー部に近いものほど浅い位置から出土する傾向を示している。914・915は北東壁際および南東壁際の覆土上層から床面にかけて出土した破片が接合したものである。DP41～DP54が、北東壁

際の中央付近の覆土中層から床面にかけて、まとまって出土している。M162・M163は北東壁際の間仕切り溝の覆土中から出土している。

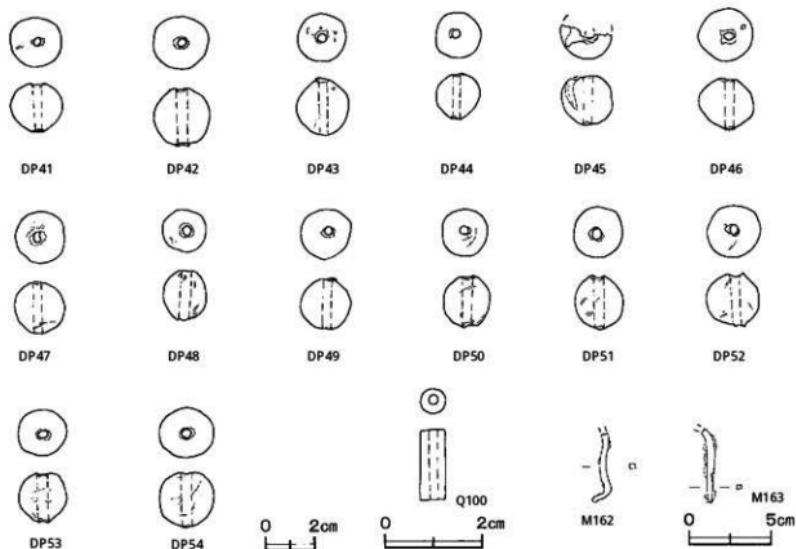
所見 土器片は覆土上層から床面にかけて散在して出土しており、時期差がみられないことから、住居廃絶時の一括投棄と考えられる。時期は、出土土器から5世紀前葉と考えられる。



第13図 第123号住居跡実測図



第14図 第123号住居跡・出土遺物実測図



第15図 第123号住居跡出土遺物実測図

第123号住居跡出土遺物観察表（第14・15図）

番号	種類	器種	口径	底高	底径	施土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
909	土器器	高环	12.4	(4.6)	-	長石・石英、赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外表面ナデ 壁部外面中位へラ磨き、下位へラナナダ 内底ナナダ	壁土上層	40%
910	土器器	高环	[16.4]	(3.3)	-	青母	在41赤褐	普通	口縁部内・外表面ナデ 壁部外面ハケ目	壁土上層	5%
911	土器器	高环	-	(5.0)	[11.8]	長石・石英、青母	暗赤褐	普通	脚部外面へラ磨き	壁土下層	10%
912	土器器	高环	-	(10.0)	[14.5]	長石・石英、青母、赤色粒子	赤	普通	脚部外面へラ磨き	壁土下層	30%
913	土器器	高环	19.7	(17.4)	-	長石・石英、赤色粒子	暗赤褐	普通	口縁部内・外表面ナデ 体部外面下半へラ削り 内底ヘラナダ	壁土下層	80% PL28
914	土器器	瓶	[20.6]	(18.7)	-	長石・石英、チート	在41赤褐	普通	口縁部内・外表面ナデ 体部外面ナダ 下半ヘラ削り 内底ヘラナダ	壁土上層・底面	20%
915	土器器	瓶	-	(18.0)	-	長石・石英、青母	在41黄褐	普通	口縁部内・外表面ナデ 体部外面ナダ 下半ヘラ削り 内底ヘラナダ	壁土上層・底面	30%
916	土器器	瓶	-	(1.5)	4.4	長石・石英、青母	にぶい黄	普通	体部外面へラ削り	底面	10%

番号	種類	長さ	幅	孔径	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
DP 41	球状土器	2.1	1.9	0.35	7.65	粘土	ナダ 片面穿孔	壁土下層	PL46
DP 42	球状土器	2.3	2.3	0.4	10.7	粘土	ナダ 片面穿孔	壁土下層	PL46
DP 43	球状土器	2.3	2.0	0.4	9.2	粘土	ナダ 片面穿孔	底面	PL46
DP 44	球状土器	1.9	1.8	0.4	6.55	粘土	ナダ 片面穿孔	底面	PL46
DP 45	球状土器	2.0	2.1	[0.4]	[4.50]	粘土	ナダ 片面穿孔	底面	PL46
DP 46	球状土器	2.1	2.3	0.4	9.75	粘土	ナダ 片面穿孔	底面	PL46
DP 47	球状土器	2.1	2.0	0.4	8.9	粘土	ナダ 片面穿孔	底面	PL46
DP 48	球状土器	2.1	1.8	0.4	6.35	粘土	ナダ 片面穿孔	壁土下層	PL46
DP 49	球状土器	2.0	2.1	0.4	7.4	粘土	ナダ 片面穿孔	底面	PL46
DP 50	球状土器	1.9	2.0	0.4	6.65	粘土	ナダ 片面穿孔	壁土下層	PL46
DP 51	球状土器	2.3	2.0	0.4	8.95	粘土	ナダ 片面穿孔	壁土下層	PL46
DP 52	球状土器	2.1	2.2	0.4	9.45	粘土	ナダ 片面穿孔	壁土下層	PL46

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
D.P53	球状土器	2.0	2.0	0.4	7.45	粘土	ナデ 片面穿孔	埋土下層	PL46
D.P54	球状土器	2.3	2.3	0.4	10.3	粘土	ナデ 片面穿孔	床面	PL46
番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q100	實玉	1.4	0.5	0.15	0.57	滑石	両面穿孔	埋土下層	PL47
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M162	釘	(4.1)	0.4	0.3	(1.34)	鉄	頭部欠損	埋仕切り溝覆土	
M163	釘	(4.6)	0.3	0.3	(2.16)	鉄	頭部欠損	埋仕切り溝覆土	

第124号住居跡（第16・17図）

位置 調査区西部のA-4c3区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 北部を第125号住居，南部を第10号溝に掘り込まれている。

確認状況 耕作による削平を受けているため，壁は北東部でわずかな立ち上がりを確認したのみであり，炉・貯蔵穴の配置と周辺の同時期の住居跡から規模と形状を推定した。

規模と形状 確認された範囲は，長軸6.35m，短軸5.70mである。平面形は方形もしくは長方形と推定され，主軸方向はN-55°-Eである。

床 平坦で，炉2・炉3の周辺がわずかに踏み固められている。

炉 4か所。炉1は，中央部付近に位置し，長径60cm，短径50cmの楕円形で，床面を12cmほど掘り込んだ地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。炉2は，北東部に位置し，長径64cm，短径41cmの楕円形で，床面を19cmほど掘り込んだ地床炉である。炉床は火熱で赤変硬化している。炉3は，北東壁際に位置し，長径60cm，短径37cmの不整楕円形で，床面を10cmほど掘り込んだ地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。炉4は，南西部に位置し，長径54cm，短径39cmの楕円形で，床面を29cmほど掘り込んだ地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。各炉には，時期差を示す要素がないことから，同時に使用されていたと考えられる。

炉1土層解説

- 1 暗赤褐色 烧土ブロック少量，炭化粒子微量
- 2 棕暗赤褐色 烧土ブロック中量，炭化粒子微量

3 にぶい赤褐色 烧土ブロック中量

炉2土層解説

- 1 暗赤褐色 烧土ブロック少量

2 にぶい赤褐色 烧土ブロック中量

炉3土層解説

- 1 暗赤褐色 烧土ブロック中量
- 2 暗赤褐色 烧土ブロック少量

3 暗赤褐色 烧土ブロック微量

炉4土層解説

- 1 暗赤褐色 烧土ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，烧土粒子微量
- 3 赤褐色 烧土ブロック多量，ローム粒子中量
- 4 暗赤褐色 ロームブロック・烧土ブロック中量，炭化粒子少量

5 暗褐色 ローム粒子・烧土粒子中量，炭化粒子少量
6 暗褐色 ローム粒子・烧土粒子中量，炭化粒子少量
7 暗褐色 ロームブロック中量，烧土粒子少量

ピット 2か所。深さ31-38cmで，性格は不明である。

貯蔵穴 北コーナー部に位置し，長径72cm，短径60cmの楕円形で，深さは49cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

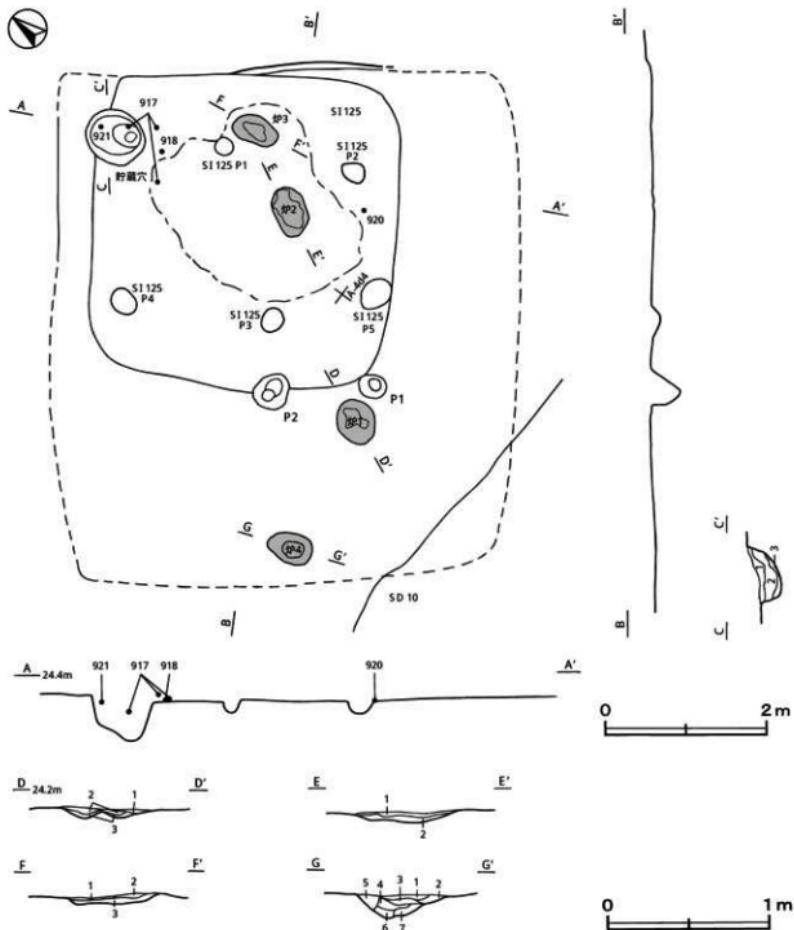
貯蔵穴層解説

1 線 桃 色 ロームブロック・炭化粒子微量
2 線 桃 色 ローム粒子中量・炭化粒子微量

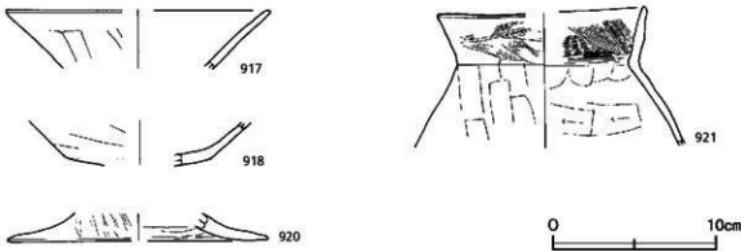
3 線 色 ローム粒子中量・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片52点(環3, 高环18, 瓢31)が出土している。口縁部や底部等から推測される土器の個体数は、土師器高环5点、瓢1点である。床が露出した状態で検出されており、出土土器は少ない。921は、貯蔵穴の覆土中から細片で出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀前葉から中葉と考えられる。



第16図 第124号住居跡実測図



第17図 第124号住居跡出土遺物実測図

第124号住居跡出土遺物観察表（第17図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
917	土師器	高环	[16.2]	(3.6)	-	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 环部外側へラナデ	床面・貯蔵穴 土中	10%
918	土師器	高环	-	(2.7)	-	長石・石英	褐	普通	环部外側へラナデ 内面剥離が著しい	床面	10%
920	土師器	高环	-	(1.7)	[16.0]	長石・石英	明赤褐	普通	脚部外側へラナデ 内面へラナデ	床面	10%
921	土師器	瓶	[12.7]	(8.5)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外側ハケ目 体部外側へラナデ 瓶内部内面指標压痕 体部内・外側へラナデ	貯蔵穴覆土中	10% PL29

第127号住居跡（第18図）

位置 調査区西部のZ-4h1区，標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 北部が調査区域外に延びているため，北西軸7.60m，北東軸5.45mのみが確認されている。平面形は方形もしくは長方形と推定され，北西軸方向はN-44°-Wである。壁高は最大5cmである。

床 ほぼ平坦で，軟弱である。

炉 中央部付近に位置している。径38cmの円形で，床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用した地床炉である。炉床は，火熱を受け赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量，炭化粒子微量

ピット 2か所。深さ31~53cmで，いずれも性格は不明である。

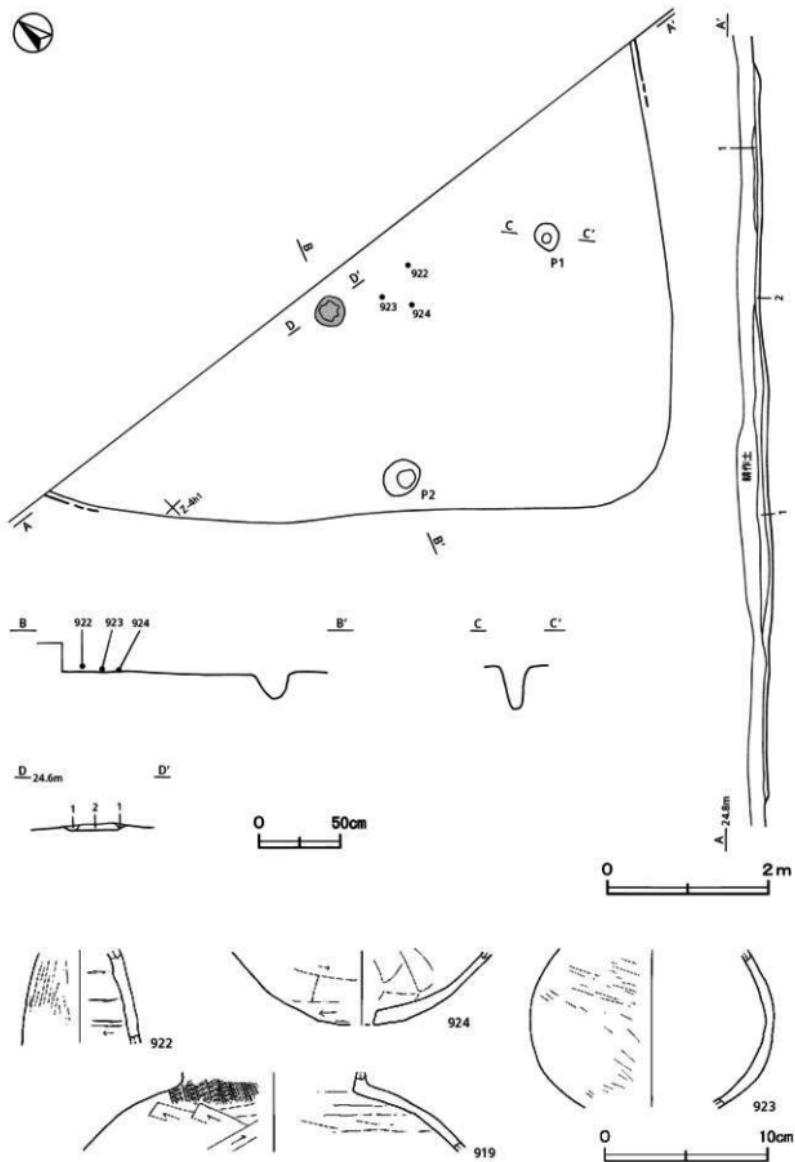
覆土 2層に分層される。大部分が耕作による擾乱を受けており，堆積状況は不明である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 2 褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片161点（高環49，塙7，瓶7，甕類98），須恵器片1点（甕），鉄製品1点（不明）のほかに，混入した須恵器片，陶磁器片，瓦質土器片も出土している。口縁部や底部等から推測される土器の個体数は，土師器高環3点，塙1点，甕1点，瓶1点である。遺物は，層厚の薄い覆土中の全域に散在して出土している。

所見 時期は，出土土器から5世紀前葉から中葉と考えられる。



第18図 第127号住居跡・出土遺物実測図

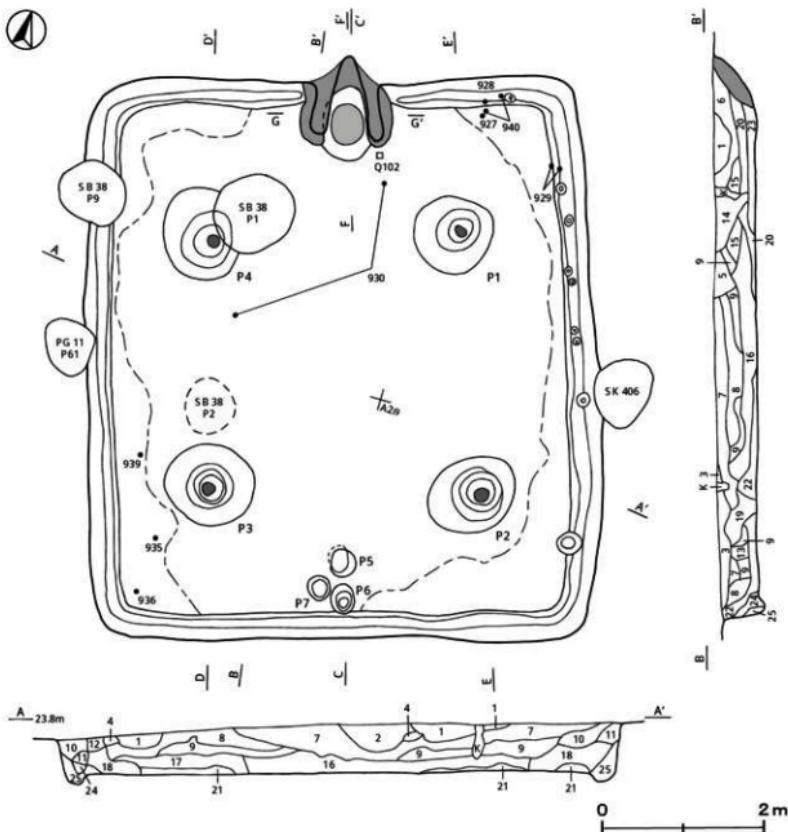
第127号住居跡出土遺物観察表（第18図）

番号	種別	器種	口径	高さ	施土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
919	土師器	壺	-	(49)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい質 普通	外表面部ハケ目 体部ヘラ削り 内面ナダ	床面	5%
922	土師器	壺	-	(57)	-	長石・雲母	赤褐色 普通	脚部外面ヘラ削き	床面	10%
923	土師器	壺	-	(9.6)	-	長石・雲母	明赤褐色 普通	体部外面ヘラ削き	床面	15%
924	土師器	壺	-	(45)	[53]	長石・石英	橙 普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナダ 底部単孔	床面	10%

第132号住居跡（第19～22図）

位置 調査区東部のA2h8区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第38号掘立柱建物、第11号ピット群、第406号土坑に掘り込まれている。

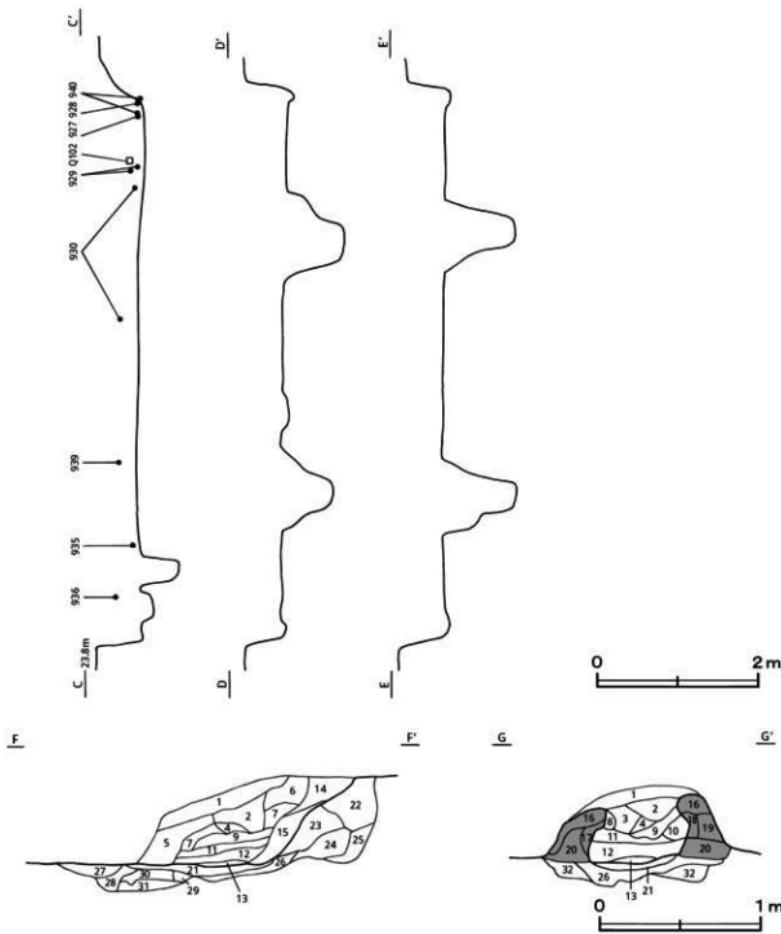


第19図 第132号住居跡実測図(1)

規模と形状 長軸7.00m、短軸6.32mの長方形で、主軸方向はN-16°-Wである。壁高は45~54cmで、直立している。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで132cm、袖部幅113cmである。袖部は、地山を15cm掘り込み暗褐色土を埋め戻して基部とし、その上に粘土を積み上げて構築している。火床部は、床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用している。火床面は火熱を受けて著しく赤変硬化している。煙道部は、壁を40cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。第1~15層は竈内の覆土、第16~20層は袖部、第21~32層は



第20図 第132号住居跡実測図(2)

竈構築時に掘り込んだ後に、客土した土層である。竈は赤変化した面よりも下層に粘土や焼土が混じる層が厚く堆積しており、同一箇所での竈の造り替えが考えられる。

竈土層解説

1 黒 褐 色 粘土粒子・炭化粒子中量	19 暗 棕 色 粘土粒子中量、焼土ブロック少、炭化粒子微量
2 黒 褐 色 粘土粒子中量、焼土ブロック微量	20 暗 棕 色 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒 褐 色 粘土粒子中量、焼土ブロック微量	21 灰 黄 棕 色 烧土粒子・粘土粒子少量
4 黒 褐 色 粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	22 暗 赤 棕 色 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
5 黒 褐 色 烧土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量	23 暗 赤 棕 色 烧土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
6 にぬ(黄褐色) 粘土粒子中量、炭化粒子少、焼土粒子微量	24 暗 棕 色 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
7 暗 赤 棕 色 烧土ブロック中量、粘土粒子少、炭化粒子微量	25 暗 棕 色 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8 暗 赤 棕 色 炭化粒子少、焼土ブロック・粘土粒子微量	26 暗 棕 色 烧土ブロック少、炭化粒子・粘土粒子微量
9 黒 褐 色 炭化粒子少、焼土粒子微量	27 暗 棕 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
10 暗 棕 色 烧土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量	28 暗 赤 棕 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
11 黒 褐 色 烧土ブロック微量、粘土粒子微量	29 暗 赤 棕 色 烧土ブロック・炭化粒子少、粘土粒子微量
12 暗 赤 棕 色 烧土ブロック中量、粘土粒子少量	30 暗 赤 棕 色 烧土粒子中量、粘土粒子少、炭化粒子微量
13 にぬ(透褐色) 烧土ブロック中量	31 暗 棕 色 ロームブロック少、焼土ブロック・炭化粒子微量
14 黒 褐 色 粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	32 暗 棕 色 ロームブロック少
15 暗 赤 棕 色 炭化粒子・粘土粒子少、焼土粒子微量	
16 にぬ(黄褐色) 粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	
17 灰 黄 褐 色 粘土粒子中量、焼土粒子少量	
18 黑 梅 色 烧土ブロック・炭化物中量、粘土粒子少量	

ピット 7か所。P 1 ~ P 4は深さ63~90cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 5 ~ P 7は深さ14~49cmで、南部壁際に並んで位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 25層に分層される。ロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

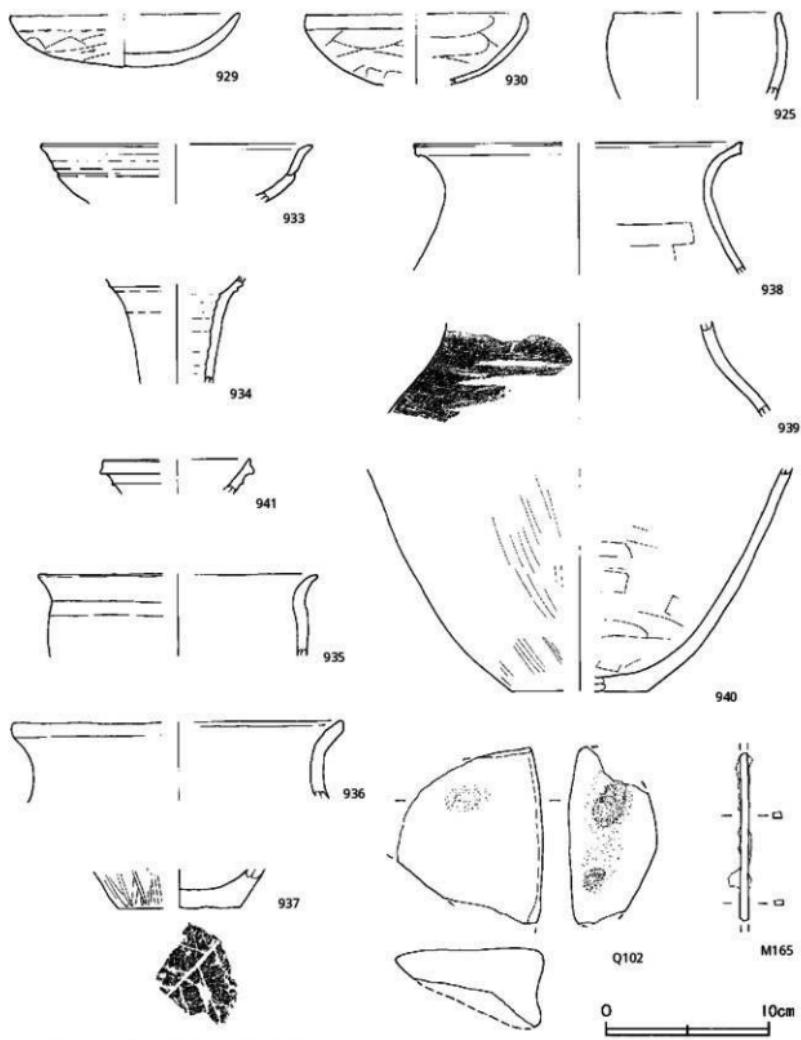
土層解説

1 暗 棕 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	14 黒 棕 色 ローム粒子少、焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒 棕 色 ローム粒子・焼土粒子少、炭化粒子微量	15 黑 棕 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
3 黑 梅 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	16 黑 棕 色 ロームブロック・炭化物微量
4 黑 梅 色 ローム粒子・焼土ブロック微量	17 黑 棕 色 ロームブロック・炭化粒子微量
5 暗 棕 色 ロームブロック少、焼土ブロック・炭化粒子微量	18 黑 棕 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
6 黑 梅 色 炭化粒子少、ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量	19 黑 棕 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7 黑 梅 色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量	20 暗 棕 色 炭化粒子少、ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量
8 暗 棕 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	21 暗 棕 色 ロームブロック・炭化粒子微量
9 暗 棕 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	22 黑 棕 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
10 黑 梅 色 ロームブロック・炭化粒子微量	23 暗 棕 色 炭化粒子・粘土粒子少、ロームブロック・焼土ブロック微量
11 黑 梅 色 ロームブロック・炭化物微量	24 黑 棕 色 炭化物少、ロームブロック微量
12 黑 梅 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	25 黑 棕 色 ロームブロック微量
13 黑 梅 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	

遺物出土状況 土師器片506点(坏・椀類98, 瓶407), 須恵器片39点(坏4, 高坏1, 蓋2, 瓶28, 長頸瓶4), 石器・石製品3点(凹石1, 不明2), 鉄製品4点(鎌1, 細錐車1, 不明2), 鉄滓1点のほかに, 流れ込んだ縄文土器片も出土している。口縁部や底部等から推測される土器の個体数は, 土師器片12点, 梗1点, 楕10点, 須恵器片1点, 長頸瓶1点である。遺物は, 覆土上層から下層にかけて多量に出土しているが, 接合できた個体は少ない。927~930, 940は, 北部の覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。所見 出土した遺物のほとんどが住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。覆土中層から下層にかけて出土している土器は残存率が高く, 時期差もみられないことから住居廃絶時の一括投棄と考えられる。時期は, 出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第21図 第132号住居跡出土遺物実測図(1)



第22図 第132号住居跡出土遺物実測図(2)

第132号住居跡出土遺物観察表(第21・22図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
925	土師器	瓶	[10.0] (5.3)	-	-	長石・石英・赤色粒子	にふい黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	層土中	10%
926	土師器	环	[9.4]	4.1	-	長石	にふい黄	普通	口縁部横ナデ 体部外側へラ削り 内面ナデ	層土中	20%

番号	種別	器種	口径	基高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
927	土師器	环	[12.8]	4.8	-	長石・雲母・赤色粒子	明褐色	普通	口縁部横ナデ 体部外側へラ削り 内面ヘラ削り	覆土下層	30%
928	土師器	环	[11.8]	4.1	-	長石・石英	褐	普通	口縁部横ナデ 体部外側へラ削り 内面ナデ	覆土下層	50%
929	土師器	环	[14.0]	3.2	-	長石・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外側横ナデ 体部外側下半ヘラ削り 内面ヘラ削り	覆土下層	60%
930	土師器	环	[13.4] (4.3)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外側横ナデ 体部外側ナデ 下半ヘラ削り 内面ヘラナデ	下半中層 - 下層	50% PL27	
933	須恵器	高环	[16.6]	(3.5)	-	長石・黒色粒子	黄灰	普通	口縁部内・外側横ナデ 体部外側ナデ 下半ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土中	5% PL41
934	須恵器	長頸瓶	-	(6.5)	-	石英・黑色粒子	黄灰	普通	内・外面口クロナデ	覆土中	5%
935	土師器	瓶	[17.2]	(5.0)	-	長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外側横ナデ	覆土下層	5%
936	土師器	瓶	[20.4]	(4.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外側横ナデ	覆土中層	10%
937	土師器	瓶	-	(2.4)	[7.4]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外側ヘラ削き	覆土中	5%
938	土師器	瓶	[20.0]	(8.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外側横ナデ 体部内面ヘラナデ	覆土中	5%
939	土師器	転用瓶	-	(6.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外側ナデ 痕状に擦り痕	覆土中層	5% 瓶
940	土師器	瓶	-	(13.7)	[8.6]	長石・石英・褐	にぶい赤褐	普通	体部外側ヘラ削き 内面ヘラナデ	覆土下層	10%
941	須恵器	長頸瓶	[9.0]	(2.1)	-	長石・黒色粒子	黄灰	普通	口縁部内・外側横ナデ	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q102	凹石	(10.9)	(9.1)	5.4	(491.0)	砂岩	使用面2面	覆土中層	PL47
M165	鐵カ	(10.3)	0.5	0.3	(5.6)	鉄	頭身欠損	覆土中	

第138号住居跡 (第23~25図)

位置 調査区東部のA 2 e9区で、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第136・137号住居、第429号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部が調査区域外に延びているため、南北軸は7.80mで、東西軸は5.80mだけが確認されている。

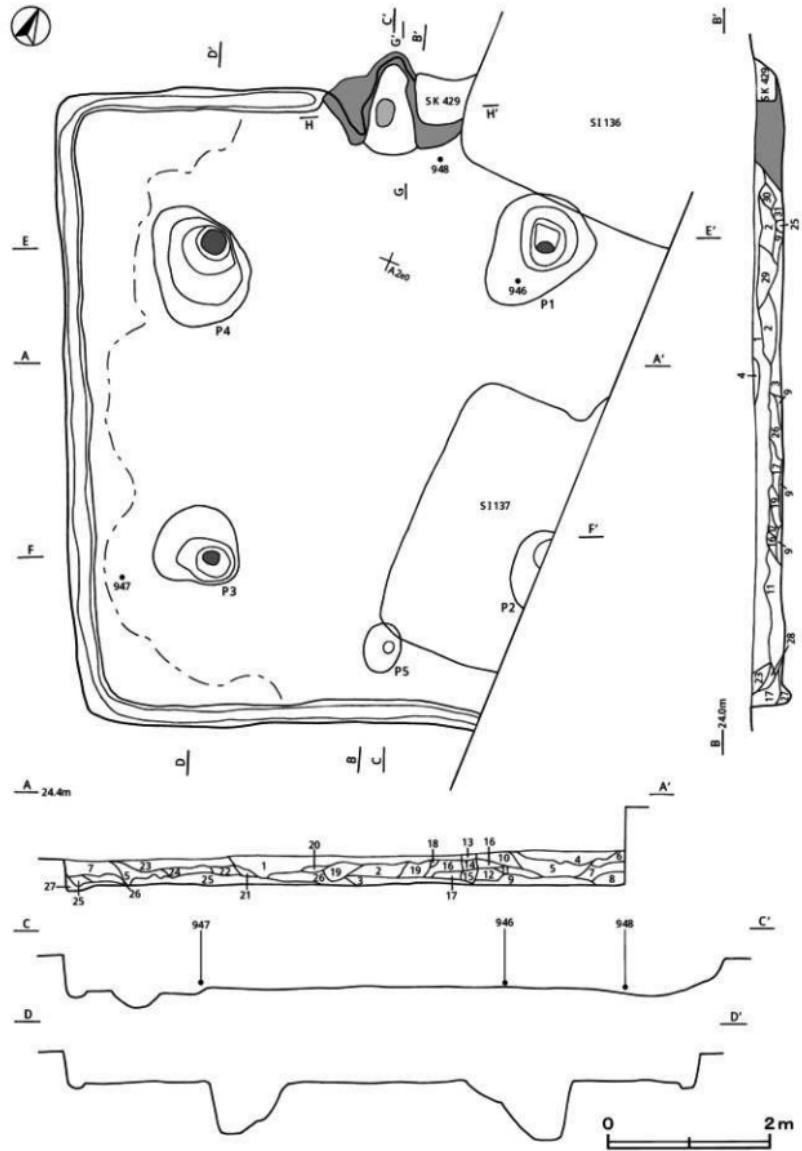
平面形は方形もしくは長方形と推定され、主軸方向はN- 20°- Wである。壁高は16~28cmで、直立している。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が全周している。

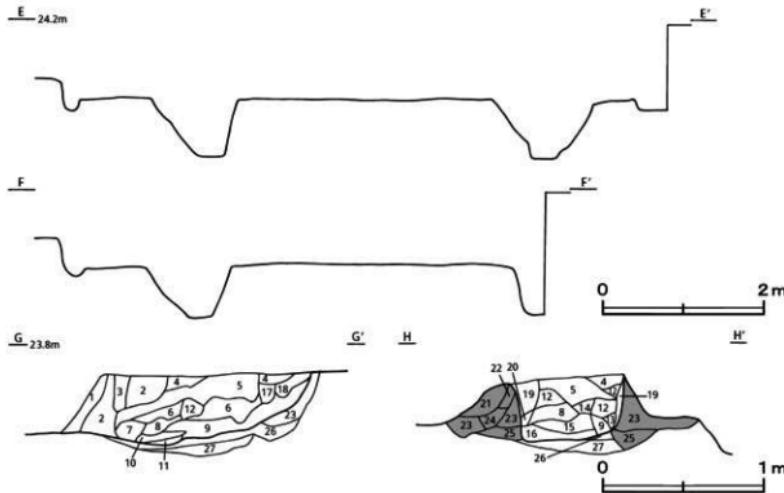
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで126cmで、袖部幅は181cmだけが確認されている。袖部は粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用している。火床面は火熱を受けて著しく赤変硬化している。煙道部は壁を25cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。第1~20層が竈内の覆土である。

竈土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	15	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・燒土ブロック微量	16	暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	17	暗赤褐色	焼土ブロック多量、炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量	18	暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	19	暗赤褐色	焼土粒子多量、砂質粘土粒子微量
6	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	20	暗褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
7	暗赤褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量	21	にぶい黒褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
8	暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量	22	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子微量
9	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	23	暗褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
10	暗赤褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	24	黒褐色	ローム粒子微量
11	暗赤褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	25	褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量
12	暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子微量	26	暗赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
13	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量	27	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量
14	暗赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量			



第23図 第138号住居跡実測図(1)



第24図 第138号住居跡実測図(2)

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ56～73cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 1・P 3・P 4は、形状及び覆土の不自然な堆積状況から、柱の抜き取りが行われたと考えられる。P 5は深さ19cmで、南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

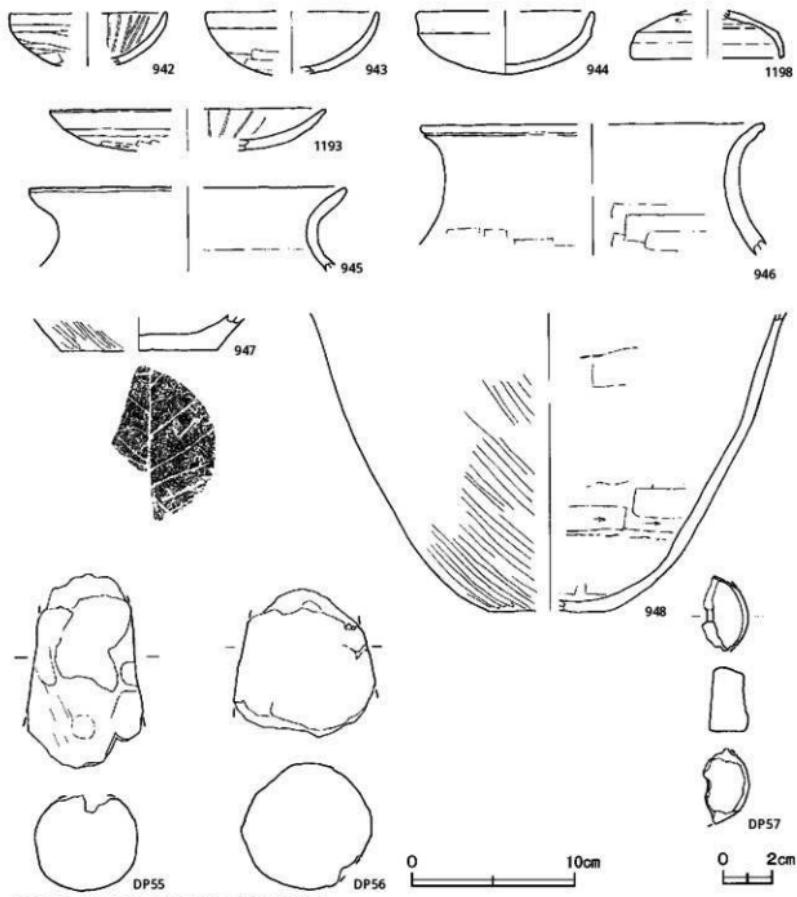
覆土 31層に分層される。不規則な堆積状況であり、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	18 褐 色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
2 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	19 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
3 黒 褐 色 ロープロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	20 黒 褐 色 炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量
4 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量	21 黒 褐 色 炭化粒子微量、ロームブロック微量
5 暗 褐 色 ローム和子チラ量、焼土粒子・炭化粒子微量	22 黒 褐 色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
6 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量	23 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物微量
7 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	24 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
8 暗 褐 色 ロームブロック微量	25 黒 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
9 褐 色 ロームブロック微量	26 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
10 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	27 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物少量
11 黒 褐 色 ロームブロック微量、焼土ブロック・炭化物微量	28 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
12 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	29 黑 褐 色 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
13 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量	30 黑 褐 色 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
14 黒 褶 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	31 黑 褶 色 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
15 黒 褶 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	
16 黒 褶 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	
17 黒 褶 色 焼土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量	

遺物出土状況 土器片278点(壺83、甕195)、須恵器片5点(蓋2、甕3)、土製品3点(紡錘車1、支脚2)、鉄製品2点(不明)、鐵滓5点のほかに、混入とみられる織文土器片、灰陶土器片(平瓶)も出土している。口縁部や体部等から推測される土器の個体数は、土器片8点、甕4点、須恵器蓋1点である。土器片は、全域の覆土上層から下層にかけて多量に出土しているが、接合できた個体は少ない。

所見 出土土器の大部分が細片であり、住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。時期は、出土土器及び、住居の規模と主軸方向から7世紀前葉以前と考えられる。



第25図 第138号住居跡出土遺物実測図

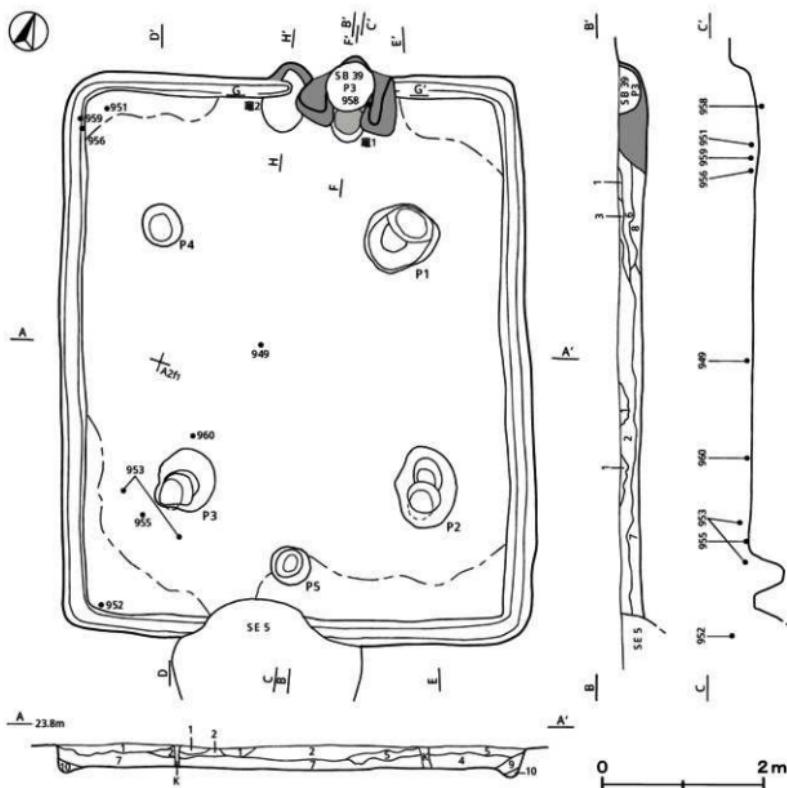
第138号住居跡出土遺物観察表（第25図）

番号	種別	縦横	口径	縦高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
942	土師器	环	[9.8]	(3.2)	-	長石・石英、赤色粒子	褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外側ヘラ削り 内面粗粒状のヘラ磨き	層土下層	15%
943	土師器	环	[10.5]	(3.7)	-	長石・石英、赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外側ヘラ削り 内面ナデ	層土上層	15%
944	土師器	环	[10.8]	3.8	-	長石・石英、雲母	にぶい赤	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外側ヘラ削り 内面ナデ	層土上層から下層	40% PL27
945	土師器	瓶	[19.8]	(5.1)	-	長石・石英、明褐色	褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	P 2 層土中	5%
946	土師器	瓶	[21.0]	(6.1)	-	長石・石英、赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外側下半ヘラ削り 内面ヘラナデ後色整理力	層土下層	5%
947	土師器	瓶	-	(2.1)	[9.8]	長石・石英、雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外側ナデ 下半 ヘラ削き 内面ヘラナデ	層土下層	5%
948	土師器	瓶	-	(18.3)	[7.4]	長石・石英、雲母・褐	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外側ナデ 下半 ヘラ削き 内面ヘラナデ	層土下層、層土中	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1193	土師器	环	[16.9]	2.5	-	長石・石英・ 黄母	褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 外面へら削り 内面 ナデ痕反射状のヘラ痕等	埴土上層	10%
1198	須恵器	蓋	[9.4]	(2.9)	-	長石・石英	黄灰色	普通	底部内・外面口クロナデ 天井部回転へら削り	埴土上層	20% PL27
番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	材質			手法の特徴ほか	出土位置	備考
DP 55	支脚	(12.0)	(6.6)	(7.3)	(289.0)	粘土	ナデ	指錐圧痕		埴土中	
DP 56	支脚	(9.0)	(8.5)	(6.8)	(365.0)	粘土	ナデ			埴土中	
番号	器種	長さ	厚さ	孔径	重量	材質			特徴	出土位置	備考
DP 57	防護壁	[3.2]	2.6	(0.6)	(15.1)	粘土	ナデ			埴土中	

第140号住居跡 (第26~28図)

位置 調査区東部の A 2 e1区、標高24mの平坦な台地の東端部に位置している。



第26図 第140号住居跡実測図(1)

重複関係 北部を第39号掘立柱建物に、南部を第5号井戸に掘り込まれている。

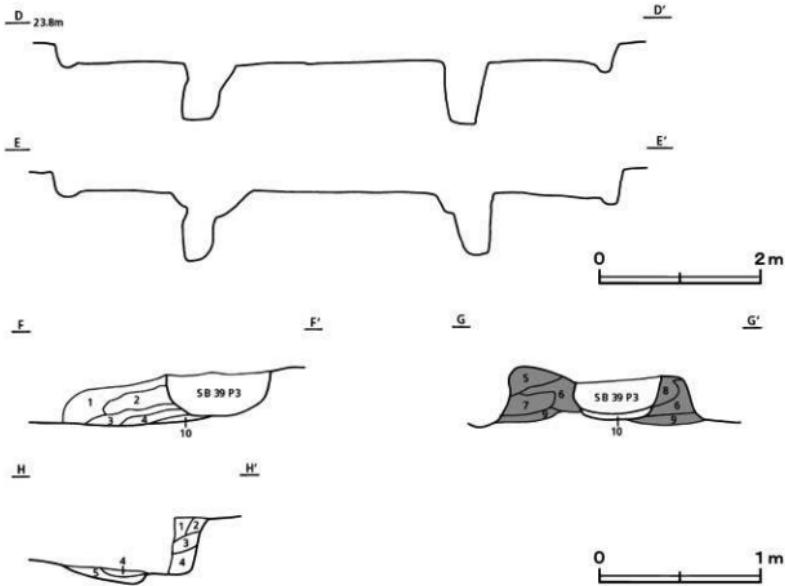
規模と形状 長軸7.00m、短軸5.78mの長方形で、主軸方向はN-20°Wである。壁高は22~25cmで、直立している。

床 平坦で、中央部から東・西壁際まで踏み固められている。壁溝が全周している。

龜 2か所。龜1は北壁中央部や東寄りに付設されており、煙道部を第39号掘立柱建物に掘り込まれている。規模は、焚口部から煙道部まで107cm、両袖部幅125cmである。袖部は、床面とほぼ同じ高さの平坦面に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめた後に、床面とほぼ同じ高さまで埋め戻して使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を30cmほど掘り込み、火床面から外傾して立ち上っている。龜1は10層からなり、第1~4層が龜内の覆土、第5~9層が袖部の土層である。龜2は、北壁中央部に付設されている。袖部は遺存していない。火床面は床面から7cmほど掘りくぼめられており、火床部は確認できなかった。煙道部は壁を20cmほど掘り込み、火床面から直立している。龜2は煙道部と火床部だけが残存していることから、龜2から龜1へ作り替えたと考えられる。

龜1層解説

1	暗	褐	色	砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	6	褐	色	砂質粘土粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子・ローム粒子微量			
2	暗	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	7	暗	褐	色			
3	暗	赤	褐	色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量	8	暗	赤	褐	色	砂質粘土粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量
4	暗	赤	褐	色	9	暗	褐	色	砂質粘土粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量		
5	暗	赤	褐	色	10	暗	赤	褐	色	砂質粘土粒子・炭化粒子少量	



第27図 第140号住居跡実測図(2)

電 2 土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 赤褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量

- 4 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量
- 5 暗赤褐色 烧土粒子多量, 炭化粒子微量

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ69～86cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ40cmで、南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

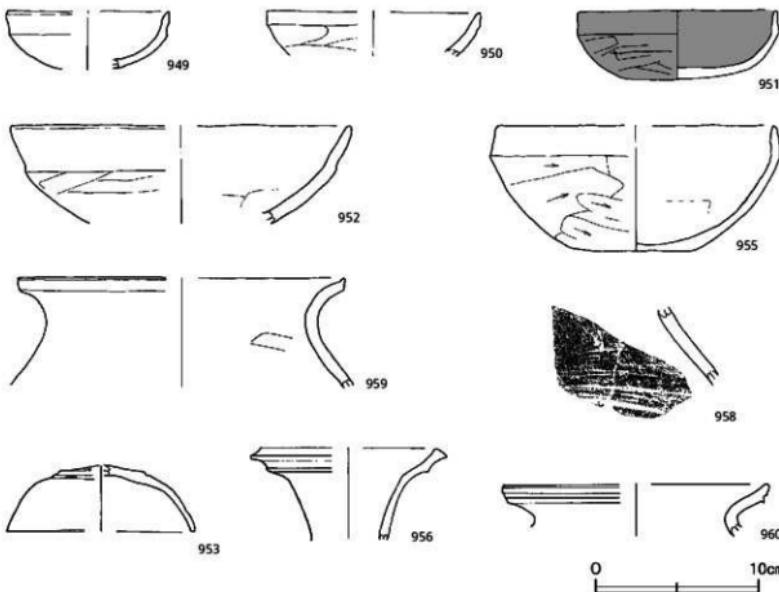
覆土 10層に分層される。ロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土器解説

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量, 烧土粒子微量 |
| 3 暗褐色 烧土粒子少量, ロームブロック微量 | 8 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子少量, 烧土粒子微量 | 9 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック中量 | 10 暗褐色 ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土器片204点（环47, 楠9, 梨類148），須恵器片14点（坏4, 蓋7, 楠1, 長頸瓶2），土製品1点（支脚），鉄滓1点のほかに、流れ込みとみられる石器（鐵）が出土している。口縁・底部などから推定される土器の個体数は土器片環10点、楠1点、梨4点、瓶1点、須恵器蓋1点、長頸瓶1点、楕1点である。951と955は北西・南西コーナー部の床面から正位で出土しており、出土状況から住居廃絶時に遭棄されたものと考えられる。953と956は覆土下層から床直上にかけて出土した破片が接合したもので、住居廃絶時に投棄されたと考えられる。958は窓の掘り方から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第28図 第140号住居跡出土遺物実測図

第140号住居跡出土遺物観察表（第28図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
940	土器群	环	[10.0] (35)	-	-	長石・石英・赤色粒子	暗褐色	普通	口縁部内・外表面ナデ 外面下半ヘラケズリ 後ナデ 内面ナデ	壁土上層	10%
950	土器群	环	[13.0] (27)	-	-	石英・長石	暗褐色	普通	口縁部内・外表面ナデ 外面下半ヘラケズリ 後ナデ 内面ナデ	壁土中	30%
951	土器群	环	12.4	4.2	-	石英・長石	暗褐色	普通	口縁部内・外表面ナデ 外面下半ヘラケズリ 後ナデ 内面ナデ	床面	80% PL27
952	土器群	环	[20.0] (60)	-	-	石英・長石・赤色粒子	暗褐色	普通	口縁部内・外表面ナデ 外面下半ヘラケズリ 後ナデ 内面ナデ	壁土上層	30% PL27
953	須恵器	壺	[11.5] (41)	-	-	黒色粒子	灰白	普通	口縁部内・外表面ナデ 体部外面ナデ・下半 ヘラケズリ 壁内・ヘラケズリ	壁土下層	50% PL28
955	土器群	环	[17.2] (7.7)	7.2	-	石英・白色粒子	褐	普通	口縁部内・外表面ナデ 外面下半ヘラケズリ 後ナデ 内面ナデ	床面	40% PL27
956	須恵器	長錐瓶	[10.0] (5.6)	-	-	白色粒子・黒色 粒子	灰	普通	口縁部内・外表面ナデ 頸部クロナデ	壁土下層	10%
958	土器群	転用瓶	-	(49)	-	石英・長石・ 白色粒子	褐	普通	体部内・外表面ナデ 形状に連携	壁土中	5% 壁
959	土器群	瓶	[20.0] (66)	-	-	石英・長石・ 白色粒子	暗褐色	普通	口縁部内・外表面ナデ 体部外・外面ヘラカ ズリ	床面	10%
960	須恵器	壺	[16.2] (32)	-	-	白色粒子・黒色 粒子	暗灰	普通	口縁部内・外表面ナデ 内・外面クロナデ	壁土中	5%

第145号住居跡（第29・30図）

位置 調査区西部のZ-6g7区で、標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.05m、短軸4.92mの方形で、主軸方向はN-45°Eである。壁高は12-21cmで、直立している。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。南コーナー部の貯蔵穴をL字形に囲む幅17-38cm、高さ4cm・6cmの高まりが確認されている。壁溝が全周している。また、焼土がほぼ全域で確認されている。

炉 中央部の北東寄りに位置している。径20cmの円形で、床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用した地床炉である。

炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量

ピット P 1-P 4は深さ15-23cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 5-P 6は深さ20-33cmで、南北壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南コーナー部に位置している。長軸92cm、短軸64cmの隅丸長方形で、深さは35cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴層解説

- | | |
|--------------------------------|-----------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 5 褐色 ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | |

覆土 16層に分層される。ブロック状の不自然な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 10 褐色 ロームブロック中量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量 | 11 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 12 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 13 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 赤褐色 烧土粒子多量 | 14 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 15 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 8 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 16 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

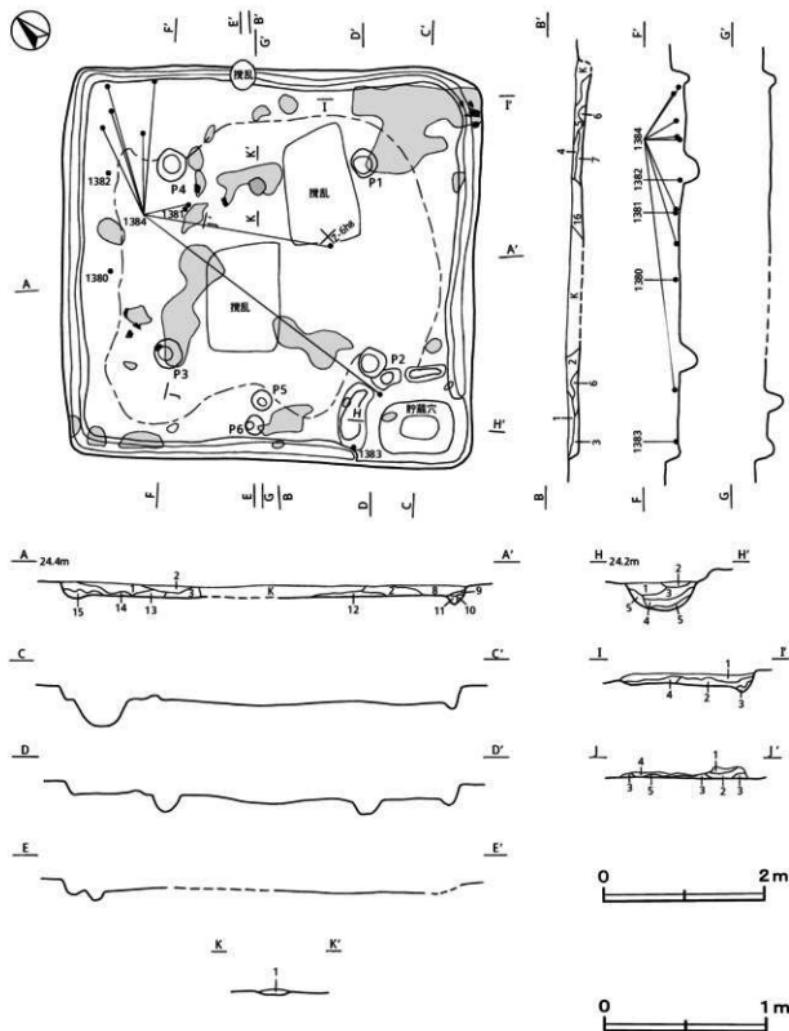
焼土層解説（I-I'）

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------|
| 1 暗赤褐色 烧土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 褐色 ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

焼土層解説（J-J'）

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 1 暗赤褐色 烧土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 4 暗褐色 烧土ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 烧土粒子中量 | 5 暗赤褐色 烧土粒子多量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | |

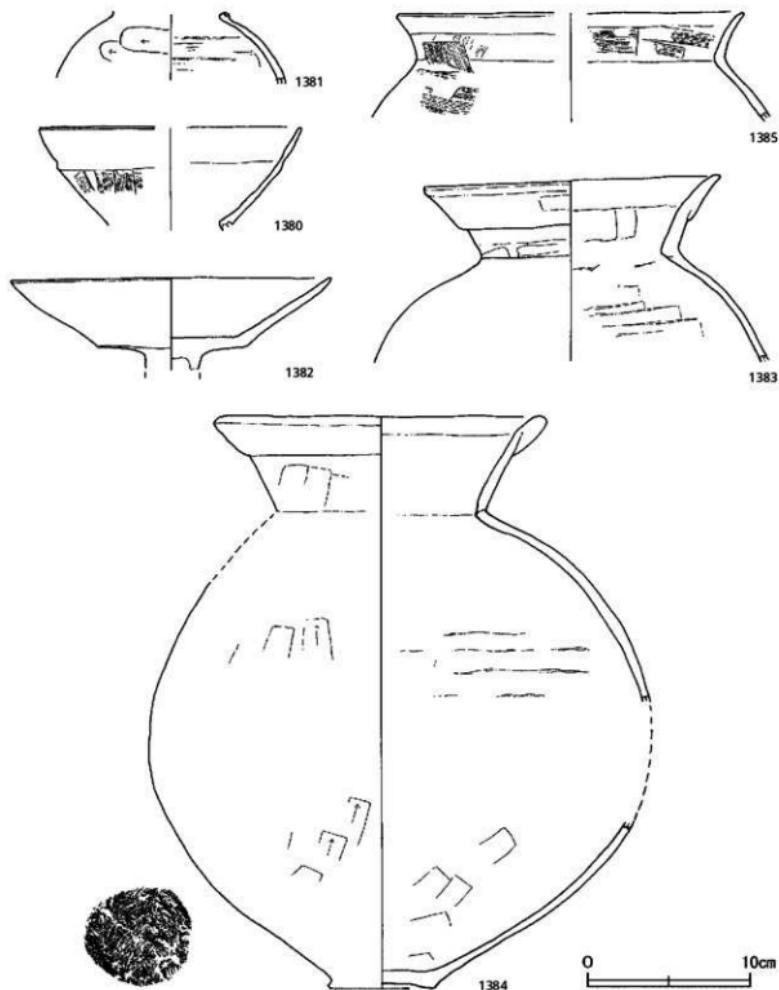
遺物出土状況 土師器片359点（高坏27、壇130、壺76、甕126）のほか、混入とみられる土師質土器片3点（不明）も出土している。口縁部や底部等から推測される土器の個体数は高坏2点、壇1点、壺3点、甕1点である。遺物は、北部にやや偏って、覆土上層から床面にかけて破片で出土しており、住居廃絶後に投棄された。



第29図 第145号住居跡実測図

たものと考えられる。1384は、北コーナー部の覆土中層から南コーナー部の床面にかけて出土した破片が接合したものである。1383は、貯蔵穴付近の床面から、逆位で出土している。

所見 覆土上層から床面にかけて多くの焼土が確認されており、廃絶に伴い焼失した住居と考えられる。土器は焼土直上や床面から多く出土しており、おおむね時期差がみられないことから、住居廃絶時の一括投棄されたものと考えられる。時期は、出土土器から5世紀前葉と考えられる。



第30図 第145号住居跡出土遺物実測図

第145号住居跡出土遺物観察表（第30回）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1380	土師器	壺	[16.0]	(6.3)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	口縁部内・外表面ナデ 窓部外側ハケ目調整 後ナデ 内面ナデ	床面	10% 内面削離
1381	土師器	壺	-	(4.2)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	体部表面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラナデ	床面	30%
1382	土師器	高環	19.7	(5.6)	-	長石・石英	暗赤褐色	普通	口縁部内・外表面ナデ 窓部外側ハケ目調整 カスナデ 内面ナデ	床面	50% PL26 内面削離
1383	土師器	壺	18.0	(11.5)	-	長石・石英・ 赤色粒子	褐色	普通	口縁部内・外表面ナデ 窓部内・外面ナデ	床面上	30%
1384	土師器	壺	19.6	35.2	6.4	長石・石英	褐色	普通	口縁部内・外表面ナデ 窓部から体部外側ヘ ラ削り 壁面へラ削り 窓部外側ハケ目調整	床面	70% PL29
1385	土師器	壺	[21.0]	(6.7)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口縁部内・外表面ナデ 窓部外側ハケ目調整 内面ナデ	壁上層	10%

第146号住居跡（第31～33回）

位置 調査区西部のZ-6f5区で、標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.19m、短軸4.35mの長方形で、主軸方向はN-33°Wである。壁高は21～27cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、北西・南東壁際に除いて踏み固められている。壁溝が全周している。間仕切り溝が、北西壁際に2条、北東壁際に1条確認されている。焼土が壁際に散在して確認されている。

炉 炉は中央部に位置している。長径57cm、短径46cmの楕円形で、床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用した地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量 2 黒褐色 ローム粒子中量

ピット 3か所。P1は深さ6cmで、配置から貯蔵穴に係るピットと考えられる。P2・P3は、深さ20cm・32cmで、硬化面より下層から確認されており、性格は不明である。

貯蔵穴 南東壁際に位置している。長軸84cm、短軸60cmの不整長方形である。深さ30cmで、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 にぶい褐色 ロームブロック・木片少量 2 黒褐色 ロームブロック中量

覆土 19層に分層される。含有物は、第2層に焼土ブロック中量、第6・7層に炭化粒子中量、中層から下層にかけてはロームブロックが中量及び多量混入している。ブロック状の不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

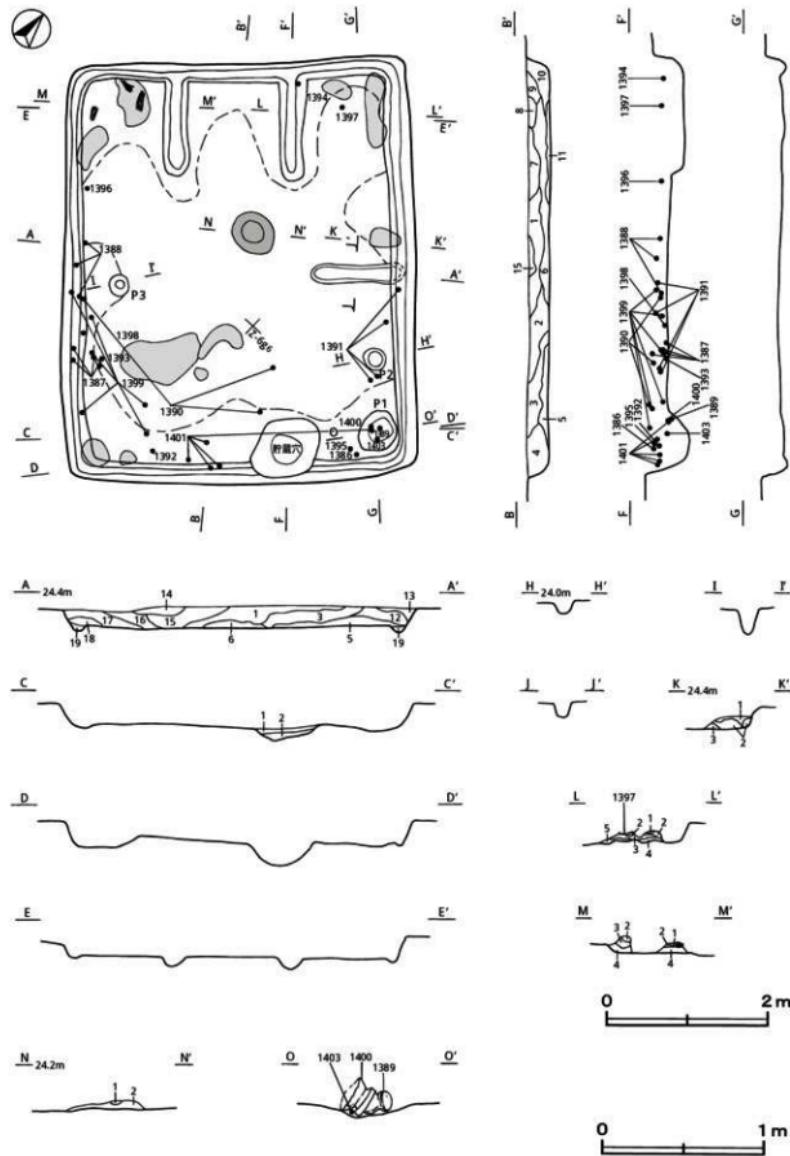
1 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	10 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量
2 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量	11 褐色	ローム粒子中量
3 黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量	12 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 楕円暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量	13 暗褐色	ロームブロック中量
5 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	14 楕円暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
6 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子中量、焼土ブロック微量	15 暗褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子微量
7 黒褐色	炭化粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量	16 黒褐色	ロームブロック多量、炭化粒子中量、焼土粒子微量
8 黒褐色	炭化粒子中量、ロームブロック微量、焼土粒子微量	17 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量
9 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	18 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量
		19 楕円暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量

焼土土層解説（K-K'）

1 暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	3 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
2 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量	5 褐色	ローム粒子中量

焼土土層解説（L-L'）

1 赤褐色	焼土粒子中量	4 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
2 楕円暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	5 褐色	ローム粒子中量
3 暗褐色	ロームブロック少量		



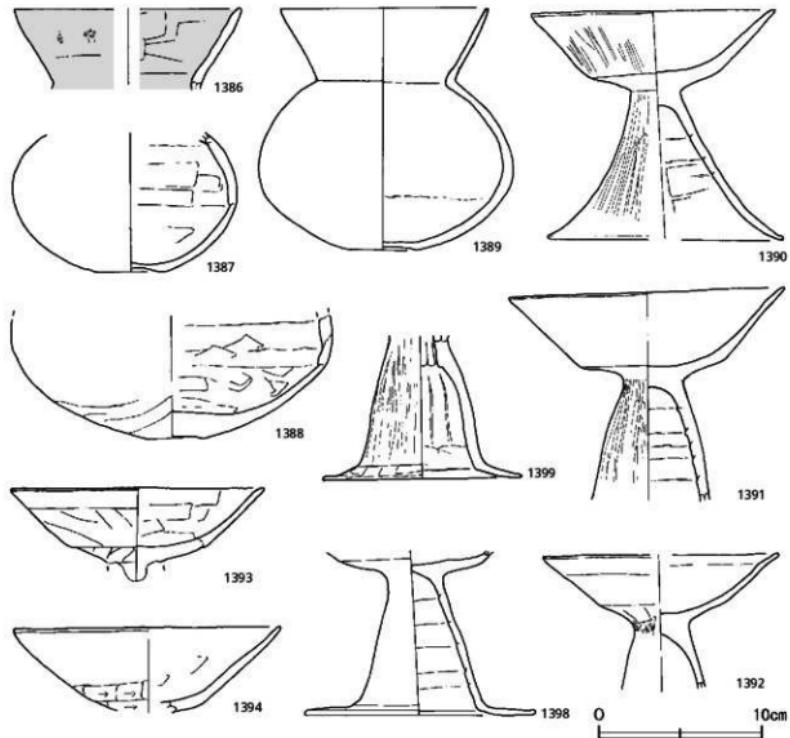
第31図 第146号住居跡実測図

焼土土器解説 (M-M')

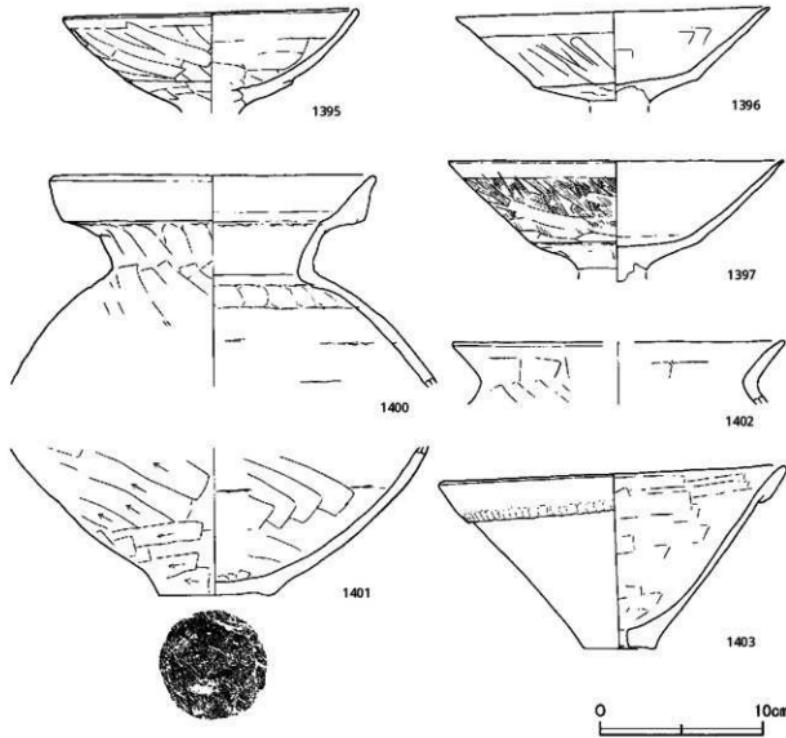
- 1 黒褐色 炭化粒子中量, 烧土粒子少量, ローム粒子微量
2 にぬけ褐色 烧土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量

- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 烧土ブロック微量
4 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片345点（高环180, 坪36, 壺49, 樋76, 瓶4）のほかに、混入した須恵器片1点（环）、陶器片2点、土師質土器片2点（鍋類）も出土している。口縁部・底部などから推測される土器の個体数は、高环12点、坪4点、壺1点、樋1点、瓶1点である。遺物は、南東部や南西壁際に集中して、覆土中層から床面にかけて多量に出土している。1393~1397は、覆土下層や床面から、环部が正位又は逆位で出土している。1389・1400・1403は、P1の底面からほぼ完形で出土しており、住居廃絶時に遭棄されたものと考えられる。所見 覆土下層から床面にかけて多くの焼土が確認されており、廃絶に伴い焼失した住居と考えられる。出土土器は、焼土範囲の直上から床面にかけて出土した破片が接合したもののがみられ、貯蔵穴底面から出土した土器とおおむね時期差がみられないことから、住居廃絶時の一括投棄と考えられる。時期は、出土土器から5世紀前葉と考えられる。



第32図 第146号住居跡出土遺物実測図(1)



第33図 第146号住居跡出土遺物実測図(2)

第146号住居跡出土遺物観察表(32・33図)

番号	種別	縦幅	口径	離高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1395	土器器	培	[13.8]	(5.0)	-	長石・石英	赤褐色	普通	口縁部内・外表面ナデ 縫部外面ハケ 日彫型 施ナデ 内面ヘラナデ	墳土中層	10%
1397	土器器	培	-	(8.5)	42	長石・石英、赤色粒子	褐	普通	体部外面ナデ 内面ヘラナデ 底部ヘラナデ	墳土上層～ 底面	40%
1398	土器器	培	-	(7.5)	3.6	長石・石英	にぶい焼	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラナデ 底 部ヘラ削り	墳土中層	30%
1399	土器器	培	12.8	15.0	40	長石・石英、赤色粒子	褐	普通	口縁部内・外表面ナデ 体部外面ヘラ削り後 ナデ 施ナデ	p.1 底部	95% PL28
1400	土器器	高環	14.7	14.2	[14.3]	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	口縁部内・外表面ナデ 外縫部外面ヘラ削き 内 面ヘラ削き	墳土上層～ 底面	50% PL28
1401	土器器	高環	17.0	(13.1)	-	長石・石英、青母	褐	普通	口縁部内・外表面ナデ 外縫部外面ヘラ削き 内 面ヘラ削き	墳土中層	40% PL28
1402	土器器	高環	[14.4]	(8.1)	-	長石・石英、青母	にぶい赤褐色	普通	口縁部内・外表面ナデ 縫部内・外表面ナデ	底面	20%
1403	土器器	高環	15.6	(5.8)	-	長石・石英	にぶい焼	普通	口縁部内・外表面ナデ 縫部外面上半ナデ	底面	50%
1404	土器器	高環	16.4	(5.4)	-	長石・石英	褐	普通	口縁部内・外表面ナデ 縫部外面下半ナデ ヘラ削り 内面ヘラナデ	墳土下層	40%
1405	土器器	高環	18.0	(6.4)	-	青母・赤色粒子	にぶい褐 色	普通	口縁部内・外表面ナデ 内面ヘラナデ	墳土下層	45%
1406	土器器	高環	19.3	(5.7)	-	長石・石英	にぶい焼	普通	口縁部内・外表面ナデ 縫部内・外表面ナデ	墳土下層	50%
1407	土器器	高環	20.5	(7.4)	-	長石・石英、赤色粒子	褐	普通	口縁部内・外表面ナデ 縫部外面ハケ 日彫型 施ナデ 内面ヘラナデ	墳土下層	45%
1408	土器器	高環	-	(10.1)	142	長石・石英	褐	普通	縫部内・外表面ナデ 縫部外面ナデ	底面	40%

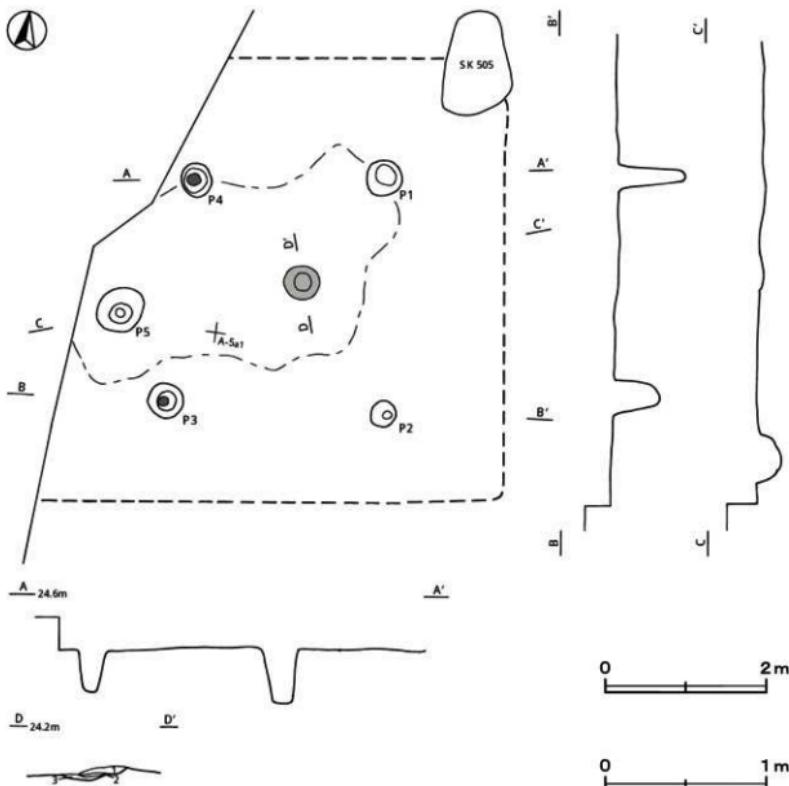
番号	種別	口径	基高	底径	胎土	色色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1399	土師器	高环	-	(8.8)	12.2	長石・石英・ 雲母	にぶい硬 普通	胎部外面磨き 下端ヘラナデ 内面下半ヘラ ナデ	壺土上層 - 下層	40%	
1400	土師器	壺	19.7	(13.0)	-	長石・石英	にぶい硬 普通	口縁部分・外表面ナデ 腹部・体部外面ヘラ ナデ 内面磨き压庄	P 1 底部	40% PL29	
1401	土師器	壺	-	(9.1)	7.0	長石・石英	にぶい硬 普通	腹部内・外側へら削り 底部へら削り	壺土中層 - 下層	30%	
1402	土師器	壺	[20.4]	(3.8)	-	長石・石英	硬	普通	口縁部分・外表面ナデ 口縁部外側下端押庄	壺土下層	5%
1403	土師器	壺	20.8	11.4	4.4	長石・石英・ 赤色粒子	明快	普通 体部分割ヘラナデ 内面磨き压庄	P 1 底部	95% PL29	

第147号住居跡（第34図）

位置 調査区西部のZ-5J1区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第505号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

確認状況 耕作による削平を受け、床面が露出した状況で確認された。炉やビットの配置から規模と形状を推定した。



第34図 第147号住居跡実測図

規模と形状 西部が調査区域外に延びているため、南北軸は5.58mで、東西軸は5.50mだけが確認されている。

平面形は方形または長方形と推測され、南北軸方向はN-7°-Wである。

床 平坦で、炉周辺が踏み固められている。

炉 約中央部に位置している。径42cmの円形で、床面を5cmほど掘り込んだ地床炉である。炉床は火熱により赤変硬化している。

炉土層解説

1	暗赤褐色	焼土ブロック中量	ローム粒子少量	炭化粒子微量
2	にじ赤褐色	焼土粒子中量	炭化粒子微量	

ピット 5か所。P1-P4は深さ52-82cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ31cmで、性格は不明である。

遺物出土状況 土器片21点（高坏13、甕8）が出土している。いずれも細片で図示できない。

所見 時期は、積極的に決定できる出土器はないが、遺構の様相から5世紀代と考えられる。

第148号住居跡（第35-37図）

位置 調査区西部のZ-5e1区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 北部と東部の大部分は調査区域外に延びているため、確認できた範囲は、北西軸3.40m、北東軸2.90mである。平面形は方形もしくは長方形と推測され、北西軸方向はN-50°-Wである。壁高は10-15cmで、外傾して立ち上っている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が周回している。

ピット 深さ36cmで、性格は不明である。

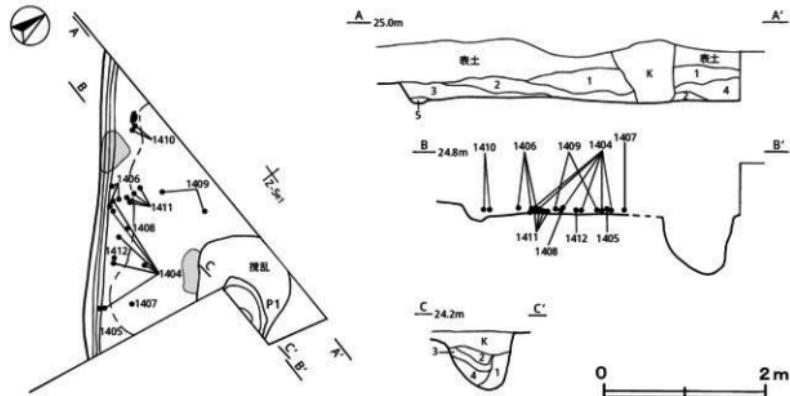
ピット土層解説

1	黒褐色	ローム粒子微量	3	黒褐色	ロームブロック少量
2	極暗褐色	ロームブロック少量	4	黒褐色	ロームブロック微量

覆土 5層に分層される。ロームブロックを含み、人為堆積と考えられる。

土層解説

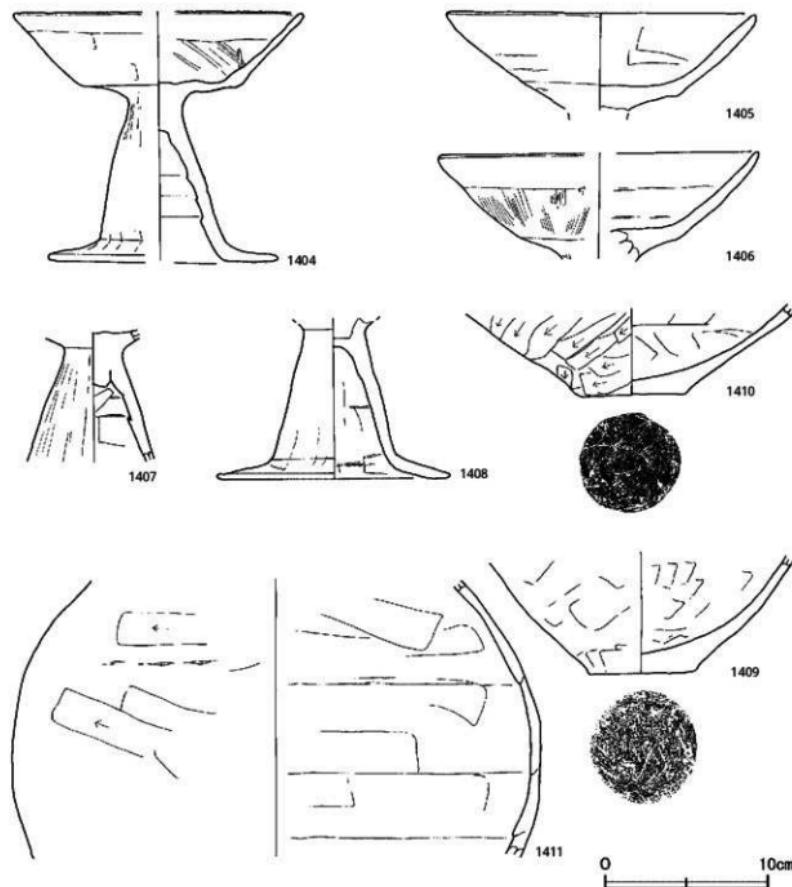
1	黒色	ロームブロック中量	4	黒褐色	ロームブロック中量
2	黒褐色	ロームブロック少量	5	褐色	ローム粒子中量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量			



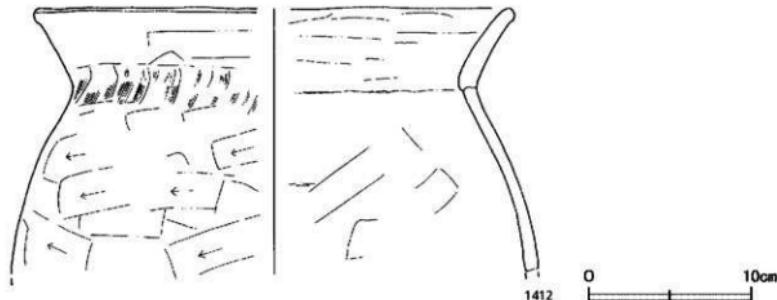
第35図 第148号住居跡実測図

遺物出土状況 土器器片115点（高坏53, 坯3, 壺46, 橋13）のほかに、混入した須恵器片1点（坏）も出土している。口縁部や底部等から推測される土器の個体数は、高坏7点、坯1点、壺3点、橋2点である。遺物は層厚の薄い覆土上層から床面にかけて、壁際に集中して出土している。1404は、覆土下層から床面にかけて出土しており、北西壁際に大きな破片が散在している。1408は、床面から一括して出土している。

所見 床面から焼土が確認されており、近隣の同時期の住居と同様に廃絶に伴い焼失した住居と考えられる。遺物は、覆土下層から床面にかけて出土しており、概ね時期差がみられないことから、住居廃絶時に一括投棄されたものと考えられる。時期は、出土土器から5世紀前葉と考えられる。



第36図 第148号住居跡出土遺物実測図(1)



第37図 第148号住居跡出土遺物実測図(2)

第148号住居跡出土遺物観察表(第36・37図)

番号	種類	器種	口径	底高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1404	土師器	高环	[17.8]	15.3	[13.9]	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 坂部外側ヘラナデ 内面ヘラナデ	壇土下層～底面	60% PL28
1405	土師器	高环	18.8	(5.9)	-	長石・石英	にぶい痕	普通	口縁部内・外面横ナデ 坂部内・外側ヘラナデ	壇土下層	35%
1406	土師器	高环	[19.6]	(6.6)	-	長石・石英	極	普通	口縁部内・外面横ナデ 坂部外側ハケ日調整	壇土下層	30%
1407	土師器	高环	-	(8.0)	-	長石・石英 赤色粒子	極	普通	脚部外面・内面下半ヘラナデ	壇土下層	30%
1408	土師器	高环	-	(10.0)	14.2	長石・石英	極	普通	脚部外側ハラナデ後ナデ 内面下半ヘラナデ	底面上	50%
1409	土師器	壺	-	(7.1)	6.4	長石・石英 赤色粒子	にじい痕	普通	全体外側ヘラ削り 内面ヘラナデ 底面ヘラナデ	壇土下層～底面	10% 内面剥離
1410	土師器	壺	-	(5.5)	6.2	長石・石英 赤色粒子	極	普通	全体外側ヘラ削り 内面ヘラナデ 底面ヘラ削り	壇土下層	10% 内面剥離化物付着
1411	土師器	壺	-	(16.9)	-	長石・石英	にぶい痕	普通	全体外側ヘラ削り 内面ヘラナデ	底面	20%
1412	土師器	壺	[29.0]	(16.2)	-	長石・赤色粒子	にぶい痕	普通	口縁部内・外面横ナデ 底面内・外側ヘラナデ 全体外側ヘラ削り 内面ヘラナデ	壇土下層	20%

第150号住居跡(第38図)

位置 調査区西部のZ-5・5区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

確認状況 耕作による削平を受け、北東部の床面が露出した状態で確認された。南東・南西壁やピット及び貯蔵穴の配置から規模と形状を推定した。

規模と形状 長軸3.70m、短軸3.65mで、平面形は方形と推測され、主軸方向はN-17°-Wである。壁高は0-15cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部から南西壁際にかけて踏み固められている。

ピット 6か所。P1-P4は深さ23-34cmで、配置と形状から主柱穴と考えられる。P5・P6は深さ11cm・29cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 東コーナー部に位置している。長径106cm、短径86cmの楕円形で、深さは41cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 棕暗褐色 ロームブロック微量

- 3 黑褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

覆土 4層に分層される。耕作による削平及び層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

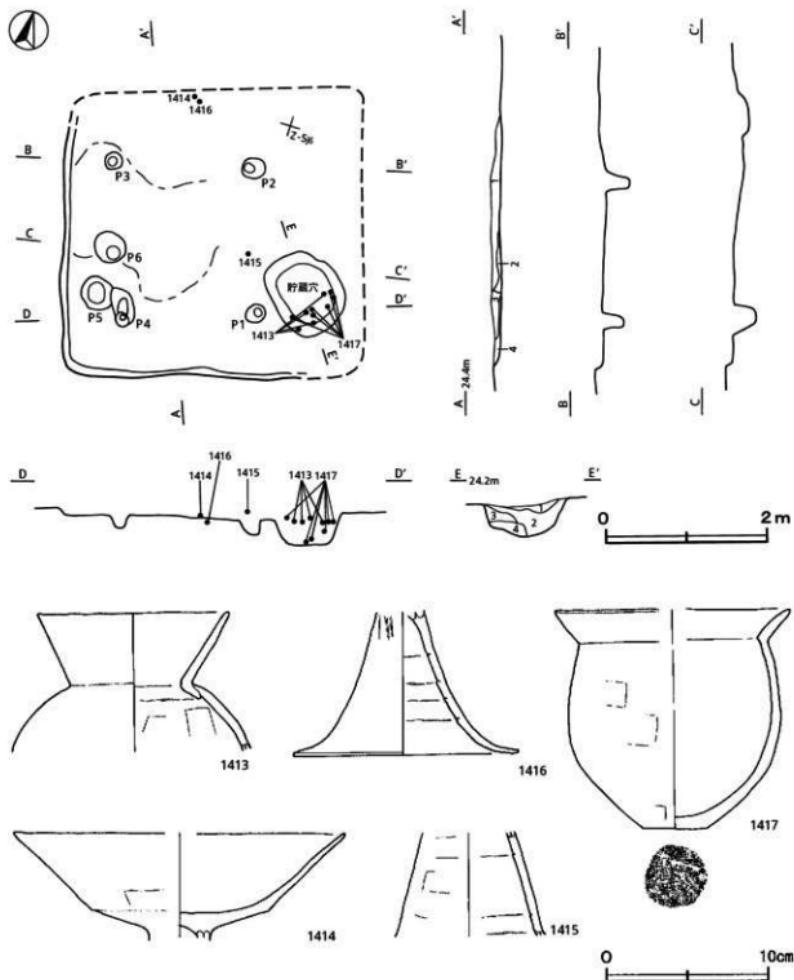
土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量
- 2 棕褐色 ローム粒子中量

- 3 棕暗褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土器器片163点（高坏81, 坝14, 横68）が出土している。口縁部や底部等から推測される土器の個体数は、高坏3点、坝1点、横1点である。1413・1417は、貯藏穴の覆土中から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から5世紀前葉と考えられる。



第38図 第150号住居跡・出土遺物実測図

第150号住居跡出土遺物観察表（第38図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1413	土師器	壺	11.5	(8.6)	-	長石・石英・ 雲母・赤色斑子	明赤褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 脚部・体外側ナデ	窓洞穴壁土中	30%
1414	土師器	高环	[20.2]	(6.4)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 環部内・外面ナデ	床面	20%
1415	土師器	高环	-	(6.5)	-	長石・石英・ 雲母	橙	普通	脚部外側ヘラナデ	壁土下層	20%
1416	土師器	高环	-	(8.8)	13.8	長石・石英	明赤褐色	普通	脚部外側ナデ 内面下端ヘラナデ	壁土下層	40%
1417	土師器	壺	[14.6]	13.5	3.9	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 脚部・体外側ナデ	窓洞穴壁土中	40% PL29

表3 古墳時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	壁溝	内部施設		土	主な出土遺物	時期	備考 (出典)	
								生柱穴 ピット	出入口 ピット					
107A	A-1g5	N-15°-W	方形	5.55 × 5.28	2~10	平坦	全周	4	1	-	電1	-	不明 土師器・須恵器・鉄滓 7世紀前葉	S1107B→本跡 →S102
107B	A-1g5	N-17°-W	[長方形]	[4.31] × 3.87	0~7	平坦	壁溝全周	4	1	-	電1	-	不明 土師器・須恵器 7世紀中葉以前	本跡→S1107A
114A	A-1g9	N-3°-W	方形	4.50 × 4.10	13~22	平坦	壁溝全周	4	1	-	電1	-	自然 土師器・須恵器・ 土製品・鉄製品 7世紀前葉	S1114B→本跡 →S1118
114B	A-1g9	N-2°-W	方形	3.50 × 3.45	5~10	平坦	全周	-	1	-	電1	-	人為 7世紀前葉以前	本跡→ S1114A-118
123	A-Sab	N-42°-E	方形	7.40 × 7.30	15~25	平坦	壁溝全周	3	-	2	炉1	2	人為 土師器・土製品・ 須恵器・石製品 5世紀前葉	
124	A-4c3	N-55°-E	[方形・ 長方形]	[6.55] × [5.70]	0	平坦	-	-	-	2	炉4	1	不明 土師器 5世紀前葉から中葉	本跡→ S1125, SD10
127	Z-4h1	N-44°-W	[方形・ 長方形]	[7.80] × [5.45]	0~5	平坦	-	-	-	2	炉1	-	不明 土師器・須恵器・ 土製品 5世紀前葉から中葉	
132	A-2 Mb	N-16°-W	長方形	7.00 × 6.32	45~54	平坦	全周	4	3	-	電1	-	人為 土師器・須恵器・石器・ 土製品・鉄製品 7世紀前葉	本跡→S1038, PG115, 406
136	A-2 e9	N-20°-W	[内丸・ 長方形]	7.80 × (5.80)	16~28	平坦	全周	4	1	-	電1	-	人為 土師器・須恵器・ 土製品・鉄製品 7世紀前葉以前	S1113C →S1034, 429
140	A-2 e3	N-20°-W	長方形	7.00 × 5.78	22~25	平坦	全周	4	1	-	電2	-	人為 土師器・須恵器・ 土製品・鉄滓 7世紀前葉	本跡→S1035
145	Z-6g7	N-45°-E	方形	5.05 × 4.92	12~21	平坦	全周	4	2	-	炉1	1	人為 土師器 5世紀前葉	
146	Z-65	N-33°-W	長方形	5.19 × 4.35	21~27	平坦	全周	-	-	3	炉1	1	人為 土師器 5世紀前葉	
147	Z-5f1	N-7°-W	[方形・ 長方形]	[5.58] × [5.58]	0	平坦	-	4	-	1	炉1	-	不明 土師器 5世紀代	
148	Z-5e1	N-50°-W	[方形・ 長方形]	[3.40] × (2.90)	10~15	平坦	全周	-	-	1	-	-	人為 土師器 5世紀前葉	
150	Z-5b5	N-17°-W	[方形]	[3.20] × [3.60]	8~15	平坦	-	4	-	2	-	1	不明 土師器 5世紀前葉	

3 奈良・平安時代の遺構と遺物

奈良・平安時代の遺構は、竪穴住居跡37軒、掘立柱建物跡14棟、鍛冶工房跡2基、大形竪穴状遺構1基、溝跡1条、土坑6基が確認された。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第100A号住居跡（第39・40図）

位置 調査区中央部のA-2e9区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第100B号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.50m、短軸3.30mの方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁高は44cmで、直立している。床 平坦で、中央部が硬化している。壁溝が全周している。

龜 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで89cm、袖部幅100cmである。袖部は、床面とほぼ同じ高さの地山の上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面をわずかに掘りくぼめて使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に11cmほど掘り込み、外傾して立ち上がりっている。第3層は天井部の崩落土と考えられる。

電土層解説	
1	褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量
2	灰 色 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック少量
3	褐 灰 色 砂質粘土粒子多量, 烧土粒子・炭化粒子少量
4	暗 赤 褐 色 烧土粒子中量
5	暗 赤 褐 色 烧土粒子中量, 砂質粘土粒子少量
6	黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
7	にふい黄褐色 烧土粒子中量, 砂質粘土粒子少量
8	暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
9	灰 色 砂質粘土粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック少量
10	赤 灰 色 烧土ブロック中量, ロームブロック・砂質粘土粒子少量
11	灰 赤 色 烧土粒子・砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量
12	黒 褐 色 砂質粘土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子少量
13	黒 褐 色 ロームブロック中量, 烧土粒子・砂質粘土粒子少量

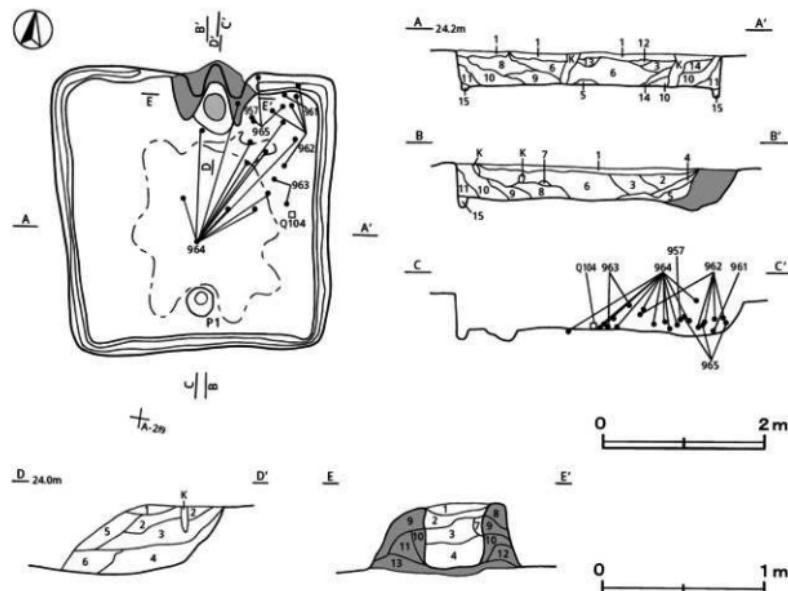
ピット 深さ12cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 15層に分層される。不規則な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

1	暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量
2	黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量
3	黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
4	黒 褐 色 ロームブロック少量, 烧土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
5	灰 黄 褐 色 砂質粘土ブロック少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
6	暗 褐 色 ロームブロック少量, 烧土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量
7	赤 褐 色 烧土ブロック多量
8	黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量
9	にふい黄褐色 ロームブロック少量, 烧土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量
10	暗 褐 色 ローム粒子少量, 砂質粘土ブロック・炭化粒子微量
11	黒 褐 色 ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
12	褐 灰 色 砂質粘土ブロック多量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
13	灰 黄 褐 色 ローム粒子少量
14	暗 褐 色 ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
15	にふい黄褐色 ローム粒子多量, 烧土粒子・炭化粒子微量

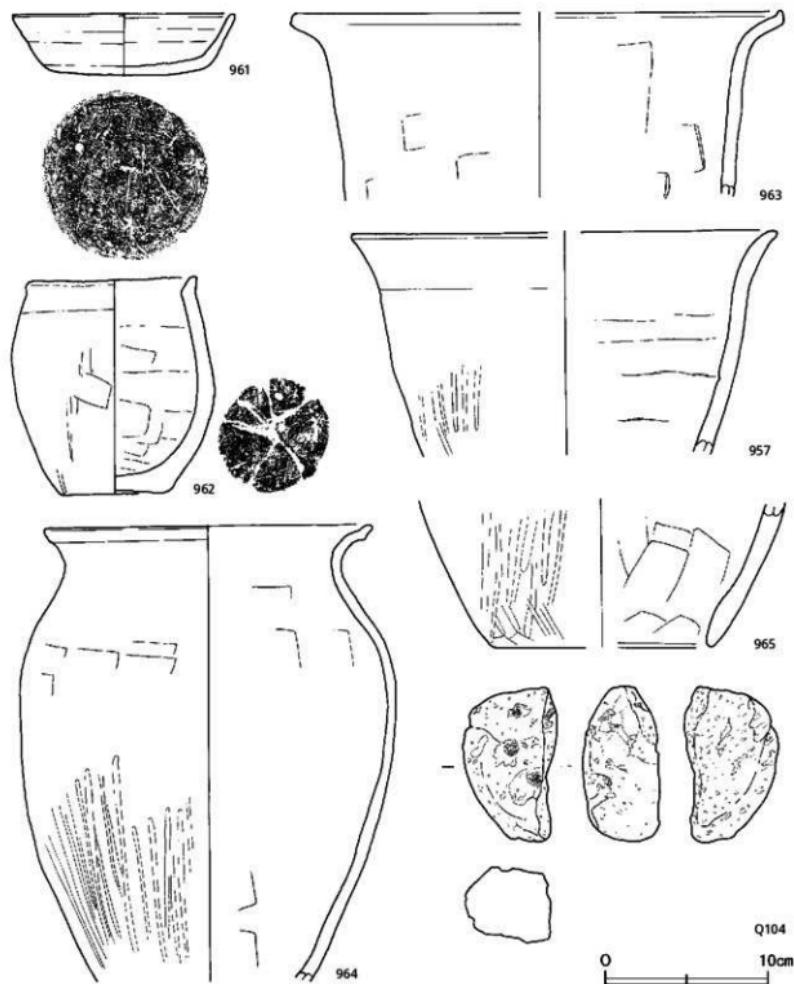
遺物出土状況 土師器片231点(环11, 瓶213, 壺7), 須恵器片11点(环9, 壺類2), 鉄製品1点(不明),



第39図 第100A号住居跡実測図

石製品 1 点（不明）が出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は土器器坏 2 点、甕 6 点、瓶 2 点、須恵器坏 2 点である。土器片は、北東部の覆土上層から床面にかけて集中して出土している。961は、北壁際の床面から逆位で出土している。964は北東部の覆土上層から床面にかけて出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀前葉と考えられる。



第40図 第100A号住居跡出土遺物実測図

第100A号住居跡出土遺物観察表（第40図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	施土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
961	須恵器	壺	13.5	3.8	10.0	長石・石英・ 雲母	褐灰	普通	体部内・外縁口クロナダ 底部一方の手持ちヘラ削り	床面	80% PL31
962	土師器	壺	10.4	13.4	6.7	長石・石英・ 赤色粒子	褐	普通	口縁部内・外縁横ナダ 体部外側ヘラナダ後 ヘラ削り 内側ヘラナダ 底部ヘラナダ	壁土中層～ 上層	70% PL37
963	土師器	壺	[29.8]	(11.4)	-	長石・石英・ 赤色粒子	褐	普通	口縁部内・外縁横ナダ 体部内・外縁ヘラナ ダ削り	壁土上層～ 中層	10%
964	土師器	壺	20.0	(28.0)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部内・外縁横ナダ 体部外側上半ヘラナ ダ 下半ヘラ削り 内側ヘラナダ	壁土上層～ 中層	60% PL39
965	土師器	壺	-	(8.9)	[13.4]	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外側ヘラ削り 体部内・外縁ヘラナダ 削り	壁土中層～下 層	5%
957	土師器	壺	[26.0]	(13.7)	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外縁横ナダ 体部外側上半ヘラナ ダ 下半ヘラ削り 内側ヘラナダ	壁土中層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 104	不明	9.5	5.9	4.8	842	軽石	自然面を残す	壁土下層	

第100B号住居跡（第41図）

位置 調査区中央部のA-2e9区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第100A号住居に掘り込まれている。

確認状況 第100A号住居跡の床下から確認されており、壁溝と竈の配置から規模と形状を推定した。

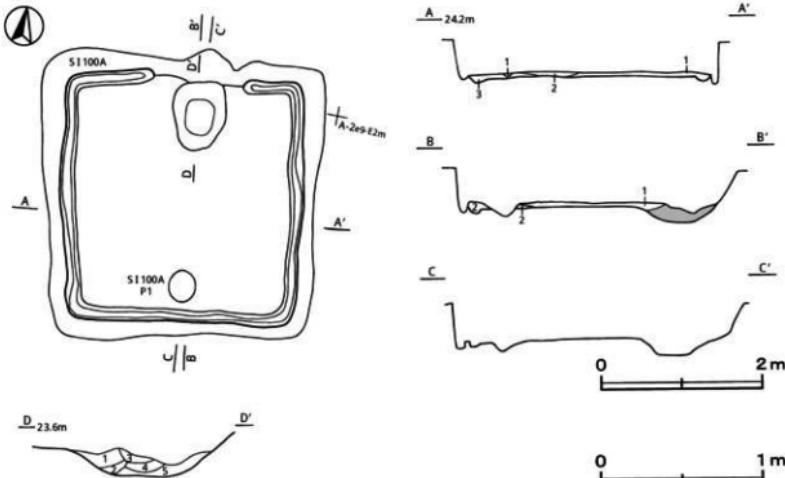
規模と形状 長軸3.08m、短軸3.01mの方形と推定され、主軸方向はN-5°～Wである。

床 平坦で、軟弱である。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。火床部の規模は奥行き85cm、幅54cmである。煙道部・袖部は残存していない。火床部は10cmほど掘りこぼめられており、火床面は残存していない。

竈土層解説

- 1 喀 桃色 焼土ブロック中量、炭化材・砂質粘土ブロック・ローム和少量
- 2 黒 桃色 焼土ブロック少量
- 3 喀 赤 桃色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量、炭化粒子少量
- 4 喀 桃色 焼土ブロック中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量
- 5 喀 赤 桃色 焼土ブロック中量、砂質粘土ブロック・炭化粒子少量



第41図 第100B号住居跡実測図

覆土 3層に分層される。堆積状況は、層厚が薄いため不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子少量

3 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土器片1点(標)、須恵器片1点(標)が出土している。いずれも細片で図示できない。

所見 第100A号住居跡の床下から確認されており、主軸方向がほぼ一致することから、拡張して第100A号住居に建て替えたと考えられる。時期は、重複関係から8世紀前葉以前と考えられる。

第101号住居跡(第42・43図)

位置 調査区中央部のA-2g0区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第20号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.45m、短軸3.30mの方形で、主軸方向はN-85°-Eである。竈北側から北東コーナー部にかけて奥行き50cmほど張り出している。壁高は14~18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が全周している。張り出し部は棚状施設の可能性が考えられる。

竈 2か所。竈1は東壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで85cm、袖部幅125cmである。袖部は、床面とはほぼ同じ高さの地山の上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を20cmほど掘り込み、火床部から外傾して立ち上がっている。竈2の袖部・煙道部は残存していない。火床部の規模は、奥行き85cm、幅65cmで、25cmほど掘りくぼめられている。火床面は残存していない。竈2が残存していないことと、竈1の袖部下から壁溝が確認されていることから、竈2から竈1に作り替えたと考えられる。

竈1土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 反黄褐色 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3 灰褐色 砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック微量
4 黑褐色 炭化粒子微量
5 暗赤褐色 砂質粘土粒子中量、焼土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
6 暗褐色 砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック中量
7 暗褐色 砂質粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
8 黒褐色 砂質粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

9 ぶい赤褐色 砂質粘土ブロック多量、ロームブロック微量
10 ぶい赤褐色 砂質粘土粒子多量、ロームブロック・炭化粒子微量
11 暗赤褐色 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
12 暗褐色 砂質粘土ブロック微量、ローム粒子微量
13 暗褐色 砂質粘土ブロック微量、焼土粒子少量
14 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
15 暗褐色 砂質粘土ブロック微量、焼土ブロック微量
16 暗褐色 焼土粒子、炭化粒子中量
17 暗褐色 砂質粘土ブロック微量、焼土粒子・炭化粒子少量
18 暗褐色 砂質粘土ブロック微量、焼土粒子微量
19 暗褐色 砂質粘土ブロック中量、焼土粒子微量

ピット 3か所。P1は深さ26cmで、南壁下に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P2・P3はそれぞれ深さ17cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 北西コーナー部に位置している。長径86cm、短径46cmの楕円形で、深さは19cmである。底面は平坦で、壁は直立している。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック微量

覆土 16層に分層される。ロームブロックを含む不自然な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

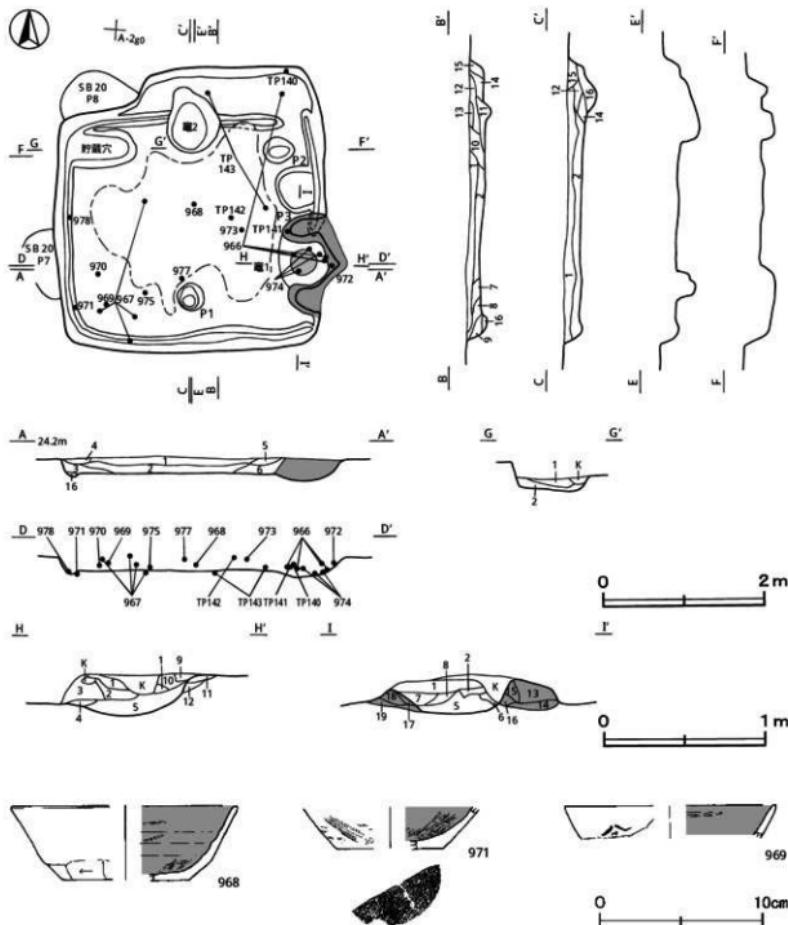
土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色 ロームブロック少量
4 黑褐色 ローム粒子多量
5 暗褐色 砂質粘土・砂質粘土ブロック・ローム粒子少量
6 灰褐色 砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子少量
7 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
8 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

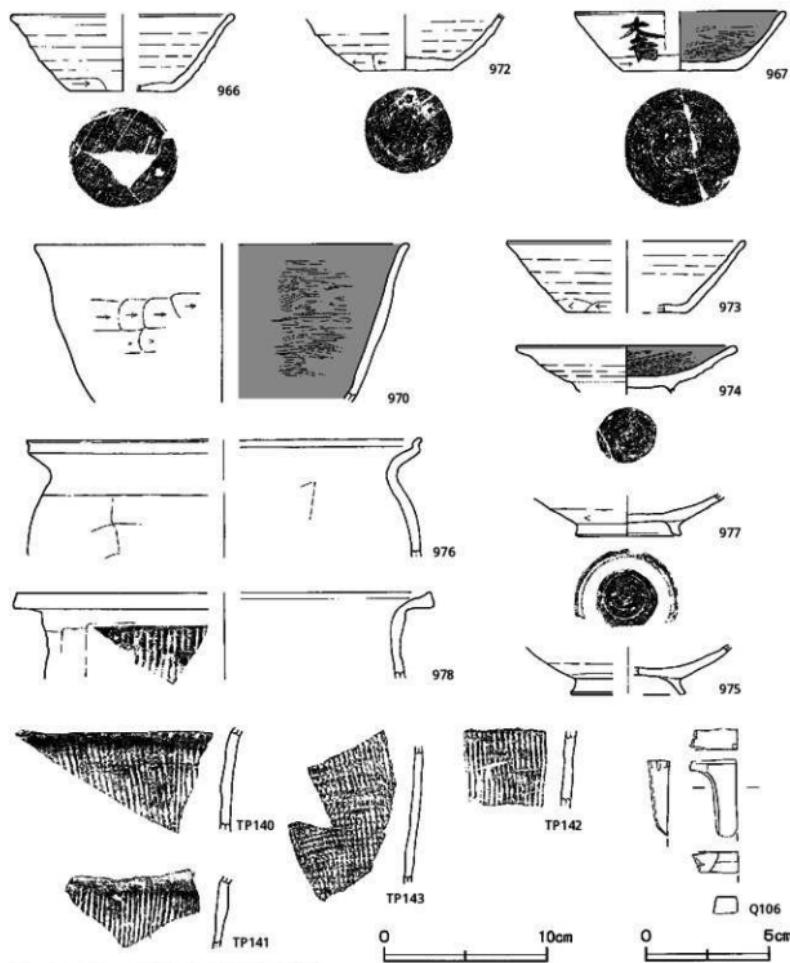
9 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
10 暗褐色 砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
11 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土・炭化粒子少量
12 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土ブロック微量
13 暗褐色 ロームブロック微量、焼土粒子
14 暗褐色 砂質粘土ブロック微量、ロームブロック・焼土粒子
15 暗褐色 ロームブロック中量
16 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片233点（环55, 高台付坏2, 高台付皿4, 鉢1, 橋171）、須恵器片52点（环15, 高台付坏1, 高台付皿1, 蓋1, 盤2, 楊30, 瓶2）、鐵滓6点、石製品1点（硯カ）のほかに、混入した陶磁器片2点、石器（石核）も出土している。口縁部・底部から推測される土器の個体数は土師器坏9点、高台付皿1点、鉢1点、橋3点、須恵器坏5点、高台付坏1点、高台付皿1点、盤1点、蓋2点である。細片が全域から出土している。966・972・974は竈1内の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第42図 第101号住居跡・出土遺物実測図



第43図 第101号住居跡出土遺物実測図

第101号住居跡出土遺物観察表（第42・43図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
966	須恵器	环	[13.4]	4.7	6.3	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	体部内・外表面クロコナメ 外面下半手持ちへラ削り 底部一方向の手持ちへラ削り	埴1 土中	60% PL31
967	土師器	环	[12.8]	3.6	7.1	長石・赤色粒子	褐	普通	体部内・外表面クロコナメ 内面横方向への手持ちへラ削り 底部内側へラ削り	埴1 上層~	70% PL41 大穴
968	土師器	环	[13.6]	4.5	[7.6]	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	体部内・外表面下半手持ちへラ削り 内面横方向への手持ちへラ削り 底部手持ちへラ削り	埴土下層	15%
969	土師器	环	[13.0] (2.0)	-	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外表面クロコナメ 内面横方向のへラ削き	埴土中層	5% PL41 八口
970	土師器	环	[22.8] (9.6)	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外表面下半手持ちへラ削り 内面横方向のへラ削き	埴土下層	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
971	土師器	环	-	(2.6)	[6.4]	石英	灰白	普通	体部内・外側横方向削込み方向のへら削き 底部へら削き	壁溝覆土中	20%
972	須恵器	环	-	(3.4)	5.6	長石・石英、 雲母	赤褐色	普通	外側横・外側面ナダ・外側下手持ちへら削り 底部へら削り	壁・覆土中	30%
973	須恵器	环	[14.6]	4.4	[7.4]	長石・石英、 雲母	黄灰	普通	体部前・底部横口コロナダ・外側下手持ちへら削り 底部へら削り	覆土中層	10%
974	土師器	高台付皿	13.2	(2.8)	-	長石・石英、 雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部前・底部横口コロナダ・外側下手持ちへら削り リ後縁台貼り付け	壁・覆土中	90% PL43
975	須恵器	高台付皿	-	(3.0)	[7.0]	長石・石英、 雲母	灰黄	普通	体部内・外側口クロナダ・底部回転へら削り リ後縁台貼り付け	覆土下層	10%
976	土師器	瓶	[24.0]	(7.2)	-	長石・石英、 雲母	にぶい青	普通	体部内・外側横ナデ 体部内・外側ヘラナ デ	覆土上層	5%
977	須恵器	高台付环	-	(2.5)	6.2	長石・石英、 雲母	にぶい赤褐色	普通	体部前面下端削込みヘラ削り 底部回転ヘラ削 リ後縁台貼り付け	覆土中層	20%
978	須恵器	瓶	[25.4]	(5.4)	-	長石・石英、 雲母	褐灰	普通	体部外側縦位の印き 内面ナダ	壁溝覆土中	5%
TP140	須恵器	鉢	-	(6.1)	-	石英・雲母	褐灰	普通	体部外側縦位の印き	壁溝覆土中	5%
TP141	須恵器	鉢	-	(4.1)	-	長石・石英、 赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部外側縦位の印き	覆土中層	5%
TP142	須恵器	鉢カ	-	(4.8)	-	石英・雲母、 黒色粒子	黄灰	普通	体部外側縦位の印き	覆土上層	5%
TP143	須恵器	鉢カ	-	(8.2)	-	長石・石英、 雲母	にぶい赤褐色	普通	体部外側縦位子状の印き	覆土下層	5% PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q106	碌力	(3.1)	(1.9)	(0.9)	(4.96)	粘板岩	研磨	覆土中	PL47

第102号住居跡（第44・45図）

位置 調査区中央部のA-1b1区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸430m、短軸421mの方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は35~42cmで、直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで100cm、袖部幅130cmである。袖部は、床面とほぼ同じ高さの地山の上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面を8cmほど掘りくぼめており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を18cmほど掘り込み、火床部から外傾して立ち上がりっている。

電土層解説

1	灰	褐	色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量	11	灰	褐	色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量
2	褐	褐	色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量	12	褐	灰	色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子少量
3	暗	赤	褐色	砂質粘土粒子多量、炭化粒子少量	13	暗	赤	褐	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
4	暗	赤	褐色	砂質粘土ブロック・炭化粒子少量	14	暗	赤	褐	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
5	褐	灰	色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量	15	褐	灰	色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子少量
6	褐色	褐色	褐色	砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量	16	灰	褐	色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子微量
7	に	赤	褐色	砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量	17	灰	褐	色	砂質粘土粒子多量
8	に	赤	褐色	砂質粘土粒子中量	18	黑	褐	色	焼土粒子・砂質粘土粒子微量
9	黒	褐	色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量	19	暗	褐	色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
10	灰	褐	色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック微量					

ピット 5か所。P 1~P 4は深さ34~57cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ35cmで、南壁際に位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径100cm、短径72cmの楕円形で、深さは31cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴解説

1	灰	褐	色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量	2	褐	灰	色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量
---	---	---	---	-------------------	---	---	---	---	-----------------

覆土 8層に分層される。レンズ状の堆積状況を示しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

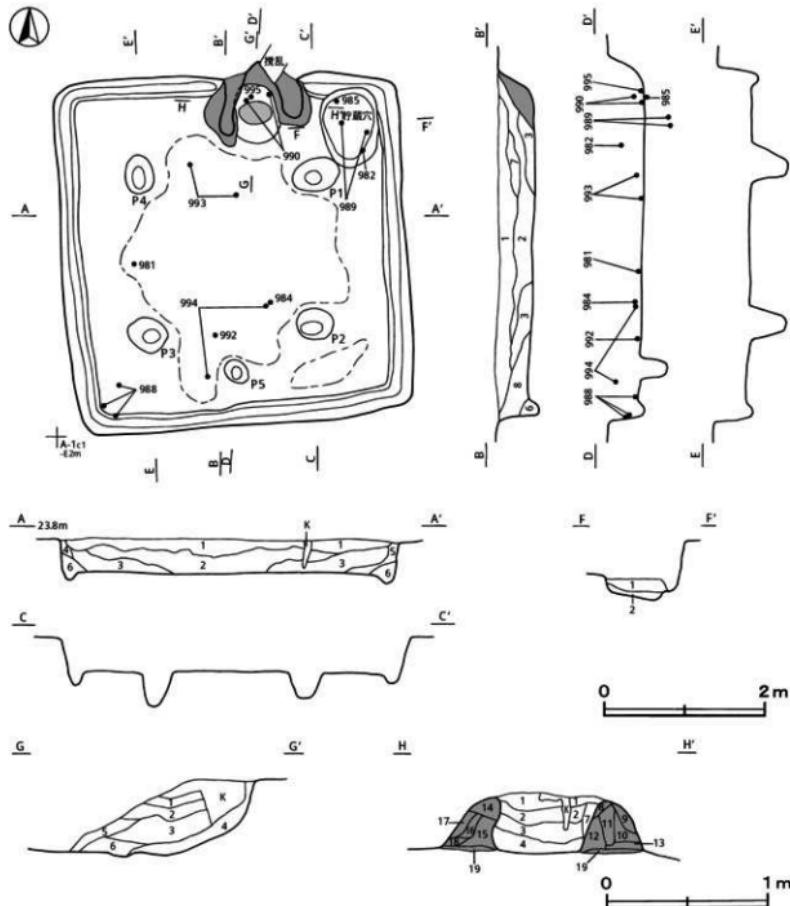
1	黑	褐	色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	3	暗	褐	色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
2	暗	褐	色	ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	4	暗	褐	色	ローム粒子中量、炭化粒子少量

5 黒 極 色 ローム粒子・炭化粒子少量
6 黒 極 色 ロームブロック・炭化粒子少量

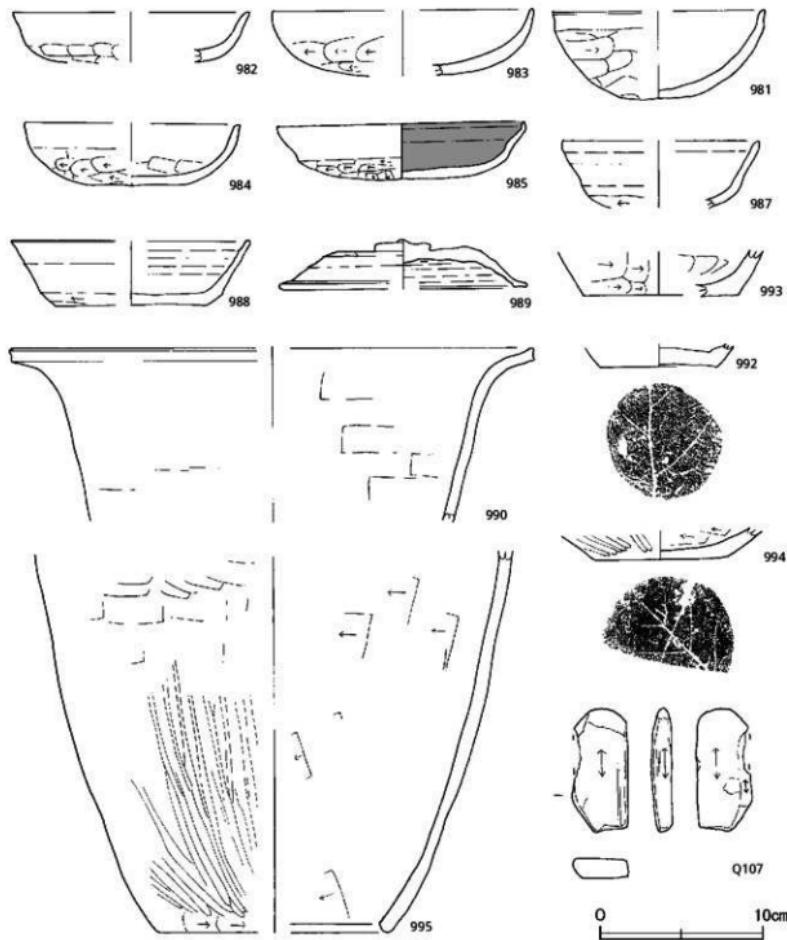
7 單 極 色 ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量
8 黒 極 色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片203点(壺37, 瓢161, 瓶5), 須恵器片34点(壺16, 盖9, 瓢9), 鉄製品3点(不明), 鉄滓1点, 石器1点(磁石)のほかに, 混入した陶磁器片8点, 土師質土器片5点(鍋類)も出土している。口縁部や底部等から推測される土器の個体数は土師器壺9点, 瓢3点, 瓶2点, 須恵器壺5点, 盖3点である。遺物は, 全域の覆土上層から床面にかけて細片で出土している。985・989は貯蔵穴の覆土中から底面にかけて出土した破片が接合したものである。

所見 時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第44図 第102号住居跡実測図



第45図 第102号住居跡出土遺物実測図

第102号住居跡出土遺物観察表（第45図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
981	土師器	环	[12.8]	5.4	-	長石・赤色粒子	褐	普通 内面ナダ	口縁部内・外周横ナダ 体部外側ヘラ削り	覆土下層	20%
982	土師器	环	[14.4]	(30)	-	長石・青母	にふい痕	普通 内面ナダ	外周横ナダ 体部外側ヘラ削り	覆土中層	20%
983	土師器	环	[16.0]	4.0	-	長石・青母・赤色粒子	褐	普通 内面ナダ	口縁部内・外周横ナダ 体部外側ヘラ削り	覆土上層	10%
984	土師器	环	[13.0]	3.8	-	長石・石英・青母・赤色粒子	褐	普通 内面ナダ	口縁部内・外周横ナダ 体部外側ヘラ削り	覆土下層	30%
985	土師器	环	15.0	3.7	-	長石・石英・青母・赤色粒子	にふい痕	普通 内面ナダ	口縁部内・外周横ナダ 体部外側ヘラ削り	野墓穴覆土中	80% PL30
987	須恵器	环	[12.0]	(41)	-	長石・石英	褐	普通 体部内・外周口クロナダ 回転ヘラ削り	覆土上層 - 下層	10%	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
988	須恵器	环	[14.6]	40	[9.1]	瓦石・石英・ 滑石・黒色粒子	灰白	普通	体部内・外側ロクロナデ 外面下端回転ヘラ 削除 瓦石の内側の骨子へ削り	壇土下層 - 底層	50%
989	須恵器	蓋	[15.2]	30	-	瓦石・石英・ 滑石・黒色粒子	にぶい褐	普通	外井戸輪転へ削除後つまみ貼り付け 体部 内・外側ロクロナデ	壇土中層 - 底層	80% PL36
990	土師器	瓶	[32.0]	[10.8]	-	瓦石・石英・ 滑石	橙	普通	口縁部内・外側ロクロナデ 体部内・外側ヘラナ デ	壇土中	5%
992	土師器	瓶	-	(1.4)	7.0	瓦石・石英・ 滑石	灰褐	普通	底部木葉痕	底層	5%
993	土師器	瓶	-	(2.8)	9.3	瓦石・石英・ 滑石	にぶい赤褐	普通	体部外側ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラ 削除	壇土下層	10%
994	土師器	瓶	-	(1.9)	8.0	瓦石・石英・ 滑石	暗赤褐	普通	体部外側ヘラ削り 内面ヘラ削り 底部木葉 痕	壇土中層 - 底層	10%
995	土師器	瓶	-	(23.2)	[13.9]	瓦石・石英・ 滑石・赤色粒子	橙	普通	体部面上半ヘラナデ 下半ヘラ削き 下端 ヘラ削り 内面ヘラ削り	壇土中	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q 107	砥石	7.7	3.5	1.2	(49.7)	砂岩	砥石4面	壇土中	

第103号住居跡 (第46・47図)

位置 調査区中央部のA-1e2, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第345号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸395m, 短軸3.67mの方形で, 主軸方向はN-3°Wである。壁高は32-38cmで, 直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁溝が周全している。

龕 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで115cm, 袖部幅148cmである。袖部は, 地山とほぼ同じ高さの平坦面に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を38cmほど掘り込み, 火床部から外傾して立ち上がっている。

竪土解説

1	暗	褐	色	ロームブロック・砂質粘土ブロック・燒土粒子・ 炭化粒子少量	11	灰	褐	色	砂質粘土ブロック多量, 燃土ブロック少量
2	灰	褐	色	ロームブロック多量, 燃土ブロック微量	12	灰	褐	色	砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・燒土粒 子少量
3	暗	赤	色	ロームブロック・炭化粒子	13	褐	灰	色	砂質粘土ブロック多量, ロームブロック少量
4	暗	赤	色	ロームブロック・砂質粘土ブロック・燒土粒子・ 炭化粒子少量	14	暗	赤	色	砂質粘土ブロック中量, 燃土粒子・炭化粒子少量
5	暗	褐	色	ロームブロック・砂質粘土ブロック・燒土粒子少量	15	暗	褐	色	砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子少量
6	暗	褐	色	ローム粒子中量, 燃土粒子少量	16	暗	褐	色	砂質粘土ブロック中量, ロームブロック少量
7	灰	褐	色	砂質粘土ブロック中量, 燃土粒子少量	17	灰	褐	色	ロームブロック多量, 燃土粒子少量
8	暗	灰	色	砂質粘土ブロック多量, 燃土ブロック少量	18	にぶい	褐	色	ロームブロック中量, 燃土ブロック少量
9	暗	赤	色	砂質粘土ブロック・燒土粒子中量, ロームブロック 少量	19	褐	灰	色	砂質粘土ブロック多量, ローム粒子少量
10	暗	赤	色	炭化粒子中量, 燃土ブロック・砂質粘土ブロック少 量	20	暗	褐	色	砂質粘土粒子多量, ローム粒子中量

ピット 5か所。P 1-P 4は深さ23-48cmで, 規模と配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ28cmで, 南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸118cm, 短軸68cmの不整長方形で, 深さは22cmである。底面は皿状で, 壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土解説

1	暗	褐	色	ローム粒子中量, 燃土粒子・炭化粒子・砂質粘土 粒子少量	3	暗	褐	色	ロームブロック中量, 燃土粒子・炭化粒子・砂質 粘土粒子少量
2	暗	褐	色	ロームブロック中量, 燃土ブロック・炭化粒子・ 砂質粘土粒子少量	4	褐	色	ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量	

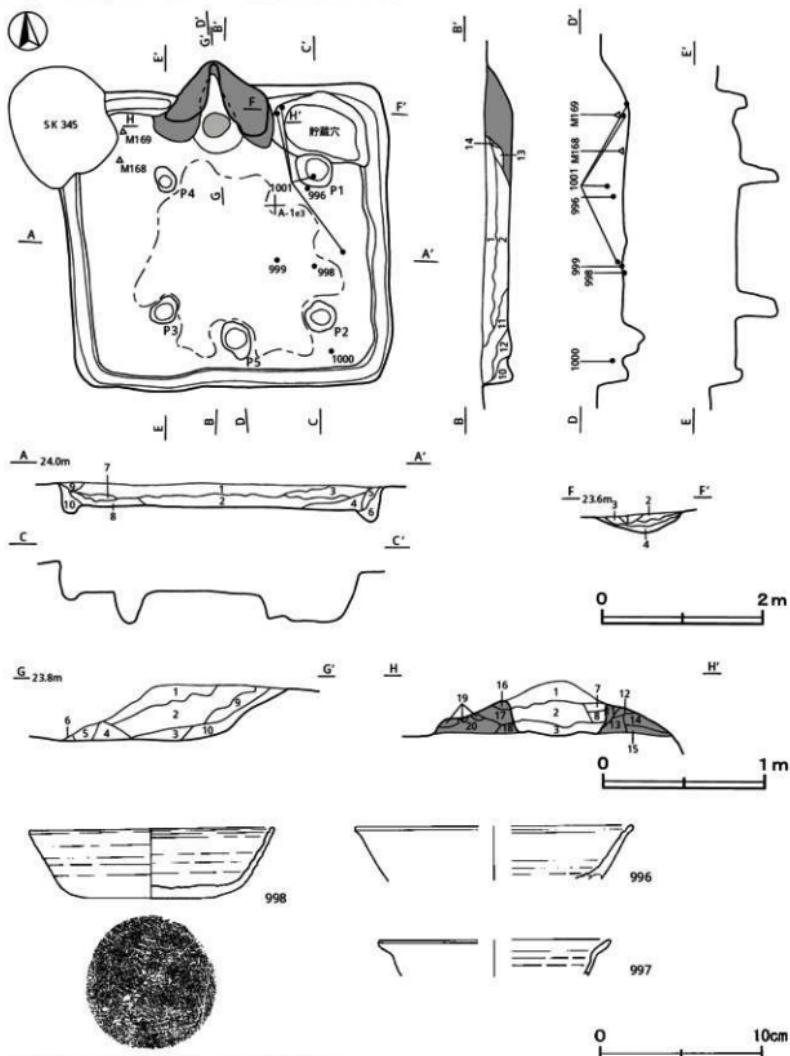
覆土 14層に分層される。レンズ状の堆積状況を示しており, 自然堆積と考えられる。

土層解説

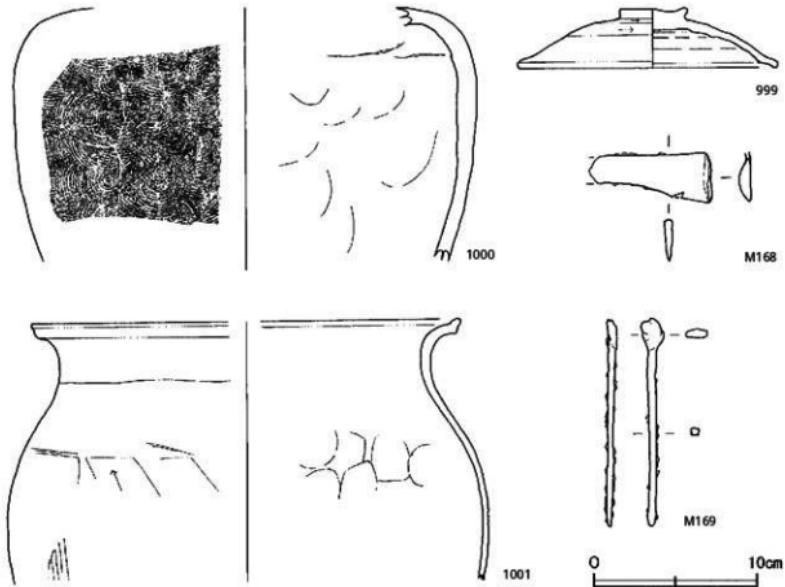
1	暗	褐	色	ロームブロック中量, 燃土粒子・炭化粒子少量	8	黒	褐	色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
2	暗	褐	色	ロームブロック中量, 燃土粒子・炭化粒子少量	9	褐	褐	色	ローム粒子多量
3	暗	褐	色	ロームブロック少量, 燃土粒子微量	10	褐	褐	色	ローム粒子中量
4	暗	褐	色	ロームブロック・燃土粒子少量	11	暗	褐	色	ロームブロック少量, 燃土粒子微量
5	暗	褐	色	ロームブロック中量	12	暗	褐	色	ローム粒子少量
6	暗	褐	色	ロームブロック多量	13	褐	褐	色	ロームブロック中量, 砂質粘土ブロック少量
7	暗	褐	色	ロームブロック少量	14	灰	褐	色	砂質粘土ブロック中量, ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片159点（壺13、甕146）、須恵器片27点（壺13、蓋9、壺類1、甕4）、鉄製品3点（鎌、鏨、不明）が出土している。口縁部や底部などから推測される土器の個体数は、土師器壺1点、甕5点、須恵器壺5点、蓋2点、壺類1点である。998・999は床面からほぼ完形の状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第46図 第103号住居跡・出土遺物実測図



第47図 第103号住居跡出土遺物実測図

第103号住居跡出土遺物観察表（第46・47図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
996	須恵器	环	[17.0]	(3.3)	-	墨石・石英、 青色・淡褐色の子 鉢字・自然骨付	にぶい壁	普通	口縁部内面沈線 体部内・外側口クロナデ	覆土下層	10%
997	須恵器	环	[14.2]	(2.2)	-	墨石・石英・莫色 鉢字・自然骨付	暗灰	普通	体部内・外側口クロナデ	覆土中層	5%
998	須恵器	环	14.9	4.3	8.0	墨石・石英・ 青色・黑色の子 鉢字・黑色の子	灰	普通	口縁部内面沈線 体部内・外側口クロナデ 底部一方向の手持ちラ削り	床面	95% PL31
999	須恵器	壺	15.8	3.7	-	墨石・石英・ 青色	灰黒褐	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け 体部 内・外側口クロナデ	床面	90% PL36
1000	須恵器	壺類	-	(15.5)	-	墨石・石英・ 青色	褐灰	普通	体部外側同心円状の叩き 内面当て具痕	覆土中層	5%
1001	土師器	壺	[26.2]	(16.0)	-	長石・石英・ 青色	にぶい壁	普通	口縁部・横断内・外側口クロナデ 体部外面上半 ヘラ削り 下半へラ削き 内面粗造仕面	覆土下層～ 床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M168	壺	(75)	3.2	0.4	(18.3)	鉄	基部全面折り曲げ 直刃カ	覆土下層	PL48
M169	壺	129	1.5	0.5	(8.9)	鉄	閉不明 顯身欠損	覆土中層	PL48

第104号住居跡（第48・49図）

位置 調査区中央部のA-1b4区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第22号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 北部は調査区域外に延びているため、東西軸は4.04mで、南北軸は3.52mだけが確認されている。

平面形は方形もしくは長方形と推測され、南北方向はN-15°-Eである。壁高は16-20cmで、直立している。

床 平坦で、中央部から南壁際にかけて踏み固められている。確認できた範囲では、壁溝が全周している。

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ32～34cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ28cmで南壁下に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 29層に分層される。ブロック状の堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

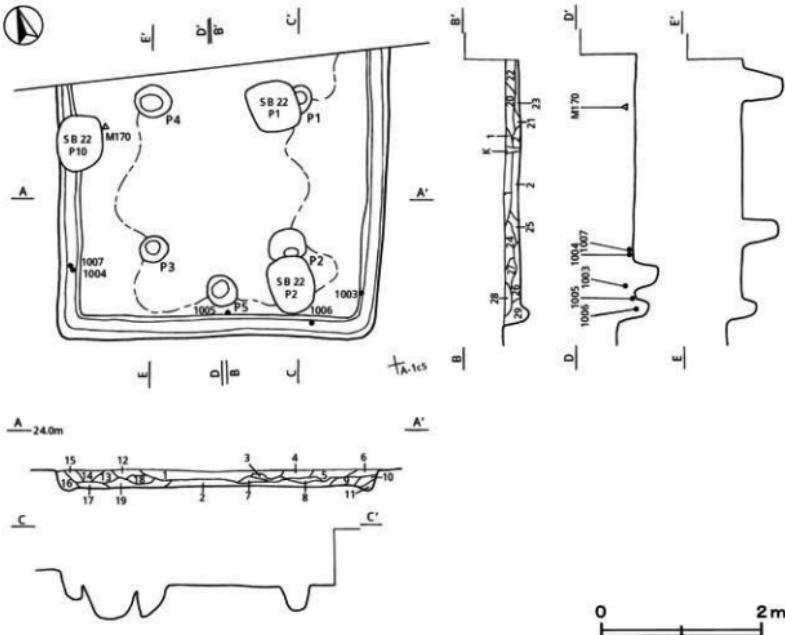
土層解説

1	褐	色	ロームブロック多量	15	黒	褐	色	ロームブロック・焼土粒子中量
2	黒	褐	ロームブロック・焼土粒子中量	16	暗	褐	色	ロームブロック多量、焼土粒子中量
3	暗	褐	ロームブロック中量	17	黒	褐	色	ロームブロック少量
4	暗	褐	ロームブロック多量、炭化粒子少量	18	暗	褐	色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
5	暗	褐	ロームブロック中量、炭化材・焼土粒子少量	19	暗	褐	色	ロームブロック・炭化材・焼土粒子少量
6	黒	褐	ロームブロック少量	20	暗	褐	色	ローム粒子中量、焼土粒子少量
7	黒	褐	ロームブロック中量、炭化粒子少量	21	黒	褐	色	ローム粒子・焼土粒子少量
8	黒	褐	ロームブロック多量、炭化粒子少量	22	黒	褐	色	ロームブロック・焼土粒子少量
9	褐	色	ロームブロック中量	23	灰	褐	色	ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子少量
10	黒	褐	ロームブロック中量	24	褐	色	色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
11	暗	褐	ロームブロック多量	25	暗	褐	色	ロームブロック中量、焼土粒子少量
12	暗	褐	ロームブロック多量、焼土粒子微量	26	暗	褐	色	ロームブロック・焼土粒子少量
13	黒	褐	ロームブロック中量、焼土粒子少量	27	黒	褐	色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
14	暗	褐	ロームブロック中量、焼土粒子微量	28	暗	褐	色	ローム粒子中量
				29	暗	褐	色	ローム粒子少量

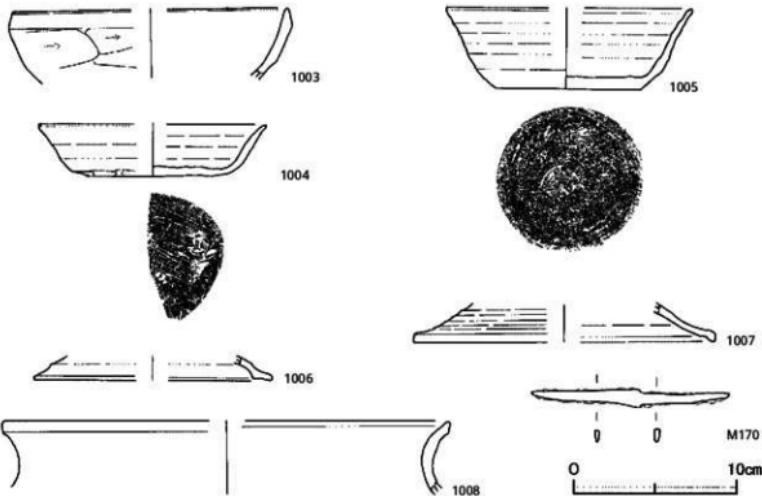
遺物出土状況 土器片49点（坏7, 瓢41, 瓶1）、須恵器片6点（坏2, 蓋3, 瓶1）、鉄製品1点（刀子）、石器1点（不明）が出土している。口縁部や底部などから推測される土器の個体数は、土器片坏2点、瓢2点、瓶1点、須恵器坏2点、蓋3点である。土器片は、南部を中心に覆土上層から床面にかけて出土している。

1004・1007は西壁溝の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第48図 第104号住居跡実測図



第49図 第104号住居跡出土遺物実測図

第104号住居跡出土遺物観察表（第49図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1003	土器器	环	[16.8]	(44)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい黄	普通	口縁部内・外表面模ナデ 体部外側ヘラ削り	覆土下層	10%
1004	須恵器	环	[13.8]	32	[8.0]	長石・石英・ 黒色粒子	灰白	普通	体部内・外表面クロコナデ 外面下端手持ちへラ削り 底面一方向の手持ちへラ削り	須塵土中	35%
1005	須恵器	环	[14.9]	5.0	8.9	長石・石英・ 黒色粒子	にぶい黄	普通	体部内・外表面クロコナデ 底部回転ヘラ削り 底面一方向の手持ちへラ削り	底面	70% PL31
1006	須恵器	直	[14.4]	(15)	-	長石・石英・ 黒色粒子	黄灰	普通	体部内・外表面クロコナデ	覆土下層	5%
1007	須恵器	直	[18.4]	(2.4)	-	長石・石英・ 黒色粒子	にぶい黄	普通	体部内・外表面クロコナデ	須塵土中	5%
1008	土器器	直	[27.4]	(45)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい黄	普通	口縁部内・外表面模ナデ	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M170	刀子	122	1.1	0.3	8.3	鉄	両面	覆土下層	PL48

第105号住居跡（第50・51図）

位置 調査区中央部のA-1d5区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第24号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.73m、短軸2.67mの方形で、主軸方向はN-4°-Eである。壁高は9~16cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が南東コーナー部を除いて周回している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで50cm、袖部幅87cmである。袖部は、掘り残した地山を基部にして、その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は、床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用している。火床面は残存していない。煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。

電土層解説

1	暗	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック・炭化粒子微量	5	暗	褐	色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量
2	褐	色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	6	灰	黄	褐	色	砂質粘土粒子極多量、ロームブロック・焼土・炭化粒子微量
3	暗	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	7	灰	褐	色	砂質粘土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子少量
4	灰	褐	色	砂質粘土ブロック多量、焼土粒子少量、ロームブロック微量	8	褐	灰	色	砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック・炭化物少量

ピット 2か所。P 1は深さ23cmで、南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P 2は深さ16cmで、性格は不明である。

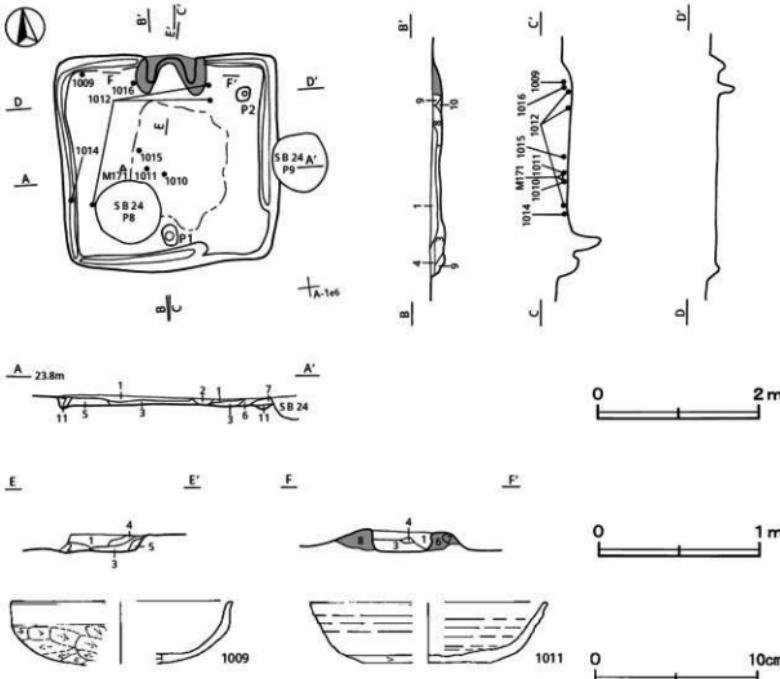
覆土 11層に分層される。不自然な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

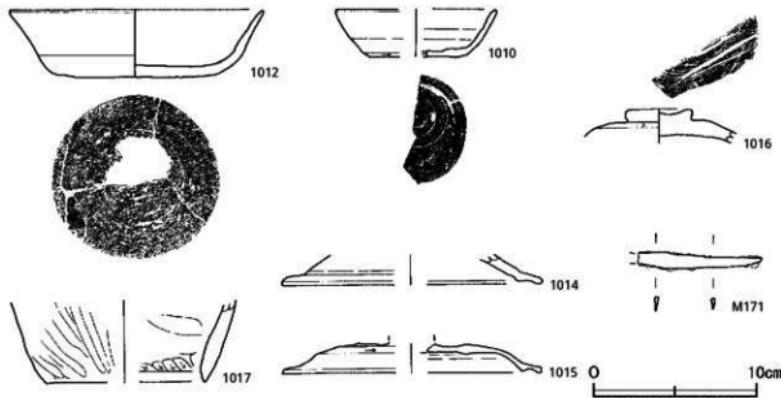
1	暗	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	7	黒	褐	色	炭化粒子中量、ロームブロック少量
2	褐	色	ロームブロック・焼土粒子少量	8	暗	褐	色	ロームブロック・焼土粒子少量	
3	暗	褐	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	9	褐	色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	
4	黒	褐	色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量	10	褐	色	ローム粒子多量	
5	褐	色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	11	褐	色	ローム粒子中量		
6	褐	色	ローム粒子多量、焼土粒子少量						

遺物出土状況 土器片25点(壺8, 瓢16, 瓶1), 須恵器片14点(壺9, 蓋5), 鉄製品1点(刀子)が出土している。口縁部や体部等から推測される土器の個体数は、土器片2点、壺1点、須恵器片5点、蓋3点である。1010は中央部の床面から出土している。1012は全域の覆土下層から床面にかけて散在して出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第50図 第105号住居跡・出土遺物実測図



第51図 第105号住居跡出土遺物実測図

第105号住居跡出土遺物観察表（第50・51図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1009	土器	环	[13.4]	[3.8]	-	長石・石英・赤色粘子	青褐色	普通	口部内・外側横ナデ 体部外側ヘラ削り 内側ナデ	層土下層	20%
1010	須恵器	环	[9.8]	2.9	[5.4]	長石・石英・黒色粘子	黄灰	普通	体部内・外側口クロナデ 外側下端・底部回転ヘラ削り	床面	40% PL31
1011	須恵器	环	[14.6]	3.7	[7.6]	長石・石英・青石・赤色粘子	にぶい赤褐	普通	体部内・外側口クロナデ 外側下端・底部回転ヘラ削り	層土下層	20%
1012	須恵器	环	15.0	4.2	10.0	長石・石英・赤色粘子	灰白	普通	体部内・外側口クロナデ 底部回転ヘラ削り	層土下層～底面	80% PL31
1014	須恵器	蓋	[16.0]	[1.8]	-	長石・石英・青母	暗灰青	普通	体部内・外側口クロナデ	床面	5% 1016と同一個体か
1015	須恵器	蓋	[15.8]	[1.8]	-	長石・石英・黒色粘子	灰	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け 体部内・外側口クロナデ	層土下層	20%
1016	須恵器	蓋	-	(2.1)	-	長石・石英・青石・赤色粘子	暗灰青	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け 体部内・外側口クロナデ	層土下層	20% 転用歴カ
1017	土器	瓶	-	(5.0)	[9.8]	長石・石英・青石・赤色粘子	にぶい黄褐	普通	内側ヘラ削き	層土中層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M171	刀子	(7.8)	1.1	0.3	(4.0)	鉄	刃部欠損 開不明	層土下層	

第106A号住居跡（第52・53図）

位置 調査区中央部のA-1e6区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第106B号住居跡を掘り込み、第24号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.41m、短軸3.85mの長方形で、主軸方向はN-5°-Eである。壁高は7cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

窓 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで79cm、袖部幅115cmである。袖部は砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており、火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。

電土層解説

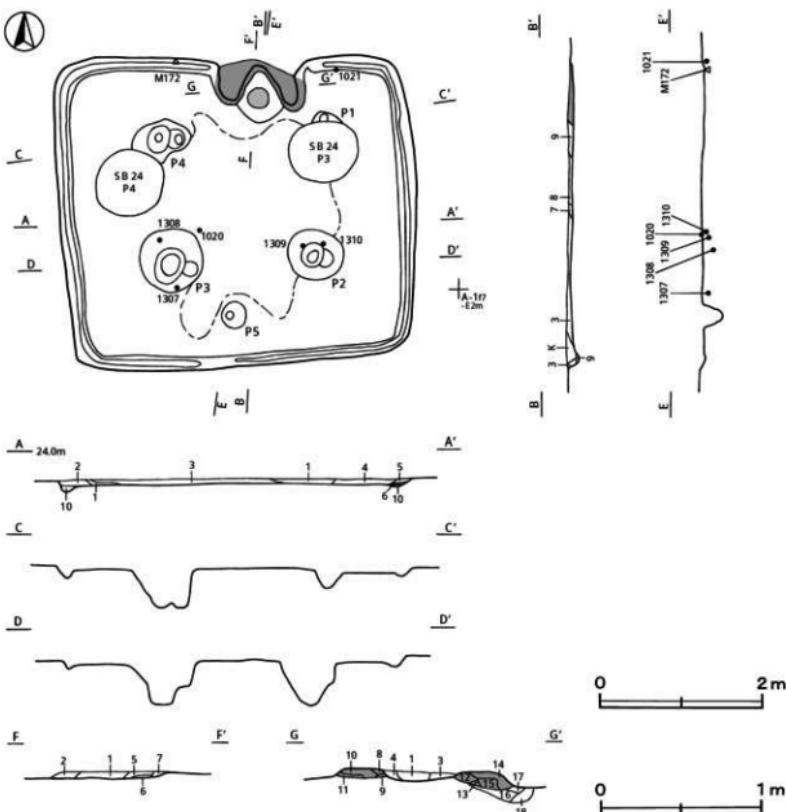
1	暗褐色	焼土粒子多量，炭化粒子少量	10	褐	灰	色	砂質粘土 ブロック多量，焼土ブロック少量
2	暗赤褐色	焼土ブロック少量	11	褐			ローム粒子中量，砂質粘土ブロック少量
3	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量	12	にじみ	褐色	色	砂質粘土 ブロック中量，焼土ブロック少量
4	赤褐色	焼土粒子中量	13	褐	灰	色	砂質粘土 ブロック多量，焼土粒子少量
5	暗赤褐色	焼土ブロック中量	14	褐	灰	色	砂質粘土 ブロック多量
6	暗赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子少量	15	暗赤	褐	色	砂質粘土 ブロック中量，焼土ブロック少量
7	暗褐色	ローム粒子，焼土粒子少量	16	黒	褐	色	砂質粘土 ブロック・焼土粒子中量
8	灰色	砂質粘土ブロック多量，焼土粒子少量	17	灰	褐	色	砂質粘土 ブロック多量，焼土粒子少量
9	褐色	ローム粒子多量，焼土粒子微量	18	暗赤	褐	色	ロームブロック・焼土粒子少量

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ22～52cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ27cmで、南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 10層に分層される。堆積状況は、層厚が薄いため不明である。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	4	黒	褐	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	にじみ褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量	5	黒	褐	色	ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	6	暗	褐	色	ロームブロック微量



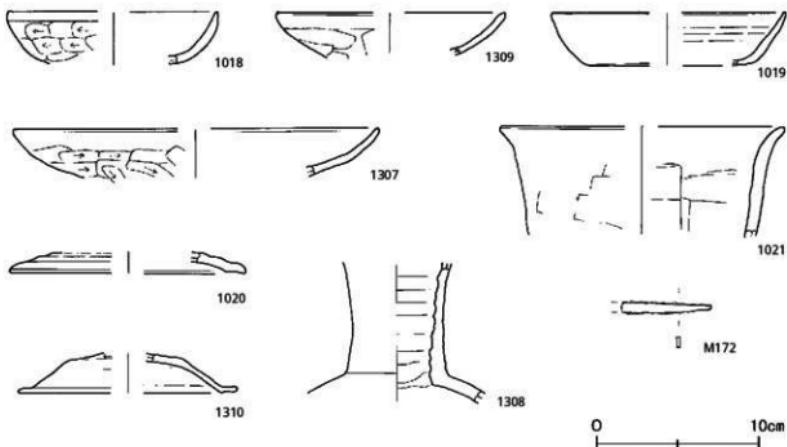
第52図 第106A号住居跡実測図

7 灰褐色 砂質粘土ブロック多量、ロームブロック少量
 8 黒褐色 砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

9 灰褐色 砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
 10 噴褐色 ロームブロック少量化

遺物出土状況 土師器片131点(环14, 瓶115, 盖2), 須恵器片17点(环6, 盖5, 瓶4, 直1, 横瓶1), 土製品1点(支脚), 鉄製品1点(刀子)のほかに, 混入した土師質土器片3点(鍋類)も出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は, 土師器环4点, 瓶2点, 盖1点, 須恵器环1点, 盖3点, 横瓶1点である。土器片は, 細片が全域から出土している。1307・1308はP3, 1309・1310はP2の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第53図 第106A号住居跡出土遺物実測図

第106A号住居跡出土遺物観察表(第53図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	結成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1018	土師器	环	[12.8]	(3.1)	-	青白・赤色粒子	ぶい裏	普通	口縁部内・外表面横ナデ 体部外側ヘラ削り	覆土中	5%
1019	須恵器	环	[14.4]	32	[9.6]	長石・石英・ 滑母	灰	普通	体部内・外表面クロカナデ 底部回転ヘラ削り	P1 覆土中	5%
1020	須恵器	蓋	[14.6]	(1.3)	-	長石・石英・ 滑母	灰黄	普通	体部内・外表面クロカナデ	底面	5%
1021	土師器	蓋	[17.4]	(6.6)	-	長石・石英・ 滑母	橙	普通	口縁部内・外表面横ナデ 体部内・外側ヘラナ デ	底面	5%
1307	土師器	环	[22.4]	(2.9)	-	長石・石英・ 赤色粒子	灰白	普通	口縁部内・外表面横ナデ 体部外側ヘラ削り	P3 覆土中	10%
1308	須恵器	横瓶	-	(8.7)	-	長石・石英・ 滑母	灰白	普通	腰部内・外表面クロカナデ後下端貼り付け	P3 覆土中	20%
1309	土師器	环	[13.8]	(2.6)	-	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外表面横ナデ 体部外側ヘラ削り	P2 覆土中	10%
1310	須恵器	蓋	[13.4]	(2.4)	-	長石・石英・ 滑母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り 体部内・外表面クロカナ デ	P2 覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M172	刀子	(5.8)	0.7	0.2	(3.9)	鉄	刃部欠損 開不明	壁溝覆土中	

第106B号住居跡（第54・55図）

位置 調査区中央部のA-1e6区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第106A号住居、第24号掘立柱建物に掘り込まれている。

確認状況 第106A号住居跡の床下から確認されており、壁溝と竈の配置から規模と形状を推定した。

規模と形状 長軸4.25m、短軸3.70mの長方形と推定され、主軸方向はN-87°-Wである。壁高は6-15cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が北壁を除いて周回している。

竈 西壁のやや北寄りに付設されている。火床部の規模は、奥行き85cm、幅123cmである。煙道部・袖部は残存していない。火床部は床面を30cmほど掘りくぼめられており、火床面は残存していない。

竈土層解説

- 1 赤 黒 色 燃土ブロック・砂質粘土ブロック中量
- 2 赤 黒 色 燃土粒子中量、砂質粘土ブロック少量
- 3 黒 色 ロームブロック中量

- 4 黒 黑 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 5 黒 黑 色 ロームブロック少量

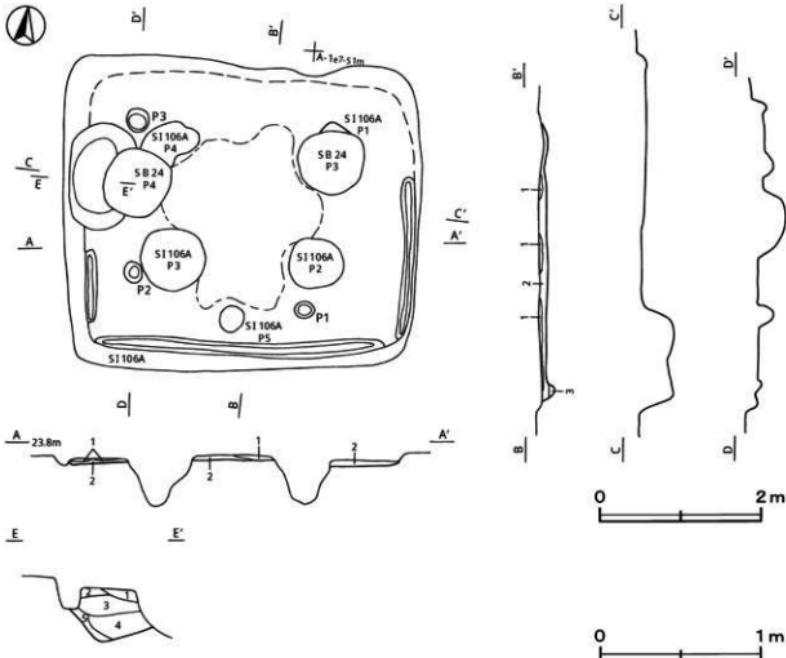
ピット 3か所。P1-P3は、深さ12-23cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。

覆土 3層に分層される。堆積状況は、層厚が薄いために不明である。

土層解説

- 1 黒 黑 色 ロームブロック少量
- 2 黑 色 ローム粒子中量

- 3 黑 色 ローム粒子多量

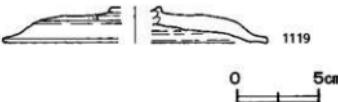


第54図 第106B号住居跡実測図

遺物出土状況 土器片26点(环6, 瓢20), 須恵器片5点(环2, 盖1, 瓢2)が出土している。口縁部や底部などから推測される土器の個体数は、蓋1点である。1119は瓢の覆土中から出土している。

所見 第106A号住居跡の床下から確認されており,

規模と形状がほぼ一致することから、本住居から第106A号住居に建て替えたと考えられる。時期は、出土土器及び重複関係から8世紀前葉以前と考えられる。



第55図 第106B号住居跡出土遺物実測図

第106B号住居跡出土遺物観察表(第55図)

番号	種別	種類	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1119	須恵器	蓋	[162]	22	-	長石・石英・ 骨粉	灰白	普通	体側内・外側白クロナガ、天井部回転ヘラ削 つまみ足取り付け	覆土中	10%

第109号住居跡(第56図)

位置 調査区中央部のA-113区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第257・258号土坑を掘り込み、第21号掘立柱建物、第251号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部が調査区域外に延びているため、東西軸は4.00mで、南北軸は2.48mだけが確認されている。

平面形は方形もしくは長方形と推測され、南北軸方向はN~0°である。壁高は20~30cmで、直立している。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。確認された範囲では、壁溝が全周している。竈周辺と東壁際に焼土と炭化材が確認されている。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。北部を第21号掘立柱建物に掘り込まれているため、残存する範囲は焚口部から煙道部まで67cm、袖部幅67cmである。袖部は掘り残した地山を基部にして、その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は不明である。煙道部は壁外に10cmだけが確認されている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------------|--------|--------------------------------|
| 1 にぶ赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 5 噴赤褐色 | 焼土粒子中量、砂質粘土ブロック少量 |
| 2 噴赤褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 噴赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 噴赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量 | | |

ピット 2か所。深さ30~48cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。

覆土 20層に分層される。ブロック状の堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

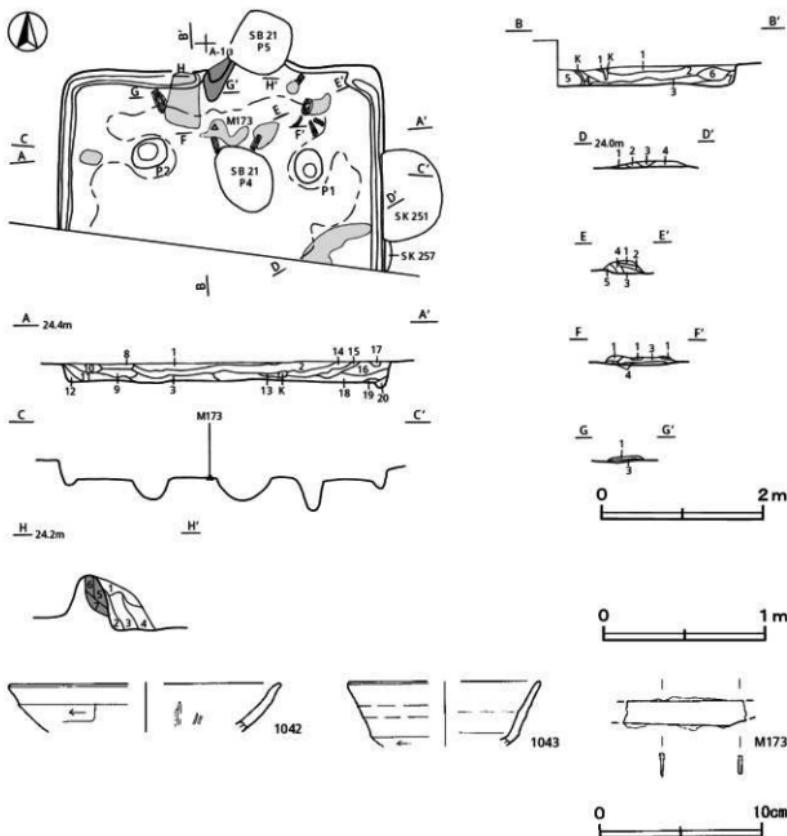
- | | | | |
|--------|------------------------------|---------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量 | 11 噴赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量 |
| 2 噴褐色 | ロームブロック多量 | 12 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 | 炭化材・焼土粒子中量、ロームブロック少量 | 13 灰褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 14 黑褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 15 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 6 噴褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 16 噴褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 7 噴赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量、炭化粒子少量 | 17 黑褐色 | ローム粒子少量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 18 噴褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 9 噴褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量 | 19 噴褐色 | 焼土粒子多量、ロームブロック少量 |
| 10 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量 | 20 噴褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 |

焼土土層解説(共通)

- | | | | |
|-------|----------------------|------|-----------------------|
| 1 赤褐色 | 焼土ブロック多量 | 4 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 炭化材・ローム粒子中量、焼土ブロック少量 | 5 黒色 | 炭化材多量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片26点(坏13, 残13), 須恵器片6点(坏3, 残3), 鉄製品1点(刀子)が出土している。口縁部や体部などから推定される土器の個体数は土師器坏1点, 須恵器坏1点である。土器片は覆土中から散在して出土している。

所見 床面から焼土と炭化材が確認されており, 焼失住居であると考えられる。出土土器はいずれも埋め戻しに伴う混入と考えられる。時期は, 出土土器から8世紀以前と考えられる。



第56図 第109号住居跡・出土遺物実測図

第109号住居跡出土遺物観察表(第56図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1042	土師器	坏	[16.6]	(2.9)	-	長石・石英	にぶい	普通	口縁部内・外側横ナデ 体部外側ヘラ削り	覆土中	5%
1043	須恵器	坏	[11.8]	(4.1)	-	長石・石英・ 雲母	薄灰	普通	口縁部内・外側横ナデ 体部外側ヘラ削り 外面下端回転ヘラ削り?	覆土中	5%

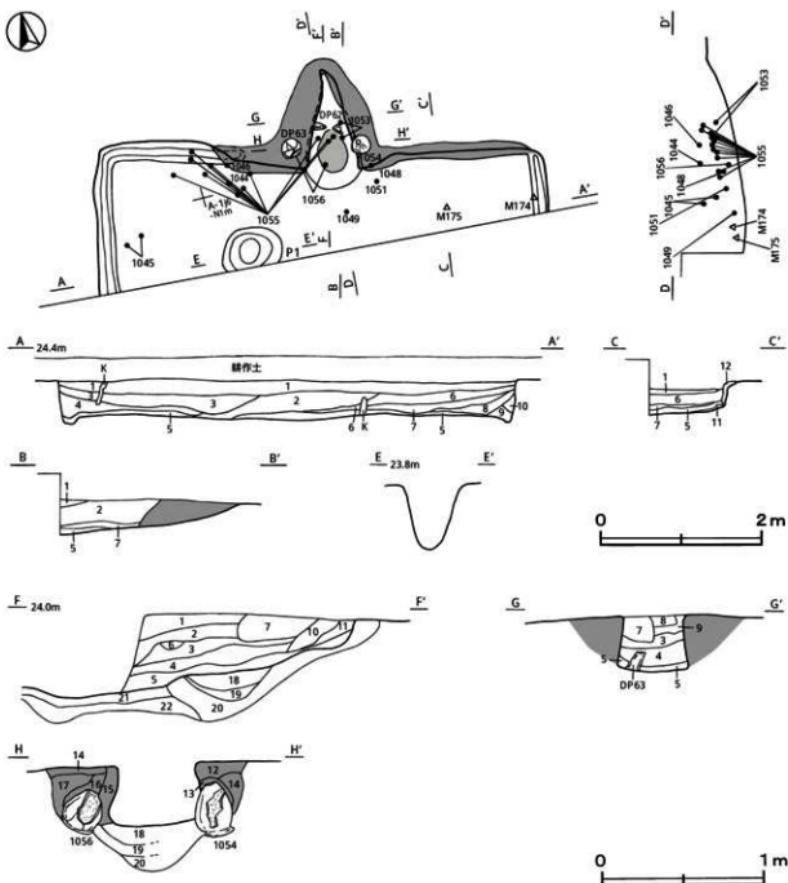
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M173	刀子	(7段)	1.5	0.3	(11.4)	鉄	刃部・茎部欠損 刃面カ	床面	

第110A号住居跡（第57～60図）

位置 調査区中央部のA-1/6区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第110B号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が調査区域外に延びているため、東西軸は5.55mで、南北軸は1.70mだけが確認されている。



第57図 第110A号住居跡実測図

平面形は方形もしくは長方形と推測され、南北軸方向はN-13°Eである。壁高は45cmほどで、直立している。床平坦で、明瞭な硬化面は確認できない。壁溝が周回している。

龕 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部までが163cm、袖部幅130cmである。袖部はほぼ完成の土師器各1点を心材にして、その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面を20cmほど掘り下げた後に、灰褐色土で埋めて使用しており、火床面は火熱を受けて赤変化している。煙道部は壁を110cmほど掘り込み、火床部から緩やかに立ち上がり端部で直立している。

土壌層解説

1 暗 褐 色	ロームブロック少量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量	11 暗 褐 色	焼土ブロック・ローム粒子少量
2 褐 灰 色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	12 灰 褐 色	焼土ブロック・炭化粒子微量
3 暗 褐 色	砂質粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	13 暗 褐 褶	焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量
4 暗 褐 色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	14 灰 褐 色	砂質粘土粒子多量
5 黒 褐 色	砂質粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	15 にら 有機色	焼土粒子中量、砂質粘土ブロック・炭化粒子微量
6 暗 赤 褐 色	焼土粒子中量、ロームブロック少量	16 灰 褐 色	砂質粘土ブロック中量、焼土粒子・焼土ブロック少量
7 灰 褐 色	砂質粘土ブロック多量、ローム粒子少量	17 暗 褐 褶	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック少量
8 にら 有機色	砂質粘土ブロック・焼土粒子中量	18 暗 褐 褶	焼土ブロック多量
9 暗 赤 褐 色	砂質粘土粒子中量	19 灰 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
10 赤 褐 色	焼土粒子中量、ローム粒子・砂質粘土粒子少量	20 灰 褐 色	ローム粒子中量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量
		21 灰 褶	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化物・砂質粘土粒子少量
		22 暗 褶	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量

樅状施設 龕の両側に設けられている。上面が削平されており、壁に貼られた粘土の範囲から樅状施設と推定した。粘土範囲の規模は、龕の東側で幅185cm、西側で幅80cm、厚さ8~12cmである。

ピット 深さ86cmで、規模や配置から主柱穴の可能性も考えられるが性格は不明である。

覆土 12層に分層される。各層にロームブロック・焼土ブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土壌層解説

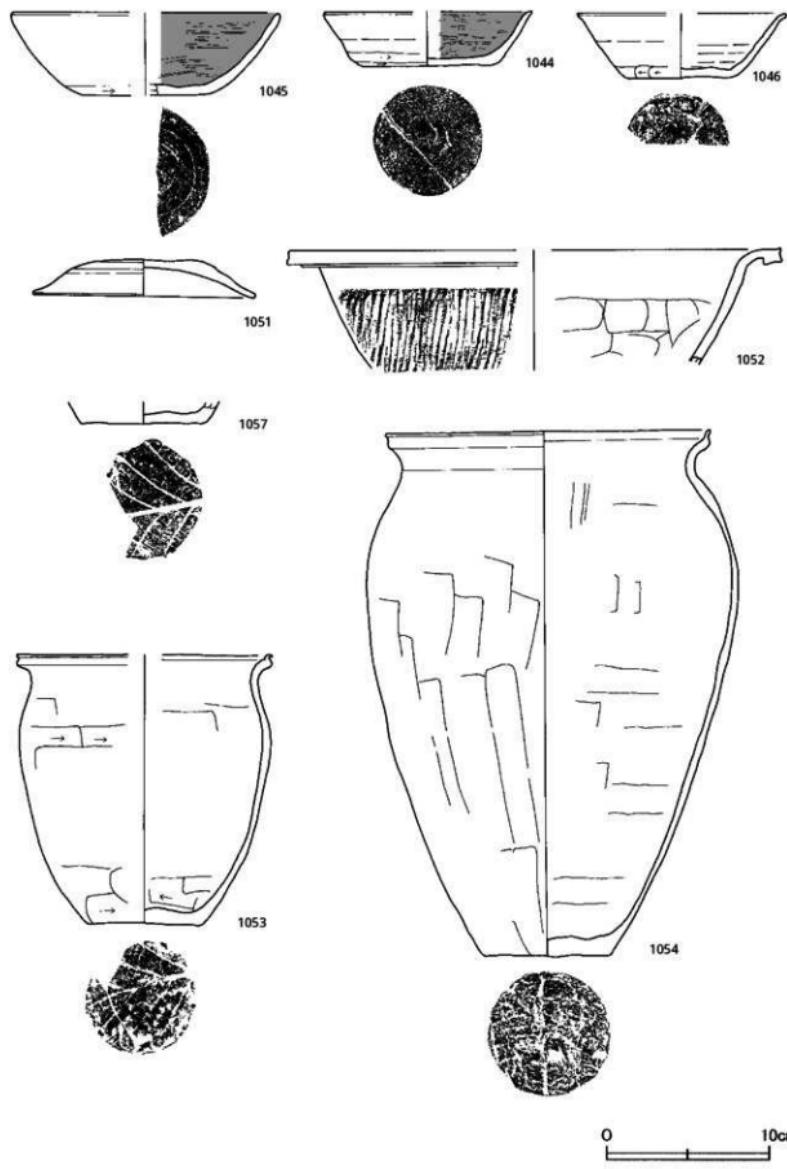
1 暗 褐 色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	7 暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量	8 黒 褐 色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量
3 暗 褶 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	9 黑 褶	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
4 黒 褶 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	10 黑 褶	ローム粒子多量
5 黑 褶 色	ローム粒子中量、焼土粒子少量	11 黑 褶	焼土ブロック少量
6 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	12 灰 褶	粘土多量

遺物出土状況 土師器片561点(环47, 高台付皿5, 横509), 須恵器片162点(环54, 高台付坏2, 盖5, 壺類1, 横99, 直1), 土製品3点(支脚), 鉄製品1点(不明), 鉄滓3点のほかに, 混入とみられる土師質土器片2点(皿), 陶器片1点(不明)も出土している。口縁部や底部などから推測される土器の個体数は, 土師器坏9点, 横3点, 高台付皿1点, 盖11点, 須恵器坏9点, 高台付坏1点, 皿2点, 盖2点, 鉢2点, 横3点である。土器片は, 龕付近の覆土上層から床面にかけて多量に出土している。1054と1056は龕の袖部内から出土しており, 心材に用いられたと考えられる。1055は北壁際の覆土中層と龕内の覆土中層から出土した破片が接合したものである。

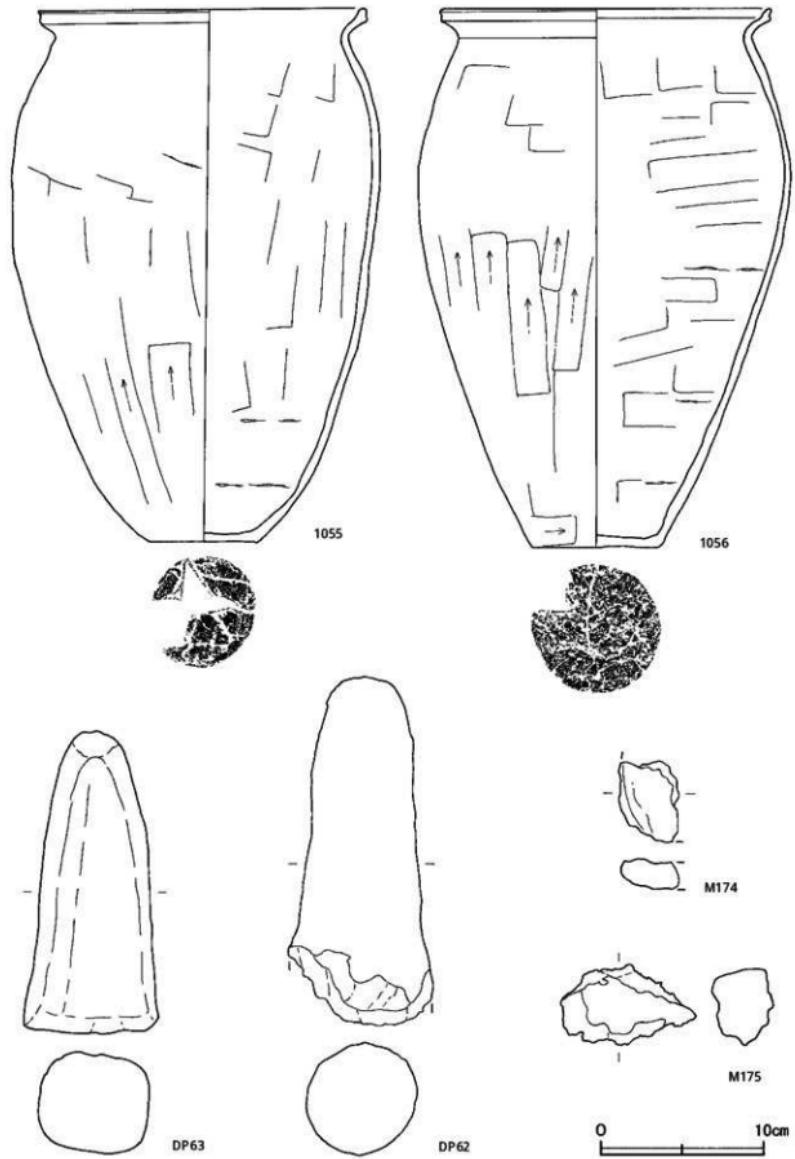
所見 時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第58図 第110A号住居跡出土遺物実測図(1)



第59図 第110A号住居跡出土遺物実測図(2)



第60図 第110A号住居跡出土遺物実測図(3)

第110A号住居跡出土遺物観察表(第58~60図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1044	土師器	环	[12.0]	3.3	7.8	長石・石英・ 雲母	褐	普通	体部内・外側口クロナデ 外面下端～底部回 転ヘラ削り 内面横方向のヘラ削き	層土上層	70% PL30
1045	土師器	环	[16.4]	5.2	[7.0]	長石・石英・ 赤色粘土子	褐	普通	体部内・外側口クロナデ 外面下端～底部回 転ヘラ削り 内面横方向のヘラ削き	層土上層	30%
1046	漆器	环	[12.0]	4.0	6.0	長石・石英・ 赤色粘土子	にぬい黄橙	普通	漆器 外側口クロナデ 両面 手持ちカツラ削り	層土上層	40%
1047	漆器	环	[16.0]	(4.4)	-	長石・石英・ 雲母	灰白	普通	体部内・外側口クロナデ	層土中	10%
1048	漆器	环	-	(2.8)	[6.2]	長石・石英・ 雲母	褐灰	普通	体部内・外側口クロナデ 外面下端手持ちヘ ラ削り 色刷一方向の手持ちカツラ削り	層土中層	10%
1049	土師器	高台皿	[14.2]	2.2	[7.2]	長石・石英・ 雲母	にぬい褐	普通	高台皿 外側口クロナデ 内面 手持ちカツラ削り	層土上層～ 底面	10%
1051	漆器	盤	13.5	2.3	-	長石・石英・ 赤色粘土子	褐灰	普通	体部内・外側口クロナデ 天井部回転ヘラ削 り	層土下層	60% PL36
1052	漆器	鉢	[10.0]	(7.1)	-	長石・石英・ 雲母	白	普通	口縁部内・外側横ナデ 体部外表面の叩き 印顕面	層土中	10%
1053	土師器	瓶	[15.0]	16.5	7.0	長石・石英・ 雲母	にぬい褐	普通	口縁部内・外側横ナデ 体部外側ヘラ削り	層土中	30%
1054	土師器	瓶	19.9	32.3	7.7	長石・石英・ 雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外側横ナデ 体部外側ヘラ削り	埴輪部内	90% PL39
1055	土師器	瓶	20.0	32.9	6.6	長石・石英・ 雲母	にぬい赤褐	普通	口縁部内・外側横ナデ 体部外側ヘラ削り	層土上層～ 底面	75% PL39
1056	土師器	瓶	20.2	33.1	7.9	長石・石英・ 雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外側横ナデ 体部外側ヘラ削り	埴輪部内	75% PL39
1057	土師器	瓶	-	(1.3)	7.6	長石・石英・ 雲母	にぬい赤褐	普通	底部木葉痕	層土中	5%

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
D P 62	支脚	(21.0)	9.0	4.6	(980)	粘土	下端欠損	層火床面	PL46
D P 63	支脚	18.5	8.3	3.5	990.0	粘土	断面開丸長方形	層火床面	PL46

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M174	鉄滓	(5.0)	(3.7)	1.9	(702)	鉄	碧磁 暗青灰	層土下層	
M175	鉄滓	5.0	8.3	3.8	150.1	鉄	碧磁 暗褐	層土下層	

第110B号住居跡(第61図)

位置 調査区中央部のA-116区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第110A号住居に掘り込まれている。

確認状況 第110A号住居跡の床面下から確認されている。全域を掘り込まれているため、壁溝と竈の配置から形状を推定した。

規模と形状 南部が調査区域外に延びているため、東西軸は5.33m、南北軸は0.93mだけが確認されている。

平面形は方形もしくは長方形と推測され、主軸方向はN-9°-Eである。

床 ほぼ平坦で、軟弱である。確認された範囲では、壁溝が周全している。

竈 北壁中央部に付設されている。袖部・煙道部は残存していない。規模は奥行き107cm、幅85cm、深さ21cmで、形状から火床部と考えられる。火床面は残存していない。

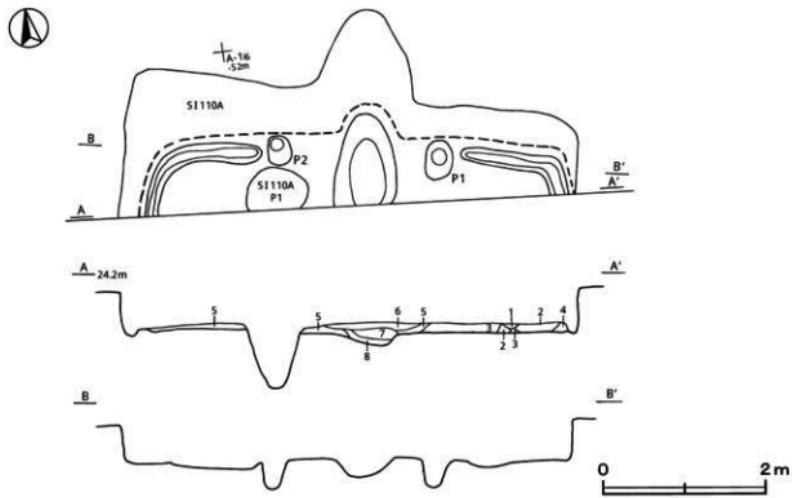
ピット 2か所。深さはともに38cmで、竈の左右に位置しているが、性格は不明である。

覆土 8層に分層される。焼土や炭化物を含むブロック状の堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

1	暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量	6	黒褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化物少量
2	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	7	灰色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
3	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量	8	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量
4	褐色	ロームブロック中量			
5	灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量			

所見 第110A号住居跡の床下から確認されており、主軸方向がほぼ一致することから、本住居を拡張して第110A号住居に建て替えたと考えられる。時期は、重複関係から9世紀後葉以前と考えられる。



第61図 第110B号住居跡実測図

第111号住居跡（第62・63図）

位置 調査区中央部A-1b7区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 北部が調査区域外に延びているため，東西軸は4.72mで，南北軸は3.57mだけが確認されている。平面形は方形もしくは長方形と推測され，南北軸方向はN-5°-Eである。壁高は43~55cmで，直立している。

床 平坦で，壁際を除いて硬化している。確認された範囲では，壁溝が全周している。

ピット 5か所。P1~P3は深さ55~63cmで，規模と配置から主柱穴と考えられる。P4は深さ30cmで，南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P5は深さ20cmで，性格は不明である。

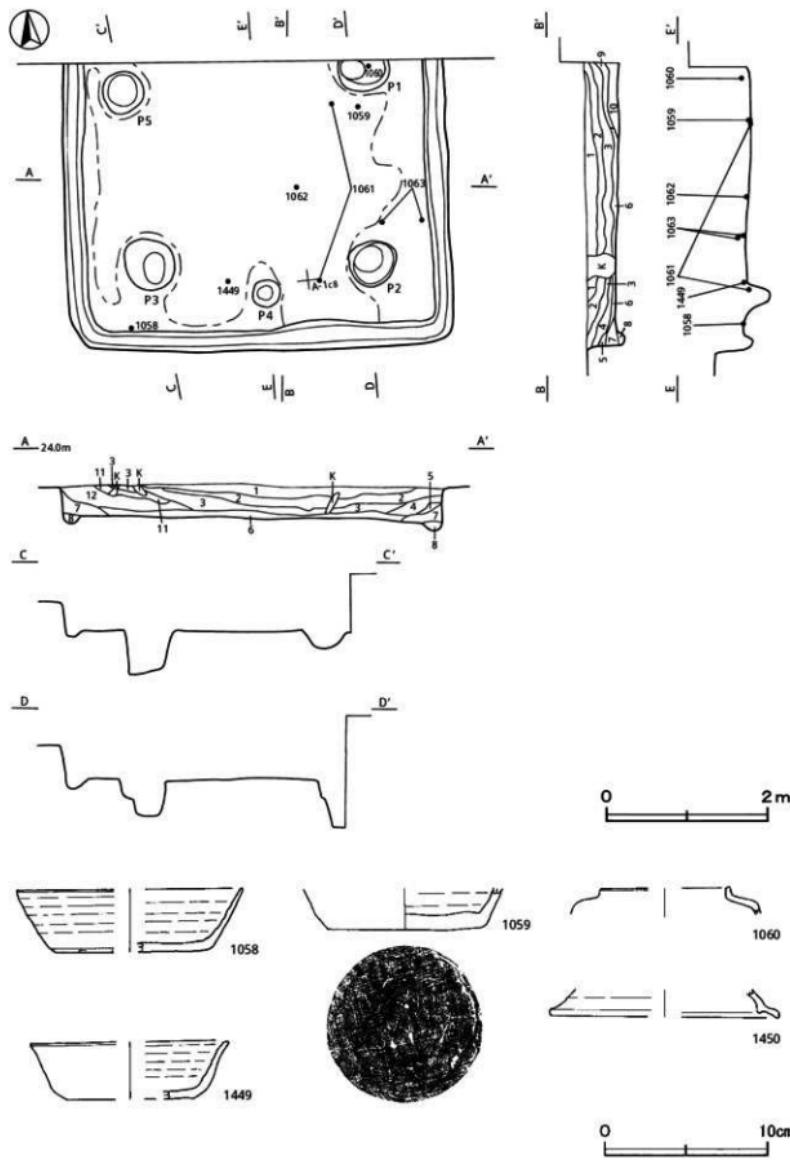
覆土 12層に分層される。レンズ状の堆積状況を示しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

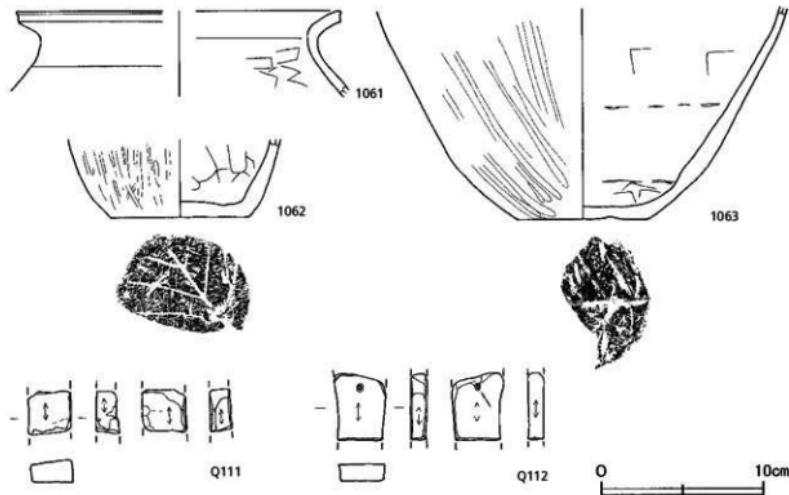
1 黒褐色	ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量	9 灰黄色	砂質粘土粒子多量・ロームブロック・焼土ブロック
2 に赤い黄褐色	ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子微量	10 に赤い黄褐色	ローム粒子少量・焼土ブロック・砂質粘土ブロック
3 黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	11 黒褐色	ローム粒子中量・炭化粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子少量・焼土ブロック・炭化粒子微量	12 黒褐色	ローム粒子少量・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック微量		
6 黑褐色	炭化粒子中量・ローム粒子・焼土粒子微量		
7 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量		
8 黑褐色	ロームブロック微量		

遺物出土状況 土器片281点（坏60, 樹221）、須恵器片51点（坏19, 盖2, 短頭壺1, 樹29）、石器2点（砥石）、鉄製品1点（不明）、鉄滓のほかに混入とみられる石器2点（剥片）も出土している。口縁部や底部などから推測される土器の個体数は土器片坏4点、樹5点、須恵器坏6点、盖1点、樹1点である。土器片は、全域の覆土下層から床面にかけて出土している。1058は南コーナー部付近の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第62図 第111号住居跡・出土遺物実測図



第63図 第111号住居跡出土遺物実測図

第111号住居跡出土遺物観察表（第62・63図）

番号	種別	器種	口径	基高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1058	須恵器	环	[14.0]	3.9	[10.0]	長石・石英、雲母	黄灰	普通	体部内・外側口クロナダ 外面下端～底部回転へラ切り	床面	30%
1059	須恵器	环	-	(2.5)	9.8	長石・石英、赤色粒子	灰黄	普通	体部内・外側口クロナダ 底部回転へラ切り後二方向の手折へラ切り	床面	30%
1060	須恵器	短振盪	[8.0]	(1.6)	-	長石・雲母	灰	普通	体部内・外側口クロナダ	覆土下層	5%
1061	土師器	瓶	[19.8]	(5.3)	-	長石・石英、雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外側横ナダ 体部内面へラナダ	床面	5%
1062	土師器	瓶	-	(4.8)	8.4	長石・石英、雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面へラ耐き 内面へラナダ 底部木葉痕	覆土下層～床面	5%
1063	土師器	瓶	-	(12.8)	[8.0]	長石・石英、雲母	にぶい褐	普通	体部外面へラ耐き 内面へラナダ 底部木葉痕	覆土下層～床面	20%
1449	須恵器	环	[12.0]	3.5	[7.8]	長石・石英、雲母	暗灰	普通	体部内・外側口クロナダ 底部回転へラ切り	床面	20%
1450	須恵器	蓋	[14.0]	(1.7)	-	長石・石英、雲母	黄灰	普通	体部内・外側口クロナダ	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q111	砥石	(2.6)	2.6	1.2	(15.0)	砂岩	砥面4面	覆土中	
Q112	砥石	(4.1)	3.2	1.0	(23.0)	砂岩	砥面4面 穿孔	覆土中	PL47

第112号住居跡（第64図）

位置 調査区中央部A-1b9区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 北部の大部分が調査区域外に延びているため，東西軸は3.80mで，南北軸は0.88mだけが確認されている。平面形は方形もしくは長方形と推測され，東西軸方向はN-87°-Eである。壁高は23cmほどで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，軟弱である。確認された範囲では，壁溝が全周している。

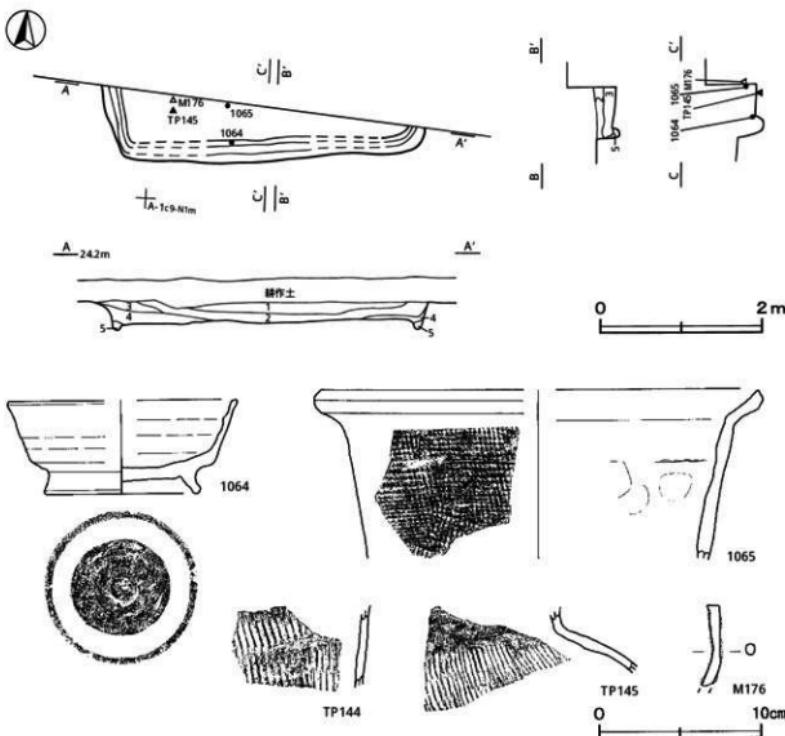
覆土 5層に分層される。レンズ状の堆積状況を示しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 純 色	ローム粒子少量・焼土ブロック・炭化粒子・砂質 粘土粒子微量	3 に沁い黄褐色	ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量
2 細 純 色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック ク・炭化粒子微量	4 塗 褐 色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片30点(坏4, 瓢26), 須恵器片14点(坏8, 高台付坏1, 蓋1, 鉢3, 瓢1), 鉄製品1点(釘)が出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は須恵器坏1点, 鉢2点, 瓢1点である。1064と1065は, 西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀中葉から後葉と考えられる。



第64図 第112号住居跡・出土遺物実測図

第112号住居跡出土遺物観察表（第64図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1064	須恵器	高台付坏	[14.0]	5.8	9.4	長石・石英・礫	灰	普通	底部内・外表面クロコナデ 底部回転ヘラ刷り	床面	70% PL35
1065	須恵器	鉢	[27.0]	(10.4)	-	長石・石英・ 雲母	灰黃褐色	普通	口縁部内・外表面ナデ 体部外表面格子状の 可塑性 内面及底面均用ヘラナデ	床面	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP144	須惠器	鉢か	-	(50)	-	高石・石英・ 鐵物・赤色粒子 等	褐灰	普通	体部外腹底位の叩き 内面ナデ	床面	5%
TP145	須惠器	瓶	-	(41)	-	高石・石英・ 鐵物	黄灰	普通	体部外腹底位の叩き 内面ナデ	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M176	釘か	(49)	0.7	0.6	(76)	鐵	下底部欠損	床面	PL4B

第113号住居跡 (第65・66図)

位置 調査区中央部のA・1e8区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 西壁際と南壁際を第25号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.10m、短軸3.82mの方形で、主軸方向はN- 0°である。壁高は23-33cmで、直立している。

床 平坦で、竈前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が壁際を断続しながら周回している。

竈 北壁中央部や東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部94cm、袖部幅108cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山を基部にして、その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を10cmほど掘り込み、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土解説

1	暗 褐色	色	砂質粘土ブロック少量	燒土ブロック・炭化粒子微量	8	橙 赤 褐色	色	燒土ブロック多量		
2	灰 褐色	色	砂質粘土ブロック多量、ロームブロック・焼土ブロック	ロック・炭化粒子微量	9	暗 赤 褐色	色	燒土ブロック中量、砂質粘土ブロック・ローム粒 子微量		
3	暗 褐色	色	燒土ブロック・砂質粘土ブロック中量、ロームブ ロック・炭化物微量		10	暗 灰 褐色	色	燒土ブロック・砂質粘土ブロック中量		
4	黒 褐色	色	炭化粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・燒土 粒子微量		11	灰 褐色	色	砂質粘土ブロック中量、燒土ブロック微量		
5	灰 褐色	色	砂質粘土ブロック多量、ローム粒子微量		12	灰 褐色	色	砂質粘土粒子多量、燒土ブロック少量		
6	暗 褐色	色	砂質粘土粒子少量、燒土ブロック・炭化粒子微量		13	暗 褐色	色	燒土ブロック多量、砂質粘土粒子多量		
7	黑 褐色	色	砂質粘土ブロック・焼土粒子中量、ロームブロ ック微量		14	灰 褐色	色	砂質粘土粒子多量、燒土粒子少量		
					15	褐 褐色	色	ロームブロック中量、燒土ブロック・炭化粒子・ 砂質粘土粒子少量		
					16	暗 褐色	色	燒土粒子・砂質粘土粒子少量		

ピット 5か所。P 1 ~ P 4は深さ42-56cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ42cmで、南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

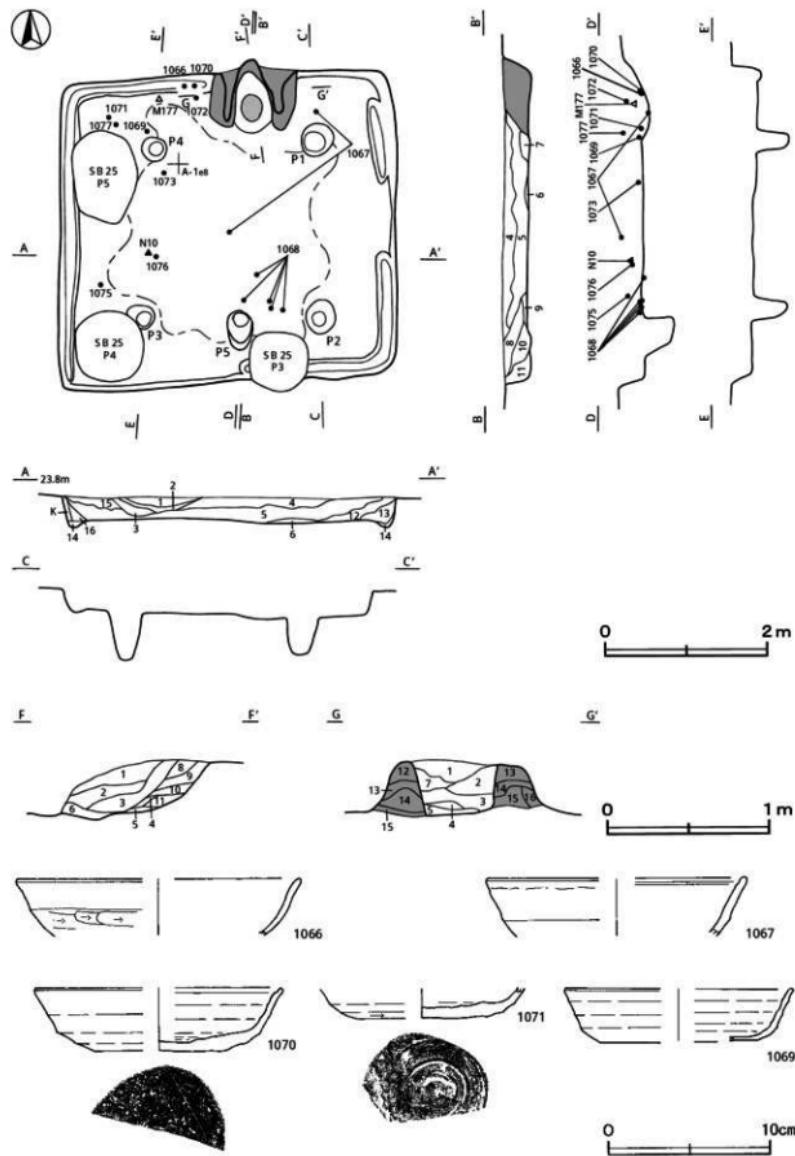
覆土 16層に分層される。レンズ状の堆積状況を示しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

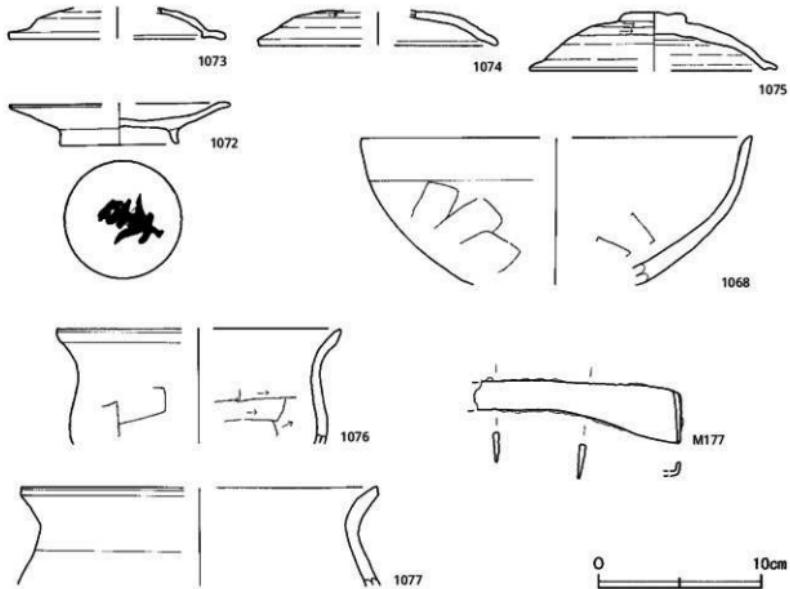
1	暗 褐色	色	ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量	9	黒 褐色	色	炭化材中量、ローム粒子・焼土粒子少量
2	暗 褐色	色	ロームブロック中量、燒土ブロック・炭化材少量	10	褐 褐色	色	ロームブロック中量
3	褐 褐色	色	ローム粒子中量、燒土ブロック少量	11	褐 褐色	色	ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子少量
4	黒 褐色	色	砂質粘土ブロック中量	12	暗 褐色	色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
5	暗 褐色	色	ロームブロック中量	13	暗 褐色	色	ロームブロック・燒土粒子少量
6	黒 褐色	色	燒土ブロック・炭化材・ローム粒子少量	14	褐 褐色	色	ローム粒子多量
7	暗 褐色	色	燒土粒子中量、ロームブロック少量	15	暗 褐色	色	ロームブロック・燒土ブロック少量、炭化粒子微量
8	褐 褐色	色	ロームブロック多量	16	黑 褐色	色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片178点 (坏46, 鉢11, 横121), 須恵器片26点 (坏17, 高台付皿1, 蓋1, 横7), 鉄製品1点 (鎌), 自然遺物1点 (種子) が出土している。口縁部や底部などから推測される土器の個体数は、土師器坏6点, 鉢1点, 横2点, 須恵器坏3点, 蓋3点, 高台付皿2点である。土器片は、全域の覆土上層から床面にかけて出土している。1068は覆土下層から床面にかけて出土した破片が接合したものである。1070は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第65図 第113号住居跡・出土遺物実測図



第66図 第113号住居跡出土遺物実測図

第113号住居跡出土遺物観察表（第65・66図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1066	土師器	环	[17.3]	(35)	-	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外周横ナデ 体部外側ヘラ削り	覆土下端	10%
1067	土師器	环	[15.8]	(3.6)	-	長石・石英、赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外周横ナデ 体部外側ヘラ削り	覆土上層 - 下端	10%
1068	土師器	鉢	[23.9]	(9.0)	-	長石・石英、赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外周横ナデ 体部外側ヘラ削り 内側ヘラナダ	覆土下端 - 中層	40%
1069	須恵器	环	[14.0]	3.2	[9.6]	長石・石英、赤色粒子	褐灰	普通	口縁部内・外周口クロナダ 高部一方向の手持ちへ削り	覆土下端	10%
1070	須恵器	环	[15.0]	3.9	[8.6]	長石・石英、赤色粒子	灰黄	普通	口縁部内面沈凹 体側内・外周口クロナダ 底部一方向の手持ちへ削り	覆土下端	30%
1071	須恵器	环	-	(1.8)	[8.6]	長石・石英、赤色粒子	灰褐	普通	体側内・外周口クロナダ 外周下端 - 底部回転へ削り	覆土下端	10%
1072	須恵器	高台付皿	[13.5]	2.5	7.2	長石・石英、赤色粒子	黄灰	普通	体側内・外周口クロナダ 底部回転ヘラ削り 裏面両面貼り付け	覆土上層 朱墨「大吉丸」	60% PL42
1073	須恵器	皿	[13.2]	(1.9)	-	長石・石英、礫	灰	普通	体側内・外周口クロナダ	覆土下端	5%
1074	須恵器	皿	[14.6]	(2.1)	-	長石・石英、赤色粒子	灰黄	普通	体側内・外周口クロナダ 天井部回転ヘラ削 り貼り付け	覆土上層	5%
1075	須恵器	皿	[15.3]	3.5	-	長石・石英、赤色粒子	黄灰	普通	体側内・外周口クロナダ 天井部回転ヘラ削 り貼り付け	覆土上層	60%
1076	土師器	環	[17.4]	(7.0)	-	長石・石英、赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外周横ナデ 体部外側ヘラナダ 内側ヘラ削り	覆土中層	5%
1077	土師器	環	[21.8]	(6.0)	-	長石・石英、赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外周横ナデ 体部内・外周ナダ	覆土上層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M177	罐	(12.8)	3.4	0.3	(447)	鉄	基部全面折り曲げ 直刃カ	覆土中層	PL46

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	樹種	特 徴	出土位置	備考
N10	種子	2.0	1.5	1.3	1.16	桃カ	表面炭化	覆土中層	

第115号住居跡（第67・68図）

位置 調査区中央部のA 1 d4区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸327m，短軸321mの方形で，主軸方向はN-4°-Eである。壁高は10-14cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで86cm，袖部幅101cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山を基部にして，その上に暗褐色土と砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁を35cmほど掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

電土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|----------------------------|---|------|-----------------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック微量 |
| 2 | 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量 | 5 | 黄褐色 | 砂質粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 | 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 6 | 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |

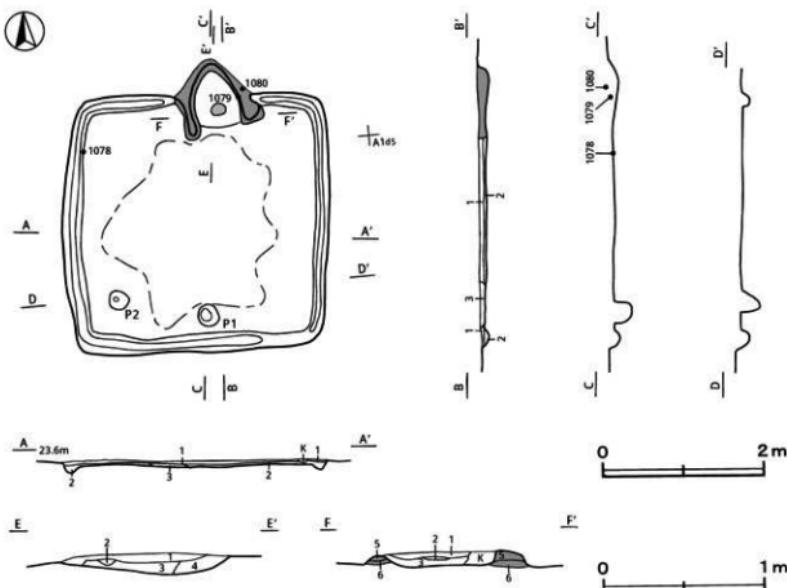
ピット 2か所。P 1は深さ23cmで，南壁際に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

P 2は深さ22cmで，性格は不明である。

覆土 3層に分層されるが，層厚が薄いために堆積状況は不明である。

土層解説

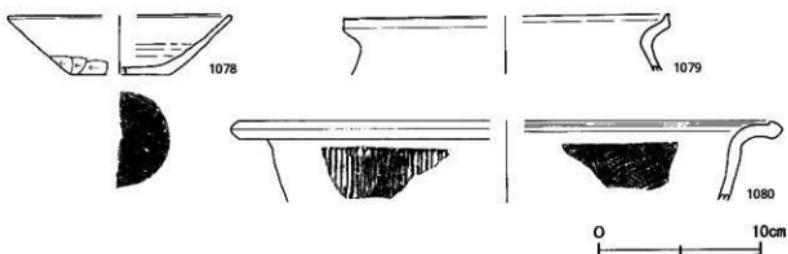
- | | | | | | |
|---|-----|---------------------|---|-----|-----------------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 | 黒褐色 | 炭化粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化物・焼土粒子少量 | | | |



第67図 第115号住居跡実測図

遺物出土状況 土器片30点(环11, 瓢19), 須恵器片16点(环9, 瓢6, 盆1)が出土している。口縁部や底部等から推測される土器の個体数は土器片1点, 須恵器片6点, 鉢1点である。1078は床面から出土したものである。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第68図 第115号住居跡出土遺物実測図

第115号住居跡出土遺物観察表(第68図)

番号	種別	器種	口径	基高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1078	須恵器	环	[13.6]	3.6	[16.0]	長石・石英・ 砂母	にぶい赤褐色	普通	体部内・外周口凹ナギ・外周下端手持ちへ タ削り・底部一方同の手持ちへタ削り	床面	30%
1079	土器	瓢	[20.0] (35)	-	-	長石・石英・ 砂母	にぶい暗褐色	普通	体部内・外周横ナギ	堆溝土中	5%
1080	須恵器	鉢	[32.0] (50)	-	-	長石・石英・ 砂母	反	普通	口縁横縦ナギ・体部外周縫位の叩き目・ 縫位の平行当て具痕	堆溝土上層	5%

第116A号住居跡(第69・70図)

位置 調査区中央部A 1 d5区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第116B号住居跡を掘り込み, 第30号掘立柱建物に掘り込まれている。

確認状況 床面がほぼ露出した状態で確認されており, 壁溝や竈の配置などから規模と形状を推定した。

規模と形状 確認された範囲は, 長軸4.33m, 短軸3.75mの長方形で, 主軸方向はN-2°-Eである。

床 平坦で, 竈前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が, 南壁際を除いて周回している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで112cm, 袖部幅150cmである。袖部は床面から5cmほど掘り下げた地山を基部にして, その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は, 床面から20cmほど掘りこぼめた後に埋め戻して使用していたと考えられる。火床面は残存していない。煙道部は壁を40cmほど掘り込まれてあり, 火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量	7	黒褐色	砂質粘土粒子多量, ローム粒子少量
2	灰褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化物少量	8	暗褐色	砂質粘土粒子, 焼土粒子少量
3	暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量, ローム粒子少量	9	灰色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化物少量
4	褐色	砂質粘土ブロック少量, ロームブロック・炭化物 子微量	10	灰色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック・燒土粒子少量
5	赤褐色	焼土ブロック多量, ローム粒子少量	11	暗褐色	ローム粒子・炭化物中量, 砂質粘土粒子少量
6	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量			

ピット 8か所。P 1-P 4は深さ10-35cmで, 規模と配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ21cmで, 南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6-P 8は深さ18-34cmで, 性格は不明である。

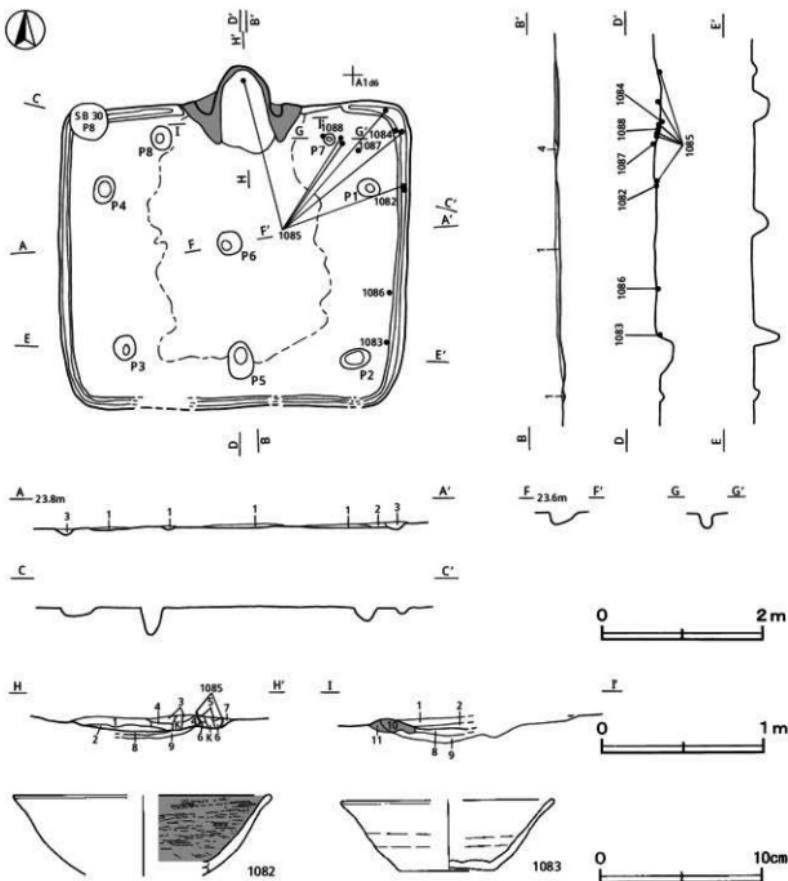
覆土 4層に分層されるが、層厚が薄いために堆積状況は不明である。

土器解説

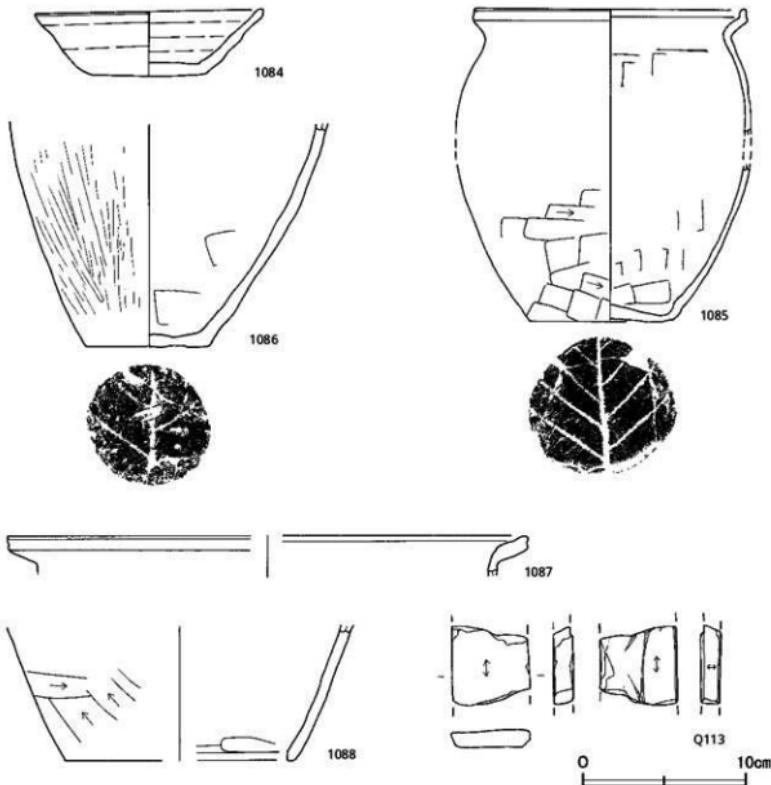
- | | |
|-----------------------------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子多量 | |
| 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片91点(坏18, 瓢73), 須恵器片63点(坏21, 瓢23, 盆19), 石器1点(砥石)が出土している。口縁部や体部等から推測される土器の個体数は、土師器坏1点, 瓢2点, 須恵器坏4点, 盆1点である。1084は壁溝の覆土中から出土している。1085は、北東コーナー部付近の床面と竈の覆土中から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第69図 第116A号住居跡・出土遺物実測図



第70図 第116A号住居跡出土遺物実測図

第116A号住居跡出土遺物観察表 (第69・70図)

番号	種別	器種	口径	基面	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1082	土器器	环	[15.7]	(48)	-	粘土・石英・ 雲母	灰	普通	全体内・外面口クロナダ 内面横方向のヘラ	壁溝土中	15%
1083	漁器器	环	[13.0]	4.3	5.8	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	全体内・外面口クロナダ 底部回転ヘラ削り 後、一方の手持ちヘラ削り	壁下層～ 床面	60% PL31
1084	漁器器	环	14.0	4.0	7.0	長石・石英・ 雲母	灰黄	普通	全体内・外面口クロナダ 底部一方向の手持 ちヘラ削り	壁溝土中	80% PL31
1085	土器器	瓶	16.4	[192]	9.0	長石・石英・ 雲母・礫	明赤褐	普通	全体内・外面口クロナダ 内面ヘラナダ 底部木葉摺	壁溝土中・ 床面	60%
1086	土器器	瓶	-	(13.8)	7.6	長石・石英・ 雲母	にぶい黄	普通	全体外側ヘラ削き 内面ヘラナダ 底部木葉摺	壁下層～ 床面	20%
1087	漁器器	瓶カ	[32.0]	(2.5)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい黄	普通	口縁部内・外面横ナダ	床面	5% 1088と 同一個体カ
1088	漁器器	瓶	-	(8.3)	[14.0]	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい黄	普通	全体内・外面削り	床面	5% 1087と 同一個体カ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q113	砾石	(4.8)	4.8	1.2	(46.1)	砂岩	底面3面	壁土中	

第116B号住居跡（第71図）

位置 調査区中央部のA 1 d5区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第116A号住居に掘り込まれている。

確認状況 第116A号住居跡の床面下から確認されており, 壁溝と竈の配置から規模と形状を推定した。

規模と形状 確認できた範囲は, 長軸3.65m, 短軸3.11mの長方形で, 主軸方向はN- 2°- Eである。

床 平坦で, 軟弱である。壁溝が断続して周回している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで55cm, 袖部幅74cmである。袖部は砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面を20cmほど掘りくぼめており, 火床面は残存していない。

竈土層解説

1 灰 赤 色 燃土ブロック・砂質粘土粒子中量, ローム粒子微量	3 黒 楔 色 ローム粒子・燃土粒子少量, 砂質粘土粒子微量
2 暗 赤 楔 色 ローム粒子・砂質粘土粒子中量, ローム粒子微量	

ピット 4か所 P 1 ~ P 4は深さ5 ~ 24cmで, 規模と配置から主柱穴と考えられる。

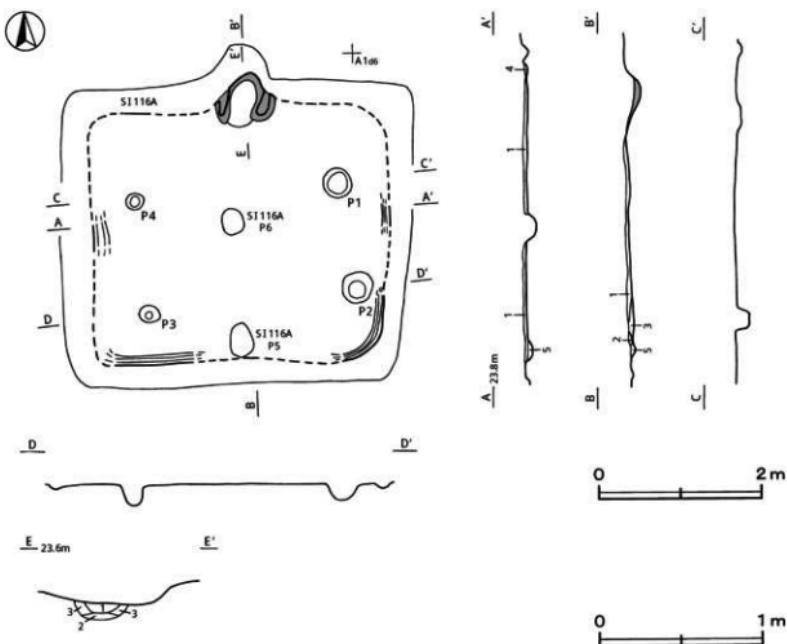
覆土 5層に分層される。ロームブロックを多量に含んでおり, 人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒 楔 色 ロームブロック多量, 燃土粒子・炭化粒子・砂質 粘土粒子微量	3 暗 楔 色 ロームブロック多量
2 黒 楔 色 ロームブロック少量	4 暗 楔 色 ローム粒子中量

5 暗 楔 色 ロームブロック中量

所見 第116A号住居跡の床下で確認されており, 主軸方向がほぼ一致することから, 本住居を拡張して第116A号住居に建て替えたと考えられる。時期は, 重複関係から9世紀中葉以前と考えられる。



第71図 第116B号住居跡実測図

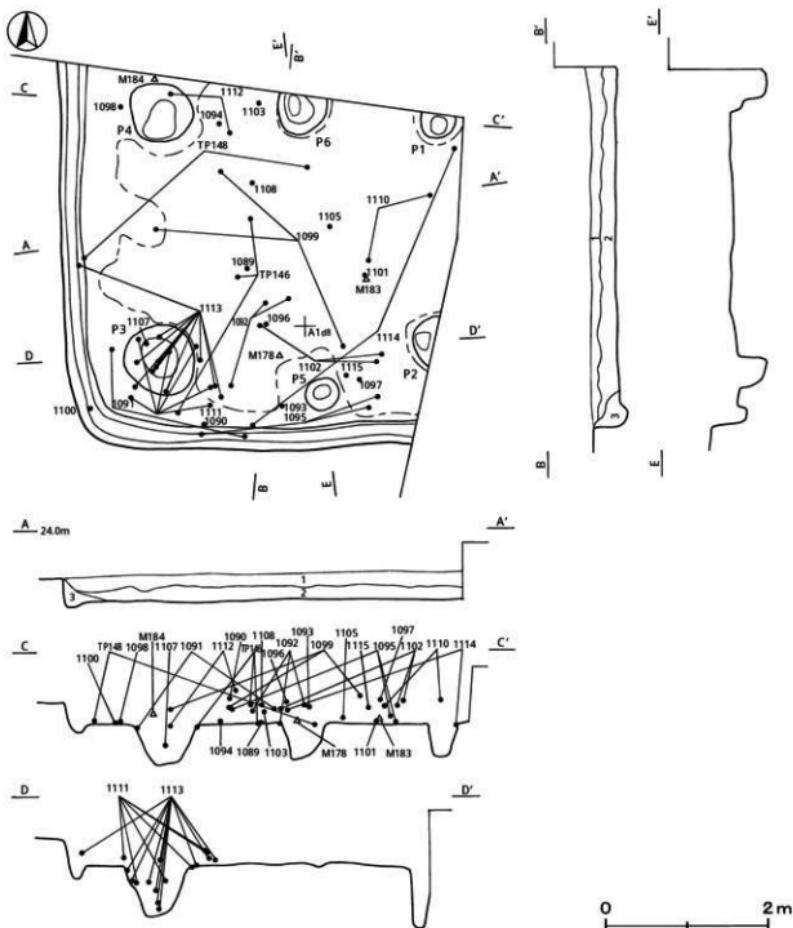
第117号住居跡（第72～75図）

位置 調査区中央部のA1c7区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 北部と東部が調査区域外に延びているため、確認できた範囲は、東西軸4.96m、南北軸4.60mだけである。平面形は方形もしくは長方形と推測され、南北軸方向はN-0°である。壁高は23-33cmで、直立している。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。確認された範囲では、壁溝が全周している。

ピット 6か所。P1-P4は深さ38-74cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ38cmで、南



第72図 第117号住居跡実測図

壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6は深さ46cmで、性格は不明である。

覆土 3層に分層される。各層に炭化物が含まれており、人為堆積と考えられる。

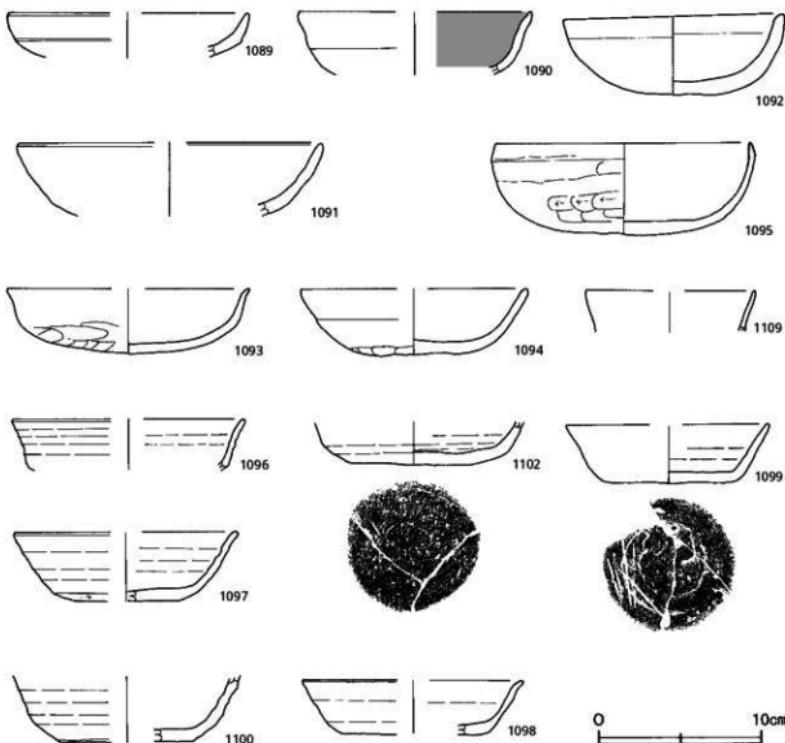
土器解説

1 緑 褐 色 ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子少量
2 緑 褐 色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物少量

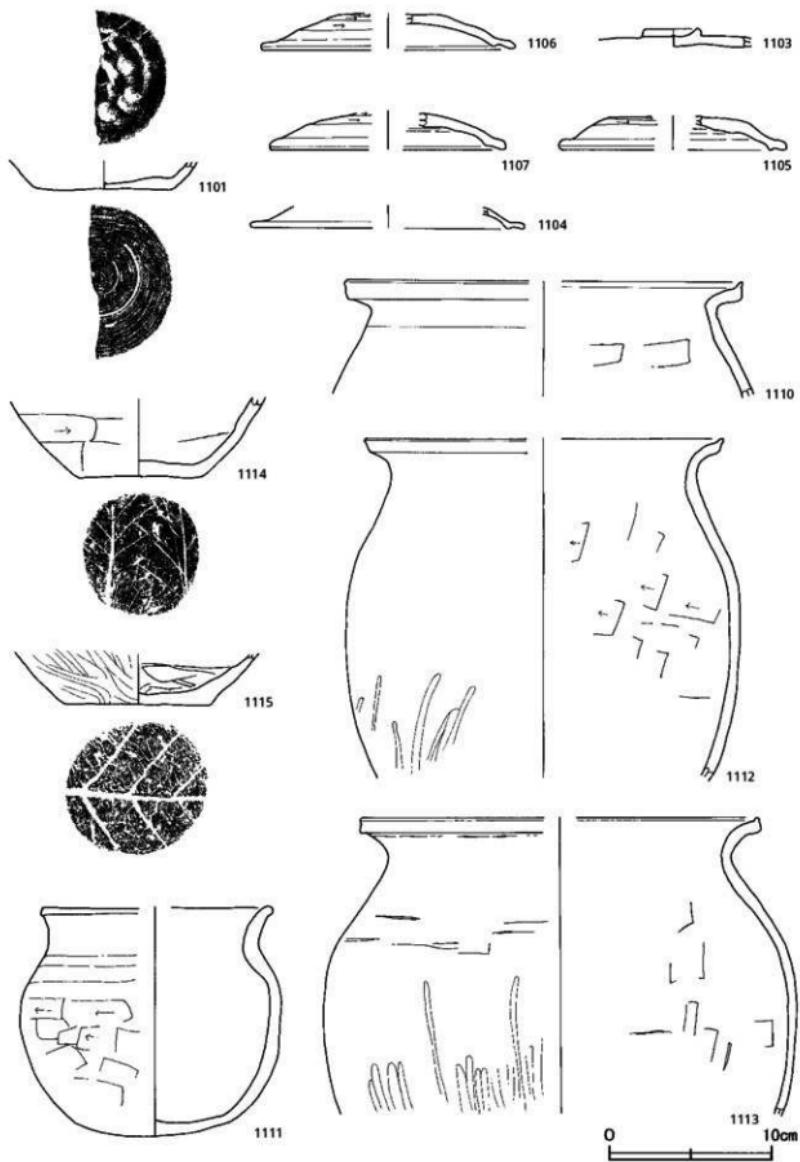
3 褐 色 ローム粒子中量、炭化物少量

遺物出土状況 土器器片665点(环112, 瓢553), 須恵器片149点(环85, 蓋24, 鉢3, 瓶類4, 瓢33), 土製品1点(支脚), 鉄製品7点(刀子2, 錐1, 不明4)のほかに, 混入した土師質土器片1点(鍋類)も出土している。口縁部や底部などから推定される土器の個体数は土器環17点, 瓢8点, 須恵器環9点, 蓋15点, 瓶類1点, 鉢2点, 瓢2点である。土器片は, 全域の覆土上層から床面にかけて多量に出土している。1092は, 南部の覆土中層から床面にかけて出土した破片が接合したものである。1095は, 南壁際の覆土中層から床面にかけて出土した破片が接合したものである。1111と1113は南西コーナー部付近の覆土中層から床面及び, P 3の覆土中層から出土した破片が接合したものである。1110は覆土上層から出土してあり混入とみられる。

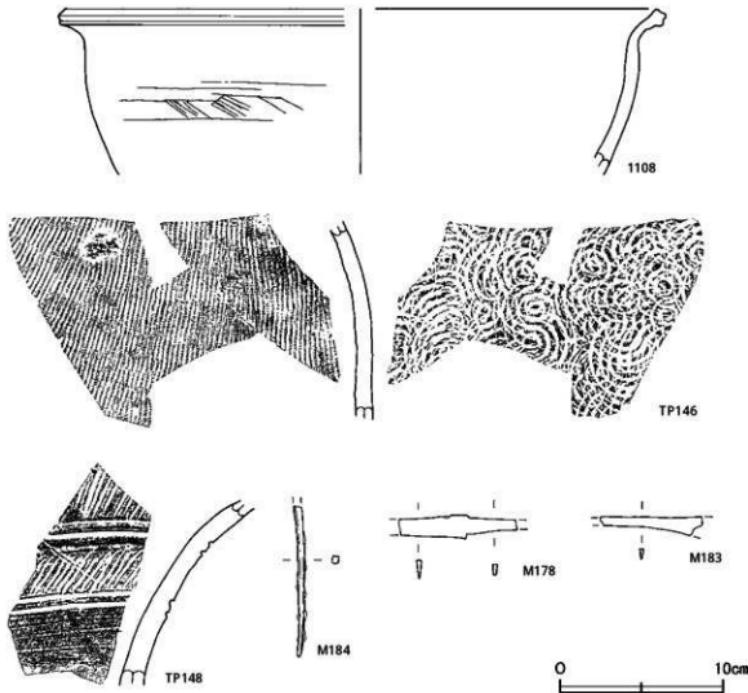
所見 時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第73図 第117号住居跡出土遺物実測図(1)



第74図 第117号住居跡出土遺物実測図(2)



第75図 第117号住居跡出土遺物実測図(3)

第117号住居跡出土遺物観察表(第73~75図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1089	土器器	环	[14.8]	(2.7)	-	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外側へラ削り	床面	5%
1090	土器器	环	[14.2]	(3.9)	-	長石	にふい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外側へラ削り	壁土上層	10%
1091	土器器	环	[18.6]	(4.4)	-	長石・赤色粒子	褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外側へラ削り	壁土上層 - 下層	10%
1092	土器器	环	13.5	5.0	-	赤色粒子	にふい	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外側へラ削り	壁土下層 - 床面	90% PL30
1093	土器器	环	[14.9]	3.9	-	長石・石英	褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外側へラ削り	壁土中層	30%
1094	土器器	环	[14.0]	4.0	-	長石・石英・赤色粒子	褐褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外側へラ削り	床面	50% PL30
1095	土器器	环	15.6	5.6	-	長石・石英・赤色粒子	にふい	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外側へラ削り	中層 - 床面	70% PL30
1096	須恵器	环	[14.2]	(3.1)	-	黒色粒子	灰	普通	体部内・外側口クロナデ	壁土上層	5%
1097	須恵器	环	[13.6]	4.2	[6.2]	長石・石英・赤色粒子	にふい	普通	体部内・外側口クロナデ 外側下端 - 底部回転削り	壁土上層	20%
1098	須恵器	环	[13.4]	3.3	[9.0]	長石・石英・赤色粒子	灰灰	普通	体部内・外側口クロナデ 底部多方向の手持ちへラ削り	床面	10%
1099	須恵器	环	[12.4]	3.6	8.0	長石・石英・青母	灰	普通	体部内・外側口クロナデ 底部回転へラ切り 後ろ方への手持ちへラ削り	壁土上層 - 中層	40%
1100	須恵器	环	-	(4.0)	[8.0]	長石・青母・礫	灰	普通	体部内・外側口クロナデ 底部一方向の手持ちへラ削り	床面	15%
1101	須恵器	环	-	(1.6)	8.2	長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	体部内・外側口クロナデ 見込み細頭压痕	床面	15%
1102	須恵器	环	-	(2.6)	7.8	長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	体部内・外側口クロナデ 底部多方向の手持ちへラ削り	壁土上層 - 中層	35%
1103	須恵器	蓋	-	(1.2)	-	長石・石英・青母・赤色粒子・黒色粒子	灰	普通	体部内・外側口クロナデ 天井部回転へラ削り(つまみ紐)付け	壁土中層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1104	須恵器	蓋	[16.8]	(1.3)	-	長石・石英、 雲母	にぶい	滑	体部内・外面口クロナダ	覆土上層	5%
1105	須恵器	蓋	[14.0]	(2.0)	-	長石・石英、 雲母	灰白	滑	体部内・外面口クロナダ 天井部回転ヘラ削	床面	10%
1106	須恵器	蓋	[15.6]	(2.1)	-	長石・石英、 雲母	灰白	滑	体部内・外面口クロナダ 天井部回転ヘラ削	覆土上層	10%
1107	須恵器	蓋	[14.6]	(2.2)	-	長石・石英、 雲母	黄灰	滑	体部内・外面口クロナダ 天井部回転ヘラ削 目録ナダ 内面ナダ	P3 覆土中	20%
1108	須恵器	蓋	[36.4]	(10.2)	-	長石・石英、 雲母	褐灰	滑	体部内・外面口クロナダ 体部外面削位の可き	覆土中層	10%
1109	須恵器	环	[10.4]	(2.5)	-	長石・石英、 雲母、赤色粒子	黄灰	滑	口縁部内・外面横ナダ 内面ヘラナダ	覆土下層	5%
1110	土師器	瓶	[24.2]	(7.1)	-	長石・石英、 雲母、赤色粒子	明赤褐	滑	口縫部内・外面横ナダ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナダ	覆土上層	10%
1111	土師器	瓶	[14.1]	14.0	-	長石・石英、 雲母	明赤褐	滑	口縫部内・外面横ナダ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナダ	覆土中層・床 P3 覆土中 切妻形切丸	5% 1372
1112	土師器	瓶	[21.8]	(20.8)	-	長石・石英、 雲母、赤色粒子	にぶい	滑	口縫部内・外面横ナダ 体部外面ヘラナダ 内面ヘラ削り	覆土上層 - 床	10%
1113	土師器	瓶	[24.2]	(18.2)	-	長石・石英、 雲母	褐	滑	口縫部内・外面横ナダ 体部内・外面ヘラナ ダ ベース下端ヘラ削き	覆土中層・床 P3 覆土中	20%
1114	土師器	瓶	-	(48)	7.4	長石・石英、 雲母	褐	滑	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナダ 底部木製 箱	覆土下層 - 床面	10%
1115	土師器	瓶	-	(32)	9.0	長石・石英、 雲母	にぶい	滑	体部外面ヘラ削き 内面ヘラナダ 底部木製 箱	覆土中層	5%
TP146	須恵器	瓶	-	(12.2)	-	長石・黒色粒子、 雲母	灰	滑	所外面削位の可き 日 内面同心円状の当て 紙	覆土中層 - 床面	5% PL45
TP146	須恵器	瓶	-	(11.2)	-	長石	暗灰	滑	體部外面二重の平行沈線で区画後区内に斜 位の沈線	覆土下層	5% 1372と 同一か PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M178	刀子	(7.3)	1.4	0.3	(80)	鉄	刃部・茎部欠損 脣開	床面	PL48
M183	刀子	(6.3)	1.2	0.2	(43)	鉄	刃部・茎部欠損 刃開	床面	
M184	鑿	(9.2)	0.5	0.4	(49)	鉄	鍔部欠損 鍔不明	覆土下層	

第118号住居跡（第76図）

位置 調査区中央部のA-1g0区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第114A・114B号住居跡、第27号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.48m、短軸2.36mの方形で、主軸方向はN-9°-Eである。壁高は最大8cmで、直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝がほぼ全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで69cm、袖部幅73cmである。袖部は土師器模片・須恵器模片を心材として、砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており、火床面は確認できなかった。煙道部は壁を30cmほど掘り込み、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------|
| 1 黒 褐 色 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量 | 6 灰 褐 色 砂質粘土粒子多量、焼土ブロック少量 |
| 2 暗赤褐色 燃土ブロック中量、砂質粘土ブロック・炭化粒子少量 | 7 黒 褐 色 炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 黒 褐 色 燃土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 8 暗赤褐色 燃土ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 燃土粒子中量、炭化粒子少量 | 9 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 5 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | |

ピット 深さ16cmで、南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

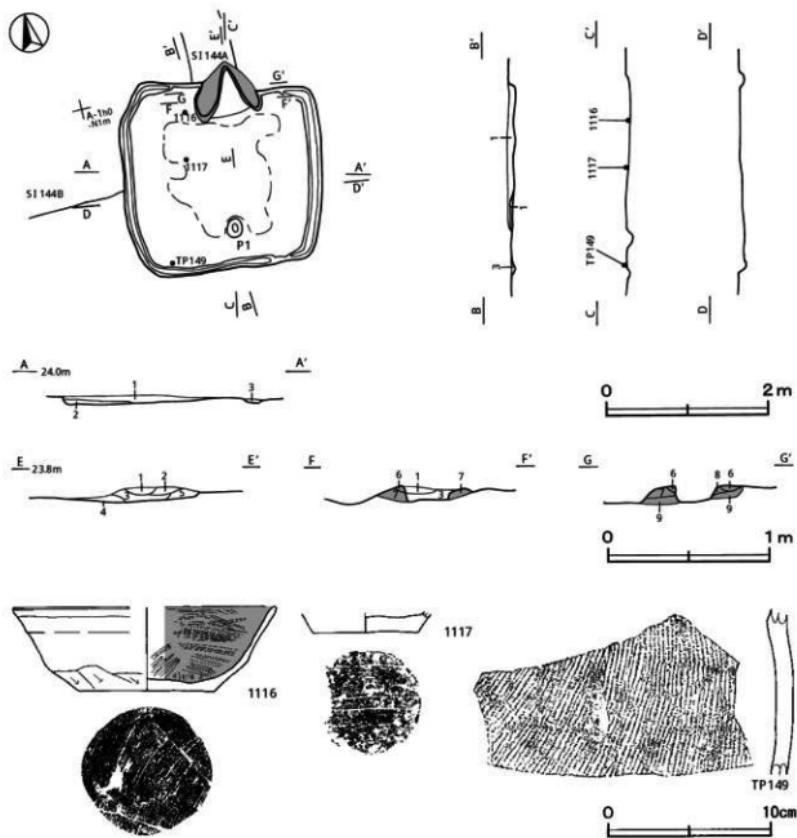
覆土 3層に分層されるが、層厚が薄いために堆積状況は不明である。

土層解説

- | | |
|------------------------|---------------|
| 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 3 褐 色 ローム粒子中量 |
| 2 暗 褐 色 ロームブロック少量 | |

遺物出土状況 土師器片53点(坏20, 梗33), 須恵器片11点(坏2, 梗9)が出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は、土師器坏2点, 梗3点, 須恵器梗1点である。1116は竈西側の床面から一括して出土している。

所見 時期は、出土土器及び、遺構の配置から9世紀後葉と考えられる。



第76図 第118号住居跡・出土遺物実測図

第118号住居跡出土遺物観察表 (第76図)

番号	種別	断面	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1116	土師器	坏	[16.0]	5.2	8.0	長石・石英	にぶ1黄褐色	普通	体内部・外表面クロナダ 外周下端手持ちヘラ削り	床面	70% PL30
1117	土師器	梗	-	(12)	6.5	長石・石英・ 雲母	灰褐色	普通	内面ヘラナダ 底部一方向のヘラ削り	床面	5%
TP149	須恵器	梗	-	(100)	-	長石・石英・ 雲母	灰	普通	外表面位の叩き目 内面ヘラナダ	床面	5%

第125号住居跡（第77図）

位置 調査区西部のA-4c3区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第124号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.90m，短軸3.72mの方形と推定され，主軸方向はN-34°-Wである。壁高は3~5cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。

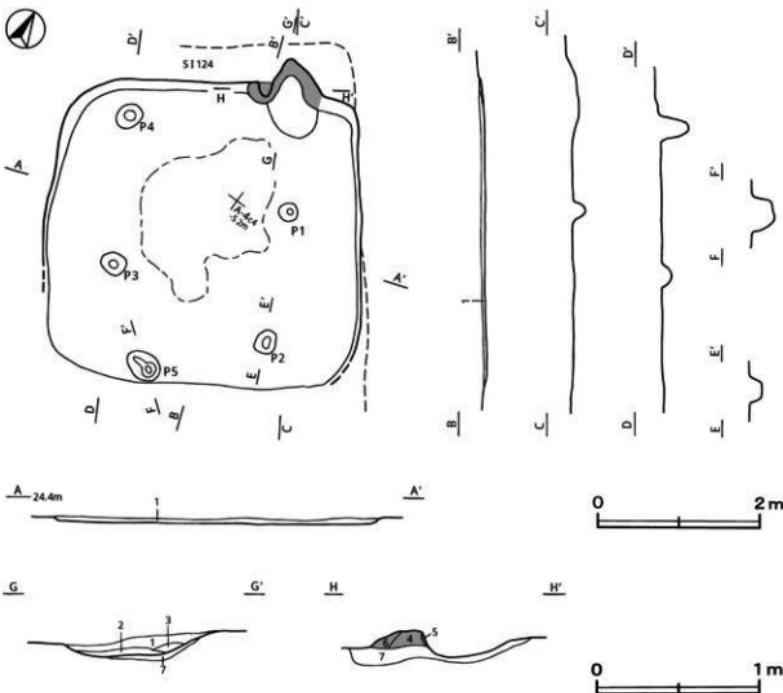
龕 北壁の東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで100cm，袖部幅90cmである。袖部は，地山を10cmほど掘り込み褐色土を埋め戻して基部として，その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面を7cmほど掘りくぼめて使用しているが，火床面は確認できなかった。煙道部は壁を40cmほど掘り込み，火床面から緩やかに立ち上がっている。

遺土層解説

- 1 噴 赤 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 噴 赤 褐 色 焼土粒子中量，炭化粒子少量
- 3 噴 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 噴オリーブ色 砂質粘土粒子多量，焼土ブロック少量

- 5 噴 赤 褐 色 焼土ブロック・砂質粘土粒子多量
- 6 噴 褐 色 砂質粘土粒子多量，ロームブロック・炭化粒子少量
- 7 褐 色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量

ピット 5か所。P1~P4は深さ13~38cmで，配置から柱穴に間わるピットと推測される。P5は深さ32cmで，南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第77図 第125号住居跡実測図

覆土 単一層で、層厚が薄いために堆積状況は不明である。

土面解説

1 噴 梅 色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片19点（环1, 环15, 高环3）のほかに、混入した陶器片1点（蓋）も出土している。いずれも細片で図示できない。

所見 近接する竪穴住居跡の中では比較的小形の住居である。時期は、遺構の様相及び出土土器から8世紀以降と推測される。

第126号住居跡（第78・79図）

位置 調査区西部のZ-312区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

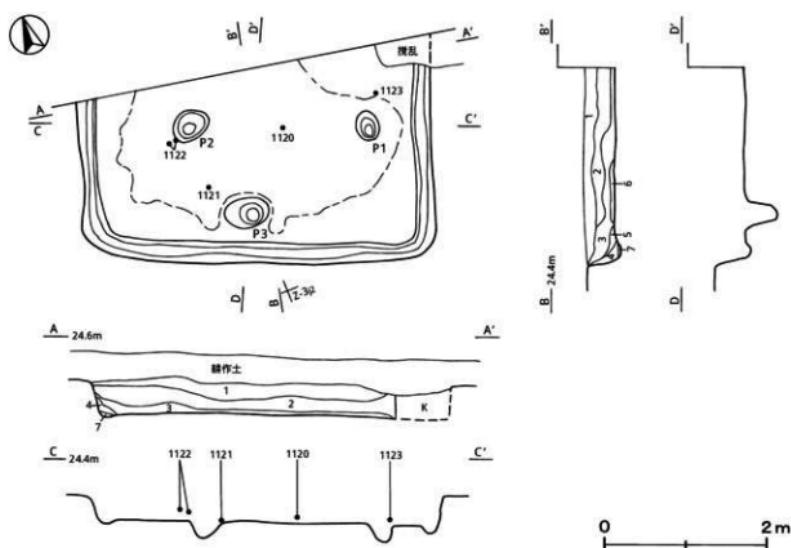
規模と形状 北部が調査区域外に延びているため、東西軸は4.35mで、南北軸は2.70mだけが確認されている。

平面形は方形もしくは長方形と推定され、主軸方向はN-23°-Eである。壁高は33cmで、直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

ピット 3か所。P1・P2は深さ20cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は深さ39cmで、南壁際位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層に分層される。各層ともにロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。



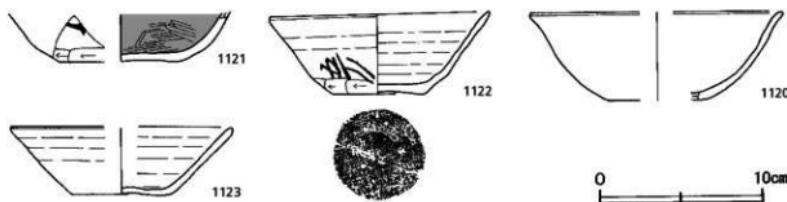
第78図 第126号住居跡実測図

土層解説

1 暗褐色	褐色	ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土ブロック少量	5 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒褐色	褐色	ロームブロック中量, 烧土粒子少量	6 黑褐色	ロームブロック・炭化粒子中量
3 灰褐色	褐色	炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子中量
4 褐色	褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量		

遺物出土状況 土器器片75点(坏20, 高台付焼3, 横52), 須恵器片46点(坏33, 蓋1, 鉢1, 杯11), 鉄製品2点(不明)が出土している。口縁部や底部などから推測される土器の個体数は、土器坏3点, 須恵器坏5点, 鉢1点, 杯1点である。土器片は、全域の覆土上層から床面にかけて散在して出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。1120・1121は内・外面に斑状の剥離がみられ、火熱を受けていると考えられる。



第79図 第126号住居跡出土遺物実測図

第126号住居跡出土遺物観察表(第79図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1120	土師器	坏	[15.4]	5.3	[6.0]	長石・石英・赤色粒子 普通	褐色	普通	体部内・外面口クロナダ 内面へラ磨き(厚)	覆土下層	15% 内・外面剥離
1121	土師器	坏	-	(2.9)	[7.4]	長石・石英・赤色粒子 普通	褐色	普通	体部内・外面口クロナダ 外面下端手持ちへラ削り 底部横方へのへラ削り 底部一方の手持ちへラ削り	覆土	10% 内・外面剥離 備考「」
1122	須恵器	坏	13.3	5.0	5.6	長石・石英・ 雲母・褐色 普通	灰褐色	普通	体部内・外面口クロナダ 外面下端手持ちへラ削り 底部一方の手持ちへラ削り	覆土下層	75% PL41 備考「五万」
1123	須恵器	坏	[13.6]	(4.1)	[6.0]	長石・石英・ 雲母	灰褐色	普通	体部内・外面口クロナダ 底部回転へラ切り	覆土下層	20%

第128号住居跡(第80・81図)

位置 調査区西部のA-37区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

確認状況 南部が擾乱を受けた状態で確認された。

規模と形状 東西軸は3.18mで, 南北軸は1.93mだけが確認されている。平面形は方形もしくは長方形と推測され, 南北軸方向はN-4°-Eである。壁高は34~36cmほどで, 直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁溝が西壁際を周回している。

龕 北壁中央部のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで115cm, 袖部幅105cmである。袖部は暗褐色土を基部にして, その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を55cmほど掘り込み, 火床部から緩やかに立ち上がっている。

龕土層解説

1 暗褐色	褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 烧土粒子微量	5 暗赤褐色	烧土粒子中量, ロームブロック・炭化物微量
2 暗褐色	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	6 黑褐色	炭化粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量
3 暗赤褐色	褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量	7 黑褐色	ロームブロック少量, 烧土粒子・炭化粒子微量
4 にぶい褐色	褐色	砂質粘土粒子多量, 烧土粒子・炭化粒子微量		

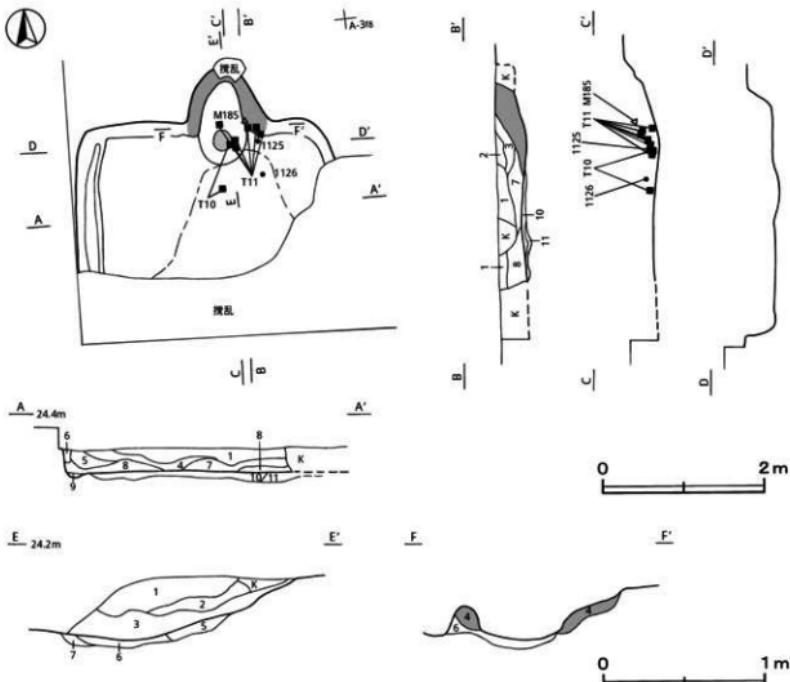
覆土 11層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

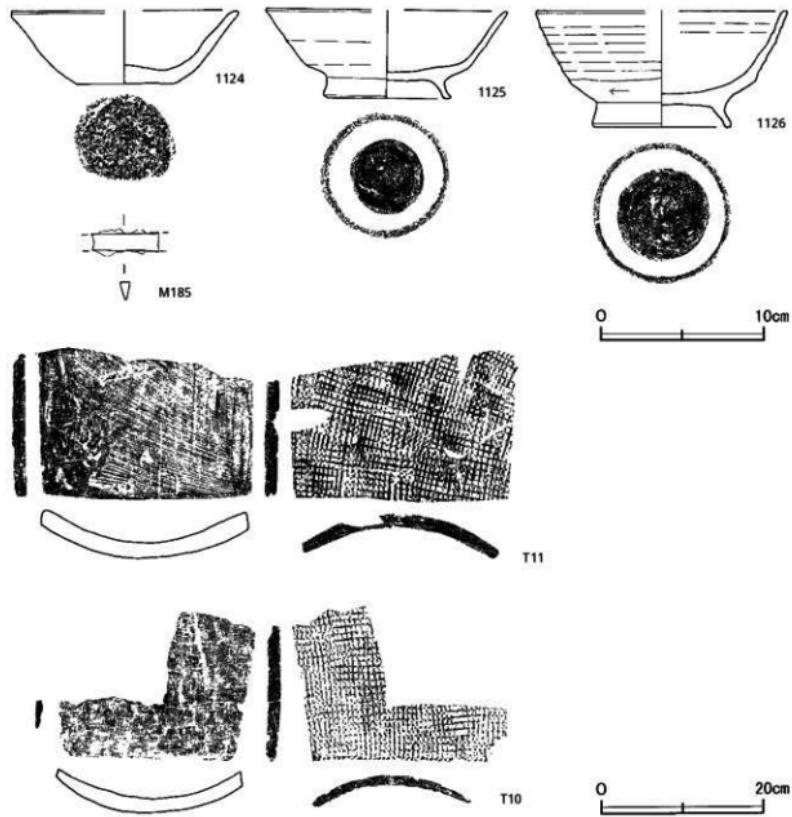
1	暗	褐	色	ロームブロック多量	7	黒	褐	色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
2	暗	褐	色	ロームブロック・粘土粒子少量	8	暗	褐	色	ロームブロック中量
3	暗	褐	色	ロームブロック少量、焼土粒子・粘土粒子微量	9	暗	褐	色	ローム粒子中量
4	暗	褐	色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	10	暗	褐	色	ロームブロック多量
5	暗	褐	色	ロームブロック少量	11	暗	褐	色	ローム粒子多量
6	黒	褐	色	ローム粒子微量					

遺物出土状況 土器片49点(坏2, 瓢47), 須恵器片30点(坏26, 高台付坏3, 鉢1), 土製品1点(支脚), 瓦片8点(平瓦), 鉄製品1点(刀子)のほかに, 陶磁器片5点も出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は, 土器片2点, 須恵器片6点, 高台付坏3点, 鉢1点である。土器片は, 罐の周辺の覆土上層から下層にかけて散在して出土している。T10・T11は, 罐の火床面から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は, 出出土器から9世紀中葉と考えられる。1124~1126は内・外面に斑状の剥離が見られ, 火熱を受けていると考えられる。罐の火床面から出土した平瓦(T10・T11)は, 罐の補強材に用いられたと考えられ, 島名熊の山遺跡の第1674号住居跡からの出土例に類似している。さらに, 胎土には多くの雲母を含んでおり, 河内都寺である九重東岡寺で使用された瓦が再利用された可能性が推測される。



第80図 第128号住居跡実測図



第81図 第128号住居跡出土遺物実測図

第128号住居跡出土遺物観察表（第81図）

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1124	須恵器	环	[13.8]	4.5	6.0	粘土・石英・ 雲母	にぶい黄褐	普通 明	体内部・外周口クロナダ 底部摩滅により不 規則	埴土中	30% 内・外周厚減
1125	須恵器	高台环	[14.7]	5.4	7.2	粘土・雲母・ 赤褐色ナメ	明赤褐	普通	体内部・外周口クロナダ 底部高台貼り付け	埴土中	40% 外周厚減
1126	須恵器	高台竹环	[15.4]	7.2	8.4	粘土・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい黄	普通 明	体内部・外周口クロナダ 外周下端回転ヘラ 削り高台貼り付け	埴土下層	60% PL.35 内周厚減

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M185	刀子	(4.1)	(1.1)	0.6	(5.2)	鉄	刃部・茎部欠損 焼不規	埴土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特 復	出土位置	備考	
T 10	平瓦	(19.4)	23.0	1.8	(861.0)	粘土・石英・ 雲母・赤色粒子	褐	凹面布目痕 凸面格子状の叩き目	側面ヘラ削り	埴火床部	30% PL.44
T 11	平瓦	(19.1)	25.7	2.1	(1650.0)	粘土・石英・ 雲母・黒色粒子	黄灰	凹面布目痕 凸面格子状の叩き目	側面ヘラ削り	埴火床部	40% PL.44

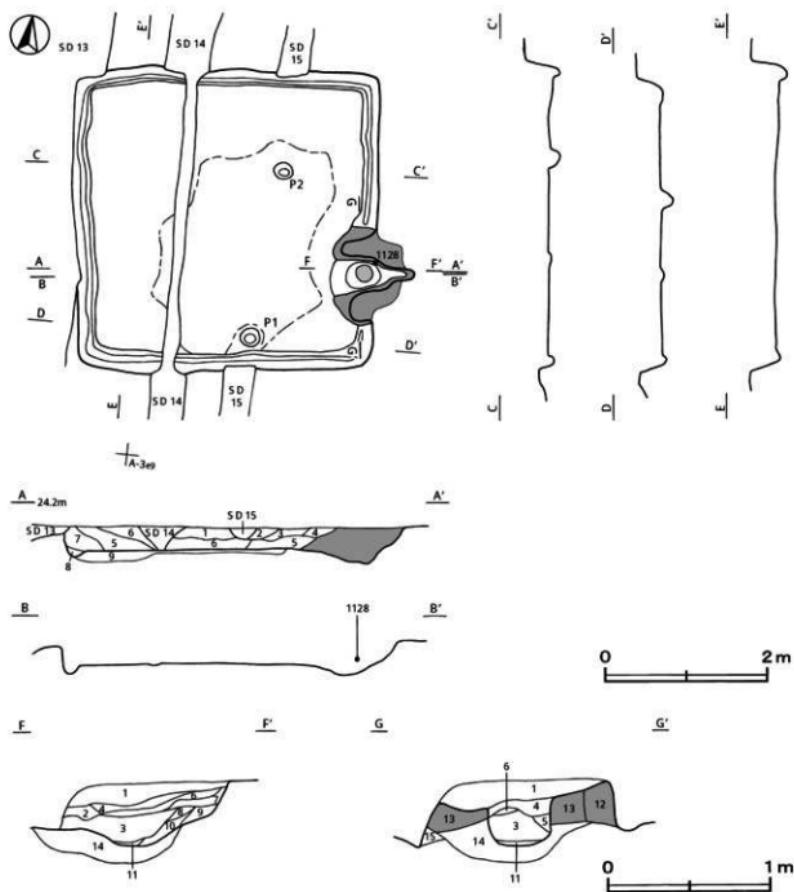
第129号住居跡（第82～84図）

位置 調査区西部のA-3d9区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第13・14・15号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.66m, 短軸3.62mの方形で, 主軸方向はN-83°-Eである。壁高は30-34cmで, 直立している。

床 平坦で, 窟前面から中央部にかけて踏み固められている。全面が貼床で, 中央部を鳥状に掘り残すように窺の前面と壁近くを特に深く掘り込み, ロームブロックを多く含む褐色土で埋土している。掘り方の底面は掘削による凹凸が著しい。壁溝が全周している。



第82図 第129号住居跡実測図(1)

竈 東壁中央部の南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで105cm、袖部幅120cmである。袖部は、掘り残した地山を基部として、その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面から18cmほど掘りくぼめられており、火床面は確認できなかった。煙道部は壁を50cmほど掘り込み、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 黒 褐 色	ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子少量	8 暗 褐 色	焼土ブロック中量、炭化物少量
2 黒 褐 色	砂質粘土ブロック・焼土粒子少量、ロームブロック	9 暗 褐 色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子微量
3 暗 赤 褐 色	焼土粒子中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量	10 暗 褐 色	焼土粒子中量、炭化粒子少量、ロームブロック微量
4 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック	11 黒 褐 色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量
5 暗 褐 色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量	12 黒 褐 色	焼土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6 黒 褐 色	ロームブロック少量、ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	13 灰 黄 褐 色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ロームブロック
7 黒 褐 色	砂質粘土粒子微量	14 暗 褐 色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量
		15 暗 褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

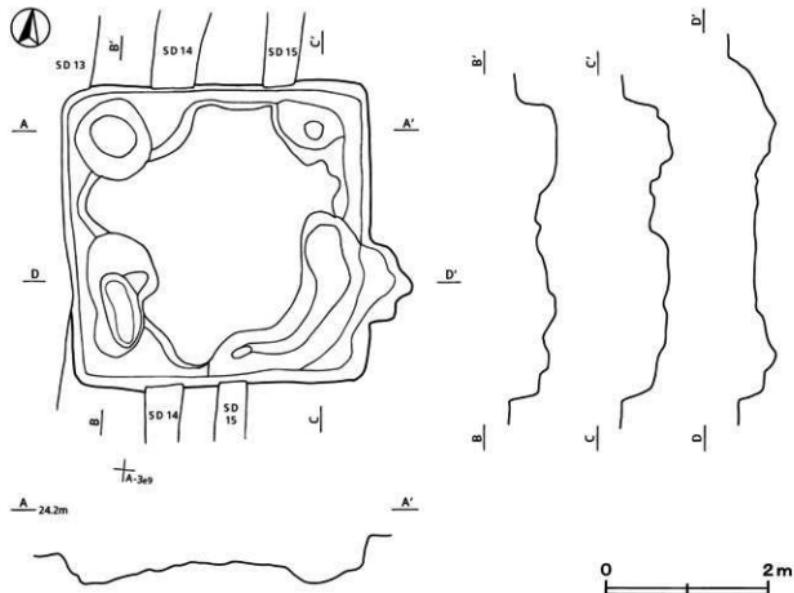
ピット 2か所。P 1は深さ16cmで、南壁際に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

P 2は深さ19cmで、性格は不明である。

覆土 9層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗 褐 色	ロームブロック・炭化粒子微量
2 暗 褐 色	ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	7 暗 褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 黒 褐 色	ロームブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8 暗 褐 色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
4 黒 褐 色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量	9 褐 色	ロームブロック多量
5 暗 褐 色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量		



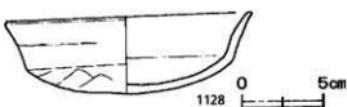
第83図 第129号住居跡実測図(2)

遺物出土状況 土師器片27点（壺17, 瓢10）, 須恵器片4点（壺1, 蓋1, 瓢2）, 石器1点（砥石）のほかに, 混入した陶器片1点（擂鉢）, 磁器3点（碗）も出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は土師器壺1点である。1128は竈の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第129号住居跡出土遺物観察表（第84図）

番号	種別	器種	口径	基高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1128	土師器	壺	15.0	4.9	-	高石・石英・ 黄母	褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ナデ	竈覆土中層	80% PL30



第84図 第129号住居跡出土遺物実測図

第130号住居跡（第85・86図）

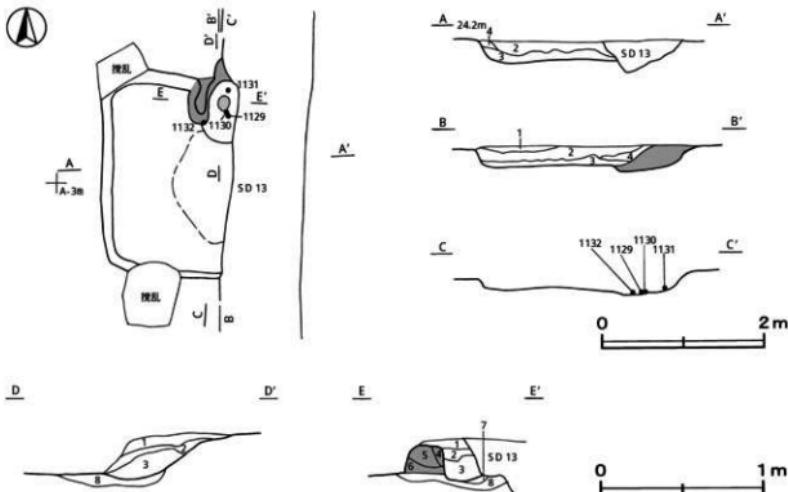
位置 調査区西部のA-3e8区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第13号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸は2.50mで, 東西軸は1.53mだけが確認されている。平面形は方形もしくは長方形と推測され, 主軸方向はN-0°である。壁高は20cmほどで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されていたと推定される。規模は, 焚口部から煙道部までが105cmで, 袖部幅は62cmだけが確認されている。袖部は, 地山を10cmほど掘りくぼめた後に赤褐色土を埋め戻して基部とし, その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており, 火床面は火熱を



第85図 第130号住居跡実測図

受けて赤変化している。煙道部は壁を25cmほど掘り込み、火床部から外傾して立ち上がっている。

土層解説

1	暗	褐	色	ローム粒子少量・炭化物微量	6	暗	褐	色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量・炭化粒子微量
2	赤	褐	色	焼土ブロック少量・ローム粒子・炭化粒子微量	7	暗	赤	色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
3	暗	赤	色	焼土ブロック少量・ローム粒子・炭化粒子微量	8	褐	色	ロームブロック中量・炭化粒子少量・焼土ブロック微量	
4	褐色	褐色	色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量・炭化粒子微量					
5	暗	褐	色	砂質粘土粒子中量・焼土粒子少量					

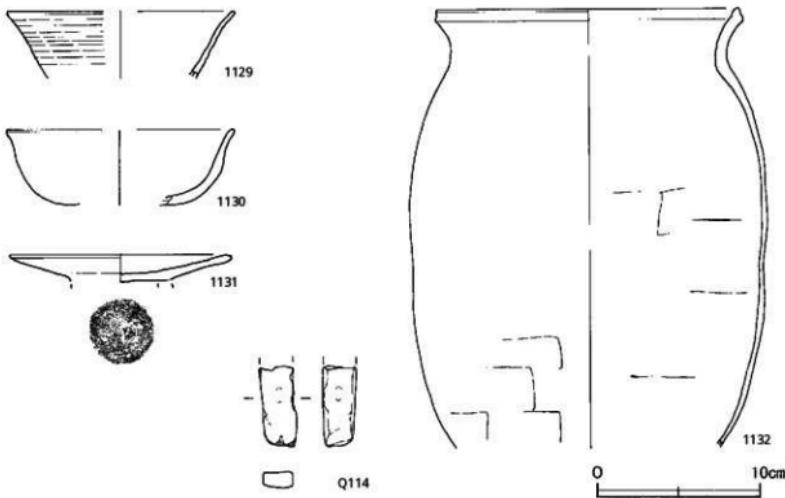
覆土 4層に分層される。ローム粒子主体の均質なレンズ状の堆積状況を示しており、自然堆積と考えられる。

土器解説

1	暗	褐	色	ローム粒子中量・炭化粒子少量・焼土粒子微量	3	褐	色	ローム粒子中量・炭化粒子微量	
2	暗	褐	色	ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子微量	4	暗	褐	色	ロームブロック中量・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片228点(环2, 楠1, 鉢7, 楪218), 須恵器片13点(环2, 高台付皿4, 楪7), 石器1点(砥石), 鉄製品2点(不明)のほかに, 混入とみられる土師質土器4点(鍋類), 瓦質土器(不明), 磁器2点(碗, 盆)も出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は, 土師器楕1点, 楪2点, 須恵器环1点, 高台付皿1点である。土器片は, 罐の覆土中から集中して出土している。1132は罐の袖部から逆位で出土している。

所見 時期は, 出土土器及び, 遺構の配置から9世紀後葉と考えられる。



第86図 第130号住居跡出土遺物実測図

第130号住居跡出土遺物観察表(第86図)

番号	種別	基盤	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1129	須恵器	环	[13.8]	(41)	-	長石・石英・礫	褐	普通	体内部・外側口クロナデ	竪火床部	10%
1130	土師器	楕	[13.8]	46	[16]	長石・石英・礫 雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体内部・外側口クロナデ 底部手持ちヘラ削り	竪火床部	5% 内・外側削離
1131	須恵器	高台付皿	13.3	(1.7)	-	長石	暗灰黄	普通	体内部・外側口クロナデ 底部凹輪ヘラ削り 側面台貼り付け	竪火床部	40%
1132	土師器	楕	18.5	(27.0)	-	長石・石英・雲母 赤色粒子・礫	にぶい褐	普通	口縁削り・外側横ナデ 体外部ヘラ削り 内側ヘラナデ	竪火床部	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q114	砥石	(4.9)	2.2	0.9	(17g)	砂岩	砥面2面	覆土下層	

第131号住居跡 (第87~89図)

位置 調査区中央部のA-2b3区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸490m、短軸473mの方形で、主軸方向はN-23°Eである。壁高は53~58cmで、直立している。

床 平坦で、コーナー部付近を除いて踏み固められている。全面が貼床で、中央部を島状に掘り残すように竈の前面とコーナー部付近を特に深く掘り込み、ロームブロックを含む暗褐色土と褐色土(第14~15層)で埋土している。掘り方の底面は掘削による小規模な凹凸がみられる。壁溝が全周している。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで121cm、袖部幅126cmである。袖部は、掘り残した地山を基部として、その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面から20cmほど掘りくぼめて使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を25cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	7	暗褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
2	暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量	8	暗赤褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3	暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子微量	9	暗赤褐色	焼土ブロック多量、炭化物・砂質粘土粒子微量
4	暗赤褐色	砂質粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量	10	オリーブ色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗赤褐色	砂質粘土ブロック多量、炭化粒子微量	11	オリーブ黒色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
6	暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量、炭化物・ローム粒子微量	12	オリーブ黒色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

ピット 5か所。P1~P4は深さ41~65cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ15cmで、南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

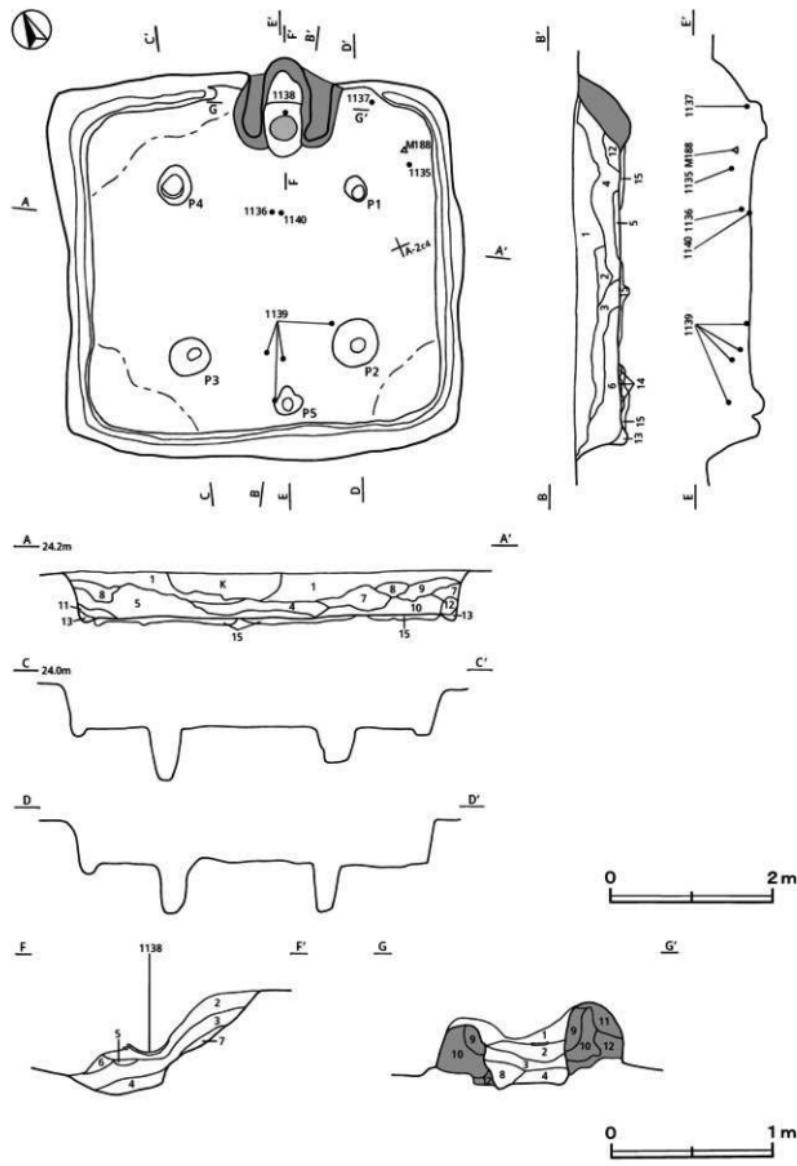
覆土 15層に分層される。ブロック状の不自然な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

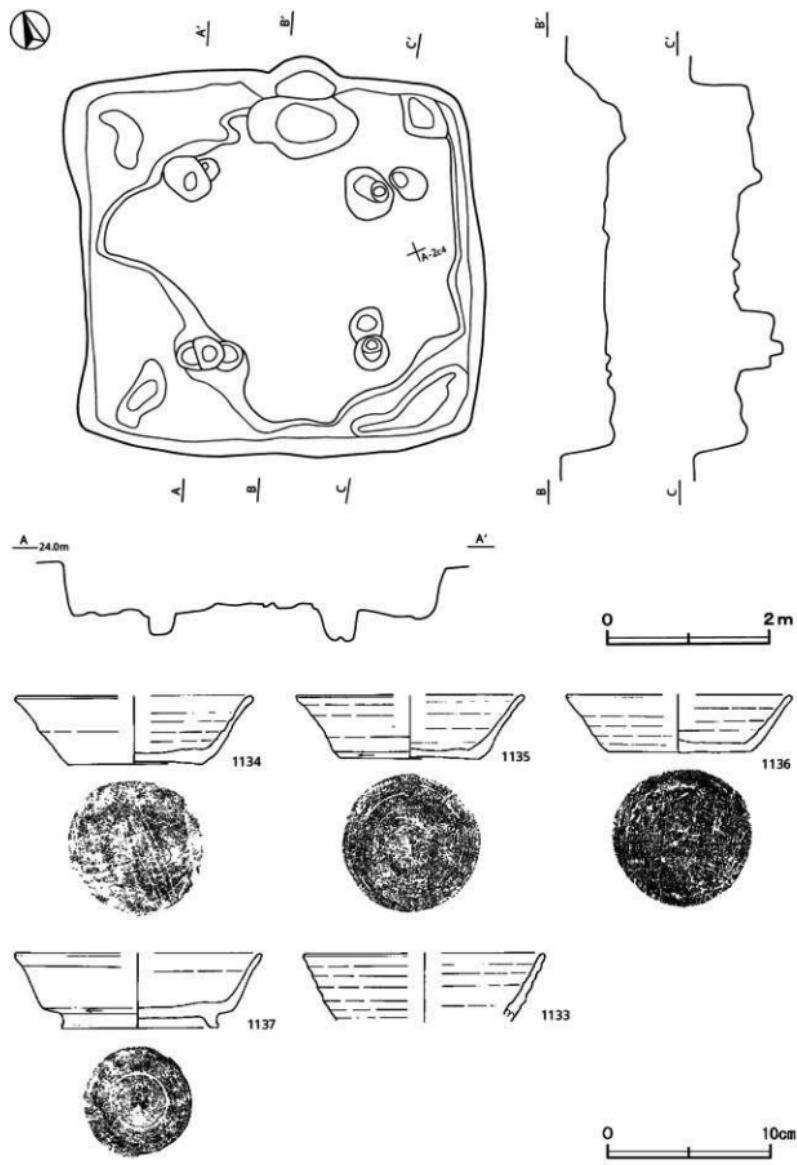
1	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	9	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量	10	暗褐色	ロームブロック少量、焼土・炭化物微量
3	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量	11	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	12	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子・炭化物微量
5	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	13	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6	黒褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量	14	暗褐色	ロームブロック多量、綈まり強
7	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量	15	褐色	ロームブロック多量、綈まり強
8	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量			

遺物出土状況 土器片180点(環3、櫛177)、須恵器片53点(环17、高台付环1、櫛34、長頸瓶1)、石器2点(砥石)、鉄製品5点(鎌1、不明4)、鉄滓2点のほかに、混入した陶器片10点(鉢1、擂鉢1、不明8)も出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は、土器片3点、須恵器片6点、高台付环1点、櫛1点である。1135は北東部の覆土中層から、1137は北壁際の覆土下層から、1136は竈前面の覆土下層からそれぞれ一括して出土している。1139は、南部の覆土上層から床面にかけて出土した破片が接合したものである。

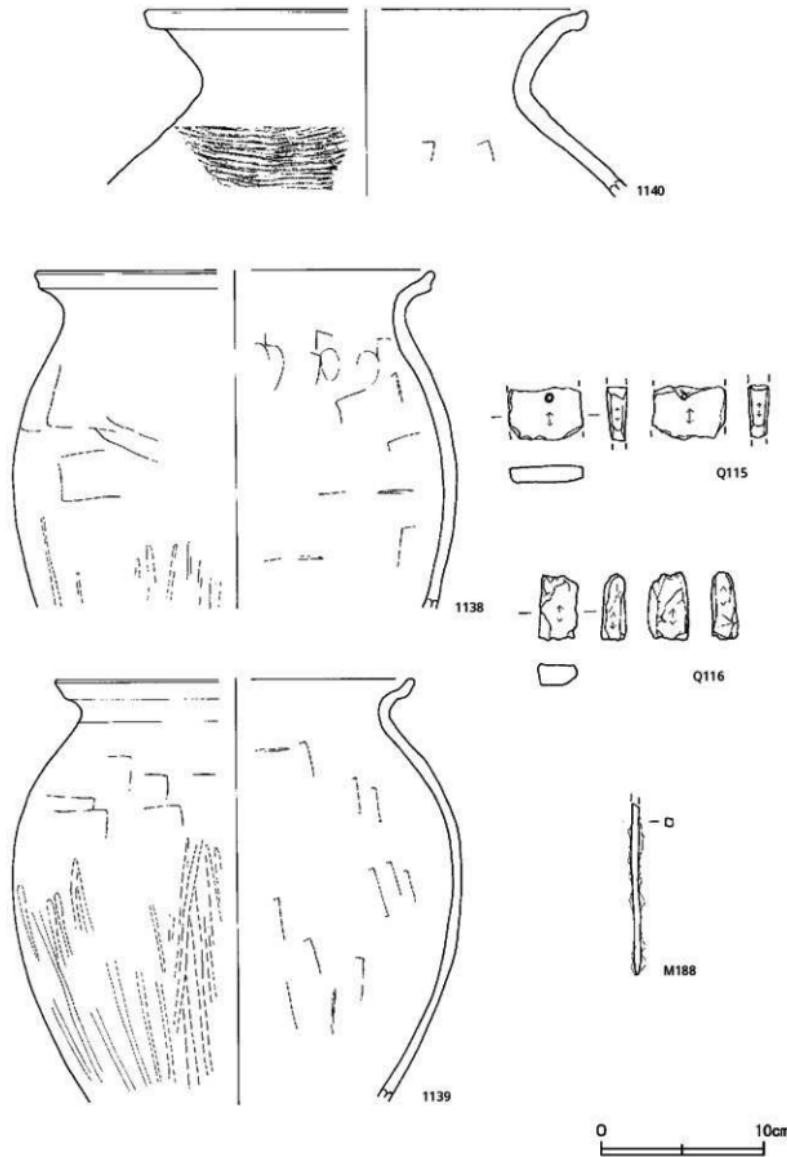
所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第87図 第131号住居跡実測図



第88図 第131号住居跡・出土遺物実測図



第89図 第131号住居跡出土遺物実測図

第131号住居跡出土遺物観察表（第88・89図）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1133	須恵器	环	[14.6] (42)	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	体部内・外側口クロナダ	縄土下層	10%	
1134	須恵器	环	[14.4] 42	8.2	長石・石英・雲母	褐灰	素面	体部内・外側口クロナダ	底部二方向の手持ち	縄土中層	40%	
1135	須恵器	环	[13.8]	3.9	8.6	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内・外側口クロナダ	底部下端・底部回転式手割り	縄土中層	60% PL32
1136	須恵器	环	[13.8]	3.6	8.6	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部内・外側口クロナダ	底部一方向の手持ち	縄土下層	70% PL32
1137	須恵器	高台付环	[15.6]	4.5	9.6	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内・外側口クロナダ	底部一方向の手持ち	縄土下層	70% PL35
1138	土器新	瓶	[24.3]	(20.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐色	素面	体部内・外側口クロナダ	外側下端回転ヘラ削り・底部回転ヘラ削り付	縄土中層	20%
1139	土器新	瓶	[21.8] (25.9)	-	-	長石・石英	にふり模様	普通	体部内・外側口クロナダ	外側下端回転ヘラ削り・底部回転ヘラ削り付	縄土上層 - 面表	50%
1140	須恵器	瓶	[27.0] (11.4)	-	-	長石・石英・黑色粒子	黄灰	普通	体部外側横方向の平行叩き目	内面ヘラナダ	面表	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q115	砕石	(3.3)	4.7	1.2	(26.0)	砂岩	底面4面 空孔	縄土上層	
Q116	砕石	4.0	2.3	1.5	20.5	砂岩	底面4面	縄土中層	
M186	瓶	(10.5)	0.4	0.5	(8.9)	該	閉不明 縫跡欠損	縄土下層	

第133号住居跡（第90～92図）

位置 調査区東部のB 2 b6区、標高24mの平坦な台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第401号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が調査区域外に延びているため、東西軸は4.98mで、南北軸は1.49mだけが確認されている。

平面形は方形もしくは長方形と推測され、主軸方向はN- 4° Eである。壁高は92～100cmで、直立している。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで145cm、袖部幅203cmである。袖部は掘り残した地山を基部にして、その上に沙質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁を60cmほど掘り込み、火床部から外側して立ち上がりっている。

竈土層解説

1	暗褐色	色	砂質粘土粒子中量	燒土ブロック・炭化粒子微量	12	黒褐色	燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量		
2	暗赤褐色	色	砂質粘土粒子中量	燒土粒子少量・炭化粒子微量	13	にふり青褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量		
3	黒褐色	色	燒土ブロック中量	砂質粒子・炭化粒子微量	14	赤褐色	燒土ブロック中量・砂質粘土粒子少量		
4	黒褐色	色	燒土ブロック	砂質粒子・炭化粒子微量	15	暗褐色	燒土ブロック少量・炭化粒子微量		
5	暗褐色	色	砂質粘土粒子中量	燒土ブロック少量・炭化粒子微量	16	灰黃褐色	砂質粘土粒子多量・燒土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・礫微量		
6	暗赤褐色	色	燒土ブロック	炭化粒子微量	17	暗灰褐色	砂質粘土粒子中量・ロームブロック・燒土ブロック微量		
7	暗赤褐色	色	燒土ブロック	砂質粘土粒子少量・炭化粒子微量	18	にふり褐色	燒土ブロック多量		
8	暗赤褐色	色	燒土粒子中量	炭化粒子微量	19	黒褐色	ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子微量		
9	暗赤褐色	色	燒土ブロック	炭化粒子少量					
10	極暗赤褐色	色	燒土ブロック	炭化粒子少量・砂質粘土粒子微量					
11	極暗赤褐色	色	燒土ブロック	炭化粒子少量					

ピット 6か所。P 1・P 2は深さ50cm・56cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 3・P 4は深さ29

cm・37cmで、配置から竈に伴うピットと考えられるが、性格は不明である。P 5・P 6は深さ20cm・30cmで、配置から、主柱穴の立て替えと考えられる。

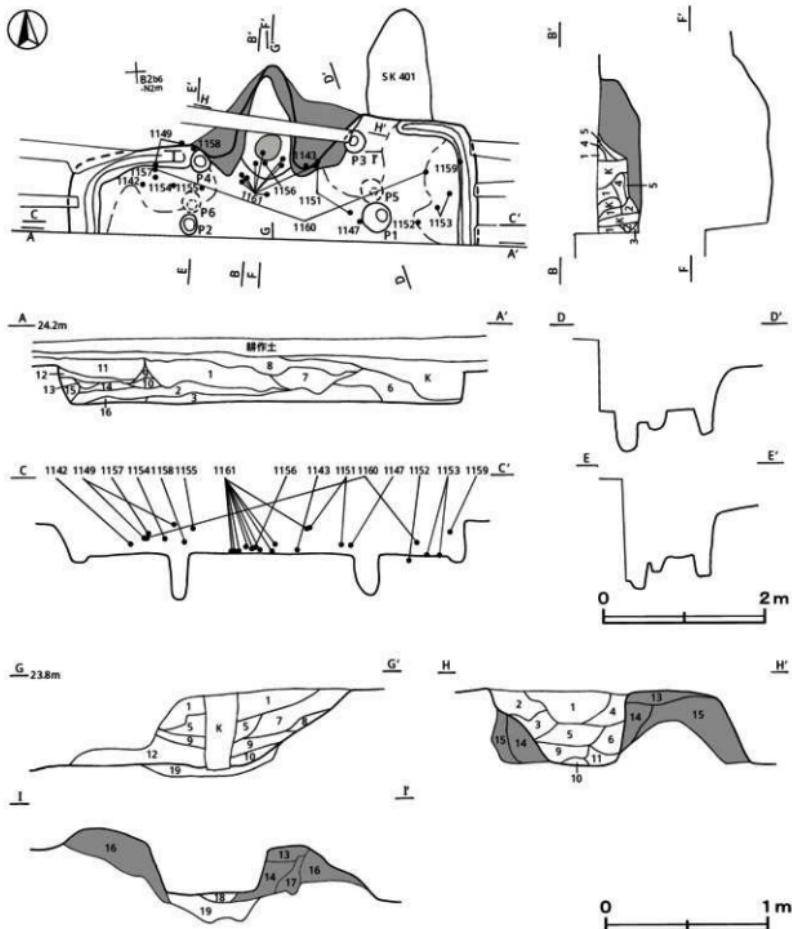
覆土 16層に分層される。ブロック状の不自然な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

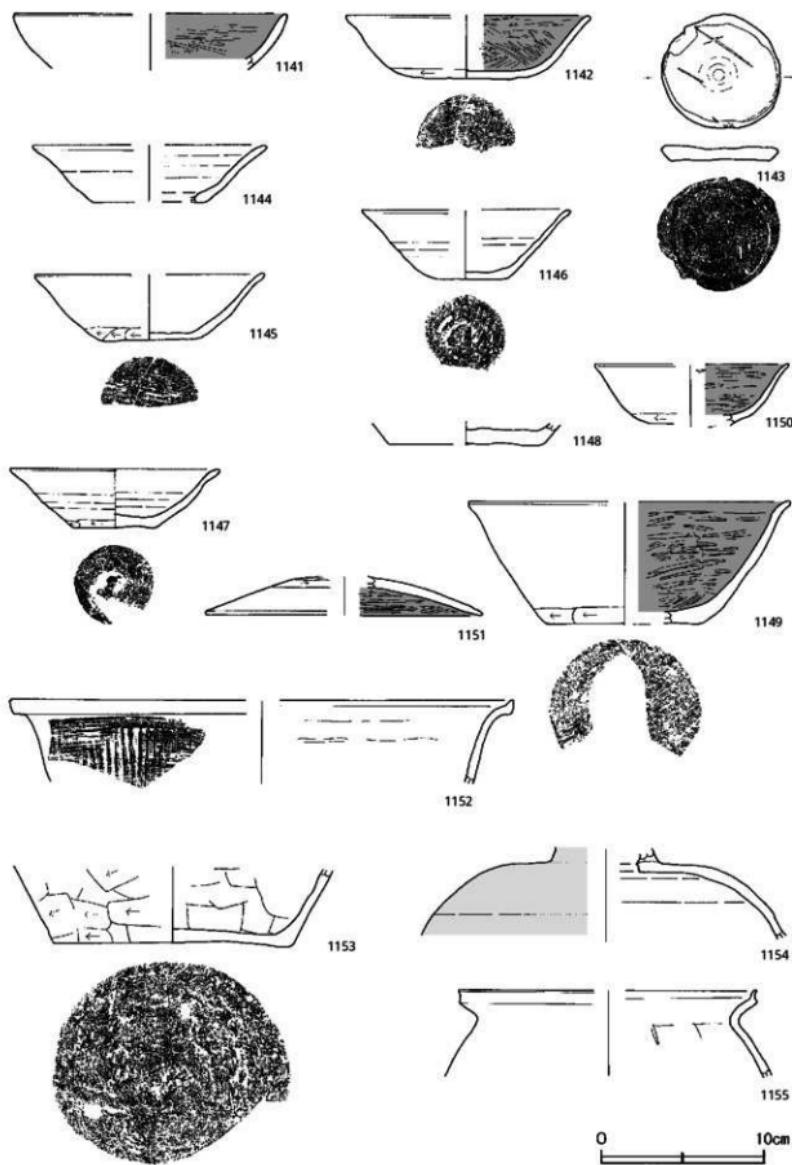
1	黒褐色	色	燒土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	9	黒褐色	ロームブロック少量・燒土ブロック微量
2	黒褐色	色	燒土ブロック・炭化物・粘土粒子微量	10	黒褐色	ロームブロック少量・燒土粒子微量
3	黒褐色	色	燒土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	11	黒褐色	ロームブロック・燒土ブロック微量
4	褐色	色	燒土ブロック・炭化物・粘土粒子微量	12	黒褐色	ローム粒子微量・炭化粒子微量
5	褐色	色	燒土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	13	黒褐色	ロームブロック少量
6	黒褐色	色	ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子微量	14	黒褐色	ローム粒子微量・燒土ブロック微量
7	黒褐色	色	燒土ブロック少量・ロームブロック・炭化粒子微量	15	黒褐色	ロームブロック少量
8	黒褐色	色	ロームブロック・燒土ブロック微量	16	暗褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片334点(環19, 高台付椀1, 蓋3, 鉢1, 瓢310), 須恵器片123点(环50, 高台付椀2, 蓋2, 盤3, 團2, 鉢5, 瓢59), 灰釉陶器片1点(長頸瓶), 鉄製品2点(鎌)のほかに, 混入とみられる陶磁器片4点も出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は, 土師器坏3点, 蓋1点, 鉢1点, 瓢10点, 須恵器坏11点, 高台付椀1点, 盤1点, 鉢4点, 灰釉陶器長頸瓶1点である。土器片は, 覆土上層から床面にかけて多量に出土している。1161は甕の覆土下層から集中して出土している。

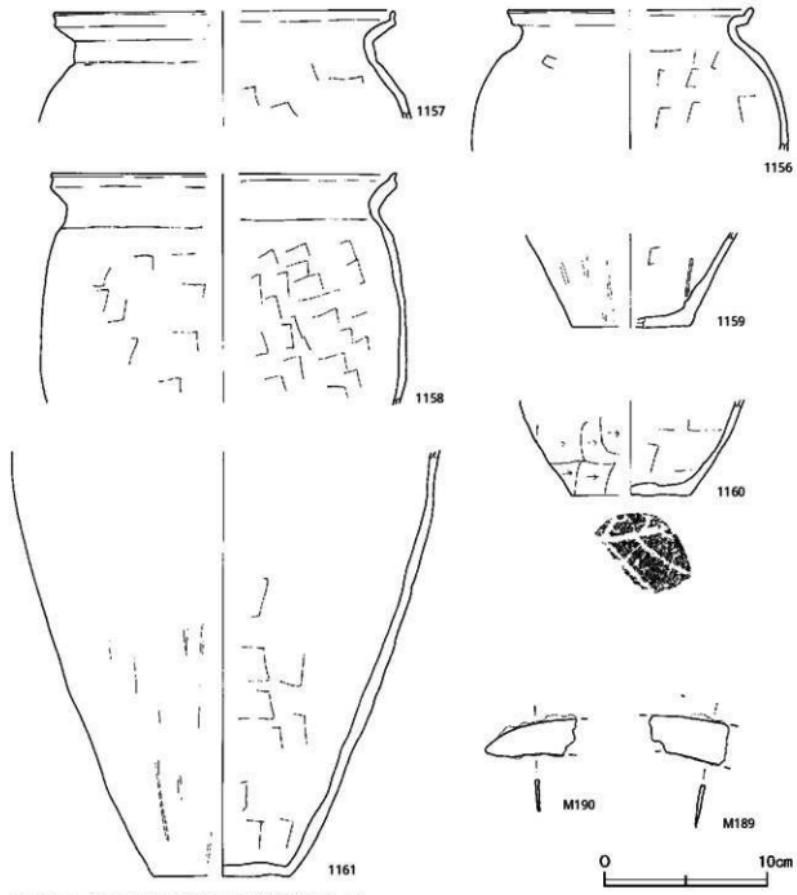
所見 時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第90図 第133号住居跡実測図



第91図 第133号住居跡出土遺物実測図(1)



第92図 第133号住居跡出土遺物実測図(2)

第133号住居跡出土遺物観察表(第91・92図)

番号	種別	縦幅	口径	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1141	土鋤器	环	[16.0]	(3.4)	-	長石・石英、赤色粒子	にぶい質	普通	体部内・外周口クロナギ 内面横方向のヘラ削り	壁土上層	5%
1142	土鋤器	环	[15.0]	39	60	長石・石英、赤色粒子	にぶい質	普通	体部内・外周口クロナギ 外周下端～底部回転ヘラ削り 内面横方向のヘラ削き	壁土下層	50% PL30
1143	土鋤器	环	-	(10.0)	59	長石・石英、赤色粒子	にぶい赤褐	普通	底部一方向の手持ちヘラ削り	壁土下層	10% 土鋤用
1144	漁網器	环	[14.4]	35	[7.8]	長石・石英、赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部内・外周口クロナギ	壁土下層	5%
1145	漁網器	环	[14.0]	40	60	長石・石英、赤色粒子	にぶい質	普通	体部内・外周口クロナギ 外周下端手持ちヘラ削り 底部一方向の手持ちヘラ削り	壁土上層～中層	10%
1146	漁網器	环	[12.6]	42	46	長石・石英、黒色粒子	黄灰	普通	体部内・外周口クロナギ 底部回転ヘラ削り 一方向の手持ちヘラ削り	壁土上層～中層	40%
1147	漁網器	环	12.9	37	49	長石・石英、赤母	褐灰	普通	体部内・外周口クロナギ 外周下端手持ちヘラ削り 尾端側ヘラ削り 一方向の手持ちヘラ削り	壁土下層	90% PL32

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1148	須恵器	环	-	(12)	[9]	長石・石英・ 砂質粘土粒子少量	灰白	普通	底部一方向への持ちへら削り	壇土中	5%
1149	土師器	鉢	[19.7]	7.5	9.5	長石・石英・ 砂質粘土粒子少量	棕	普通	底部内・外側口クロナギ、外裏下部手持ちへら削り 内面横方向へのうねり、底部一方の手舟へら削り	壇土上層～ 中層	40% PL36
1150	土師器	高台舟	[12.0]	(3.8)	[5.0]	長石・石英・ 砂質粘土粒子少量	棕	普通	底部内・外側口クロナギ、外裏下端～底部回 転へら削り、内面横方向へのうねり	壇土中層	10%
1151	土師器	蓋	[17.0]	(2.3)	-	長石・石英・ 砂質粘土粒子少量	在内1黄橙	普通	底部内・外側口クロナギ、天井部回転へら削 り、内面横方向へのうねり	壇土上層～ 下層	40% PL36
1152	須恵器	鉢	[31.0]	(5.2)	-	長石・石英・ 砂質粘土粒子少量	黑	普通	底部内・外側口クロナギ、底部回転へら削 り、内面横方向へのうねり	壇土	5%
1153	須恵器	环	-	(4.8)	14.7	長石・石英・ 砂質粘土粒子少量	明褐	普通	底部内・外側口クロナギ、内面へら削り	壇土	10%
1154	灰陶陶器	長横瓶	-	(5.6)	-	長石・赤色粒子 微量	暗灰黒	普通	クロナギ、輪部貼り付け、輪脚：オリーブ 灰色	壇土中層	10% PL37
1155	土師器	瓶	[18.4]	(5.2)	-	長石・石英・ 砂質粘土粒子少量	棕	普通	口縁部内・外側横ナギ、底部外側摩滅、内面 へら削り	壇土上層	5%
1156	土師器	瓶	[15.2]	(8.7)	-	長石・石英・ 砂質粘土粒子少量	在内1赤褐	普通	口縁部内・外側横ナギ、底部外側摩滅、内面 へら削り	壇土下層	5%
1157	土師器	瓶	[20.8]	(6.7)	-	長石・石英・ 砂質粘土粒子少量	在内1黄	普通	口縁部内・外側横ナギ、底部内・外側へラナ ギ	壇土上層～ 中層	5%
1158	土師器	瓶	[21.2]	(14.1)	-	長石・石英・ 砂質粘土粒子少量	棕	普通	口縁部内・外側横ナギ、底部内・外側へラナ ギ	壇土下層	10%
1159	土師器	瓶	-	(5.7)	[7.2]	長石・石英・ 砂質粘土粒子少量	在内1黄	普通	底部外側へら削り、内面へラナギ、底部木薪 痕	壇土上層	10%
1160	土師器	瓶	-	(5.8)	[7.0]	長石・石英・ 砂質粘土粒子少量	在内1黄	普通	底部外側へら削り、内面へラナギ、底部木薪 痕	壇土中層	10%
1161	土師器	瓶	-	(26.1)	[8.4]	長石・石英・ 砂質粘土粒子少量	灰褐	普通	底部外側へら削り、内面へラナギ、底部木薪 痕	壇土上層～ 下層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M189	罐	(5.0)	2.7	0.3	(15.0)	鉄	先施部・基部欠損 直刃カ M190と同一個体	壇土中	
M190	罐	(5.7)	2.2	0.2	(9.7)	鉄	基部欠損 直刃カ M189と同一個体	壇土中	

第134号住居跡（第93・94図）

位置 調査区東部のA 1 i8区の、標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 北西部が調査区域外に延びてあり、確認できた範囲は、長軸325m、短軸3.20mである。平面形は方形と推測され、主軸方向はN-14°-Wである。壁高は40-42cmで、直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が周全している。

窓 北壁のやや西寄りに付設されている。確認できた範囲の規模は、焚口部から煙道部まで95cm、袖部幅105cmである。袖部は、掘り残した地山を基部として、その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を20cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっていると推測される。

電土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------------|-----------|--------------------------------------|
| 1 線赤褐色 | 燒土粒子・炭化粒子少量、砂質粘土粒子少量 | 8 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、燒土ブロック・ローム粒子少
量、炭化ブロック微量 |
| 2 線赤褐色 | 燒土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化物・ロー
ム粒子微量 | 9 にぶい褐色 | 燒土粒子多量、砂質粘土粒子中量、炭化粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 燒土ブロック中量、砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 10 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量、燒土ブロック微量 |
| 4 褐色 | 砂質粘土粒子中量、燒土ブロック・ローム粒子・
炭化粒子少量 | 11 褐色 | 砂質粘土粒子多量、ロームブロック・燒土粒子微量
炭化粒子微量 |
| 5 線赤褐色 | 燒土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量 | 12 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量、ロームブロック・燒土粒子・
炭化粒子微量 |
| 6 線赤褐色 | ロームブロック中量、炭化物・砂質粘土粒子微量 | 13 暗褐色褐色 | 砂質粘土粒子少量、燒土ブロック・炭化物微量 |
| 7 にぶい赤褐色 | 燒土ブロック中量、砂質粘土粒子少量、炭化物微量 | 14 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量、燒土ブロック・炭化粒子微量 |

ピット 3か所。P 1・P 2は深さ25cm・27cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 3は深さ24cmで、南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

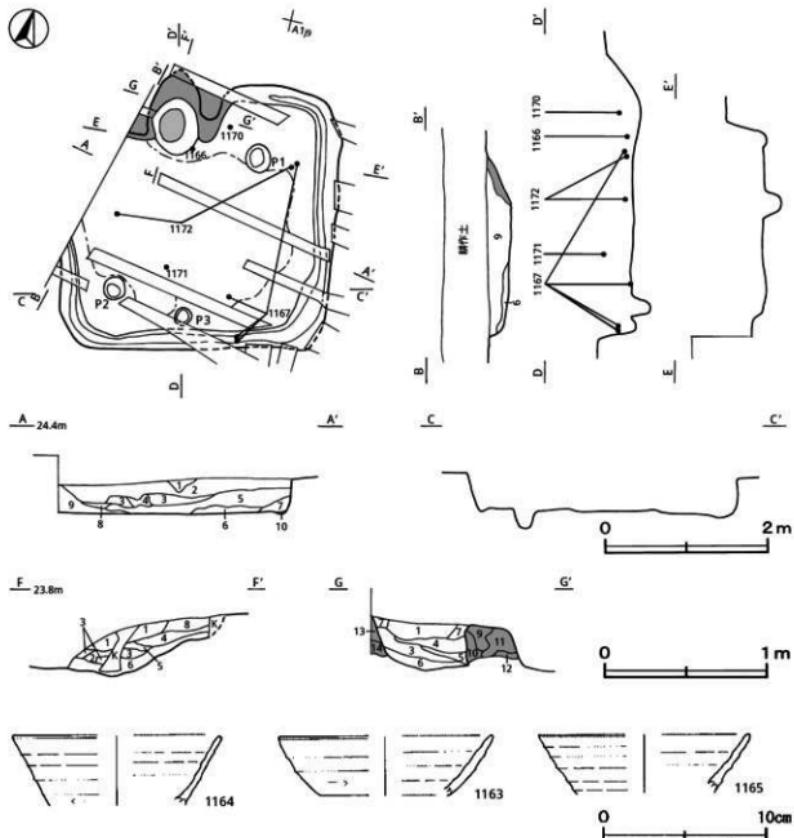
覆土 10層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土器解説

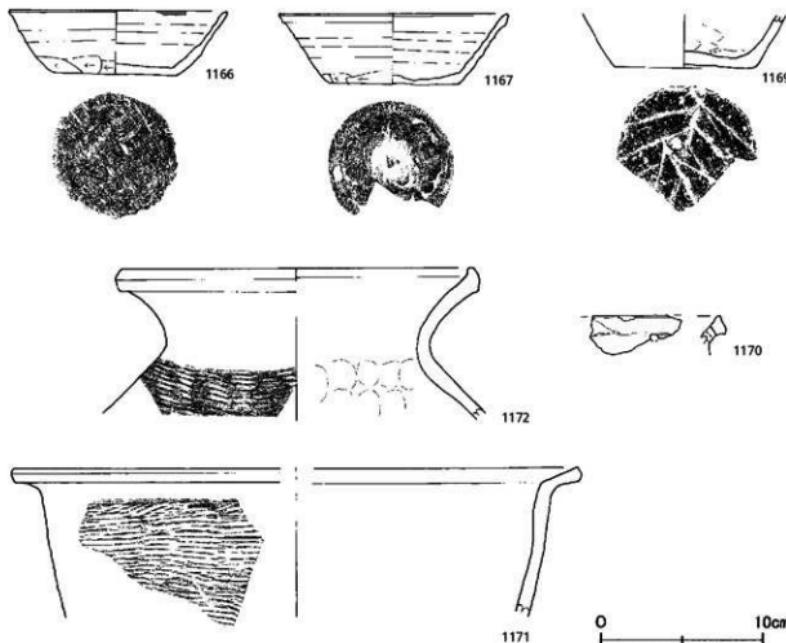
1 黒 植 色	炭化粒子少量・ローム粒子・焼土粒子微量	7 暗 植 色	ロームブロック多量・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 植 色	ロームブロック中量・燒土粒子・炭化粒子少量	8 黒 植 色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
3 暗 植 色	ロームブロック中量・燒土粒子少量・炭化粒子微量	9 暗 植 色	ロームブロック・砂質粘土粒子中量・炭化物・燒土粒子微量
4 暗 植 色	燒土ブロック少量・炭化粒子微量	10 暗 植 色	ロームブロック多量・炭化粒子微量
5 暗 植 色	ロームブロック多量・燒土粒子・炭化粒子微量		
6 暗 植 色	ロームブロック中量・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土器片108点(坏7, 楯101), 須恵器片60点(坏33, 盤1, 鉢6, 楯20), 石器1点(砥石)のほかに, 混入とみられる陶磁器片7点も出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は, 土器片3点, 須恵器片7点, 鉢4点, 楯1点である。1166は竈前方の床面から正位で出土している。1167は西部の覆土中層から床面にかけて散在して出土した破片が接合したものである。1170は北部の覆土中層から出土しており, 口縁部に焼成後の穿孔がみられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第93図 第134号住居跡・出土遺物実測図



第94図 第134号住居跡出土遺物実測図

第134号住居跡出土遺物観察表（第93・94図）

番号	種別	器種	口径	縦高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1163	須恵器	环	[13.2]	3.6	(8.0)	長石・石英・赤色粒子	にぬり黄橙	普通	体部内・外周口クロナデ 外腹下半回転ヘラ削り	層土下層	10%
1164	須恵器	环	[12.8]	(4.3)	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部内・外周口クロナデ 体部下端回転ヘラ削り	層土下層	10%
1165	須恵器	环	[13.0]	(3.7)	-	長石・石英・赤母	黄灰	普通	体部内・外周口クロナデ	層土下層	25%
1166	須恵器	环	13.3	4.0	7.6	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	体部内・外周口クロナデ 外腹下半端持ちへラ削り 方向に手を替へラ削り	層土	80% PL32 口部無施釉付帯
1167	須恵器	环	14.0	4.3	7.8	長石・石英・赤色粒子	にぬり褐	普通	体部内・外周口クロナデ 外腹下半端持ちへラ削り 肩部内・外周口斜め削り 方向に手を替へラ削り	層土中層～ 須土	80% PL32
1169	土師器	瓶	-	(3.3)	8.6	長石・石英・赤色粒子	にぬり褐	普通	体部外へラ削き 内面へラナデ 底部木漁網	層土下層	5%
1170	須恵器	鉢	-	(2.4)	-	長石・石英・赤母	灰	普通	口縁部内・外周模ナデ 口縁部下に補修孔	層土中層	5%
1171	須恵器	鉢	[34.8]	(9.1)	-	長石・石英・赤母	黄灰	普通	口縁部内・外周模ナデ 体部外周模位の平行	層土上層	5%
1172	須恵器	瓶	21.5	(9.3)	-	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	口縁部内・外周模ナデ 体部外周模方向への平	層土下層	10%

第135号住居跡（第95～98図）

位置 調査区東部のA 1h9区の、標高24mの平坦な台地上の縁辺部に位置している。

重複関係 第11号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外に延びてあり、南東部は搅乱を受けているため、南北軸は4.00m、東西軸は

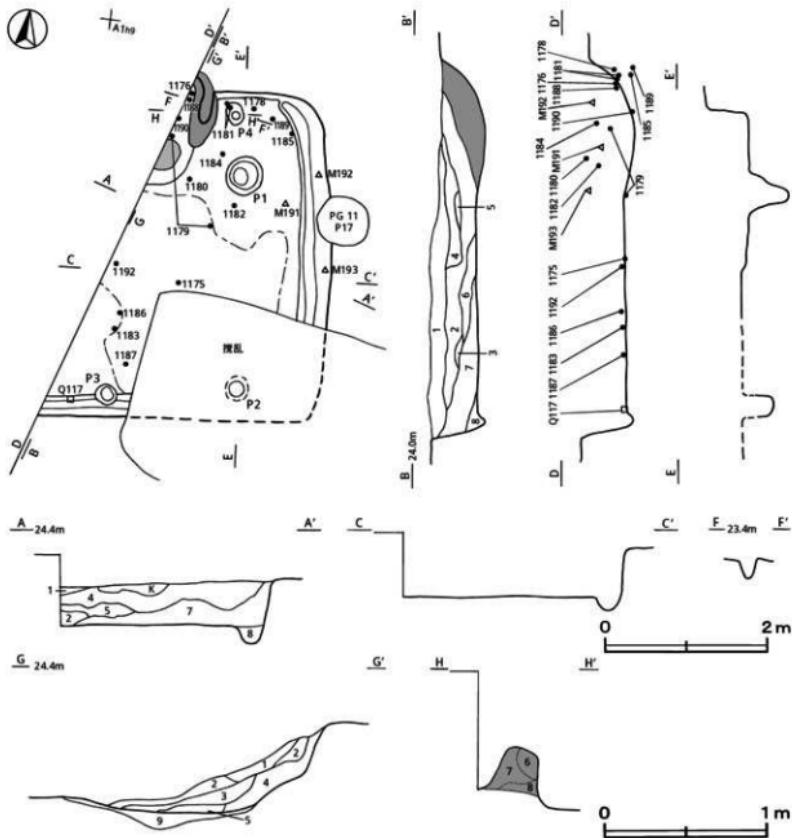
284mだけが確認されている。平面形は方形もしくは長方形と推測され、主軸方向はN-4°-Wである。壁高は60cmほどで、直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部付近に付設されている。確認できた規模は、焚口部から煙道部まで145cm、袖部幅74cmである。袖部は地山を基部として、その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を30cmほど掘り込み、火床部から外傾して立ち上がっている。

遺土層解説

1	褐	色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少 量、炭化粒子微量	5	暗	褐	色	焼土ブロック多量、炭化粒子微量
2	暗	褐	色	6	暗	褐	色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子微量
3	暗	褐	色	7	にふり度強	褐	色	砂質粘土ブロック多量
4	暗	褐	色	8	褐	色	色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量
				9	褐	色	色	砂質粘土ブロック中量



第95図 第135号住居跡実測図

ピット 4か所。P 1・P 2は深さ57cm・44cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 3は深さ41cmで、南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 4は深さ25cmで、竈袖部の東側に位置しているが、性格は不明である。

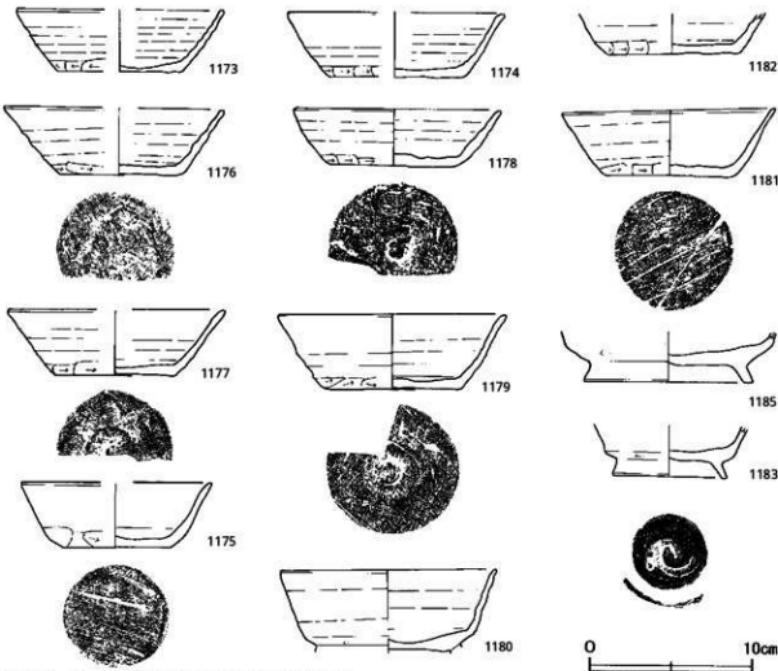
覆土 8層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

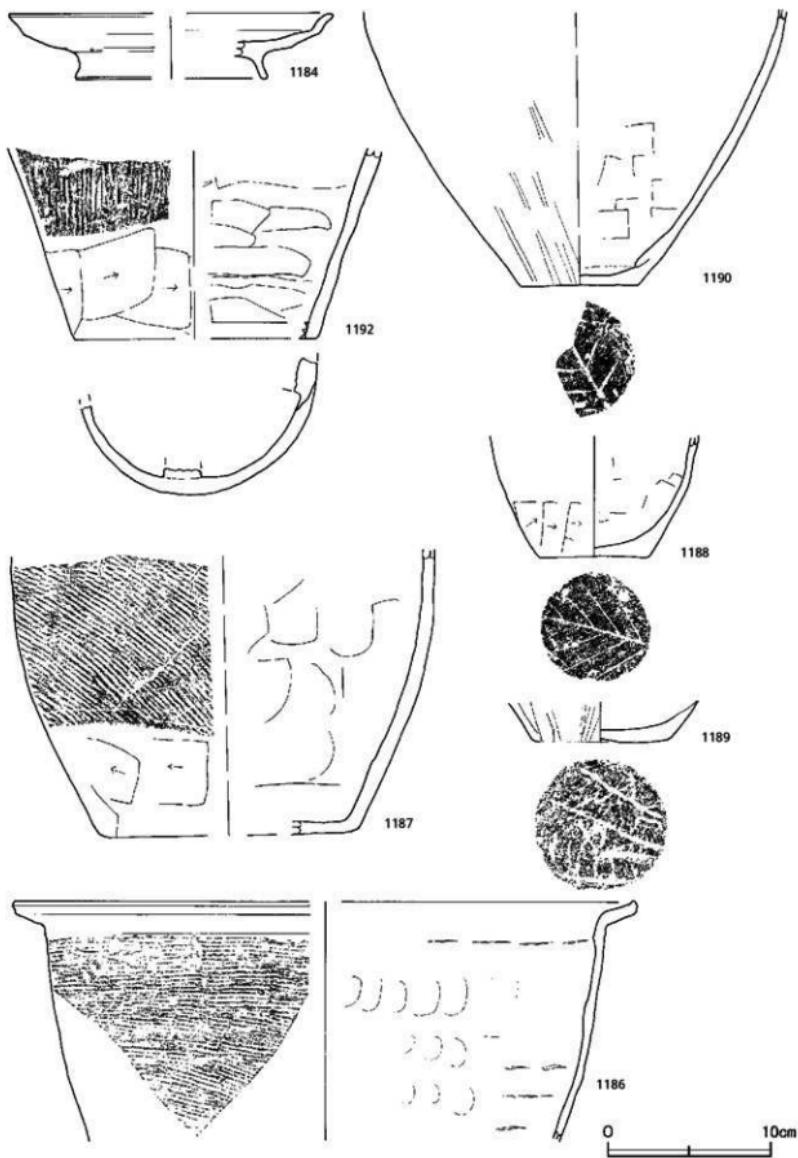
1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	6 暗 褐 色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量	7 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
3 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 土粒子微量
4 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	
5 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量、砂質粘	

遺物出土状況 土器片261点(坏38, 裹223), 須恵器片177点(坏123, 高台付坏4, 盘3, 鉢5, 裹35, 盆7), 石器1点(砥石), 鉄製品4点(刀子2, 錐2)のほかに, 混入した繩文土器片1点(深鉢), 土師質土器片1点(鍋類), 陶器片3点も出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は土師器壺14点, 須恵器壺27点, 高台付坏3点, 盘1点, 鉢2点, 裹1点, 盆1点である。土器片は, 覆土上層から床面にかけて散在して出土している。

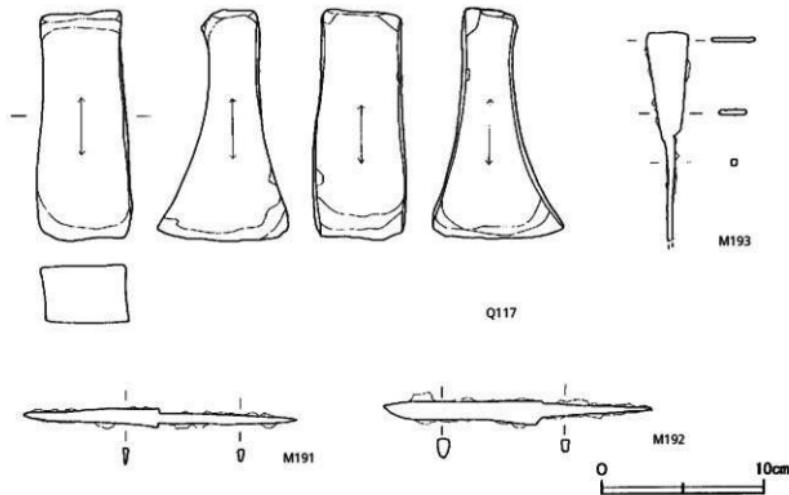
所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第96図 第135号住居跡出土遺物実測図(1)



第97図 第135号住居跡出土遺物実測図(2)



第98図 第135号住居跡出土遺物実測図(3)

第135号住居跡出土遺物観察表(第96~98図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1173	須恵器	环	[12.6]	3.8	[7.8]	長石・石英、黒色粒子	灰	普通	体部内・外面クロロナデ 外面下端手持ちへラ削り 底部一方向の手持ちへラ削り	壇土下層	20%
1174	須恵器	环	[13.4]	4.0	[8.0]	長石・石英、黒色粒子	黄灰	普通	体部内・外面クロロナデ 外面下端手持ちへラ削り 底部一方向の手持ちへラ削り	壇土上層	25%
1175	須恵器	环	[11.8]	4.0	6.6	長石・石英、黒色粒子	褐灰	普通	体部内・外面クロロナデ 外面下端手持ちへラ削り 底部一方向の手持ちへラ削り	床面	70% PL32
1176	須恵器	环	[13.3]	4.1	7.4	長石・石英、黒色粒子	灰	普通	体部内・外面クロロナデ 外面下端手持ちへラ削り 底部一方向の手持ちへラ削り	壇土下層	50% PL32
1177	須恵器	环	[13.2]	4.1	7.2	長石・石英、黒色粒子	黄灰	普通	体部内・外面クロロナデ 外面下端手持ちへラ削り 底部一方向の手持ちへラ削り	壇土上層	40%
1178	須恵器	环	12.6	3.6	7.6	長石・石英、黒色粒子	灰	普通	体部内・外面クロロナデ 外面下端手持ちへラ削り 底部回転へラ削り一方向の手持ちへラ削り	壇土下層	60% PL32
1179	須恵器	环	13.9	4.7	8.2	長石・石英	灰	普通	体部内・外面クロロナデ 外面下端手持ちへラ削り 底部回転へラ削り二方向の手持ちへラ削り	壇土中層~	55% PL32
1180	須恵器	高台付环	13.2	(5.0)	-	長石・石英、黒色粒子	褐灰	普通	体部内・外面クロロナデ 底部回転へラ削り 壁面に貼り付け	壇土上層	40% PL35
1181	須恵器	环	13.1	4.2	7.4	長石・石英、雲母	灰	普通	体部内・外面クロロナデ 外面下端手持ちへラ削り 底部一方向の手持ちへラ削り	壇土下層	70% PL32
1182	須恵器	环	-	(2.5)	8.0	長石・石英、黒色粒子	灰白	普通	体部内・外面クロロナデ 外面下端手持ちへラ削り 底部回転へラ削り	壇土上層	20%
1183	須恵器	高台付环	-	(3.2)	7.0	長石・石英、黒色粒子	灰	普通	体部内・外面クロロナデ 底部回転へラ削り 壁面に貼り付け	床面	10%
1184	須恵器	盤	[19.7]	4.0	[11.6]	長石・石英、黒色粒子	灰白	普通	体部内・外面クロロナデ 底部回転へラ削り 壁面に貼り付け	壇土上層	10%
1185	須恵器	高台付环	-	(3.1)	10.2	長石・石英	灰	普通	体部内・外面クロロナデ 底部回転へラ削り 壁面に貼り付け	壇土下層	10%
1186	須恵器	盤	[38.0]	(14.7)	-	長石・石英、雲母、黒色粒子	灰	普通	口縁内・外面クロロナデ 体部外縁位の平行 焼成	床面	15%
1187	須恵器	盤	-	(17.4)	[14.7]	長石・石英、雲母	灰褐	普通	体部外縁位の平行 口縁内・下端へラ削り 内部當て具輪 底部ノズル	床面	10%
1188	土師器	盤	-	(7.4)	6.8	長石・石英、雲母	暗赤褐	普通	体部外側ナデ 下端へラ削り 内面へラナデ 底部木架痕	壇土下層	10%
1189	土師器	盤	-	(2.5)	8.0	長石・石英、雲母	褐	普通	体部外側へラ削き 内面へラナデ 底部木架痕	床面	5%
1190	土師器	盤	-	(16.8)	7.0	長石・石英、黒色粒子	褐	普通	体部外側へラ削き 内面へラナデ 底部木架痕	壇土中	5%
1192	須恵器	瓶	-	(11.7)	[14.8]	長石・雲母、緑	灰	普通	体部裏位の平行 口縁内・下端へラ削り 内面へラナデ	床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q117	砥石	141	5.7	8.1	701.0	砂岩	砥面4面	埴土下層	PL47
M191	刀子	167	1.2	0.4	11.7	鉄	両面	埴土上層	PL48
M192	刀子	166	1.4	0.6	20.8	鉄	両面	埴土上層	PL48
M193	鎌	(128)	2.7	0.4	(242)	鉄	鍔面方頭刃鋒 両面 基部欠損	埴土上層	PL48

第136号住居跡 (第99~101図)

位置 調査区東部のA 2 d0区, 標高24mの平坦な台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第138号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北部及び東部が調査区域外に延びているため, 南北軸は2.93m, 東西軸は2.74mだけが確認されている。平面形は方形もしくは長方形と推測され, 南北軸方向はN-0°である。壁高は49~52cmで, 直立している。

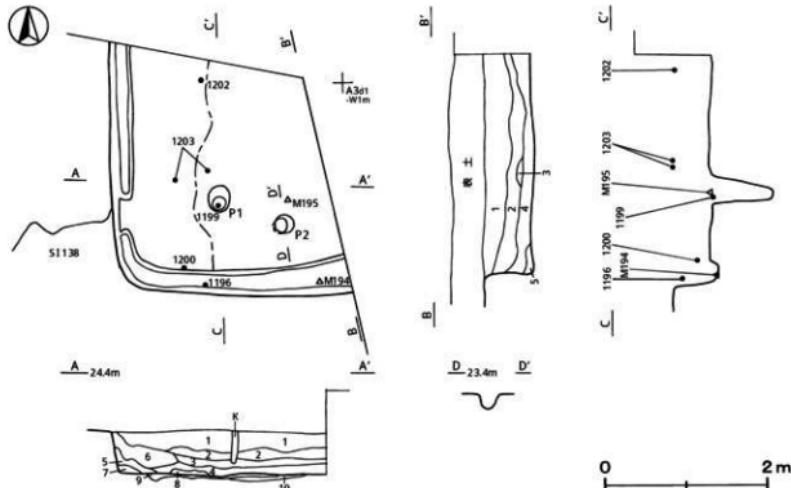
床 平坦で, 東部が踏み固められている。確認された範囲では, 壁溝がほぼ全周している。

ピット 2か所。P 1は深さ79cmで, 規模と配置から主柱穴と考えられる。P 2は深さ25cmで, 南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 10層に分層される。各層にロームブロック・焼土ブロックを含む不均質な堆積状況を示しており, 人為堆積と考えられる。

土層解説

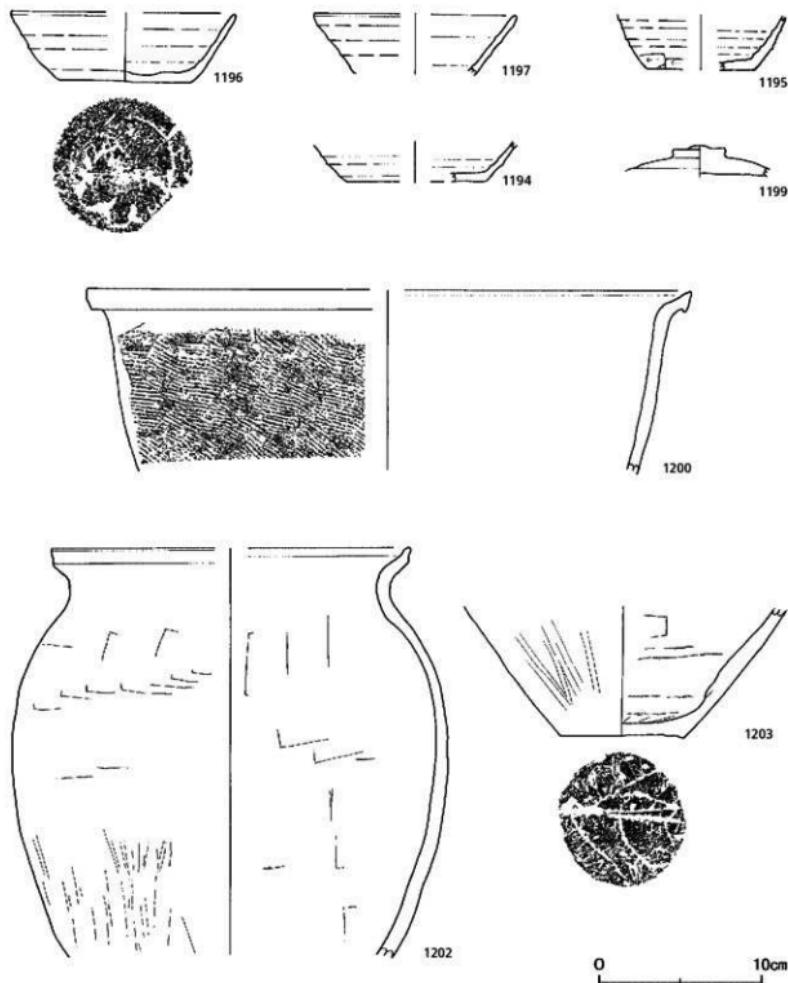
1 黒 緑 色	ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子少量	7 喰 緑 色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
2 黒 緑 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	8 喰 緑 色	ロームブロック少量, 烧土粒子, 炭化粒子微量
3 喰 緑 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	9 喰 緑 色	ロームブロック少量, 烧土粒子・粘土粒子微量
4 喰 緑 色	ロームブロック中量, 烧土ブロック・炭化粒子微量	10 黒 緑 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
5 喰 緑 色	ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量		
6 喰 緑 色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 烧土粒子微量		



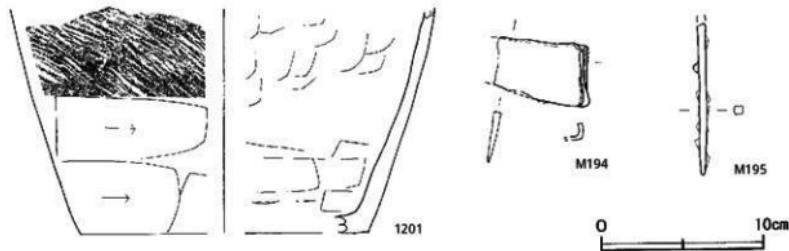
第99図 第136号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片148点（坏8，甕140），須恵器片52点（坏45，蓋3，鉢4），鐵製品4点（鎌1，鏃1，不明2）が出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は土師器甕3点，須恵器坏10点，蓋2点，鉢2点である。土器片は，覆土上層から下層にかけて散在している。1196は，南部の覆土下層から壁溝の覆土にかけて出土した破片が接合したものである。

所見 時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第100図 第136号住居跡出土遺物実測図(1)



第101図 第136号住居跡出土遺物実測図(2)

第136号住居跡出土遺物観察表(第100・101図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1194	須恵器	杯	-	(25)	[84]	長石・石英	黄灰	普通	体部内・外側口クロナデ 底部回転ヘラ切り	埴土下層	5%
1195	須恵器	杯	-	(36)	[68]	長石・石英・ 雲母	黄灰	普通	体部内・外側口クロナデ 外側下端手持ちヘラ削り 少しひらげ三方向の手持ちヘラ削り	埴土下層	10% 火葬
1196	須恵器	杯	[13.7]	42	8.3	長石・石英・ 雲母	灰	普通	体部内・外側口クロナデ 底部回転ヘラ切り	埴土下層	50%
1197	須恵器	杯	[12.4]	(37)	-	長石・石英・ 雲母	灰黄	普通	体部内・外側口クロナデ	埴土上層・ 下層	60%
1199	須恵器	蓋	-	(19)	-	長石・石英	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り つまみ部貼り付け	P 土中	10%
1200	須恵器	鉢	[37.0]	(11.1)	-	長石・石英・ 雲母	灰	普通	切込み部内・外側口ヘラナデ	埴土下層	10%
1201	須恵器	鉢	-	(13.8)	[17.6]	長石・石英・礫	暗灰黄	普通	体部外側斜位の平行刃向凹目 下端ヘラ削り	埴土上層	10%
1202	土師器	瓶	[21.8]	(25.1)	-	長石・石英・ 雲母	明黄褐	普通	口縁部内・外側模ナデ 内面ヘラナデ	埴土上層	20%
1203	土師器	瓶	-	(8.0)	7.7	長石・石英・ 雲母	にぶい褐	普通	体部外側ヘラ削き 内面ヘラナデ 底部木葉	埴土上層	10%

番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M194	罐	(49)	3.1	0.3	(31.3)	鉄	基部全面折り曲げ 直刃カ	埴土下層	PL48
M195	罐	(9.3)	0.5	0.4	(8.0)	鉄	縦身欠損	底面	

第137号住居跡(第102・103図)

位置 調査区東部のA 2 e0区, 平坦な台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第138号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 東部が調査区域外に延びているため, 南北軸は3.40mで, 東西軸は1.68mだけが確認されている。

平面形は方形もしくは長方形と推測され, 主軸方向はN-2°-Eである。壁高は34~40cmで, 直立している。

床 平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。

竈 北壁中央部付近に付設されていると推測される。規模は, 炊口部から煙道部までが111cmで, 袖部幅は48cmだけが確認されている。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており, 火床面は火熱を受けて赤変化している。煙道部は壁を45cmほど掘り込み, 火床部から緩やかに立ち上がり, 端部で直立している。

竈土層解説

1 黒 桃 色	粘土粒子少量, 燃土ブロック・炭化物微量	5 黒 桃 色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック・炭化物・燃土粒子微量
2 黒 桃 色	燃土粒子少量, ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量	6 黒 桃 色	ロームブロック・燃土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量
3 暗 桃 色	砂質粘土粒子中量, 燃土ブロック・炭化物微量	7 暗赤 桃 色	燃土ブロック・炭化物少量, 砂質粘土粒子微量
4 暗 桃 色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック・燃土粒子・炭化物粒子少量	8 黒 桃 色	燃土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量

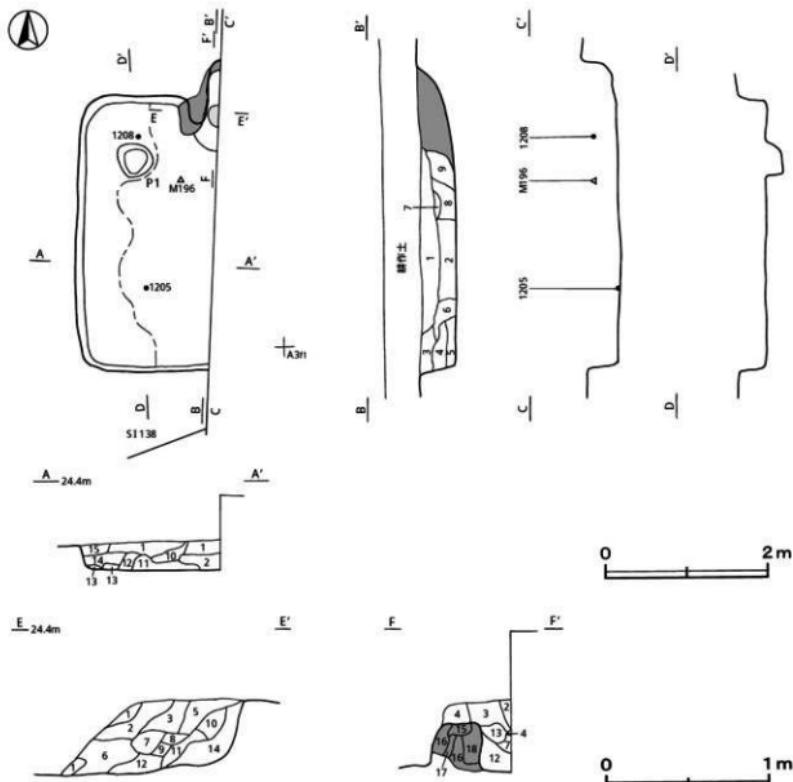
9	黒	褐	色	焼土ブロック・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量	15	黒	褐	色	焼土粒子中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量
10	黒	褐	色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化物微量	16	暗	褐	色	砂質粘土粒子多量、ロームブロック・焼土粒子少
11	黒	褐	色	焼土ブロック少量、炭化物微量	17	黒	褐	色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム
12	暗	赤	褐色	焼土ブロック少量、炭化物微量	18	暗	赤	褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
13	褐暗赤褐色			焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化物微量					
14	黒	褐	色	砂質粘土粒子少量、ロームブロック微量					

ピット 深さ21cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。

覆土 15層に分層される。ブロック状の不自然な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

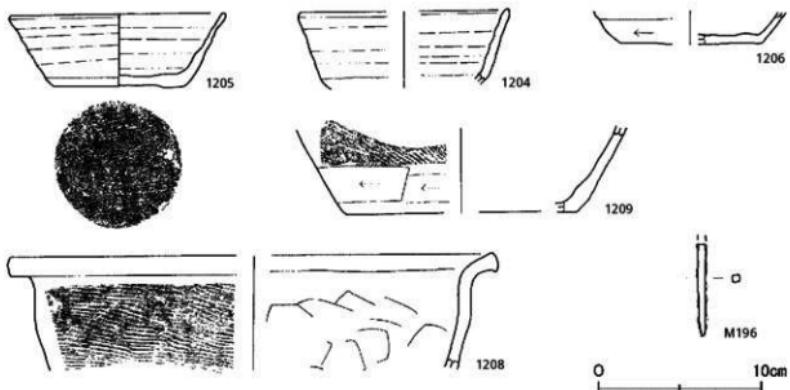
1	黒	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	9	黒	褐	色	焼土ブロック少量、炭化物・ローム粒子・砂質粘	
2	黒	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	10	極	暗	褐	色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
3	褐	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	11	黒	褐	色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	
4	褐	暗	褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	12	黒	褐	色	炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量	
5	黒	褐	色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	13	黒	褐	色	ロームブロック・炭化粒子微量	
6	黒	褐	色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量	14	黒	褐	色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量	
7	暗	褐	色	炭化粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子微量	15	黒	褐	色	ロームブロック・炭化粒子微量	
8	黒	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘						
				土粒子微量						



第102図 第137号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片92点(环5, 瓢87), 須恵器片42点(环21, 高台付环1, 蓋2, 鉢2, 瓢16), 鉄製品1点(釘)のほかに, 流れ込んだ縄文土器片1点(深鉢)も出土している。底部や口縁部などから推測される土器の個体数は, 土師器瓢2点, 須恵器环6点, 高台付环1点, 蓋2点, 鉢2点である。土器片は覆土上層から床面にかけて散在して出土している。1205は床面から逆位で出土している。

所見 時期は, 出出土器から8世紀後葉と考えられる。



第103図 第137号住居跡出土遺物実測図

第137号住居跡出土遺物観察表 (第103図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1204	須恵器	环	[12.8]	(4.6)	-	長石・石英、 雲母	黄灰	普通	体内部・外側口クロナデ 底部一方向の手持り	覆土上層	5%
1205	須恵器	环	13.2	4.6	8.0	長石・石英、 雲母・赤色粒子	灰青	普通	体内部・外側口クロナデ 底部一方向の手持り	床面	70% PL33
1206	須恵器	环	-	(2.0)	[8.6]	長石・石英、 雲母	黄灰	普通	外側口クロナデ 外側下端手持ちへ 内側斜面削り	覆土上層	5%
1208	須恵器	鉢	[29.6]	(7.0)	-	長石・石英	灰	普通	口縁部小、外唇端ナデ 体部外周縁部の平行 引き目 内面当て具痕	覆土上層	10%
1209	須恵器	鉢	-	(5.2)	[14.2]	長石・石英、 雲母	黄灰	普通	体部外周斜面の平行切き目 内面ナデ	覆土下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M196	釘	(5.7)	0.5	0.4	(38)	鉄	頭部欠損 角釘	覆土中層	

第139号住居跡 (第104~109図)

位置 調査区東部のA 2 b2区, 標高24mの平坦な台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第47号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北部が調査区域外に延びている。東西軸が5.30mで, 南北軸は4.05mが確認されている。平面形は方形もしくは長方形と推測され, 南北軸方向はN-5°-Wである。壁高は45~48cmで, 直立している。

床 平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。壁溝が周全している。

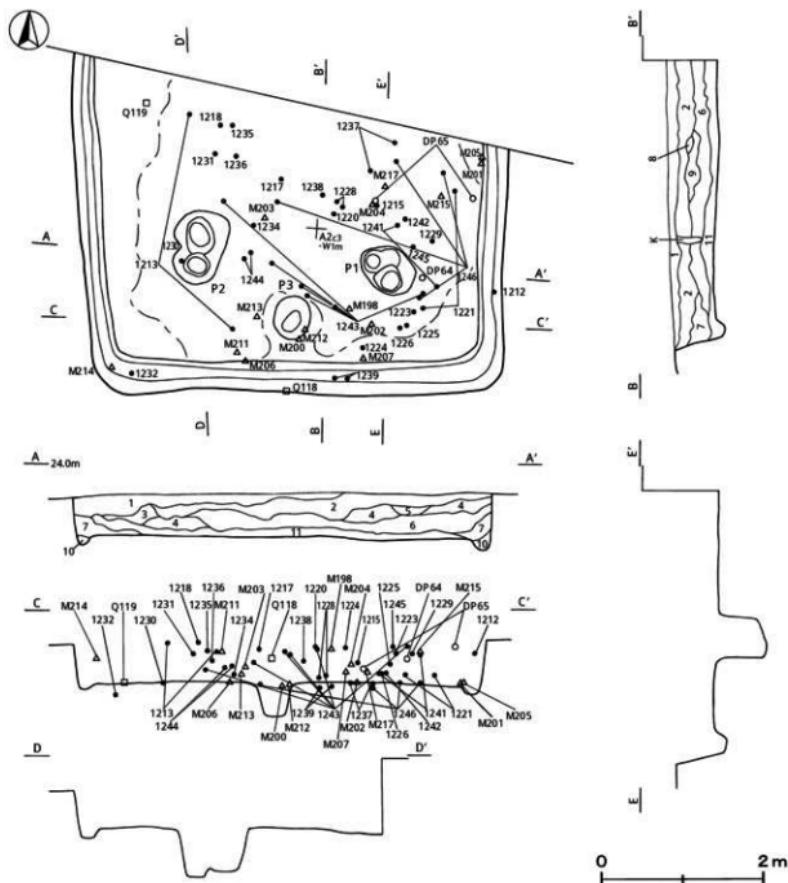
ピット 3か所。P 1・P 2は深さ54cm・65cmで, 規模と配置から主柱穴と考えられる。それぞれに2つの底

面が確認されており、柱を立て替えたと考えられる。P3は深さ46cmで、南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 11層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

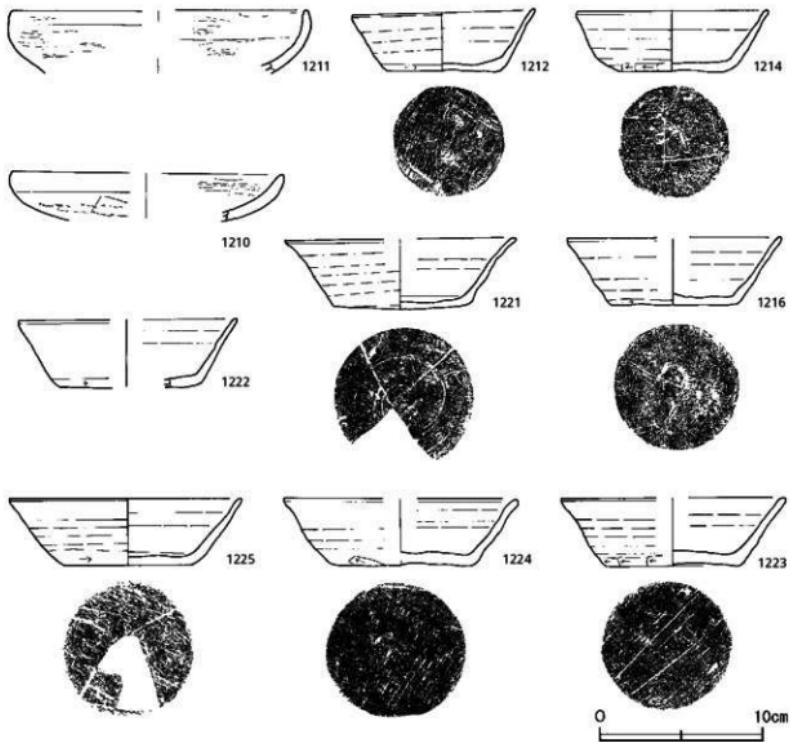
- | | | | | | |
|---|---------|--------------------------|----|----------|-------------------------------|
| 1 | 暗
褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 | 8 | 暗
褐色 | 砂質粘土ブロック多量、焼土粒子微量、
ローム粒子微量 |
| 2 | 暗
褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量 | 9 | 暗
赤褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化物微量 |
| 3 | 暗
褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量 | 10 | 褐
色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 | 暗
褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物微量 | 11 | 暗
褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒
子微量 |
| 5 | 暗
褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量 | | | |
| 6 | 褐
色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量、炭化物微量 | | | |
| 7 | 暗
褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | | | |



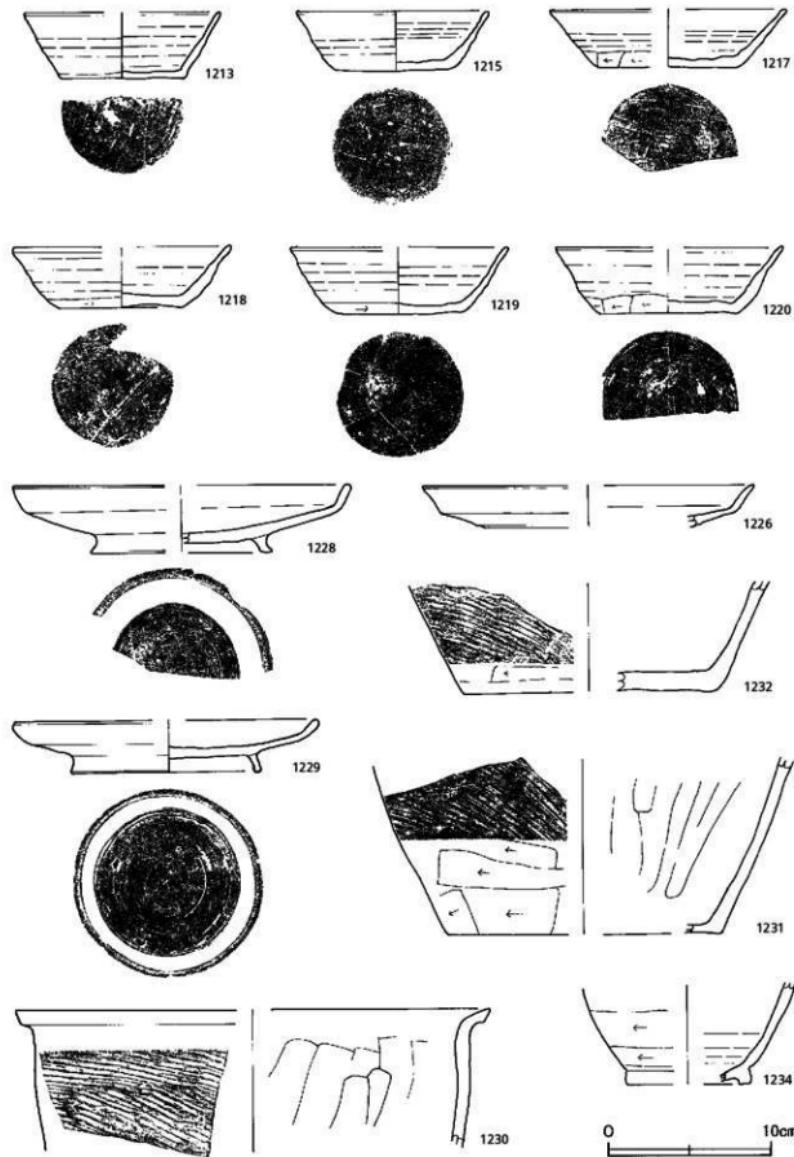
第104図 第139号住居跡実測図

遺物出土状況 土器片1134点（环76，蓋10，甕類1048），須恵器片565点（环379，高台付环2，蓋14，盤15，鉢14，瓶類7，甕131，瓶3），土製品2点（支脚），石器1点（砥石），石製品1点（勾玉），鐵製品27点，（鐵6，刀子7，小札2，釘3，不明9），鐵滓5点，銅製品1点（鏡）のほかに，流れ込んだ繩文土器片1点（深鉢）も出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は，土器片環3点，鉢2点，甕27点，瓶2点，須恵器環71点，高台付环1点，盤5点，蓋3点，瓶類2点，鉢9点，甕1点である。土器片は，東部にやや偏在した覆土上層から下層にかけて多量に出土している。須恵器環のうち，1212・1213・1215・1217～1220・1222～1225は覆土上層から中層にかけて出土している。1214・1216は覆土上層から下層にかけて出土した破片がそれぞれ接合したものであり，1221は覆土下層から出土している。須恵器瓶類は，1234が中央部の覆土上層から下層，1235と1236が北部の覆土上層から下層にかけて出土している。M217は東部の覆土下層から出土している。

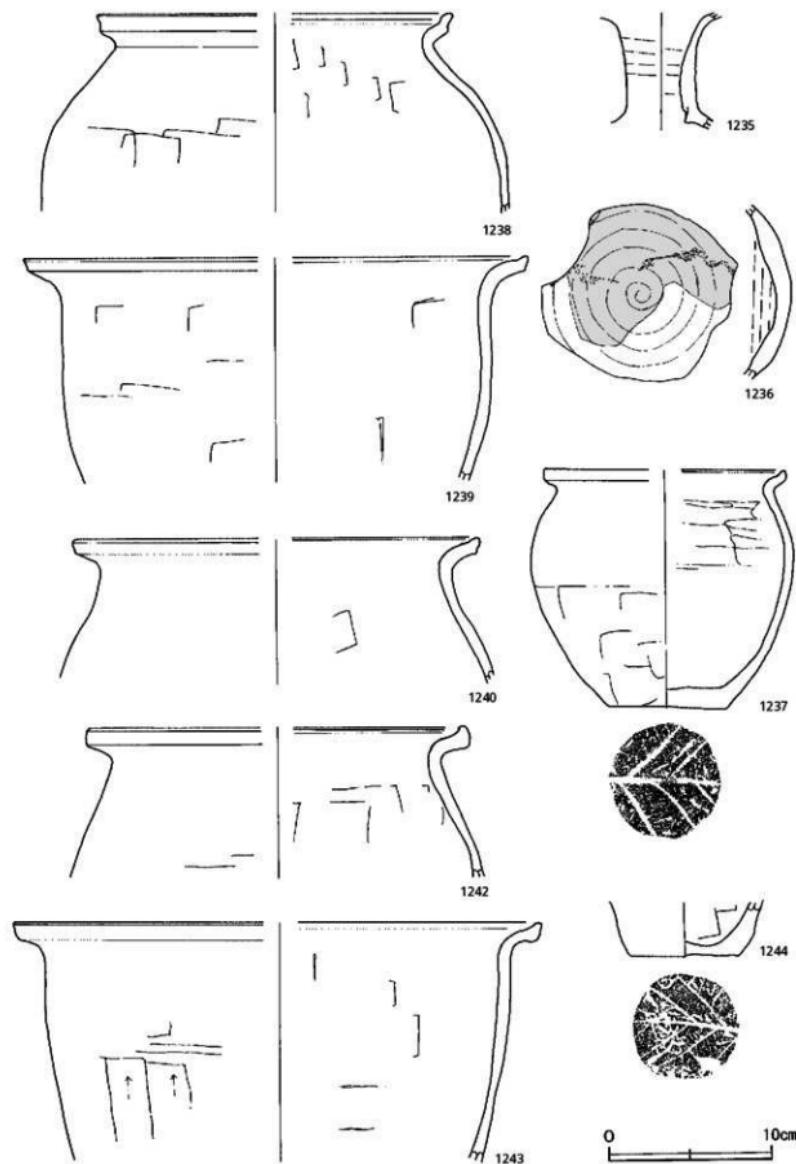
所見 土器片は覆土上層から中層にかけて特に多く出土しており，住居の廃絶後に投棄されたとみられる。時期は，床面付近から時期を判断できる土器が出土していないため，覆土中の土器から9世紀前葉から中葉と考えられる。



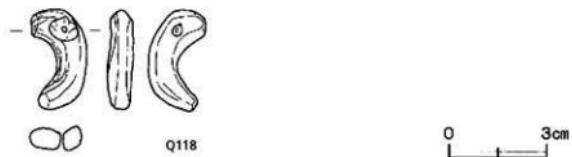
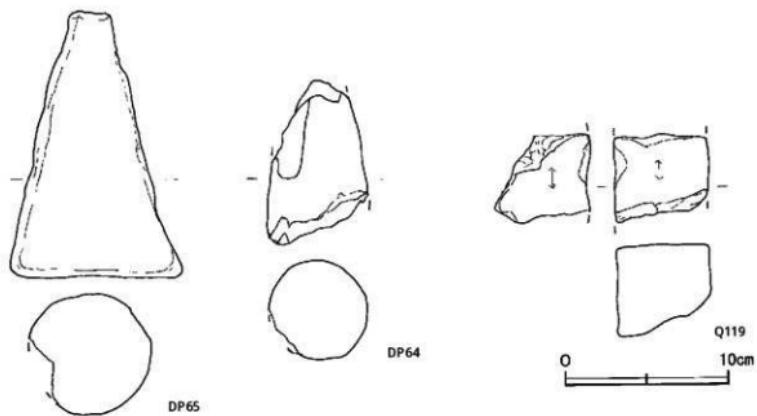
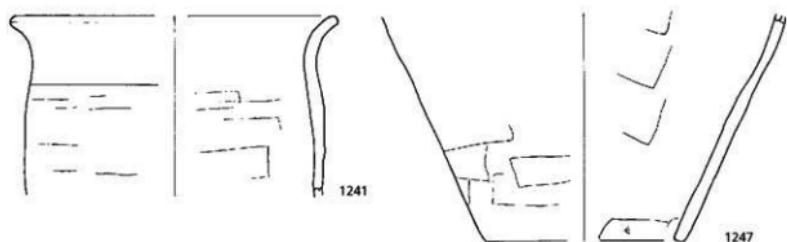
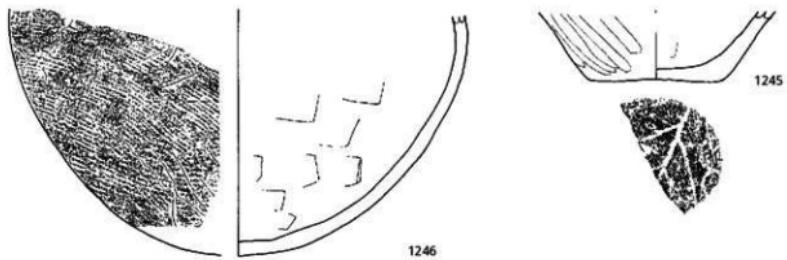
第105図 第139号住居跡出土遺物実測図(1)



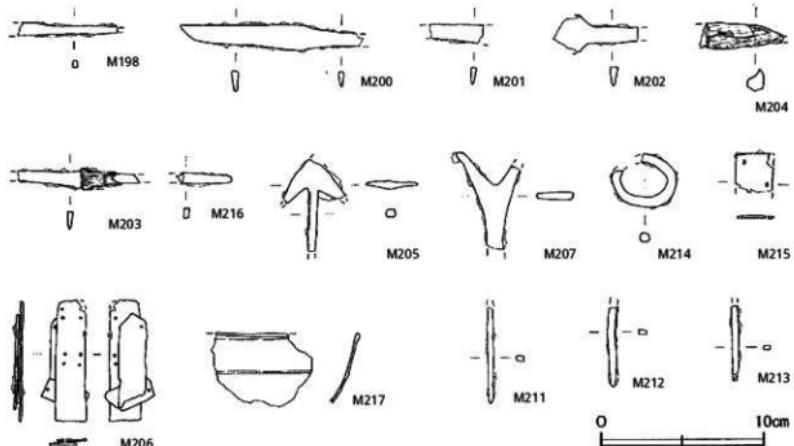
第106図 第139号住居跡出土遺物実測図(2)



第107図 第139号住居跡出土遺物実測図(3)



第108図 第139号住居跡出土遺物実測図(4)



第109図 第139号住居跡出土遺物実測図(5)

第139号住居跡出土遺物観察表(第105~109図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1210	土瓶器	环	[16.0]	(29)	-	長石・石英	にぶい	焼	口縁部内・外周横ナギ 体部外縁ヘラ削り	壁土中層	10%
1211	土瓶器	环	[18.0]	(39)	-	長石・雲母	にぶい	焼	口縁部内・外周横ナギ 体部内・外縁ヘラ削り	壁土上層	5%
1212	須恵器	环	11.2	38	6.9	長石・石英、 雲母・黒色粒子	灰黄	普通	体部内・外周クロコナギ 外縁下端手持ちヘ ラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り	壁土上層	70% PL.33
1213	須恵器	环	[12.0]	40	7.8	長石・石英、 雲母	灰	灰オリーブ	体部内・外周クロコナギ 瓜面部輪削りラ ブ削り 底部一方の手持ちヘラ削り	壁土上層	50% PL.33
1214	須恵器	环	11.7	38	6.6	長石・石英	灰	普通	体部内・外周クロコナギ 外縁下端手持ちヘ ラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り	壁土上層 - 下層	70% PL.33
1215	須恵器	环	11.6	38	7.2	長石・石英、 雲母・黒色粒子	灰黄	普通	体部内・外周クロコナギ 底部一方の手持 ちヘラ削り	壁土中層	90% PL.33
1216	須恵器	环	[13.0]	41	7.8	長石・石英	灰	普通	体部内・外周クロコナギ 外縁下端 - 瓜部回 転ヘア削り	壁土上層 - 下層	40%
1217	須恵器	环	[14.4]	3.6	8.6	長石・石英、 雲母・黒色粒子	黄灰	普通	体部内・外周クロコナギ 外縁下端手持ちヘ ラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り	壁土上層	40%
1218	須恵器	环	[13.4]	3.7	7.6	長石・石英	黄灰	普通	体部内・外周クロコナギ 底部一方の手持 ちヘラ削り	壁土上層 - 中層	50% PL.33
1219	須恵器	环	[13.3]	4.2	7.8	長石・石英、 雲母	灰黄	普通	体部内・外周クロコナギ 外縁下端回転ヘ ラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り	壁土上層 - 中層	50%
1220	須恵器	环	[13.8]	4.0	8.6	長石・石英、 雲母	灰黄	普通	体部内・外周クロコナギ 外縁下端手持ちヘ ラ削り	壁土上層	30%
1221	須恵器	环	[14.2]	4.4	8.5	長石・石英、 雲母・黒色粒子	灰黄	普通	体部内・外周クロコナギ 底部回転ヘラ削り	壁土下層	50% PL.33
1222	須恵器	环	[13.4]	4.2	8.2	長石・石英、 雲母・黒色粒子	灰黄	普通	体部内・外周クロコナギ 外縁下端手持ちヘ ラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り	壁土中層	20%
1223	須恵器	环	[13.8]	4.2	8.0	長石・石英、 雲母	灰黄	普通	体部内・外周クロコナギ 外縁下端手持ちヘ ラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り	壁土上層	30%
1224	須恵器	环	[14.4]	4.1	8.8	長石・石英、 雲母	灰白	普通	体部内・外周クロコナギ 外縁下端手持ちヘ ラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り	壁土上層	60% PL.33
1225	須恵器	环	14.3	4.1	8.0	長石・石英、 雲母	灰白	普通	体部内・外周クロコナギ 外縁下端手持ちヘ ラ削り 底部一方の手持ちヘラ削り	壁土上層 - 下層	70% PL.33
1226	須恵器	盤	[20.4]	(2.6)	-	長石・石英、 雲母	灰白	普通	体部内・外周クロコナギ	壁土下層	5%
1228	須恵器	盤	[20.4]	4.1	[11.0]	長石・石英	灰	普通	体部内・外周クロコナギ 底部高台貼り付け	壁土下層	15%
1229	須恵器	盤	[18.9]	3.1	11.6	長石・雲母	灰	普通	体部内・外周クロコナギ 底部回転ヘラ削り 底部高台貼り付け	壁土上層	70% PL.36
1230	須恵器	盤	[29.1]	(8.5)	-	長石・石英、 雲母	黄灰	普通	口縁部内・外周横ナギ 体部外縁模様の平行 線削り 内部凹凸ナギ	P 2 壁土	5%
1231	須恵器	盤	-	(10.7)	[16.0]	長石・石英、 雲母	灰黄	普通	体部内要制約の平行同口目 下端ヘラ削り 内部凹凸ナギ 底部ヘラ削り	壁土上層	10%
1232	須恵器	盤	-	(6.7)	[15.0]	長石・石英、 雲母	灰	普通	体部外縁斜位の平行同口目 下端ヘラ削り 内部ナギ ヘラ削り	壁土中層	10%
1234	須恵器	瓶	-	(6.3)	[7.0]	長石・石英	灰白	普通	体部内・外周クロコナギ 外縁下半回転ヘラ 削り 高台貼り付け	壁土上層 - 下層	20%
1235	須恵器	フタスコ	-	(7.1)	-	長石・石英、 黒色粒子	灰黄	普通	瓶部内・外周クロコナギ	壁土上層	10% PL.37 口部・肩部

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1236	須恵器	フラスコ形	-	(10.7)	-	長石・石英、黒色粒子	灰黄	普通	体部外面輪郭へラ削り 自然鉗	壇土中層	20% PL37 口部と同一削り
1237	土師器	瓶	[14.9]	14.8	7.0	長石・石英、赤色粒子	にぶい黒	普通	口縁部分・外表面模ナデ 体部外側へラナダ 下側へラ削り 内面へラナダ 底部木葉底	壇土下層 - 底面	60% PL39
1238	土師器	瓶	[21.8]	(12.1)	-	長石・石英、赤色粒子	褐	普通	口縁部分・外表面模ナデ 体部内・外面へラナ	壇土上層	10%
1239	土師器	鉢	[30.9]	(13.0)	-	長石・石英、赤母	褐	普通	口縁部内・外表面模ナデ 体部内・外面へラナ	壇土覆土中	5%
1240	土師器	瓶	[24.8]	(9.0)	-	長石・石英、赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外表面模ナデ 体部内・外面へラナ	壇土下層	5%
1241	土師器	瓶	[19.6]	(11.1)	-	長石・石英、赤母	にぶい黒	普通	口縁部内・外表面模ナデ 体部内・外面へラナ	壇土上層 - 中層	20%
1242	土師器	瓶	[23.0]	(9.2)	-	長石・石英、赤色粒子	褐	普通	口縁部内・外表面模ナデ 体部内・外面へラナ	壇土上層 - 下層	10%
1243	土師器	鉢	[32.2]	(14.6)	-	長石・石英、赤色粒子	褐	普通	口縁部内・外表面模ナデ 体部外側へラ削り	壇土上層	10%
1244	土師器	瓶	-	(3.4)	6.6	長石・石英、赤母	にぶい黒	普通	体部外面ナデ 内面へラナダ 底部木葉底	壇土中層	10%
1245	土師器	瓶	-	(4.3)	8.0	長石・石英、赤色粒子	褐	普通	体部外側へラ焼き 内面へラナダ 底部木葉底	壇土上層	5%
1246	須恵器	瓶	-	(15.0)	-	長石・石英、褐	黄灰	普通	体部外面模位の平行引き目 底部へラ削り 内面にて具模	壇土下層 - 底面	10%
1247	土師器	瓶	-	(14.0)	[12.0]	長石・石英、赤色粒子	褐	普通	体部内・外面へラナダ 内面下端へラ削り	壇土上層 - 下層	10%
1451	須恵器	瓶類	-	-	-	細粒・黑色粒子	暗灰	良好	体部外面沈線2条	壇土中	5% PL41 (写真図版のみ)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴			出土位置	備考
DP64	支脚	(10.0)	6.3	6.2	(2040)	粘土	下段欠損			壇土上層	
DP65	支脚	16.2	10.8	7.4	(750)	粘土	指ナデ			壇土上層	PL46
Q118	勾玉	3.1	1.8	0.8	5.1	瑪瑙	孔径0.1cm			壇土上層	PL47
Q119	紐石	(5.3)	(5.8)	(5.6)	(2170)	砂岩	紐面2面			床面	
M198	刀子	(6.1)	0.8	0.2	(5.1)	鉄	刃部・茎部欠損 開不明			壇土上層	
M200	刀子	(11.3)	1.6	0.4	(169)	鉄	茎部欠損 両端カ			床面	PL48
M201	刀子	(3.9)	1.1	0.3	(2.9)	鉄	刃部・茎部欠損 開不明			壇土下層	
M202	刀子	(5.8)	2.2	0.4	(7.2)	鉄	刃部・茎部欠損 周間			壇土下層	
M203	刀子	(7.5)	1.1	0.4	(8.0)	鉄	刃部・茎部欠損 周間 本質付着			壇土中層	
M204	刀子	(5.2)	1.1	0.9	(8.2)	鉄	刃部欠損 開不明 木質付着			壇土中層	
M205	鑿	(5.7)	(3.9)	0.4	(9.0)	鉄	鍔舟三角形 開不明 茎部欠損			壇土下層	
M206	小札	7.4	2.9	0.15	(10.3)	鉄	孔径0.1cm 3枚固着			床面	PL49
M207	鑿	(5.0)	(4.0)	0.4	(135)	鉄	鍔舟彫又 開不明 茎部欠損			壇土下層	PL48
M211	釘	(6.0)	0.4	0.3	(3.4)	鉄	断面長方形 頭部欠損			壇土上層	PL48
M212	釘	(4.8)	0.5	0.3	(2.8)	鉄	断面長方形 頭部欠損			床面	PL48
M213	釘	(4.2)	0.4	0.3	(2.1)	鉄	頭部欠損			壇土下層	
M214	不明 環状金具	3.6	4.1	0.6	(8.9)	鉄	断面円形			壇土上層	PL49
M215	小札	(2.4)	2.3	0.2	(3.7)	鉄	孔径0.1cm			壇土上層	PL49
M216	刀子	(2.4)	0.6	0.3	(2.0)	鉄	刃部欠損 開不明			壇土中	
M217	鉗	(4.3)	(6.2)	0.3	(249)	鋼	破片 口縁部の歪みのため口往不詳			壇土下層	PL49

第141号住居跡 (第110~112図)

位置 調査区中央部のA-2h7区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.42m, 短軸4.83mの長方形で, 主軸方向はN- 0°である。壁高は34~37cmで, 直立している。

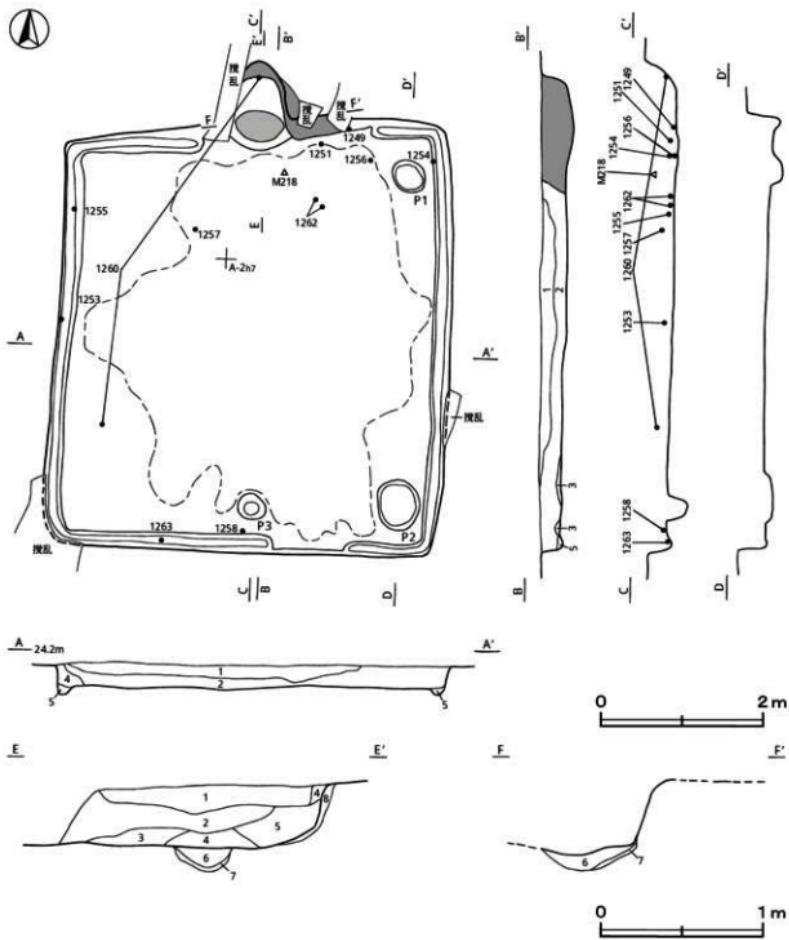
床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に位置している。左袖部が搅乱を受けている。規模は, 炉口部から煙道部までが110cmで, 袖部幅は75cmが確認されている。袖部材は残存しておらず, 床面と同じ高さの地山の上に構築していたと推定される。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道

部は壁を60cmほど掘り込み、火床部から緩やかに立ち上がり、端部で直立している。

竪土層解説

1 にぶい褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化 粒子微量	4 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	5 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量
3 黒褐色	焼土ブロック中量、炭化物少量、ローム粒子・砂 質粘土粒子微量	6 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
		7 暗褐色	ローム粒子微量
		8 灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量



第110図 第141号住居跡実測図

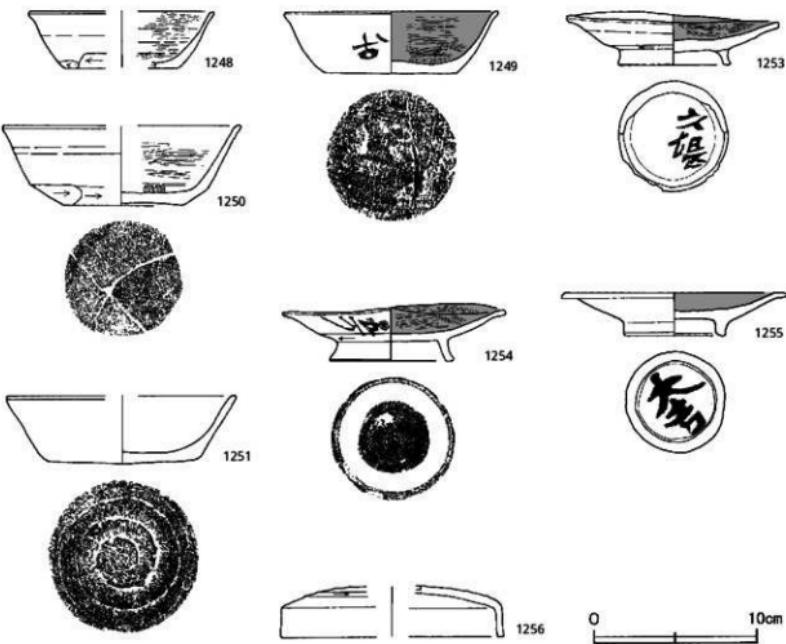
ピット 3か所。P 1・P 2は深さ12cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 3は、深さ27cmで、南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分層される。第1・2層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

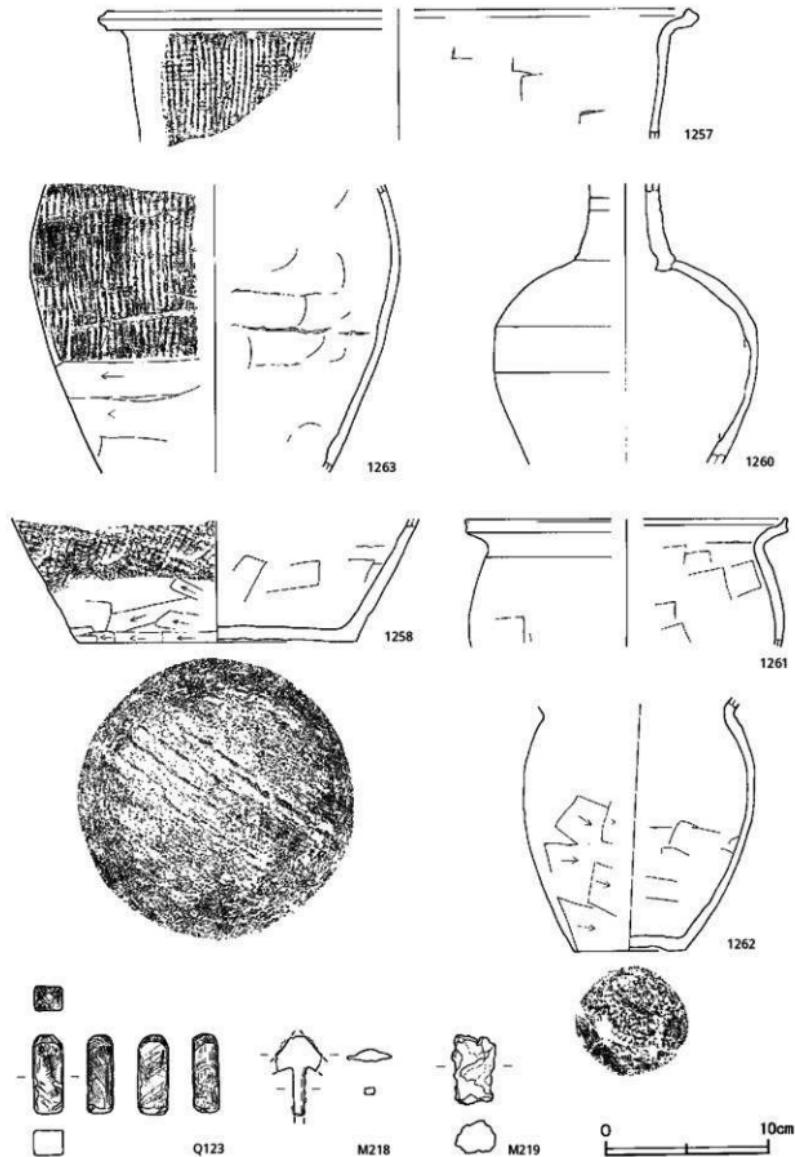
土層解説

1 黑 梅 色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	3 灰 白 色 砂質粘土粒子多量、ローム粒子微量
2 暗 梅 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量	4 黒 梅 色 ローム粒子・炭化粒子微量
	5 暗 梅 色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片240点（坏40、高台付皿7、甕193）、須恵器片70点（坏22、高台付坏1、蓋1、盤1、鉢14、瓶類6、櫛22、瓶3）、石器1点（砥石）、鐵製品1点（鑓）、鐵滓1点のほかに、混入した陶磁器片3点（不明）も出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は、土師器坏10点、高台付皿4点、櫛2点、須恵器坏8点、盤1点、蓋2点、鉢3点、長頸瓶1点、甕2点、瓶3点である。土器片は各壁際の覆土下層から床面に集中して出土している。1249は北壁際の床面と竈覆土中から出土した破片が接合したものである。1253・1255は西壁際の覆土下層から、1254は北東コーナー部付近の床面からそれぞれ出土している。1260は、南西部の覆土中層から出土した頸部片と竈の覆土中から出土した体部片が接合したものである。所見 1249・1253～1255は墨書き土器で、それぞれ「古カ」、「少堤」、「五万」、「大吉」と記されている。時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第111図 第141号住居跡出土遺物実測図(1)



第112図 第141号住居跡出土遺物実測図(2)

第141号住居跡出土遺物観察表（第111・112図）

番号	種類	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1248	土器群	环	[11.3]	35	[7.0]	長石・石英	橙	普通 体部内・外面口クロナデ 持ちヘラ削り 内面横方向の腹巻	壇土中	10%
1249	土器群	环	13.0	39	8.2	長石・石英、 赤色粒子	にぶい赤	普通 体部内・外面口クロナデ 持ちヘラ削り 内面横方向のヘラ 削り	底面・壇土中 80% PL41 壇土・古力	
1250	土器群	环	[14.5]	49	7.3	長石・石英、 赤色粒子	橙	普通 体部内・外面口クロナデ 持ちヘラ削り 内面横方向のヘラ 削り	底面 50% PL30	
1251	須恵器	环	[13.9]	42	9.0	長石・石英、礫	灰黄	普通 体部内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ削り	壇土下層	60% PL33
1253	土器群	高台付皿	13.0	33	6.7	長石・石英	明赤褐	普通 体部内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ削り	壇土下層 (少)	
1254	土器群	高台付皿	13.6	31	7.5	長石・石英、礫	にぶい赤褐	普通 体部内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ削り	底面 50% PL41 壇土・古力	
1255	土器群	高台付皿	14.0	26	6.1	長石・石英、 赤色粒子	にぶい赤	普通 体部内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ削り	壇土下層 (大)	
1256	須恵器	蓋	[13.6]	(31)	-	長石・石英、 赤色粒子	黄灰	普通 天井部回転ヘラ削り	壇土下層	20% PL36
1257	須恵器	鉢	[35.4]	(8.1)	-	長石・石英、 赤色粒子	にぶい黄褐	普通 体部外裏格子切引き目 内面ヘラナデ	壇土下層	5%
1258	須恵器	鉢	-	(7.5)	17.0	長石・石英、礫	褐	普通 体部外裏格子切引き目 下端ヘラ削り 内面 ヘラナデ 無ヘラナ	底面	15%
1260	須恵器	長瓶瓶	-	(17.2)	-	長石・石英、 赤色粒子	褐	普通 体部外裏格子切引き目 下端ヘラ削り	壇土中 20% PL37	
1261	土器群	瓶	[19.8]	(7.8)	-	長石・石英、 赤色粒子	橙	普通 口縁部内・外面横ナデ 体部外側ヘラ削り	壇土中	5%
1262	土器群	瓶	-	(15.5)	6.8	長石・石英、 赤色・赤色粒子	にぶい赤褐	普通 口縁部内・外面横ナデ 体部外側ヘラ削り	底面 60% PL39	
1263	須恵器	瓶	-	(17.6)	-	長石・石英、 赤色粒子	黄灰	普通 体部外裏格子の平行切引き目 下半ヘラ削り 内面切引き目	壇土下層	10%

第142号住居跡（第113図）

位置 調査区中央部のA-2h5区、標高24mの台地上の平坦面に位置している。

規模と形状 長軸2.93m、短軸2.70mの方形で、主軸方向はN-10°Wである。壁高は23-30cmで、外傾して立ち上がっていいる。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで95cm、袖部幅118cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山に砂質粘土を積み上げて構築している。火床面は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用し、火床面は火熱を受けて赤変化している。煙道部は壁を60cmほど掘り込み、火床部から外傾して立ち上がっていいる。

竈土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	5	暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量
2	灰褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ロームブロック ケラ量	6	灰褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
3	暗赤褐色	焼土ブロック少量	7	灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子少量
4	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	灰褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量

ピット 7か所。P1-P4は深さ20-27cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ20cmで、南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ20cmで、P2に近接していることから補助柱穴の可能性が考えられる。P7は深さ11cmで、性格は不明である。

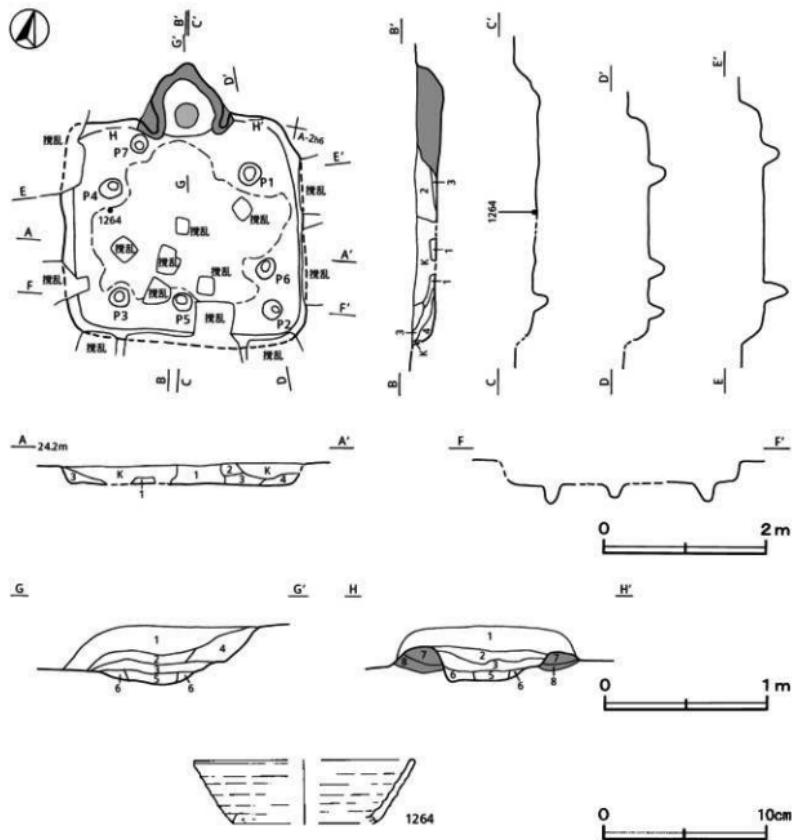
覆土 4層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	3	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量	4	褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片23点(環9, 瓢14), 須恵器片14点(环12, 盤2)のほかに、混入と見られる陶器片6点も出土している。底部や口縁部などから推測される土器の個体数は、土師器坏1点, 瓢1点, 須恵器坏3点, 盤1点である。1264は西部の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第113図 第142号住居跡・出土遺物実測図

第142号住居跡出土遺物観察表(第113図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1264	須恵器	环	[13.4]	39	[8.6]	墨石・石英・黑色粒子	青灰色	普通	仕上部・外表面クロコナガ 外面下端手持ち	床面	10%

第143号住居跡（第114・115図）

位置 調査区中央部のA-2F区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸2.27m、短軸2.18mの方形で、主軸方向はN-18°-Wである。壁高は25-28cmで、直立している。

床 平坦で、北東部を除いて踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 北壁のほぼ中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで93cm、袖部幅88cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山の上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を40cmほど掘り込み、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗	褐	色	砂質粘土ブロック中量	燒土ブロック少量	炭化物微量	4	暗	赤	褐	色	砂質粘土粒子・燒土粒子少量
2	灰	褐	色	砂質粘土粒子中量	燒土ブロック少量		5	灰	褐	色	砂質粘土粒子中量	燒土粒子少量
3	暗	赤	褐	色	燒土ブロック中量		6	灰	褐	色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量	
							7	灰	褐	色	砂質粘土粒子・燒土ブロック少量	

ピット 深さ22cmで、南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

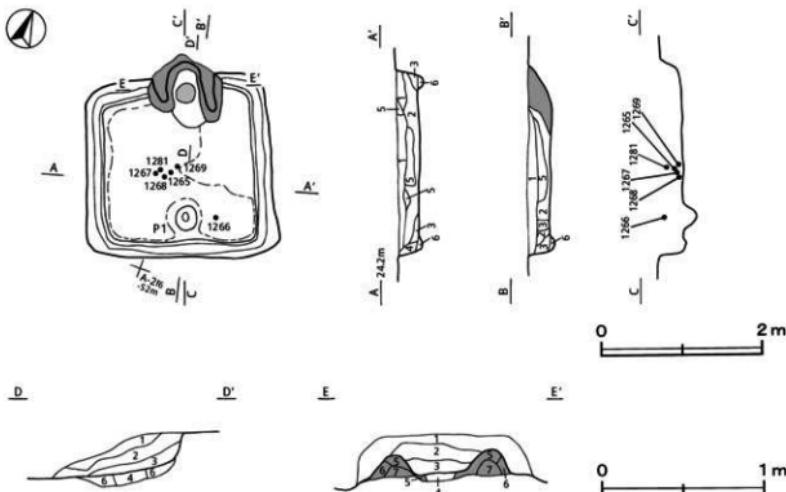
覆土 6層に分層される。各層にロームブロックの混じる不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土器解説

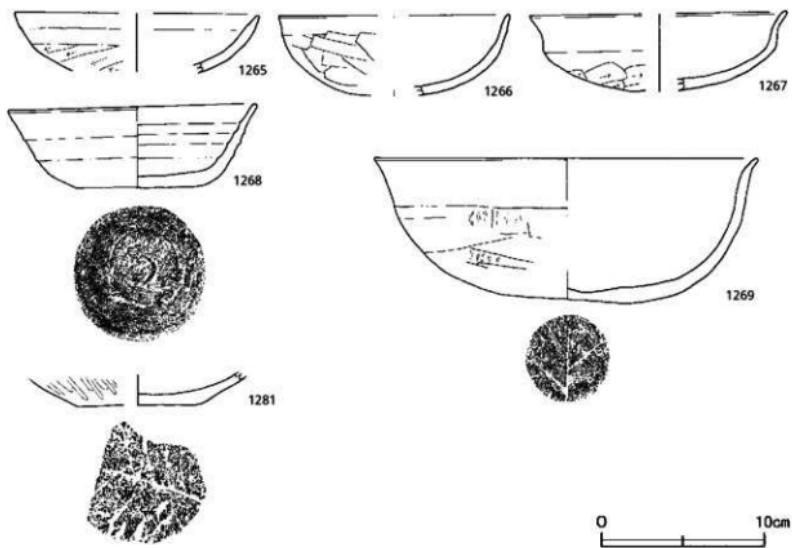
1	黒	褐	色	炭化粒子・ローム粒子微量	4	褐	色	ロームブロック少量			
2	黒	褐	色	ロームブロック少量	5	暗	赤	褐色	砂質粘土粒子多量	燒土粒子微量	炭化物微量
3	褐	色	ロームブロック中量		6	褐	色	ローム粒子中量			

遺物出土状況 土器片31点（壺18、鉢1、甕12）、須恵器片1点（壺）が出土している。底部や口縁部などから推測される土器の個体数は、土器片5点、鉢1点、甕1点、須恵器片1点である。1268・1269は中央部の床面から正面と逆位で出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第114図 第143号住居跡実測図



第115図 第143号住居跡出土遺物実測図

第143号住居跡出土遺物観察表（第115図）

番号	種別	断縁	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1265	土師器	环	[14.8]	(35)	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナダ	覆土下層	5%
1266	土師器	环	[14.0]	49	-	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナダ	覆土上層	10%
1267	土師器	环	[15.8]	47	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナダ	覆土下層	30%
1268	漆器	环	15.0	52	7.8	長石・石英・赤色粒子	灰黒	普通	体部外側・外面クロナダ 瓢部回転ヘラ切り 手元ナダ	床面	90% PL34
1269	土師器	鉢	23.4	9.3	-	長石・聖母・赤色粒子	褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ハケ目調査 体部ヘラナダ 内面ナダ	床面	70% PL36
1281	土師器	鉢	-	(19)	[7.4]	長石・石英・聖母	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削き 底部木葉痕	覆土上層	5%

第144号住居跡（第116・117図）

位置 調査区中央部のA-2e5区、標高24mの台地上に位置している。

規模と形状 長軸2.84m、短軸2.63mの方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は37-45cmで、直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が北壁を除いて周回している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで94cm、袖部幅100cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山の上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は壁外に位置しており、床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用している。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁を60cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。

電土層解説

1 にぶい褐色	砂質粘土粒子多量，炭化物・ローム粒子微量	6 灰白色	砂質粘土粒子多量，炭化物・ローム粒子微量
2 褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	7 灰褐色	砂質粘土粒子中量，炭化粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	8 暗赤褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子多量，ローム粒子微量
4 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・砂質粘土粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
5 暗赤褐色	焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量

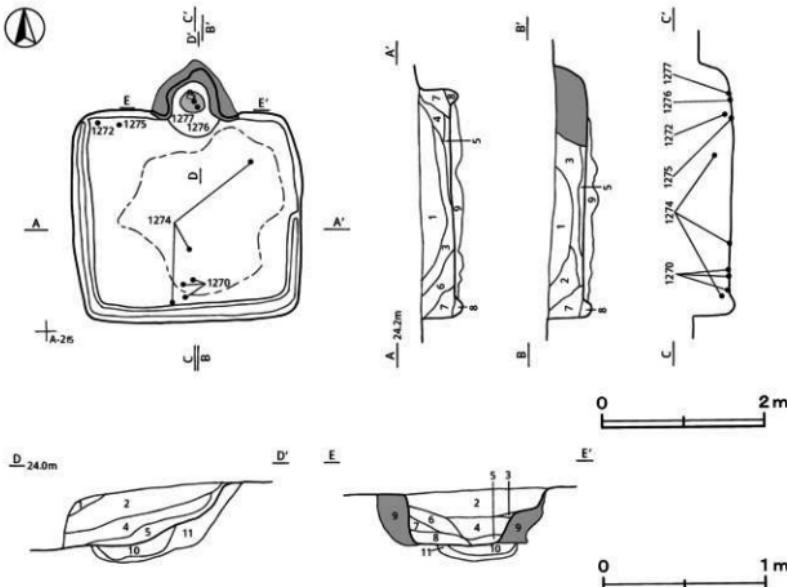
覆土 9層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

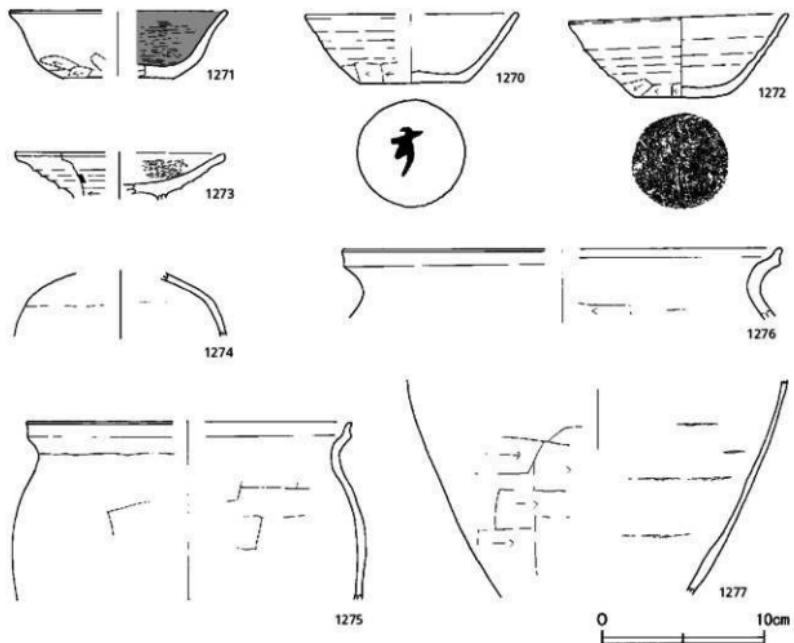
1 暗褐色	ロームブロック少量	6 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量
2 褐色	ロームブロック中量，炭化粒子少量	7 暗褐色	ロームブロック微量
3 褐色	ロームブロック中量，焼土粒子少量	8 褐色	ローム粒子中量
4 褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量	9 褐色	ロームブロック中量
5 暗褐色	ローム粒子少量		

遺物出土状況 土器片143点(环27, 横116), 須恵器片8点(环3, 鉢2, 瓶類3), 土製品1点(支脚)が出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は土器片3点, 横10点, 須恵器片3点, 瓶類1点, 鉢1点である。1270は南壁際の床面から集中して出土した破片を接合したものである。1272は北西コーナー部の覆土下層から横位で出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第116図 第144号住居跡実測図



第117図 第144号住居跡出土遺物実測図

第144号住居跡出土遺物観察表（第117図）

番号	種別	器種	口径	基高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1270	須恵器	环	[13.0]	42	62	長石・石英・ 青母	にぶい	普通	体部内・外側口クロナダ。外側下端手持ちへ ラ削り。底部一方の手持ちへラ削り	床面	50% PL42 周壁「方」
1271	土師器	环	[13.0]	41	[6.8]	長石・石英・ 青母	明褐	普通	体部外下端手持ちへラ削り。内面へラ削き。 底部外側へラ削り後一方の手持ちへラ削り	覆土中	20%
1272	須恵器	环	13.4	52	5.7	長石・石英・ 青母	灰黄	普通	体部内・外側口クロナダ。外側下端手持ちへ ラ削り。底部外側へラ削り後一方の手持ちへラ削り	覆土下層	80% PL34
1273	土師器	高台付皿	[12.8]	(2.9)	-	長石・石英・ 青母	にぶい赤褐	普通	底部内・外側口クロナダ。外側下端～底部回 転へラ削り。内面へラ削き。高台貼り付け	覆土中	30% 周壁「方」
1274	須恵器	瓶	-	(39)	-	長石・石英・ 黒色粒子	黄灰色	普通	体部内・外側口クロナダ。外側自然輪	覆土下層～ 床面	5 %
1275	土師器	瓶	[19.8]	(11.0)	-	長石・石英・ 青母	褐	普通	口縁部内・外側横ナダ。体部外側へラ削り 内面へラナダ	床面	5 %
1276	土師器	瓶	[26.8]	(4.4)	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外側横ナダ。体部内側へラ削り	火床面	5 %
1277	土師器	瓶	-	(132)	-	長石・石英・ 青母	にぶい赤褐	普通	体部外側へラ削り。内面へラナダ	火床面	20%

第149号住居跡（第118・119図）

位置 調査区西部のZ-517区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.18m、短軸3.08mの方形で、主軸方向はN-18°-Eである。壁高は13~17cmで、直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで99cm、袖部幅105cmである。袖部は、床面とほぼ同じ高さの地山を基部にして、その上に砂質粘土を積み上げて構築している。火床面は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており、火床部は火熱を受けて赤変色化している。煙道部は壁を45cmほど掘り込み、外側して立ち上がっている。

竈土層解説

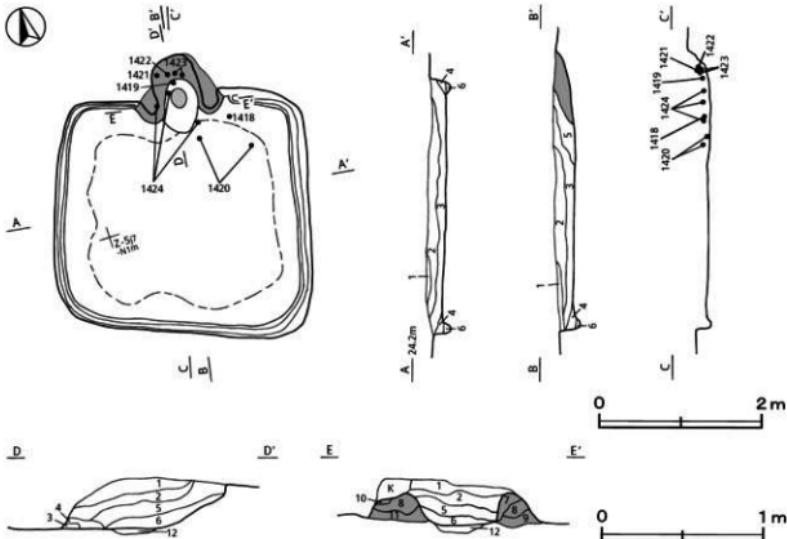
1 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	8 オリーブ褐色	砂質粘土粒子中量・ローム粒子・焼土粒子微量
2 細暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量・炭化粒子微量
3 極暗褐色	砂質粘土粒子中量・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	10 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量・焼土粒子微量
4 黒褐色	砂質粘土粒子中量・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	11 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	炭化粒子中量	12 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量
6 極暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量・炭化物・ローム粒子微量		
7 暗褐色	砂質粘土粒子中量・焼土ブロック少量・ローム粒子・炭化粒子微量		

覆土 6層に分層される。ロームブロックをわずかに含んでいるが、レンズ状の堆積状況を示しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

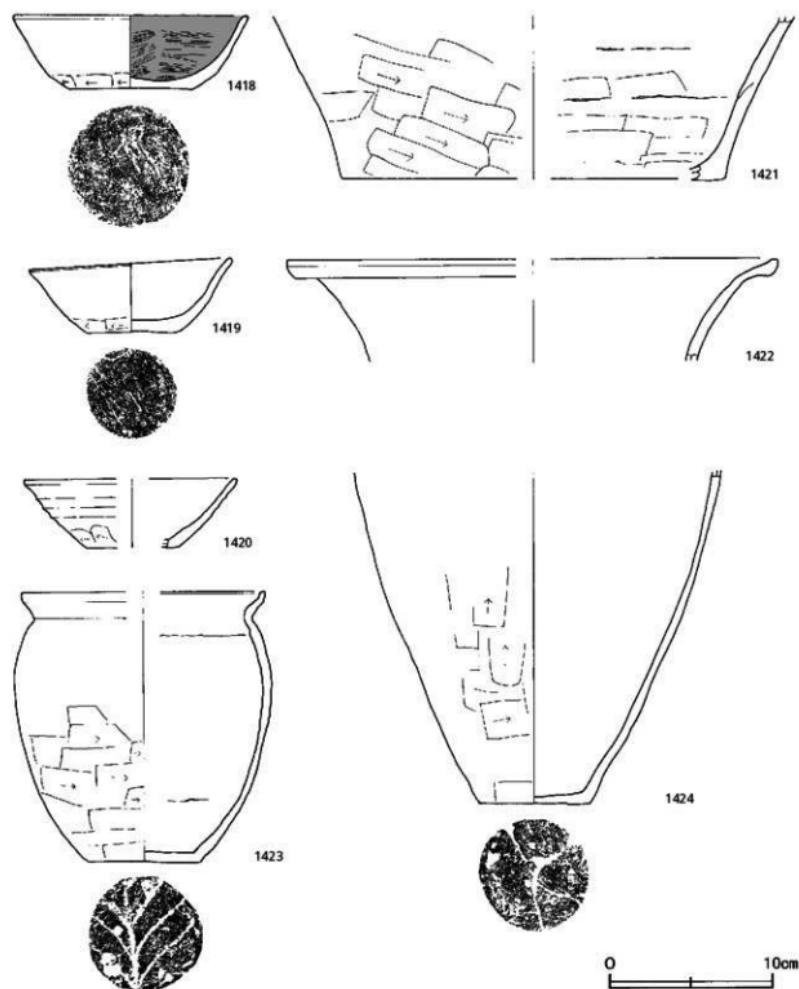
1 暗褐色	炭化物・ローム粒子少量・焼土粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック少量・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2 細暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量・焼土粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック少量
3 極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量		
4 黒褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 土器片116点（环5、櫛111）、須恵器片38点（环20、鉢16、櫛2）、灰釉陶器片3点（瓶類）が出土している。口縁部や体部等から推測される土器の個体数は、土器片2点、櫛3点、須恵器片3点、鉢1点、櫛1点、灰釉陶器片1点である。1418は北東壁際の床面から逆位で出土している。1419・1423は、竈の火床面から逆位で重なって出土している。



第118図 第149号住居跡実測図

所見 1452は猿投産黒笠14号窯式もしくは90号窯式と考えられるが、細片のため写真図版のみ掲載した。時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第119図 第149号住居跡出土遺物実測図

第149号住居跡出土遺物観察表（第119図）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1418	土師器	环	14.3	4.5	7.4	岳石・石英・ 霞母	褐	普通	体部内・外表面クロナダ 持ちハラ削り 内面ハラ削	床面	90% PL30
1419	須恵器	环	12.3	4.6	5.4	石英・白母・ 赤玉砂利	灰黄	普通	体部内・外表面クロナダ 持ちハラ削り 内面ハラ削	床面	90% PL34
1420	須恵器	环	[13.0]	4.2	[5.6]	岳石・石英・ 霞母	褐褐色	普通	体部内・外表面クロナダ 持ちハラ削り 内面ハラ削	床面	30% PL34
1421	須恵器	鉢	-	(10.0)	[23.6]	岳石・石英・ 霞母	灰	普通	体部外表面ハラ削り 内面ハラ削	埴土中	5%
1422	須恵器	楕	[30.0]	(6.4)	-	岳石・石英・ 霞母	に好み黄	普通	口縁内・外表面ナダ	埴土中下層	5%
1423	土師器	楕	[14.8]	16.6	6.9	岳石・石英・ 赤色粒子	に好み黄	普通	口縁内・外表面ナダ 内部ナダ・木製壓	床面	50% PL40
1424	土師器	楕	-	(20.3)	6.8	岳石・石英・ 霞母	に好み黄	普通	体部外表面ハラ削り 内面ハラ削	埴土中	40%
1452	灰陶陶器	盾形	-	0.4 (基層)	-	細底 黒色粒子 灰瓦	灰	灰	体部内・外表面クロナダ 刷毛がけ施	埴土中	5% PL41 写真図版のみ

表4 奈良・平安時代竪穴住居跡一覧表

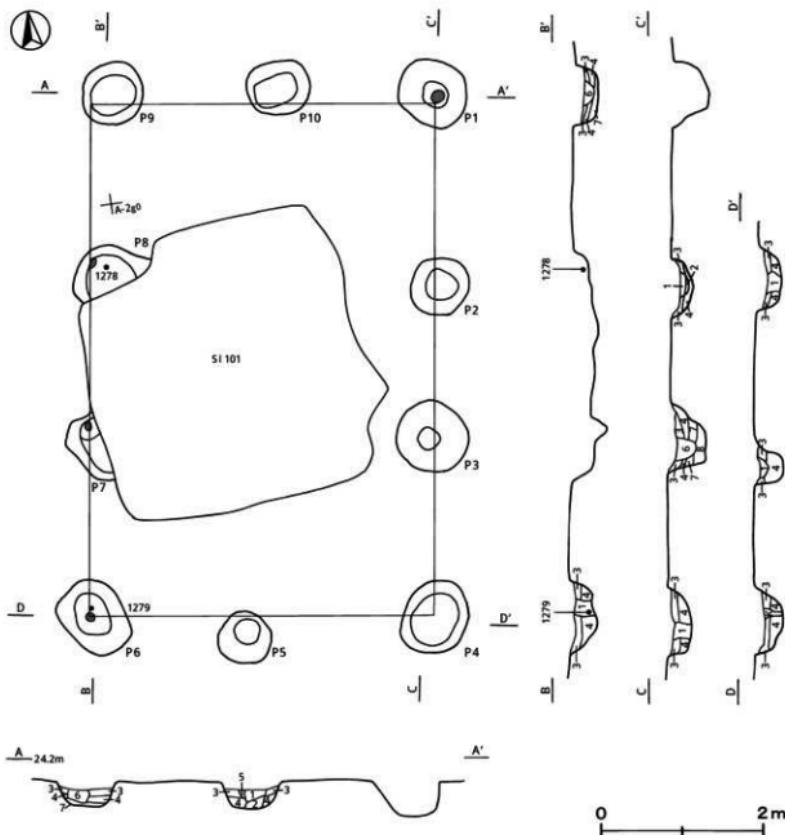
番号	位置	主軸方向	平面形	廣横 (m) (長軸・短軸)	堅局 (m)	床面	堅溝	内部施設			主な出土遺物	時期	備考 (旧→新)	
								主柱穴	出入口 ビット	壁	堅溝穴			
100A	A-2-e9	N-5°-W	方形	35.0	3.30	44	平坦 全周	-	1	-	1	人為	土師器・須恵器・石磐 ・鉄製品	S1100B→本跡
100B	A-2-e9	N-5°-W	方形	30.8	3.01	2-5	平坦 全周	-	-	-	1	不明	土師器・須恵器	8世紀前葉以前
101	A-2-g0	N-85°-E	方形	34.5	3.30	14-18	平坦 全周	-	1	2	2	人為	土師器・須恵器・鐵罐 ・鉄製品	本跡→S1100A
102	A-1-b1	N-3°-E	方形	4.30	4.21	35-42	平坦 全周	4	1	-	1	自然	土師器・圓窓・石磐 ・鐵製品・波洋	9世紀後葉
103	A-1-a2	N-3°-W	方形	3.95	3.67	32-38	平坦 全周	4	1	-	1	自然	土師器・須恵器・鉄製 品	8世紀前葉
104	A-1-b4	N-15°-E	[方角・ 長方形]	40.4	4.00	[35.2]	16-20 平坦 [全周]	4	1	-	-	人為	土師器・圓窓・石磐 ・鉄製品	8世紀中葉
105	A-1-d5	N-4°-E	方形	2.73	2.67	9-16	平坦 [全周]	-	1	1	1	人為	土師器・須恵器・鉄製 品	本跡→S524
106	A-1-e5	N-5°-E	長方形	4.41	3.85	7	平坦 全周	4	1	-	1	不明	土師器・須恵器・土磐 ・鉄製品	S1104B→本跡 →S1104A
106	A-1-e5	N-87°-W	[長方形]	[4.25]	[3.70]	6-15	平坦 一部	3	-	-	1	不明	土師器・須恵器	本跡→S1104B →S1104A
109	A-1-i3	N-0°	[方角・ 長方形]	40.0	4.20	28-30	平坦 [全周]	2	-	-	1	人為	土師器・須恵器・鉄製 品	8世紀以前
110A	A-1-i6	N-13°-E	[方角・ 長方形]	5.55	1.70	45	平坦 [全周]	-	1	1	1	人為	土師器・須恵器・土磐 ・鉄製品・波洋	9世紀後葉
110B	A-1-i6	N-9°-E	[方角・ 長方形]	[5.33]	[0.93]	0	平坦 [全周]	-	-	2	1	人為	土師器	9世紀後葉以前
111	A-1-b7	N-5°-E	[方角・ 長方形]	4.72	3.57	43-55	平坦 [全周]	3	1	1	-	自然	土師器・圓窓・石磐 ・鉄製品	8世紀前葉
112	A-1-b9	N-87°-E	[長方形]	3.80	(0.88)	23	平坦 [全周]	-	-	-	-	自然	土師器・須恵器・鉄製 品	8世紀中-後葉
113	A-1-d8	N-0°	方形	4.10	3.82	22-33	平坦 一部	4	1	-	1	自然	土師器・須恵器・鉄製 品・鉄製遺物	8世紀前葉
115	A-1-d4	N-4°-E	方形	3.27	3.21	10-14	平坦 全周	-	1	1	1	不明	土師器・須恵器	9世紀後葉
116A	A-1-d5	N-2°-E	長方形	4.33	3.75	0	平坦 [全周]	4	1	3	1	不明	土師器・須恵器・石磐	9世紀中葉
116B	A-1-d5	N-2°-E	長方形	[3.65]	[3.11]	1~3	平坦 一部	4	-	-	1	人為	土師器	9世紀中葉以前
117	A-1-c7	N-0°	[方角・ 長方形]	(4.96)	(4.60)	23-33	平坦 全周	4	1	1	-	人為	土師器・須恵器・土磐 ・鉄製品	8世紀前葉
118	A-1-h0	N-9°-E	方形	2.48	2.36	0~8	平坦 [全周]	-	1	-	1	不明	土師器・須恵器	9世紀後葉
125	A-4-c3	N-34°-W	[方角・ 長方形]	3.00	[3.72]	3-5	平坦 -	4	1	-	1	不明	土師器	8世紀以降
126	Z-3-i2	N-23°-E	[方角・ 長方形]	4.35	(2.70)	33	平坦 [全周]	2	1	-	-	人為	土師器・須恵器・鉄製 品	9世紀後葉
128	A-3-f7	N-4°-E	[方角・ 長方形]	3.18	(1.93)	34-36	平坦 一部	-	-	-	1	人為	土師器・須恵器・土磐 ・鉄製品	9世紀中葉
129	A-3-d9	N-83°-E	方形	3.66	3.62	30-34	平坦 全周	-	1	1	1	人為	土師器・須恵器・石磐 ・鉄製品	8世紀前葉
130	A-3-e8	N-0°	[方角・ 長方形]	2.30	(1.53)	20	平坦 -	-	-	-	1	自然	土師器・圓窓・石磐 ・鉄製品	9世紀後葉
131	A-2-b3	N-23°-E	方形	4.90	4.73	53-58	平坦 全周	4	1	-	1	人為	土師器・圓窓・石磐 ・鉄製品・波洋	8世紀中葉
133	B-2-b6	N-4°-E	[方角・ 長方形]	4.98	(1.49)	92-100	平坦 [全周]	4	2	-	1	人為	土師器・須恵器・灰瓦 ・鉄製品	8世紀後葉
134	A-1-b8	N-14°-W	[方角・ 長方形]	3.25	(3.20)	40-42	平坦 [全周]	2	1	-	1	人為	土師器・須恵器・石磐	8世紀後葉
135	A-1-b9	N-4°-W	[方角・ 長方形]	(4.00)	(2.84)	60	平坦 [全周]	2	1	1	1	人為	土師器・須恵器・石磐 ・鉄製品	8世紀後葉
136	A-2-d0	N-0°	[方角・ 長方形]	(2.83)	(2.74)	49-52	平坦 [全周]	1	1	-	-	人為	土師器・須恵器・鉄製 品	8世紀中葉
137	A-2-d0	N-2°-E	[方角・ 長方形]	3.40	(1.68)	34-40	平坦 -	1	-	-	1	人為	土師器・須恵器・鉄製 品	8世紀後葉
139	A-2-b2	N-5°-W	[方角・ 長方形]	5.30	(4.05)	45-58	平坦 [全周]	2	1	-	-	人為	土師器・圓窓・土磐 ・石磐・鉄製品	9世紀前葉から中葉
141	A-2-n7	N-0°	長方形	5.62	4.83	34-37	平坦 [全周]	2	1	-	1	人為	土師器・須恵器・石磐 ・鉄製品	9世紀後葉

番号	位置	主軸方向	平面形	面積 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				埴土	主な出土遺物	時期	備考 (旧→新)	
								主柱穴 ピット	出入口 ピット	竈	野籠穴					
142	A-215	N-10°-W	方形	2.93 × 2.70	23-30	平坦	-	4	1	2	1	-	人為	土師器・須恵器	9世紀中葉	
143	A-215	N-18°-W	方形	2.27 × 2.18	25-28	平坦	全周	-	1	-	1	-	人為	土師器・須恵器	8世紀前葉	
144	A-245	N-0°	方形	2.84 × 2.63	37-45	平坦	一部	-	-	-	1	-	人為	土師器・須恵器・瓦陶瓦器・土範器	9世紀後葉	
149	Z-517	N-18°-E	方形	3.18 × 3.08	13-17	平坦	全周	-	-	-	1	-	自然	土師器・須恵器・瓦陶瓦器	9世紀後葉	

(2) 掘立柱建物跡

第20号掘立柱建物跡（第120・121図）

位置 調査区中央部のA-2g0区、標高24mの平坦な台地上に位置している。



第120図 第20号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第101号住居に掘り込まれている。

規模と構造 衍行3間、梁行2間の側柱建物跡で、衍行方向はN-9°-Eの南北棟である。規模は衍行6.3m、梁行4.2mで、面積は26.46m²である。柱間寸法は2.1m(7尺)を基調とし、ほぼ均等に配置されている。

柱穴 10か所。平面形は円形又は楕円形で、規模は長径65~96cm、短径65~76cmである。深さは25~44cmで、断面形は逆台形である。第1・2・6層は柱抜き取り痕に相当し、縫まりの弱い暗褐色土と黒褐色土である。

第3~5・7~9層は掘り方の埋土で、ローム土を含む暗褐色土を主体として互層をなしている。P1~P6~P8の底面からは、柱のあたりが確認されている。

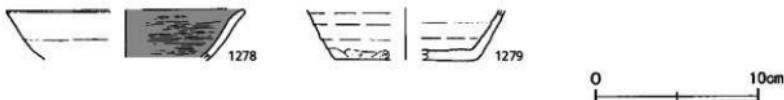
土器解説 (各柱穴共通)

1 黒 極 色	炭化粒子中量	ロームブロック少量	5 黒 極 色	ローム粒子多量
2 暗 極 色	ローム粒子中量	炭化粒子少量	6 黒 極 色	ロームブロック・炭化粒子少量
3 暗 極 色	ロームブロック少量		7 黒 極 色	ロームブロック少量
4 暗 極 色	ローム粒子・炭化粒子中量		8 暗 極 色	ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土器片31点(环5, 楔26), 須恵器片20点(环18, 盖1, 楔1)が各柱穴から出土している。

1279はP6の抜き取り痕の下層から出土している。

所見 時期は、重複関係及び、第3号鋳冶工房跡と主軸方向が一致することから8世紀後葉と考えられる。



第121図 第20号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第20号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第121図)

番号	種別	断面	口径	壁高	底径	施土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1278	土器器	环	[14.6]	(3.1)	-	良石	にかい褐色	普通	体部内・外側クロコナデ 内面ヘラ磨き	P8 置土下層	5%
1279	須恵器	环	-	(3.0)	[8.8]	良石・石英・青母	灰黄	普通	体部内・外側クロコナデ 外面下端手持ちへラ削り 底部反対方向の手持ちへラ削り	P6 柱抜き取リ置土下層	10%

第21号掘立柱建物跡 (第122図)

位置 調査区中央部のA-1h3区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

確認状況 調査区の南端で確認されており、南部が調査区域外に延びていると推測される。

重複関係 第109号住居跡、第3号鋳冶工房跡、第259号土坑を掘り込んでおり、第9号溝に掘り込まれている。第251・257・258号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 確認された範囲では、衍行2間、梁行2間の側柱建物跡である。規模は衍行4.8m、梁行4.8mで、面積は23.04m²である。柱間寸法は2.4m(8尺)を基調としており、ほぼ均等に配置されている。

柱穴 7か所。平面形は楕円形または隅丸方形で、規模は長径(軸)75~100cm、短径(軸)68~96cmである。

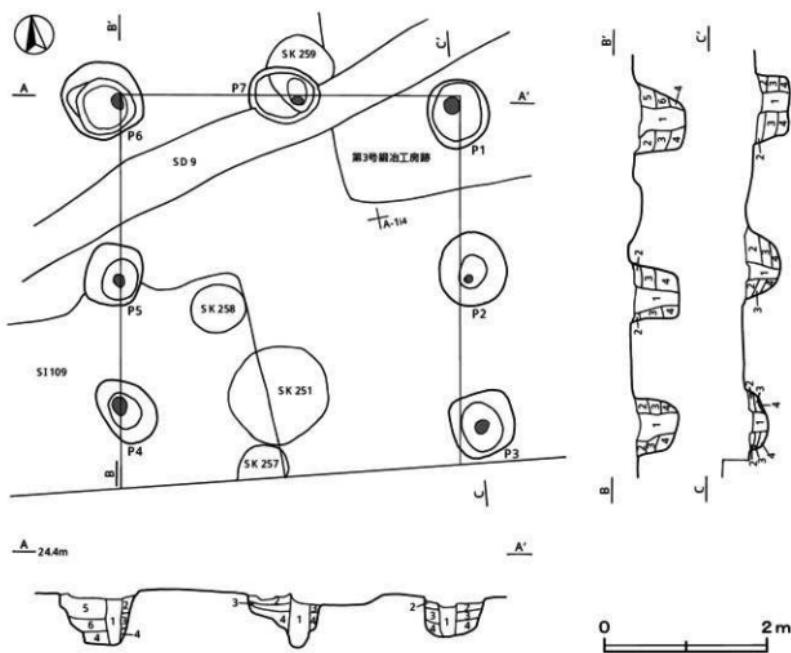
深さは29~61cmで、断面形はU字状または逆台形である。第1層は柱抜き取り痕に相当し、縫まりの弱い暗褐色土である。第2~6層は掘り方の埋土で、ローム土主体の暗褐色土と褐色土が互層をなしている。各柱穴の底面からは、柱のあたりが確認されている。

土層解説（各柱穴共通）

1	褐	色	ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量	4	褐	色	ロームブロック中量	
2	褐	色	ローム粒子中量	5	暗	褐	色	ローム粒子中量・炭化粒子少量
3	暗	褐	色	ロームブロック少量	6	褐	色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土器器片12点（环2, 横10）、須恵器片8点（环7, 横1）が各柱穴から出土しているが、いずれも細片で図示できない。

所見 本跡の北部に位置し、規模と軸方向が一致する第23号掘立柱建物跡との比較から、桁行3間、梁行2間で、南北棟の掘立柱建物跡の可能性が想定される。時期は、出土土器及び第110A号住居跡と主軸方向が一致することから9世紀後葉と考えられる。



第122図 第21号掘立柱建物跡実測図

第22号掘立柱建物跡（第123図）

位置 調査区中央部のA-1b3区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第104号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向はN-7°-Eの南北棟である。規模は桁行7.2m、梁行4.8mで、面積は34.56m²である。柱間寸法は2.4m(8尺)を基調としており、均等に配置されている。

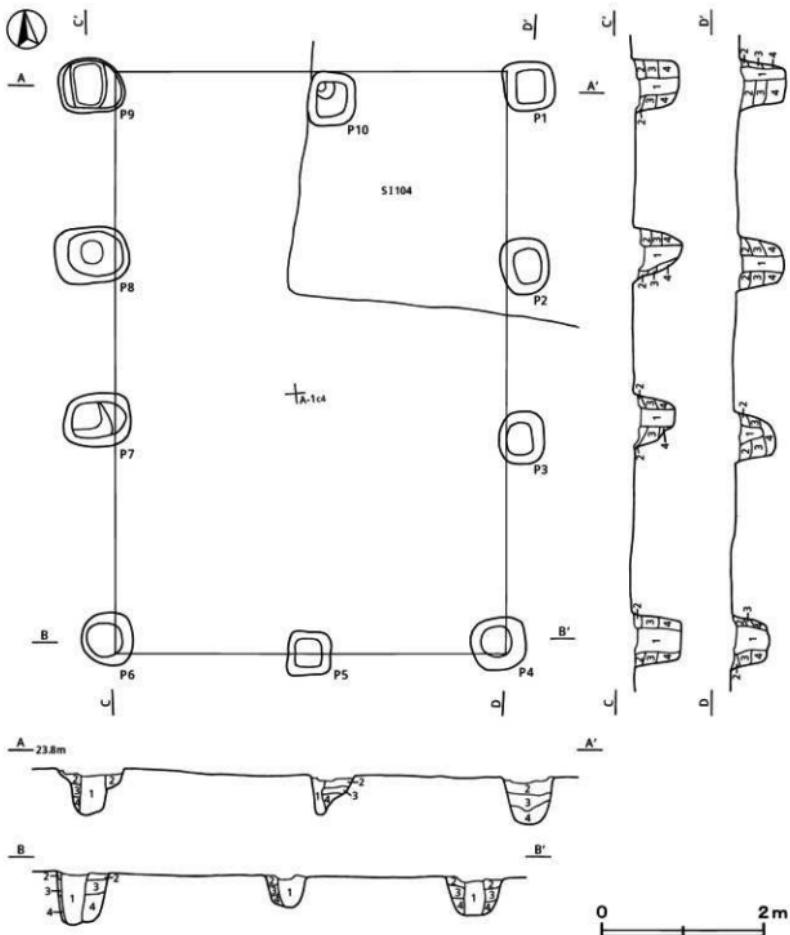
柱穴 10か所。平面形は円形・隅丸方形・隅丸長方形で、規模は長径(長軸)68-92cm、短径(短軸)50-52

cmである。深さは37~55cmで、断面形は逆台形である。第1層は柱抜き取り痕に相当し、締まりの弱い黒褐色土である。第2~4層は掘り方の埋土で、ローム土を含む暗褐色土と褐色土が互層をなしている。

土層解説(各柱穴共通)

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
2 線 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量

- 3 褐 色 ロームブロック中量
4 噴 褐 色 ロームブロック少量



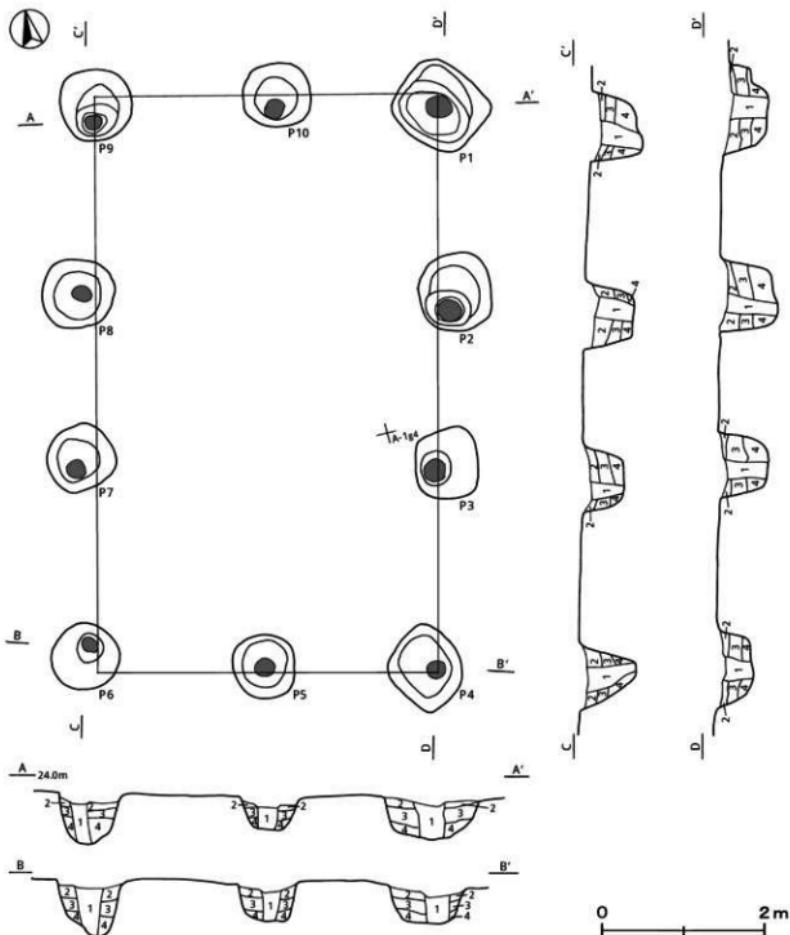
第123図 第22号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片10点(坏2, 瓢8), 須恵器片2点(坏, 瓢)が各柱穴から出土しているが, いずれも細片で図示できない。

所見 時期は, 重複関係及び, 第3号鋸治工房跡と主軸方向がほぼ一致していることから8世紀後葉と推定される。

第23号掘立柱建物跡(第124・125図)

位置 調査区中央部のA-1B3区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。



第124図 第23号掘立柱建物跡実測図

規模と構造 衍行3間, 梁行2間の側柱建物跡で, 衍行方向はN-14°-Eの南北棟である。規模は衍行7.2m, 梁行4.2mで, 面積は30.24m²である。柱間寸法は, 衍行が2.4m(8尺), 梁行が2.1m(7尺)を基調としており, 均等に配置されている。

柱穴 10か所。平面形は円形または橢円形で, 規模は長径(長軸)100~108cm, 短径(短軸)75~80cmである。深さは43~71cmで, 断面形はU字状または逆台形である。第1層は柱抜き取り痕に相当し, 繼まりの弱い黒褐色土である。第2~4層は掘り方の埋土で, 炭化粒子を含む暗褐色土と褐色土が互層をなしている。各柱穴の底面からは, 柱のあたりが確認されている。

土層解説(各柱穴共通)

1 黒 褐 色	炭化粒子中量	ロームブロック少量
2 暗 褐 色	ローム粒子・炭化粒子中量	

3 褐 色	ロームブロック中量
4 暗 褐 色	ロームブロック・炭化粒子中量

遺物出土状況 土器片31点(坏9, 横22), 須恵器片31点(坏17, 蓋2, 横9, 瓶3), 鉄製品1点(不明)が各柱穴から出土している。

所見 時期は, 本跡の南部に位置する第110A号住居跡と主軸方向が一致していること及び出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第125図 第23号掘立柱建物跡
出土遺物実測図

第23号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第125図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1280	須恵器	坏	[11.8]	(3.1)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部内・外面部クロナデ	裏土中	5%

第24号掘立柱建物跡(第126図)

位置 調査区中央部のA-1e6区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第105・106A・106B号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 衍行3間, 梁行2間の側柱建物跡で, 衍行方向はN-86°-Eの東西棟である。規模は衍行6.3m, 梁行4.2mで, 面積は26.46m²である。柱間寸法は2.1m(7尺)を基調としており, ほぼ均等に配置されている。

柱穴 10か所。平面形は円形または橢円形で, 規模は長径70~110cm, 短径70~107cmである。深さは26~57cmで, 断面形はU字状または逆台形である。第1・2・15層は柱抜き取り痕に相当し, 繼まりの弱い褐色土と暗褐色土である。第3~12層は掘り方の埋土で, ローム土主体の褐色土・暗褐色土・黒褐色土が叩きしめられて互層をなしている。第13~14層は柱抜き取り後の覆土とみられる。P1~P4・P7・P8の底面からは, 柱のあたりが確認されている。

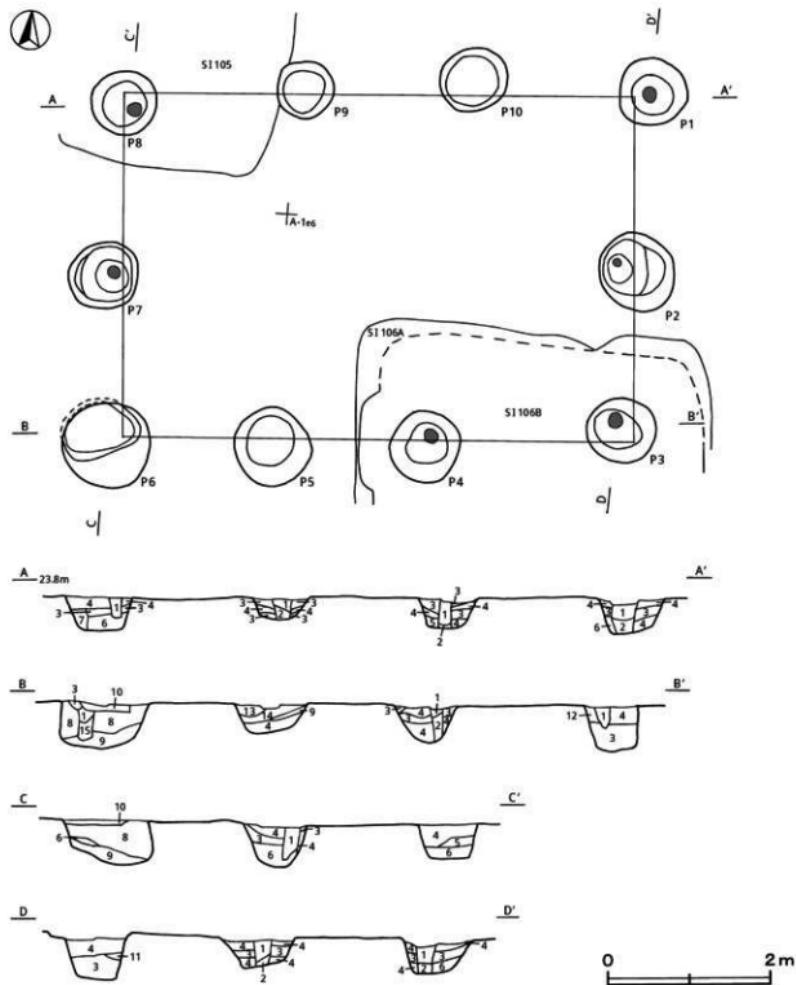
土層解説(各柱穴共通)

1 黒 褐 色	ロームブロック・炭化粒子少量
2 褐 色	ロームブロック中量, 繼まり弱
3 黒 褐 色	ロームブロック少量
4 暗 褐 色	ロームブロック中量
5 暗 褐 色	ロームブロック少量
6 暗 褐 色	ローム粒子少量
7 暗 褐 色	ロームブロック多量
8 褐 色	ローム粒子多量

9 褐 色	ロームブロック中量
10 黒 褐 色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量
11 暗 褐 色	ローム粒子中量
12 暗 褐 色	ローム粒子中量, 燃土粒子・炭化粒子少量
13 黒 褐 色	ローム粒子・燃土粒子少量
14 褐 色	ローム粒子中量
15 黒 褐 色	燃土粒子少量, ロームブロック少量

遺物出土状況 土器片111点,(坏13, 横98), 須恵器片17点(坏13, 蓋1, 横3)が出土している。

所見 時期は, 重複関係及び, 第112号住居跡と主軸方向が一致することから8世紀中葉と考えられる。



第126図 第24号掘立柱建物跡実測図

第25号掘立柱建物跡（第127・128図）

位置 調査区中央部のA-1d8区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第113号住居跡を掘り込み、第26号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

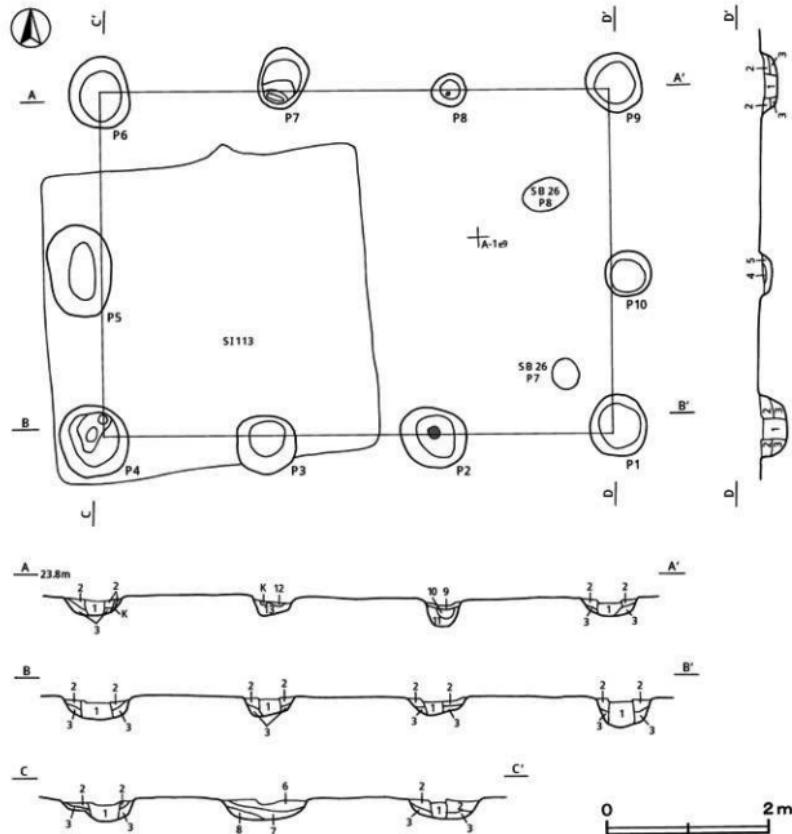
規模と構造 枠行3間、梁行2間の側柱建物跡で、枠行方向はN-87°-Wの東西棟である。規模は枠行6.3m、

梁行4.2mで、面積は26.46m²である。柱間寸法は2.1m(7尺)を基調としており、均等に配置されている。柱穴 10か所。平面形は円形または横円形で、規模は長径76~110cm、短径42~43cmである。深さは16~35cmで、断面形は逆台形である。第1層は柱の抜き取り痕に相当し、締まりの弱い黒褐色土である。第2~13層は掘り方の埋土で、暗褐色土・黒褐色土を主体として互層をなしている。P2~P8の底面からは、柱のあたりが確認されている。

土層解説(各柱穴共通)

1 黒褐色	炭化物・ローム粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ロームブロック少量
4 褐色	ローム粒子中量
5 褐色	ローム粒子多量
6 黒褐色	ロームブロック・炭化材・焼土粒子少量
7 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量

8 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
9 黒褐色	ロームブロック・炭化材少量
10 黒褐色	ロームブロック中量
11 褐色	ロームブロック中量
12 黒褐色	ロームブロック少量
13 褐色	ロームブロック少量



第127図 第25号掘立柱建物跡実測図



第128図 第25号掘立柱建物跡出土遺物
実測図

遺物出土状況 土器片48点(壺4, 瓢44), 須恵器片3点(壺1, 蓋2)が各柱穴から出土している。

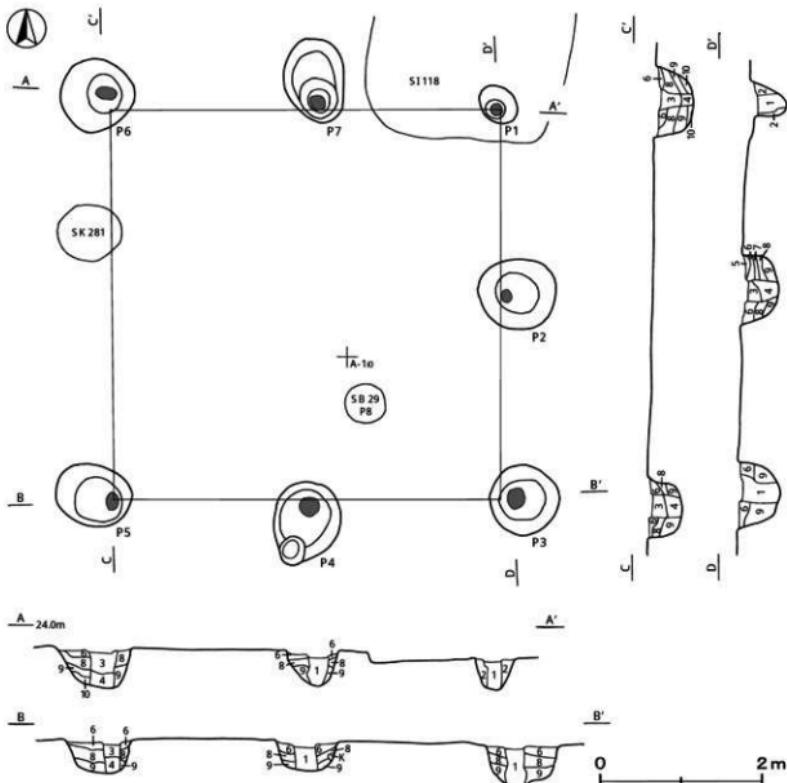
所見 時期は, 重複関係及び第116A号住居跡と主軸方向が一致することから9世紀中葉と考えられる。

第25号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第128図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1284	須恵器	蓋	[13.6]	(12)	-	長石・石英	黄灰	普通	体部内・外側口クロナダ	埋土中	5%

第27号掘立柱建物跡 (第129図)

位置 調査区中央部のA-1h9区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。



第129図 第27号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第118号住居に掘り込まれてあり、第29号掘立柱建物跡・第281号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡である。規模は、桁行・梁行ともに4.2mで、面積は17.64m²である。柱間寸法は2.4m(8尺)を基調としおり、均等に配置されている。柱筋は通っている。

柱穴 7か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径82~105cm、短径42~52cmである。深さは35~51cmで、断面形は逆台形である。第1・3・4層は柱抜き取り痕に相当し、砂質粘土を含む縫まりの弱い暗褐色土・黒褐色土である。第2・5~7層は掘り方の埋土であり、褐土と暗褐色土が叩き締められて互層をなしている。各柱穴の底面からは、柱のあたりが確認されている。

土層解説(各柱穴共通)

1 黑 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子 少量	6 暗 褐 色	ロームブロック中量
2 暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	7 褐 色	ロームブロック中量
3 暗 褐 色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量	8 暗 褐 色	ロームブロック・炭化粒子少量
4 暗 褐 色	ロームブロック少量	9 褐 色	ロームブロック多量
5 褐 色	ローム粒子中量	10 褐 色	ローム粒子少量

遺物出土状況 土器片13点(坏3, 瓢10), 須恵器片14点(坏8, 盖1, 瓶5)が出土しているが、いずれも細片で図示できない。

所見 時期は、重複関係及び、第112号住居跡と主軸方向が一致することから8世紀中葉と考えられる。

第28号掘立柱建物跡(第130図)

位置 調査区中央部のA 1h1区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第29号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物で、桁行方向はN-2°~Eの南北棟である。規模は、桁行7.2m、梁行4.8mで、面積は34.56m²である。柱間寸法は2.4m(8尺)を基調としており、ほぼ均等に配置されている。

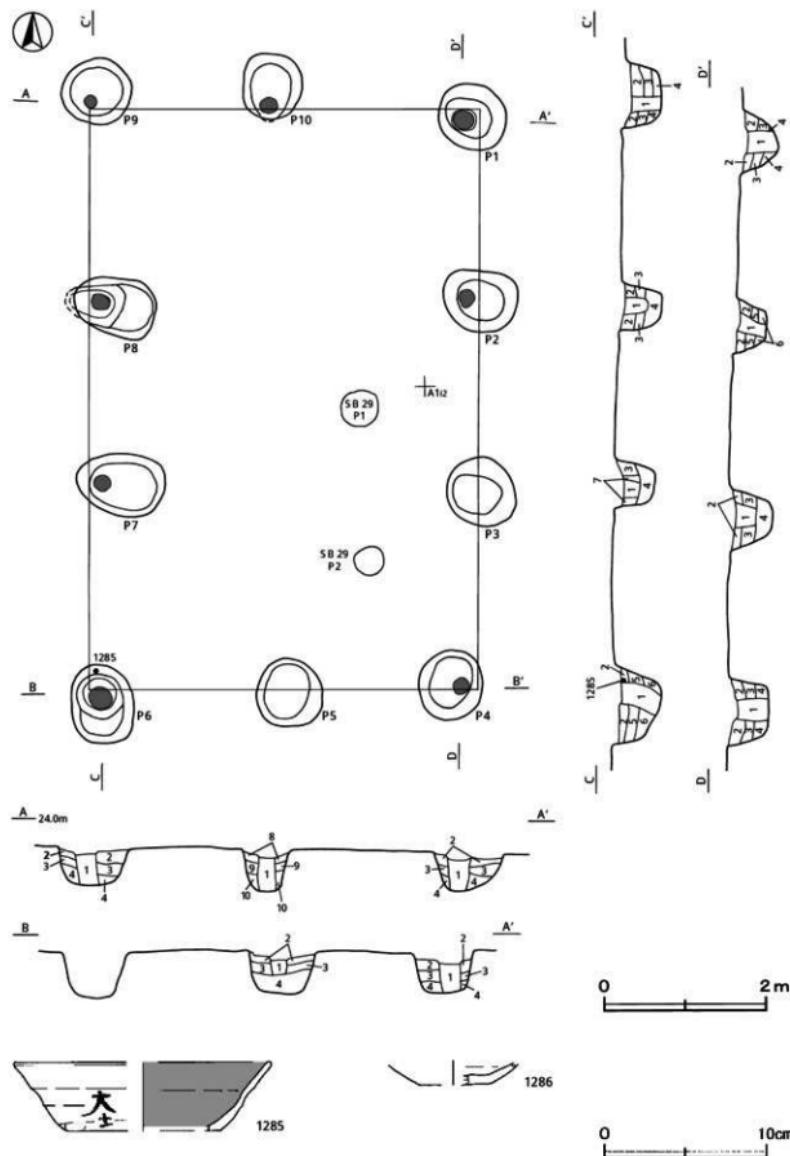
柱穴 10か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径80~112cm、短径72~76cmである。深さは40~53cmで、断面形はU字状または逆台形である。第1層は柱抜き取り痕に相当し、縫まりの弱い黒褐色土である。P 3・P 5を除く各柱穴の底面からは、柱のあたりが確認されている。掘り方の埋土は、ローム土と炭化粒子を含む褐色土・暗褐色土主体で、互層をなしている。

土層解説(各柱穴共通)

1 黒 褐 色	ロームブロック・炭化粒子少量	6 黒 褐 色	炭化粒子中量、ロームブロック少量
2 暗 褐 色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	7 黒 褐 色	ローム粒子・炭化粒子少量
3 褐 色	ロームブロック中量	8 黒 褐 色	炭化粒子中量、ローム粒子少量
4 褐 色	ロームブロック多量、炭化粒子少量	9 暗 暗 褐 色	炭化粒子中量、ローム粒子少量
5 暗 褐 色	ロームブロック・炭化物少量	10 暗 褐 色	ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土器片19点(坏3, 瓢16), 須恵器片6点(坏2, 盖2, 瓶類2)が各柱穴から出土している。1285はP 6の埋土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器及び、第116A号住居跡と主軸方向が一致することから9世紀中葉と考えられる。



第130図 第28号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第28号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第130図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1285	土師器	壺	[15.6]	42	[9.2]	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にふい黄褐	普通	体部内・外面口クロナダ 内面削り	P 6 墓土上層	10% 黒帯「大土」
1286	須恵器	瓶類	-	[14]	[14.0]	無芯 長石	黄灰 青灰	普通	体部内・外面口クロナダ 底部回転ヘラ削り	墓土中	5%

第31号掘立柱建物跡（第131図）

位置 調査区中央部のA-210区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

確認状況 調査区の南端で柱穴が3か所確認されており、南部は調査区域外に延びていると推測される。

規模と構造 東西軸はN- 74°- Wで、柱間寸法は2.1m（7尺）である。

柱穴 3か所。平面形は円形または橢円形で、規模は長径70-98cm、短径70-75cmである。深さは40-58cmで、断面形は逆台形である。第1・2層は柱抜き取り痕に相当し、縫まりの弱い暗褐色土である。第3・4層は掘り方の埋土で、暗褐色土と褐色土が互層をなしている。

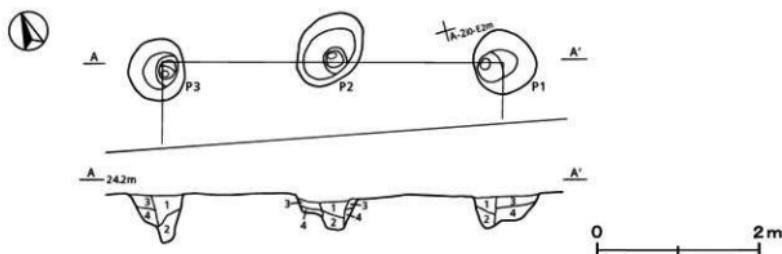
土層解説（各柱穴共通）

1 暗褐色 土 ローム粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色 土 ローム粒子少量

3 暗褐色 土 ロームブロック・炭化粒子少量
4 褐色 土 ロームブロック少量

遺物出土状況 土器片11点（壺4、皿1、甌6）、須恵器片6点（壺4、盤1、甌1）が各柱穴から出土しているが、いずれも細片で図示できない。

所見 本跡は、北東に位置している第23号掘立柱建物跡と軸方向がほぼ一致することから、桁行3間、梁行2間の、南北棟と想定される。時期は、第23号掘立柱建物跡と軸方向が一致していること及び出土土器から9世紀後葉と推定される。



第131図 第31号掘立柱建物跡実測図

第38号掘立柱建物跡（第132・133図）

位置 調査区東部のA-217区、標高24mの台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第132号住居跡、第430号土坑を掘り込み、第4号井戸に掘り込まれている。

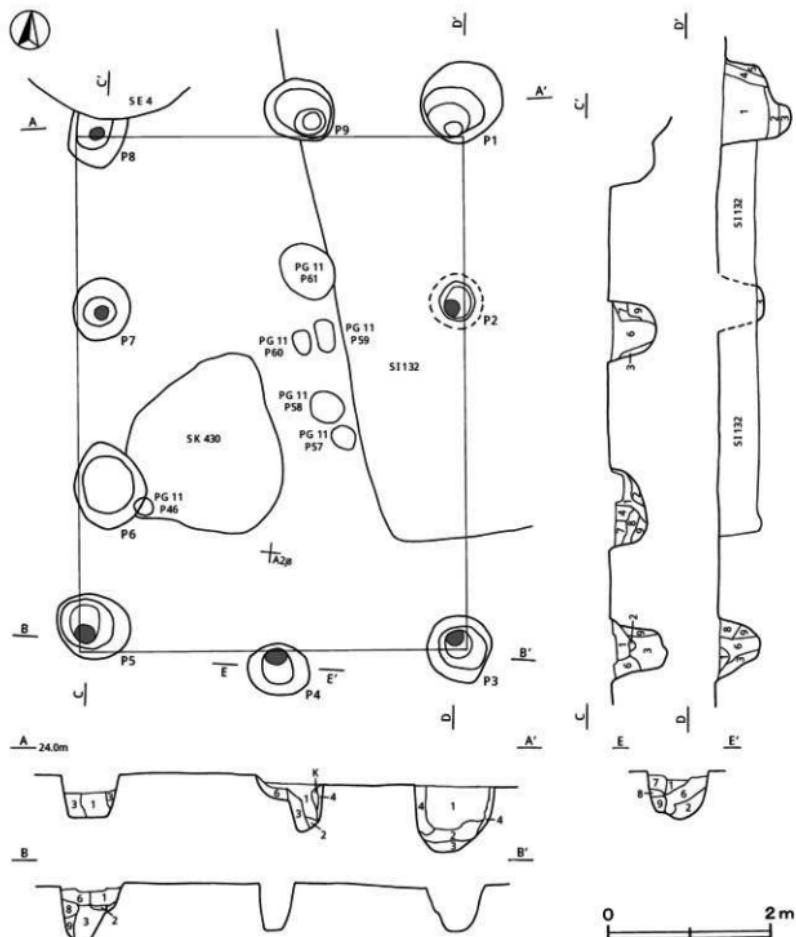
規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N- 5°- Wの南北棟である。規模は、桁行6.3m、梁行4.8mで、面積は30.24m²である。柱間寸法は桁行が2.1m（7尺）、梁行が2.4m（8尺）で、均等に配置されている。

柱穴 9か所。東桁行の1か所を確認できなかった。平面形は円形または橢円形で、規模は長径77-105cm、

短径62~92cmである。深さは44~80cmで、断面形はU字状または逆台形である。第1~6層は柱の抜き取り痕に相当し、綿まりの弱い暗褐色土・黒褐色土である。第7~9層は掘り方の埋土で、暗褐色土と黒褐色土が互層をなしている。P2~P5・P7・P8の底面からは、柱のあたりが確認されている。

土層解説（各柱穴共通）

1 黒 褐 色 ローム粒子微量	6 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物微量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
3 黒 褐 色 ロームブロック微量	8 黒 褐 色 ローム粒子少量
4 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	9 暗 褐 色 ロームブロック微量
5 暗 褐 色 ロームブロック少量	



第132図 第38号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片40点(环3, 瓢37), 須恵器片11点(环7, 瓢4)が各柱穴から出土している。

所見 時期は、第132号住居跡を掘り込んでおり、本跡の南西部に位置する第133号住居跡と主軸方向がほぼ一致することから、9世紀後葉と推定される。



第133図 第38号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第38号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第133図)

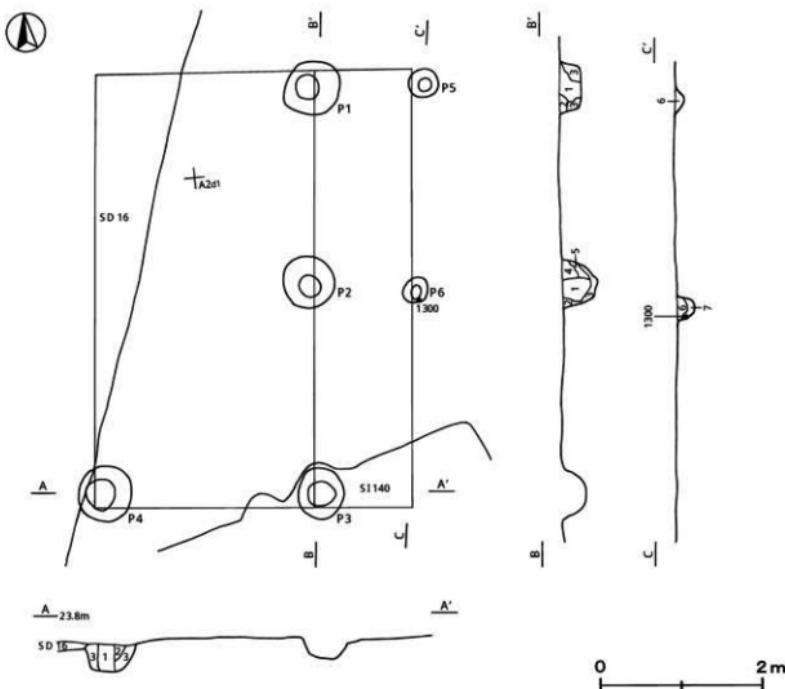
番号	種別	縦横	口径	縦高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1298	土師器	环	[20.0]	(30)	-	昌石・石英、 鐵等・鉱物粒子	にい焼	素面	体部内・外面へラ履き	P 6 地上中	5%

第39号掘立柱建物跡(第134・135図)

位置 調査区東部のA 2 d1区、標高24mの台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第140号住居跡を掘り込み、第16号溝に掘り込まれている。

規模と構造 衍行2間、梁行1間の身舎の東平に庇が付く側柱建物跡で、衍行方向はN-6°-Eの南北棟で



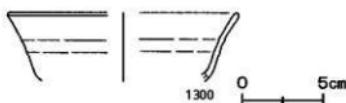
第134図 第39号掘立柱建物跡実測図

ある。身舎の規模は、桁行5.4m、梁行2.7m、面積は14.58m²である。柱間寸法は2.7m(9尺)で、庇の出は1.6m(4尺)である。

柱穴 6か所。西側北部の2か所は第16号溝に掘り込まれてあり確認できなかった。平面形は円形または横円形で、規模は長径32~70cm、短径32~65cmである。深さは20~34cmで、断面形は逆台形である。第1~3・6~7層は柱抜き取り痕に相当し、ロームブロックを含む暗褐色土主体である。第4~5層は掘り方の埋土である。

土層解説(各柱穴共通)

1	暗褐色	色	ロームブロック・炭化粒子少量	燒土粒子微量	5	暗褐色	色	ロームブロック微量
2	暗褐色	色	ローム粒子中量	炭化粒子微量	6	暗褐色	色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
3	暗赤褐色	色	ロームブロック中量	炭化粒子微量	7	褐色	色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
4	暗褐色	色	ロームブロック	炭化粒子少量				



第135図 第39号掘立柱建物跡出土遺物 実測図

遺物出土状況 土器片11点(表)、須恵器片5点(环3、表2)が各柱穴から出土している。1300はP6の覆土中層から出土している。

所見 時期は、重複関係及び西部の第117号住居跡と主軸方向がほぼ一致することから8世紀前葉と推定される。

第39号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第135図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1300	須恵器	环	140	(42)	-	岳石・石英・ 黄母	灰白	普通	内部内・外面クロナダ	P6 第3中層	10%

第43号掘立柱建物跡(第136図)

位置 調査区東部のA2h2区、標高24mの台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第48号掘立柱建物、第394・398・402号土坑に掘り込まれてあり、第11号ピット群と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造 衍行3間、梁行2間の側柱建物で、衍行方向はN-2°Wの南北棟である。規模は衍行6.9m、梁行4.2mで、面積は28.98m²である。柱間寸法は衍行が2.4m(8尺)、梁行が2.1m(7尺)で、均等に配置されている。柱筋はほぼ通っている。

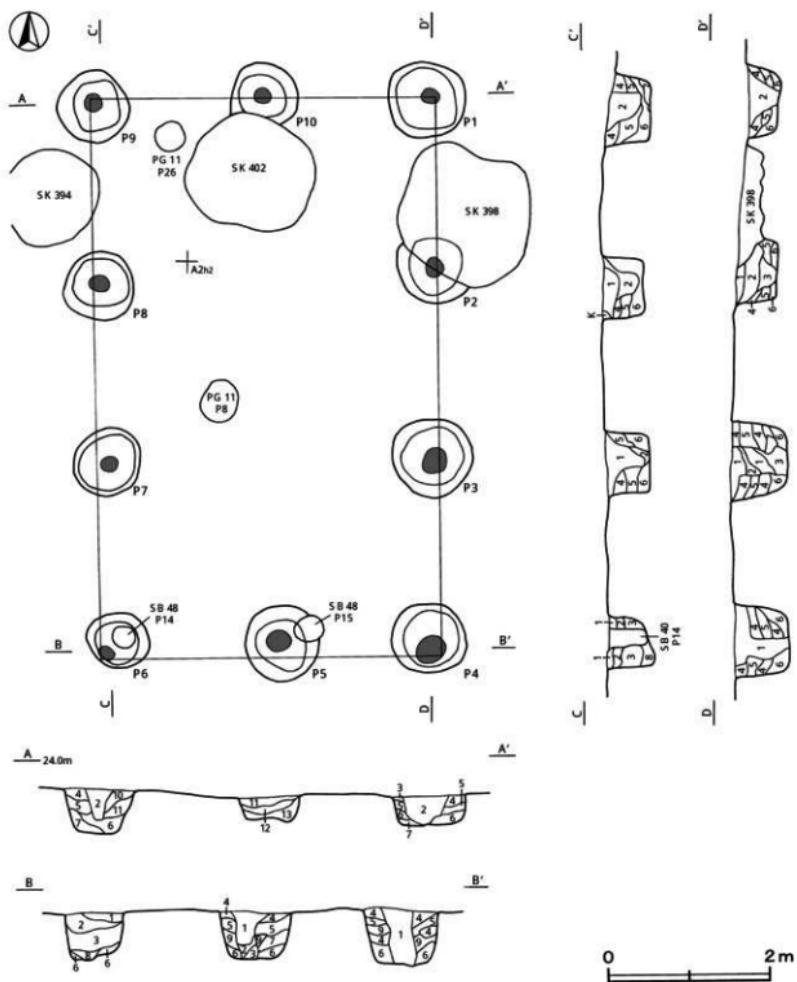
柱穴 10か所。平面形は円形で、規模は径75~92cmである。深さは40~72cmで、断面形は逆台形である。第1~3・8層は柱抜き取り痕に相当し、綺まりの弱い暗褐色土である。第4~7・9層は掘り方の埋土で、褐色土と暗褐色土が互層をなしている。第10~13層は柱抜き取り後の埋土である。すべての柱穴の底面からは、柱のあたりが確認されている。

土層解説(各柱穴共通)

1	暗褐色	色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
2	暗褐色	色	ロームブロック少量	9	暗褐色	色	ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	色	ロームブロック・炭化粒子微量	10	黒褐色	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4	褐色	色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量	11	暗褐色	色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
5	暗褐色	色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	12	暗褐色	色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
6	暗褐色	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	13	褐色	色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
7	褐色	色	ロームブロック多量、炭化粒子微量				

遺物出土状況 土器片40点(环7、高1、瓶32)、須恵器片9点(环7、蓋1、不明1)のほかに、流れ込んだ繩文土器片4点も各柱穴から出土しているが、いずれも細片で図示できない。

所見 時期は、出土土器及び第133号住居跡と主軸方向がほぼ一致することから9世紀後葉と推定される。



第136図 第43号掘立柱建物跡実測図

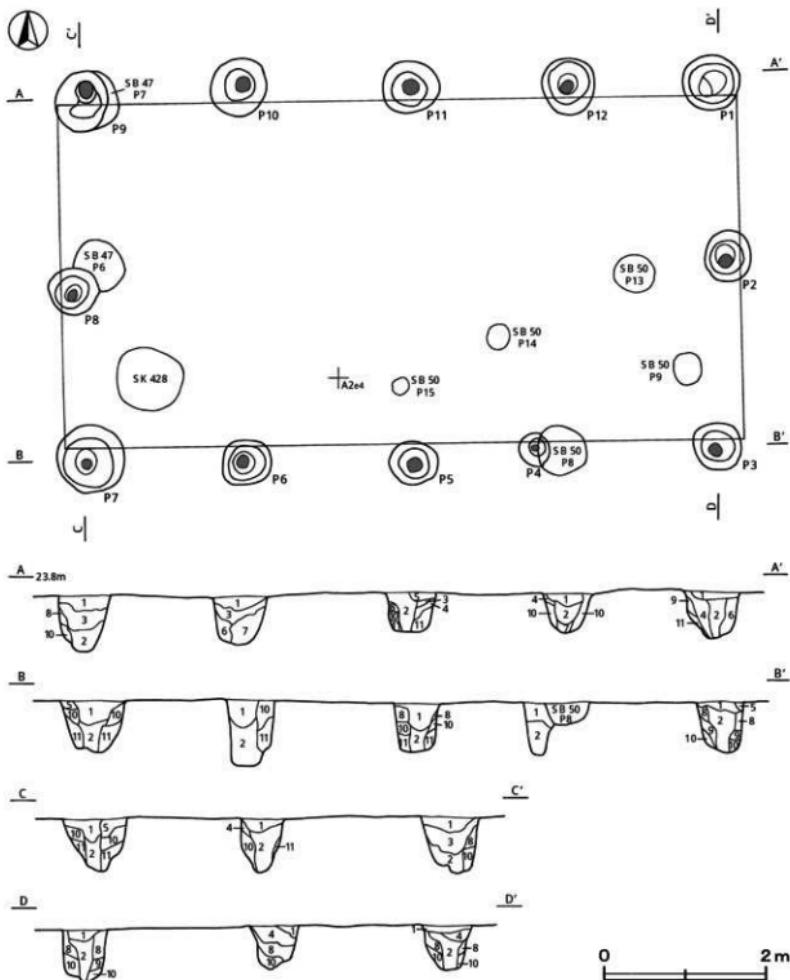
第45号掘立柱建物跡（第137図）

位置 調査区東部のA 2 d3区，標高24mの台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第47号掘立柱建物跡を掘り込み，第50号掘立柱建物に掘り込まれてあり，第428号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行4間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N- 89°- Eの東西棟である。規模は、桁行8.4m、梁行4.2mで、面積は35.28m²である。柱間寸法は、2.1m(7尺)を基調としており、ほぼ均等に配置されている。

柱穴 12か所。平面形は円形で、規模は径45~62cmである。深さは47~80cmで、断面形は逆台形である。第1~7層は柱の抜き取り痕に相当し、綿まりの弱い暗褐色土が主体である。第8~10層は掘り方の埋土で、褐色



第137図 第45号掘立柱建物跡実測図

土と暗褐色土が叩き締められて互層をなしている。P2-P12の底面からは、柱のあたりが確認されている。

土層解説（各柱穴共通）

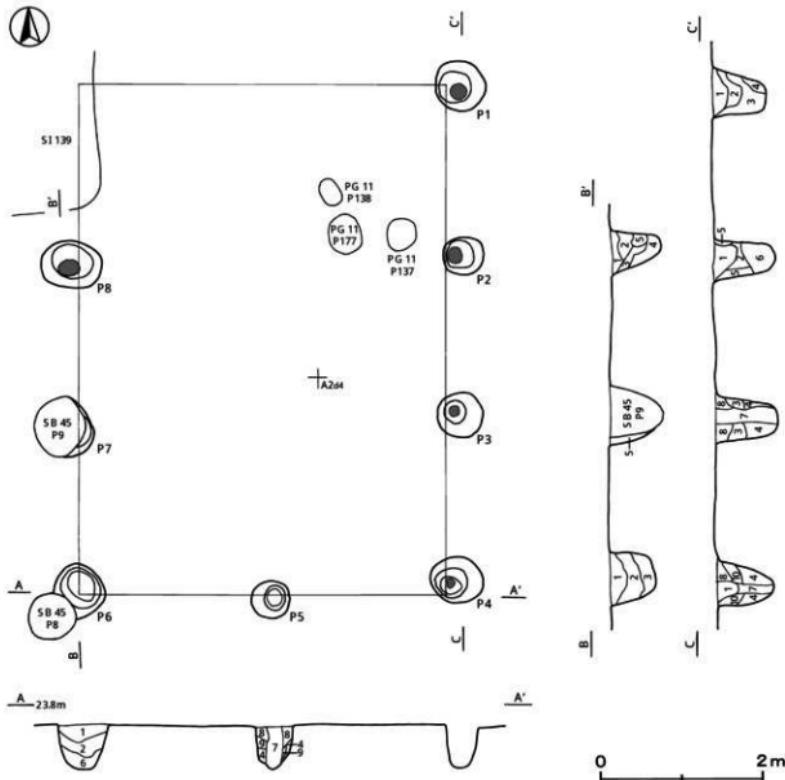
1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量	7 褐 色 ロームブロック中量
2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量	8 暗 褐 色 ロームブロック中量
3 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量	9 暗 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	10 褐 色 ロームブロック多量
5 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量	11 褐 色 ローム粒子中量
6 暗 褐 色 ロームブロック少量	

遺物出土状況 土器片10点（坏1, 瓢9）、須恵器片3点（坏, 盖, 瓶類）が各柱穴から出土しているが、いずれも細片で図示できない。

所見 時期は、出土土器及び第116A号住居跡と主軸方向が一致することから9世紀中葉と考えられる。

第47号掘立柱建物跡（第138図）

位置 調査区東部のA2d3区、標高24mの台地の縁辺部に位置している。



第138図 第47号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第139号住居，第45号掘立柱建物に掘り込まれており，第11号ピット群と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造 衍行3間，梁行2間の側柱建物で，衍行方向N-1°-Eである。規模は，衍行が7.2m，梁行が4.5mで，面積は32.40m²である。柱間寸法は2.4m(8尺)を基調としており，均等に配置されている。柱筋はほぼ通っている。

柱穴 8か所。北西の2か所を確認できなかった。平面形は円形または橢円形で，規模は長径50-75cm，短径45-60cmである。深さは50-76cmで，断面形はU字状または逆台形である。第1・2・5-7層は柱抜き取り痕に相当する。第3・4・8-10層は掘り方の埋土で，褐色土と暗褐色土が叩き締められた互層をなしている。

P1-P4・P8の底面からは，柱のあたりが確認されている。

土層解説(各柱穴共通)

1	暗	褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	6	褐	褐色	ロームブロック中量
2	暗	褐色	ロームブロック中量	7	黒	褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗	褐色	ローム粒子中量	8	暗	褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
4	褐	褐色	ロームブロック少量	9	暗	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
5	褐	褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量	10	褐	褐色	ロームブロック多量，炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片15点(穢)，須恵器片1点(环)，土製品1点(支脚)が各柱穴から出土しているが，いずれも細部で図示できない。

所見 時期は，重複関係及び，第39号堀立柱建物跡と衍行方向が一致することから8世紀前葉と考えられる。

表5 奈良・平安時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	衍行方向	柱間数 (衍×梁)	規模(m) (長幅×短幅)	面積 (m ²)	構造	衍行柱間 (m)	梁行柱間 (m)	柱穴平面形	深さ (cm)	主な出土遺物	時期	備考 (旧→新)
20	A-2g0	N-9°-E	3×2	6.3×4.2	26.46	側柱	2.1	2.1	円形・橢円形	25-44	土師器 須恵器	8世紀後葉	本跡→SI101
21	A-1h3	N-78°-W (Z)	2×2	4.8×4.8	23.04	側柱	2.4	2.4	橢円形・ 楕丸形	29-61	土師器	9世紀後葉	SI1003号墓地SK259+ 本跡→SD9
22	A-1h3	N-7°-E	3×2	7.2×4.8	34.56	側柱	2.4	2.4	円形・楢丸形・ 楢丸形	37-55	土師器 須恵器	8世紀後葉	SI104+本跡
23	A-1f3	N-14°-E	3×2	7.2×4.2	30.24	側柱	2.4	2.1	円形	43-71	土師器	9世紀後葉	
24	A-1e5	N-86°-E	3×2	6.3×4.2	26.46	側柱	2.1	2.1	円形・橢円形	26-57	土師器 須恵器	8世紀中葉	SI105-106A-106B→本 跡
25	A-1d8	N-87°-W	3×2	6.3×4.2	26.46	側柱	2.1	2.1	円形・橢円形	16-35	土師器 須恵器	9世紀中葉	SI113+本跡
27	A-1h9	-	2×2	4.2×4.2	17.64	側柱	2.4	2.4	円形・橢円形	35-51	土師器 須恵器	8世紀中葉	本跡→SI118
28	A-1h1	N-2°-E	3×2	7.2×4.8	34.56	側柱	2.4	2.4	円形・橢円形	40-53	土師器 須恵器	9世紀中葉	
31	A-2i0	N-74°-W	[3×2]	-×4.2	-	2.1	-	円形・橢円形	40-58	土師器 須恵器	9世紀後葉		
38	A-2i7	N-5°-W	3×2	6.3×4.8	30.24	側柱	2.1	2.4	円形・橢円形	44-80	土師器 須恵器	9世紀後葉	SI132SK43D+本跡+ SE4
39	A-2d1	N-6°-E	2×1	5.4×2.7	14.58	側柱	2.7	2.7	円形・橢円形	20-34	土師器 須恵器	8世紀前葉	SI140+本跡+SD16
43	A-2h2	N-2°-W	3×2	6.9×4.2	28.98	側柱	2.4	2.1	円形	40-72	土師器 須恵器	9世紀後葉	本跡+SI46SK39+39- 42
45	A-2d3	N-89°-E	4×2	8.4×4.2	35.28	側柱	2.1	2.1	円形	47-80	土師器 須恵器	9世紀中葉	SI47+本跡+SB50
47	A-2d3	N-1°-E	3×2	7.2×4.5	32.4	側柱	2.4	2.4	円形・橢円形	50-76	土師器・須恵器・ 土製品	8世紀前葉	本跡+SI1395845

(3) 鋼冶工房跡

第2号鋳冶工房跡(第139~142図)

位置 調査区中央部のA-2a8区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第279号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外に延びている。東西軸は3.76mで，南北軸は1.48mだけが確認されている。平

面形は方形もしくは長方形と推定され、主軸方向はN-88°-Eである。壁高は22~25cmで、外傾して立ち上がりっている。

床 平坦で、あまり綿まりがない。全面が貼床で、ロームブロックを含む褐色土（第5層）で埋土している。

掘り方は、コーナー部付近を深く掘り込んでおり、南壁際の中央部をステップ状に掘り残している。

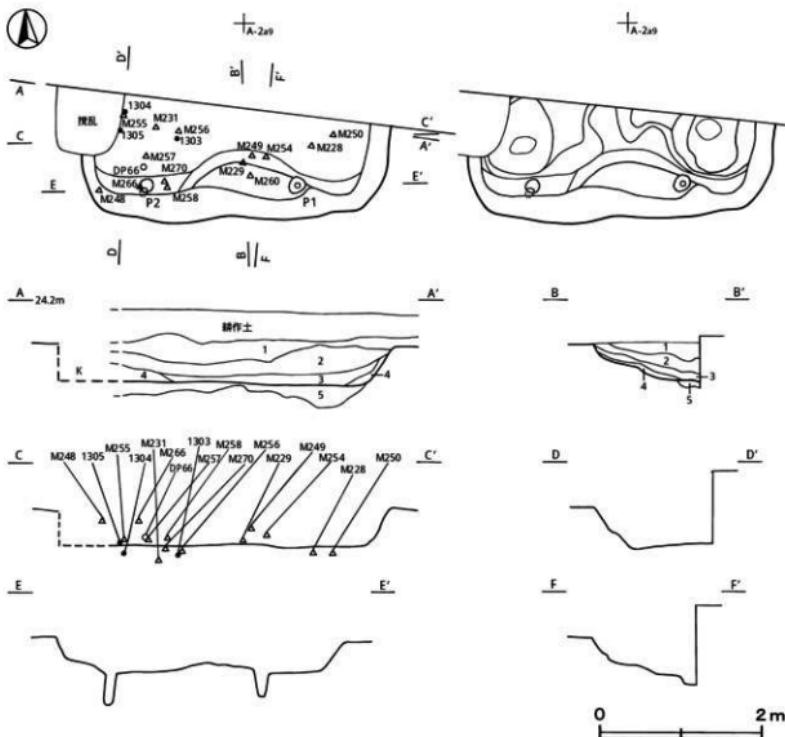
ピット 2か所。深さ23cmで、南壁際のステップの両脇に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分層される。第2~5層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	4 暗 色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	5 褐 色	ロームブロック中量
3 黒 褐 色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量		

遺物出土状況 土器片59点（壺2、甕57）、須恵器片57点（壺38、瓶類3、甕16）、土製品21点（羽口）、鉄製品8点（鎌1、釘1、不明6）、銅製品1点（丸鞘）、椀状滓115点（7,174g）、鐵滓1,266点（13,115g）、粒



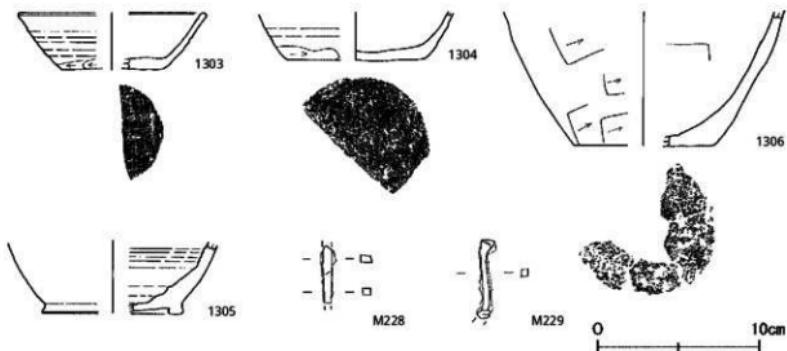
第139図 第2号鍛冶工房跡実測図

状渾60.7g, 錫造剥片280.0gのほかに, 混入した陶器片4点(碗1, 盘1, 瓢2), 瓦質土器片1点(鉢類), 銅製品1点(煙管)も出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は, 土師器模1点, 須恵器坏6点, 瓶類1点, 横1点である。1303・1304は貼床の覆土中から出土している。覆土上層からは, 椭状渾32点(1,174g), 鉄渾111点(1,472g), 粒状渾0.6gが出土している。覆土中層からは, 椭状渾48点(2,231g), 鉄渾429点(3,001g), 粒状渾12gが出土している。覆土下層からは, 椭状渾29点(2,274g), 鉄渾341点(3,460g), 粒状渾0.8gが出土している。床面及び掘り方土層からは, 椭状渾3点(597g), 粒状渾0.8g, P1からは, 鉄渾12点(19g), 粒状渾7.2g, 錫造剥片1.0g, P2からは, 鉄渾14点(100g), 粒状渾0.1gが出土している。覆土中層から床面にかけての覆土を孔径2mmの篩で選別したところ, 径2~5mmの鉄渾2,050g, 粒状渾50g(M243), 錫造剥片279g(M247)が確認されている。

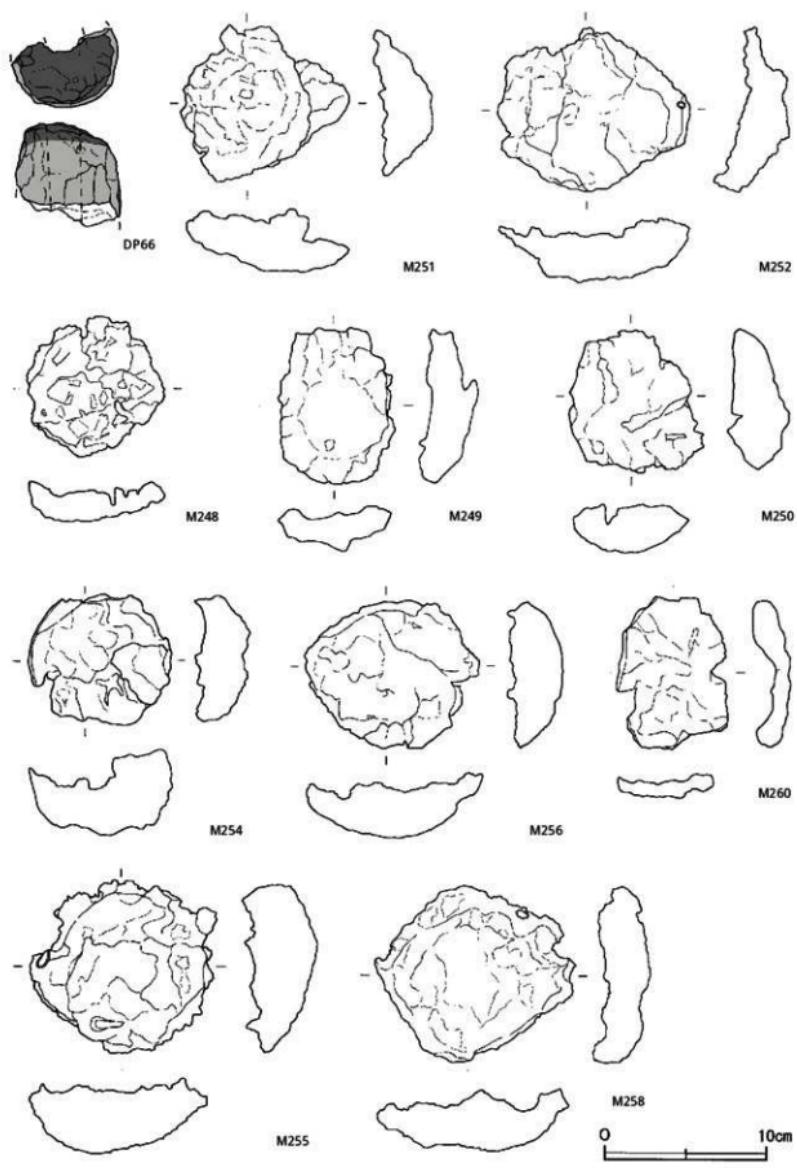
所見 覆土上層から床面にかけて多くの椭状渾, 鉄渾, 粒状渾, 錫造剥片及び輪の羽口が出土しており, 錫冶工房として使用されていたと推定される。南壁際の地山をステップ状に掘り残す構造は, 第1号錫冶工房跡に類似しており, 調査区域外に鍛冶炉を付設していたと想定される。時期は, 出出土器から8世紀中葉と考えられる。

第2号錫冶工房跡鉄渾類出土状況

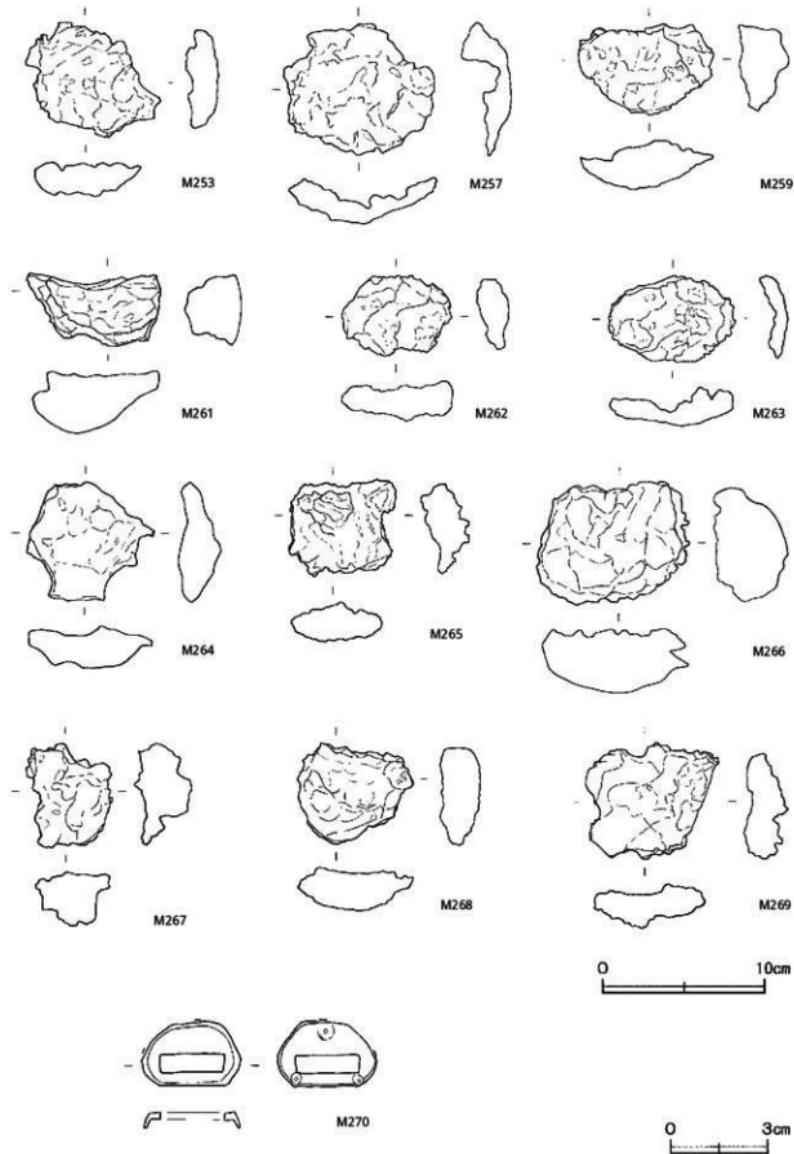
層位	種類	鉄渾						粒状渾 重量(g)	錫造剥片 重量(g)	軽い渾			
		5cm以上		3~5cm		3cm以下				点数	重量(g)		
		点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)			点数	重量(g)		
東部	上層	21	640	1	90	4	245	55	394	0	0		
	中層	37	1272	0	0	12	302	85	521	1.2	0		
	下層	2	226	1	88	9	412	55	892	0.4	0		
	床面~裏り方	1	223	0	0	0	0	0	0	0	0		
西部	上層	11	534	2	234	18	409	31	100	0.6	0		
	中層	11	959	1	105	46	917	283	1156	0	6		
	下層	27	2048	3	228	41	844	232	996	0.4	33		
	床面~裏り方	2	374	0	0	0	0	0	0.8	0	0		
P1	覆土中	0	0	0	0	0	0	12	19	7.2	1		
P2	覆土中	0	0	0	0	0	0	14	100	0.1	0		



第140図 第2号錫冶工房跡出土遺物実測図(1)



第141図 第2号鍛冶工房跡出土遺物実測図(2)



第142図 第2号鍛冶工房跡出土遺物実測図(3)

第2号鍛冶工房跡出土遺物観察表（第140~142図）

番号	種類	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1303	須恵器	环	[11.4]	35	[6.1]	良石・石英・赤色粒子	褐灰	普通 体部内・外面クロロナダ 底部二方向の手持ちヘラ削り	貼床覆土中	30%
1304	須恵器	环	-	(30)	[8.4]	良石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通 体部内・外面クロロナダ 外面下端手持ちヘラ削り	貼床覆土中	30%
1305	須恵器	瓶	-	(4.3)	[8.6]	良石・石英	黄灰	普通 底部内側台貼り行	貼土下層	10%
1306	土師器	瓶	-	(8.2)	[8.6]	良石・石英・ 滑母	灰褐	普通 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナダ 底部ヘラ削り	蓋土上層- 中層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
D166	輪状口	(6.4)	(6.6)	-	(124.4)	土製品	外面ガラス吹付着	覆土下層	
M228	壺	(3.5)	6.6	0.5	(2.56)	鉄	磁舟・茎部欠損	貼床覆土中	
M229	町	(5.9)	0.6	0.5	(3.34)	鉄	先端部欠損	床面	
M248	瓶状壺	8.6	8.5	2.4	178	鉄	著磁 磁褐色	覆土上層	
M249	瓶状壺	9.6	7.2	3.7	246	鉄	著磁 灰褐色	覆土中層	PL50
M250	瓶状壺	8.8	8.4	3.8	223	鉄	著磁 赤褐色 炉壁付着	覆土下層	PL50
M251	瓶状壺	9.6	10.4	3.9	319	鉄	著磁 磁褐色	覆土中	PL50
M252	瓶状壺	11.9	10.1	4.7	460	鉄	著磁 にぶい赤褐色	覆土中	PL50
M253	瓶状壺	7.1	8.2	2.1	119	鉄	著磁 にぶい赤褐色	覆土中	
M254	瓶状壺	7.7	8.7	5.2	302	鉄	著磁 にぶい赤褐色 倒面に炉壁付着	覆土下層	PL50
M255	瓶状壺	10.2	11.5	4.6	490	鉄	著磁 にぶい赤褐色	覆土下層	PL50
M256	瓶状壺	8.9	10.6	4.0	374	鉄	著磁 赤褐色 炉壁付着	床面	PL50
M257	瓶状壺	8.2	9.2	3.1	159	鉄	著磁 磁灰色	覆土下層	
M258	瓶状壺	10.8	12.4	3.8	406	鉄	著磁 赤褐色 炉壁付着	覆土下層	PL50
M259	瓶状壺	5.6	8.5	3.2	173	鉄	著磁 にぶい赤褐色	覆土中	
M260	瓶状壺	9.2	6.7	2.3	86	鉄	著磁 磁灰色 炉壁付着	覆土下層	PL50
M261	瓶状壺	4.5	8.2	3.8	145	鉄	褐灰色 炉壁付着	蓋土上層	
M262	瓶状壺	6.3	5.0	2.5	85	鉄	著磁 にぶい赤褐色	覆土上層	
M263	瓶状壺	7.9	5.3	2.4	100	鉄	暗赤褐色	覆土下層	
M264	瓶状壺	7.4	7.8	2.7	126	鉄	著磁 磁褐色	覆土下層	
M265	瓶状壺	6.6	6.1	3.0	106	鉄	著磁 磁褐色	覆土中層	
M266	瓶状壺	7.5	9.4	4.2	368	鉄	著磁 にぶい赤褐色	覆土上層	
M267	鉢	6.4	5.3	3.3	117	鉄	著磁 にぶい赤褐色	覆土下層	
M268	鉢	5.9	7.0	2.5	135	鉄	著磁 暗赤褐色	覆土下層	
M269	鉢	8.2	7.2	2.7	152	鉄	著磁 赤褐色	覆土下層	
M270	丸瓶	2.0	3.0	0.5	(4.20)	鋼	紙3か所	覆土下層	PL49

第3号鍛冶工房跡（第143~145図）

位置 調査区中央部のA-1h4区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

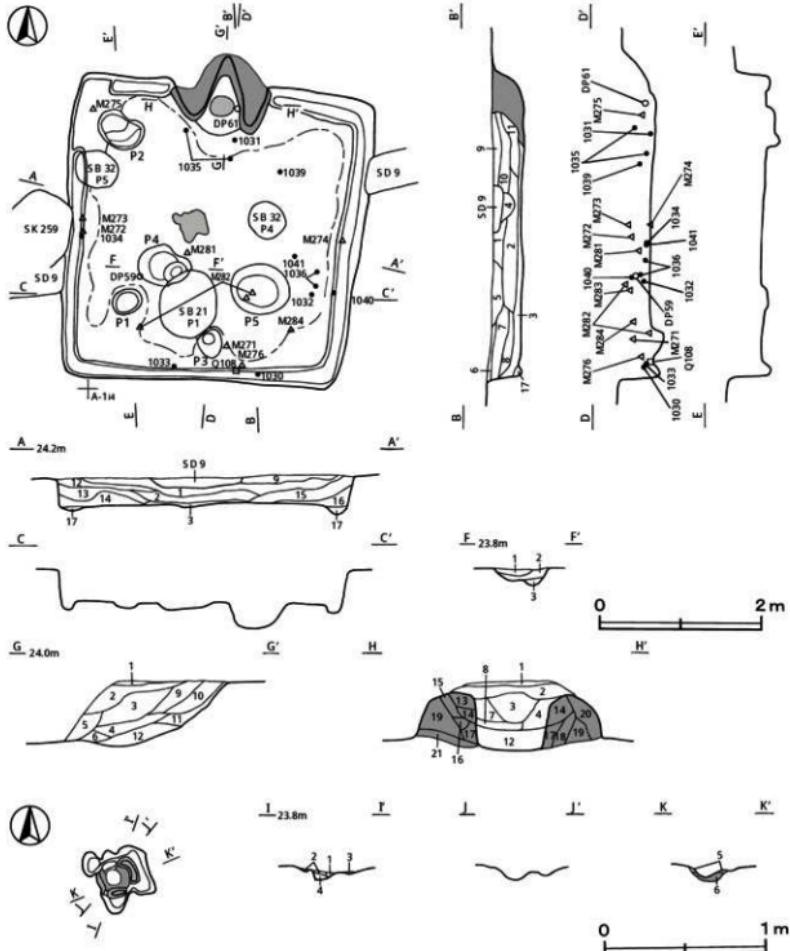
重複関係 第21・32号掘立柱建物、第9号溝、第259号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 一辺3.65mの方形で、主軸方向はN-5°-Eである。壁高は35~38cmで、直立している。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が北西コーナー部を除いて周回している。

龕 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで105cm、袖部幅126cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの平坦面に砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめて使用しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に40cmほど掘り込まれており、火床部から外傾して立ち上がっている。

電土層解説	
1 黒 褐 色 炭化物・ローム粒子少量	
2 に汚褐色 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	
3 暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	
4 暗褐色・赤褐色 焼土粒子中量	
5 暗赤褐色 烧土ブロック中量・炭化粒子少量	
6 雜赤褐色 烧土ブロック中量	
7 暗赤褐色 ロームブロック中量・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	
8 暗褐色・赤褐色 烧土粒子多量	
9 灰褐色 砂質粘土ブロック多量・焼土粒子少量	
10 雜赤褐色 烧土粒子多量・炭化粒子少量	
11 暗褐色・赤褐色 烧土ブロック多量・炭化粒子少量	
12 暗赤褐色 烧土粒子多量・炭化粒子少量	
13 灰褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	
14 褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子中量・焼土粒子少量	
15 褐色 烧土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	
16 褐色 烧土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量	
17 灰褐色 烧土ブロック中量	
18 灰褐色 烧土ブロック中量・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	
19 灰褐色 砂質粘土粒子中量・ローム粒子・焼土粒子少量	
20 灰褐色 砂質粘土粒子中量・ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	
21 灰褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子中量・焼土粒子少量	



第143図 第3号鍛冶工房跡実測図

鍛冶炉 中央部のやや東寄りに位置している。長径26cm、短径23cmの楕円形である。炉床部は深さ10cmで、地山を皿状に掘りくぼめた上に粘土を貼り付けており、炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。炉の周縁部は幅3~6cmの範囲で粘土が積み上げられ、高さは1~2cmで、北部・南東部・南西部に溝状のくぼみが確認されている。南東・南西部の溝は幅3cmほどで、規模から羽口の設置位置であったと推定される。北部の溝は幅12cmで、性格不明である。

鍛冶炉土層解説

1	暗赤	褐色	ローム粒子・焼土粒子中量	4	赤	褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量
2	黒	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	5	暗赤	褐色	焼土粒子多量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量
3	褐	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	6	灰	赤	焼土粒子多量、砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量

ピット 5か所。P1・P2は深さ6cm・18cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は深さ17cmで、南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P4は深さ19cmで、鍛冶炉の南西部に位置し、覆土中から粒状渦や鋳造剥片が出土していることから、鍛冶炉に伴うピットの可能性が考えられる。P5は深さ33cmで、性格不明である。

P4土層解説

1	暗	褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	3	褐	褐色	ロームブロック少量
2	褐	褐色	ロームブロック中量				

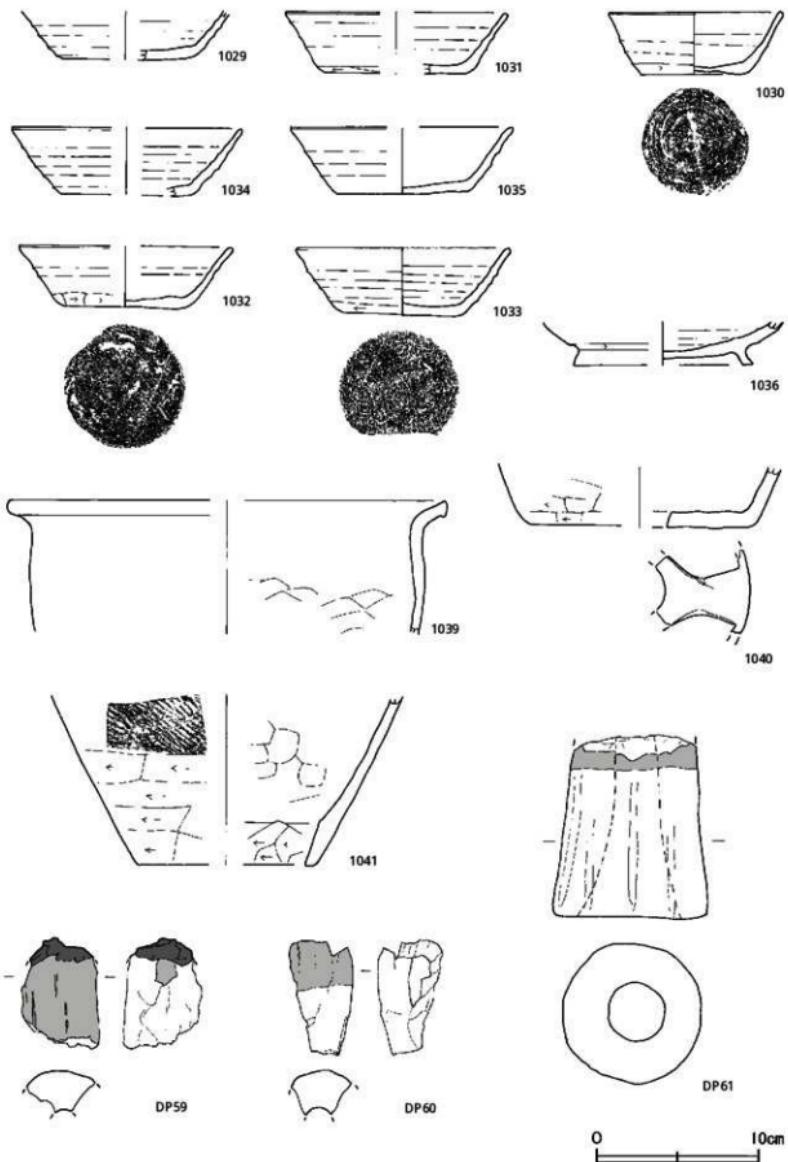
覆土 17層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

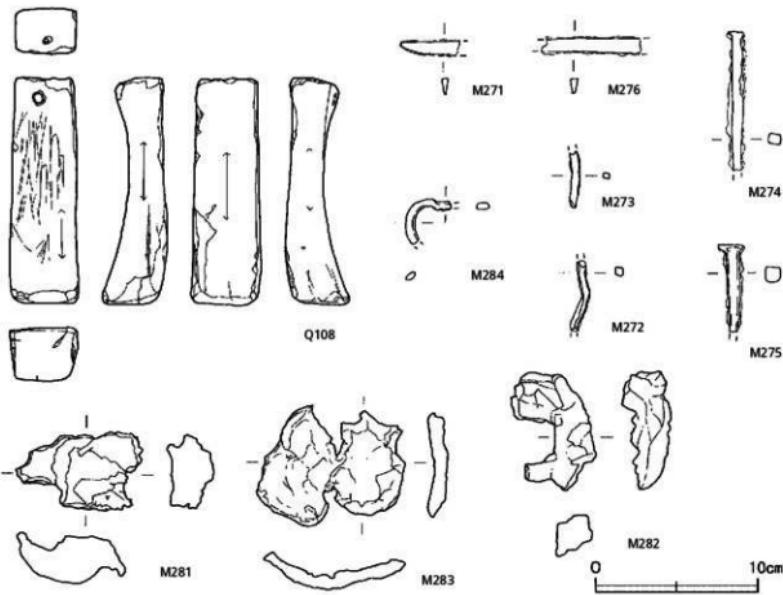
1	暗	褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	10	暗	褐色	ロームブロック中量、炭化材・焼土粒子少量
2	暗	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量	11	黒	褐色	ロームブロック中量、砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3	黒	褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	12	暗	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
4	褐	褐色	ロームブロック中量	13	黒	褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
5	暗	褐色	ロームブロック中量	14	暗	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6	暗	褐色	ロームブロック少量	15	暗	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
7	暗	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	16	褐	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量
8	黒	褐色	ロームブロック少量	17	褐	褐色	ローム粒子中量
9	黒	褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量				

遺物出土状況 土師器片140点（坏13、鉢3、甕124）、須恵器片106点（坏49、高台付坏3、蓋1、瓶3、鉢1、甕47）、土製品3点（鞆羽口）、石器1点（砥石）、鐵製品6点（刀子2、釘4）、銅製品1点（鉗具）、楕状渦26点（688g）、鐵渦13点（54g）、粒状渦0.5g、鋳造剥片32gのほかに、流入した石器1点（石核）も出土している。口縁部や体部などから推測される土器の個体数は土師器鉢1点、須恵器坏13点、高台付坏1点、鉢1点、甕2点である。1033は南壁際の覆土下層から一括して出土している。鍛冶炉周辺の覆土からは粒状渦が0.2g出土している。P4の覆土中からは、径5mm以下の鐵渦62g、粒状渦0.3g、鋳造剥片3.2gが出土している。

所見 中央部に鍛冶炉とみられる炉が確認されており、炉周辺及びP4覆土中から粒状渦や鋳造剥片が出土していることから鍛冶工房として使用されていたと考えられる。鍛冶炉が床面より下層で確認されていることと、鞆の羽口が鞆の支脚に転用されていたことから、鍛冶炉を廃絶した後にも鞆の使用は続いており、住居として使用されていたと推測される。時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第144図 第3号鍛冶工房跡出土遺物実測図(1)



第145図 第3号鍛冶工房跡出土遺物実測図(2)

第3号鍛冶工房跡出土遺物観察表(第144・145図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1029	須惠器	环	-	(30)	[8.5]	長石・石英、 青石・赤色粒子	灰白	普通	体部内・外表面クロナダ 底部手持ちヘラ削り	壇土上層～下層	30%	
1030	須惠器	环	10.5	38	6.6	長石・石英、 青石・赤色粒子	褐灰	普通	体部内・外表面クロナダ 外側下端回転ヘラ削り	壇土下層	90% PL34	
1031	須惠器	环	[13.4]	3.8	[8.8]	長石・石英、 青石・赤色粒子	褐灰	普通	体部内・外表面クロナダ 外側下端回転ヘラ削り	壇土下層	20%	
1032	須惠器	环	[13.0]	3.7	7.5	長石・石英、 青石	褐灰	普通	体部内・外表面クロナダ 外側下端手持ちヘラ削り	壇土下層	40%	
1033	須惠器	环	13.1	42	7.2	長石・石英、 青石	黄灰	普通	体部内・外表面クロナダ 手持ちヘラ削り	壇土下層	60% PL34	
1034	須惠器	环	[14.0]	4.1	[8.0]	長石・石英、 青石・赤色粒子	に高1黄根	普通	体部内・外表面クロナダ 底部手持ちヘラ削り	壇土下層	25%	
1035	須惠器	环	[13.6]	4.1	8.0	長石・石英、 青石・赤色粒子	黄灰	普通	体部内・外表面クロナダ 直線二方向手持ち削り	壇土中層～下層	50% PL34	
1036	須惠器	高台付环	-	(2.7)	[11.0]	長石・石英、 青石・赤色粒子	灰黄	普通	体部内・外表面クロナダ 底部回転ヘラ削り	壇土下層	20%	
1039	土器類	林	[26.8]	(8.1)	-	長石・石英、 青石・赤色粒子	褐	口縁部内・外巻模ナダ	体部外ナダ	内面 へラ削り	壇土下層	5%
1040	須惠器	瓶	-	(3.8)	[14.0]	長石・石英、 青石・赤色粒子	灰白	普通	外側下端ヘラ削り	壇土上層	5%	
1041	須惠器	瓶	-	(10.3)	[10.6]	長石・石英、 青石・赤色粒子	褐灰	普通	体部外要斜位の平行叩き目、 内面当て具足、下端ヘラ削り	壇土下層	5%	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
DP59	鍔羽口	(6.8)	(4.7)	-	(65.0)	土製品	先施部ガラス質の津付唇	壇土上層	PL46
DP60	鍔羽口	(7.1)	(4.0)	-	(48.3)	土製品	先施部ガラス質の津付唇	壇土中層	
DP61	鍔羽口	(11.1)	9.5	-	(695.0)	土製品	先施部ガラス質の津付唇	壇土中層	支脚転用 PL46
Q106	鉢	139	43	33	303.0	砂岩	頸部4面 2面からの穿孔(未通)	壇土下層	PL47
M271	刀子	(3.2)	0.9	0.3	(196)	鉄	茎部欠損	壇土中層	

番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M272	釘カ	(4.3)	0.4	0.4	(2.30)	鉄	断面方形 頭部欠損	覆土上層	
M273	釘カ	(3.4)	0.7	0.3	(1.86)	鉄	断面長方形 頭部欠損	覆土上層	
M274	釘	(8.5)	0.6	0.6	(22.4)	鉄	断面方形 頭部欠損	覆土下層	PL48
M275	釘	(5.5)	0.9	0.9	(18.0)	鉄	断面方形 頭部欠損	覆土下層	PL48
M276	刀子	(5.85)	0.9	0.4	(5.85)	鉄	刃部・基部欠損	覆土中層	PL48
M281	塊状滓	7.7	4.8	2.9	119	鉄		覆土上層	PL50
M282	鉄滓	7.2	5.4	3.1	98	鉄		覆土上層～下層	PL50
M283	塊状滓	7.4	9.0	2.1	57	鉄		覆土上層	PL50
M284	鉄具	(2.8)	(2.8)	0.4	(7.95)	鋼		覆土中層	PL49

表6 奈良・平安時代鍛冶工房跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁構	内部施設			覆土	主な出土遺物	時期	備考	
								主柱穴 （各軸）	出入口 （ピット）	竪					
2	A-2aB	N-88° E	方形・ 長方形	376 × (146)	22~25	平坦	-	-	2	-	-	-	土師器・漆器 瓦滓類・陶製品	8世紀中葉	本跡-SK275
3	A-1b4	N-5° E	方形	365 × 365	35~38	平坦	確認 全周	2	1	2	1	1	人馬 土師器・漆器 瓦滓類・陶製品	8世紀後葉	本跡-SK221、 32SD95SK259

(4) 大形豎穴状遺構

第3号大形豎穴状遺構(第146~148図)

位置 調査区中央部のA-2b4区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

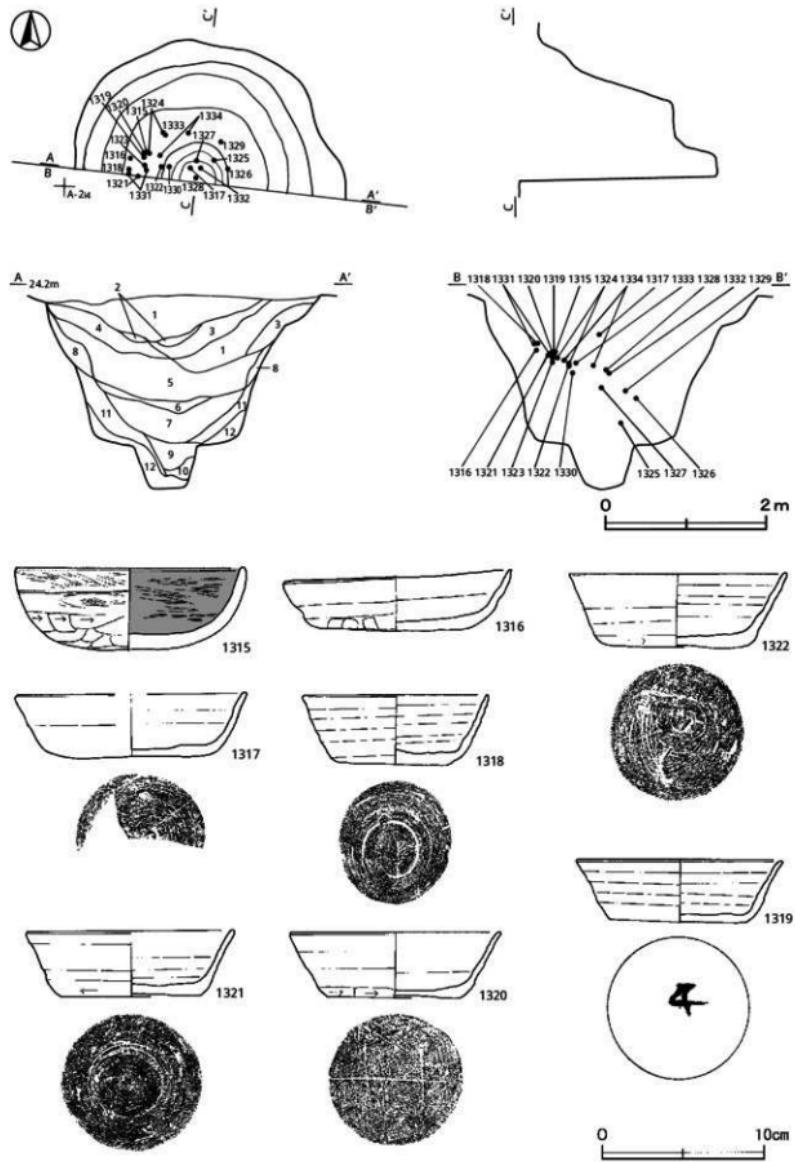
規模と構造 南部が調査区域外に延びているため、東西径3.40m、南北径は1.55mだけが確認されている。平面形は円形もしくは橢円形と推測され、深さは2.17mである。底面はほぼ平坦で、規模は東西径1.75m、南北径は0.75mで、形状は円形もしくは橢円形と推測される。底面の中央部には、円形もしくは橢円形とみられる掘り込みが確認されており、東西径0.78m、南北径0.42m、深さ54cmである。壁は外傾して立ち上がっている。覆土 12層に分層される。第1~7層は縦まりの弱いブロック状の堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。第8~12層はローム粒子を含むレンズ状の堆積状況を示しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒 緑 色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量	7 噴 緑 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量、縦ま り弱
2 噴 赤 緑 色	焼土粒子少量、炭化物少量、縦まり弱		
3 噴 緑 色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量	8 緑 色	ローム粒子少量
4 噴 緑 色	ロームブロック少量、縦まり弱	9 黒 緑 色	ローム粒子微量
5 噴 緑 色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量、 縦まり弱	10 噴 緑 色	ローム粒子少量
6 緑 色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量、 縦まり弱	11 緑 色	ローム粒子多量
		12 噴 緑 色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片142点(壺13、瓶3、甕126)、須恵器片42点(壺16、高台付壺3、蓋8、長頸瓶4、壺類1、瓶1、甕9)、土製品2点(輪羽口)、鉄滓1点が出土している。1315・1316・1318~1324・1326~1334は中央部から西寄りの第5層中からそれぞれ出土している。1315・1319・1320は西部から逆位で重なって出土している。1326は逆位、1330は斜位、1332は横位でそれぞれ中央部から出土している。1325は中央部の第7層中から出土している。

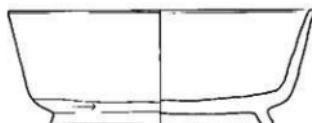
所見 第1・2号大形豎穴状遺構と異なり台地の平坦部に位置しているが、中央部に深い掘り込みのある形状から氷室状遺構と推測される。第5層中から集中して出土した土器は、いずれも完存率が高いことから一括して投棄されたものと考えられる。時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第146図 第3号大形竪穴状遺構・出土遺物実測図



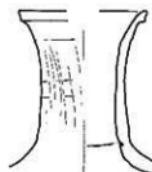
1323



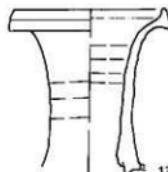
1324



1325



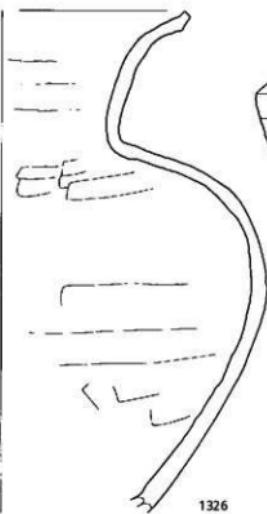
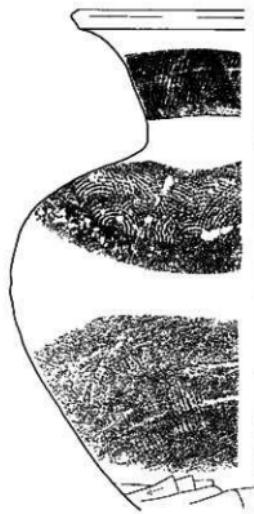
1328



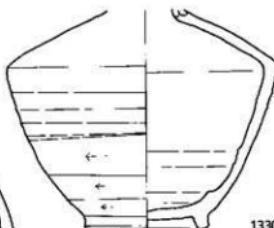
1329



1327



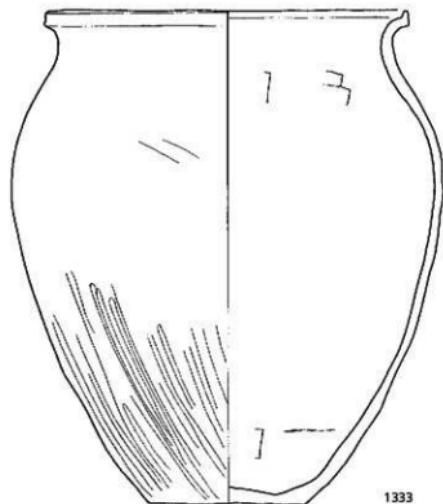
1326



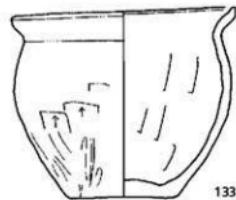
1330



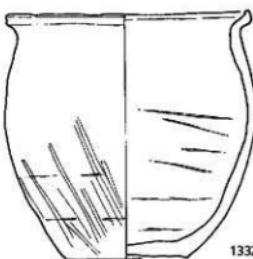
第147図 第3号大形竪穴状遺構出土遺物実測図(1)



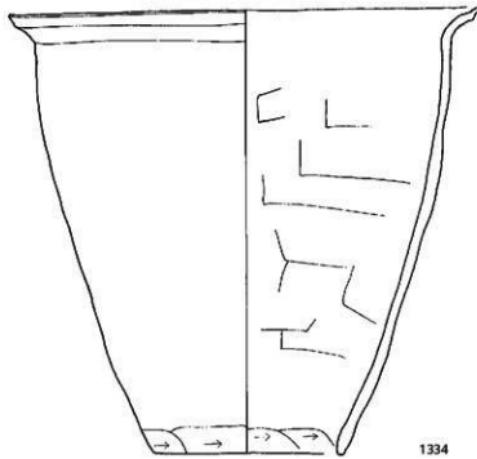
1333



1331



1332



1334



第148図 第3号大形竪穴状遺構出土遺物実測図(2)

第3号大型窓穴状遺構出土遺物観察表（第146～148図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1315	土師器	壺	13.8	5.0	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外周横ナダ 体部外側へラ削り 内側へ削き	覆土中層	95% PL31
1316	土師器	壺	14.0	3.6	-	長石・石英・赤色粒子	灰	普通	口縁部内・外周横ナダ 体部外側へラ削り 内側へナダ	覆土中層	95% PL31
1317	須恵器	壺	[14.0]	3.9	8.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部内・外周口クロナダ 底部回転へラ削り	覆土上層	35% PL34
1318	須恵器	壺	11.5	4.4	6.9	長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	体部内・外周口クロナダ 底部回転へラ削り 底部回転方向の手持ちへ削り	覆土中層	100% PL34
1319	須恵器	壺	12.6	3.9	8.6	長石・石英・赤色粒子	灰黄	普通	体部内・外周口クロナダ 底部回転へラ削り 底部回転方向の手持ちへ削り	覆土中層	95% PL34 黒土「J」
1320	須恵器	壺	12.8	4.1	8.2	長石・石英・赤色粒子	灰	普通	体部内・外周口クロナダ 底部回転へラ削り 底部回転方向の手持ちへ削り	覆土中層	95% PL35 黒土「J」
1321	須恵器	壺	12.8	4.0	8.4	長石・石英・赤色粒子	灰灰	普通	体部内・外周口クロナダ 外面下端・底部回転へラ削り	覆土中層	80% PL35
1322	須恵器	壺	13.4	4.6	8.2	長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	体部内・外周口クロナダ 外面下端・底部回転方向へ削り	覆土中層	80% PL35
1323	須恵器	高台付壺	17.4	7.0	11.0	長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	体部内・外周口クロナダ 底部回転へラ削り 底部回転方向へ削り	覆土中層	90% PL35
1324	須恵器	高台付壺	18.6	7.1	13.3	長石・石英・赤色粒子	灰	普通	体部内・外周口クロナダ 外面下端・底部回転方向へ削り	覆土中層	90% PL35
1325	須恵器	壺	16.3	3.1	-	長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	体部内・外周口クロナダ 天井部回転へラ削り(後づみみ跡)付り	覆土中層	75% PL36
1326	須恵器	壺	[22.5] [30.8]	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄	普通	體外墨刷の平口可凹目 体部外側上部圓心円上の凹目付・下部圓の半凹目付 下端へ削り 内側へナダ	覆土中層	80% PL36
1327	須恵器	長瓶瓶	-	(7.1)	5.2	長石・石英・赤色粒子	灰	普通	体部内・外周口クロナダ 外面下半・底部手持ちへ削り	覆土中層	70% PL36
1328	須恵器	長瓶瓶	[7.8]	(10.0)	-	長石・石英・赤色粒子	灰	普通	口クロナダ 脊部に縱方向への書き 8条	覆土中層	25% PL36
1329	須恵器	長瓶瓶	9.2	(10.2)	-	長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	口クロナダ	覆土中層	25% PL36 自然剥付
1330	須恵器	長瓶瓶	-	(13.4)	7.6	長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	体部内・外周口クロナダ 外面下端・底部回転へラ削り 土台貼り付け	覆土中層	70% PL36
1331	土師器	壺	13.6	11.6	6.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口クロナダ 外周横ナダ 体部外側へラ削り	覆土中層	80% PL40
1332	土師器	壺	14.7	15.1	7.3	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	口クロナダ 内側へナダ 底部本層	覆土中層	95% PL40
1333	土師器	壺	22.1	30.3	9.4	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口クロナダ 外周横ナダ 体部外側へナダ後へラ削り 底部へナダ	覆土中層	70% PL40
1334	土師器	壺	28.8	27.3	11.6	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	口クロナダ 外周横ナダ 体部外側ナダ 下端へラ削り	覆土中層	90% PL40

(5) 溝跡

第16号溝跡（第149図、付図）

位置 調査区東部のA 2 b1～A 1 g9区、標高24mの台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第39号掘立柱建物跡を掘り込んでおり、第11号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 北部、西部、南部が調査区域外に延びている。北東方向（N~19°E）に直線的に延びてあり、長さ24.4m、上幅0.70~1.80m、下幅0.20~0.75mが確認されており、深さは42~55cmである。断面形は緩やかな弧状で、中央部が箱形に掘り込まれていると推測される。

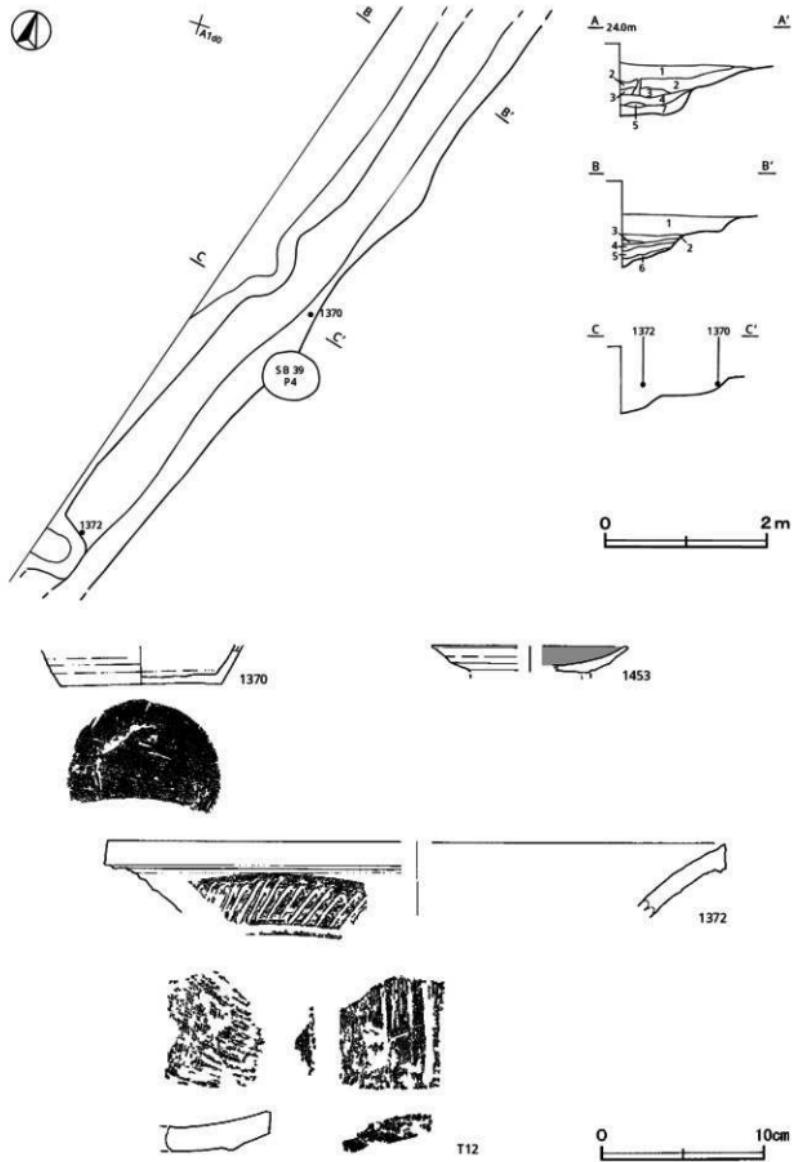
覆土 7層に分層される。第1~3層はレンズ状の堆積状況を示しており、自然堆積と考えられる。第4~7層は各層の継まりが強いことから、人為堆積の可能性が考えられる。

土層解説

1	褐	色	ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化物微量	5	明	褐	色	ロームブロック多量、継まり強
2	褐	色	ロームブロック多量	6	褐	色	ローム粒子多量、継まり強	
3	褐	色	ロームブロック多量、炭化物粒子少量	7	明	褐	色	ロームブロック・褐色土粒多量、継まり強
4	暗	褐	色					

遺物出土状況 土師器片149点（壺30、高台付皿1、蓋1、楕116、瓶1）、須恵器片73点（壺34、蓋4、瓶類32）、土製品1点（支脚）、瓦片1点（平瓦）、鉄製品2点（不明）、鉄滓1点のほかに、混入した陶磁器片3点（片口1、不明2）も出土している。1370・1372は南部の覆土上層から出土している。

所見 中央部の掘り込みの上面に相当する第4層が暗褐色で継まりが強いことから、褐色土の第1~3層とは堆積した時期が異なると推測される。また、南部の第6号溝跡のほぼ延長線上に位置していることから、同一の溝であると推定される。埋没時期は、出土土器から9世紀中葉から後葉と考えられる。



第149図 第16号溝跡・出土遺物実測図

第16号溝跡出土遺物観察表（第149図）

番号	種別	器種	口径	器高	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1370	須恵器	环	-	(2.4)	100	長石・石英・雲母	灰白	普通 後一方向の手持ちヘラナデ	覆土上層	10%
1372	須恵器	環	[38.0]	(43)	-	長石・石英・ 黒色粒子	灰	須恵器外縁二重の平行沈線で区画後区画内に斜 めの凹縫	覆土上層	5% TP148 後一方向の手持ちヘラナデ
1453	土師器	高台付皿	[11.8]	(1.5)	[7.8]	長石・石英・ 雲母・粘土	にぶい焼	普通 須恵器ヘラ用後区画引け	覆土上層	5% PL48 内部へラ焼き

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特 徴	出土位置	備考
T 12	平瓦	(7.8)	(6.6)	1.5	(122.1)	長石・石英・雲母	にぶい焼	凹面布目痕 凸面ヘラナデ 側面ヘラナデ	覆土上層	5% PL44

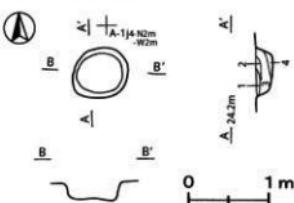
(6) 土坑

第257号土坑（第150図）

位置 調査区中央部のA-113区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第109号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.75m、短径0.61mの楕円形で、長径方向はN-56°-Eである。深さは22cm、底面は平坦で、壁は直立している。



覆土 4層に分層される。各層にロームブロックを含む堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 黒褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 黑褐 色 炭化物中量、ローム粒子少量

所見 時期は、重複関係から8世紀以前と考えられる。

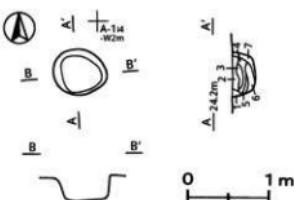
第150図 第257号土坑実測図

第258号土坑（第151図）

位置 調査区中央部のA-113区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第109号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.68m、短径0.58mの楕円形で、長径方向はN-90°である。深さは29cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。



覆土 7層に分層される。各層にロームブロックや焼土を含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐 色 ローム粒子多量
- 3 暗褐 色 ロームブロック中量
- 4 暗褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 5 暗褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 6 暗褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
- 7 暗褐 色 炭化粒子中量、ロームブロック少量

所見 時期は、重複関係から8世紀以前と考えられる。

第151図 第258号土坑実測図

第259号土坑（第152図）

位置 調査区中央部のA-1h3区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3号鍛冶工房跡，第9号溝跡を掘り込み，第21号掘立柱建物に掘り込まれている。

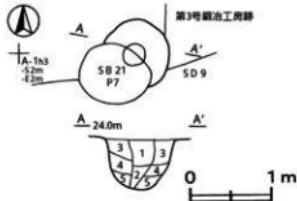
規模と形状 東西径は0.84mで，南北径は0.40mだけ確認されており，円形と推測される。深さは60cm，底面は皿状であり，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層される。第1層は柱抜き取り痕に相当する。

第2～4層は埋土で，ローム土を含む暗褐色土と褐色土が互層をなしており，人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 細色 ロームブロック多量



第152図 第259号土坑実測図

所見 覆土の堆積状況から，掘立柱建物跡等の柱穴と推定される。時期は，重複関係から9世紀以前と考えられる。

第401号土坑（第153図）

位置 調査区東部のB2a6区，標高24mの台地の縁辺部に位置している。

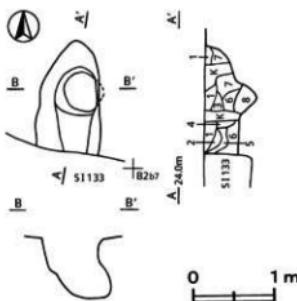
重複関係 第133号住居に掘り込まれている。

規模と形状 東西径は0.73mで，南北径は1.36mだけが確認されている。南北径方向はN-19°-Eで，平面形は橢円形と推測される。深さは73cm，底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 8層に分層される。ブロック状の堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 炭化物少量，ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ロームブロック少量，炭化物微量



第153図 第401号土坑実測図

所見 時期は，重複関係から8世紀後葉以前と考えられる。

第427号土坑（第154図）

位置 調査区東部のA-2d8区，標高24mの台地の縁辺部に位置している。

規模と形状 長径1.40m，短径1.19mの不整橢円形で，長径方向はN-50°-Wである。深さは53cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 7層に分層される。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

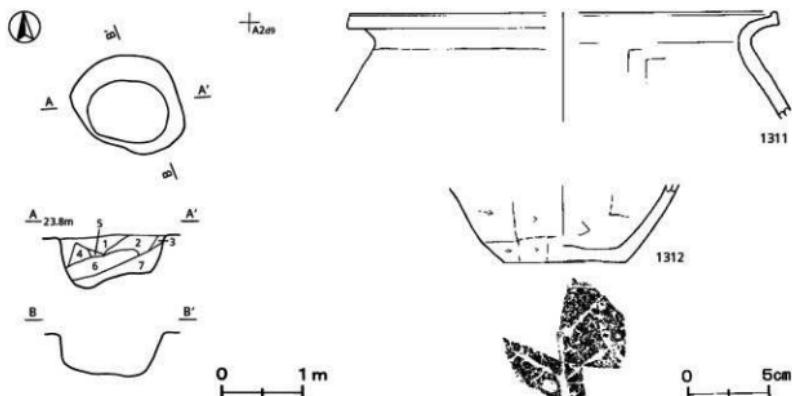
土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	5 暗 褐 色 ロームブロック微量
2 黒 褐 色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	6 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量	7 暗 褐 色 ロームブロック少量
4 暗 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	

遺物出土状況 土器片28点(环1, 瓶26, 瓶1), 須恵器片5点(环1, 瓶類1, 瓶3)が出土している。

1311・1312は南部の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉から9世紀前葉と考えられる。



第154図 第427号土坑・出土遺物実測図

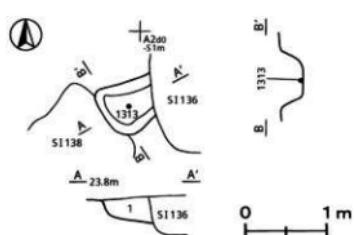
第427号土坑出土遺物観察表(第154図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1311	土師器	瓶	[26.0] (67)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外表面ナメ 体部内面ヘラナメ	覆土中	5%	
1312	土師器	瓶	-	(47)	74	長石・石英・藍色・赤色粒子	褐	体部外表面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラナメ	覆土中	10%	藍色系濃度

第429号土坑(第155・156図)

位置 調査区東部のA 2 d9区, 標高24mの台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第138号住居跡を掘り込み, 第136号住居に掘り込まれている。



第155図 第429号土坑実測図

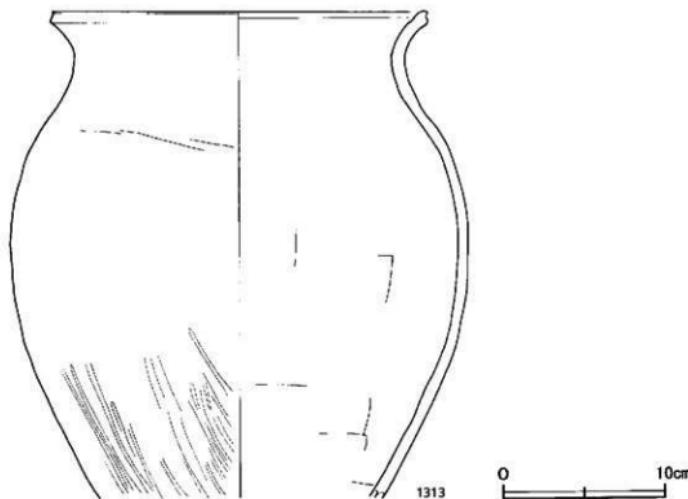
規模と形状 一辺0.65mの不整形で, 主軸方向はN-33°Wである。深さは26cm, 底面は平坦であり, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層である。ロームブロックを含み, 繊まりの弱い堆積状況を示しており, 人為堆積と考えられる。

土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片35点(环2, 瓢33), 須恵器片2点(环)が出土している。1313は中央部の底面から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、重複関係及び出土土器から8世紀前葉から中葉と考えられる。



第156図 第429号土坑出土遺物実測図

第429号土坑出土遺物観察表(第156図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	結成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1313	土師器	瓶	22.8 (30.0)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい緑	普通	口縁部内・外側横ナデ 内面ヘラ焼き	体部外側ヘラ焼き	底面	50%

表7 奈良・平安時代土坑一覧表

番号	位置	長軸(径) 方向	平裏形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考(時期)
				長軸(径)	短軸(径)(m)					
257	A-113	N-50°-E	楕円形	0.75 × 0.68	22	直立	平坦	人為		本跡-51109 8世紀以前
258	A-113	N-90°	楕円形	0.68 × 0.58	29	外傾	平坦	人為		本跡-51109 8世紀以前
259	A-1h3	N-0°	[円形]	0.84 × (0.40)	60	外傾	皿状	人為		3000年紀509→本跡+ 5821 9世紀以前
401	B2-6	N-10°-E	[楕円形]	(1.36) × 0.79	73	外傾	皿状	人為		本跡-51133 8世紀以前
477	A2-d8	N-50°-W	不整楕円形	1.40 × 1.19	53	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器	8世紀中葉~ 9世紀前葉
429	A2-d9	N-33°-W	不整方形	0.65 × 0.65	26	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器	51136→本跡-51136 8世紀前葉~中葉

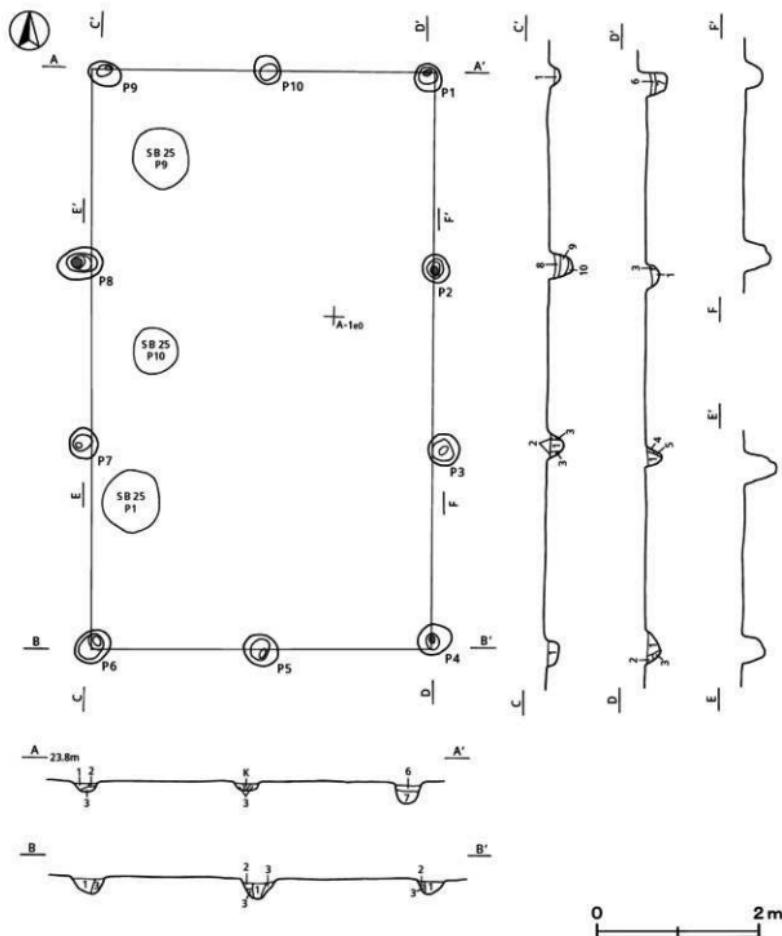
4 中世・近世の遺構と遺物

中世・近世の遺構は、掘立柱建物跡13棟、溝跡5条、井戸跡2基、土坑2基、粘土貼土坑12基、ピット群1か所が確認された。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

第26号掘立柱建物跡（第157図）

位置 調査区中央部のA-1e9区、標高24mの平坦な台地上に位置している。



第157図 第26号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第25号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 衍行3間、梁行2間の側柱建物跡で、衍行方向N-1°-Wの南北棟である。規模は、衍行7.2m、梁行4.2mで、面積は30.24m²である。柱間寸法は、衍行方向が2.4m(8尺)、梁行方向が2.1m(7尺)を基調としており、均等に配置されている。

柱穴 10か所。平面形は円形または橢円形で、規模は長径33~56cm、短径33~40cmである。深さは11~40cmで、断面形はH字形状または逆台形である。土層は第1層が柱の抜き取り痕に相当し、砂質粘土を含む締まりの弱い暗褐色土である。第2・3層は埋土で、第4~10層は柱抜き取り後の覆土である。P1・P2・P4・P8の底面からは、柱のあたりが確認されている。

土層解説(各柱穴共通)

1	暗	褐	色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量	6	褐	色	ローム粒子多量	
2	褐	褐	色	ロームブロック中量	7	暗	褐	色	ロームブロック少量
3	褐	褐	色	ロームブロック多量	8	暗	褐	色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量
4	黒	褐	色	炭化粒子中量、ローム粒子・砂質粘土粒子少量	9	暗	褐	色	ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量
5	暗	褐	色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	10	褐	色	ローム粒子少量	

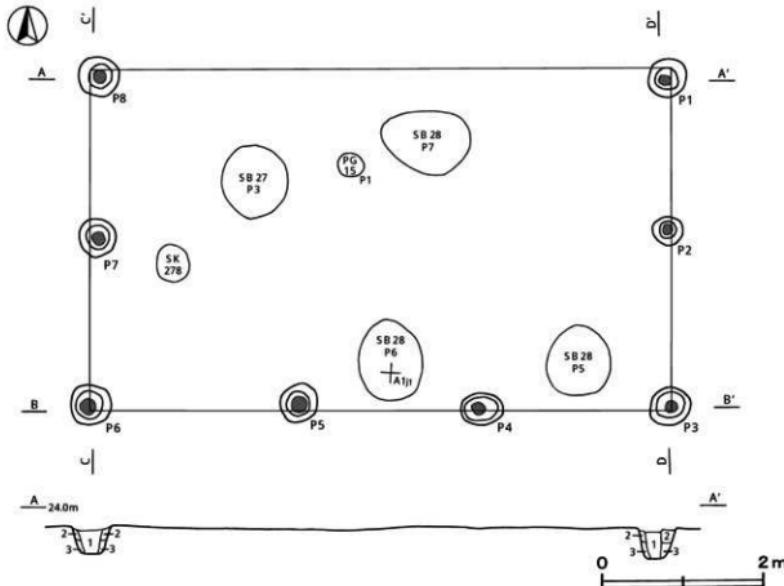
遺物出土状況 土器片4点(標)が出土しているが、いずれも細片で図示できない。

所見 時期は、重複関係及び柱穴が小規模であることから中世以降の可能性が推測される。

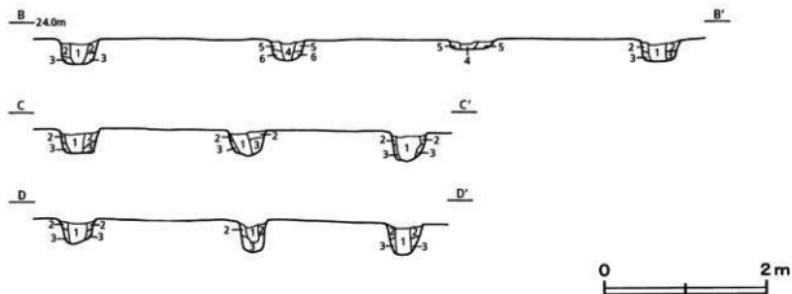
第29号掘立柱建物跡(第158~160図)

位置 調査区中央部のA-110区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第27・28号掘立柱建物跡、第278号土坑、第15号ビット群と重複しているが、新旧関係は不明である。



第158図 第29号掘立柱建物跡実測図(1)



第159図 第29号掘立柱建物跡実測図(2)

規模と構造 衍行3間、梁行2間の側柱建物跡で、衍行方向N-88°-Eの東西棟である。規模は衍行7.2m、梁行4.2mで、面積は30.24m²である。柱間寸法は、衍行が2.4m(8尺)、梁行が2.1m(7尺)を基調としているが、衍行が東から2.4m、2.2m、2.6mとやや不規則である。柱筋はおおむね通っている。

柱穴 8か所。北平側中央の2か所を確認できなかった。平面形は円形または梢円形で、規模は長径38~50cm、短径35~49cmである。深さは14~38cmで、断面形は逆台形である。第1層は柱抜き取り痕に相当し、炭化粒子を含む黒褐色土である。第2~6層は埋土で、褐色土と暗褐色土が互層をなしている。すべての柱穴の底面がら柱のあたりが確認されている。

土層解説(各柱穴共通)	
1 黒 褐 色	ロームブロック・炭化粒子中量
2 暗 褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
3 暗 褐 色	ロームブロック・炭化粒子少量
4 褐 色	ローム粒子多量、炭化粒子少量
5 暗 褐 色	ローム粒子中量
6 暗 褐 色	ローム粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片5点(环1, 高坏1, 盘1, 瓶2), 須恵器片4点(环2, 瓶1, 瓶類1)が各柱穴から出土している。



所見 時期は、重複関係及び柱穴が小規模であることから中世以降と推測される。

第160図 第29号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第29号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第160図)

番号	種別	断面	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1288	土師器	皿	(13.0)	(2.0)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部内・外側口クロナダ 側面凹凸回転ヘラ 内面へつ巻き	p 1 土中に	5%

第30号掘立柱建物跡(第161図)

位置 調査区中央部のA 1 d5区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第116A・116B号住居跡を掘り込んでいる。第17号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 衍行3間、梁行2間の側柱建物跡で、衍行方向N-7°-Wの南北棟である。規模は、衍行8.1m、梁行4.8mで、面積は38.88m²である。柱間寸法は、衍行が2.7m(9尺)、梁行が2.4m(8尺)を基調としており、均等に配置されている。

柱穴 10か所。平面形は円形または梢円形で、規模は長径32~65cm、短径32~58cmである。深さは9~60cmで、

断面形はU字状または逆台形である。第1・5層は柱抜き取り痕に相当し、綿まりの弱い暗褐色土・黒褐色土である。第2・3・4層は埋土で、炭化粒子を含む褐色土を主体として互層をなしている。P8の底面からは、柱のあたりが確認されている。

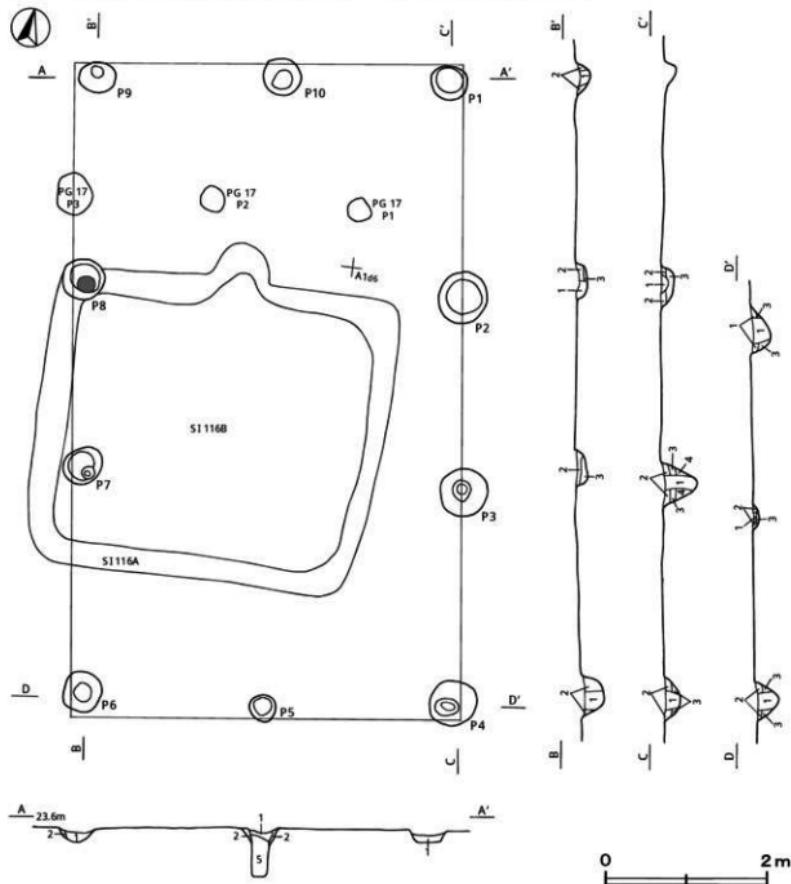
土器解説(各柱穴共通)

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量

- 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土器器片2点(坏, 瓢), 須恵器片3点(坏1, 瓢2)が各柱穴から出土しているが、いずれも細片で図示できない。

所見 時期は、重複関係及び柱穴が小規模であることから中世以降と推測される。



第161図 第30号掘立柱建物跡実測図

第32号掘立柱建物跡（第162図）

位置 調査区中央部のA-1g4区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第107A号住居跡、第3号鍛冶工房跡を掘り込み、第9号溝に掘り込まれている。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡である。規模は、桁行4.2m、梁行4.2mで、面積は17.64m²である。柱間寸法は2.1m(7尺)で、ほぼ均等に配置されている。

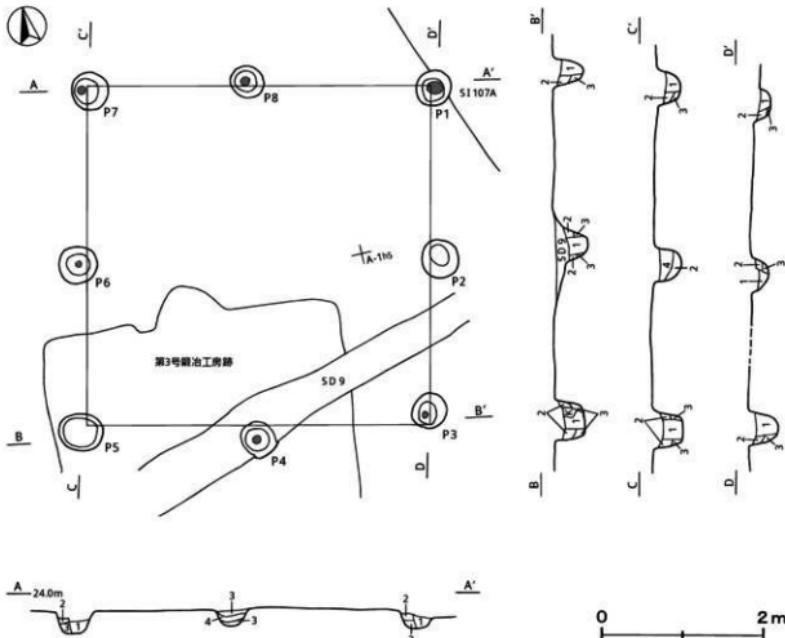
柱穴 8か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径40~54cm、短径40~44cmである。深さは20~40cmである。断面形はU字状または逆台形である。第1層は柱抜き取り痕に相当し、やや締まった黒褐色土である。第2~4層は埋土で、暗褐色土と褐色土が互層をなしている。P1・P3・P4・P6~P8の底面からは、柱のあたりが確認されている。

土層解説(各柱穴共通)

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土器片8点(坏2、甕6)、須恵器片7点(坏)、鐵滓1点が各柱穴から出土しているが、いずれも細片で図示できない。

所見 時期は、重複関係及び柱穴が小規模であることから中世以降と推測される。



第162図 第32号掘立柱建物跡実測図

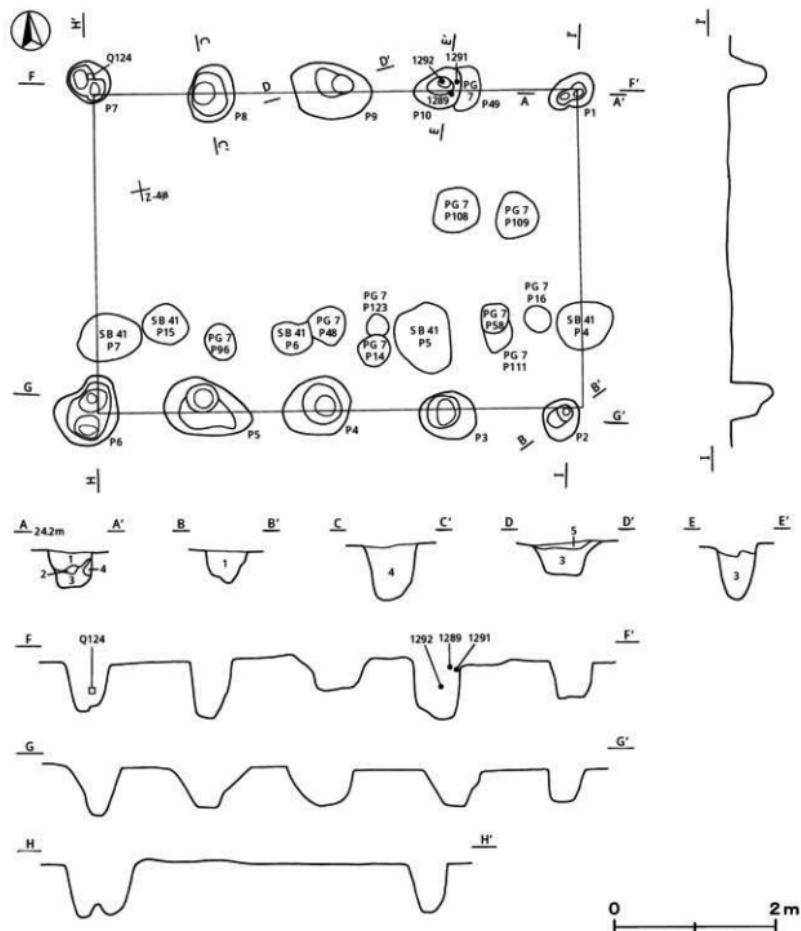
第34号掘立柱建物跡 (第163・164図)

位置 調査区西部のZ-48区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第41号掘立柱建物跡、第7号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行4間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向N~81°~Wの東西棟である。規模は、桁行6.0m、梁行3.9mで、面積は23.40m²である。柱間寸法は桁行が1.5m(5尺)、梁行が3.9m(13尺)を基調としているが、桁行はやや不規則である。

柱穴 10か所。平面形は橢円形または不整円形で、長径50~110cm、短径45~68cmである。深さは39~70cmで、



第163図 第34号掘立柱建物跡実測図

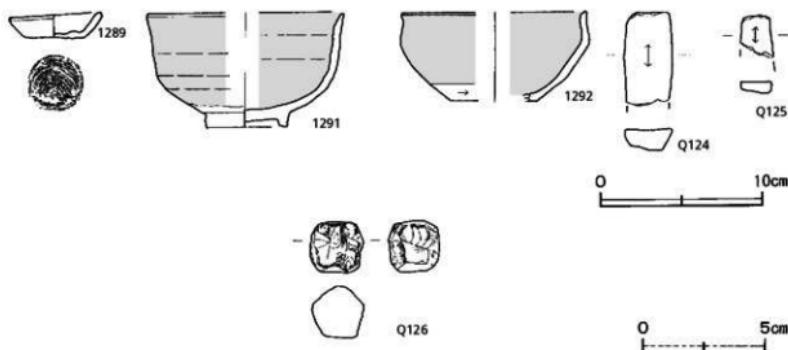
断面形はU字状または逆台形である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土である。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| 1 黒 梅 色 ローム粒子中量, 烧土粒子・炭化粒子微量 | 4 梅 色 ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 2 黒 梅 色 ローム粒子中量 | 5 に赤褐色 烧土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒 梅 色 ロームブロック少量, 烧土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師質土器1点(小皿), 陶器片8点(碗類), 石器3点(砥石2, 火打ち石1), 鉄製品1点(不明)のほかに, 混入した土師器片5点(杯3, 楠2), 須恵器片2点(蓋, 楠)も出土している。1289・1291・1292はP10の覆土上層から中層にかけて出土している。

所見 本跡は第36号掘立柱建物跡と桁行方向が一致しており, 出土遺物からも本建物から第36号掘立柱建物へ建て替えたと推定される。時期は, 出土土器から17世紀前葉と考えられる。



第164図 第34号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第34号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第164図)

番号	種別	器種	口径	縦高	底径	胎土	釉薬	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
1289	土師質土器	小皿	5.5	1.5	3.6	黒褐色	白色粒子	明赤褐	良好	クロナデ 底部回転角切り	P10覆土上層	100% PL43
1291	陶器	丸碗	[11.9]	7.0	4.9	緻密	鉄輪	黄褐色	良好	クロマ型 高台貼り付け	P10覆土上層	45% PL44 漏斗・美濃
1292	陶器	天目形碗	[11.4]	5.4	[5.2]	緻密	鉄輪	緑褐色・灰白	良好	クロマ整形 外面下端回転ヘラ削り	P10覆土上層	20% 漏斗・美濃

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q124	砥石	(5.7)	2.9	1.3	(37.7)	凝灰岩	表面一面	P7覆土中層	PL47
Q125	砥石	(2.8)	2.1	0.7	(6.1)	凝灰岩	表面一面	覆土中	
Q126	火打ち石	2.1	2.1	2.1	139	瑪瑙	様に使用歴有り	覆土中	

第35号掘立柱建物跡 (第165図)

位置 調査区西部のZ-31区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第36号掘立柱建物跡と重複しているが, 新旧関係は不明である。

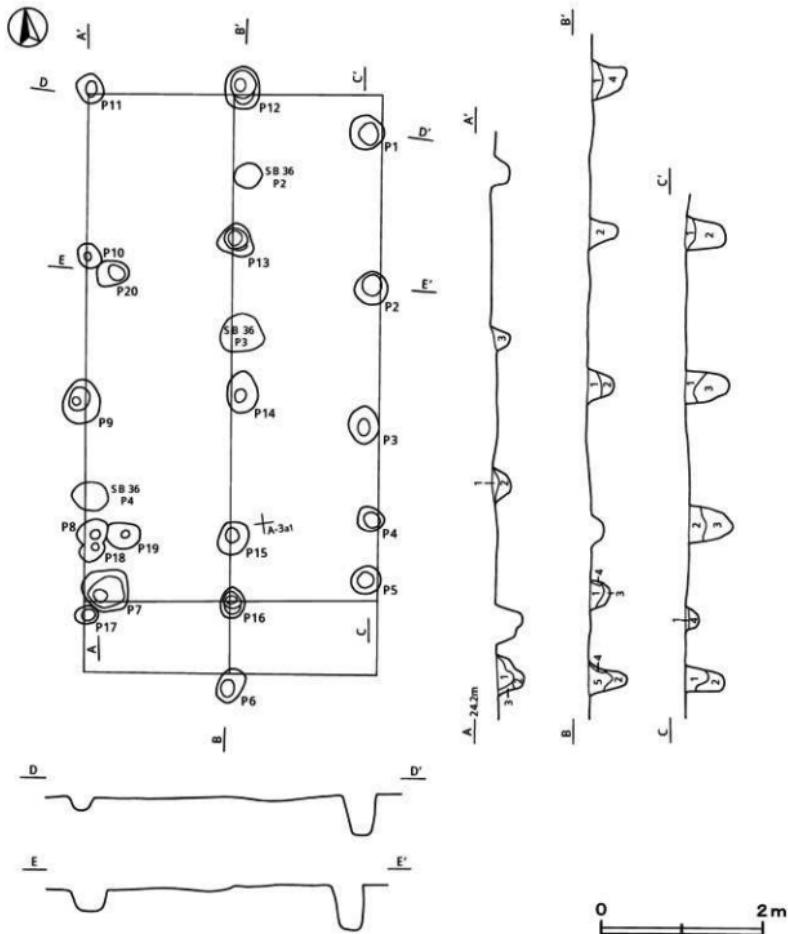
規模と構造 術行5間, 梁行2間の総柱建物跡で, 術行方向N-9°-Eの南北棟である。規模は, 術行72m, 梁行3.6mで, 面積は25.92m²である。柱間寸法は1.8m(6尺)を基調としており, 術行の南側2間は0.9m(3

尺) である。

柱穴 20か所。平面形は円形または橢円形で、規模は長径56~60cm, 短径45~50cmである。深さは20~40cmで、断面形はH字状または逆台形である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土である。

土層解説(各柱穴共通)

- | | |
|-----------------------------|----------------------------------|
| 1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐 色 ロームブロック中量・炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 3 暗 褐 色 ロームブロック少量・炭化粒子微量 | |



第165図 第35号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況 磁器片 1点（碗類）のほかに、混入した土師器片 1点（甕）が各柱穴から出土しているが、いずれも細片で図示できない。

所見 時期は、隣接する第36号掘立柱建物跡の北側桁行と本建物跡の北側梁行がほぼ同一線上にあることから関連する建物跡と考えられるため、17世紀後葉から18世紀前葉と推定される。

第36号掘立柱建物跡（第166図）

位置 調査区西部のZ-410区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第35号掘立柱建物跡、第7号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行 3間、梁行 2間の側柱建物跡で、桁行方向 N- 6°- E の南北棟である。規模は桁行5.4m、梁行3.6mで、面積は19.44m²である。柱間寸法は1.8m（6尺）を基調としているが、やや不規則である。

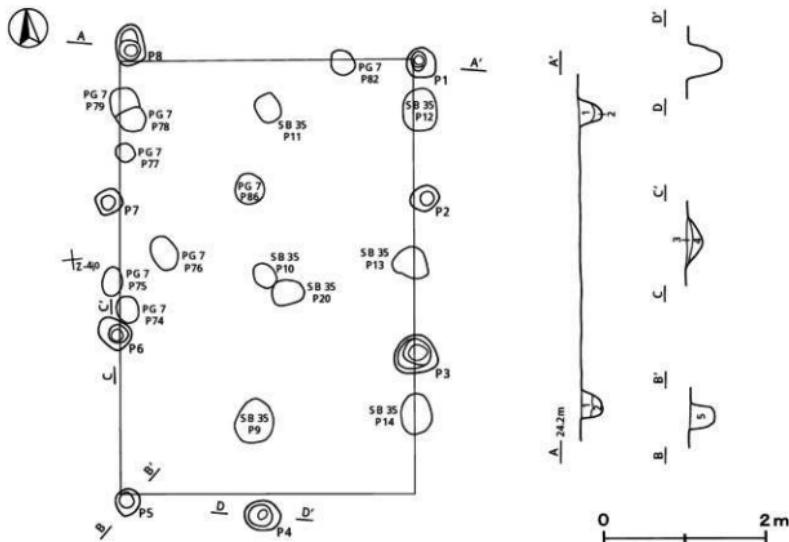
柱穴 8か所。平面形は円形または橢円形で、規模は長径30~55cm、短径30~48cmである。深さは20~40cmで、断面形は逆台形である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

1	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	4	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量	5	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片 2点（甕、高坏）、須恵器片 2点（坏、甕）、縄文土器片 2点が各柱穴から出土しているが、いずれも細片で図示できない。

所見 時期は、隣接する第34号掘立柱建物跡と関連する建物と考え、17世紀前葉と推定される。



第166図 第36号掘立柱建物跡実測図

第40号掘立柱建物跡（第167図）

位置 調査区東部のA 2 h6区，標高24mの台地の縁辺部に位置している。

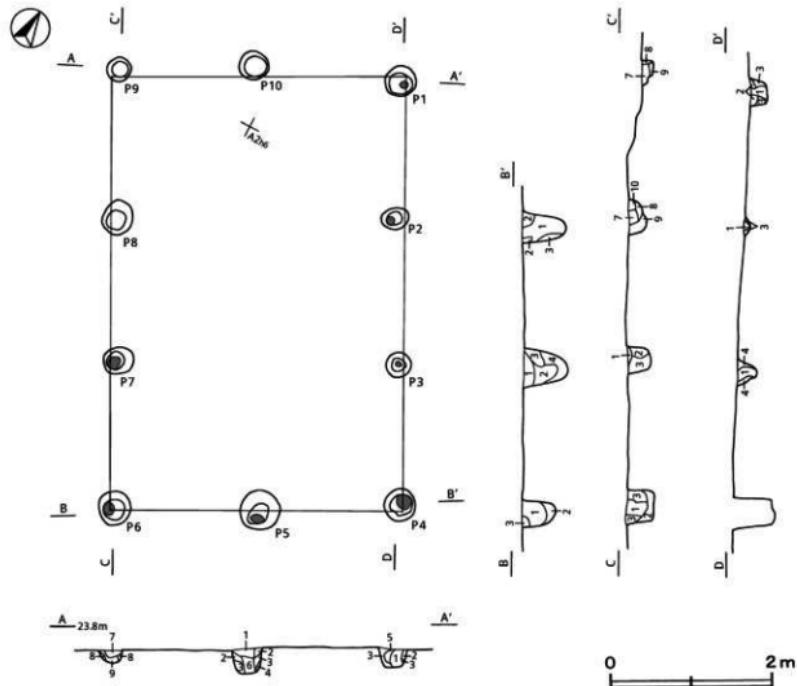
規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向はN- 27°- Wの東西棟である。規模は桁行5.4m，梁行3.6mで，面積は19.44m²である。柱間寸法は1.8m（6尺）で，均等に配置されている。

柱穴 10か所。平面形は円形で，規模は径30~50cmである。深さは15~32cmで，断面形はU字状または逆台形である。第1・6・7層は柱の抜き取り痕に相当し，締まりの弱い暗褐色土・黒褐色土である。第2~5・8~10層は埋土である。P1~P7の底面からは，柱のあたりが確認されている。

土層解説（各柱穴共通）

1 黒褐色 ロームブロック微量	6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量，ローム粒子微量	7 黒褐色 炭化粒子少量，ロームブロック微量
3 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量	8 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量
4 暗褐色 ロームブロック中量	9 暗褐色 ローム粒子中量
5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量	10 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量

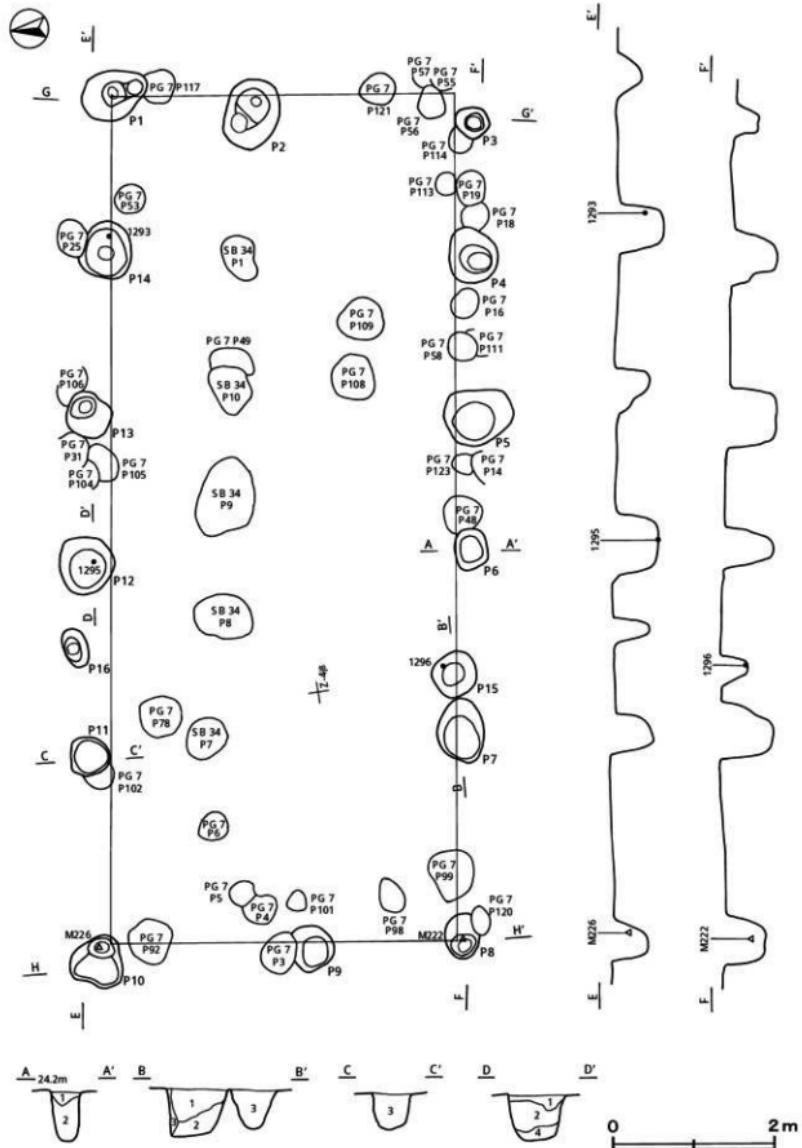
所見 時期は，柱穴が極めて小規模であることから中世以降と推測される。



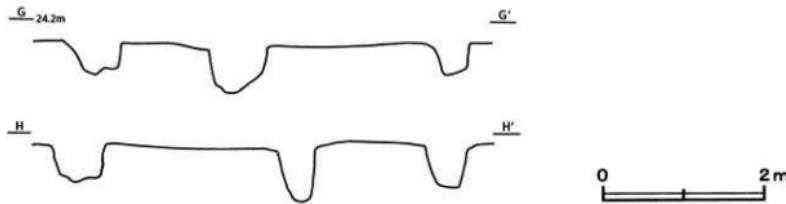
第167図 第40号掘立柱建物跡実測図

第41号掘立柱建物跡（第168~170図）

位置 調査区西部のZ-47区，標高24mの平坦な台地上に位置している。



第168図 第41号掘立柱建物跡実測図(1)



第169図 第41号掘立柱建物跡実測図(2)

重複関係 第34号掘立柱建物跡、第7号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 衍行5間、梁行2間の側柱建物跡で、衍行方向N-85°~Wの東西棟である。規模は、衍行10.5m、梁行4.2mで、面積は44.10m²である。柱間寸法は2.1m(7尺)を基準にしているが、やや不規則である。

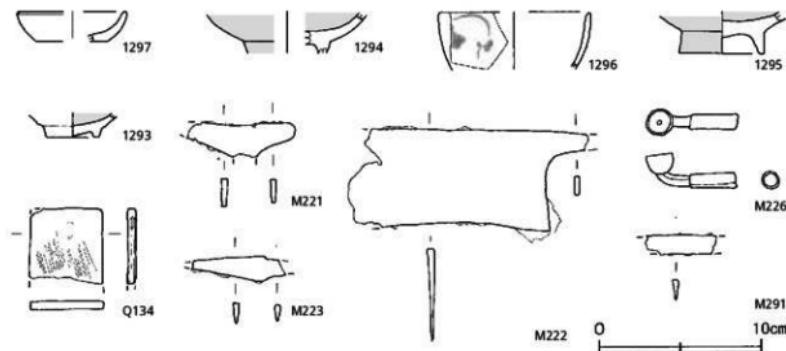
柱穴 16か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径60~92cm、短径40~42cmである。深さは35~70cmで、断面形はU字状または逆台形である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土である。

土層解説(各柱穴共通)

1 雜 褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	3 褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
2 雜 棕 色	ロームブロック多量、炭化粒子微量	4 噴 棕 色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片14点(皿類4、鍋類10)、陶器片5点(碗類)、磁器片5点(碗類)、石器2点(磁石)、鉄製品7点(包丁1、刀子2、不明3)、銅製品1点(煙管)のほかに、混入とみられる土師器片10点(壺6、甕2、皿1、瓶1)、須恵器片4点(壺2、蓋1、甕1)も各柱穴から出土している。1295はP12の底面から、1296はP15の底面からそれぞれ出土している。

所見 本跡は重複している第34号掘立柱建物跡と衍行方向が一致しており、出土遺物からも第34号掘立柱建物跡からの建て替えと推定される。時期は、出土土器から17世紀後葉から18世紀前葉と考えられる。



第170図 第41号掘立柱建物跡出土遺物実測図

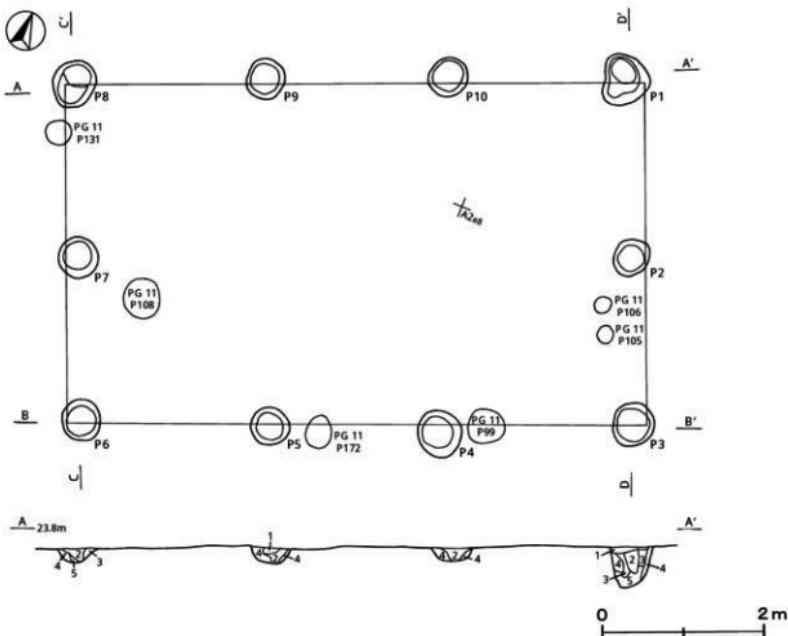
第41号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第170図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	輪廓	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1293	陶器	瓶	-	(15)	42	緻密 灰釉	暗黄褐色・ 暗灰	良好	体部下端から底部回転ヘラ削り 高台貼り付け	P12覆土中層	5% 湿戸・美濃	
1294	陶器	瓶	-	(2.6)	-	緻密 灰釉	淡黄・灰白	良好	口クロ整形 高台貼り付け	P2覆土中	5% 肥前	
1295	陶器	呉須袋	-	(2.5)	52	緻密 灰釉	淡黄・灰白	良好	口クロ整形 高台貼り付け 補巾高台	P 12底面	20% 肥前	
1296	磁器	染付瓶	9.2	(35)	-	緻密 透明釉	灰白・灰白	良好	口クロ整形 外面真浦絵付け	P 15底面	5% 湿戸・美濃	
1297	土器質土管	小筒	[6.6]	(18)	[4.6]	石英	暗褐	普通	体部内・外側口クロナデ 底部回転糸切り	覆土中	10% 内・外側保付	

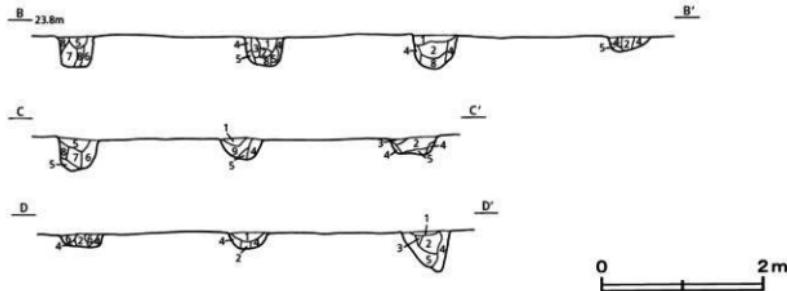
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q134	砾石	(4.7)	46	0.5	(21.5)	珪質頁岩	紙面2面	覆土中	PL47
M221	不明	(2.2)	(6.7)	0.5	(13.7)	鉄		P 5 覆土中	
M222	包丁	(14.8)	6.2	0.3	(66.0)	鉄	青銅	P 8 覆土中層	PL48
M223	刀子	(5.7)	4.4	1.3	(6.5)	鉄	両刃カ	P 12覆土中	
M226	燈籠	5.6	0.9	0.9	8.15	網	火薬径2.1cm 鋼板丸め後継付け	P 10 覆土中層	PL49
M291	刀子	(4.4)	1.3	0.3	(6.0)	鉄	柄部欠損 開不明	覆土中	

第44号掘立柱建物跡 (第171・172図)

位置 調査区東部のA 2 e7区, 標高24mの台地の縁辺部に位置している。



第171図 第44号掘立柱建物跡実測図(1)



第172図 第44号掘立柱建物跡実測図(2)

重複関係 第11号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 衍行3間、梁行2間の側柱建物跡で、衍行方向N- 68°- Eの東西棟である。規模は衍行7.2m、梁行4.2mで、面積は30.24m²である。柱間寸法は、衍行が2.4m(8尺)、梁行が2.1m(7尺)を基調としており、均等に配置されている。

柱穴 10か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径45~62cm、短径25~50cmである。深さ15~51cmで、断面形は逆台形である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土である。

土層解説(各柱穴共通)

1 黒 褐 色	炭化粒子少量、ローム粒子微量	6 暗 褐 色	ロームブロック少量
2 暗 褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 褐 色	ロームブロック少量
3 黒 褐 色	ローム粒子・炭化粒子微量	8 暗 褐 色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
4 暗 褐 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	9 暗 褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
5 褐 色	ローム粒子中量		

遺物出土状況 土師器片3点(模)、須恵器片3点(模)が各柱穴から出土しているが、いずれも細片で図示できない。

所見 時期は、北東部に位置する第41号掘立柱建物跡と主軸方向が一致することから18世紀代と推測される。

第46号掘立柱建物跡(第173図)

位置 調査区東部のA 2 g4区、標高24mの台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第48号掘立柱建物に掘り込まれており、第11号ピット群と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造 衍行2間、梁行2間の側柱建物跡で、衍行方向N- 15°- Wの南北棟である。規模は衍行4.8m、梁行3.6mで、面積は17.28m²である。柱間寸法は、衍行が2.4m(8尺)、梁行が1.8m(6尺)を基調としている。

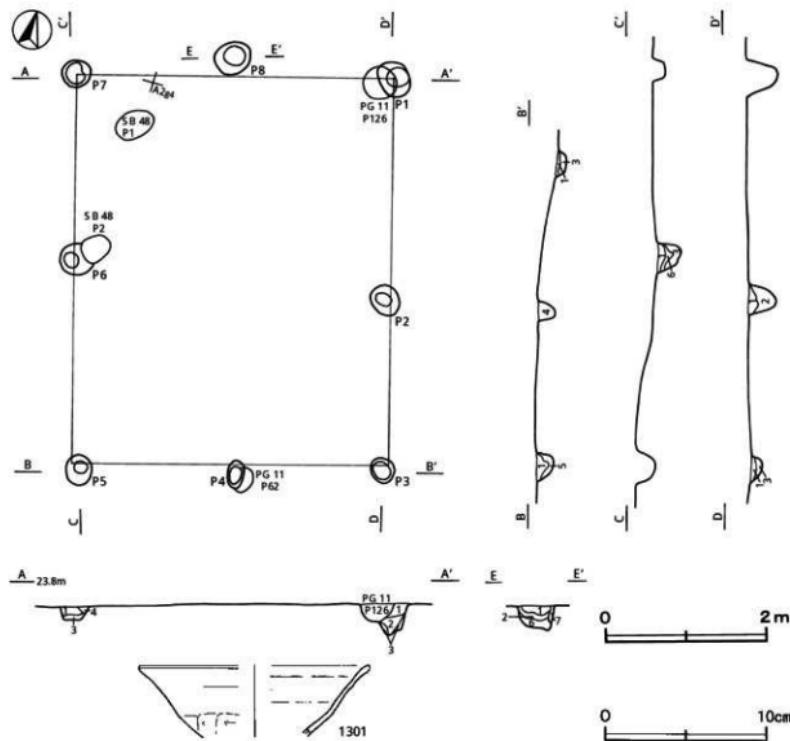
柱穴 8か所。平面形は円形で、規模は径30~45cmである。深さは12~34cmで、断面形はU字状または逆台形である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土である。

土層解説(各柱穴共通)

1 黒 褐 色	ロームブロック微量	5 褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 暗 褐 色	ロームブロック少量	6 暗 褐 色	ローム粒子多量
3 暗 褐 色	ロームブロック中量	7 褐 色	ロームブロック中量
4 暗 褐 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量		

遺物出土状況 須恵器片1点(坏)がP 1覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係から18世紀以前と考えられる。



第173図 第46号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第46号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第173図）

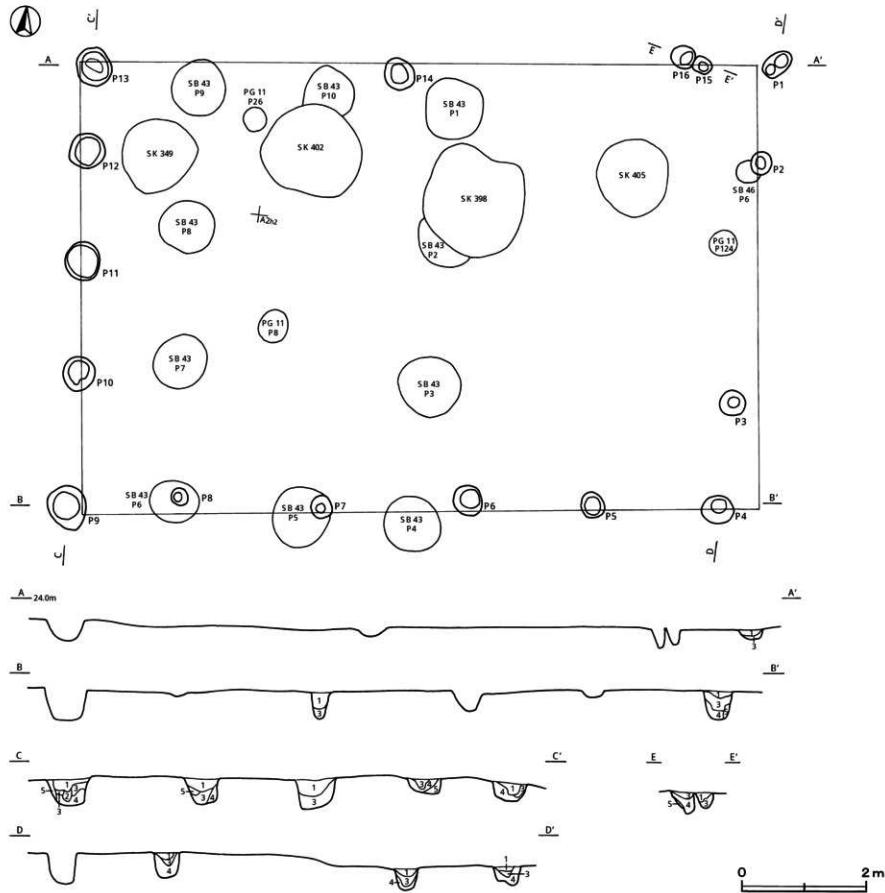
番号	種別	器種	口径	基高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1301	漆漿器	环	[14.2]	(44)	-	高石・石英・ 滑石	灰黄褐色	普通 少剥離	全体内・外面クロコナギ 外面下端手持ち穴	P 1 覆土中	5%

第48号掘立柱建物跡（第174図）

位置 調査区東部のA 2 h2区，標高24mの台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第43・46号掘立柱建物跡を掘り込んでおり，第349・398・402・405号土坑，第11号ピット群と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造 衍行5間，梁行4間の側柱建物跡で，衍行方向N- 83°- Eの東西棟である。規模は衍行10.8m，梁行6.9mで，面積は74.52m²である。柱間寸法は，衍行が1.8~4.8m (6~16尺)，梁行が1.5~3.9m (5~13尺)で，不規則である。



第174図 第48号掘立柱建物跡実測図

柱穴 16か所。平面形は円形または橢円形で、規模は長径20~45cm、短径15~28cmである。深さは10~38cmで、断面形は逆台形である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土である。

土層解説（各柱穴共通）

1 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量	4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量	5 暗褐色 ロームブロック中量
3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量	

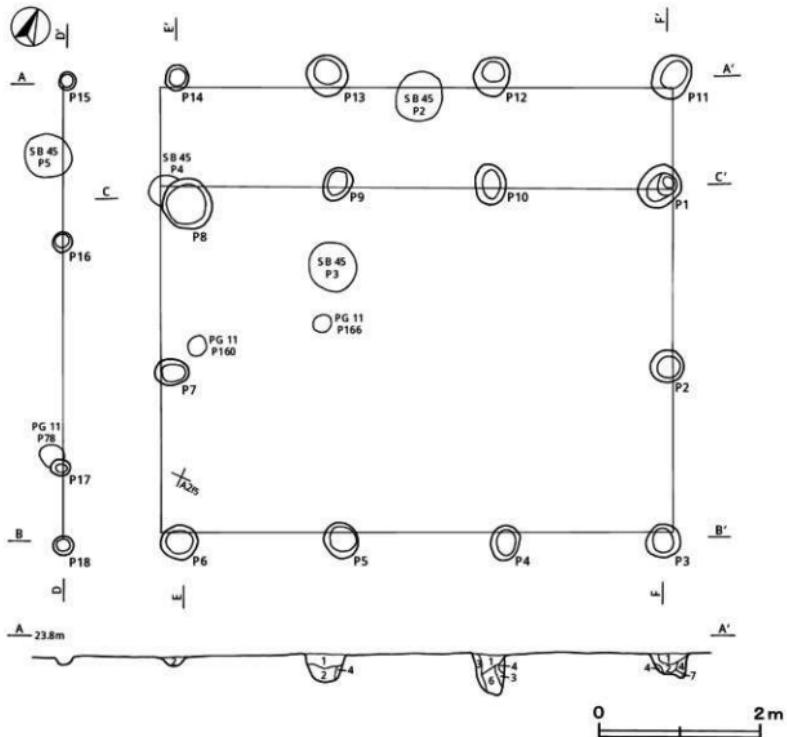
遺物出土状況 土器片8点（標）、須恵器片3点（坏1, 標2）が出土している。いずれも細片で図示できない。

所見 時期は、柱穴が極めて小規模であることから中世以降と推測される。

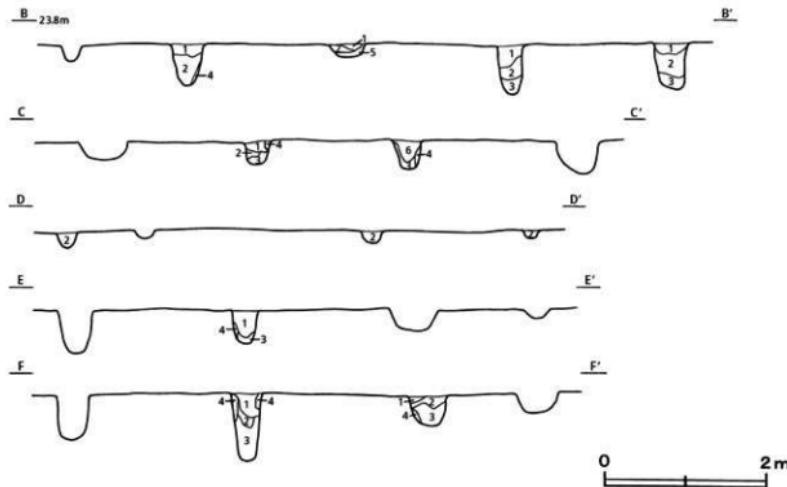
第50号掘立柱建物跡（第175・176図）

位置 調査区東部のA 2 e4区、標高24mの台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第45号掘立柱建物跡、第11号ピット群を掘り込んでいる。



第175図 第50号掘立柱建物跡実測図(1)



第176図 第50号掘立柱建物跡実測図(2)

規模と構造 衍行3間、梁行2間の身舎の北平面に庇が付く側柱建物跡で、衍行方向N-67°-Eの東西棟である。西部にも梁行に平行した柱穴列を伴っている。身舎の規模は、衍行6.3m、梁行4.2mで、面積は24.64m²である。柱間寸法は、衍行が2.1m(7尺)、梁行が2.1m(7尺)を基調としており、均等に配置されている。

柱穴 18か所。平面形は円形または楕円形で、規模は、身舎・庇とも長径62-42cm、短径62-34cmで、西部柱穴列の径は24-20cmである。深さは、身舎・庇とも13-83cm、西部の柱穴列は11-20cmで、断面形はU字状または逆台形である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土で、綿まりの弱い暗褐色土が主体である。

土層解説(各柱穴共通)

1 黒褐	色	ローム粒子・炭化粒子微量	5 噴褐色	色	ローム粒子中量
2 噴褐色	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6 噴褐色	色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
3 噴褐色	色	ロームブロック少量	7 噴褐色	色	ロームブロック中量
4 博褐色	色	ロームブロック中量			

遺物出土状況 土器器片4点(坏2, 横2)が各柱穴から出土しているが、いずれも細片で図示できない。

所見 西側の柱穴列は、身舎と柱間寸法が描わないので身舎に付随した柵跡の可能性が考えられる。時期は、東部に隣接する第44号掘立柱建物跡と主軸方向が一致することから18世紀代と推定される。

表8 中世・近世掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	衍行方向	柱間寸法 (横×縦)	廣幅(m) (長軸+短軸)	面積 (m ²)	構造	衍行寸幅 (m)	梁行寸幅 (m)	柱穴断面	深さ (cm)	主な出土遺物	時期	備考 (旧-新)
26	A-1e9	N-7°-W	3×2	72×42	30.24	側柱	2.4	2.1	円形・楕円形	11-40	土器器	中世以降	
29	A-110	N-88°-E	3×2	72×42	30.24	側柱	2.4	2.1	円形・楕円形	14-38	土器器・ 須恵器	中世以降	
30	A-1d5	N-7°-W	3×2	83×48	36.88	側柱	2.7	2.4	円形・楕円形	9-60	土器器・ 須恵器	中世以降	S116A-B・本跡
32	A-1g4	-	2×2	42×42	17.64	側柱	2.1	2.1	円形・楕円形	20-40	土器器・ 須恵器	中世以降	S1107A-5・明鏡台工房+ 本跡-SD9
34	Z-4j8	N-81°-W	4×1	60×39	23.40	側柱	1.5	3.9	楕円形・ 不規則形	39-70	陶器・石器・ 鐵製品	17世紀前葉	
35	Z-3j1	N-9°-E	5×2	72×36	25.92	側柱	1.8 南端0.9	1.8	円形・楕円形	20-40	磁器	17世紀後葉- 18世紀前葉	

番号	位置	柱行方向	柱間数 (柱×行)	規模 (m) (長軸×短軸)	面積 (m ²)	構造	柱行柱間 (m)	柱行柱間 (m)	柱穴平面形 状	深さ (cm)	主な出土遺物	時期	備考 (旧→新)
36	Z-410	N-6°-E	3×2	54×36	1944	側柱	1.8	1.8	円形・楕円形	20~40	土師器・ 須恵器	17世紀前葉	
40	A-2h5	N-27°-W	3×2	54×36	1944	側柱	1.8	1.8	円形	15~32		中世以降	
41	Z-417	N-85°-W	5×2	105×42	443	側柱	2.1	2.1	円形・楕円形	35~70	土師器・ 須恵器	17世紀後葉~ 18世紀前葉	
44	A-2e7	N-68°-E	3×2	72×42	3024	側柱	2.4	2.1	円形・楕円形	15~51	土師器・ 須恵器	18世紀代	
46	A-2g4	N-15°-W	2×2	48×36	1728	側柱	2.4	1.8	円形	12~34	須恵器	18世紀以前	本跡→SB48
48	A-2h2	N-83°-E	5×4	108×69	7452	側柱	1.8~4.8	1.5~3.9	円形・楕円形	10~38	土師器・ 須恵器	中世以降	SB49-46→本跡
50	A-2e4	N-67°-E	3×2	63×42	2664	側柱	2.1	2.1	円形・楕円形	13~83	土師器	18世紀代	SB45 PG11→本跡

(2) 溝跡

第11A号溝跡(第177・178図,付図)

位置 調査区西部のA-2b1~A-2h1区,標高24mの平坦な台地上に位置している。

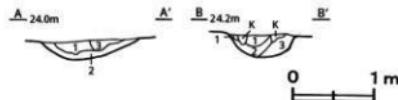
重複関係 第11B号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北部,南部が調査区域外に延びている。南北方向(N-4°-E)へ直線的に延びてあり,確認された長さは22.20mで,上幅1.12~1.30m,下幅0.28~0.75m,深さ44~62cmである。断面形はU字状である。

覆土 3層に分層される。ブロック状の堆積状況を示しており人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 灰褐色 ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量



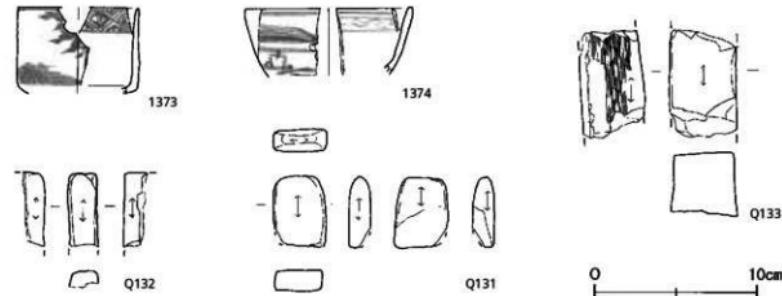
第177図 第11A号溝跡実測図

遺物出土状況 瓦質土器片5点(鉢),陶器片3

点(碗),磁器片3点(碗),石器3点(砥石),

鉄製品3点(不明)が出土している。また,流れ込んだ土師器片19点(甕),須恵器片9点(壺2,盤1,甕6)も出土している。

所見 時期は出土土器から18世紀後半から19世紀初頭と考えられる。



第178図 第11A号溝跡出土遺物実測図

第11A号溝跡出土遺物観察表(第178図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	輪裏	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1373	磁器	長颈瓶 両形瓶	17.0cm	(53)	-	緻密	透明釉	明青灰・ 灰白	良好	ロクロ彫形	覆土中	10% 瀬戸・美濃
1374	磁器	免付瓶	10.0cm	(41)	-	緻密	透明釉	明青灰・ 灰白	良好	ロクロ彫形	覆土中	5% 肥前

番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q131	砥石	4.3	3.3	1.3	(240)	凝灰岩	砥面5面	覆土中	PL47
Q132	砥石	(4.5)	1.7	(1.4)	(154)	安山岩	砥面3面	覆土中	
Q133	砥石	(6.7)	4.5	4.0	(1628)	安山岩	砥による切削痕 砥面2面	覆土中	PL47

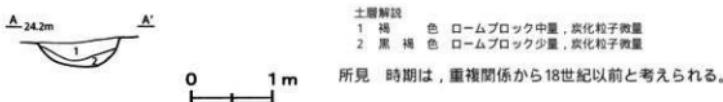
第11B号溝跡(第179図,付図)

位置 調査区西部のA-3e1~A-2h1区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第11A号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南部が調査区域外に延びている。南北方向(N-2°-E)へ直線的に延びており, 確認された長さは10.50mで, 上幅0.88~1.00m, 下幅0.30~0.60m, 深さ23~37cmである。断面形はU字状である。

覆土 2層に分層される。ロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており人為堆積と考えられる。



第179図 第11B号溝跡実測図

第13号溝跡(第180・181図,付図)

位置 調査区西部のA-3c8~A-3g8区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第129・130号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状両端部が調査区域外に延びている。南北方向(N-1°-E)へ直線的に延びており, 確認された長さは17.30mで, 上幅1.12~1.30m, 下幅0.28~0.75m, 深さ44~62cmである。断面形はU字状で, 東壁がやや緩やかに立ち上がっている。

覆土 4層に分層される。ロームブロックを含み, 第4層には焼土・炭化物も中量含まれていることから人為堆積と考えられる。

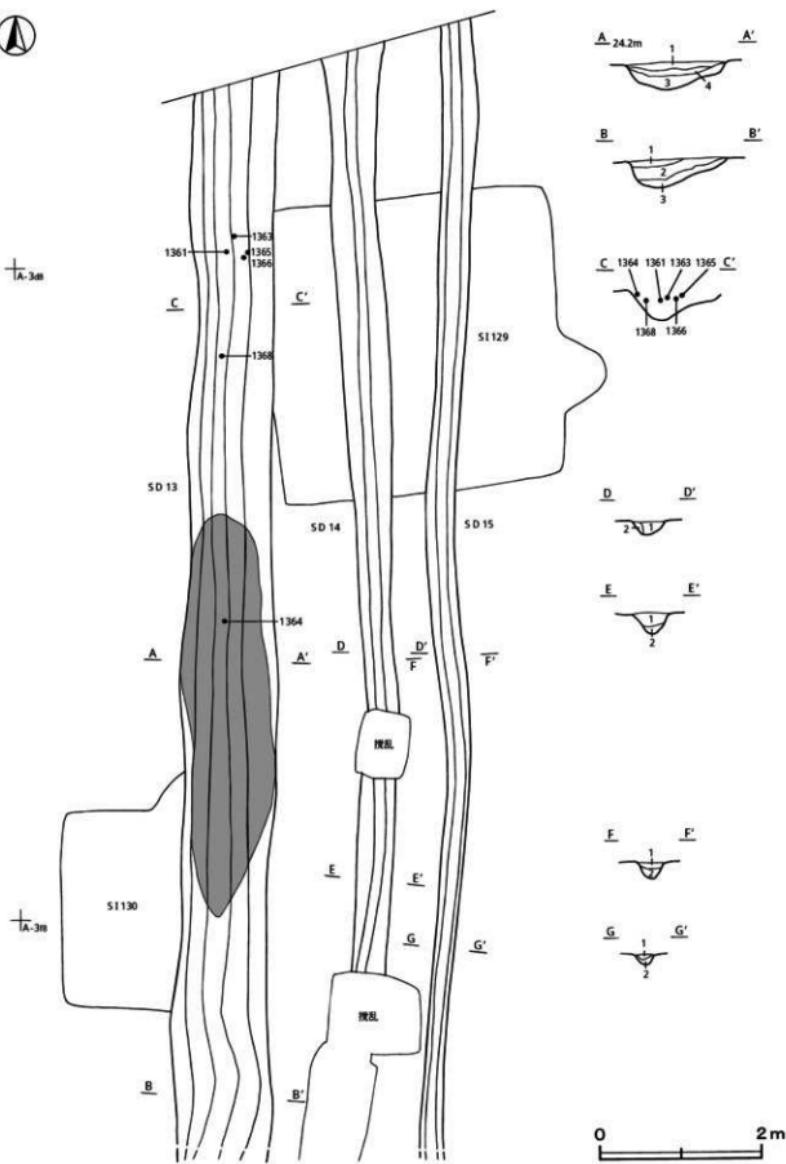
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量	3 暗褐色 ロームブロック中量, 烧土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量	4 暗褐色 烧土粒子・炭化物中量

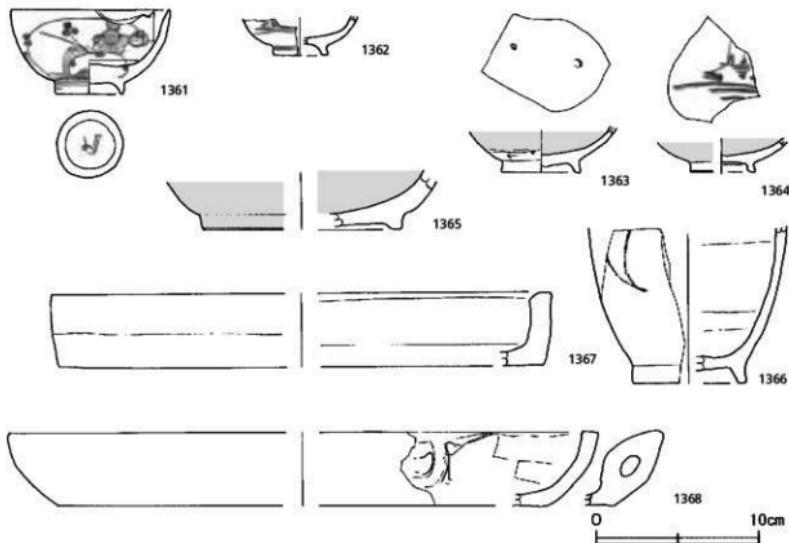
遺物出土状況 土師質土器片29点(小皿4, 鉢類25), 瓦質土器片4点(火鉢カ), 陶器片8点(碗3, 盆1, 鉢2, 壺類2), 磁器片7点(碗), 鉄滓2点が出土している。1361・1365・1366は, 北部の覆土上層から集中して出土している。

所見 時期は, 出土土器から18世紀後半と考えられる。

(A)



第180図 第13・14・15号溝跡実測図



第181図 第13号溝跡出土遺物実測図

第13号溝跡出土遺物観察表（第181図）

番号	種別	断面	口径	器高	底径	胎土	釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1361	磁器	染付碗	[9.6]	5.2	4.0	緻密 透明釉	明青灰・灰白	良好	ロクロ彫形 高台貼り付け	埴土上層	55% PL44 湘州・美濃	
1362	磁器	染付碗	-	(2.3)	[3.2]	緻密 透明釉	明青灰・灰白	良好	ロクロ彫形 高台貼り付け	埴土中	5% 不明	
1363	陶器	瓶	-	(2.8)	4.7	緻密 磨輪	淡黄・褐	良好	ロクロ彫形 内面見込みトレンチ痕 高台削り出し	埴土上層	20% PL44 湘州・美濃	
1364	陶器	皿	-	(2.0)	[3.8]	緻密 灰釉	淡黄・淡黄	良好	底部削りヘラ削り後高台貼り付け 内面鉄粉と土を貼り付け	埴土上層	20% PL44 湘州・美濃	
1365	陶器	鉢	-	(3.6)	[12.0]	緻密 灰釉	淡黄・淡黄	良好	底部削りヘラ削り後高台貼り付け 内面横円凹部削り	埴土上層	10% PL44 湘州・美濃	
1366	磁器	染付カ	-	(9.6)	[7.0]	緻密 暗石釉	橙・灰白	不良	ロクロ彫形 高台貼り付け	埴土上層	10% 不明	
1367	瓦質土器	火鉢カ	[30.0]	4.8	[30.0]	瓦石・石英・ 骨粉	灰オーリーフ	普通	体部・底部へラ削り	埴土上層	5%	
1368	土質土器	培養器	[36.0]	4.5	[30.0]	瓦石・石英・ 骨粉	に淡黄	普通	体部内面へラ削り 耳部貼り付け	埴土上層	5%	

第14号溝跡（第180図、付図）

位置 調査区西部のA-3c9 ~ A-2g8区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第129号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 両端部が調査区域外に延びている。南北方向 (N-2°-E) へ直線的に延びており、確認された長さは16.60mで、上幅0.32~0.54m、下幅0.10~0.15m、深さ18~25cmである。断面形はH字形である。

覆土 2層に分層される。ブロック状の堆積状況を示しており人為堆積と考えられる。

土層解説

1 埋 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

2 埋 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 瓦質土器片3点(鉢)、陶器片2点(皿)、磁器片2点(不明)が出土している。また、流れ込

んだ土器片10点(环1, 瓢9), 須恵器片1点(瓢)も出土している。

所見 時期は、重複関係及び出土土器から19世紀代と考えられる。

第15号溝跡(第180・182図, 付図)

位置 調査区西部のA-3c9~A-2g9区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第129号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北部, 南部が調査区域外に延びている。南北方向(N-3°~E)に直線的に延びてあり, 確認された長さは18.20mで, 上幅0.24~0.44m, 下幅0.10~0.18m, 深さ14~20cmである。断面形はU字状である。

覆土 2層に分層される。ブロック状の堆積状況を示しており人為堆積と考えられる。

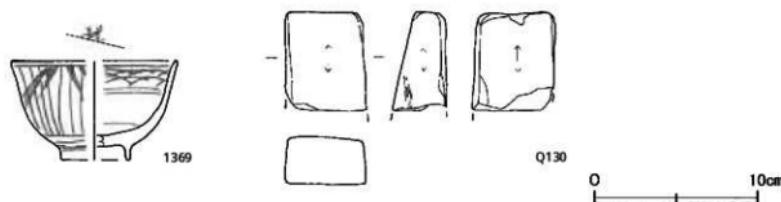
土器解説

1 植物 植色 ロームブロック微量

2 塗装 植色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土器質土器片5点(鍋類), 陶器片2点(碗1, 楼鉢1), 磁器片2点(碗1, 壺1), 石器1点(砥石)が出土している。また, 流れ込んだ土器片3点(瓢), 須恵器片1点(瓢)も出土している。

所見 時期は、重複関係及び出土土器から19世紀代と考えられる。



第182図 第15号溝跡出土遺物実測図

第15号溝跡出土遺物観察表(第182図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1369	磁器	碗	10.0	6.1	4.1	緻密	透明釉	明青灰・灰白	良好	ロクロ整型 高台貼り付け	覆土中	30%肥前

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q130	砥石	(5.1)	6.1	3.4	(16.1)	凝灰岩	砥面3面	覆土中	PL47

表9 中世・近世溝跡一覧表

番号	位置	方向	断面形	規模(m)			壁面	底面	胎土	主な出土物	備考(時期)
				長さ	上幅	下幅					
11A	A-2b1 ~ A-2h1	N-4°~E	U字状	(22.20)	1.12~1.30	0.28~0.75	44~62	外傾	弧状	瓦質土器・陶器・須恵器・石器	S110~本跡 18~19世紀
11B	A-3e1 ~ A-2h1	N-2°~E	U字状	(10.50)	0.98~1.00	0.30~0.60	23~37	外傾	弧状	人面	本跡・S111A 18世紀以前
13	A-3c8 ~ A-2g8	N-1°~E	U字状	(17.30)	1.12~1.30	0.28~0.75	44~62	外傾	弧状	人面	土器質土器・陶器・須恵器 18世紀後半
14	A-3c9 ~ A-2g8	N-2°~E	U字状	(16.60)	0.32~0.54	0.10~0.15	18~25	外傾	弧状	人面	土器質土器・陶器・須恵器 18世紀後半
15	A-3c9 ~ A-2g9	N-3°~E	U字状	(16.20)	0.24~0.44	0.10~0.18	14~20	外傾	弧状	人面	土器質土器・陶器・須恵器 19世紀代

(3) 井戸跡

第4号井戸跡(第183図)

位置 調査区東部のA2h7区、標高24mの台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第38号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径2.50mの円形である。確認面から漏斗状に深さ74~130cm掘り込んだ後、下部は円筒状に掘り込んでいる。1.90mほど掘り下げたが、以下は湧水のため確認できなかった。

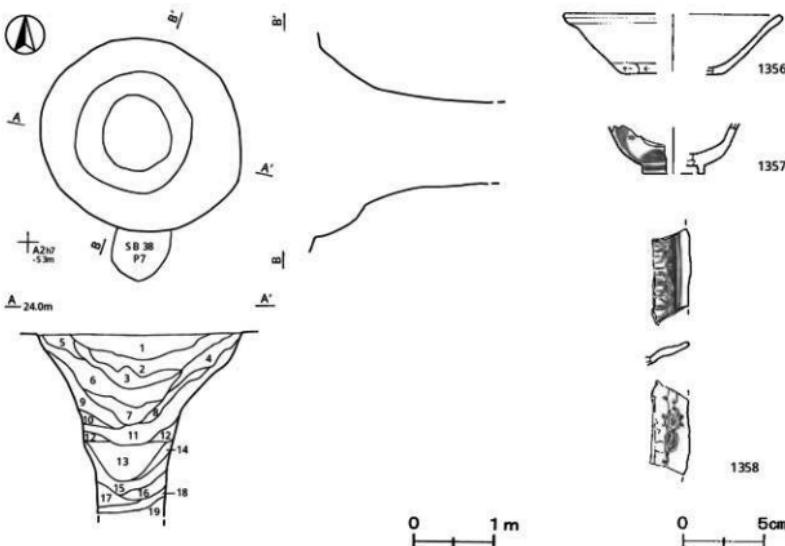
覆土 19層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒 桃 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	10 桃 色	ロームブロック少量
2 黒 桃 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量	11 暗 桃 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 黒 桃 色	ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量	12 黒 桃 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 黒 桃 色	ロームブロック・炭化粒子微量	13 黒 桃 色	ロームブロック微量
5 黒 桃 色	ロームブロック・炭化物微量	14 暗 桃 色	ロームブロック・炭化粒子微量
6 黒 桃 色	炭化物・ローム粒子微量	15 暗 桃 色	ロームブロック微量
7 暗 桃 色	ロームブロック・炭化物微量	16 暗 桃 色	ロームブロック少量
8 暗 桃 色	ロームブロック・炭化粒子微量	17 桃 色	ロームブロック中量
9 桃 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	18 暗 桃 色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
		19 暗 桃 色	ロームブロック微量

遺物出土状況 磁器片2点(碗、皿)が出土している。また、流れ込んだ土器片19点(壺3、楕16)、須恵器片20点(壺4、蓋1、甕14、不明1)も出土している。

所見 素掘りの井戸跡である。廃絶時期は出土土器から19世紀代と考えられる。



第183図 第4号井戸跡・出土遺物実測図

第4号井戸跡出土遺物観察表（第183図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	輪裏	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1356	須恵器	环	[13.1]	3.7	[6.4]	長石・石英・ 霞母・赤色粒子	にぬい黄褐	普通	体部内・外面口クロナダ 持ちヘラ削り	外面下端・底部平	覆土中	10%
1357	磁器	染付碗	-	(2.9)	[3.8]	幽玄	透明釉	明青灰・ 灰白	良好	ロクロ整形	覆土中	5% 須・美濃
1358	磁器	染付皿	-	(1.4)	-	幽玄	透明釉	明青灰・ 灰白	良好	ロクロ整形	覆土中	5% 須・美濃

第5号井戸跡（第184図）

位置 調査区東部のA 2 f1区、標高24mの台地の縁辺部に位置している。

規模と形状 径2.30mの円形である。確認面から漏斗状に深さ54~78cm掘り込んだ後、下部は円筒状に掘り込んでいる。1.95mほど掘り下げたが、以下は漏水のため確認できなかった。

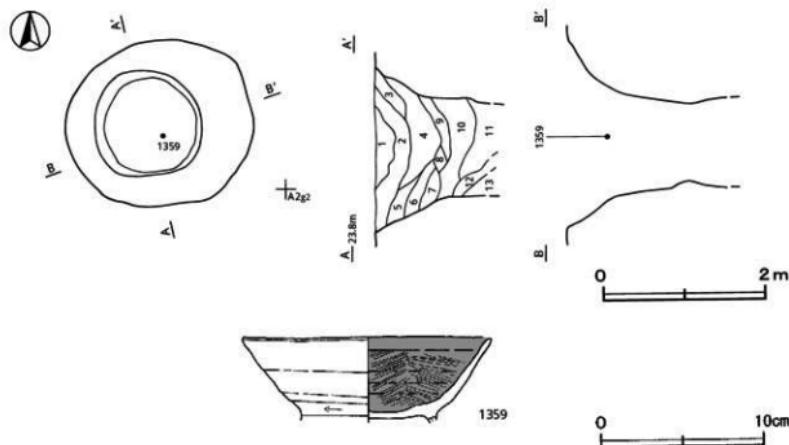
覆土 13層に分層される。各層にロームブロック、砂質粘土ブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------------------|----------|------------------------------------|
| 1 黒 褐 色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 8 暗 褐 色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 雑 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗 褐 色 | 砂質粘土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロッ
ク・焼土粒子微量 |
| 3 雜 褐 色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、焼土粒
子・炭化粒子微量 | 10 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロッ
ク少量 |
| 4 暗 褐 色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・砂質粘土ブロッ
ク・焼土粒子微量 | 11 暗 褐 色 | ロームブロック中量、砂質粘土ブロック・炭化粒
子微量 |
| 5 暗 褐 色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 福 色 | ロームブロック多量 |
| 6 福 色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 福 色 | ロームブロック中量 |
| 7 暗 褐 色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片2点（鍋類）が出土している。また、流れ込んだ土師器片35点（环6、甕27、高台付环2）、須恵器片13点（环7、甕5、瓶類1）も出土している。1359は覆土上層から出土しており、埋め戻す際に流れ込んだものと考えられる。

所見 素掘りの井戸跡である。時期は、出土土器から近世と考えられる。



第184図 第5号井戸跡・出土遺物実測図

第5号井戸跡出土遺物観察表(第184図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	施土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1359	土師器	高台付环	15.0	(52)	-	長石・石英	にぼり焼	普通	体部内・外側口クロナダ 軸へラ削り	外側下端～底部凹 高台貼り付け	施土上層 95% PL35

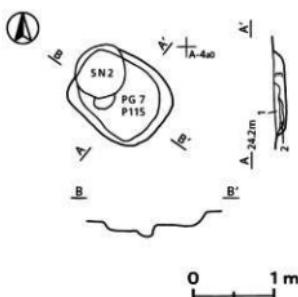
表10 中世・近世井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	施土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(m)					
4	A 2h7	N-0°	円形	2.50×2.50	(190)	直立・ 微傾	-	人為	磁器	SD 36-本跡 19世紀代
5	A 2f1	N-0°	円形	2.30×2.30	(195)	直立・ 微傾	-	人為	土師器・土師質土器	近世

(4) 土坑

第370号土坑(第185図)

位置 調査区西部のA-4a9区、標高24mの平坦な台地上に位置している。



第185図 第370号土坑実測図

重複関係 第7号ピット群・第2号粘土貼土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.00m、短軸0.75mの隅丸長方形で、長軸方向はN-51°-Wである。深さ20cm、底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。ブロック状の堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

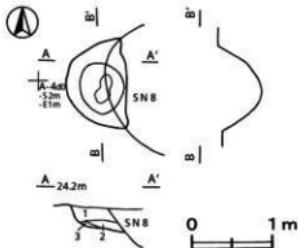
土層解説

- 1 暗褐 色 炭化粒子中量、ロームブロック少量
- 2 暗褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

所見 北西部に隣接する第34・41号掘立柱建物跡に付随した土坑と推定される。時期は、重複関係から18世紀以前と考えられる。

第375号土坑(第186図)

位置 調査区西部のA-4d0区、標高24mの平坦な台地上に位置している。



第186図 第375号土坑実測図

重複関係 第8号粘土貼土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北径は1.00m、東西径は0.75mだけが確認されており、円形と推測される。深さ37cm、底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

所見 隣接する第7・10号粘土貼土坑及び重複する第8号粘土貼土坑と規模が近いことから、関連していると考えられる。時期は、重複関係から18世紀以前と考えられる。

表11 中世・近世土坑一覧表

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考(時期)
				長軸(径)×短軸(径)(m)	深さ(cm)					
370	A-4a9	N-51°-W	椭丸長方形	1.00 × 0.75	20	外傾	皿状	人骨		18世紀以前 本跡→PG75N2
375	A-4d0	N-0°	円形	1.00 × 0.75	37	外傾	皿状	人骨		18世紀以前 本跡→SNB

(5) 粘土貼土坑

第1号粘土貼土坑 (第187図)

位置 調査区西部のZ-4i9区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径1.13m、短径0.75mの楕円形で、長径方向はN-4°-Eである。深さ14cm、底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。南部の壁面から底面にかけて厚さ4~6cmの粘土が貼られている。

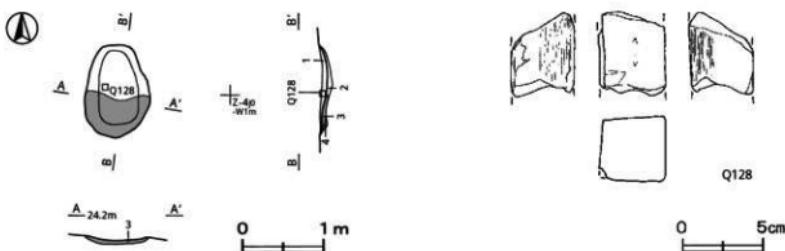
覆土 4層に分層される。第3・4層が粘土層である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量	燒土	3 灰色	粘土ブロック多量	燒土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量		4 オリーブ黒色	粘土ブロック中量	ローム粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片3点(鍋類)、磁器片1点(碗)、石器1点(砥石)、鉄製品1点(不明)が出土している。また、流れ込んだ土師器片1点(模)も出土している。

所見 形状から墓坑と推測される。時期は出土土器から19世紀代と考えられる。



第187図 第1号粘土貼土坑・出土遺物実測図

第1号粘土貼土坑出土遺物観察表 (第187図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q128	砥石	(5.1)	41	39	(110.6)	珪化度質岩	縦による切削痕 底面1面	覆土上層	

第2号粘土貼土坑 (第188図)

位置 調査区西部のA-4a9区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第370号土坑，第7号ピット群を掘り込んでいる。

規模と形状 径0.64mの円形で，深さ18cmである。底面は皿状で，壁は緩やかに立ち上がっている。壁面に厚さ3~5cmの粘土が貼られている。

覆土 6層に分層される。第3層が粘土層で，第4~6層は埋土である。

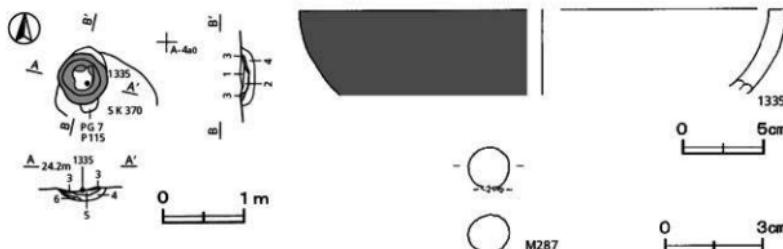
土層解説

1	暗	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土 粒子少量	3	灰	色	粘土ブロック多量
2	褐	色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土 粒子少量	4	褐	色	ロームブロック中量
				5	褐	色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
				6	褐	色	ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片7点（小皿1，鍋6），陶器片3点（碗），銅製品1点（鉄砲玉）が出土している。

また，流れ込んだ土師器片1点も出土している。1335は中央部の底面から出土している。

所見 形状から墓坑と推測される。時期は出土土器から19世紀代と考えられる。



第188図 第2号粘土貼土坑・出土遺物実測図

第2号粘土貼土坑出土遺物観察表（第188図）

番号	種類	縦横	口径	高さ	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
1335	土師質土器	縦横	[30.0] (52)	-	長石・石英・ 雲母	陶赤褐色	普通	内・外面ヘラ削り	覆土上層	5%	外側埋付着

番号	種類	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M287	鉄砲玉	-	1.3	-	6.65	鋼	3丸玉	覆土中	

第3号粘土貼土坑（第189図）

位置 調査区西部のA-3b1区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第5号粘土貼土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.10mの円形で，深さは23cmである。底面は皿状で，壁は緩やかに立ち上がっている。北東壁・南西壁から底面にかけて厚さ2~6cmの粘土が貼られている。

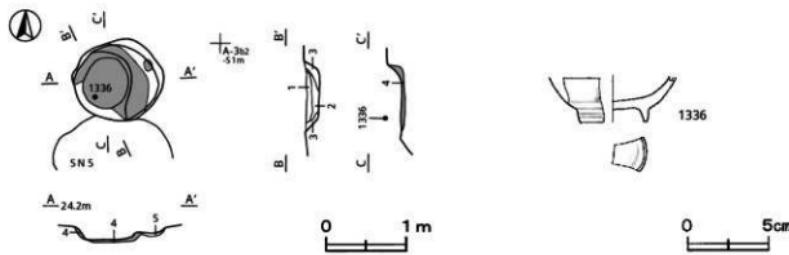
覆土 5層に分層される。第4層が粘土層である。

土層解説

1	暗	褐色	ローム粒子中量，炭化粒子・粘土粒子微量	4	暗オリーブ色	色	粘土ブロック多量
2	暗	褐色	ロームブロック・粘土粒子微量	5	暗	褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量
3	褐	色	ローム粒子中量，炭化粒子・粘土粒子微量				

遺物出土状況 土師質土器片1点（鍋類），磁器片1点（碗）が出土している。また，流れ込んだ土師器片3点（甕）も出土している。1336は南西部の覆土上層から出土している。

所見 形状から墓坑と推測される。時期は，重複関係及び出土土器から19世紀代と考えられる。



第189図 第3号粘土貼土坑・出土遺物実測図

第3号粘土貼土坑出土遺物観察表(第189図)

番号	種別	断面	口径	底高	底径	胎土	輪裏	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1336	磁器	環	-	(2.9)	[4.0]	緻密	透明釉	明青灰・ 淡白	良好	ロクロ整形	壁土上層	5% 炭化

第4号粘土貼土坑(第190図)

位置 調査区西部のA-3b2区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径1.12m, 短径0.92mの楕円形で, 長径方向はN-90°である。深さ33cm, 底面は皿状で, 壁は外傾して立ち上がっている。壁の下端から底面にかけて厚さ1~5cmの粘土が貼られている。

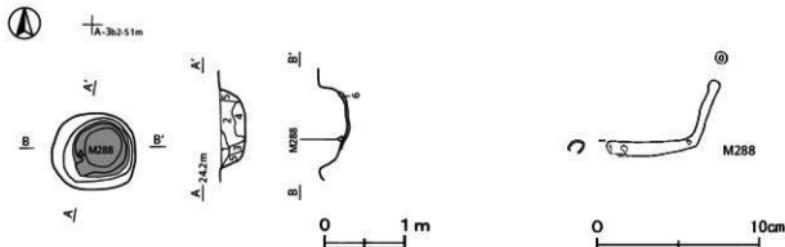
覆土 6層に分層される。第6層が粘土層である。

土層解説

1 植暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	4 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 烧土粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量	5 褐色	ロームブロック中量
3 緑褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 烧土粒子微量	6 灰色	粘土ブロック多量

遺物出土状況 土師質土器片3点(鍋類2, 不明1), 銅製品1点(煙管)のほかに, 流入した縄文土器片1点, 土師器片1点(甕), 須恵器片3点(壺)も出土している。

所見 形状から墓坑と推測される。時期は出土土器及び重複関係から18世紀以降と考えられる。



第190図 第4号粘土貼土坑・出土遺物実測図

第4号粘土貼土坑出土遺物観察表(第190図)

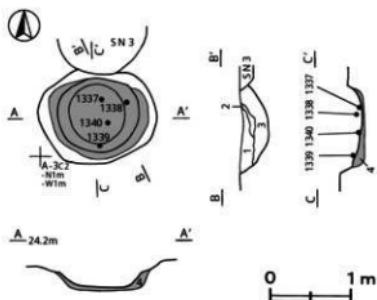
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M288	煙管	(6.0)	(0.7)	0.7	(5.4)	銅	板口 銅板丸め後瓶付け	底面	PL40

第5号粘土貼土坑（第191・192図）

位置 調査区西部のA-3b1区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3号粘土貼土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.46mで、短径は1.15mだけ確認されており、楕円形と推測される。長径方向はN-90°である。深さ34cm、底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。東壁・西壁から底面にかけて厚さ3-11cmの粘土が貼られている。



第191図 第5号粘土貼土坑実測図

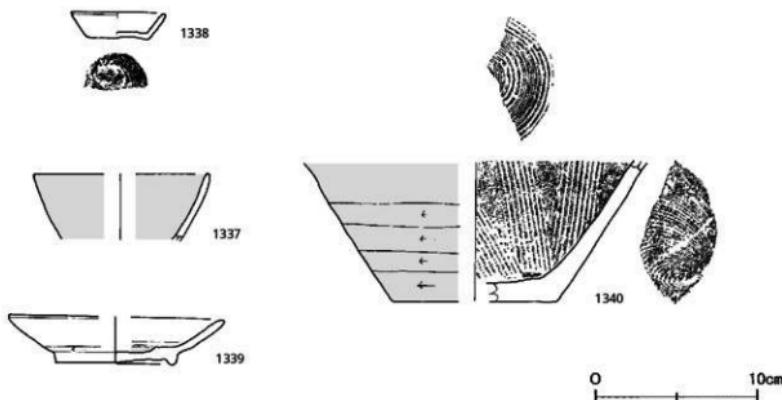
覆土 4層に分層される。第4層が粘土層である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、族化物・粘土粒子微量
- 4 灰オリーブ色 粘土ブロック多量

遺物出土状況 土師質土器片4点（小皿1、鍋類3）、陶器片5点（碗2、皿1、擂鉢1、不明1）、土製品1点（不明）が出土している。また、流入した縄文土器片1点、石器1点（石核）も出土している。1339・340は南部・中央部の底面からそれぞれ出土している。

所見 形状から墓坑と考えられる。時期は、重複関係及び出土土器から18世紀前半と考えられる。



第192図 第5号粘土貼土坑出土遺物実測図

第5号粘土貼土坑出土遺物観察表（第192図）

番号	種別	縦横	口径	基高	底径	胎土	輪廻	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1337	陶器	楕	[10.6] (40)	-	細密 灰釉	淡黄・淡黄	良好	口クロ型	良好	底部回転糸切り	底面	5% 湾戸・美濃
1338	土師質土器	小皿	5.8	1.5	3.6	青母	櫛	普通	体部・外面部クロナギ	底部回転糸切り	覆土下層	55%
1339	陶器	輪壳皿	[13.0]	2.8	6.8	細密 灰釉	灰白・淡黄	良好	口クロ型	削り出し高台 内面輪状に輪削	覆土下層	50% PL43 湾戸・美濃
1340	陶器	擂鉢	-	(8.7)	[10.2]	長石・石英 鉄鉢	極細赤褐 明黄褐	良好	体部外面下端回転ヘラ削り	底部回転糸切り	底面	10% 湾戸・美濃

第6号粘土貼土坑（第193図）

位置 調査区西部のA-4d0区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第11号粘土貼土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.45m、短径1.35mの円形である。深さ23cm、底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。底面の外周に厚さ2cmの粘土が貼られている。

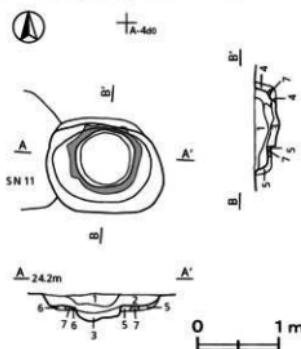
覆土 7層に分層される。第7層が粘土層である。

土層解説

1	褐	色	粘土ブロック中量、炭化粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
2	暗	褐	色 ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
3	褐	色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、粘土粒子微量
4	褐	色	炭化物多量、ロームブロック中量
5	褐	色	ロームブロック中量、粘土粒子微量
6	灰	褐	色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量
7	灰オリーブ	色	粘土ブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片3点（鍋類）、陶器片4点（碗3、不明1）、磁器片1点（不明）、が出土している。また、流れ込んだ土師器片7点（碗）、石器1点（剥片）も出土している。

所見 形状から墓坑と推測される。時期は、重複関係及び出土土器から18世紀代と考えられる。



第193図 第6号粘土貼土坑実測図

第7号粘土貼土坑（第194図）

位置 調査区西部のA-4d0区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第8・10号粘土貼土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.37mの円形で、深さは34cmである。底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。壁の全面に厚さ4~5cmの粘土が貼られている。

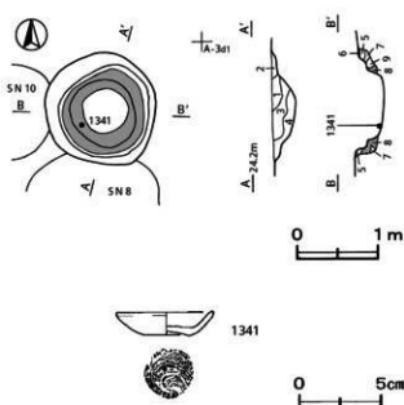
覆土 9層に分層される。第8層が粘土層である。

土層解説

1	黒	褐	色 ロームブロック中量、焼土粒子・粘土粒子少量	
2	褐	色	ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化物・焼土粒子少量	
3	極	暗	褐	色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
4	暗	褐	色 粘土粒子中量、ロームブロック少量	
5	暗	褐	色 粘土粒子少量、炭化物・ローム粒子微量	
6	褐	色	ロームブロック中量	
7	暗	褐	色 炭化粒子中量、ロームブロック微量	
8	灰オリーブ	色	粘土ブロック多量、炭化粒子微量	
9	褐	色	ローム粒子中量、粘土ブロック・炭化粒子微量	

遺物出土状況 土師質土器1点（小皿）が出土している。また、流れ込んだ須恵器片1点（碗）も出土している。

所見 形状から墓坑と推測される。時期は出土土器から18世紀代と考えられる。



第194図 第7号粘土貼土坑・出土遺物実測図

第7号粘土貼土坑出土遺物觀察表(第194図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	粘土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1341	土師質土器	小皿	5.8	1.4	3.0	青母	褐	普通	体部内・外側クロロナダ 底部回転糸切り	底面	100% PL43

第8号粘土貼土坑(第195図)

位置 調査区西部のA-4d0区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第375号土坑を掘り込み、第7号粘土貼土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径1.70mの円形で、深さは50cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。壁の下端から底面にかけて厚さ3~5cmの粘土が貼られている。

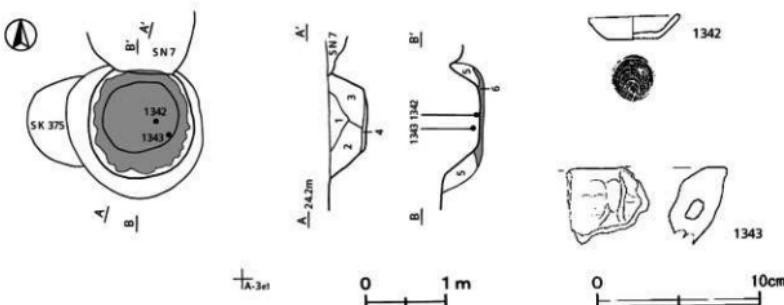
覆土 6層に分層される。第6層が粘土層である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量 | 4 褐 色 ローム粒子多量、粘土ブロック中量、炭化粒子少量 |
| 2 緑 褐 色 ロームブロック多量、粘土ブロック少量 | 5 黒 褐 色 烧土粒子・粘土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 3 黒 褐 色 ロームブロック多量、粘土ブロック中量、焼土粒子微量 | 6 灰オリーブ色 粘土ブロック多量 |

遺物出土状況 土師質土器片3点(小皿1、鍋類2)が出土している。また、流入した縹文土器片3点(深鉢)、土師器片3点(杯1、甕2)、須恵器片2点(甕)も出土している。

所見 形状から墓坑と推測される。時期は、重複関係及び出土土器から17世紀中葉から18世紀中葉と考えられる。



第195図 第8号粘土貼土坑・出土遺物実測図

第8号粘土貼土坑出土遺物觀察表(第195図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	粘土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1342	土師質土器	小皿	5.4	1.5	3.0	長石・青母・赤色粒子	褐	普通	体部内・外側クロロナダ 底部回転糸切り	覆土下層	100% PL43
1343	土師質土器	培燒罐	-	(47)	-	長石・石英・青母	褐	普通	耳部繩付付け	覆土下層	5% 外側繩付蓋

第9号粘土貼土坑(第196図)

位置 調査区西部のA-3a1区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

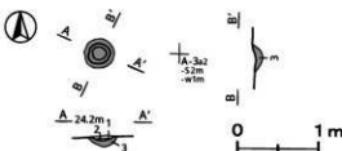
規模と形状 径0.35mの円形で、深さは5cmである。底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。全面に厚さ5~7cmの粘土が貼られている。

覆土 3層に分層される。第3層が粘土層である。

土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 青オリーブ褐色 粘土ブロック中量・ローム粒子微量
- 3 青オリーブ褐色 ロームブロック多量

所見 規模が極めて小さく、性格は不明である。時期は、南部の第3~5号粘土貼土坑と関連していると考えられることから、近世中葉から後葉と推測される。



第196図 第9号粘土貼土坑実測図

第10号粘土貼土坑 (第197・198図)

位置 調査区西部のA-4d0区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第7号粘土貼土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北径は1.15mで、東西径は1.05mだけ確認されており、円形と推測される。深さ38cm、底面は皿状であり、壁は直立している。壁の下端から底面にかけて厚さ3~5cmの粘土が貼られている。

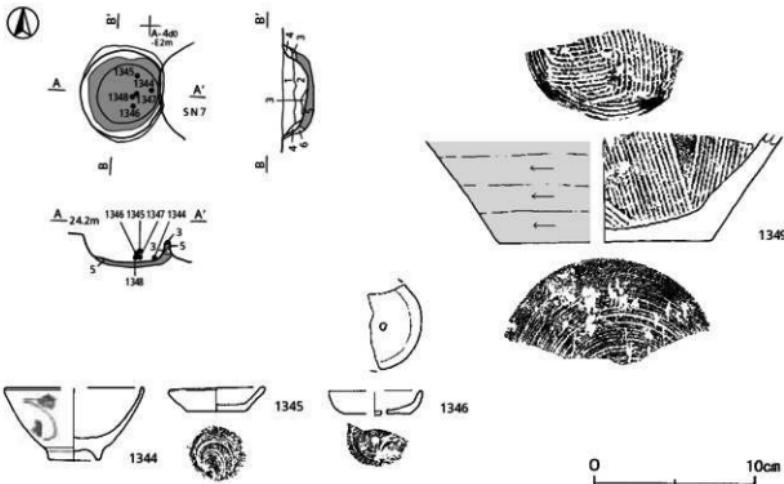
覆土 6層に分層される。第5層が粘土層である。

土層解説

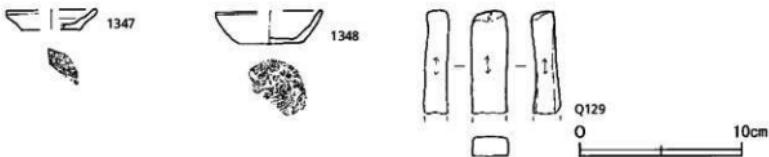
- | | |
|-----------------------------------|-------------------------------|
| 1 青褐色 粘土ブロック少量、粘土ブロック・堆土粒子・炭化粒子微量 | 4 墓褐色 ロームブロック中量 |
| 2 青褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子微量 | 5 古オリーブ色 粘土ブロック多量 |
| 3 オリーブ色 ロームブロック・粘土ブロック中量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質器片7点(小皿4, 鉢類3), 陶器片2点(碗, 楼鉢), 磁器1点(染付小碗), 石器1点(砥石)が出土している。また、流れ込んだ土師器片1点(壺)も出土している。1344~1348は西部の覆土中層から底面にかけてそれぞれ出土している。

所見 形状から墓坑と推測される。時期は、出土土器から19世紀代と考えられる。



第197図 第10号粘土貼土坑・出土遺物実測図



第198図 第10号粘土貼土坑出土遺物実測図

第10号粘土貼土坑出土遺物観察表（第197・198図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1344	磁器	舟付小壺	[8.5]	45	29	緻密 透明暗	明青灰・灰白	良好	ロクロ彫形 菓台貼り付け	底面	40% PL44 既削	
1345	土師質土器	小皿	5.8	1.5	3.6	長石・石英、 磁鐵石	無	埋	普通	体部内・外面ロクロナギ 底部回転糸切り	覆土下層	95% PL43
1346	土師質土器	小皿	[5.8]	1.5	[3.8]	長石・石英、 磁鐵石	無	埋	普通	体部内・外面ロクロナギ 底部回転糸切り	覆土下層	55% PL43
1347	土師質土器	小皿	[5.4]	1.2	[3.6]	長石	にぶい滑	普通	体部内・外面ロクロナギ 底部回転糸切り	覆土下層	20%	
1348	土師質土器	小皿	[6.4]	2.0	4.0	長石・石英、 磁鐵石・赤色粒子	明赤褐	普通	体部内・外面ロクロナギ 底部回転糸切り	覆土下層	25%	
1349	陶器	瓶体	-	(6.5)	[13.2]	長石・石英、 磁鐵石	にじみ赤褐	良好	体部外側下端回転ハラ削り 底部回転糸切り	覆土中	10%	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q129	磁石	(6.3)	2.2	1.6	(345)	珪化雲母岩	底面3面	覆土中	PL47

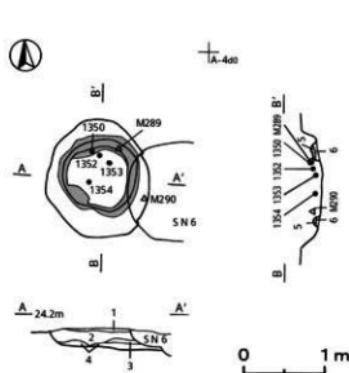
第11号粘土貼土坑（第199・200図）

位置 調査区西部のA-4d9区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第6号粘土貼土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北径は1.45mで、東西径は1.25mだけ確認されており、円形もしくは楕円形と推測される。長径方向は、N~8°~Wである。深さ25cm、底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。底面の外周に厚さ1~4cmの粘土が貼られている。

覆土 6層に分層される。第5層が粘土層である。



第199図 第11号粘土貼土坑実測図

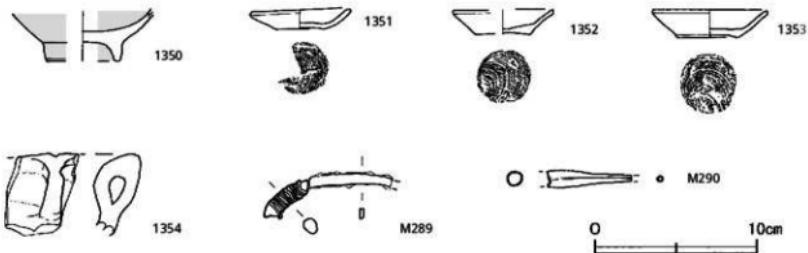
土層解説

- 1 線 色 ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 線 色 ロームブロック・粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 線 灰 色 ローム粒子中量、粘土ブロック微量
- 4 線 線 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 5 線 灰オリーブ色 粘土ブロック多量、ロームブロック微量
- 6 線 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片15点（小皿8, 鍋類7）、

陶器片4点（碗1, 不明3）、磁器片2点、鉄製品1点（不明）、銅製品1点（煙管）が出土している。また、土師器片6点（壺1, 樹5）、須恵器片1点（櫛）も出土している。1350・1352・1354は北部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 形状から墓坑と推測される。時期は、出土土器及び重複関係から17世紀後半と考えられる。



第200図 第11号粘土貼土坑出土遺物実測図

第11号粘土貼土坑出土遺物観察表 (第200図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	輪裏	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1350	陶器	直腹平底	-	(32)	[4.8]	樹脂・灰輪	淡青・淡黄褐	良好	クロコ型臺面貼り付け	粘土下層	20% 脱脂土	
1351	土師實土器	小皿	6.1	1.3	3.1	長石・雲母	褐	普通	体部内・外側クロコナギ	底部回転糸切り	粘土中	60% PL43
1352	土師實土器	小皿	[6.1]	1.5	[3.4]	雲母	にぶい黄	普通	体部内・外側クロコナギ	底部回転糸切り	粘土下層	40% PL43
1353	土師實土器	小皿	7.1	1.8	3.7	長石・雲母・赤色 粒子・黒色粒子	にぶい褐	普通	体部内・外側クロコナギ	底部回転糸切り	粘土下層	80% PL43
1354	土師實土器	内耳鉢	-	(49)	-	長石・石英・ 雲母・黒色粒子	にぶい褐	普通	耳部貼り付け	粘土下層	5%	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M289	不明	(8.0)	0.7	0.7	(6.4)	鉄・銅	鉄の心材に径0.8mmの鋼線巻き付け	粘土下層	PL49
M290	鐵鏟	(5.2)	0.9~0.4	(3.3)	銅	吸口	銅板丸め後錫付け	粘土下層	PL49

第12号粘土貼土坑 (第201図)

位置 調査区西部のA-4a0区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

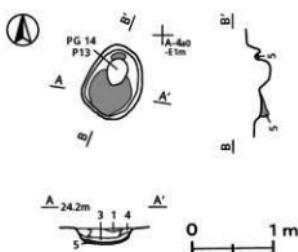
重複関係 第14号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.93m, 短径0.68mの楕円形で, 長径方向はN-18°-Eである。深さ13m, 底面は皿状で,

壁は外傾して立ち上がっている。底面に厚さ3~6cmの粘土が貼られている。

覆土 5層に分層される。第5層が粘土層である。

土層解説	
1	暗褐色
2	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
3	ロームブロック・炭化粒子微量
4	ロームブロック微量
5	粘土ブロック多量



所見 小規模で、性格は不明である。時期は、重複関係から18世紀以前と考えられる。

第201図 第12号粘土貼土坑実測図

表12 中世・近世粘土貼土坑一覧表

番号	位置	長軸（径）方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考（時期）
				長軸(径) × 短軸(径) (m)	深さ(cm)					
1	Z-4i9	N-4°~E	楕円形	1.13 × 0.75	14	縦斜	皿状	人為	土師質土器・磁器・石器	19世紀代
2	A-4a9	N-0°	円形	0.64 × 0.64	18	縦斜	皿状	人為	土師質土器・陶器・磁器	SK370 PG7→本跡 19世紀代
3	A-3b1	N-0°	円形	1.10 × 1.10	23	縦斜	皿状	人為	土師質土器・磁器	SNS-本跡 19世紀代
4	A-3b2	N-90°	楕円形	1.12 × 0.92	33	外傾	皿状	人為	土師質土器・銅製品	19世紀以前
5	A-3b1	N-90°	[楕円形]	1.46 × (115)	34	縦斜	皿状	人為	土師質土器・陶器・土製品	本跡→SNS 18世紀前半
6	A-4d0	N-0°	円形	1.45 × 1.35	23	縦斜	皿状	人為	土師質土器・陶器・磁器	SK111-本跡 18世紀代
7	A-4d0	N-0°	円形	1.37 × 1.37	34	縦斜	皿状	人為	土師質土器	SNS-10-本跡 18世紀代
8	A-4d0	N-0°	円形	1.70 × 1.70	50	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK375→本跡→SN7 17世紀後半-18世紀中葉
9	A-3a1	N-0°	円形	0.35 × 0.35	5	縦斜	皿状	人為		近世中葉-後葉
10	A-4d0	N-0°	[円形]	1.15 × (105)	38	直立	皿状	人為	土師質土器・陶器・石器	本跡→SN7 19世紀代
11	A-4d9	N-8°~W	[円形・楕円形]	1.45 × (125)	25	外傾	皿状	人為	土師質土器・陶器・磁器・銅製品	本跡→SN6 17世紀後半
12	A-4a0	N-18°~E	楕円形	0.99 × 0.68	13	外傾	皿状	人為		本跡→PG14 18世紀以前

(6) ピット群

第7号ピット群（第202・203図）

位置 調査区西部のZ-4h7区～A-4a9区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2号粘土貼土坑を掘り込み、第34～36・41号掘立柱建物跡と重複しているが新旧関係は不明である。

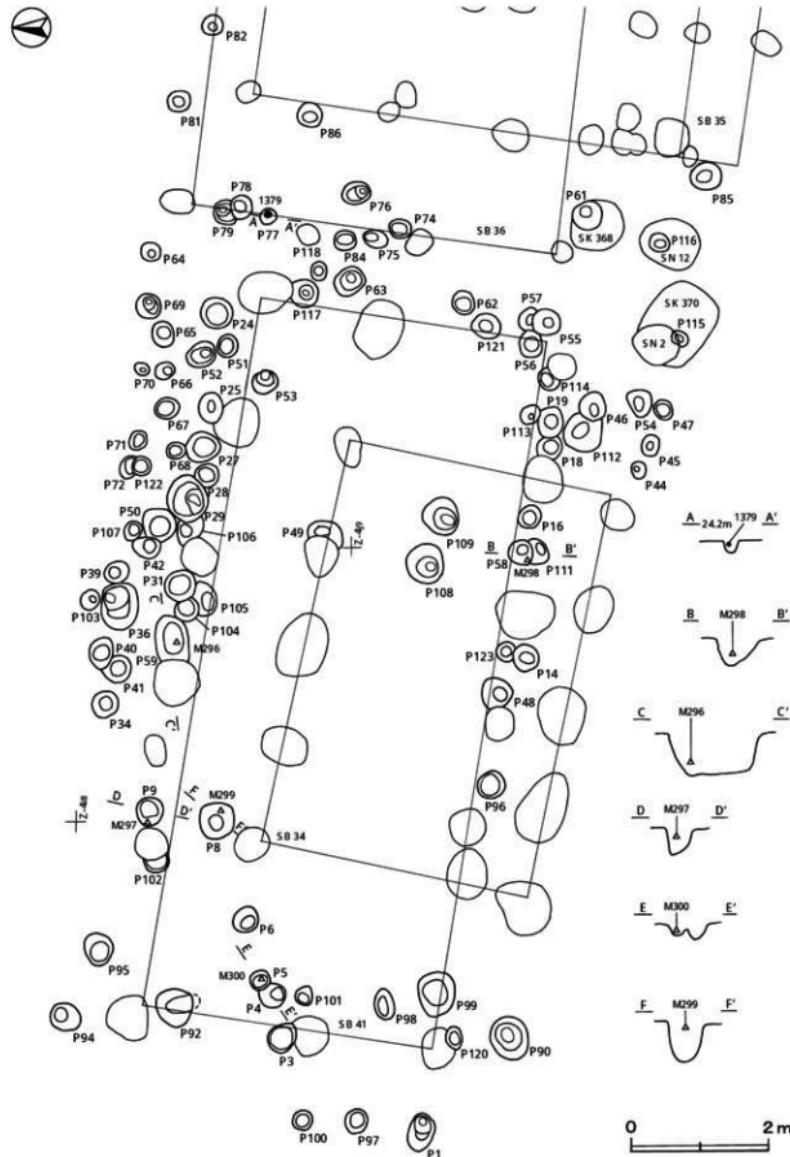
規模と形状 南北10m、東西16mの長方形の範囲にピット92か所が確認された。形状は長径20～70cm、短径17～60cmの円形または楕円形である。断面形はU字状で、深さは10～73cmである。

覆土 柱の抜き取り痕は確認できず、暗褐色土または黒褐色土で綺まりが弱い。

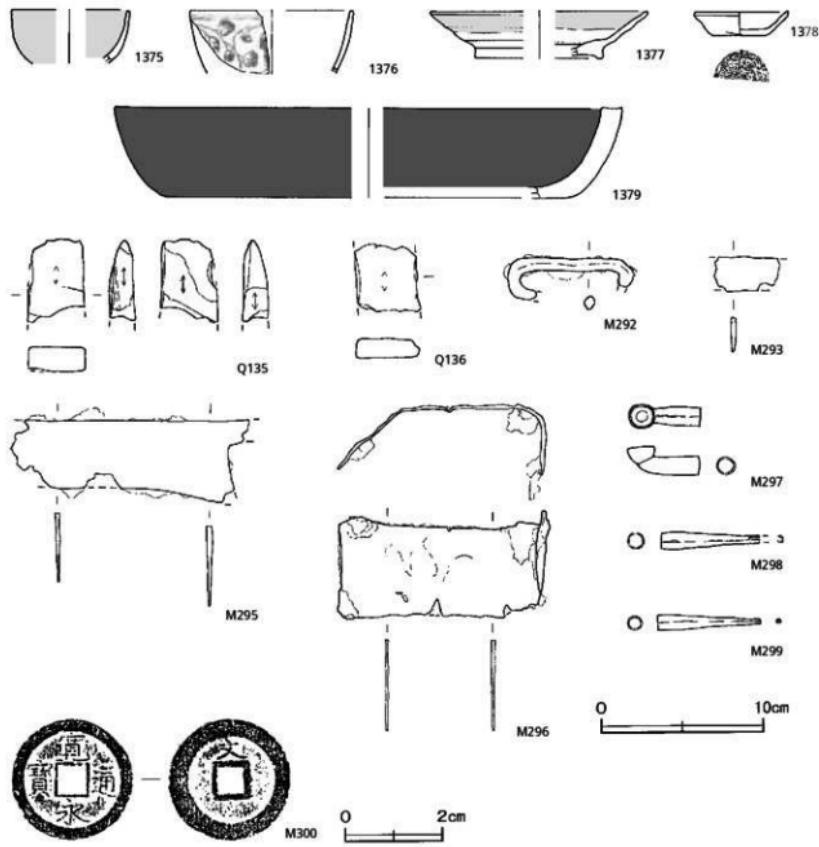
遺物出土状況 土師質土器片25点（小皿5、鍋類20）、陶器片16点（碗12、皿1、鉢2、擂鉢1）、磁器片3点（碗）、石器2点（砥石）、銅製品12点（包丁3、不明9）、銅製品4点（古銭1、煙管3）が出土している。また、流入した織文土器片1点（深鉢）、土師器片10点（环）、須恵器片3点（环2、櫛1）も各ピットから出土している。

所見 第34・41号掘立柱建物跡と重複して確認されていることから、付随した庇や柵跡の可能性が考えられる。

時期は、出土土器から17世紀後葉から18世紀中葉と考えられる。



第202図 第7号ピット群実測図



第203図 第7号ピット群出土遺物実測図

第7号ピット群出土遺物観察表（第203図）

番号	種類	器種	口径	高さ	直径	胎土	輪系	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
1375	陶器	盆	[7.2]	(3.3)	-	細密	灰胎	にぶい黄・淡黄	良好	ロクロ彫形	P 27 土中	10% 油井・美濃
1376	磁器	染付碗	[10.0]	(3.9)	-	磨密	透明胎	明黄青灰・灰白	良好	ロクロ彫形	P 50 土中	3% 肥前
1377	陶器	輪壳皿	[13.4]	(2.8)	[7.8]	細密	灰胎	灰白・淡黄	良好	ロクロ彫形 剥り出し高台 内面輪状に輪剥	P 50 土中	15% 油井・美濃
1378	土師質土器	小皿	5.7	1.5	3.4	粗石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい暗	普通	体内部・外側ロクロナナ	底部圓輪系切り	P 4 土中	50%
1379	土師質土器	培根鍋	[31.2]	5.5	[24.0]	粗石・石英・ 雲母	にぶい赤褐	普通	体部・内外面ヘラナナ		P 77 土中	10% 内・外側培根

番号	器種	長さ	幅(往)	厚さ(往)	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q135	砾石	(5.0)	3.7	1.5	(35.0)	凝灰岩	鉋圖4面	P 4 土中	PL47
Q136	砾石	(4.1)	4.0	1.3	(31.1)	凝灰岩	鉋圖1面	P 31 土中	

番号	器種	長さ	幅(径)	厚さ(径)	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M292	不明	7.8	(2.7)	0.7	(17.3)	鉄	断面方形	P 14覆土中	PL-49
M293	刀子か	(4.1)	2.1	0.4	(7.5)	鉄	背闊	P 27覆土中	
M295	包丁	(14.6)	5.1	0.3	(59.5)	鉄	背闊	P 96覆土中	
M296	包丁か	12.9	5.9	0.2	(55.7)	鉄	両端欠損 下端刃部分	P 59覆土下層	
M297	煙管	5.6	1.1	1.1	5.45	銅	薄首 火皿径1.6cm 脊板丸め後端付け 火皿部無付け	P 9 覆土中層	PL-49
M298	煙管	(6.1)	1.0-0.4	(3.9)		銅	吸口 脊板丸め後端付け	P 58覆土下層	PL-49
M299	煙管	6.4	0.9-0.3	3.2		銅	吸口 脊板丸め後端付け	P 8 覆土上層	PL-49
M300	古鏡	2.4	2.5	0.1	4.18	銅	孔径0.55 真永通貫 背文 初鋤年1668年	P 5 覆土下層	PL-49

第7号ピット群ピット一覧表

ピット 番号	形状	規格(cm)			ピット 番号	形状	規格(cm)			ピット 番号	形状	規格(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ
1	楕円形	58	36	48	52	円形	46	32	32	90	円形	63	55	64
3	円形	50	43	54	53	円形	47	35	50	92	円形	58	55	64
4	円形	40	33	43	54	円形	36	36	41	94	円形	46	37	32
5	円形	33	27	19	55	円形	42	40	56	95	円形	47	42	43
6	円形	40	35	50	56	円形	42	33	32	96	円形	41	38	39
8	円形	56	54	62	57	円形	34	(23)	44	97	円形	36	35	35
9	円形	45	40	46	58	円形	40	38	47	98	楕円形	45	30	35
14	円形	40	39	43	59	[楕円形]	(62)	45	68	99	円形	60	56	31
16	円形	35	31	42	61	円形	20	(16)	35	100	円形	28	16	
18	円形	38	34	40	62	円形	33	33	49	101	円形	26	25	23
19	円形	45	35	36	63	円形	48	35	41	102	円形	36	(18)	-
24	円形	46	45	36	64	円形	29	27	22	103	円形	30	27	30
25	円形	48	36	36	65	円形	38	35	18	104	円形	38	35	55
27	円形	52	43	37	66	円形	30	25	27	105	円形	52	(27)	15
28	円形	35	35	25	67	円形	34	30	10	106	円形	50	(25)	53
29	円形	70	60	50	68	円形	28	24	13	107	円形	31	28	32
31	円形	48	45	46	69	円形	39	37	41	108	円形	54	54	47
34	円形	39	37	37	70	円形	23	18	37	109	円形	58	52	54
36	楕円形	66	53	41	71	円形	31	25	19	111	円形	35	(22)	42
39	円形	39	29	37	72	円形	28	(17)	10	112	円形	65	55	30
40	円形	47	37	20	74	円形	33	27	40	113	円形	28	28	30
41	円形	45	40	25	75	楕円形	36	24	39	114	円形	33	(23)	35
42	円形	42	33	28	76	楕円形	42	32	32	115	円形	31	23	31
44	円形	26	22	31	77	円形	25	22	19	116	円形	32	27	30
45	円形	33	25	35	78	円形	37	31	38	117	円形	45	42	29
46	円形	42	40	20	79	円形	35	(28)	50	118	円形	28	20	24
47	円形	28	28	15	81	円形	35	30	45	120	円形	30	23	48
48	円形	45	45	73	82	円形	33	28	21	121	円形	42	39	27
49	円形	56	(24)	58	84	円形	32	29	45	122	円形	28	28	26
50	円形	55	52	40	85	円形	46	38	46	123	円形	28	(25)	36
51	円形	35	30	22	86	円形	37	36	62					

5 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期や性格の明確でない掘立柱建物跡2棟、溝跡7条、井戸跡4基、土坑142基、ピット群14か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 据立柱建物跡

第33号据立柱建物跡（第204図）

位置 調査区中央部のA-1c8区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第272号土坑，第16号ピット群と重複しているが，新旧関係は不明である。

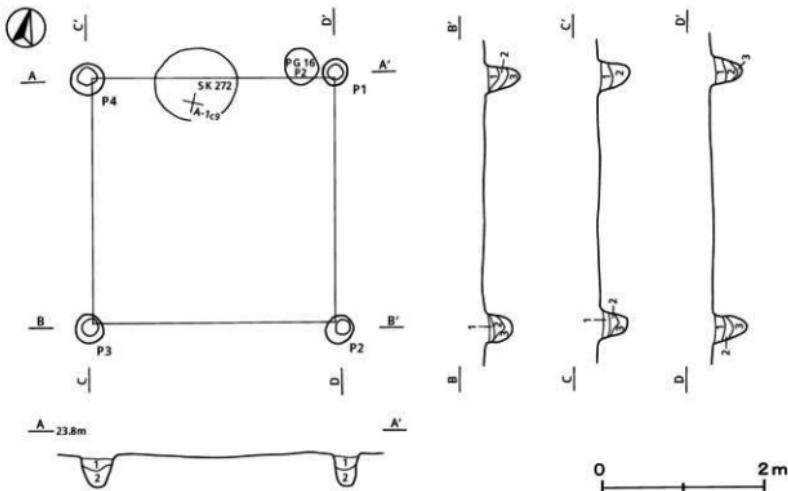
規模と構造 桁行1間，梁行1間の側柱建物跡である。規模は，桁行3.0m(10尺)，梁行3.0m(10尺)で，面積は9.00m²である。

柱穴 4か所。平面形は円形または楕円形で，長径34~41cm，短径32~37cmである。深さは33~43cmで，断面形はU字状である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土で，締まりの弱い黒褐色土が主体である。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1 黒 梅 色 ロームブロック少量 | 3 梅 色 ローム粒子多量 |
| 2 黒 梅 色 ローム粒子少量 | |

所見 時期は，出土土器がなく重複関係からも不明である。



第204図 第33号据立柱建物跡実測図

第37号据立柱建物跡（第205図）

位置 調査区西部のA-3e9区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第10号ピット群と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行1間，梁行1間の側柱建物跡で，桁行方向がN~80°~Eの東西棟である。規模は，桁行2.70m(9尺)，梁行2.25m(7.5尺)で，面積は6.08m²である。

柱穴 4か所。平面形は円形または楕円形で，規模は長径30~33cm，短径24~30cmである。深さは21~34cmで，断面形は逆台形である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土である。すべての柱穴の底面から柱のあたりが確認されている。

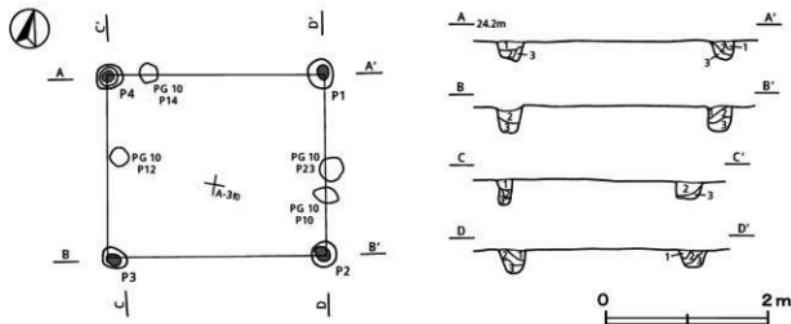
土層解説(各柱穴共通)

- 1 黒 棕 色 ロームブロック中量, 烧土粒子・粘土粒子微量
 2 黒 棕 色 粘土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子微量

3 黒 棕 色 ローム粒子中量, 粘土粒子微量

遺物出土状況 鉄製品4点(不明)が出土しているが、いずれも細片で図示でき。

所見 時期は、出土土器がなく不明である。



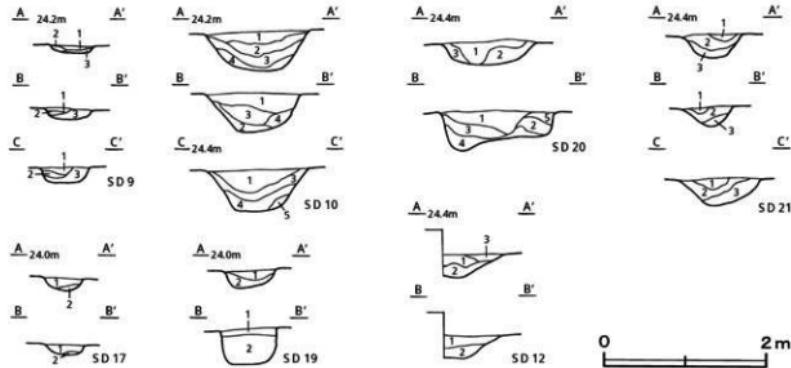
第205図 第37号掘立柱建物跡実測図

表13 その他の掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	平行方向	柱間数(根×列)	基積(m ²)(長軸×短軸)	面積(m ²)	構造	平行距離(m)	並行距離(m)	柱穴平面形	深さ(cm)	主な出土遺物	時期	備考(旧→新)
33	A-1c9	-	1×1	30×30	900	側柱	30	30	円形	33~43		不明	
37	A-3e9 N-80°E	1×1	27×225	608		側柱	27	225	円形・楕円形	21~34	鉄製品	不明	

(2) 溝跡

時期不明の溝跡7条を検出した。以下、断面図、土層解説、一覧表を記載する。なお、平面図は全体図に示した。(第206・207図、付図)



第206図 第9・10・12・17・19・20・21号溝跡実測図

第9号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
2 褐色 ロームブロック中量
3 褐色 ロームブロック多量

第10号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
4 暗褐色 ロームブロック微量
5 暗褐色 ローム粒子微量

第12号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第17号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
2 褐色 ローム粒子中量

第19号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
2 褐色 ローム粒子少量

第20号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
3 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 褐色 ローム粒子微量
5 暗赤褐色 ローム粒子少量

第21号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
2 褐色 ローム粒子中量
3 褐色 ロームブロック微量



第207図 第10号溝跡出土遺物実測図

第10号溝跡出土遺物観察表（第207図）

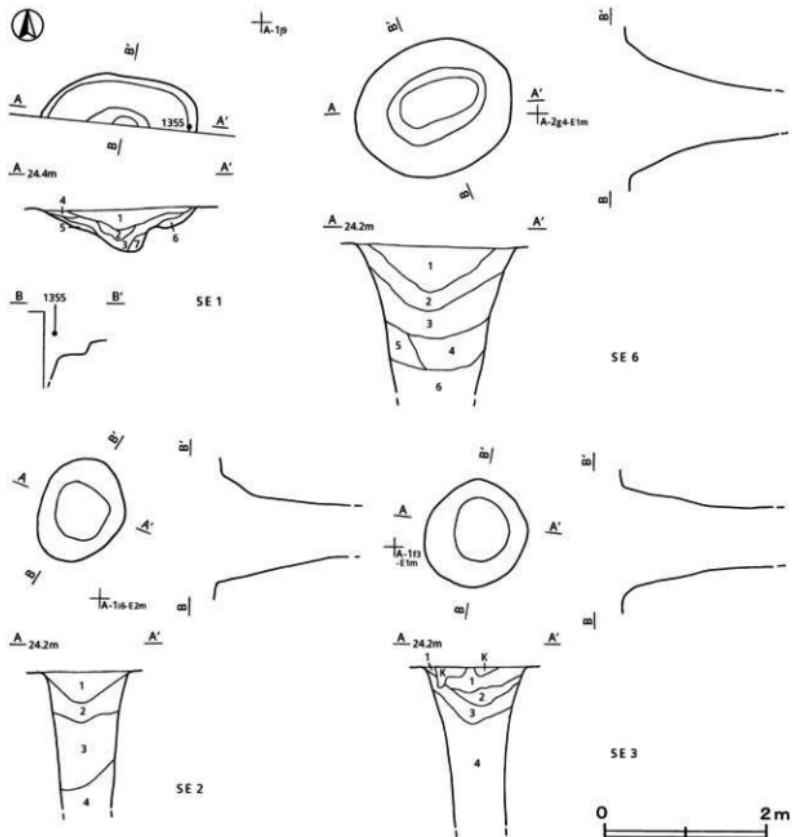
番号	種別	断面	口径	基高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1360	須恵器	高台形	[13.8]	(3.8)	-	長石・石英	灰	普通	体部内・外側口クロナダ	埋土中	5%
TP155	須恵器	瓶	-	(6.6)	-	長石・石英	灰	普通	外側同心円状の叩き目 内面ヘラナダ	埋土中	5%

表14 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	断面形	周縁 (m)			裏面	底面	胎土	主な出土遺物	備考 (同類)
				長さ	上幅	下幅					
9	A-1 11 ~ A-1H5	N-73° E	逆台形	(19.00)	0.80 - 0.40	0.50 - 0.18	8 - 18	外縁	平坦	人為	土被層・須恵器 土被層・土器
10	A-4 d2 ~ A-4d7	N-85° E	逆台形	(16.30)	1.36 - 1.05	0.68 - 0.50	46 - 55	外縁	平坦	自然	須恵器 SK352 → 本跡 → SK349
12	A-3 c9 ~ A-2b1	N-74° E	[逆台形]	(7.88)	(0.70)	(0.26)	(26 - 28)	外縁	平坦	人為	土被層・須恵器 土被層・土器
17	Z-3 j0 ~ A-3a0	N-12° W	U字状	(7.12)	0.52 - 0.32	0.37 - 0.17	20 - 28	外縁	弧状	人為	土被層
19	Z-2 j1 ~ A-2a2	N-20° W	箱形	(4.06)	0.80 - 0.44	0.50 - 0.25	30 - 46	直立	平坦	人為	土被層・須恵器 土被層・土器
20	Z-5 f3 ~ A-5c4	N-11° W	U字状	(27.90)	1.30 - 0.72	0.88 - 0.52	27 - 45	外縁	弧状	人為	土被層・須恵器 土被層・土器
21	Z-6 e7 ~ Z-6f9	Z-15° W	U字状	(16.15)	0.80 - 0.52	0.32 - 0.20	25 - 35	外縁	弧状	瓦	本跡 → SK500-501

(3) 井戸跡

時期不明の井戸跡4基を確認した。以下、実測図、土層解説、一覧表を記載する。(第208・209図)



第208図 第1・2・3・6号井戸跡実測図

第1号井戸跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
- 2 灰褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子中量・炭化粒子少量
- 3 灰褐色 砂質粘土粒子中量・ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 灰褐色 砂質粘土ブロック中量・ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子多量・砂質粘土粒子少量
- 6 灰褐色 砂質粘土ブロック・ローム粒子中量
- 7 灰褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子中量

第2号井戸跡土層解説

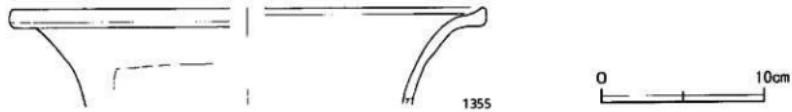
- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量・炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック多量

第3号井戸跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量・炭化粒子微量
- 3 にじみ黄褐色 ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

第6号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量
- 6 褐色 ロームブロック多量



第209図 第1号井戸跡出土遺物実測図

第1号井戸跡出土遺物観察表（第209図）

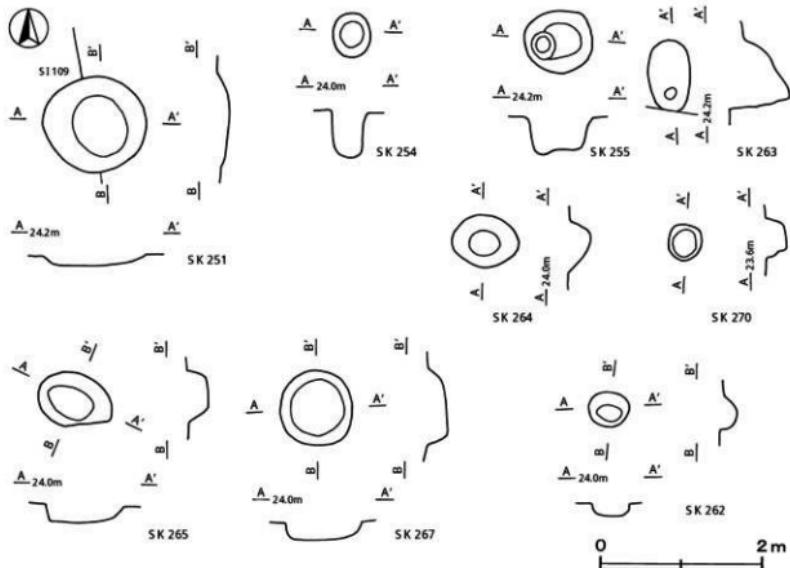
番号	種別	縦横	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1355	須恵器	横	[29.0] (60)	-	-	長石・石英・ 滑石・赤色和子	黄灰	普通	口縁部横ナデ 縁部外側へラナデ	覆土中	5%

表15 その他の井戸跡一覧表

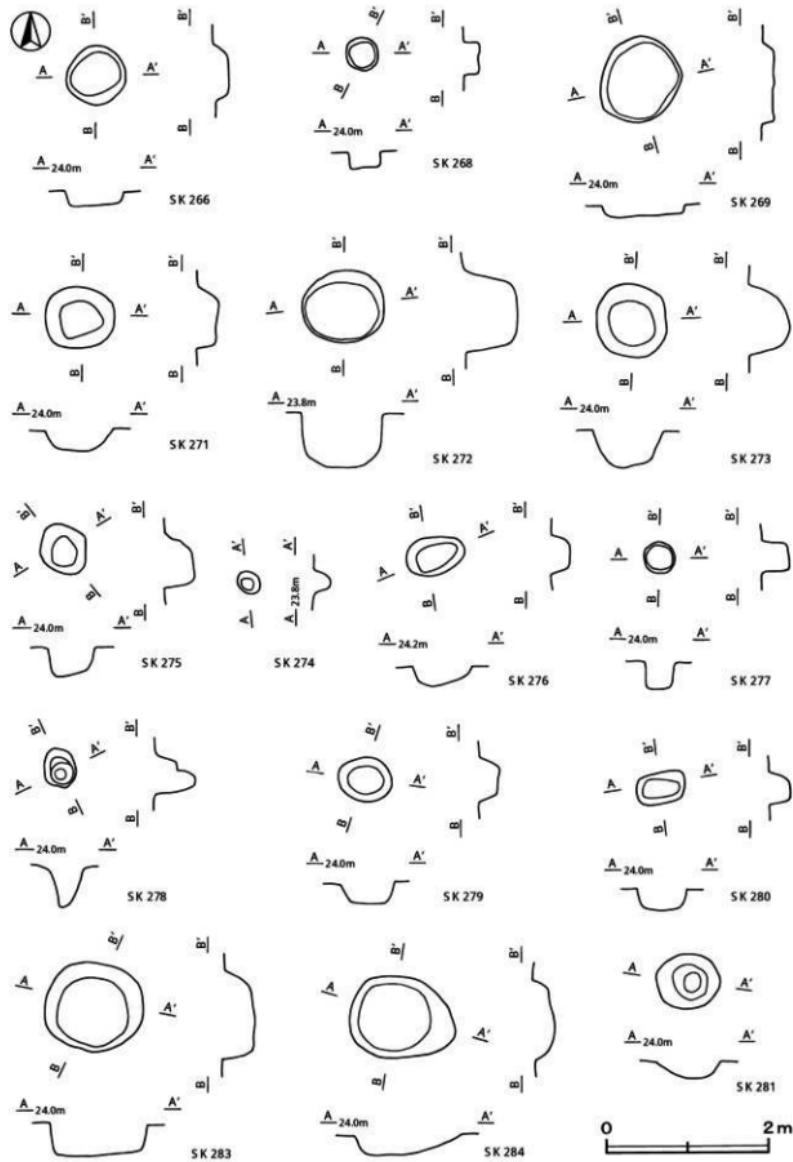
番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規 横		壁面	底面	蓋土	主な出土遺物	備考 (旧→新)
				長軸(径)×	短軸(径)(m)					
1	A-1j8	N-84°-W	【楕円形】	1.94	(0.59)	(0.47)	直立 状況	-	人為	土師器・須恵器
2	A-1h6	N-27°-E	楕円形	1.33	× 1.02	(1.63)	直立	-	人為	
3	A-1f3	N-0°	円形	1.35	× 1.26	(1.85)	直立	-	人為	土師器
6	A-2f3	N-65°-E	楕円形	2.00	× 1.62	(1.82)	外傾	-	人為	

(4) その他の土坑

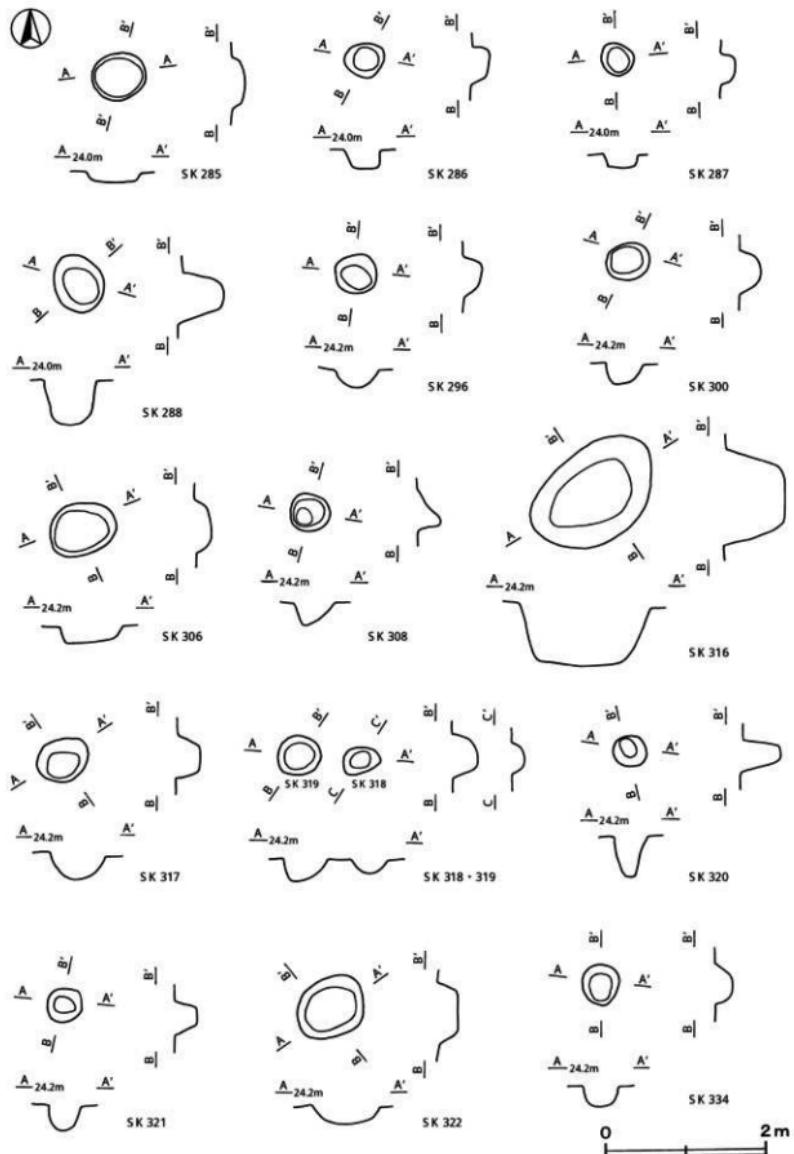
時期及び性格不明の土坑については、以下、実測図一覧表を記載する。（第210～219図）



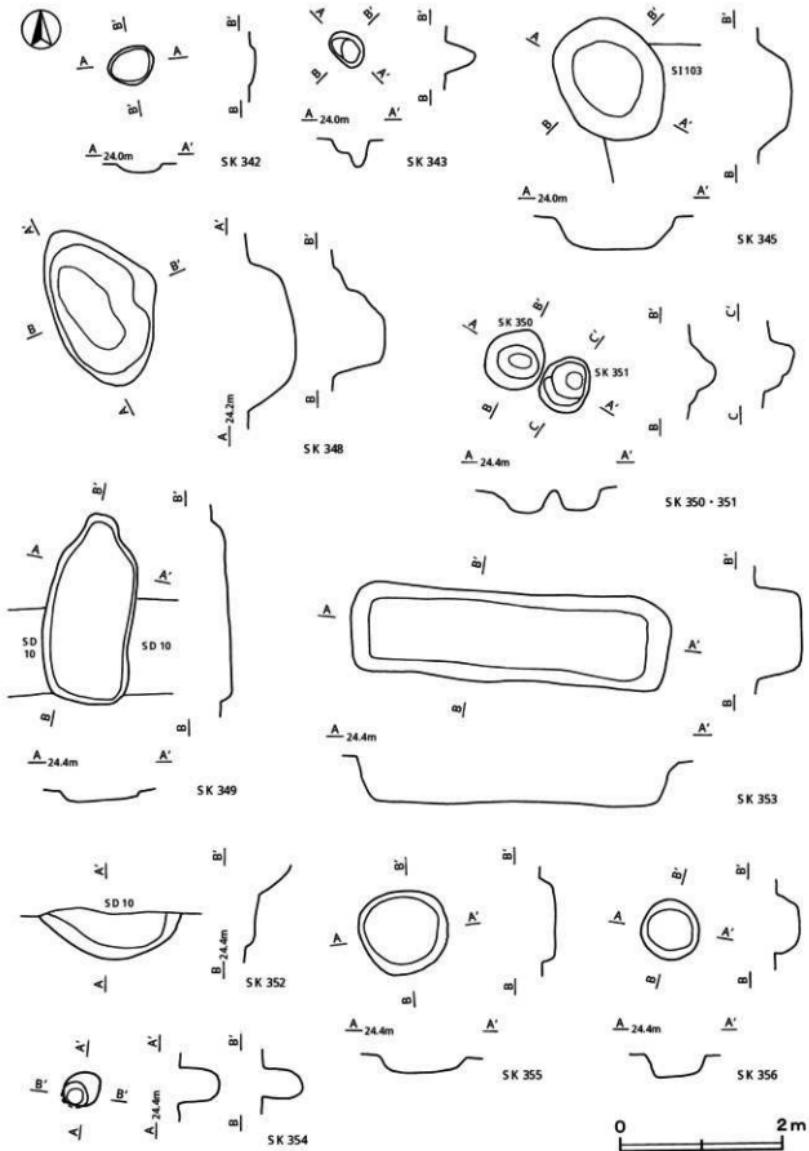
第210図 その他の土坑実測図（1）



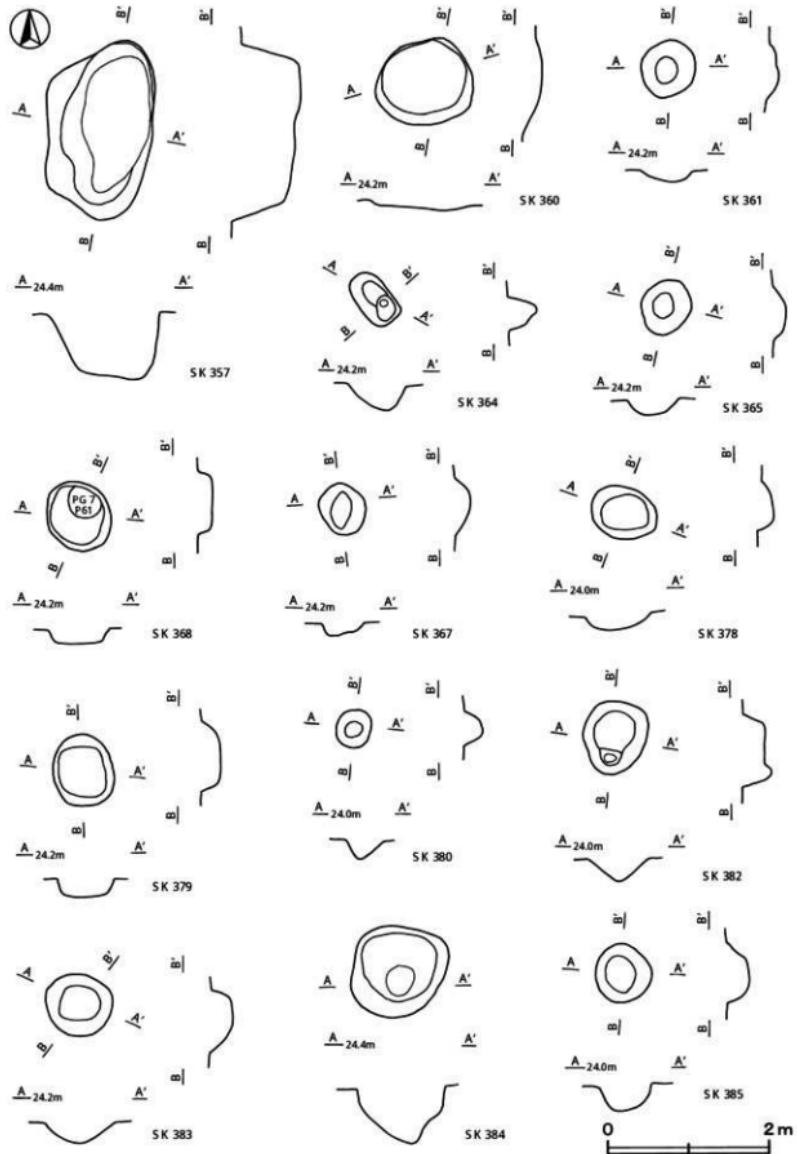
第211図 その他の土坑実測図(2)



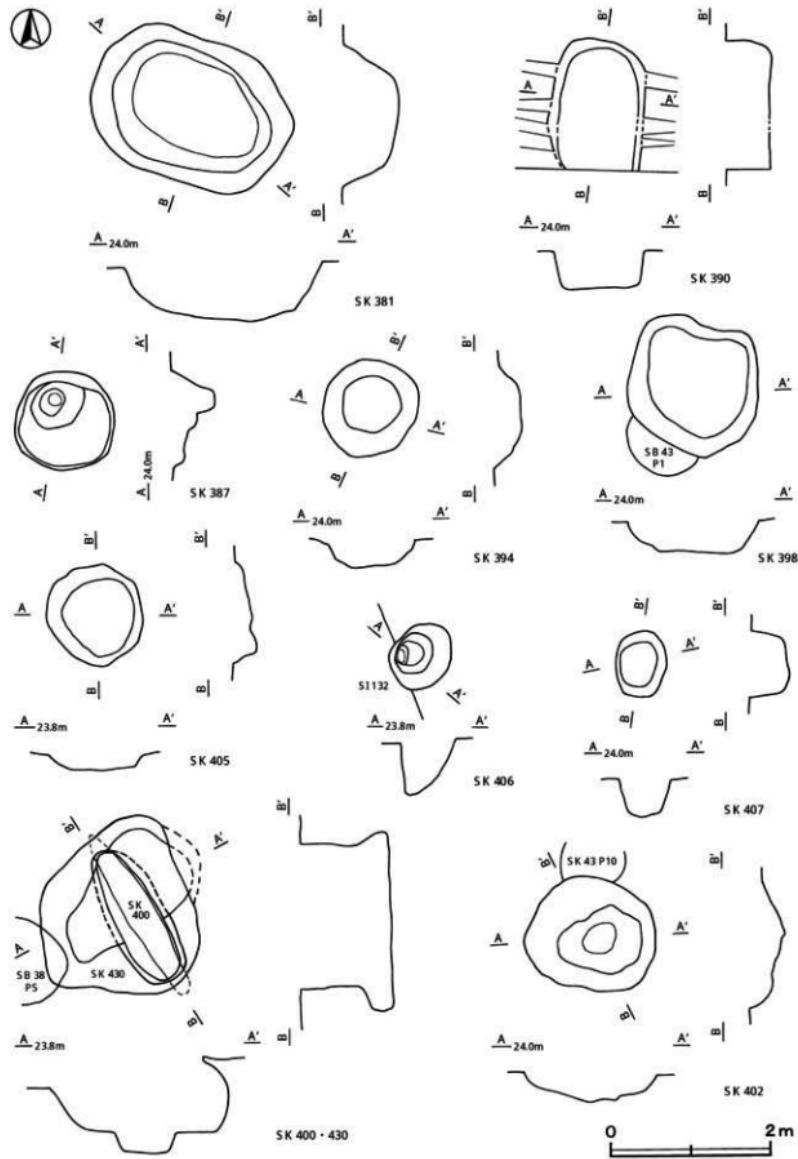
第212図 その他の土坑実測図(3)



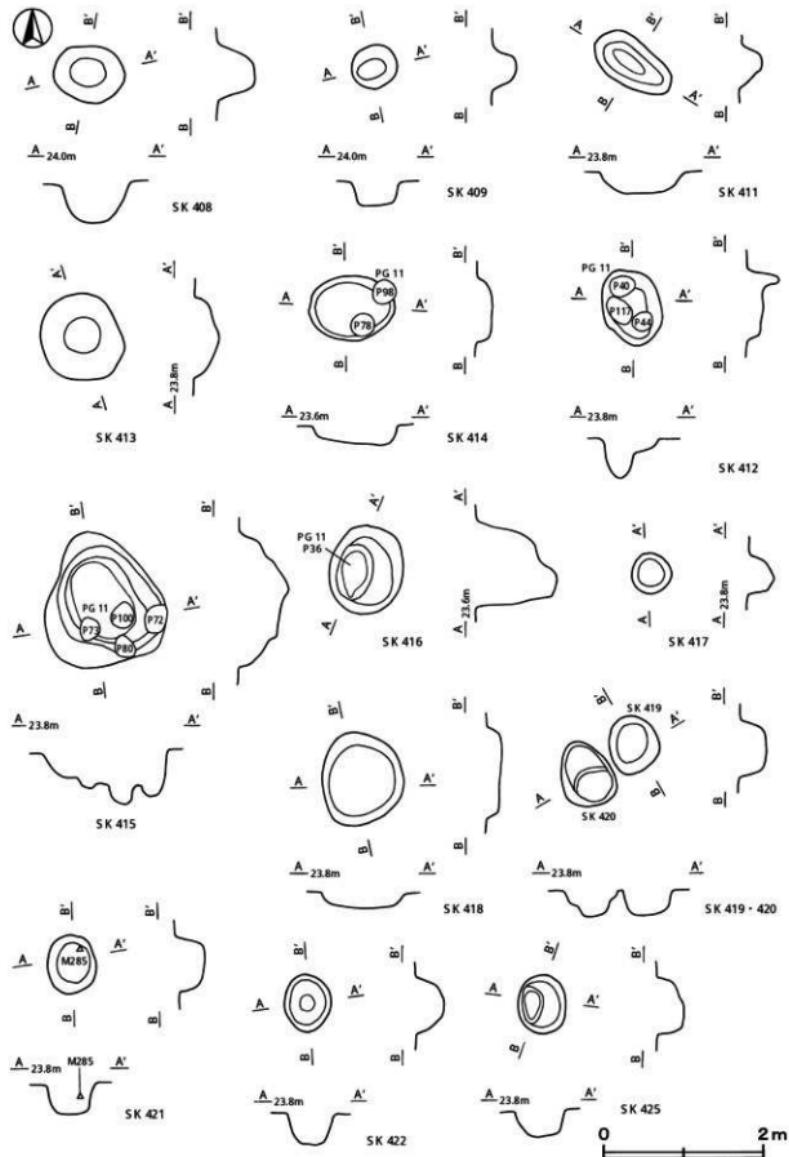
第213図 その他の土坑実測図 (4)



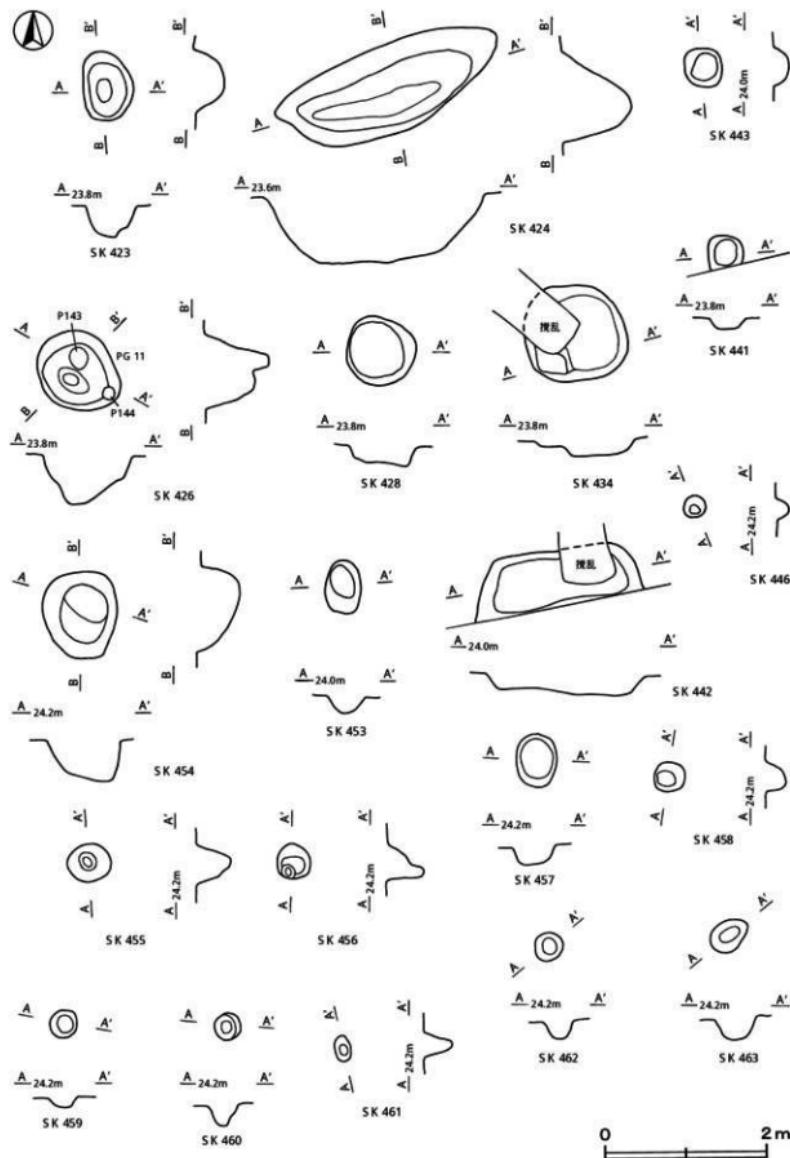
第214図 その他の土坑実測図 (5)



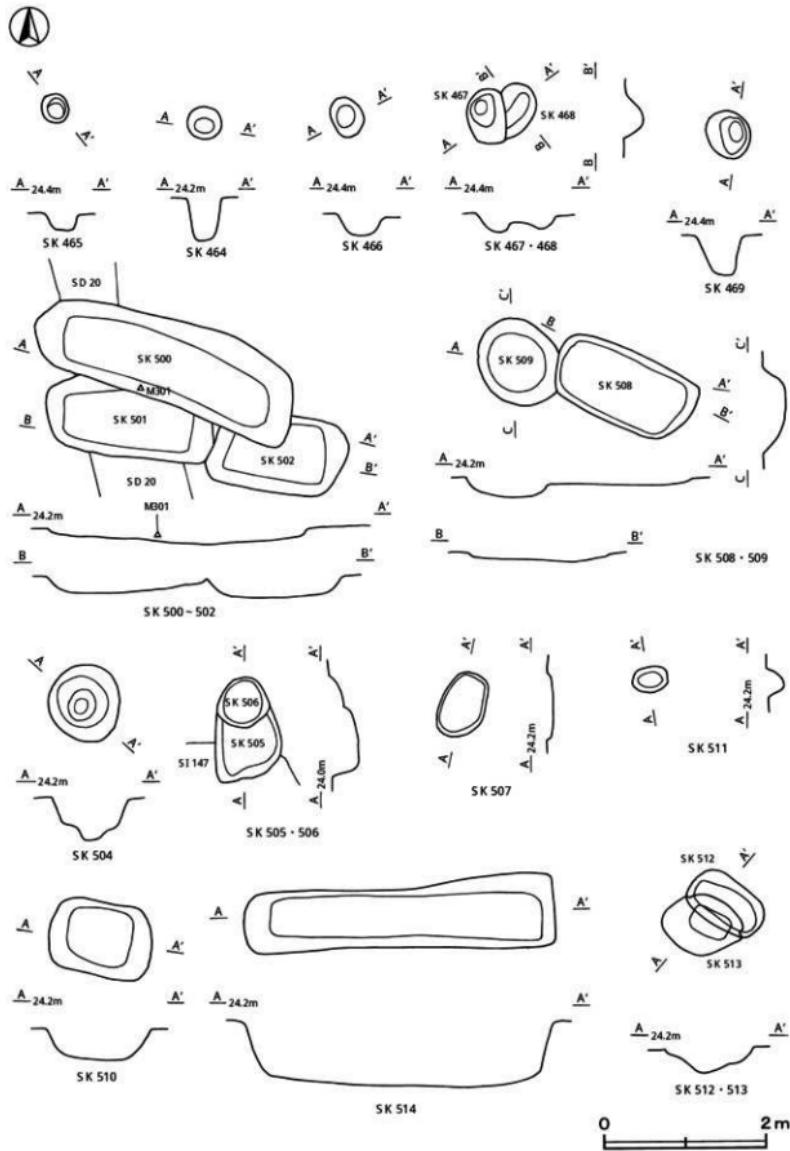
第215図 その他の土坑実測図 (6)



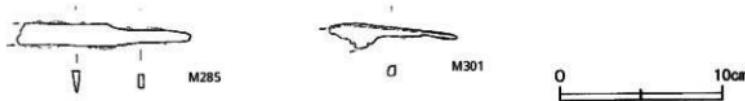
第216図 その他の土坑実測図 (7)



第217図 その他の土坑実測図 (8)



第218図 その他の土坑実測図 (9)



第219図 その他の土坑出土遺物実測図

第421号土坑出土遺物観察表 (第219図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M285	刀子	(10.6)	1.6	0.4	(16.8)	鉄	刃開カ	覆土中	PL48

第500号土坑出土遺物観察表 (第219図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M301	刀子	(7.9)	1.6	0.5	(5.7)	鉄	刃開カ	覆土中	

表16 その他の土坑一覧表

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規格		壺面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (旧→新)
				長軸(径)×短軸(径)(m)	深さ(cm)					
251	A-1 i3	N-0°	円形	1.25 × 1.15	14	縫斜	皿状	人為		S1109→本跡
254	A-2 b9	N-0°	円形	0.51 × 0.46	57	外縫	皿状	人為		
255	A-1 i4	N-0°	円形	0.83 × 0.76	47	外縫	凹凸	人為	土師器	
262	A-2 b9	N-90°	椭円形	0.48 × 0.42	18	外縫	皿状	人為		
263	A-1 i4	N-0°	椭円形	(0.85) × 0.50	58	外縫	皿状	自然		
264	A-2 c9	N-90°	椭円形	0.80 × 0.65	25	縫斜	皿状	自然		
265	A-2 b9	N-65°W	椭円形	0.95 × 0.65	25	外縫	皿状	人為		
266	A-2 b9	N-0°	円形	0.75 × 0.74	20	外縫	皿状	人為		
267	A-2 c9	N-0°	円形	0.92 × 0.92	25	外縫	皿状	人為		
268	A-2 c0	N-0°	円形	0.40 × 0.39	16	直立	凹凸	人為		
269	A-2 b0	N-0°	円形	1.05 × 1.01	15	直立	平坦	人為		
270	A-1 e4	N-0°	椭円形	0.35 × 0.30	23	直立	平坦	人為		
271	A-1 e1	N-0°	円形	0.85 × 0.78	27	外縫	平坦	自然		
272	A-1 c9	N-90°	椭円形	1.03 × 0.90	65	直立	皿状	人為		
273	A-2 c0	N-0°	円形	0.90 × 0.85	50	外縫	皿状	人為		
274	A-1 e7	N-30°W	椭円形	0.30 × 0.25	18	外縫	皿状	-	土師器	
275	A-2 c0	N-40°W	椭円形	0.67 × 0.58	34	外縫	皿状	人為		
276	A-2 e9	N-70°E	椭円形	0.75 × 0.50	23	外縫	平坦	人為		
277	A-2 c0	N-0°	円形	0.40 × 0.40	34	直立	平坦	人為		
278	A-1 i0	N-21°W	椭円形	0.48 × 0.40	50	外縫	皿状	-		
279	A-2 a9	N-63°W	椭円形	0.68 × 0.55	25	縫斜	平坦	人為		第2号調査工房跡→本跡
280	A-2 c8	N-80°E	楕円形	0.60 × 0.38	26	外縫	皿状	人為		
281	A-1 h9	N-90°E	椭円形	0.80 × 0.70	20	縫斜	皿状	自然		
283	A-2 b8	N-78°W	椭円形	1.21 × 1.08	37	外縫	平坦	人為		
284	A-2 e0	N-73°W	椭円形	1.33 × 1.00	25	外縫	皿状	自然	土師器・須恵器	
285	A-2 d9	N-80°E	椭円形	0.65 × 0.57	15	縫斜	平坦	自然		
286	A-2 d0	N-59°W	椭円形	0.46 × 0.39	20	外縫	皿状	人為		
287	A-2 c0	N-0°	円形	0.38 × 0.38	15	外縫	平坦	人為		
288	A-2 b0	N-0°	円形	0.68 × 0.63	45	外縫	皿状	人為		
296	A-2 f8	N-0°	円形	0.50 × 0.50	24	外縫	皿状	自然		
300	A-2 f8	N-44°E	椭円形	0.53 × 0.45	25	外縫	皿状	人為		
306	A-2 f9	N-62°E	椭円形	0.83 × 0.63	18	外縫	平坦	自然		
308	A-2 e9	N-0°	円形	0.48 × 0.46	28	外縫	皿状	人為		
316	A-2 f9	N-40°E	椭円形	1.68 × 1.10	71	外縫	平坦	人為		
317	A-2 g9	N-60°E	椭円形	0.65 × 0.52	28	外縫	平坦	人為		
318	A-2 g9	N-86°E	椭円形	0.45 × 0.34	15	外縫	平坦	人為		

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (旧→新)
				長軸(径)×短軸(径)(m)	深さ(cm)					
319	A-2g8	N-70° E	橢円形	0.55 × 0.48	30	外傾	平坦	人為		
320	A-2g8	N-43° W	橢円形	0.40 × 0.35	45	外傾	平坦	人為		
321	A-2g9	N-0°	円形	0.42 × 0.40	30	外傾	平坦	人為		
322	A-2h9	N-55° E	橢円形	0.90 × 0.75	20	外傾	平坦	自然		
334	A-111	N-0°	円形	0.47 × 0.45	22	外傾	圓状	自然		
342	A-112	N-70° E	橢円形	0.58 × 0.44	8	外傾	平坦	自然		
343	A-1e2	N-51° W	橢円形	0.49 × 0.38	35	外傾	圓状	自然		
345	A-1d2	N-49° W	開丸方方形	1.55 × 1.35	37	縫斜	平坦	自然	土師器・須恵器	S1103→本跡
348	Z-51B	N-28° W	不整橢円形	2.05 × 1.32	65	外傾	平坦	人為		
349	A-4d4	N-8° E	不整長方形	2.30 × 1.05	15	外傾	平坦	人為	土師器	SD-10→本跡
350	A-4c5	N-42° E	橢円形	0.80 × 0.71	33	縫斜	圓状	人為		
351	A-4c5	N-27° E	橢円形	0.69 × 0.59	35	外傾	圓状	人為		
352	A-4d6	N-0°	[円形]	1.65 × (0.59)	16	外傾	平坦	自然		本跡→SD10
353	A-4c6	N-85° W	長方形	3.93 × 1.10	58	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器・陶器	
354	A-4b6	N-39° E	橢円形	0.46 × 0.38	44	直立	圓状	人為	土師器	
355	Z-41G	N-0°	円形	1.10 × 1.09	20	外傾	平坦	自然	土師器	
356	A-4b7	N-0°	円形	0.74 × 0.71	27	外傾	平坦	自然		
357	A-4d7	N-9° E	不整橢円形	1.11 × 0.67	40	外傾	平坦	人為		
360	A-3c2	N-75° E	橢円形	1.20 × 1.03	15	縫斜	圓状	-		
361	A-3b2	N-16° E	橢円形	0.72 × 0.65	10	縫斜	圓状	人為		
364	A-3b2	N-42° W	不整橢円形	0.70 × 0.40	34	外傾	圓状	人為		
365	A-3a2	N-0°	円形	0.70 × 0.63	18	縫斜	圓状	自然		
367	A-3c2	N-10° W	橢円形	0.66 × 0.56	20	縫斜	圓状	人為		
368	Z-4j0	N-39° W	橢円形	0.88 × 0.77	15	外傾	平坦	自然	土師質土器	PG7 (新旧不明)
378	A-2b6	N-64° W	橢円形	0.82 × 0.63	19	縫斜	圓状	人為		
379	A-2b7	N-18° W	橢円形	0.86 × 0.72	24	外傾	平坦	人為	土師器	
380	A-2b8	N-45° E	橢円形	0.48 × 0.43	23	縫斜	圓状	人為		
381	A-2c6	N-61° W	橢円形	2.50 × 1.78	70	縫斜	平坦	人為		
382	A-2c7	N-19° E	橢円形	0.93 × 0.79	35	外傾	平坦	人為	土師器	
383	A-2d3	N-55° W	橢円形	0.82 × 0.70	26	外傾	平坦	人為		
384	A-2d5	N-90° E	開丸方方形	1.13 × 1.12	70	外傾	圓状	人為		
385	A-210	N-3° W	橢円形	0.74 × 0.68	30	外傾	圓状	人為		
387	A-2j8	N-0°	円形	1.29 × 1.25	52	外傾	圓状	人為		
390	B-2a5	N-7° E	[開丸長方形]	{1.60} × 1.13	45	直立	平坦	人為	土師器・須恵器	
394	A-2g1	N-0°	円形	1.22 × 1.13	30	縫斜	平坦	自然	土師器・須恵器	
399	A-2g2	N-35° W	不定形	1.82 × 1.70	30	外傾	凸凹	人為	土師器・須恵器	SB43→本跡
400	A-2i7	N-32° W	橢円形	1.79 × 0.73	67	直立	平坦	自然		本跡→SK430
402	A-2g2	N-90° E	橢円形	1.63 × 1.40	34	外傾	圓状	人為	土師器・須恵器	SB43→本跡
405	A-2g3	N-0°	円形	1.24 × 1.19	16	縫斜	平坦	人為	土師器	
406	A-2h9	N-7° E	橢円形	0.86 × 0.68	65	直立	圓状	人為		S1132→本跡
407	A-2h0	N-12° E	橢円形	0.80 × 0.62	49	直立	平坦	人為		
408	A-2h0	N-90° E	橢円形	0.86 × 0.72	46	外傾	圓状	人為	土師器	
409	A-2h0	N-39° E	橢円形	0.60 × 0.51	28	外傾	圓状	人為		
411	A-2g9	N-57° W	橢円形	1.04 × 0.58	25	外傾	平坦	人為		
412	A-2g8	N-2° W	不整橢円形	0.86 × 0.67	48	外傾	凸凹	人為		本跡→PG11
413	A-2g7	N-0°	円形	1.10 × 1.00	27	外傾	凸凹	自然	土師器・須恵器	
414	A-2f8	N-67° W	橢円形	1.05 × 0.80	18	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器	PG11
415	A-2g7	N-30° W	不定形	1.67 × 1.50	42	外傾	平坦	自然	土師器・須恵器	PG11
416	A-2g6	N-20° E	橢円形	1.07 × 0.90	98	外傾	凸凹	人為	土師器・須恵器	PG11
417	A-2f7	N-0°	円形	0.50 × 0.50	31	外傾	圓状	人為	土師器	
418	A-2e6	N-22° W	橢円形	1.13 × 1.02	18	外傾	平坦	自然	鐵文土器・土師器・須恵器	
419	A-2d7	N-14° E	橢円形	0.75 × 0.64	35	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器	
420	A-2d7	N-18° W	橢円形	0.83 × 0.65	25	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器	
421	A-2d6	N-12° W	橢円形	0.71 × 0.60	37	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器・鉄製品	
422	A-2c6	N-4° W	橢円形	0.70 × 0.60	39	外傾	圓状	人為	土師器	
423	A-2c6	N-6° W	橢円形	0.85 × 0.60	40	外傾	圓状	人為	土師器	
424	A-2f5	N-69° E	長橢円形	2.87 × 1.09	80	齊傾	圓状	自然		
425	A-2c7	N-10° W	橢円形	0.70 × 0.60	43	外傾	圓状	人為	鐵文土器・土師器・須恵器	
426	A-2d8	N-52° W	橢円形	1.12 × 0.92	63	外傾	圓状	自然	土師器・須恵器	本跡→PG11

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (日-西)
				長軸(径)×短軸(径)(m)	深さ(cm)					
428	A 2- e3	N-0°	円形	0.86 × 0.82	20	外傾	平坦	人為		
430	A 2- f7	N-11° E	不定形	2.20 × 1.98	92	外傾	平坦	人為		
434	A-2-a1	N-0°	円形	1.25 × 1.25	19	外傾	平坦	自然		
441	A-2-a3	N-0°	円形	0.50 × 0.47	15	外傾	平坦	人為		
442	A-2-a3	N-77° E	[圓丸長方形]	2.04 × (0.77)	22	外傾	平坦	人為		
443	Z-2-j3	N-0°	円形	0.49 × 0.45	17	外傾	直状	人為		
446	A-2-e5	N-0°	円形	0.30 × 0.27	15	外傾	直状	-		
453	A-3-a9	N-19° W	橢円形	0.65 × 0.45	21	外傾	直状	人為		
454	A-2-e1	N-19° W	橢円形	1.06 × 0.88	48	外傾	直状	自然		
455	A-2-f4	N-73° E	橢円形	0.53 × 0.46	41	外傾	直状	人為		
456	A-2-f3	N-0°	円形	0.44 × 0.42	46	外傾	直状	人為		
457	A-2-e2	N-6° W	橢円形	0.65 × 0.52	24	外傾	直状	人為		
458	A-2-h6	N-60° W	円形	0.39 × 0.37	28	外傾	直状	人為		
459	A-2-i2	N-0°	円形	0.36 × 0.36	12	外傾	直状	人為		
460	A-4-i2	N-0°	円形	0.34 × 0.34	30	外傾	凹凸	人為		
461	A-4-i2	N-12° W	橢円形	0.30 × 0.20	37	外傾	直状	人為		
462	A-4-b2	N-0°	円形	0.37 × 0.34	25	外傾	直状	人為		
463	A-4-b2	N-52° E	橢円形	0.48 × 0.35	27	外傾	直状	人為		
464	A-4-c2	N-0°	円形	0.43 × 0.43	57	外傾	直状	人為		
465	Z-5-h9	N-0°	円形	0.35 × 0.34	19	外傾	直状	人為	土師器	
466	Z-5-i9	N-25° W	橢円形	0.50 × 0.35	23	外傾	直状	人為		
467	Z-5-i9	N-5° W	橢円形	0.69 × 0.45	34	外傾	直状	人為	須恵器	SK468→本跡
468	Z-5-i9	N-40° E	橢円形	(0.47) × 0.46	22	外傾	直状	人為		本跡→SK467
469	Z-5-h0	N-0°	円形	0.58 × 0.56	47	外傾	直状	人為		
500	Z-5-g3	N-68° W	長方形	3.36 × 1.10	18	縫斜	平坦	人為	鉄製品	S028-SK501-SK502+本跡
501	Z-5-g3	N-89° W	[長方形]	2.10 × (0.86)	21	縫斜	平坦	人為	土師器	SD20→本跡→SK500
502	Z-5-g3	N-80° W	長方形	1.60 × 0.96	26	縫斜	平坦	人為	土師器	本跡→SK500
504	Z-5-g6	N-0°	円形	0.94 × 0.87	51	外傾	凹凸	人為	陶器	
505	Z-5-j1	N-38° W	不定形	0.96 × 0.84	31	外傾	平坦	人為		S1147→本跡→SK506
506	Z-5-i1	N-0°	円形	0.63 × 0.60	17	縫斜	直状	人為		S1147→SK505→本跡
507	Z-5-i2	N-29° E	圓丸長方形	0.83 × 0.57	8	縫斜	平坦	人為	土師器・陶器	
508	Z-5-g4	N-63° W	[長方形]	(1.29) × 0.92	8	縫斜	平坦	人為	土師器・磁器	SK509→本跡
509	Z-5-g4	N-48° W	[橢円形]	1.14 × 0.95	26	外傾	直状	人為	陶器	本跡→SK508
510	A-5-b2	N-78° E	圓丸長方形	1.27 × 0.88	35	外傾	平坦	人為	土師器	
511	A-5-a7	N-71° E	橢円形	0.46 × 0.32	23	外傾	直状	人為	土師器・須恵器・玉器	
512	Z-5-f2	N-68° W	圓丸長方形	1.00 × 0.57	16	縫斜	直状	人為		SK513→本跡
513	Z-5-g2	N-61° W	[橢円形]	0.82 × 0.50	30	縫斜	平坦	人為	土師器・陶器・磁器	本跡→SK512
514	Z-5-h6	N-88° E	長方形	3.85 × 0.75	80	外傾	平坦	人為	陶器	

(5) ピット群

第1号ピット群(第220図)

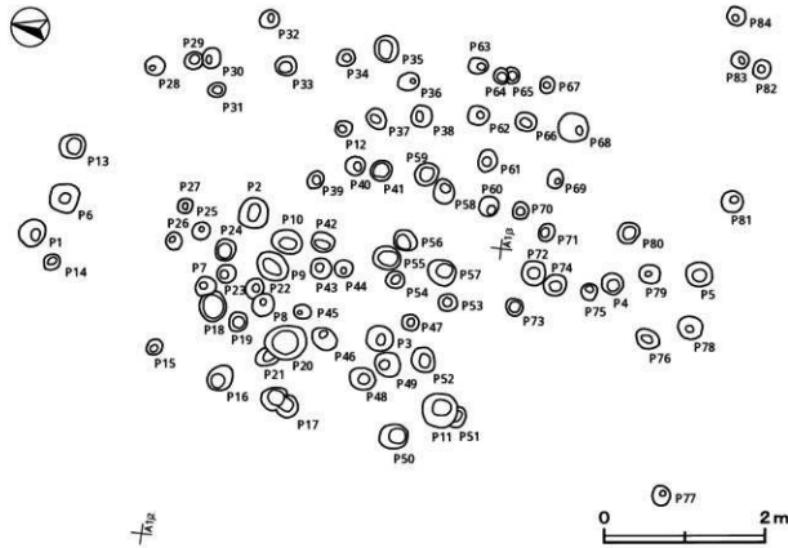
位置 調査区東部のA 1 h2 ~ A 1 j3区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南北9.00m, 東西5.50mの長方形の範囲にピット84か所が確認された。形状は径13~50cmの円形または橢円形である。深さは3~46cmで, 断面形はU字型である。

覆土 柱の抜き取り痕などは確認できず, 暗褐色土または黒褐色土で綿まりが弱い。

遺物出土状況 土師器片17点(坏4, 高台付坏1, 瓦12), 須恵器片4点(坏2, 瓦2), 陶器片2点(碗)が出土しているが, いずれも細片で図示できない。

所見 配置に規則性がなく, 性格は不明である。時期は, 出土土器が流れ込みのため不明である。



第220図 第1号ピット群実測図

第1号ピット群ピット一覧表

ピット番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
1	円形	34	29	28
2	円形	36	33	33
3	円形	33	31	34
4	円形	26	25	18
5	円形	32	28	25
6	円形	38	35	22
7	円形	25	25	28
8	円形	30	28	14
9	円形	43	33	39
10	円形	38	28	8
11	円形	41	38	45
12	円形	20	18	20
13	円形	33	30	10
14	円形	20	19	6
15	円形	20	20	13
16	円形	35	30	7
17	楕円形	50	30	4
18	円形	40	33	36
19	円形	28	23	18
20	円形	45	45	28
21	{円形}	34	(30)	15
22	円形	27	23	18
23	円形	25	23	40
24	円形	26	23	15
25	円形	24	21	37

ピット番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
26	円形	20	20	19
27	円形	20	17	8
28	円形	22	20	46
29	円形	23	20	28
30	円形	28	24	23
31	円形	20	18	22
32	円形	26	21	32
33	円形	24	23	18
34	円形	22	20	21
35	円形	33	27	10
36	円形	25	23	45
37	円形	27	22	19
38	円形	28	23	38
39	円形	23	18	20
40	円形	27	23	25
41	円形	28	25	32
42	円形	26	22	15
43	円形	26	22	17
44	円形	23	23	12
45	円形	20	20	13
46	円形	33	27	14
47	円形	23	18	6
48	円形	30	25	17
49	円形	31	28	20
50	円形	37	30	9

ピット番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
51	{円形}	28	(13)	15
52	円形	30	25	14
53	円形	23	20	15
54	円形	22	18	19
55	円形	32	27	10
56	円形	28	25	3
57	円形	36	33	14
58	円形	31	26	34
59	円形	30	28	31
60	円形	25	25	13
61	円形	25	21	45
62	円形	25	25	40
63	円形	23	20	34
64	円形	18	18	15
65	{円形}	20	(13)	6
66	円形	26	25	22
67	円形	23	20	28
68	円形	35	35	30
69	円形	23	20	27
70	円形	22	22	22
71	円形	22	20	23
72	円形	30	29	43
73	円形	22	20	27
74	円形	32	26	19
75	円形	22	20	12

ピット番号	形状	規格(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
76	円形	30	26	17
77	円形	24	19	20
78	円形	30	29	17

ピット番号	形状	規格(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
79	円形	34	22	7
80	円形	26	26	3
81	円形	27	25	8

ピット番号	形状	規格(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
82	円形	24	19	35
83	円形	23	20	13
84	円形	23	18	40

第2号ピット群(第221図)

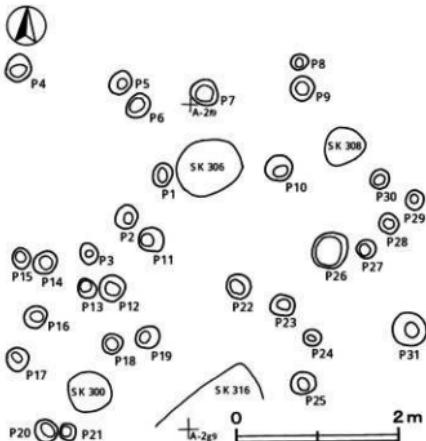
位置 調査区中央部のA-2fb~A-2g9区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第300・306・308・316号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 東西6m, 南北4.5mの長方形の範囲にピット31か所が確認された。形状は径18~48cmの円形である。深さは11~36cmで, 断面形はU字状である。

覆土 柱の抜き取り痕などは確認できず, 褐色土または暗褐色土で綺まりが弱い。

所見 配置に規則性がなく, 性格は不明である。時期は出土土器がないため不明である。



第221図 第2号ピット群実測図

第2号ピット群ピット一覧表

ピット番号	形状	規格(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
1	円形	29	24	21
2	円形	30	28	18
3	円形	25	20	20
4	円形	33	28	17
5	円形	30	26	24
6	円形	30	27	19
7	円形	34	30	17
8	円形	21	18	21
9	円形	32	28	19
10	円形	33	28	29
11	円形	33	28	20

ピット番号	形状	規格(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
12	円形	32	30	21
13	円形	24	21	20
14	円形	28	24	20
15	円形	28	24	21
16	円形	28	26	22
17	円形	29	26	21
18	円形	25	23	14
19	円形	27	26	14
20	円形	28	27	22
21	円形	23	22	19
22	円形	30	27	16

ピット番号	形状	規格(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
23	円形	33	29	16
24	円形	23	20	19
25	円形	32	27	36
26	円形	46	43	11
27	円形	23	22	13
28	円形	25	23	14
29	円形	23	23	14
30	円形	25	24	22
31	円形	41	38	22

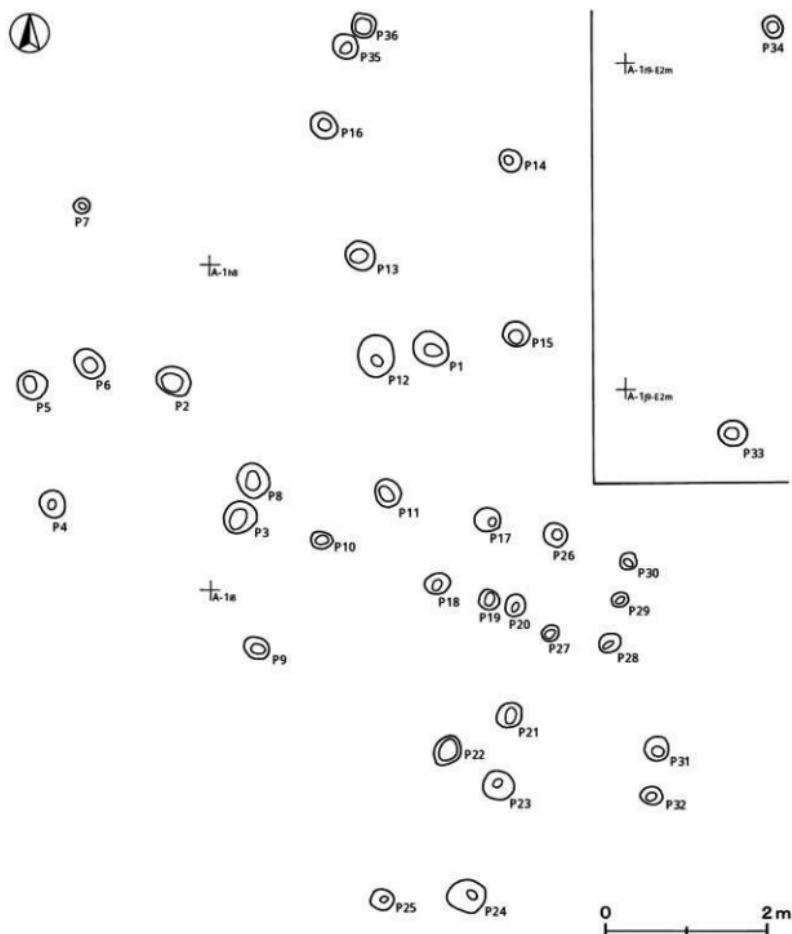
第3号ピット群(第222図)

位置 調査区中部のA-1g7~A-1j9区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南北11m, 東西10mの長方形の範囲にピット36か所が確認された。形状は径18~51cmの円形である。深さは8~64cmで, 断面形はU字状である。

覆土 柱の抜き取り痕などは確認できず、暗褐色土または黒褐色土で縦まりが弱い。

所見 配置に規則性がなく、性格は不明である。時期は、出土土器がないため不明である。



第222図 第3号ピット群実測図

第3号ピット群ピット一覧表

ピット 番号	形状	規模(cm)			ピット 番号	形状	規模(cm)			ピット 番号	形状	規模(cm)		
		長軸(往)	短軸(往)	深さ			長軸(往)	短軸(往)	深さ			長軸(往)	短軸(往)	深さ
1	円形	45	38	32	4	円形	33	30	24	7	円形	20	18	9
2	円形	42	35	25	5	円形	36	36	31	8	円形	45	38	28
3	円形	45	38	27	6	円形	36	36	30	9	円形	31	28	11

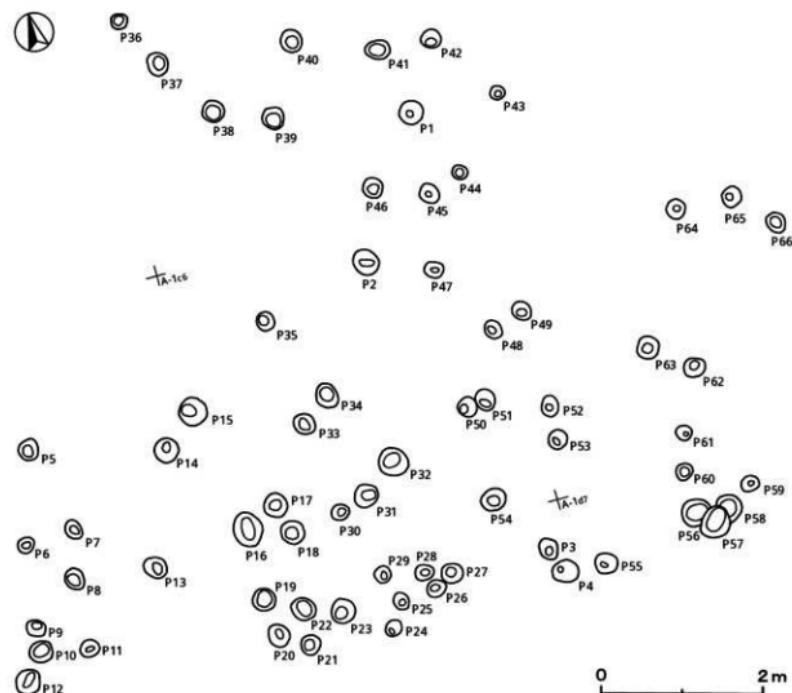
ピット 番号	形状	規格(cm)			ピット 番号	形状	規格(cm)			ピット 番号	形状	規格(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ
10	円形	27	24	14	19	円形	26	23	10	28	円形	31	22	15
11	円形	37	32	23	20	円形	28	25	23	29	円形	23	18	16
12	円形	51	48	22	21	円形	35	30	42	30	円形	20	20	13
13	円形	37	34	18	22	円形	40	34	24	31	円形	30	28	18
14	円形	30	23	14	23	円形	36	36	28	32	円形	26	22	8
15	円形	33	32	20	24	円形	46	44	64	33	円形	35	34	46
16	円形	35	30	31	25	円形	28	28	25	34	円形	26	22	21
17	円形	33	32	37	26	円形	28	28	26	35	円形	31	26	-
18	円形	30	25	18	27	円形	22	18	23	36	円形	30	30	-

第4号ピット群 (第223図)

位置 調査区中部のA-1b5 ~ A-1d7区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 東西11m、南北8.5mの長方形の範囲にピット66か所が確認された。形状は径17 ~ 43cmの円形である。深さは9 ~ 63cmで、断面形はU字型である。

覆土 柱の抜き取り痕などは確認できず、暗褐色土または黒褐色土で締まりが弱い。



第223図 第4号ピット群実測図

遺物出土状況 土師器片2点(坏, 模), 須恵器片1点(模), 瓦質土器片1点(不明)が各ビットから出土している。

所見 配置に規則性がなく, 性格は不明である。時期は, 出土土器が流れ込みのため不明である。

第4号ビット群ビット一覧表

ビット番号	形状	規格(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
1	円形	31	28	28
2	円形	31	31	29
3	円形	28	24	46
4	円形	30	25	24
5	円形	26	23	21
6	円形	22	18	28
7	円形	26	23	24
8	円形	28	25	37
9	円形	24	20	19
10	円形	28	28	17
11	円形	25	22	27
12	円形	32	30	16
13	円形	28	27	16
14	円形	32	32	14
15	円形	36	33	25
16	円形	43	35	37
17	円形	29	29	22
18	円形	27	26	18
19	円形	29	25	21
20	円形	28	25	20
21	円形	25	23	13
22	円形	30	28	18

ビット番号	形状	規格(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
23	円形	30	30	24
24	円形	20	18	20
25	円形	23	18	18
26	円形	25	20	32
27	円形	26	24	30
28	円形	23	18	20
29	円形	20	17	24
30	円形	23	18	25
31	円形	31	26	16
32	円形	35	33	21
33	円形	25	25	10
34	円形	30	27	30
35	円形	23	23	14
36	円形	21	18	12
37	円形	28	24	13
38	円形	30	25	16
39	円形	30	27	14
40	円形	26	25	16
41	円形	30	25	10
42	円形	26	25	15
43	円形	19	27	12
44	円形	18	18	18

ビット番号	形状	規格(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
45	円形	25	25	24
46	円形	27	25	20
47	円形	25	21	27
48	円形	24	21	16
49	円形	24	24	10
50	円形	26	22	22
51	円形	25	25	17
52	円形	26	22	33
53	円形	25	21	20
54	円形	30	26	19
55	円形	26	25	25
56	円形	34	32	16
57	円形	37	30	25
58	[円形]	(36)	33	22
59	円形	22	18	28
60	円形	20	18	9
61	円形	20	17	36
62	円形	26	22	12
63	円形	27	25	63
64	円形	25	23	11
65	円形	25	21	25
66	円形	25	23	14

第5号ビット群(第224図)

位置 調査区西部のA-3d1~A-3f4区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 東西12.6m, 南北7.6mの長方形の範囲にビット21か所が確認された。形状は径15~55cmの円形または, 橢円形である。深さは14~102cmで, 断面形はU字状である。

覆土 柱の抜き取り痕などは確認できず, 暗褐色土または黒褐色土で締まりが弱い。

遺物出土状況 土師器片1点(坏), 須恵器片1点(坏)が出土しているが, いずれも細片で図示できない。

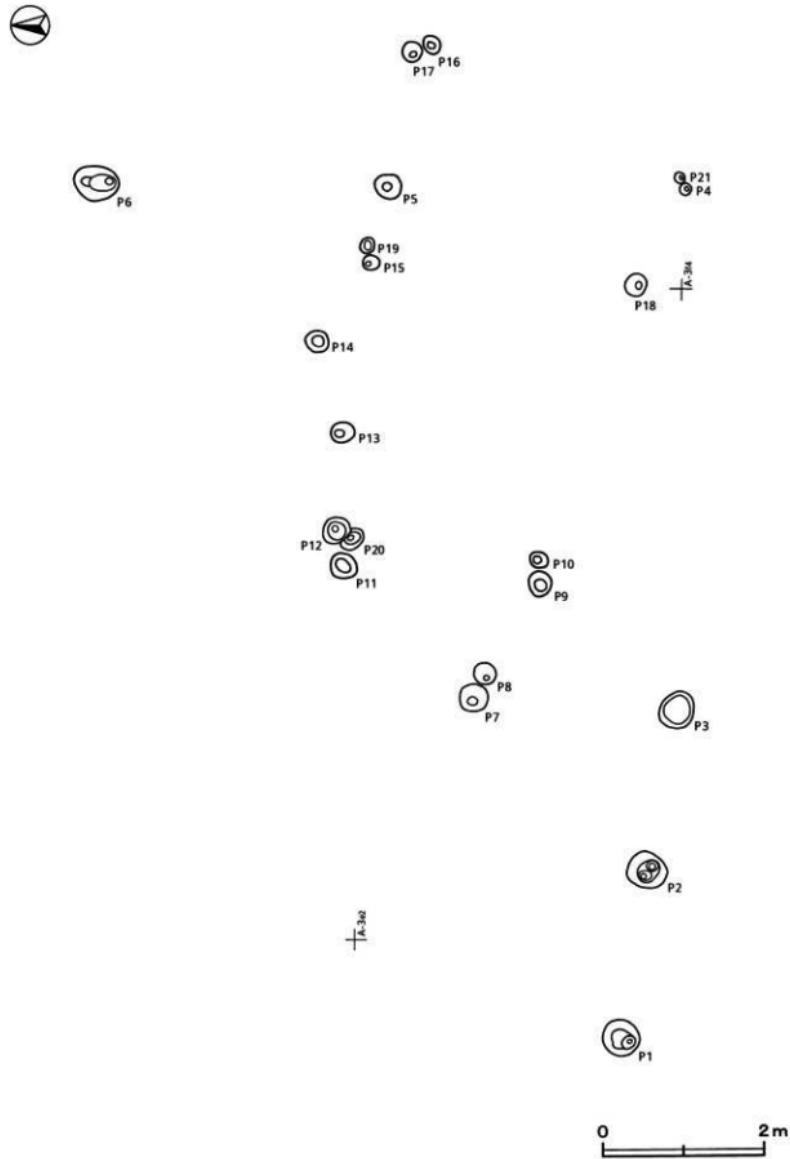
所見 配置に規則性がなく, 性格は不明である。時期は, 出土土器が流れ込みのため不明である。

第5号ビット群ビット一覧表

ビット番号	形状	規格(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
1	円形	45	45	50
2	円形	46	45	35
3	円形	45	40	43
4	円形	15	15	80
5	円形	34	28	64
6	楕円形	55	43	102
7	円形	38	36	32

ビット番号	形状	規格(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
8	円形	28	23	22
9	円形	30	30	31
10	円形	20	20	31
11	円形	35	29	16
12	円形	35	33	66
13	円形	28	25	38
14	円形	27	27	14

ビット番号	形状	規格(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
15	円形	20	18	58
16	円形	32	25	46
17	円形	32	27	34
18	円形	32	30	44
19	円形	20	20	22
20	[円形]	32	(20)	33
21	円形	15	15	73



第224図 第5号ピット群実測図

第9号ピット群（第225図）

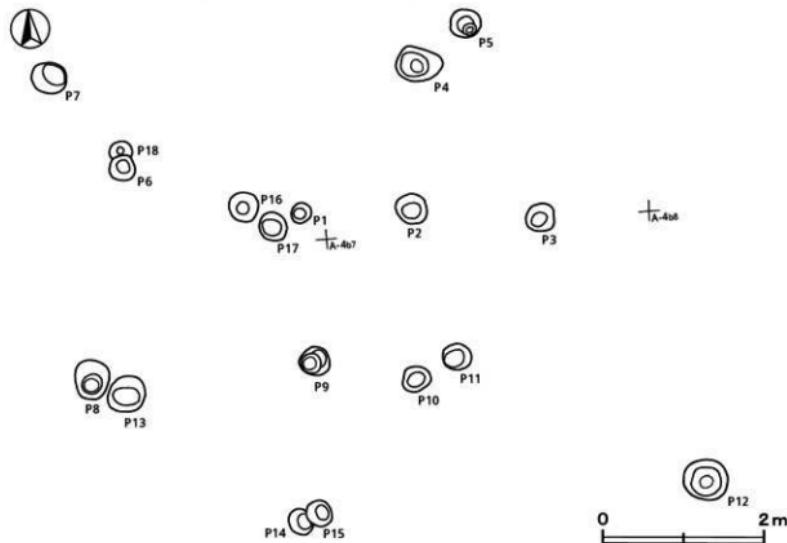
位置 調査区西部のA-4a6～A-4b8区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 東西8.5m，南北6mの長方形の範囲にピット18か所が確認された。形状は径15～57cmの円形である。深さは30～58cmで，断面形はU字状である。

覆土 柱の抜き取り痕などは確認できず，暗褐色土または黒褐色土で縫まりが弱い。

遺物出土状況 土器片4点（坏1，甕3），須恵器片1点（甕），陶器片1点（不明）が出土しているが，いずれも細片で図示できない。

所見 配置に規則性がなく，性格は不明である。時期は，出土土器が流れ込みのため不明である。



第225図 第9号ピット群実測図

第9号ピット群ピット一覧表

ピット番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
1	円形	25	25	48
2	円形	40	38	46
3	円形	36	36	32
4	円形	57	52	50
5	円形	40	37	-
6	円形	33	30	30

ピット番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
7	円形	42	40	58
8	円形	47	43	58
9	円形	38	35	55
10	円形	35	29	48
11	円形	37	33	40
12	円形	53	48	34

ピット番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
13	円形	50	43	45
14	[円形]	30	(26)	40
15	円形	33	32	45
16	円形	35	35	34
17	円形	37	34	50
18	[円形]	25	(15)	30

第10号ピット群（第226図）

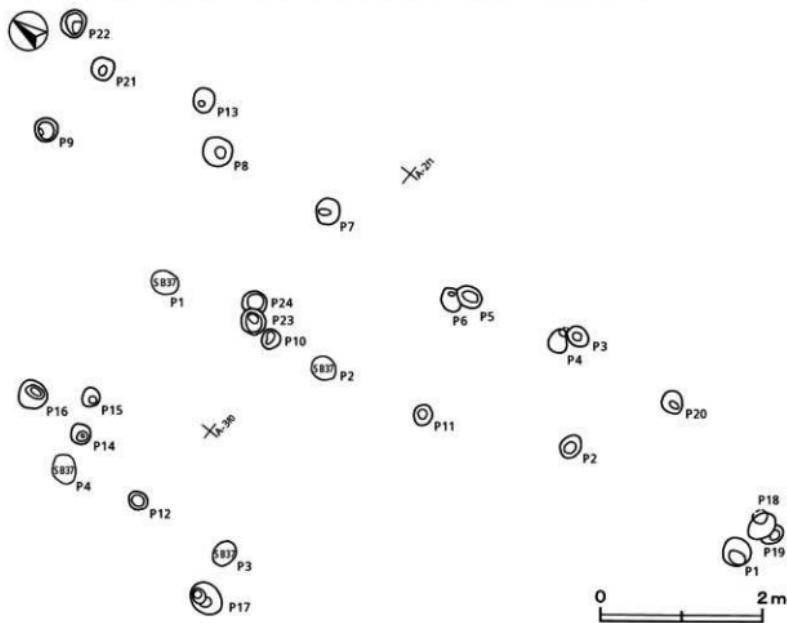
位置 調査区西部のA-3e9～A-3g0区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第37号掘立柱建物跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 南北11m、東西6mの長方形の範囲にピット24か所が確認された。形状は径15~42cmの円形である。深さは7~63cmで、断面形はU字状である。

覆土 柱の抜き取り痕などは確認できず、暗褐色土または黒褐色土で縁まりが弱い。

所見 配置に規則性がなく、性格は不明である。時期は、出土土器がないため不明である。



第226図 第10号ピット群実測図

第10号ピット群ピット一覧表

ピット 番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
1	円形	38	33	53
2	円形	30	25	41
3	円形	24	22	27
4	円形	31	25	53
5	円形	30	25	26
6	[円形]	28	(20)	49
7	円形	33	30	43
8	円形	36	35	62

ピット 番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
9	円形	31	25	47
10	円形	23	20	37
11	円形	26	22	22
12	円形	23	20	7
13	円形	31	26	57
14	円形	27	25	47
15	円形	15	25	53
16	円形	37	33	37

ピット 番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
17	円形	42	39	36
18	円形	36	29	63
19	[円形]	26	(15)	44
20	円形	28	24	25
21	円形	29	26	29
22	円形	36	30	27
23	円形	23	29	24
24	[円形]	29	(22)	19

第11号ピット群(第227図)

位置 調査区東部のA 1b0~B 2a0区、標高24mの平坦な台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第132号住居跡、第16号溝跡、第412・426号土坑を掘り込み、第134~140号住居跡、第38~40・43~48・50号掘立柱建物跡、第4・5号井戸跡、第385・387・390・394・398・400~402・405~409・411・413

- 425・427～430号土坑と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と形状 東西48m, 南北38mの長方形の範囲にピット156か所が確認された。形状は径13～94cmの円形または、楕円形である。深さは8～99cmで、断面形はU字状または逆台形状である。

覆土 柱の抜き取り痕などは確認できず、暗褐色土または黒褐色土で締まりが弱い。

遺物出土状況 土師器片53点(坏6, 瓦47), 須恵器片13点(坏10, 瓦3), 土製品1点(不明)が出土しているが、いずれも細片で図示できない。

所見 配置に規則性がなく、性格は不明である。時期は、出土土器が流れ込みのため不明である。

第11号ピット群ピット一覧表

ピット番号	形状	規模(cm)			ピット番号	形状	規模(cm)			ピット番号	形状	規模(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ			長軸(径)	短軸(径)	深さ
1	円形	55	46	40	67	楕円形	50	41	53	113	円形	30	25	55
2	円形	34	31	39	68	楕円形	86	58	59	114	円形	30	25	43
3	【楕円形】	38	(23)	85	69	円形	50	45	50	115	円形	38	35	42
4	円形	60	56	82	70	円形	45	40	46	116	楕円形	37	22	50
5	円形	65	61	44	71	円形	37	35	51	117	楕円形	(40)	(26)	40
6	円形	61	61	73	72	楕円形	40	29	77	118	楕円形	23	18	20
7	円形	40	40	35	73	円形	27	27	27	119	楕円形	30	20	56
8	円形	53	45	38	74	円形	37	32	85	120	円形	43	38	41
17	円形	63	62	71	75	円形	94	80	51	121	円形	33	30	39
20	円形	62	60	53	76	楕円形	56	44	76	122	円形	38	34	58
21	【楕円形】	55	(39)	49	77	円形	39	33	60	123	円形	37	35	27
22	楕円形	76	55	30	78	円形	29	29	40	124	円形	45	40	65
23	円形	56	53	63	79	楕円形	41	31	70	125	【楕円形】	28	(13)	68
24	楕円形	54	44	26	80	楕円形	33	25	39	126	【楕円形】	40	(19)	21
25	円形	45	43	64	81	円形	33	29	84	127	円形	38	34	48
26	円形	37	34	34	82	円形	33	28	56	128	楕円形	27	22	37
33	円形	34	30	22	83	楕円形	45	33	52	129	円形	24	22	59
34	円形	40	40	38	84	円形	31	30	16	130	楕円形	28	18	46
36	円形	44	42	99	85	円形	36	33	68	131	円形	32	30	75
37	円形	37	33	29	86	円形	32	30	42	132	円形	28	26	29
38	楕円形	40	23	40	87	円形	32	28	38	133	円形	13	50	57
39	楕円形	25	20	61	88	円形	35	24	28	134	楕円形	44	34	26
40	楕円形	33	24	53	90	円形	25	23	31	135	楕円形	37	30	32
41	楕円形	37	28	76	91	円形	33	30	24	136	円形	26	25	34
42	楕円形	60	42	38	92	円形	30	28	29	137	円形	40	35	54
43	楕円形	43	35	38	93	楕円形	42	34	37	138	楕円形	35	25	24
44	楕円形	30	23	58	94	円形	32	30	34	139	円形	40	34	19
45	円形	45	39	74	95	円形	27	26	37	140	円形	28	28	41
46	円形	23	23	83	96	円形	30	28	54	141	円形	31	27	65
47	円形	22	20	56	97	円形	31	29	54	142	楕円形	45	33	24
48	円形	33	31	51	98	円形	33	28	40	143	円形	27	24	80
49	円形	36	35	24	99	円形	46	47	69	144	円形	17	17	45
50	楕円形	35	27	47	100	円形	32	30	47	145	円形	49	44	44
51	円形	45	39	44	101	円形	33	30	25	146	楕円形	31	25	14
52	円形	40	35	49	102	【楕円形】	43	(35)	58	147	楕円形	40	25	21
53	円形	32	32	42	103	楕円形	42	33	41	148	円形	28	25	21
54	円形	37	33	23	104	【楕円形】	45	(29)	69	150	円形	34	30	31
55	楕円形	44	32	45	105	円形	22	20	44	151	楕円形	54	43	27
56	楕円形	45	35	42	106	円形	20	20	49	152	円形	24	22	14
57	円形	32	30	74	107	円形	33	28	59	153	円形	24	23	47
58	円形	42	40	97	108	円形	50	45	41	154	楕円形	28	23	40
59	楕円形	39	22	35	109	円形	24	23	45	155	円形	25	22	16
60	楕円形	30	21	32	110	円形	27	24	25	156	円形	29	25	20
61	楕円形	75	60	90	111	円形	38	34	55	157	円形	21	19	16
66	円形	43	43	27	112	円形	28	25	30	160	円形	25	23	28



第227図 第11号ピット群実測図

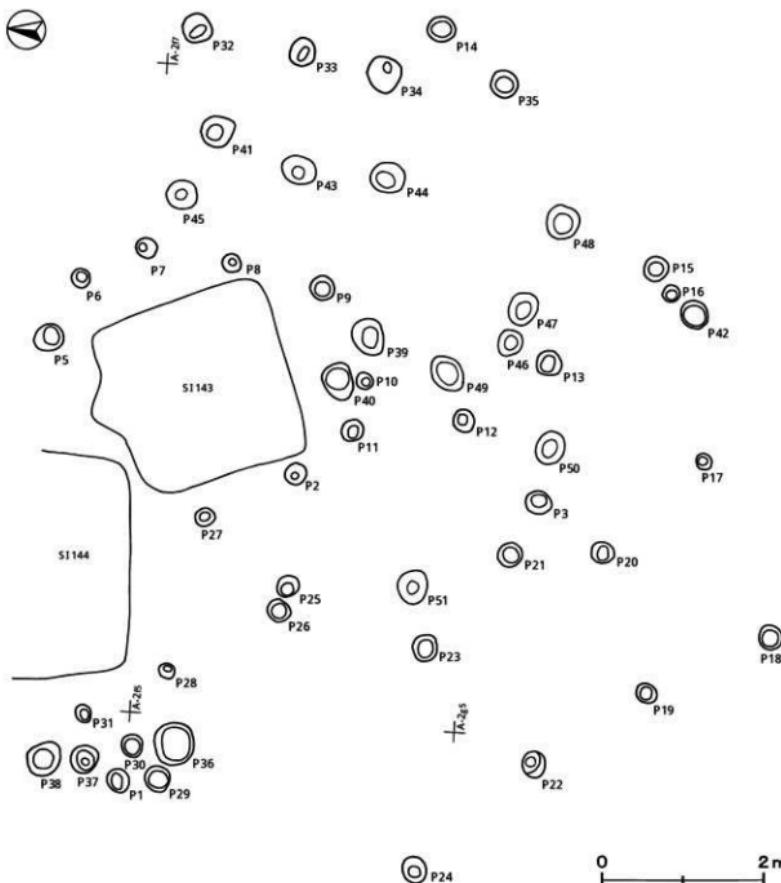
ピット 番号	形状	規格(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
161	円形	30	30	27
163	円形	25	24	18
164	円形	23	22	24
166	円形	24	22	20
167	円形	21	21	13
168	円形	20	19	19
169	円形	22	19	16

ピット 番号	形状	規格(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
170	橢円形	55	30	17
171	円形	42	37	47
172	橢円形	41	32	22
173	橢円形	64	53	81
174	円形	38	32	39
175	円形	41	36	36
176	円形	40	40	61

ピット 番号	形状	規格(cm)		
		長軸(径)	短軸(径)	深さ
177	円形	48	40	71
178	円形	39	38	41
179	橢円形	75	61	8
180	橢円形	65	45	49
181	橢円形	78	64	14
182	橢円形	69	59	24
183	橢円形	70	60	15

第13号ピット群 (第228図)

位置 調査区中部の A-2e4~A-2g7区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。



第228図 第13号ピット群実測図

重複関係 第143・144号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 東西11m、南北9.5mの長方形の範囲にピット50か所が確認された。形状は径18~53cmの円形または、楕円形である。深さは4~30cmで、断面形はU字形である。

覆土 柱の抜き取り痕などは確認できず、暗褐色土または黒褐色土で縫まりが弱い。

所見 配置に規則性がなく、性格は不明である。時期は、出土土器がないため不明である。

第13号ピット群ピット一覧表

ピット 番号	形状	規模(cm)		
		長軸(往)	短軸(往)	深さ
1	円形	30	25	21
2	円形	28	23	30
3	円形	30	28	17
5	円形	38	33	14
6	円形	25	23	5
7	円形	25	23	16
8	円形	24	23	7
9	円形	33	28	13
10	円形	20	20	7
11	円形	29	25	8
12	円形	31	26	8
13	円形	32	30	16
14	円形	34	33	13
15	円形	32	29	17
16	円形	26	22	10
17	円形	22	20	14
18	円形	30	28	4

ピット 番号	形状	規模(cm)		
		長軸(往)	短軸(往)	深さ
19	円形	27	23	10
20	円形	29	25	19
21	円形	30	30	5
22	円形	32	27	19
23	円形	34	29	14
24	円形	34	30	24
25	円形	28	26	12
26	円形	30	26	7
27	円形	23	22	22
28	円形	20	18	13
29	円形	32	32	14
30	円形	28	27	9
31	円形	22	18	12
32	円形	40	35	15
33	円形	37	33	14
34	円形	40	40	23
35	円形	36	36	16

ピット 番号	形状	規模(cm)		
		長軸(往)	短軸(往)	深さ
36	円形	53	45	13
37	円形	39	35	19
38	円形	45	40	18
39	円形	48	40	17
40	円形	43	35	8
41	円形	38	36	21
42	円形	37	36	8
43	楕円形	45	34	24
44	円形	43	41	20
45	円形	39	37	23
46	円形	33	30	14
47	楕円形	41	33	15
48	円形	44	42	18
49	楕円形	49	38	13
50	楕円形	42	34	13
51	円形	37	37	22

第14号ピット群(第229図)

位置 調査区中央部のA 1j5~B 1a6区、標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 ピット3か所が確認された。形状は径33~45cmの円形である。深さは28~35cmで、断面形はU字形である。

覆土 柱の抜き取り痕などは確認できず、暗褐色土または黒褐色土で縫まりが弱い。

遺物出土状況 土師質土器片5点(鍋類)、鉄製品1点(不明)が出土しているが、いずれも細片で図示できない。

所見 直線的に並んでいるが、性格は不明である。時期は、出土土器が流れ込みのため不明である。



第229図 第14号ピット群実測図

第14号ピット群ピット一覧表

ピット 番号	形状	規模(cm)		
		長軸(往)	短軸(往)	深さ
1	円形	45	41	33

ピット 番号	形状	規模(cm)		
		長軸(往)	短軸(往)	深さ
2	円形	40	39	28

ピット 番号	形状	規模(cm)		
		長軸(往)	短軸(往)	深さ
3	円形	37	33	35

第15号ピット群 (第230図)

位置 調査区中央部のA-1g0~A-1i0区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 ピット 4か所が確認された。形状は径24~32cmの円形である。深さは16~32cmで、断面形はU字状である。

覆土 柱の抜き取り痕などは確認できず、暗褐色土または黒褐色土で綺まりが弱い。

所見 直線的に並んでいるが、性格は不明である。時期は、出土土器がないため不明である。



第230図 第15号ピット群実測図

第15号ピット群ピット一覧表

ピット番号	形状	規模(cm)		
		長軸(往)	短軸(往)	深さ
1	円形	32	31	23
2	円形	28	27	16

ピット番号	形状	規模(cm)		
		長軸(往)	短軸(往)	深さ
3	円形	30	26	20
4	円形	27	24	32

第16号ピット群 (第231図)

位置 調査区中央部のA-1b8~A-1b9区, 標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 ピット 3か所が確認された。形状は径38~46cmの円形である。深さは27~49cmで、断面形はU字状である。

覆土 柱の抜き取り痕などは確認できず、暗褐色土または黒褐色土で綺まりが弱い。

遺物出土状況 土師器片8点(坏1, 横7), 須恵器片3点(横)が出土しているが、いずれも細片で図示できない。

所見 直線的に並んでいるが、性格は不明である。時期は、出土土器が流れ込みのため不明である。



第231図 第16号ピット群実測図

第16号ピット群ピット一覧表

ピット番号	形状	規模(cm)		
		長軸(往)	短軸(往)	深さ
1	円形	40	38	27

ピット番号	形状	規模(cm)		
		長軸(往)	短軸(往)	深さ
2	円形	46	43	49

ピット番号	形状	規模(cm)		
		長軸(往)	短軸(往)	深さ
3	円形	45	42	42

第17号ピット群（第232図）

位置 調査区中央部のA-1c5～A-1c6区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 ピット3か所が確認された。形状は径30～48cmの円形である。深さは8～37cmで，断面形はU字状である。

覆土 柱の抜き取り痕などは確認できず，暗褐色土または黒褐色土で縫まりが弱い。

遺物出土状況 須恵器片1点（坏）が出土しているが，細片で図示できない。

所見 直線的に並んでいるが，性格は不明である。時期は，出土土器が流れ込みのため不明である。



第232図 第17号ピット群実測図

第17号ピット群ピット一覧表

ピット 番号	形状	規模(cm)			ピット 番号	形状	規模(cm)			ピット 番号	形状	規模(cm)		
		長軸(往)	短軸(往)	深さ			長軸(往)	短軸(往)	深さ			長軸(往)	短軸(往)	深さ
1	円形	30	30	8	2	円形	33	30	37	3	円形	48	42	10

第18号ピット群（第233図）

位置 調査区中央部のA-2f2～A-2f3区，標高24mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 ピット3か所が確認された。形状は径23～32cmの円形または，横円形である。深さは15～32cmで，断面形はU字状である。

覆土 柱の抜き取り痕などは確認できず，暗褐色土または黒褐色土で縫まりが弱い。

遺物出土状況 土師器片11点（坏5，甕6），須恵器片1点（楕）が出土しているが，いずれも細片で図示できない。

所見 直線的に並んでいるが，性格は不明である。

時期は，出土土器が流れ込みのため不明である。

第233図 第18号ピット群実測図

第18号ピット群ピット一覧表

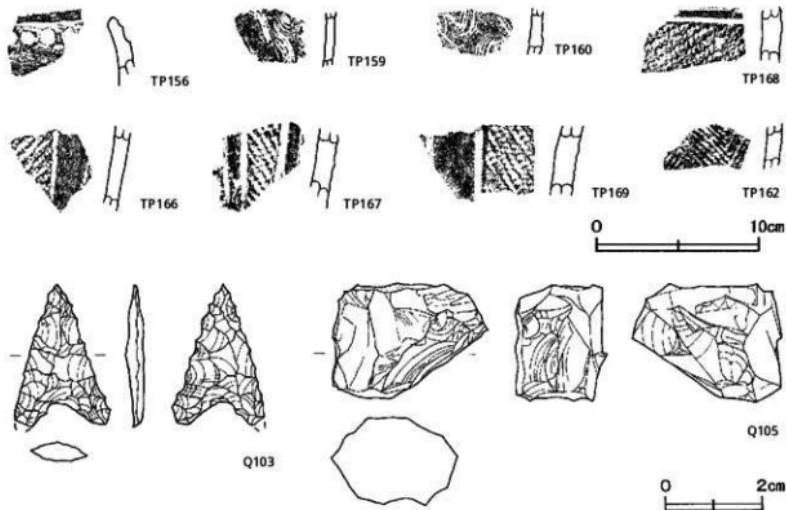
ピット 番号	形状	規模(cm)			ピット 番号	形状	規模(cm)			ピット 番号	形状	規模(cm)		
		長軸(往)	短軸(往)	深さ			長軸(往)	短軸(往)	深さ			長軸(往)	短軸(往)	深さ
1	椭円形	32	23	32	2	椭円形	31	25	18	3	円形	32	32	15

表17 その他のピット群一覧表

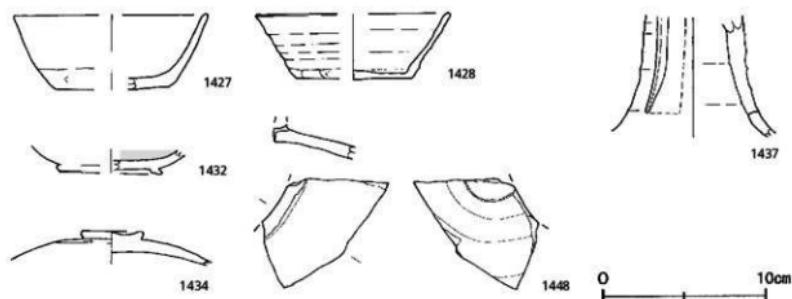
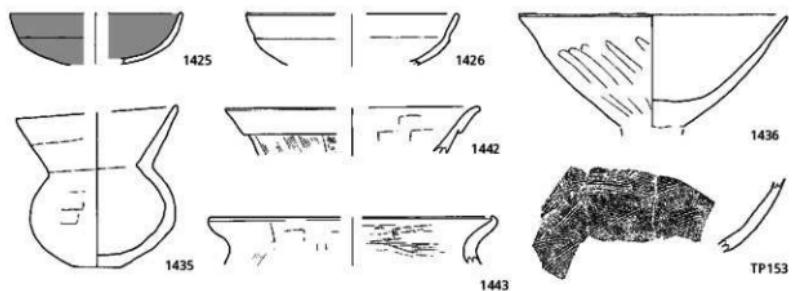
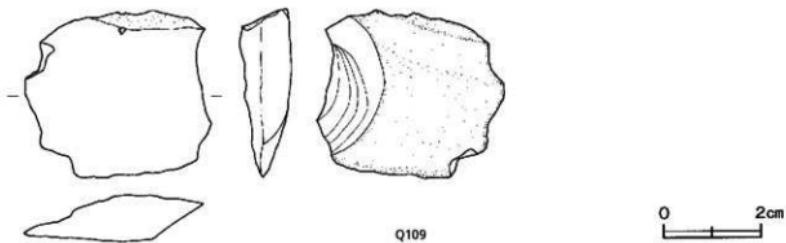
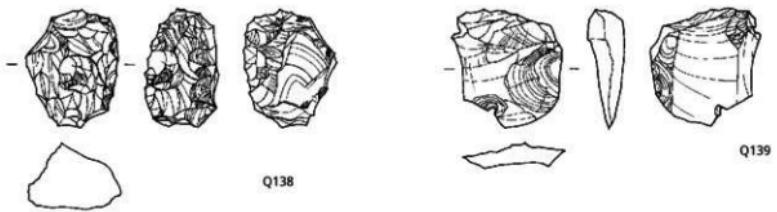
番号	位置	範囲 (m)		ピット数	ピット平面形 円形 楕円形	ピット規格 (m)			ピット 断面形	覆土	主な出土遺物	備考 (旧→新)
		南北	東西			長径	短径	深さ (cm)				
1	A 1 h2 ~ A 1 j3	9.0	5.5	84	円形 楕円形	18~50	17~45	3~46	U字状	人為	土師器・ 漆器・陶器	
2	A-2f8 ~ A-2g9	6.0	4.5	31	円形	21~48	18~43	11~36	U字状	人為	-	
3	A-1g7 ~ A-1j9	11.0	10.0	36	円形	20~51	18~48	8~64	U字状	人為	-	
4	A-1b5 ~ A-1d7	8.5	11.0	66	円形	18~43	17~35	9~63	U字状	人為	土師器・ 漆器・瓦器	
5	A-3d1 ~ A-3f4	7.6	12.6	21	円形	15~55	15~43	14~102	U字状	人為	土師器・ 漆器	
9	A-4a6 ~ A-4b8	6.0	8.5	18	円形	25~57	25~52	30~58	U字状	人為	-	
10	A-3e9 ~ A-3g9	11.0	6.0	24	円形	15~42	20~39	7~63	U字状	人為	-	
11	A 1 b0 ~ B 2 a0	38.0	48.0	156	円形 楕円形	13~94	17~80	8~99	U字状	人為	土師器・ 漆器・土製品	
13	A-2e4 ~ A-2g7	9.5	11.0	50	円形 楕円形	20~53	18~45	4~30	U字状	人為	-	
14	A 1 j5 ~ B 1 a6	0.7	4.9	3	円形	37~45	33~41	28~35	U字状	人為	土師器・土器・ 瓦製品	
15	A-1g0 ~ A-1l0	7.3	0.7	4	円形	27~32	24~31	16~32	U字状	人為	-	
16	A-1b6 ~ A-1b9	0.8	4.4	3	円形	40~46	38~43	27~49	U字状	人為	土師器・ 漆器	
17	A 1 c5 ~ A 1 c6	0.6	3.9	3	円形	30~48	30~42	8~37	U字状	人為	漆器	
18	A-2f2 ~ A-2f3	2.4	1.2	3	円形 楕円形	31~32	23~32	15~32	U字状	人為	土師器・ 漆器	

(6) 遺構外出土遺物

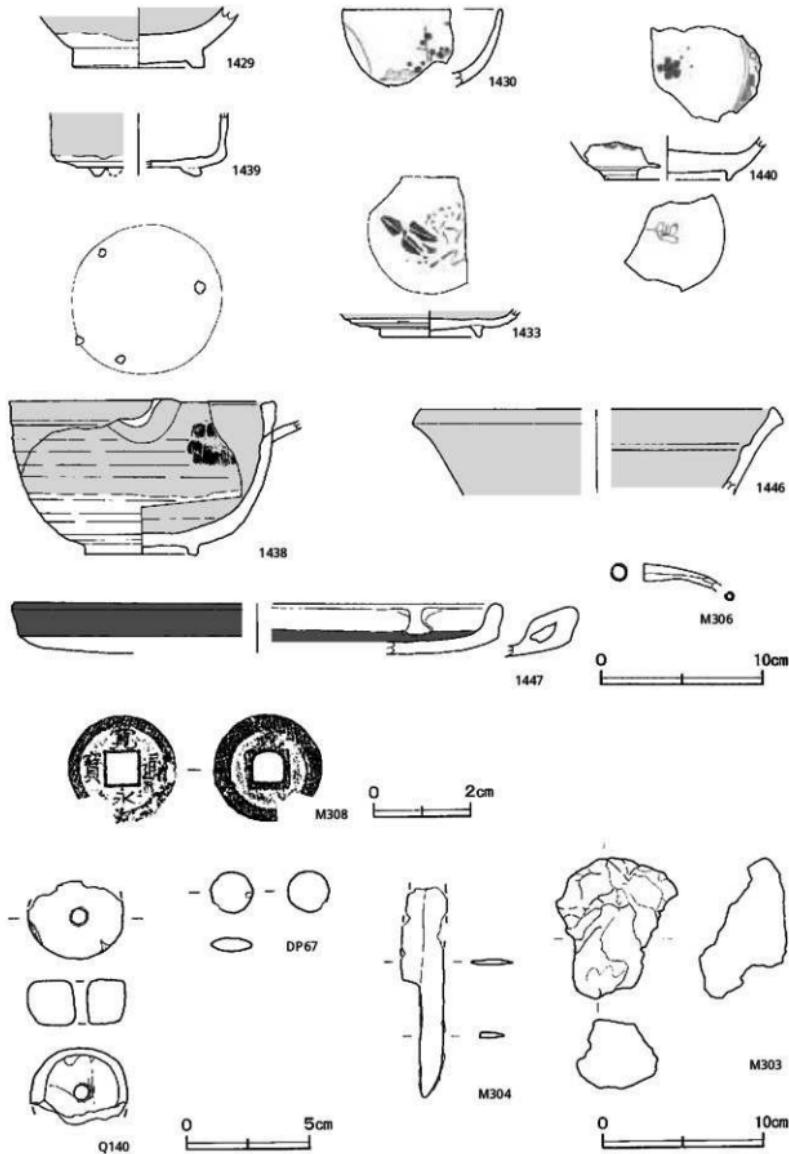
今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物のうち、特徴的なものを実測図と観察表で記載する。(第234 ~ 236図)



第234図 遺構外出土遺物実測図(1)



第235図 遺構外出土遺物実測図(2)



第236図 遺構外出土遺物実測図(3)

遺構外出土遺物観察表(第234~236図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	輪郭	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1425	土師器	环	[10.4]	(37)	-	長石	にぶい黄	普通	口縁部内・外側横ナダ 体部外側へラ削り	H15調査区 表土中	20%	
1426	土師器	环	[12.8]	(32)	-	青石・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外側横ナダ 体部外側へラ削り	PG10表土中	10%	
1427	須惠器	环	[12.0]	47	[7.0]	長石・石英、 透輝石	灰白	普通	体部内・外面クロロナダ 外面下端・底部回転へラ削り	H17調査区 表土中	20%	
1428	須惠器	环	[12.0]	40	[7.0]	長石・石英、 透輝石	黄灰	普通	体部内・外面クロロナダ 外面下端手持ちへラ削り 底部回転へラ削り	S1140表土中	20%	
1429	陶器	鉢類	-	(37)	8.0	細密 灰輪	にぶい黄橙 浅黄	良好	高台削り出し		10%	
1430	磁器	碗	[9.6]	(48)	-	磨擦	透明磨 小槽	灰白	口クロ成形		30% 肥前	
1432	灰陶陶器	皿	-	(15)	[6.5]	長石・石英、 黄灰	良好 明赤褐	普通	底部回転糸切り後回転へラ削り 高台貼り付け	H16表土中	5%	
1433	陶器	皿	-	(17)	6.1	細密 御深井輪	にぶい黄 黄灰	良好	底部回転へラ削り後高台貼り付け	H18表土中	20% 濃田・美濃	
1434	須惠器	皿	-	(20)	-	長石・石英、 透輝石	灰白	普通	体部内・外面クロロナダ 天井部回転へラ削り		10%	
1435	土師器	塔	[10.0]	9.9	2.6	長石・石英、 透輝石	橙	普通	口縁部内・外側横ナダ 体部外側・底部へラ削り	表土中	55% PL37	
1436	土師器	高環	16.6	(6.8)	-	長石・石英	にぶい黄	普通	口縁部外・外側横ナダ 环部外側へラ磨き	表土中	30%	
1437	須惠器	高盤	-	(7.4)	-	長石・青母	褐灰	普通	脚部回転糸切り後回転へラ削り 三脚立カ	表土中	5%	
1438	陶器	片口	[16.4]	9.8	7.0	磨擦	灰白 オーバーリム 透窓	良好	体部内・外面クロロナダ 外面下端・底部回転へラ削り 高台貼り付け	表土中	55% PL44	
1439	陶器	衝炉	-	(39)	[7.0]	細密 灰輪	透明磨 透窓	良好	口クロ成形 高台回転へラ削り 貼り付け (三足座)	H16表土中	10%	
1440	磁器	皿	-	(21)	[7.0]	磨擦 透明磨	灰白	良好	口クロ成形 高台貼り付け	S1130表土中	10%	
1442	土師器	盤	[15.5]	(29)	-	長石・石英、 赤色粒子	にぶい黄	普通	口縫部内・外側横ナダ 脚部ハケ目調整	表土中	5%	
1443	土師器	皿	[17.4]	(29)	-	長石・石英、 赤色粒子	灰白	普通	脚部内・外側ハケ目調整	H17調査区 表土中	5%	
1446	陶器	深鉢	[21.8]	(52)	-	磨擦	にぶい黄 輪郭	良好	口クロ成形	H18表土中	5%	
1447	土師質土器	培塿罐	[30.0]	(30)	-	長石・石英、 青母	灰黄褐	普通	体部内・外側へラ削り 内耳貼り付け 丸底	H18表土中	5%	
1448	須惠器	平底	-	-	-	長石・黒色粒子	白灰	普通	体部内・外側クロロナダ 脚部穿孔後貼り付け 外側自然付着	S1130表土中	5% PL41	
TP152	土師器	壺	-	(46)	-	長石・石英、 赤色粒子	浅黄褐	普通	外側ハケ目調整 内側へラ削り	1号大形整穴 表土中	5% PL45	
TP156	織文	深鉢	-	(43)	-	長石・石英	浅黄	普通	口縫部直下に突刺文を施文	S1132表土中	5% 後期 PL45	
TP159	織文	深鉢	-	(36)	-	長石・石英、 青母	明赤褐	普通	複数工具による多条弦線文を施文	S1132表土中	5% 後期 PL45	
TP160	織文	深鉢	-	(29)	-	長石・石英、 青母	褐	普通	複数工具による多条弦線文を施文	S1132表土中	5% 後期 PL45	
TP162	織文	深鉢	-	(28)	-	長石・石英	にぶい黄	普通	脚部直下に羽状模様	S839表土中	5% 中期 PL45	
TP166	織文	深鉢	-	(43)	-	長石・赤色粒子	にぶい黄	普通	R.Lの脚部状文を施文後沈縫による想似文間を繋ぎ消す	S1130表土中	5% 中期 PL45	
TP167	織文	深鉢	-	(52)	-	長石・青母・黑色 透輝石・赤色粒子	明赤褐	普通	R.Lの脚部状文を施文後沈縫による想似文間を繋ぎ消す	表土中	5% 中期 PL45	
TP168	織文	深鉢	-	(35)	-	長石・石英、 赤色粒子	にぶい黄	普通	沈縫のR.Lの脚部状文を充填	S1135表土中	5% 後期 PL45	
TP169	織文	深鉢	-	(43)	-	長石・赤色粒子	にぶい黄	普通	R.Lの脚部状文を施文後沈縫による想似文間を繋ぎ消す	S1136表土中	5% 中期 PL45	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
D97	あじき	1.2	1.2	0.6	(1.5)	粘土	指ナデ	表土中	
Q103	石器	(2.9)	2.0	0.4	(1.46)	チャート	凹基無茎端 両面削離調製により三棱を有する	S1104表土中	PL47
Q105	石核	2.3	3.0	1.8	15.3	チャート	打削は転移して剝離	S1101表土中	PL47
Q109	剥片	3.4	3.8	1.1	13.0	黒色安山岩	上面からの打削による長巻剝片 上面・背面は自然面 全面磨	S1111表土中	
Q138	石核	2.4	1.4	1.4	6.0	黒曜石	打削は転移して剝離	H16調査区 表土中	
Q139	剥片	2.4	2.2	0.7	3.6	黒曜石	板状剝片 主剝離面と上面に二次加工面を有する	H16調査区 表土中	
Q140	須恵器	4.0	-	1.7	(352)	蛇紋岩	円錐台形 孔径0.7cm	H16調査区 表土中	PL47
M303	碗状漆	8.5	7.5	5.4	216	鉛	春磁 暗赤色 炉附付等	表土	
M304	不明	(12.9)	2.8	0.3	(29.5)	鉛	両面中央部に棱を有する	表土	PL49
M306	煙管	(4.6)	1.0	0.5	(4.8)	銅	吸口 銅板丸め後焼付け		PL49
M308	吉鉢	2.3	2.3	0.1	(2.12)	銅	孔径0.65 真赤通窓 背元カ 初鋳年1741年	表土中	PL49

第4節 まとめ

1はじめに

当遺跡は、古墳時代後期にはじまり奈良・平安時代まで継続した集落跡を中心とした複合遺跡であることが前回の平成13年度の調査によって確認されている。この調査では、東谷田川に沿った台地の縁辺部を中心と発掘が行われ、6世紀後半の開拓に端を発し、7世紀代には鍛冶関連集団の移住によって島名熊の山遺跡と深く結びつきながら9世紀後葉まで継続して営まれた集落の姿が明らかにされている。今回の平成15年度から平成18年度にわたった調査は台地の平坦部が中心であり、調査区の西端は西谷田川支流の小谷津に臨んだ台地の縁辺部付近に至っている。また、前回の調査区域とは調査区の東端で接しており、両調査の成果を併せて検討することによって、東谷田川と西谷田川に挟まれた台地上に営まれた当遺跡の様相をより明らかなものにしていきたい。

2集落の変遷

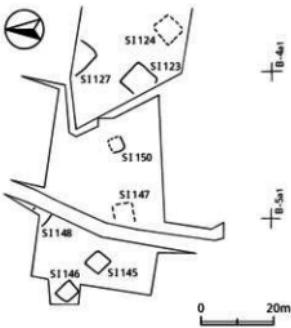
島名八幡前遺跡は、これまでの調査で6世紀後半に集落の初現を持つとされてきたが、今回の調査では5世紀前半の住居跡が複数確認されている。また、7世紀以降の集落は東谷田川に沿った台地上の広い範囲で確認されており、集落の様相を明らかにするには台地の縁辺部と平坦部で営まれた集落との比較が欠かせない。このため本論では、今回の調査成果を中心に、平成13年度の調査成果を逐次検討しながら集落の変遷を概観する。

時期区分に際しては、当遺跡が北部に隣接する島名熊の山遺跡と土器の様相や、集落の変遷について深い関わりが指摘されていることから、第190集で示された土器形式区分に基づいて分類を行った¹⁾。年代については4世紀中頃が第1期、5世紀前半が第2期、6世紀前葉から後葉がそれぞれ第3～5期、7世紀前葉から後葉がそれぞれ第6～8期、8世紀前葉から後葉がそれぞれ第9～11期、9世紀前葉から後葉がそれぞれ第12～14期に該当する。また、土器については各遺構に伴う土器を定量的に比較することを目的に、出土土器の破片数から推測される個体数を記載した。個体数は、接合作業によって口縁部もしくは底部が全周のおよそ30%以上復元でき、口径もしくは底径が十分推定可能であることを基準としており、他の破片の出土量を加味しながら算出した。

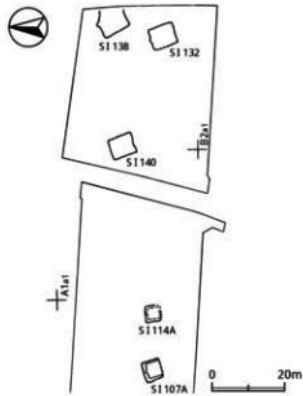
(1) 古墳時代

当遺跡における集落の初現は、島名熊の山遺跡と同様に4世紀中頃とみられ、調査区の中央部付近の遺構覆土中や表土中から本期に該当する土師器の壺の破片が出土していることから、周辺に遺構の存在が推定される。

調査によって遺構が確認されているのは5世紀前半からであり、調査区西部の住居跡8軒が該当する。主軸方向の違いから、少なくとも異なる2～3時期の集落の存在が想定され、特に第145・146・148号住居跡はいずれも廃絶時に焼失している点からも遺構の同時性がうかがわれる。土器は、壺・高壺・壇・壺・甕から構成さ



第237図 島名八幡前遺跡集落変遷図
(5世紀前半)



第238図 島名八幡前遺跡集落変遷図
(7世紀前葉)

れている。個体数では、第146号住居跡で確認された高壙12点が突出しているが、このうち5点は壙部のみの出土で、脚部の破片を確認できなかった。住居が廃絶時に焼失していること併せて、儀礼的な目的で壙部を選別して投棄した可能性も考えられる。

住居跡が確認された調査区西部は、西谷田川支流の小谷津に面した台地の縁辺部にあたる。当遺跡では5世紀後半から6世紀前半の遺構が確認されておらず、本期に該当する住居群は、南西部の島名ツバタ遺跡²⁾などと同様に比較的の短期間に廃絶した集落の一部であったと考えられる。

6世紀後半の遺構は、南東部の平成13年度の調査区域で住居跡8軒が確認されている。今回の調査で再び遺構が確認されるのは、7世紀前葉であり、5軒の住居跡が該当する。住居跡は調査区の中央部から東部に位置しており、東部の第132・138・140号住居跡は、主軸方向が一致することから一つの単位群を形成していたと考えられる。この単位群の住居からは、土師器裏の転用砥、土製品の鋸鍤車、鉄製品の鎌等が出土している。平成13年度の調査では住居跡4軒が確認され、同様に土師器裏の転用砥や鉄製品(刀子、鎌)等が出土しており、同時期の島名熊の山遺跡での手工業的な集団の増加との繋がりを示すものであろう。

本期の遺構は、東谷田川に面した台地の縁辺部で確認されており、2~3軒程の住居を単位群とした集落が営まれていたと考えられる。

7世紀中葉の遺構は、遺跡の全域で確認されておらず、集落に一時的な断絶があったと考えられる。

7世紀末に該当する遺構は、平成13年度の調査区域で3軒の住居跡が確認されている。

(2) 奈良・平安時代

8世紀前葉の遺構は、調査区中央部に集中して確認されており、住居跡10軒、掘立柱建物跡2棟、大型竪穴状遺構1基が該当する。住居の主軸方向は、ほぼ北に統一されており、特に第102・103・111・113号住居跡は、規模が一辺4m前後の方形で、東西21m、南北10mの長方形に配置されており、画一的な印象を受ける。遺物では須恵器の供膳具の個体数に同様の画一性がみられ、第117号住居跡の壙9点、蓋15点を除けば、大部分の住居から壙3~6点、蓋2~3点の範囲で確認されている。出土した土器片はおおむね住居の廃絶後に投棄されたもので、算出した土器の個体数は住居で所有されていた土器の数量を正確に表す値ではないが、一定の範囲に収束した点は興味深い。律令期の東国において須恵器は商品として流通していたとされており³⁾、入手できる数量は各世帯の経済状況を反映していたと考えられる。各住居跡から出土した須恵器の量に大きな差がみられないことは、住居の規模が画一的であるのと同様に、集落内の各世帯に経済的には大きな格差がなかったことを示すと考えられる。その他の遺物としては、第113号住居跡から出土した須恵器の高台付皿(1072)の底部には朱墨で「大吉」と記されている。また、土製品の輪羽口、砥石、鉄製品の鎌、鎌等が出土しており、平成13年度の調査で確認された第1号鍛冶工房跡と併せて、集落全体が鉄製品の生産を中心にした手工業と深く結びつきを

示すといえる。

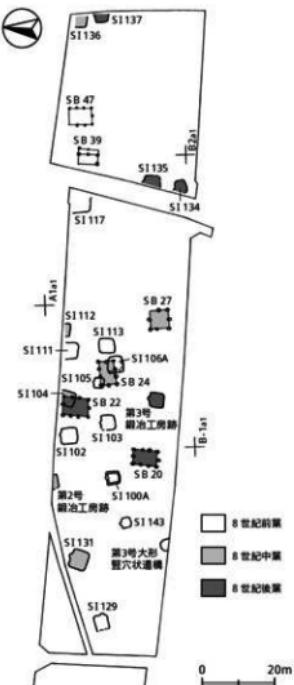
平成13年度の調査では同時期の住居跡30軒が確認されており、集落は7世紀後半の断絶を経て、短かい期間に大きく展開している。住居は、台地の縁辺部の標高21mの等高線に沿うように営まれた14軒の大きな集団と、その周辺の2~5軒ほどの小さな集団に分けることができ、台地の平坦部においても小規模な集落が営まれていたと考えられる。

8世紀中葉の遺構は調査区の中央部と東部で確認されており、住居跡4軒、掘立柱建物跡2棟、鍛冶工房跡1基が該当する。第2号鍛冶工房跡は北部が調査区域外に延びており、鍛冶炉等の内部施設は確認できなかったが、南壁際に出入り口施設に伴うステップ上の高まりを持ち、各壁が緩やかに立ち上がる構造は第1号鍛冶工房跡と共に通している。第104・112・131号住居跡、第24・27号掘立柱建物跡、第2号鍛冶工房跡は、主軸方向にややばらつきがあるが、配置から一つの単位群を形成していたと考えられる。約30m幅の未調査地区を挟んだ南東部には同時期の住居跡4軒、掘立柱建物跡4棟が確認されており、住居と掘立柱建物が並立する状況から、両群が一連の集落であった可能性が考えられる。

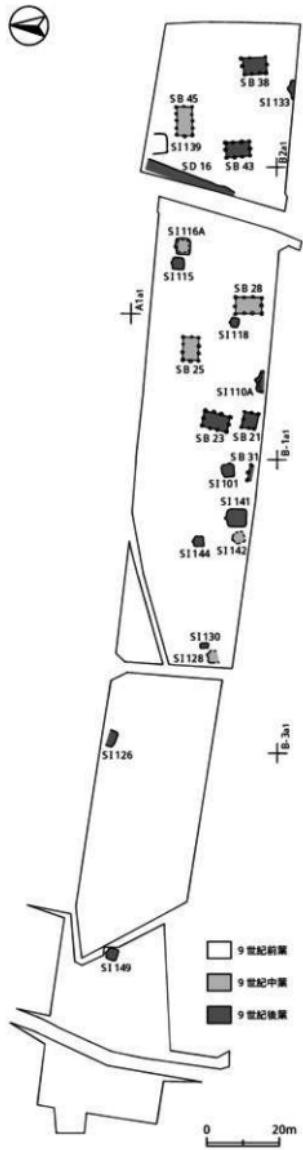
8世紀前葉に大規模な集落の営まれた台地の縁辺部は、本期には遺構数が減少し、台地の平坦部で住居と掘立柱建物が増加している。第2号鍛冶工房跡が調査区の中央部で確認されていることからも、この時期の集落の中心は台地の平坦部であったと考えられる。

8世紀後葉の遺構も調査区の中央部と東部で確認されており、住居跡3軒、掘立柱建物跡2棟、鍛冶工房跡1基が該当する。遺構は散在的で、住居2~3軒もしくは、住居に掘立柱建物を伴った小規模の単位群が、台地の平坦部から縁辺部かけて確認されている。第3号鍛冶工房跡は、小形の鍛冶炉とともに甕が確認されるなど住居としても機能していたと考えられる。須恵器の壺の個体数は、第135号住居跡の27点と第3号鍛冶工房跡の13点が、他の住居の6~7点と比べて突出している。また、第135号住居跡は、長辺14cmの大形の砥石や鉄製品（刀子、鎌）が出土しており、鍛冶炉は確認できなかったが、鉄製品の生産と関わりが強かったと考えられる。一方で、平成13年度に調査された第80号住居跡は一辺6mを超す集落の中心的な住居とされ、須恵器片833点のほかに金床石、砥石、鉄製品（刀子、鎌、釘）等が出土している。須恵器の出土量からはこれらの住居が比較的裕福であったことが推測され、この時期の集落では、集落の中心的な住居が直接的に鉄製品の生産と結びついていたことを示すと考えられる。

9世紀前葉の遺構は、調査区の東部で住居跡1軒が該当するのみであり、平成13年度の調査でも確認された住居跡は3軒にとどまっている。第139号住居跡は、土師器の鉢・甕・瓶、須恵器の壺・高台付壺・盤・蓋・長頸瓶・フラスコ瓶・鉢・甕、砥石、瑪瑙製の勾玉、鉄製品（刀子、鎌、小札、釘）、銅



第239図 鳥名八幡前遺跡集落変遷図
(8世紀)



第240図 島名八幡前遺跡集落変遷図
(9世紀)

製品(鏡)等、多種・多量の遺物が出土している。これらの遺物は住居の廃絶後に投棄されたと考えられ、特殊な遺物も出土していることから、住居の廃絶後に何らかの儀礼的な行為があったとも考えられる。

8世紀後葉から9世紀前葉は、集落が2度目の衰退を迎えた時期である。第139号住居跡からの遺物の出土状況は溝の廃絶時にみられる状況とも類似しており、1軒の住居から出土する遺物量としては不自然であることから、集落がこの時期に断絶していたとも考えられる。

9世紀中葉の遺構は、調査区中央部で確認されており、住居跡3軒、掘立柱建物跡3棟が該当する。第128号住居跡の竈は袖部の補強材に平瓦が使用されている。つくば市東部の東岡中原遺跡の例では、竈の補強材としての瓦の使用は8世紀中葉からみられ、9世紀後葉から10世紀前葉に多くなるとされている⁴⁾。また、島名熊の山遺跡の第1674号住居跡でも同様に瓦が使用されており、瓦の入手先として9世紀中葉以降に衰退した九重東岡廃寺跡の可能性が指摘されている⁵⁾。本跡から出土した瓦は、これらの例と胎土の特徴などが一致しており、同寺で使用されていた瓦が持ち込まれたものと考えられる。第116A号住居跡と第25・28・45号掘立柱建物跡は、主軸方向が一致することから一つの単位群を形成していたと考えられる。第25・45号掘立柱建物跡は、約40mの空閑地を介して東西に配置されており、その中間に第116A号住居跡が位置している。この様な遺構の配置は、島名熊の山遺跡の南東部で確認された同時期の掘立柱建物群と類似している。遺物は、土師器・須恵器のほかには、砥石、刀子各1点と鉄製品の生産との結びつきを示すような遺物の出土が減少している。また、第28号掘立柱建物跡から出土した土師器の坏(1285)の体部外面には墨書きで「大土」と記されている。

続く9世紀後葉の遺構は調査区の東部から西部にかけて広く確認されており、住居跡10軒、掘立柱建物跡5棟、溝1条が該当する。遺構は主軸方向から、東部の一群(第133号住居、第38・43号掘立柱建物跡)、中央部の一群(第110A号住居跡、第21・23・31号掘立柱建物跡)、中央部西寄りの一群(第101・141・144号住居跡)及び、西部の単独で確認された住居跡に分けることができる。東部と中央部の一群は、ともに住居と掘立柱建物が並立しており、住居跡の周辺に掘立柱建物を配した遺構群の一部であったと推定され、両群の中間に位置する第16号溝跡

は地境的な機能を果たしていたと考えられる。また、土器の個体数では、第110A号住居跡から土師器壊9点、甕11点、須恵器壊9点、第133号住居跡から土師器壊3点、甕10点と、須恵器壊11点と多量に確認されたほか、多種の供膳具、貯蔵具が確認されている。こうした様相は他の住居と異なることから、これらの住居はそれぞれの遺構群の中で特徴的な機能を果たしていた可能性が考えられる。一方で、中央部西寄りの一群は、いずれの住居跡からも墨書き土器が出土し、供膳具に占める土師器の高台付皿の比率が高いなど、他の2群とは様相が異なっている。中央部の一群とは明確な境界を持つために隣接していることから、両群には時期差があると考えられ、土師器の高台付皿の比率から中央部西寄りの一群がより新しい段階にあたることが推定される。

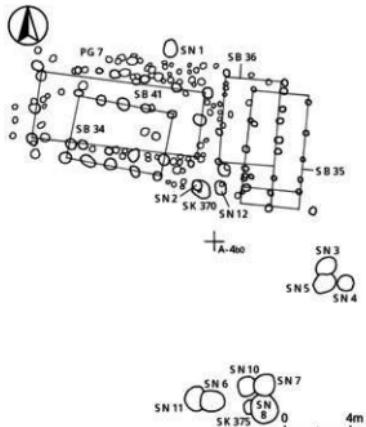
9世紀中葉から後葉の遺物は、土師器・須恵器・灰釉陶器など土器の供膳具・貯蔵具・煮炊具を中心となる。また、墨書き土器の出土例が圧倒的に多く、土師器壊5点、高台付皿4点、須恵器壊2点が出土している。墨書きの内容は「五万」や「大吉」など吉祥句的な文字が多い。一方で、砥石や鉄滓など鉄製品の生産と結びつく遺物の出土は減少しており、南東部の平成13年度の調査区で、鉄製の紡錘車や、鉄滓・土製の縦羽口等が出土したほか、第15号住居跡が鍛冶工房跡の可能性を持つなど、引き続いて手工業的な要素が確認されたのとは対照的である。

集落は、9世紀前葉の断絶の可能性も含んだ衰退期を経て、9世紀中葉から後葉には大きく様相が変化していたといえる。台地の縁辺部で鉄製品の生産を中心に手工業的な集落が営まれていたのに対し、平坦部では掘立柱建物を配した遺構群の存在の可能性が推定され、小規模ではあるが支配者層の邸宅を思わせる様相を呈している。8世紀代には集落の中心的な住居跡から鉄製品の生産と直接結びつく遺物が多く出土していることと比較すると、この時期には支配者層的な集団と、工人的な集団の間に土地利用を含めて明確な分離が行われていたことが推測される。

10世紀以降の遺構・遺物は確認されていない。7世紀代から鉄製品の生産を中心に手工業と深く結びついて営まれてきた当遺跡の古代の集落は9世紀後葉をもって断絶したと考えられる。9世紀後葉の遺構からは、集落が衰退する状況はうかがわれず、やや唐突な印象を受けるが、島名地区における他の集落が8世紀代までの断絶したのと同様に、当集落も10世紀以降も継続して営まれていた島名熊の山の集落に統合されていったものと考えられる。

表18 島名八幡前遺跡出土文字資料一覧表

番号	種別	器種	墨・朱墨	积文	墨書き箇所	方向	出土遺構	出土層位	時代	備考
967	土師器	壊	墨	大吉	体部・外腹	正位	第101号住居跡	礎土上層～下層	9世紀後葉	
969	土師器	壊	墨	八口	体部・外腹	正位	第101号住居跡	礎土中層	9世紀後葉	
1072	須恵器	高台付皿	朱墨	大吉	底部・外腹	正位	第113号住居跡	礎土上層	8世紀前葉	
1121	土師器	壊	墨	○	体部・外腹		第126号住居跡	床面	9世紀後葉	
1122	須恵器	壊	墨	五万	体部・外腹		第126号住居跡	礎土下層	9世紀後葉	
1249	土師器	壊	墨	古カ	体部・外腹	正位	第141号住居跡	床面・礎土中	9世紀後葉	
1253	土師器	高台付皿	墨	少選	底部・外腹	正位	第141号住居跡	礎土下層	9世紀後葉	
1254	土師器	高台付皿	墨	五万	体部・外腹		第141号住居跡	床面	9世紀後葉	
1255	土師器	高台付皿	墨	大吉	底部・外腹	正位	第141号住居跡	礎土下層	9世紀後葉	
1270	須恵器	壊	墨	方	底部・外腹	正位	第144号住居跡	床面	9世紀後葉	
1273	土師器	高台付皿	墨	○	体部・外腹		第144号住居跡	礎土中	9世紀後葉	
1285	土師器	壊	墨	大士	体部・外腹	正位	第28号竪立柱建物跡	P 6 矩土上層	9世紀中葉	
1319	須恵器	壊	墨	○	底部・外腹	正位	第3号大形竪穴式遺構	礎土中層	8世紀前葉	



第241図 鳥名八幡前遺跡集落変遷図(近世)

存在していたと考えられる。これら建物は規模や配置から住居や付随した倉庫等であったと推測される。粘土貼土坑は掘立柱建物跡の南部に位置しており、出土した陶磁器の年代は建物跡から出土したものとほぼ一致している。当遺跡周辺では、近代以降においても屋敷の敷地内や周辺に墓地を設けることが一般的であることから、これらの粘土貼土坑は掘立柱建物と結びつきの強いものであったと考えられる。

江戸時代中期以降の当遺跡では、近代以降にまで継続する農村が営まれていたものと考えられる。

3まとめ

今回の調査では、これまで未調査だった遺跡西部の様相が明らかにされ、東部とは異なる5世紀前半の集落の存在が確認された。台地の平坦部では、7世紀以降に台地の縁辺部と一体となって集落が営まれていたことが確認されるとともに、9世紀代には平坦部と縁辺部で集落の様相が分化していった可能性が示された。しかし、今回の調査区は南北に狭い限られた範囲での調査であったために、特に9世紀中葉以降の掘立柱建物群の存在については推定の範疇に留まっている。これまでの調査で解明できなかった諸問題については、今後の調査の進展によって明らかにされることに期待をしたい。

註

- 1) 稲田義弘「熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書VII」 茨城県教育財團文化財調査報告 第190集 2002年3月
- 2) 岩川修「鳥名ツバタ遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1」 茨城県教育財團文化財調査報告 第203集 2003年3月
- 3) 荒井秀規「文献からみた土器の流通—商品としての須恵器—」 埼玉考古別冊9 古代武藏国の須恵器流通と地域社会 2006年2月
- 4) 成島一也・宮田和男「中根・金田特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 中原遺跡2」 茨城県教育財團文化財調査報告 第159集2000年3月
- 5) 註1に同じ

参考文献

- 吹野富美夫・青木仁昌「鳥名八幡前遺跡 鳥名福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書IX」 茨城県教育財團文化財調査報告 第201集 2003年3月

(3) 中世・近世

次に当遺跡で遺構が確認されるのは、中世の鎌倉時代後期である。平成13年度の調査では、調査区南東端の台地の斜面部で地下式壙、方形竪穴状遺構などが確認され、南部に位置する鳥名前野東遺跡との関わりが指摘されている。今回の調査では明確に中世と判断できる遺構・遺物は確認されておらず、台地の平坦部では積極的な土地利用がなされたと推定される。

台地の平坦部で再び遺構が確認されるのは、江戸時代中期(17世紀後半)以降であり、L字状に配置された掘立柱建物跡と墓坑とみられる粘土貼土坑などが確認されている。掘立柱建物跡は同位置に重複して確認されていることから少なくとも一度は建て替えが行われており、出土した陶磁器に17世紀後半から19世紀代まで年代の幅が見られることから長期間にわたって建物が

写 真 図 版



第3号大形竪穴状遺構出土土器



平成15年度調査区
完掘状況



平成16年度調査区
完掘状況（西部）



平成16年度調査区
完掘状況（東部）

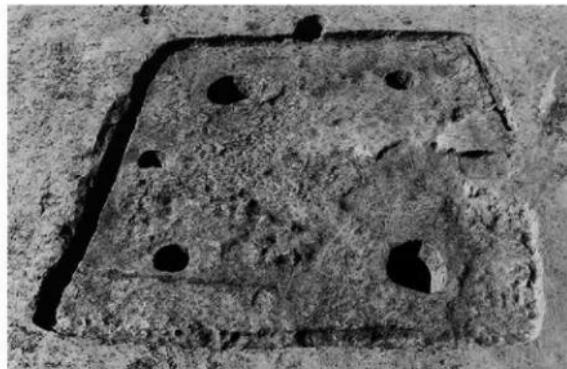
PL 2



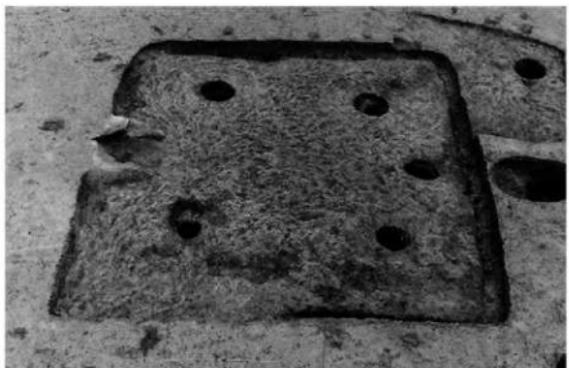
平成 17 年度調査区
完 挖 状 況



平成 18 年度調査区
完 挖 状 況



第107A・B号住居跡
完 挖 状 況



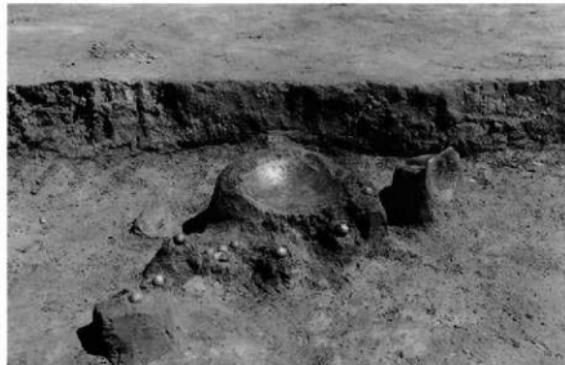
第 114A 号住居跡
完 堀 状 況



第 114B 号住居跡
完 堀 状 況



第 123 号住居跡
完 堀 状 況



第123号住居跡
遺物出土状況



第132号住居跡
完掘状況



第138号住居跡
完掘状況



第 140 号 住居跡
完 壕 状 況



第 140 号 住居跡
竈 1 完 壕 状 況



第 145 号 住居跡
完 壕 状 況



第146号住居跡
完掘状況



第146号住居跡
遺物出土状況



第146号住居跡
遺物出土状況



第148号住居跡
遺物出土状況



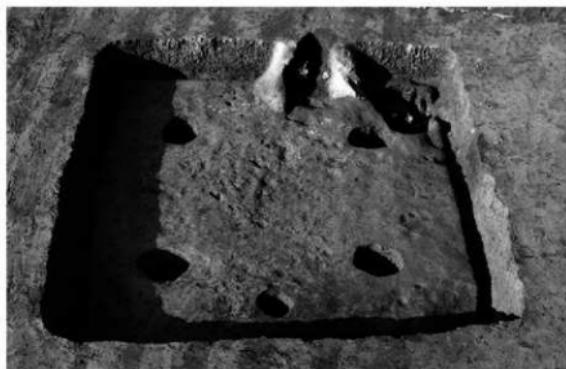
第100A号住居跡
遺物出土状況



第100A・B号住居跡
完掘状況



第101号住居跡
完掘状況



第102号住居跡
完掘状況



第103号住居跡
完掘状況



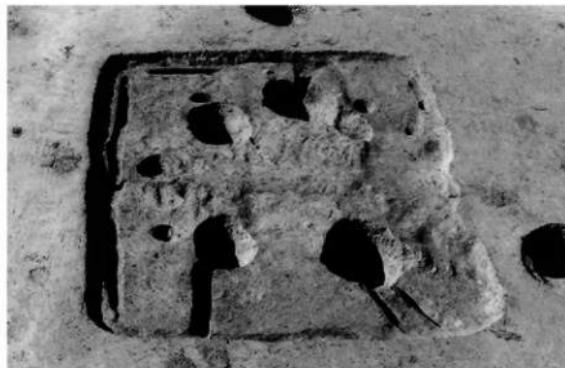
第 104 号住居跡
完 壕 状 況



第 105 号住居跡
完 壕 状 況



第 106A 号住居跡
完 壕 状 況



第106B号住居跡
完 挖 状 況



第109号住居跡
完 挖 状 況



第110A号住居跡
遺 物 出 土 状 況



第110A・B号住居跡
完掘状況



第111号住居跡
完掘状況



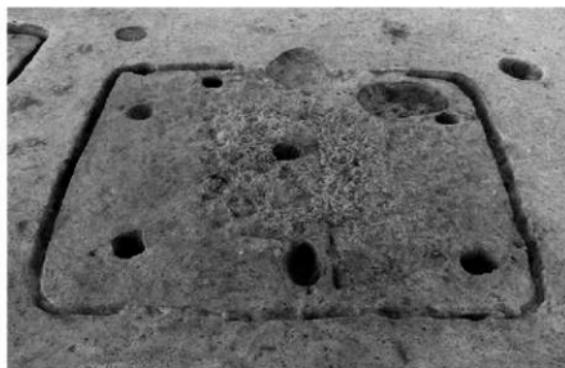
第112号住居跡
遺物出土状況



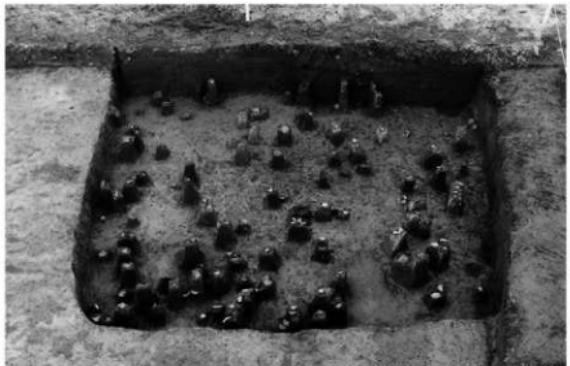
第 113 号 住居跡
完 挖 状 況



第 115 号 住居跡
完 挖 状 況



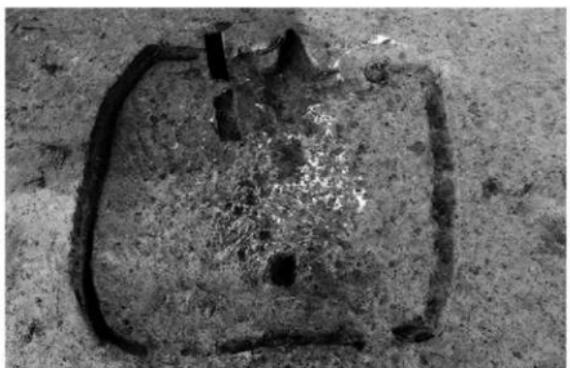
第 116A 号 住居跡
完 挖 状 況



第 117 号 住居跡
遺物 出土 状況



第 117 号 住居跡
遺物 出土 状況



第 118 号 住居跡
完 挖 状 況



第 126 号 住居跡
完 挖 状 況



第 128 号 住居跡
完 挖 状 況



第 128 号 住居跡
遺 物 出 土 狀 況

第 129 号 住居跡
完 堀 状 況



第 129 号 住居跡
掘り方 完 堀 状 況



第 130 号 住居跡
遺 物 出 土 状 況





第131号住居跡
完掘状況



第131号住居跡
完掘状況



第134号住居跡
完掘状況



第 135 号 住居跡
完 壕 状 況



第 136 号 住居跡
完 壕 状 況



第 137 号 住居跡
遺 物 出 土 状 況



第139号住居跡
完掘状況



第139号住居跡
遺物出土状況



第141号住居跡
完掘状況



第 142 号 住居跡
完 堀 状 況



第 143 号 住居跡
完 堀 状 況



第 143 号 住居跡
遺 物 出 土 状 況



第144号住居跡
完掘状況



第144号住居跡
甕遺物出土状況



第149号住居跡
完掘状況



第149号住居跡
甕遺物出土状況



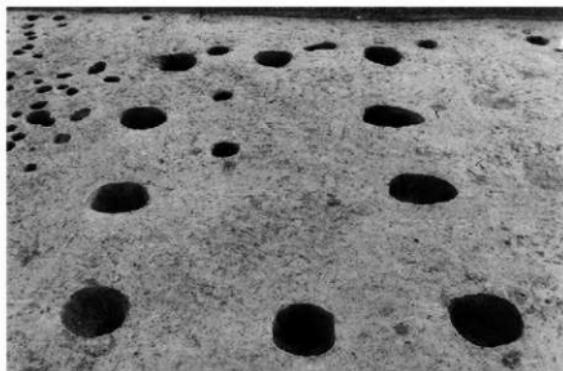
第23号掘立柱建物跡
完掘状況



第24号掘立柱建物跡
完掘状況



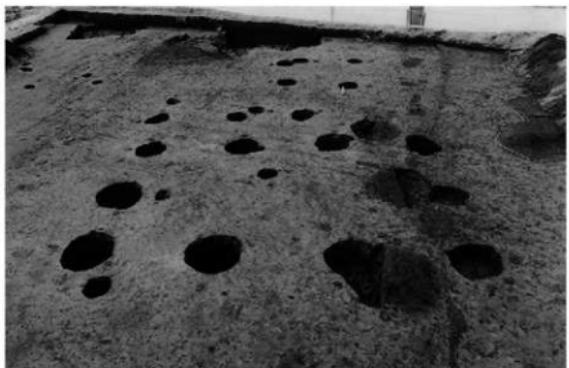
第25号掘立柱建物跡
完 挖 状 況



第28号掘立柱建物跡
完 挖 状 況



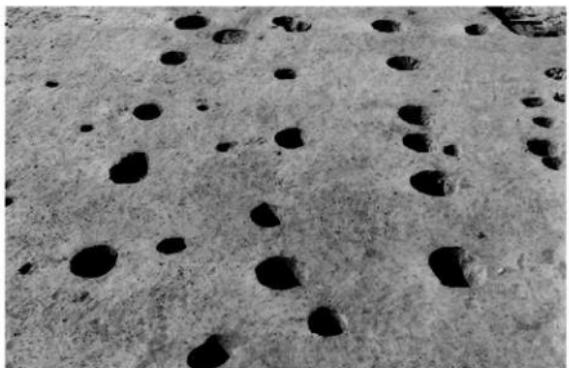
第34・41号
掘立柱建物跡
完 挖 状 況



第43号掘立柱建物跡
完 堀 状 況



第44号掘立柱建物跡
完 堀 状 況



第45号掘立柱建物跡
完 堀 状 況



第2号鍛冶工房跡
完掘状況



第2号鍛冶工房跡
遺物出土状況



第3号鍛冶工房跡
完掘状況



第3号鋳冶工房跡
炉 完 挖 状 況



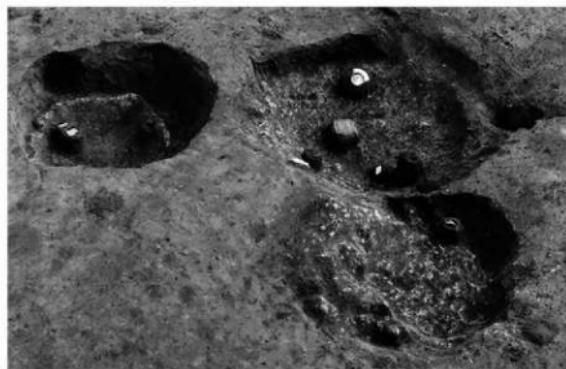
第3号大形竪穴状遺構
遺 物 出 土 状 況



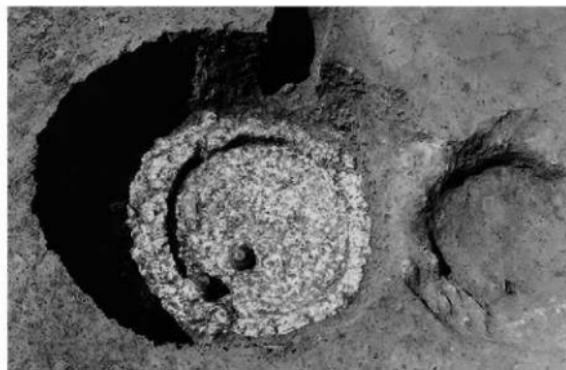
第3号大形竪穴状遺構
遺 物 出 土 状 況



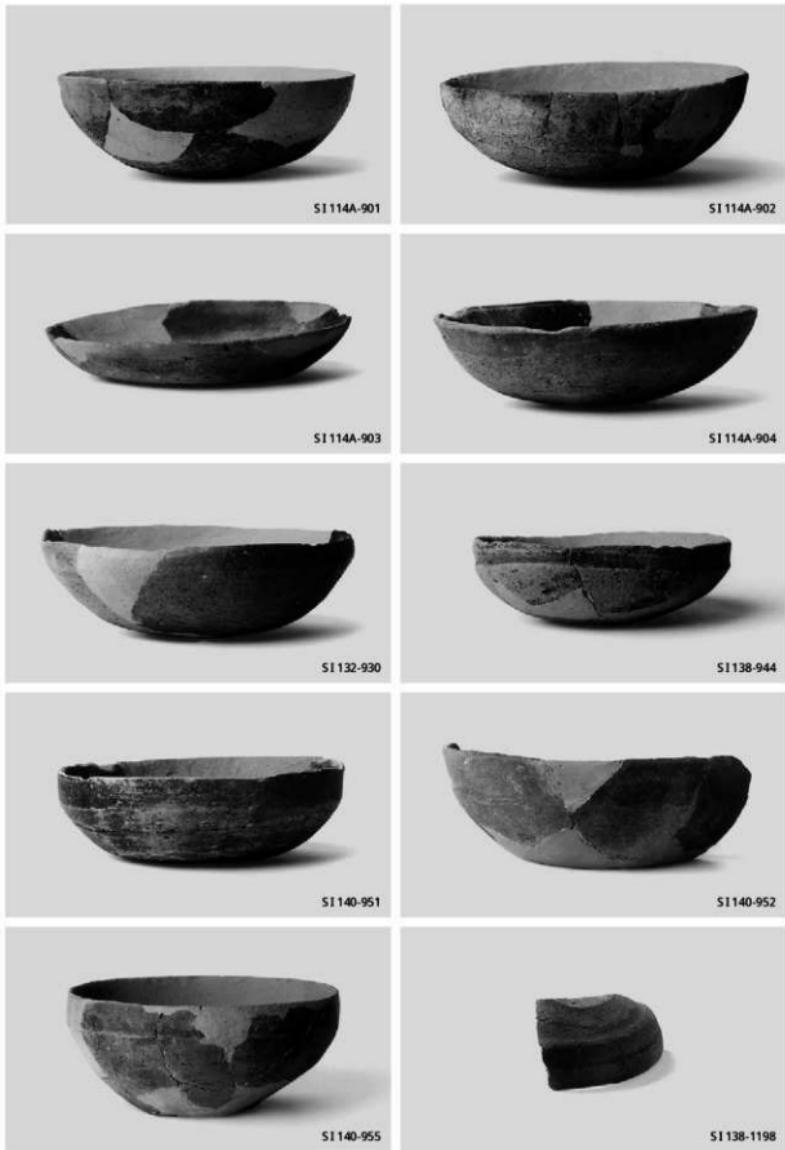
第429号土坑
遺物出土狀況



第3~5号粘土貼土坑
遺物出土狀況



第7·8号粘土貼土坑
遺物出土狀況



第114A・132・138・140号住居跡出土土器



SI 140-953



SI 145-1382



SI 123-913



SI 146-1391



SI 146-1390



SI 148-1404



SI 146-1389

第123·140·145·146·148号住居跡出土土器



第 114A · 124 · 145 · 146 · 150 号住居跡出土土器



SI 102-985



SI 110A-1044



SI 117-1092



SI 117-1094



SI 117-1095



SI 118-1116



SI 119-1128



SI 133-1142



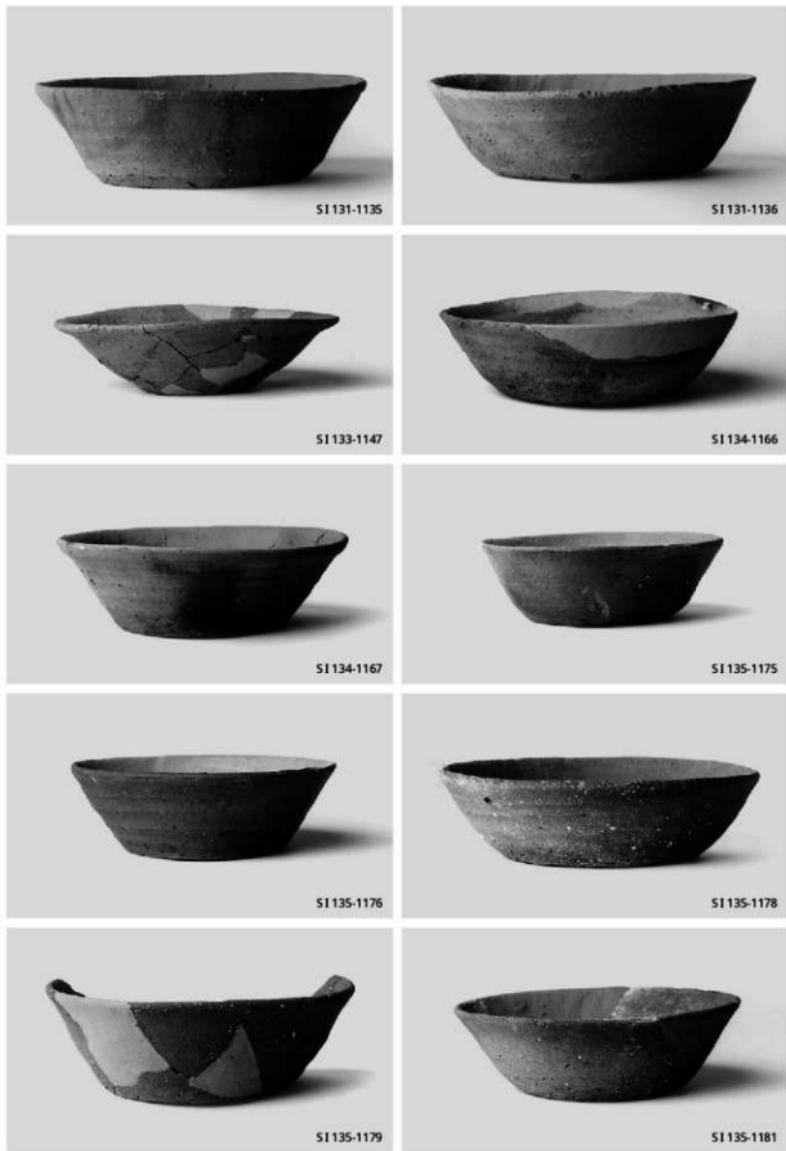
SI 141-1250



SI 149-1418



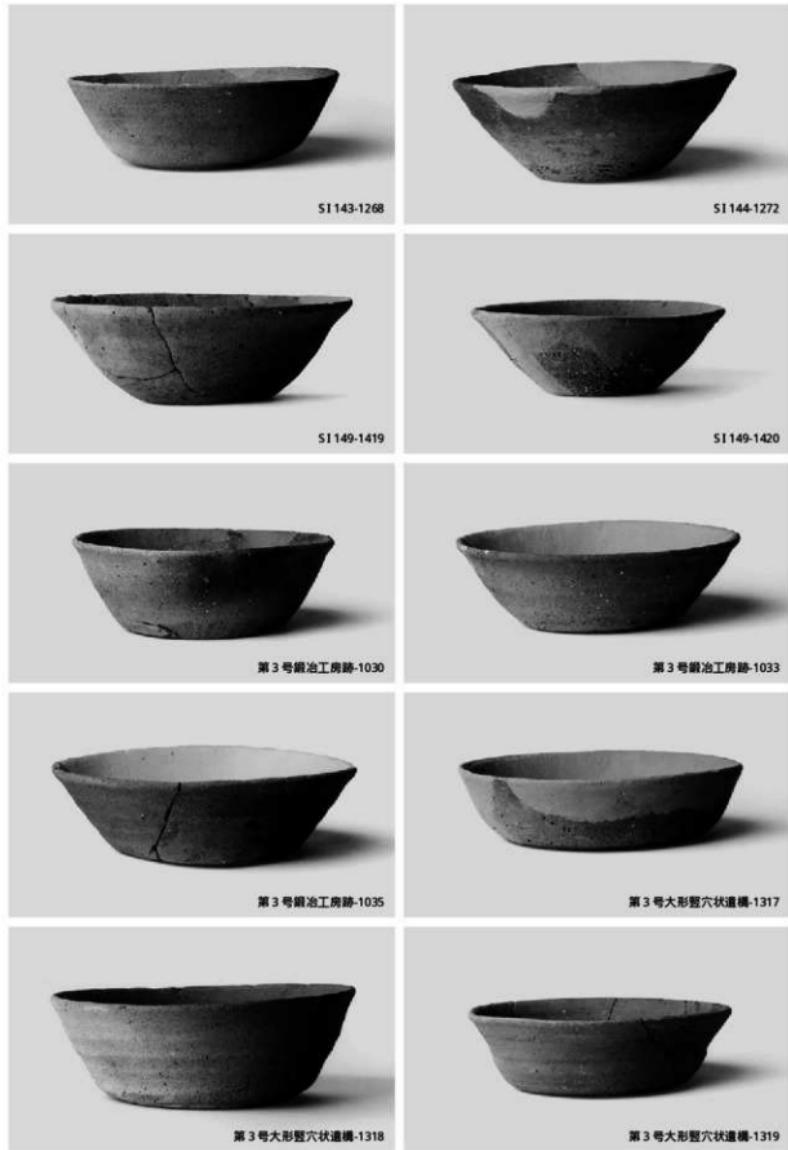
第100A・101・103～105・116A号住居跡，第3号大形豎穴状遺構出土土器



第131・133～135号住居跡出土土器



第137·139·141号住居跡出土土器



第143·144·149号住居跡，第3号大形竪穴状遺構出土土器



第112・128・131・135号住居跡，第3号大形要穴状遺構，第5号井戸跡出土土器



第102·103·110A·133·139·141·143号住居跡，第3号大形凹穴状遺構出土土器



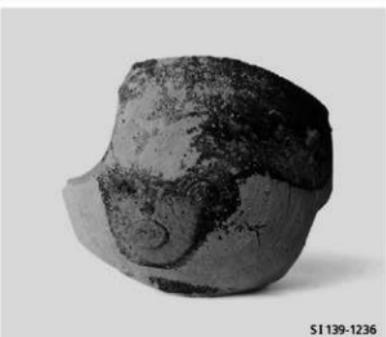
遺構外-1435



SI 139-1235



SI 133-1154



SI 139-1236



SI 100A-962



SI 141-1260

第100A・133・139・141号住居跡，遺構外出土土器



第3号大形豎穴状遺構-1329



第3号大形豎穴状遺構-1328



第3号大形豎穴状遺構-1330



第3号大形豎穴状遺構-1327

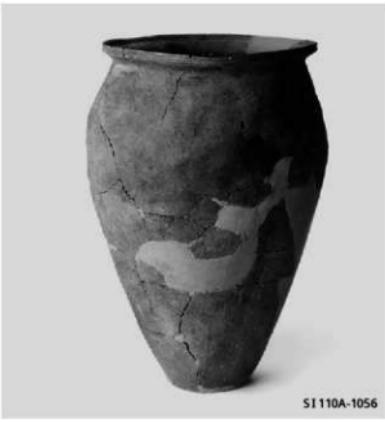
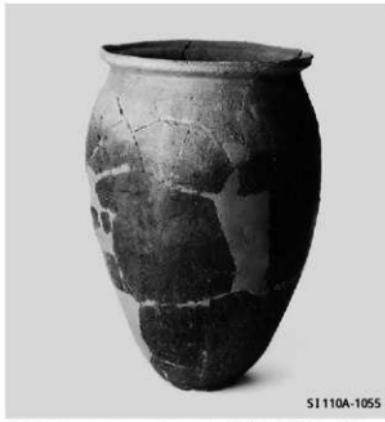
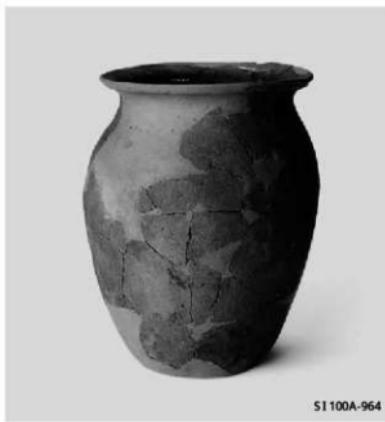


S1117-1111



第3号大形豎穴状遺構-1326

第117号住居跡，第3号大形豎穴状遺構出土土器



第100A·110A·139·141号住居跡出土土器



第3号大形竖穴状遗構-1331



第3号大形竖穴状遗構-1332



SI149-1423



第3号大形竖穴状遗構-1333

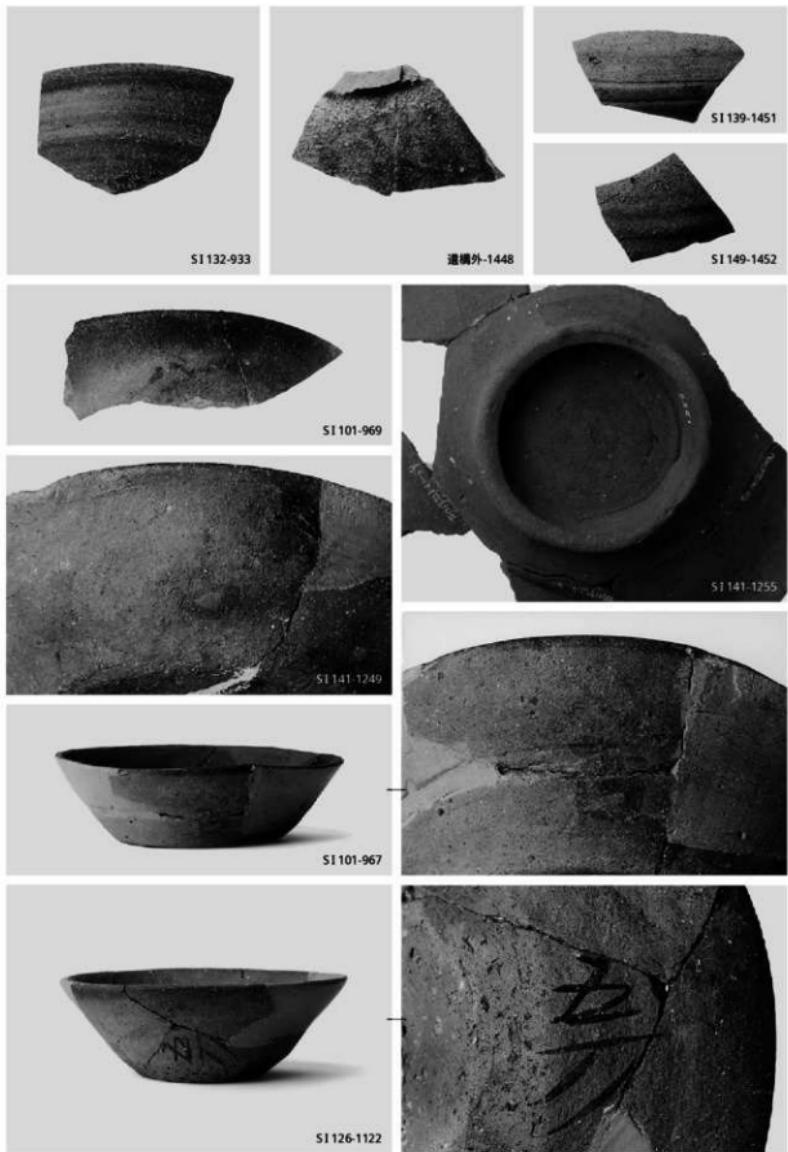


SK 429-1313



第3号大形竖穴状遗構-1334

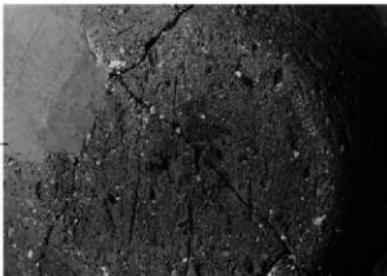
第149号住居跡，第429号土坑，第3号大形竖穴状遗構出土土器



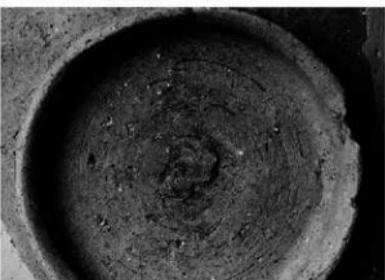
第101・126・132・139・141・149号住居跡、遺構外出土土器



S1144-1270



S1113-1072

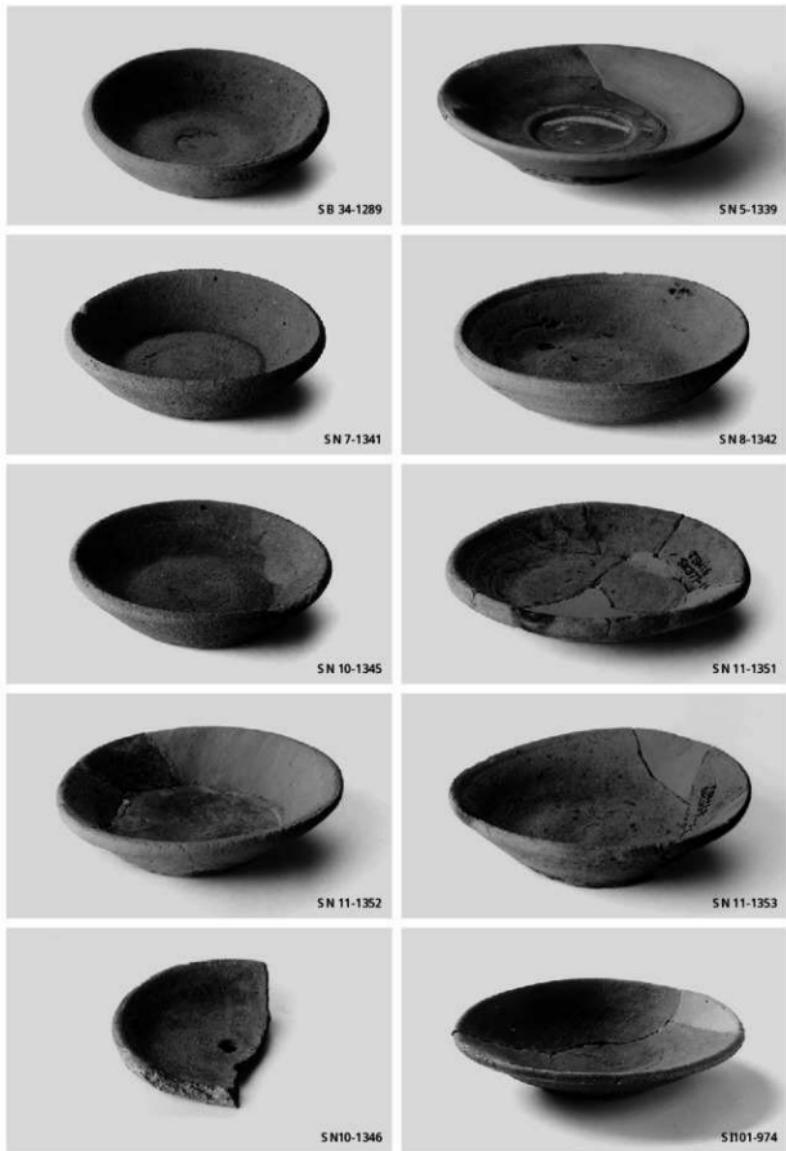


S1141-1254

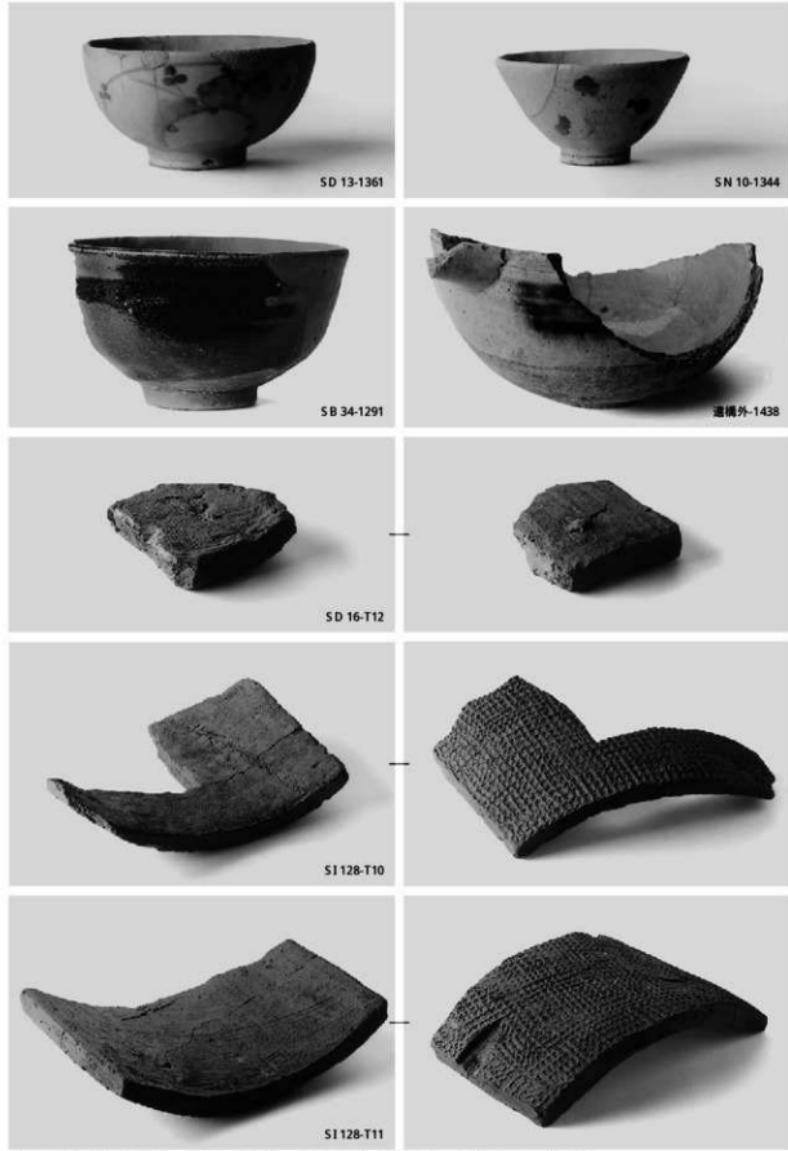


S1141-1253

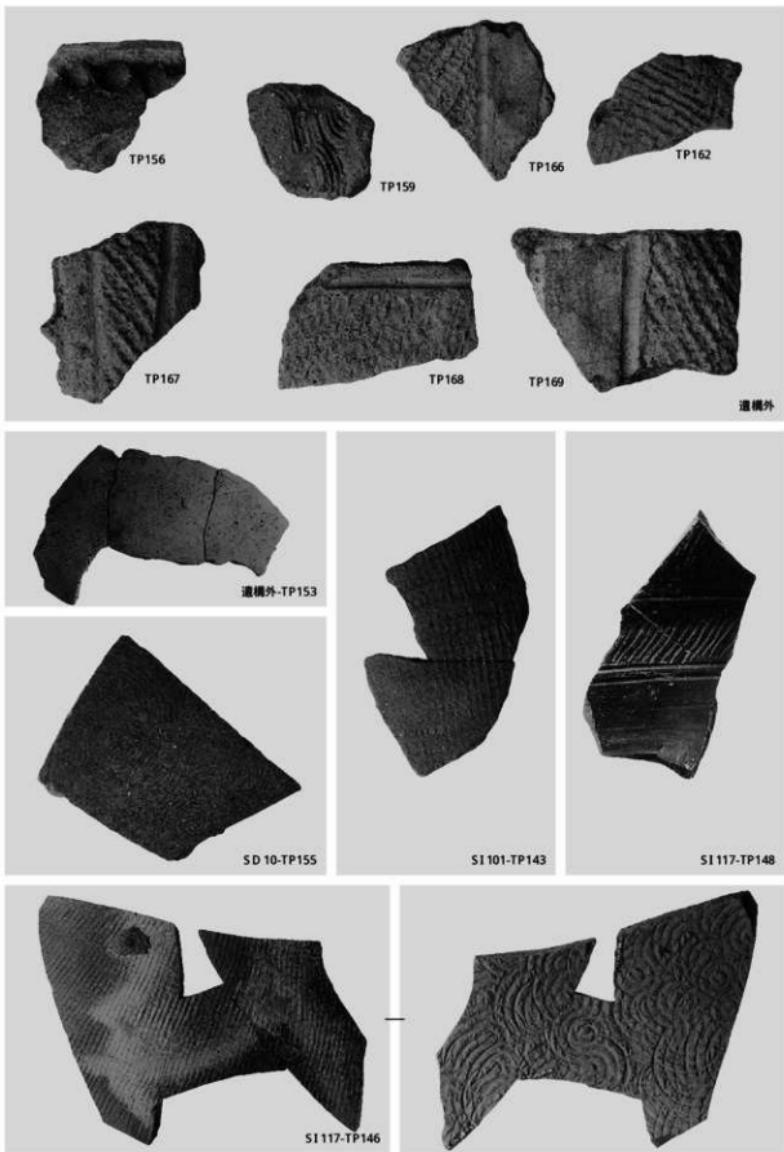




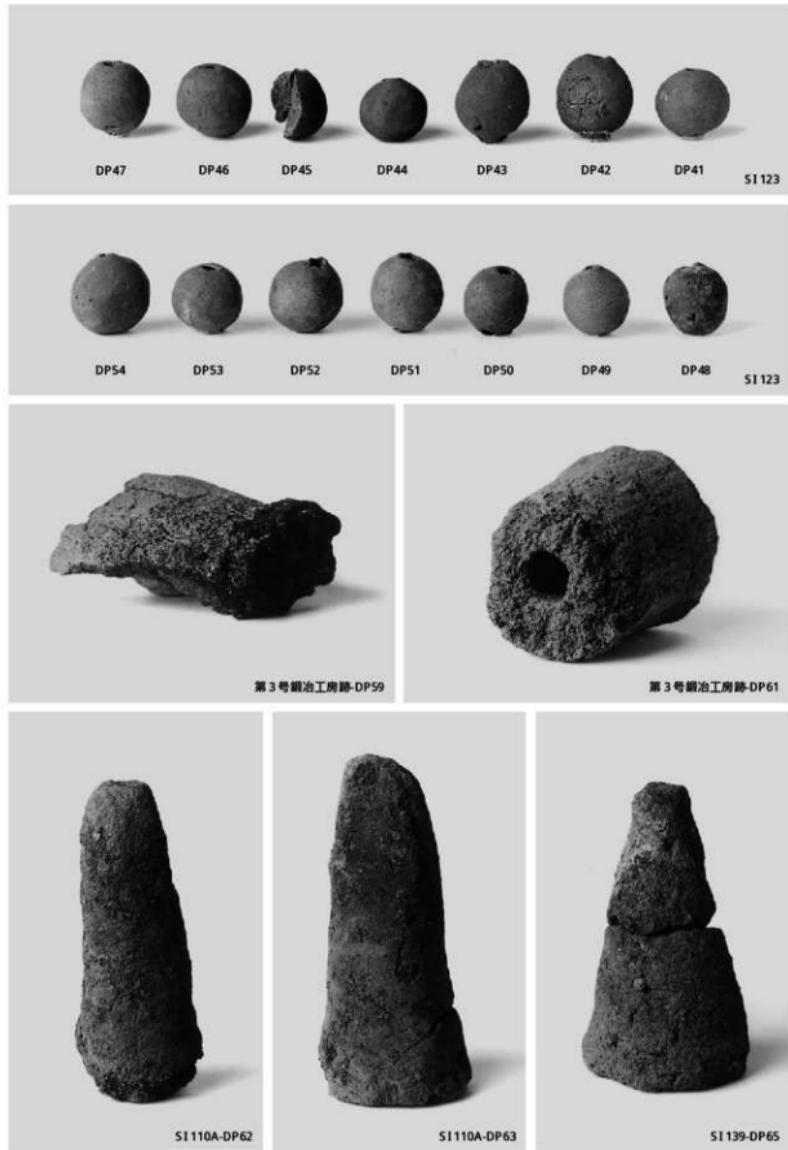
第101号住居跡、第34号掘立柱建物跡、第5・7・8・10・11号粘土貼土坑出土土器・陶器



第34号掘立柱建物跡，第13号溝跡，第10号粘土貼土坑，遺構外出土陶磁器
第128号住居跡，第16号溝跡出土瓦



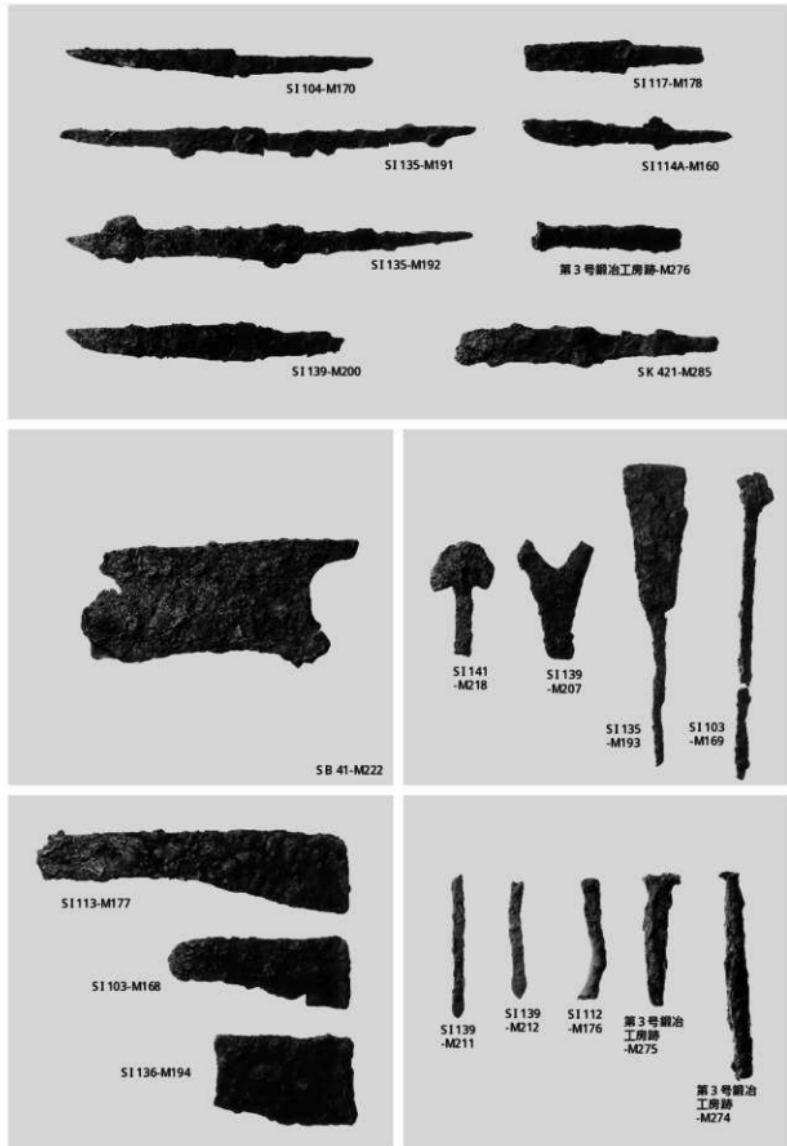
出土土器



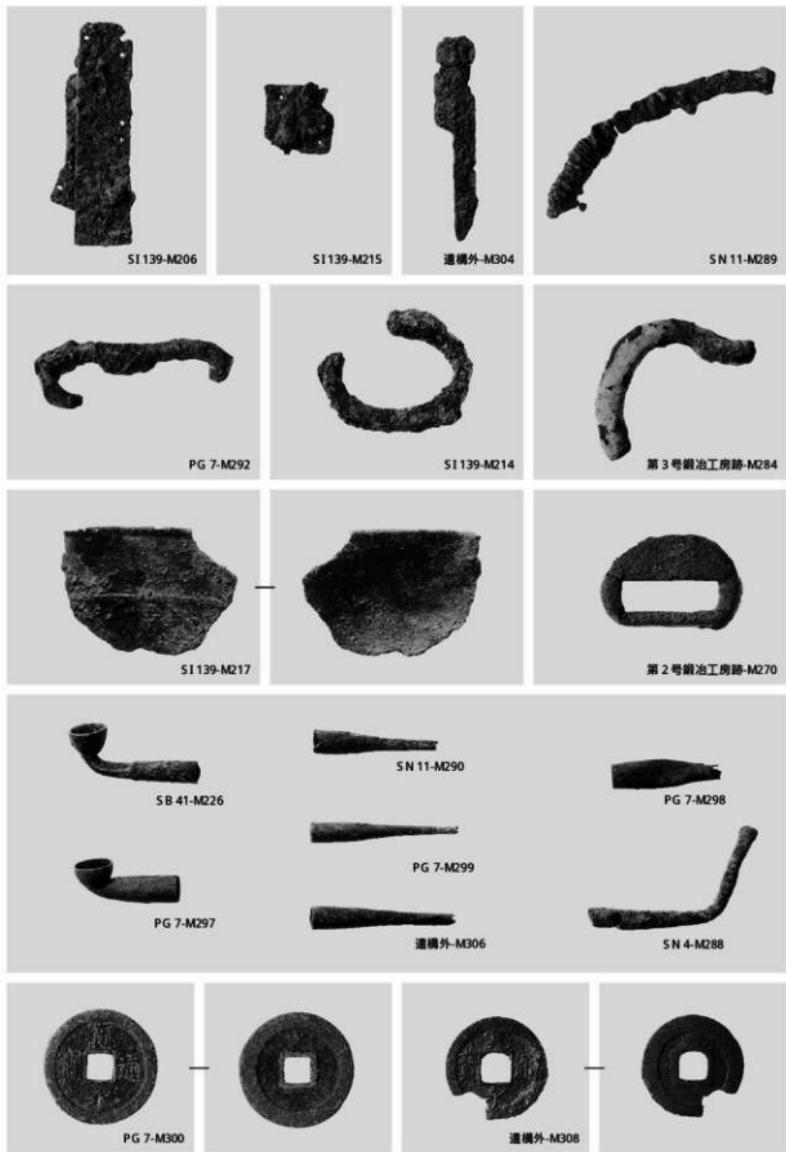
出土土製品



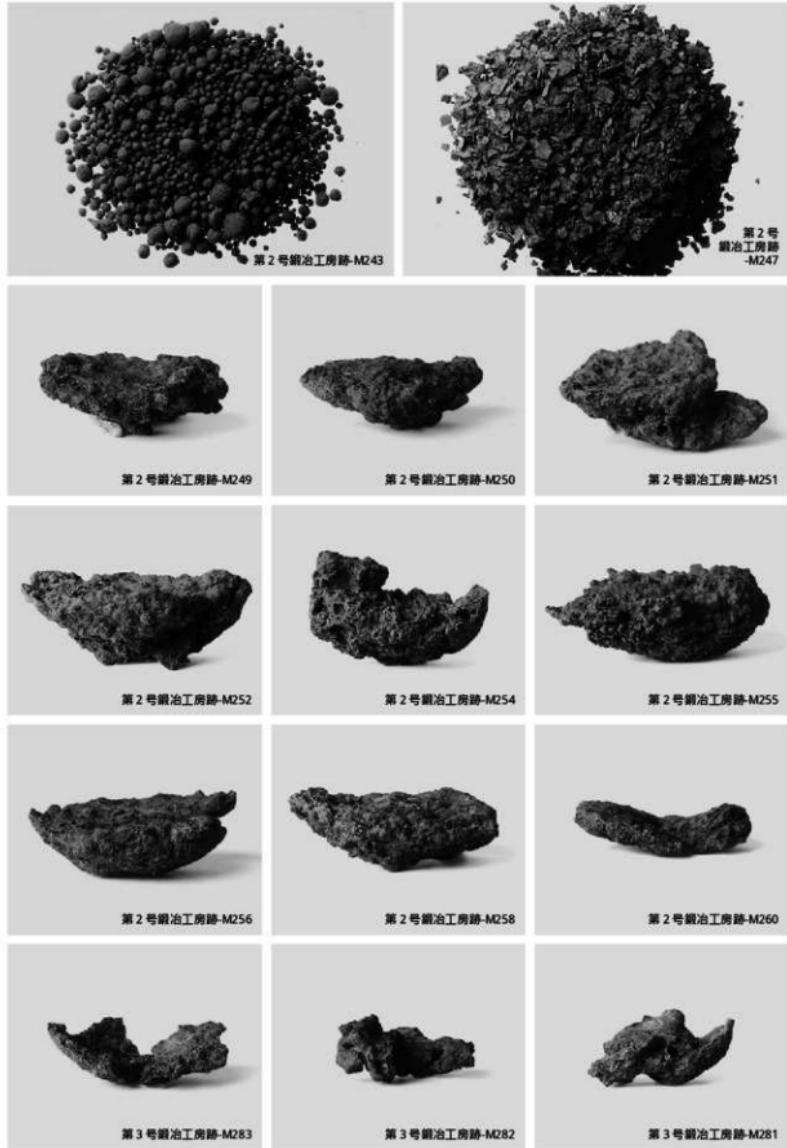
出土石器・石製品



出土金属製品（1）



出土金属製品（2）



出土鐵滓類

茨城県教育財団文化財調査報告第283集

島名八幡前遺跡

都市計画道路島名上河原崎線道路整備
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成19(2007)年3月19日 印刷
平成19(2007)年3月23日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番の2
茨城県水戸生涯学習センター一分館内
TEL 029-225-6587

印刷 (株)平電子印刷所
〒970-8024 いわき市平北白土字西ノ内13
TEL 0246-23-9051